青森県埋蔵文化財調査報告書　第545集

上新岡館
薬師遺跡

－ 県営一般農道整備事業（山村振興）に伴う遺跡発掘調査報告 －

（第２分冊）

２０１４年３月

青森県教育委員会

第545集　上新岡館・薬師遺跡（第2分冊）　二〇一四・三　青森県教育委員会

この印刷物は 300 部作成し、印刷経費は１部当たり 15,540 円（うち県負担 7,770 円）です。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第545集

上新岡館
薬師遺跡

－ 県営一般農道整備事業（山村振興）に伴う遺跡発掘調査報告 －

（第２分冊）

２０１４年３月

青森県教育委員会

第２分冊　目　次

図版・表目次
写真目次

（第３編　薬師遺跡）
第４章　薬師遺跡の理化学的分析結果
第１節　薬師遺跡の火山ガラスについて
１　平成22年度調査分（西側調査区）…… 1
２　平成23年度調査分（東側調査区・包１・弥包）…… 2
３　平成24年度調査分（盛土遺構）…… 3
第２節　放射性炭素年代測定
１　平成22年度調査分（西側調査区）…… 5
２　平成23年度調査分（東側調査区）の放射性炭素年代測定（AMS測定）…… 9
３　平成24年度調査分（弥包層・盛土遺構・土器付着物）…… 14
第３節　弘前市薬師遺跡出土縄文土器及び弥生土器の胎土分析調査…… 21
第４節　耳栓の赤色付着物および黒色付着物の成分分析…… 41
第５節　薬師遺跡から出土した土器と土製品の塗膜分析…… 44
第６節　薬師遺跡出土赤色顔料の蛍光Ｘ線分析…… 51
第７節　薬師遺跡出土黒曜石製石器の産地推定…… 56
第８節　玉類の分析
１　SK05出土玉類の成分分析…… 61
２　薬師遺跡出土玉類の石材同定…… 65
第９節　薬師遺跡出土の炭化種実…… 73
第10節　薬師遺跡出土炭化材の樹種同定…… 80
第11節　薬師遺跡から出土した灰の母植物…… 86
第５章　遺物観察表
表１　土器…… 88
表２　石器・石製品…… 107
表３　土製品…… 120
第６章　総括
第１節　遺構の変遷…… 123
第２節　縄文土器…… 130
第３節　弥生土器…… 134
第４節　石器…… 137
第５節　土偶・土製品…… 144
第６節　玉…… 144
第７節　まとめ…… 146
引用・参考文献…… 147

第４編　写真図版
上新岡館…… 149
薬師遺跡
遺跡・遺構写真…… 157
遺物写真…… 221

報告書抄録…… 293

図版・表目次

第４章　理化学的分析結果
第１節　薬師遺跡の火山ガラスについて
１　平成22年度調査分（西側調査区）
図１　年代測定をおこなった炭化材試料…… 8
図２　暦年較正結果…… 8
表１　平成22年度調査分（西側調査区）の火山灰… 1
２　平成23年度調査分（東側調査区・包１・弥包）
表１　平成23年度調査分（東側調査区）の火山灰… 2
表２　平成23年度調査分（東側調査区）、火山ガラスのEPMA 分析値 …… 2
３　平成24年度調査分（弥包層・盛土遺構・土器付着物）
表１　平成24年度調査分、火山ガラス（Ⅲ I-54　包 2-E6　炭化物層）のEPMA 分析値 …… 4

第２節　放射性炭素年代測定
１　平成22年度調査分（西側調査区）
表１　測定試料および処理…… 5
表２　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果… 6
２　平成23年度調査分（東側調査区）
表１　……11
表２　……12
３　放射性炭素年代測定（H24分）
図１　薬師遺跡における放射性炭素年代測定の試料写真……19
図２　各試料の暦年較正結果……20
表１　測定試料および処理……15
表２　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果…16

第３節　胎土分析
図１　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（１）…33
図２　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（２）…34
図３　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（３）…35
図４　砂の粒度組成（１）……36
図５　砂の粒度組成（２）……36
図６　砂の粒度組成（３）……36
図７　砕屑物・基質・孔隙の割合……37
図８　胎土薄片（１）……39
図９　胎土薄片（２）……40
表１　分析試料一覧（土器）……26
表２　分析試料一覧（粘土）……26
表３　薄片観察結果（１）……27
表４　薄片観察結果（２）……28
表５　薄片観察結果（３）……29
表６　薄片観察結果（４）……30
表７　薄片観察結果（５）……31
表８　薄片観察結果（６）……32
表９　胎土分類結果……38

第４節　耳栓の付着物成分分析
図版１　耳栓黒色付着物の赤外吸収スペクトル図…42
図版２　耳栓と元素マッピング図……43
表１　元素マッピング分析を行った試料……41
表２　耳栓の点分析結果（単位：%）……41
表３　生漆の赤外吸収位置とその強度……42

第５節　土器と土製品の塗膜分析
図版１　塗膜分析の対象土器と採取位置……48
図版２　塗膜分析の対象土器と採取位置……49
図版３　土器と土製品の塗膜構造（a）と反射電子像（b）と各塗膜表面の赤外吸収スペクトル図……50
表１　塗膜試料とその特徴……44
表２　生漆の赤外吸収位置とその強度……45
表３　各試料のＸ線分析結果（単位：%）……46

第６節　赤色顔料分析
図版１　分析対象試料……53
図版２　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果……54
図版３　赤色顔料の生物顕微鏡写真……55
表１　分析対象一覧……51

第７節　黒曜石産地推定
図１　北海道・東北地方の黒曜石原石採取地の分布図…57
図２　黒曜石産地推定判別図（１）……60
図３　黒曜石産地推定判別図（２）……60
表１　分析対象……56
表２　北海道・東北地方黒曜石産地の判別群……57
表３　測定値および産地推定結果……59

第８節　玉類の分析
１　SK05出土　玉類の分析
図版１　SK05出土玉（試料No. 1）と元素マッピング図…63
図版２　SK05出土玉（試料No. 2）と元素マッピング図…64
表１　元素マッピング分析を行った玉類とその特徴…61
表２　玉類の点分析結果（単位：%）……62
２　玉類の石材同定
図１　玉類の AL2O3-SIO2分布図 ……69
図版１　玉類（a）と拡大部（bスケール200μm）の実体顕微鏡写真（1）……70
図版２　玉類（a）と拡大部（bスケール200μm）の実体顕微鏡写真（2）……71
図版３　玉類（a）と拡大部（bスケール200μm）の実体顕微鏡写真（3）……72
表１　石材分析を行った玉類……65
表２　玉類の判定量分析結果（重量%）……66
表３　玉類の特徴と岩石名……68

第９節　炭化種実
図版１　薬師遺跡から出土した炭化種実……79
表１　土壌試料から出土した炭化種実（1）……74
表２　土壌試料から出土した炭化種実（2）……74
表３　現地取り上げ試料から出土した炭化種実…74

第10節　炭化材の樹種同定
図版１　薬師遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)…84
図版２　薬師遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)…85
表１　樹種構成……80
表２　遺構別の樹種構成　(1)……83
表３　遺構別の樹種構成　(2)……83
付表1　樹種同定結果……83

第11節　灰の母植物
図版１　薬師遺跡包2-H0層から出土した灰の母植物…87
表１　薬師遺跡出土灰の植物珪酸体……86

第６章　総括
図289　盛土遺構・削平範囲の概念図……125
図290　晩期土坑墓の規模……127
図291　晩期土坑墓の主軸方位……128
図292　新岡村領絵図と薬師遺跡……129
図293　包含層第３層出土土器……132
図294　包含層第２－Ｂ～Ｈ層出土土器……133
図295　弥生時代土器……136
図296　石皿の機能面断面形状の模式図……140
図297　玉製品の製作工程(包２－Ｂ層)……145
図298　管玉……145
表４　層位別石鏃分類……137
表５　層位別石鏃長さの分布……137
表６　層位別石鏃長幅比……138
表７　石匙と削器の刃部加工……138
表８　磨製石斧の石材と加工技術……139
表９　石皿磨面の形状分類……139
表10　石皿磨面形状と付着物……139
表11　凹石の石材……140
表12　凹石の使用……140
表13　石材構成……141
表14　層位別石器組成(１)……143
表15　層位別石製品組成(２)……143
表16　弥生時代石器組成(３)……143

写真目次

＜上新岡館＞
写真１　空中写真・遺跡遠景……149
写真２　調査前風景……150
写真３　基本土層・土坑……151
写真４　壕跡(１)……152
写真５　壕跡(２)……153
写真６　壕跡(３)……154
写真７　土坑・壕跡出土遺物……155
写真８　壕跡・遺構外出土遺物……156

＜薬師遺跡＞
写真９　遺跡空中写真　薬師遺跡全景・合成写真……157
写真10　基本層序……158
写真11　SI02(１)……159
写真12　SI02(２)……160
写真13　SI03……161
写真14　SI04(１)……162
写真15　SI04(２)……163
写真16　SI05・SK31……164
写真17　SI06・SI07……165
写真18　SI08……166
写真19　土坑(１)　SK01～05……167
写真20　土坑(２)　SK06～11・18……168
写真21　土坑(３)　SK12～16……169
写真22　土坑(４)　SK17・19・20、土坑墓群Ａ・Ｂ……170
写真23　土坑(５)　SK21～24……171
写真24　土坑(６)・ⅡＷ－82グリッド周辺の遺構　SK25・SK27・SD08・SX05……172
写真25　土坑(７)　SK26～29……173
写真26　土坑(８)　SK30・32・33～39……174
写真27　土坑(９)　SK40～47……175
写真28　土坑(10)　SK48～55・SP37……176
写真29　土坑(11)　SK56～63・65・66……177
写真30　土坑(12)・ⅢK-67周辺の遺構　SK64・SN03・SN05……178
写真31　土坑(13)　SK67～72・74……179
写真32　土坑(14)　SK75・76・78～82……180
写真33　埋設土器遺構(１)　SR01～04……181
写真34　埋設土器遺構(２)　SR05～09……182
写真35　埋設土器遺構(３)　SR10～14……183
写真36　掘立柱建物跡・ピット列　SB01他……184
写真37　焼土遺構(１)　SN01・02・04・06～10・14……185
写真38　焼土遺構(２)　SN11～13・15～19……186
写真39　焼土遺構(３)　SN20～25……187
写真40　集石遺構・黒曜石散布範囲・竪穴遺構　SX07・SX04・SX05……188
写真41　溝跡(１)　SD01……189
写真42　溝跡(２)　SD02・03・06・07……190
写真43　溝跡(３)　SD05……191
写真44　貯水池状遺構(１)　SX02……192
写真45　貯水池状遺構(２)　SX02……193
写真46　貯水池状遺構(３)　SX03……194
写真47　盛土遺構(１)　横断セクション№1～4……195
写真48　盛土遺構(２)　横断セクション№5～7……196
写真49　削平範囲(１)　横断セクション№8～11……197
写真50　盛土遺構(３)ロングセクション№1(ⅢＧ～ⅢＩグリッド)……198
写真51　盛土遺構(４)ロングセクション№1(ⅢＩ～ⅢＪグリッド)……199
写真52　盛土遺構(５)ロングセクション№1(55～57グリッド)……200

写真53　盛土遺構（6）・削平範囲（2）ロングセクションNo.1（58～61グリッド）…… 201
写真54　削平範囲（3）　ロングセクションNo.1（61～64グリッド）…… 202
写真55　削平範囲（4）　ロングセクションNo.1（61～64グリッド）…… 203
写真56　盛土遺構（7）ロングセクションNo.3（ⅢD～ⅢGグリッド）…… 204
写真57　盛土遺構（8）ロングセクションNo.3（ⅢH～Ⅲ　グリッド）…… 205
写真58　盛土遺構（9）ロングセクションNo.3（55～58グリッド）…… 206
写真59　盛土遺構（10）ロングセクションNo.3（59～61グリッド）…… 207
写真60　盛土遺構（11）・削平範囲（5）　ロングセクションNo.3（61～62グリッド）・縦断セクションNo.1 …… 208
写真61　盛土遺構（12）　縦断セクションNo.1・No.2 …… 209
写真62　盛土遺構（13）　ロングセクションNo.4（ⅢD～ⅢGグリッド）…… 210
写真63　盛土遺構（14）　ロングセクションNo.4（ⅢG～57グリッド）…… 211
写真64　盛土遺構（15）　ロングセクションNo.4（57～60グリッド）…… 212
写真65　盛土遺構（16）　ロングセクションNo.4（60～63グリッド）…… 213
写真66　削平範囲（6）　ロングセクションNo.4（62～65グリッド）…… 214
写真67　削平範囲（7）　ロングセクションNo.4（66～69グリッド）…… 215
写真68　盛土遺構　遺物出土状況（1）　包2－A・B層 …… 216
写真69　盛土遺構　遺物出土状況（2）　包2－C～H層 …… 217
写真70　削平範囲（弥包層）遺物出土状況 …… 218
写真71　包1層・包3層　遺物出土状況 …… 219
写真72　文化遺物出土状況 …… 220
写真73　竪穴住居跡出土遺物（1）…… 221
写真74　竪穴住居跡出土遺物（2）…… 222
写真75　竪穴住居跡出土遺物（3）…… 223
写真76　土坑出土遺物（1）…… 224
写真77　土坑出土遺物（2）…… 225
写真78　土坑出土遺物（3）…… 226
写真79　土坑出土遺物（4）…… 227
写真80　土坑出土遺物（5）…… 228
写真81　土坑出土遺物（6）…… 229
写真82　埋設土器遺構（1）…… 230
写真83　埋設土器遺構（2）…… 231
写真84　ピット出土遺物（1）…… 232
写真85　ピット出土遺物（2）…… 233
写真86　焼土遺構出土遺物（1）…… 234
写真87　焼土遺構出土遺物（2）…… 235
写真88　集石遺構・黒曜石散布範囲・竪穴遺構出土遺物 …… 236
写真89　溝跡出土遺物（1）…… 237
写真90　溝跡出土遺物（2）…… 238
写真91　溝跡出土遺物（3）…… 239
写真92　溝跡出土遺物（4）…… 240
写真93　貯水池状遺構出土遺物 …… 241
写真94　包2－A層出土遺物 …… 242
写真95　包2－B層出土遺物（1）…… 243
写真96　包2－B層出土遺物（2）…… 244
写真97　包2－B層出土遺物（3）…… 245
写真98　包2－B層出土遺物（4）…… 246
写真99　包2－B層出土遺物（5）…… 247
写真100　包2－B層出土遺物（6）…… 248
写真101　包2－B層出土遺物（7）…… 249
写真102　包2－B層出土遺物（8）…… 250
写真103　包2－B層出土遺物（9）…… 251
写真104　包2－B層出土遺物（10）…… 252
写真105　包2－B層出土遺物（11）…… 253
写真106　包2－C～G層出土遺物（1）…… 254
写真107　包2－C～G層出土遺物（2）…… 255
写真108　包2－C～G層出土遺物（3）…… 256
写真109　包2－C～G層出土遺物（4）…… 257
写真110　包2－C～G層出土遺物（5）…… 258
写真111　包2－H層出土遺物（1）…… 259
写真112　包2－H層出土遺物（2）…… 260
写真113　包2－H層出土遺物（3）…… 261
写真114　盛土遺構（1mトレンチ）出土遺物 …… 262
写真115　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（1）… 263
写真116　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（2）… 264
写真117　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（3）… 265
写真118　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（4）… 266
写真119　包1層出土遺物（1）…… 267
写真120　包1層出土遺物（2）…… 268
写真121　包1層出土遺物（3）…… 269
写真122　包3層出土遺物（1）…… 270
写真123　包3層出土遺物（2）…… 271
写真124　包3層出土遺物（3）…… 272
写真125　包3層出土遺物（4）…… 273
写真126　包3層出土遺物（5）…… 274
写真127　包3層出土遺物（6）…… 275
写真128　包3層出土遺物（7）…… 276
写真129　包3層出土遺物（8）…… 277
写真130　包3層出土遺物（9）…… 278
写真131　包3層出土遺物（10）…… 279
写真132　包3層出土遺物（11）…… 280
写真133　包3層出土遺物（12）…… 281
写真134　包3層出土遺物（13）…… 282
写真135　包3層出土遺物（14）…… 283
写真136　第Ⅲ層出土遺物（1）…… 284
写真137　第Ⅲ層出土遺物（2）…… 285
写真138　第Ⅲ層出土遺物（3）…… 286
写真139　第Ⅲ層出土遺物（4）…… 287
写真140　第Ⅲ層出土遺物（5）…… 288
写真141　第Ⅲ層出土遺物（6）・第Ⅳ層出土遺物（1）289
写真142　第Ⅳ層出土遺物（2）…… 290
写真143　第Ⅰ層・撹乱層出土遺物（1）…… 291
写真144　第Ⅰ層・撹乱層出土遺物（2）…… 292

第４章　薬師遺跡の理化学的分析結果

第１節　薬師遺跡の火山灰ガラスについて

弘前大学大学院・理工学研究科　柴　正敏

１　平成22年度調査分（西側調査区）

弘前市・薬師遺跡より採集された火山灰サンプル６試料について、以下の観察を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表１に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井,2003）。

ガラスの形態及び構成鉱物（表１）、ならびに軽石粒子の発泡度・色（特に褐色ガラスの有無）・粒径より、ガラスは以下のように帰属される：

（１）十和田ａテフラ（To-a）のガラスからなると判断される試料

（褐色ガラス、石英（斑晶）を含み、ホルンブレンドを含まないもの）

・試料No.１（計１試料）

（２）白頭山苫小牧テフラ（B-Tm）のガラスのみからなると判断される試料

（アルカリ長石及びエジリンオージャイトを含み、褐色ガラス、石英（斑晶）及びホルンブレンドを含まないもの）

・試料No.３及び５（計２試料）

（３）白頭山苫小牧テフラ（B-Tm）のガラスを主とし、十和田ａテフラのガラスが混合したと判断される試料

（アルカリ長石、エジリンオージャイト、褐色ガラス及び石英（斑晶）を含むもの）

・試料No.２及び４（計２試料）

（４）十和田八戸テフラ（To－H）のガラスを含むと判断される試料

（発泡度の良い軽石ガラスを主とし、針状ホルンブレンドを含み、褐色ガラスを含まないもの）

・試料No.６（計１試料）

各試料について多数のガラス及び鉱物粒子を観察することにより、以上のようなグループ分けをすることができるが、単独のガラス粒子でその帰属が明らかにできるとは限らないことを付記しておく。

表１　平成22年度調査分（西側調査区）の火山灰

試料No	グリッド	個別No.	構成鉱物及び火山ガラス	ガラスの帰属	採取日	備考
1	BV-38	サンプル1	火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a	9月9日	プラントオパールあり
2	BW-38	サンプル2	火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、 石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm、To-a	9月9日	
3	BW-38	サンプル3	火山ガラス（pm、bw）、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、石英、斜方輝石、 単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	9月9日	
4	BW-39	サンプル4	火山ガラス（pm、bw）、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、 石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm、To-a	9月9日	
5	BV-38	サンプル5	火山ガラス（pm、bw）、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、石英、斜方輝石、 単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	9月9日	
6	BW-38	サンプル6	火山ガラス（pm>bw）、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積To-H	10月14日	プラントオパールあり

pm：軽石型ガラス、bw：バブルウォール型ガラス、To-H：十和田八戸テフラ、To-a：十和田aテフラ、B-Tm：白頭山苫小牧テフラ

2　平成23年度調査分（東側調査区・包1・弥包）

薬師遺跡より採集された14個の火山灰試料について、以下の観察・分析を行った。これら14試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003：青木・町田、2006）。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー（以下EPMA）が用いられるようになってきた。本報告では、試料No.1及び試料「弥包ｃ」の２試料の火山ガラスについてEPMA分析を行った。使用したEPMAは弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製JXA－8230、使用条件は加速電圧15kV、試料電流６×10－９アンペアである。その結果を表２に示した。

ガラスの形態や化学組成及び構成鉱物等は表１及び表２の通りである。これに基づき、各試料のガラスは次のように帰属される：

・B-Tmに帰属される：試料No.1，2，3，4及び7、

・B-Tm，To-a及びTo-Hの混合物：試料No.5，6及び8

・To-a及びTo-Hの混合物：試料「包1」，「弥包a」，「弥包ｂ」及び「弥包ｃ」

・To-Hの再堆積層物：「Ｖａ層」及び「Ｖｂ層」。

表１　平成23年度調査分（東側調査区）の火山灰

試料番号	採取場所	層位	火山ガラス及び構成鉱物	ガラスの帰属	特記事項
1*	SX05	3層	ガラス(pm、bw)、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	プラントオパールを含む
2	SN03	1層	ガラス(pm、bw)、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	プラントオパールを含む
3	SN04	検証面	ガラス(pm、bw)、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	
4	SN05	焼土上面	ガラス(pm、bw)、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	プラントオパールあり
5	SN06	焼土上面	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm ,To-a、To-H	
6	縦断セク№1	包1上層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、アルカリ長石、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm、To-a、To-H	プラントオパールあり
7	縦断セク№1	包1中層	ガラス(pm、bw)、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	B-Tm	
8	縦断セク№1	包1下層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、アルカリ長石、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	B-Tm、To-a、To-H	プラントオパールを含む
包1	包含層	1層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	プラントオパールを含む
弥包A	弥生包含層	a層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	プラントオパールを含む
弥包B	弥生包含層	b層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	軽石粒(径2～3mm)
弥包c*	弥生包含層	c層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a、To-H	
Va層	地山層	a層	ガラス(pm>bw)、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-H	To-Hの再堆積層
Vb層	地山層	b層	ガラス(pm>bw)、斜長石、斜方輝石、ホルンブレンド、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-H	To-Hの再堆積層

＊：EPMA分析を行った試料；B-Tm：白頭山苫小牧テフラ、To-a：十和田aテフラ、To-H：十和田八戸テフラ、＞：より多い、pm：軽石型ガラス、bw：バブルウォール型ガラス

表２　平成23年度調査分（東側調査区）、火山ガラスのEPMA分析値

		SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O		
試料No.1 SX05 3層	平均	67.20	0.34	14.59	5.22	0.14	0.11	1.18	5.69	5.53	n=5	WDS
	標準偏差	0.526	0.144	0.331	0.256	0.073	0.063	0.151	0.185	0.274		
	B-Tm (a)*	68.4	0.4	14.8	4.5	0.1	0.1	1.0	5.4	5.3	n=15	WDS
試料No.1 SX05 3層	平均	75.43	0.21	10.23	4.30	0.06	0.03	0.28	5.13	4.33	n=8	WDS
	標準偏差	0.405	0.065	0.442	0.252	0.052	0.032	0.069	0.229	0.237		
	B-Tm (b)*	75.3	0.2	10.7	4.1	0.0	0.1	0.3	4.7	4.5	n=19	WDS
		SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O		
弥生包含層c	平均	76.73	0.33	12.50	1.78	0.11	0.39	2.15	4.55	1.47	n=5	WDS
	標準偏差	0.810	0.062	0.286	0.197	0.044	0.052	0.204	0.055	0.059		
	To-a **	77.69	0.36	12.74	1.66	0.09	0.35	1.80	3.99	1.31	n=8	WDS

＊：Machida（1999）；＊＊：青木・町田（2006）；To-a：十和田aテフラ；B-Tm：白頭山苫小牧テフラ；n：分析ポイント数；WDS：波長分散型EPMA

3　平成24年度調査分（盛土遺構）

弘前市・薬師遺跡より採集された火山灰サンプル５試料について、以下の観察・分析を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を以下に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。５試料のガラスの形態及び構成鉱物、ならびに軽石粒子の発泡度・色（特に褐色ガラスの有無）・粒径より、ガラスは以下のように帰属される：

・試料No.1（III H-55　包2－D2）

構成鉱物は、斜長石、石英、ホルンブレンド（針状）、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。ガラスの形態は、軽石型を主とし、バブルウォール型も少量含まれる。発泡の良い軽石型ガラス及び針状のホルンブレンドが認められることより、ガラスは十和田八戸テフラ（To-H）に帰属される。

・試料No.2（III H-55　包2－D2　炭化物層）

構成鉱物は、斜長石、石英、ホルンブレンド（針状）、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。ガラスの形態は、軽石型を主とし、バブルウォール型も少量含む。発泡の良い軽石型ガラス及び針状のホルンブレンドが認められることより、ガラスは十和田八戸テフラ（To-H）に帰属される。

・試料No.3（III I-54　包2－E6）

構成鉱物は、斜長石、石英、ホルンブレンド（針状）、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。ガラスの形態は、軽石型を主とし、バブルウォール型も少量認められる。発泡の良い軽石型ガラス及び針状のホルンブレンドが認められることより、ガラスは十和田八戸テフラ（To-H）に帰属される。

・試料No.4（III I-54 包2-E6炭化物層）

構成鉱物は、斜長石、石英、ホルンブレンド（針状）、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。ガラスの形態は、軽石型を主とし、バブルウォール型も少量含む。

本試料の軽石ガラスについて、電子プローブマイクロアナライザー（EPMA）を用いて化学組成を決定した。使用したEPMAは弘前大学大学院・理工学研究科所属の日本電子製JXA－8800RL、分析条件は加速電圧15kV，試料電流６×10－９アンペアである。分析結果を表1に示した。軽石ガラスの化学組成及び針状のホルンブレンドが共存することにより、本試料のガラスは十和田八戸テフラに帰属される。

・試料No.5（IIIJ-59 包2－H0）

構成鉱物は、斜長石、石英、ホルンブレンド（針状）、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。ガラスの形態は、軽石型を主とし、バブルウォール型も少量認められる。発泡の良い軽石型ガラス及び針状のホルンブレンドが認められることより、ガラスは十和田八戸テフラ（To-H）に帰属される。

なお上記の十和田八戸テフラのガラスは全て、基盤の十和田八戸テフラに由来するものと考えられる。

表１　平成24年度調査分、火山ガラス（ⅢⅠ－54 包2－E6　炭化物層）のEPMA分析値

重量%

No.	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	Total
1	74.89	0.41	11.76	1.68	0.05	0.37	2.04	4.23	1.23	96.66
2	74.81	0.33	12.00	1.63	0.00	0.34	1.88	4.53	1.23	96.74
3	72.35	0.33	11.75	1.33	0.06	0.34	2.01	4.13	1.21	93.51
4	74.86	0.26	12.09	1.83	0.10	0.37	2.07	4.39	1.32	97.28
5	73.80	0.28	12.05	1.51	0.12	0.40	1.88	4.55	1.37	95.97
6	71.98	0.46	12.71	2.06	0.13	0.58	2.53	4.53	1.17	96.15
7	72.41	0.28	11.64	1.46	0.08	0.38	1.99	4.05	1.28	93.56
8	73.38	0.30	11.48	1.57	0.14	0.39	1.89	4.21	1.26	94.60
9	75.19	0.30	12.08	1.59	0.12	0.38	1.96	4.69	1.36	97.67
10	74.64	0.29	12.01	1.58	0.04	0.38	1.80	4.47	1.36	96.57
最少	71.98	0.26	11.48	1.33	0.00	0.34	1.80	4.05	1.17	93.51
最大	75.19	0.46	12.71	2.06	0.14	0.58	2.53	4.69	1.37	97.67
平均	73.83	0.32	11.96	1.62	0.08	0.39	2.00	4.38	1.28	95.87
標準偏差	1.23	0.06	0.34	0.20	0.04	0.07	0.20	0.21	0.07	1.48

１００%に規格化した値

No.	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	Total
1	77.48	0.43	12.17	1.74	0.06	0.38	2.11	4.38	1.27	100
2	77.33	0.34	12.41	1.68	0.00	0.36	1.94	4.68	1.27	100
3	77.37	0.35	12.57	1.43	0.07	0.36	2.15	4.42	1.29	100
4	76.96	0.27	12.42	1.88	0.11	0.38	2.13	4.51	1.36	100
5	76.91	0.30	12.55	1.57	0.12	0.42	1.96	4.74	1.43	100
6	74.86	0.48	13.22	2.15	0.13	0.60	2.63	4.72	1.21	100
7	77.39	0.30	12.44	1.56	0.09	0.41	2.13	4.33	1.37	100
8	77.57	0.31	12.13	1.66	0.15	0.41	2.00	4.45	1.34	100
9	76.99	0.30	12.37	1.63	0.12	0.39	2.01	4.80	1.39	100
10	77.29	0.30	12.44	1.64	0.04	0.39	1.87	4.63	1.41	100
最少	74.86	0.27	12.13	1.43	0.00	0.36	1.87	4.33	1.21	100
最大	77.57	0.48	13.22	2.15	0.15	0.60	2.63	4.80	1.43	100
平均	77.01	0.34	12.47	1.69	0.09	0.41	2.09	4.57	1.33	100
標準偏差	0.790	0.065	0.300	0.198	0.046	0.071	0.211	0.169	0.070	0
To-H(pfl)	77.75	0.33	12.89	1.63	0.08	0.33	1.87	3.85	1.28	95.93

sample ID
46
青木・町田(2006)

【参考文献】

青木かおり・町田　洋(2006)、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成　― K_2O-TiO_2図によるテフラの識別．地質調査研究報告、第57巻、第７/８号、239－258.

Hayakawa, Y.(1985), Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.

Machida, H.(1999),Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201.

町田　洋・新井房夫(2003)、新編火山灰アトラス　－日本列島とその周辺－．東京大学出版会、pp.336.

柴　正敏・重松直樹・佐々木　実(2000)、青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成(１)．弘前大学理工学部研究報告、第１巻、第１号、11-19.

柴　正敏・中道哲郎・佐々木　実(2001)、十和田火山、降下軽石の化学組成変化　－宇樽部の一露頭を例として－．弘前大学理工学部研究報告、第４巻、第１号、11-17.

柴　正敏・佐々木　実(2006)、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第５号、322-325.

第２節　放射性炭素年代測定

１　平成22年度調査分（西側調査区）

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・尾嵜大真・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也・菊地有希子

１　はじめに

青森県弘前市大字新岡字薬師地内に位置する薬師遺跡の土坑や埋設土器より検出された炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２　試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は、土坑から出土した炭化材２点と埋設土器から出土した炭化材１点の計３点である。土坑出土の試料は、SK05の４層から出土した試料No.YAKUSHI-SK05-CX（PLD-17529）とSK15の底面直上から出土した試料No.YAKUSHI-SK15-C（PLD-17530）である。埋設土器出土の試料は、SR01の土器内１層から出土した試料No.YAKUSHI-SR01-C1（PLD-17531）である。なお、SR01の土器内１からはもう１点、試料No.YAKUSHI-SR-C2も測定予定であったが、AAA処理後の重量が0.14mgであり測定可能な量の炭素を回収できなかったため、測定は行わなかった。

実体顕微鏡下の観察によれば、炭化材の樹種はいずれも広葉樹である。また、いずれの試料も最外年輪以外の部位不明であった（図１）。試料は、出土土器型式からいずれも縄文時代晩期と推定されている。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による想定年代	前処理データ	前処理
PLD-17529	試料No.YAKUSHI-SK05-CX 遺構：SK05（土坑） 調査区：ⅡY-39 層位：4層 深度：地表下約50cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-4年輪	縄文時代晩期	前処理前重量：22.77mg 燃焼量：6.69mg 精製炭素量：4.46mg 炭素回収量：1.01mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N）
PLD-17530	試料No.YAKUSHI-SK15-C 遺構：SK15（土坑） 調査区：ⅡY-46 層位：底面直上 深度：地表下約80cm	試料の種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-1年輪	縄文時代晩期	前処理前重量：94.88mg 燃焼量：6.43mg 精製炭素量：4.48mg 炭素回収量：1.03mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N）
PLD-17531	試料No.YAKUSHI-SR01-C1 遺構：SR01（埋設土器） 調査区：ⅡV-39 層位：土器内1層 深度：地表下約40cm	試料の種類：炭化材（広葉樹・節部か） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-1年輪	縄文時代晩期	前処理前重量：76.03mg 燃焼量：6.28mg 精製炭素量：3.95mg 炭素回収量：1.06mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N）

3　結　　果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図2に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-17529 試料No. YAKUSHI-SK05-CX	9	-26.31±0.14	2672±23	2670±25	833BC(68.2%)805BC	895BC(10.3%)869BC 861BC(1.1%)856BC 850BC(84.0%)798BC
PLD-17530 試料No. YAKUSHI-SK15-C	9	-27.98±0.21	2930±24	2930±25	1208BC(2.5%)1202BC 1195BC(34.4%)1140BC 1135BC(14.6%)1111BC 1103BC(12.5%)1076BC 1065BC(4.2%)1056BC	1259BC(5.7%)1233BC 1217BC(89.7%)1044BC
PLD-17531 試料No. YAKUSHI-SR01-C1	9	-25.25±0.16	3522±24	3520±25	1895BC(19.0%)1871BC 1846BC(27.5%)1812BC 1804BC(21.7%)1776BC	1924BC(95.4%)1760BC

4　考　　察

各試料の暦年較正年代のうち、2σ暦年代範囲（95.4%の確率）に着目して結果を整理する。縄文時代の暦年代については、小林(2008)による縄文土器編年と暦年代との対応関係や藤沼・関根(2008)に集成された測定例を参照した。

SK05出土の試料No.YAKUSHI-SK05-CX（PLD-17529）は、895-869 cal BC(10.3%)、861-856 cal BC(1.1%)、850-798 cal BC (84.0%)の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前900～800年で縄文時代晩期中葉に相当し、縄文時代晩期との想定年代に対して整合的であった。

SK15出土の試料No.YAKUSHI-SK15-C（PLD-17530）は、1259-1233 cal BC（5.7％）および1217-1044 cal BC（89.7％）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1250～1050年で縄文時代晩期前葉に相当し、縄文時代晩期との想定年代に対して整合的であった。

SR01の土器内から出土した試料No.YAKUSHI-SR01-C1（PLD-17531）は、1924-1760 cal BC（95.4％）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1950～1750年で縄文時代後期中葉に相当し、縄文時代晩期との想定年代よりも古い暦年代となった。

ただし木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最外年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料はいずれも最外年輪以外の部位不明の炭化材であり、古木効果の影響、つまり試料の木材が実際に枯死もしくは伐採された年代よりも古い年代が得られている可能性を考慮する必要がある。

【参考文献】

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

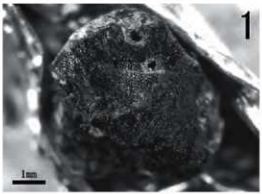
藤沼邦彦・関根達人(2008)亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群). 小林達雄編「総覧縄文土器」: 530-535, アム・プロモーション.

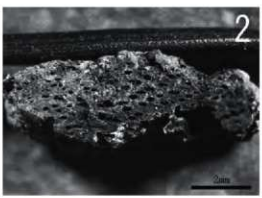
小林謙一(2008)縄文時代の暦年代. 小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学２　歴史のものさし」: 257-269, 同成社.

中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」:3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

鈴木克彦(2008)宝ヶ峯式・手稲式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 552-559, アム・プロモーション.





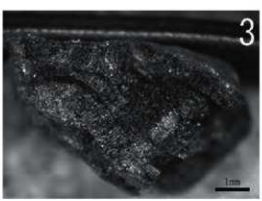
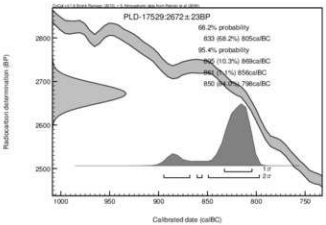
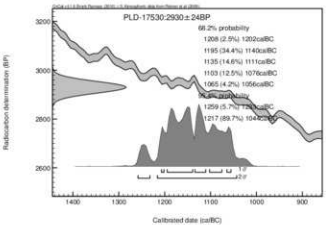


図１　年代測定をおこなった炭化材試料





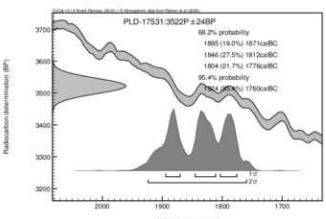


図２　暦年較正結果

1.SK05（土坑）試料No.YAKUSHI-SK05-CX（PLD-17529）
2.SK15（土坑）試料No.YAKUSHI-SK15-C（PLD-17530）
3.SR01（埋設土器）試料No.YAKUSHI-SR01-C1（PLD-17531）

2　平成23年度調査分（東側調査区）の放射性炭素年代測定（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

薬師遺跡は、青森県弘前市大字新岡字薬師、字片付地内（＜世界測地系＞北緯40°　38′　26″、東経140°　22′　13″）に所在する。測定対象試料は、第26号土坑覆土出土木炭（11yakushi-1：IAAA-111993、11yakushi-2：IAAA-111994）、第27号土坑底面出土木炭（11yakushi-3：IAAA-111995）、第42号土坑底面直上出土木炭（11yakushi-4：IAAA-111996）、第64号土坑底面直上出土木炭（11yakushi-5：IAAA-111997）、第3号焼土下層出土木炭（11yakushi-6：IAAA-111998）、第３号焼土の焼土から出土した木炭（11yakushi-7：IAAA-111999）、黒曜石散布範囲（SX04）Dブロックの土壌サンプル30より採取された木炭（11yakushi-8：IAAA-112000）、盛土遺構（ⅢK-58（a1））包含層3出土木炭（11yakushi-9：IAAA-112001）、盛土遺構（ⅢJ-61（b4））包含層２出土木炭（11yakushi-10：IAAA-112002）、盛土遺構（ⅢJ-55（a2））包含層３（P-00621内）出土木炭（11yakushi-11：IAAA-112003）、盛土遺構（ⅢK-58（a1））包含層２最下面（P-00753内）出土木炭（11yakushi-12：IAAA-112004）の合計12点である（表１）。11yakushi-8は土壌サンプルから水洗選別によって検出された。

いずれの試料も出土土器等から縄文時代前期または縄文時代～弥生時代の年代と推定されている。

2　測定の意義

遺跡内に位置する複数の遺構の前後関係および集落の継続期間を明らかにする。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除き、必要量の試料を採取、乾燥させ、秤量する（付表「処理前試料量」）。

（2）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させ、秤量する（付表「処理後試料量」）。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。

（3）必要量を採取、秤量（付表「燃焼量」）した試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製、定量する。この二酸化炭素中の炭素相当量を算出する（付表「精製炭素量」）。

（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。測定回数と^{14}Cカウント数を付表に示す。

5　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表１）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。^{13}C/^{12}C比は付表に記載する。

（２）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代は δ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も δ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2%）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

試料の^{14}C年代は、第26号土坑覆土の11yakushi-1が3640±20yrBP、11yakushi-2が3610±20yrBP、第27号土坑底面の11yakushi-3が2750±20yrBP、第42号土坑底面直上の11yakushi-4が4700±20yrBP、第64号土坑底面直上の11yakushi-5が2260±20yrBP、第３号焼土下層の11yakushi-6が1170±20yrBP、第３号焼土の焼土から出土した11yakushi-7が1300±20yrBP、黒曜石散布範囲（SX04）Dブロックの土壌サンプル30より採取された11yakushi-8が3830±20yrBP、盛土遺構（ⅢK-58（a1））包含層３の11yakushi-9が2860±20yrBP、盛土遺構（ⅢJ-61（b4））包含層２の11yakushi-10が2880±20yrBP、盛土遺構（ⅢJ-55（a2））包含層３（P-00621内）の11yakushi-11が2890±20yrBP、盛土遺構（ⅢK-58（a1））包含層２最下面（P-00753内）の11yakushi-12が2790±20yrBPである。第26号土坑覆土の２点の値は誤差（±１σ）の範囲で重なり、近い年代を示す。第３号焼土の２点の値の間には年代差が認められる。盛土遺構出土の４点はおおむね近い値で、包含層３の11yakushi-9と11、包含層２の

11yakushi-10の値は誤差範囲で重なる。包含層２最下面の11yakushi-12は、これらよりわずかに新しい値を示した。

暦年較正年代（１σ）は、11yakushi-1が2032～1973cal BCの範囲、11yakushi-2が2016～1940cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-3が918～847cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-4が3519～3380cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-5が389～258cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-6が782～893cal ADの間に３つの範囲、11yakushi-7が667～764cal ADの間に２つの範囲、11yakushi-8が2299～2208cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-9が1055～980cal BCの間に２つの範囲、11yakushi-10が1112～1016cal BCの間に３つの範囲、11yakushi-11が1119～1044cal BCの範囲、11yakushi-12が975～909cal BCの間に２つの範囲で示される。古い方から順に、11yakushi-4が縄文時代前期末葉頃、11yakushi-8が縄文時代後期初頭から前葉頃、11yakushi-1、2が縄文時代後期前葉頃、11yakushi-10、11が縄文時代晩期前葉頃、11yakushi-9が縄文時代晩期前葉から中葉頃、11yakushi-3、12が縄文時代晩期中葉頃、11yakushi-5が弥生時代前期から中期頃、11yakushi-6、7が古代頃に相当する。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

【文献】

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

表１

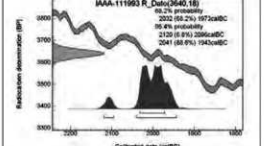
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C (‰) (AMS)	δ13C 補正あり	
						Libby Age yrBP)	pMC (%)
IAAA-111993	11yakushi-1	第26号土坑（SK26）　覆土（C-1)	木炭	AAA	**-27.34 ± 0.25**	**3,640 ± 20**	**63.56 ± 0.15**
IAAA-111994	11yakushi-2	第26号土坑（SK26）　覆土（C-3)	木炭	AAA	**-25.40 ± 0.24**	**3,610 ± 20**	**63.79 ± 0.15**
IAAA-111995	11yakushi-3	第27号土坑（SK27） 底面（炭化物サンプル)	木炭	AAA	**-27.29 ± 0.27**	**2,750 ± 20**	**70.97 ± 0.16**
IAAA-111996	11yakushi-4	第42号土坑（SK42） 底面直上（C-2)	木炭	AAA	**-25.35 ± 0.22**	**4,700 ± 20**	**55.70 ± 0.14**
IAAA-111997	11yakushi-5	第64号土坑（SK64） 底面直上（炭化物サンプル-1)	木炭	AAA	**-24.64 ± 0.25**	**2,260 ± 20**	**75.46 ± 0.17**
IAAA-111998	11yakushi-6	第３号焼土(SN03)　下層（C-6)	木炭	AAA	**-24.88 ± 0.28**	**1,170 ± 20**	**86.45 ± 0.18**
IAAA-111999	11yakushi-7	第３号焼土(SN03)　焼土（C-10)	木炭	AAA	**-22.73 ± 0.22**	**1,300 ± 20**	**85.01 ± 0.18**
IAAA-112000	11yakushi-8	黒曜石散布範囲(SX04)Dブロック 土壌サンプル30	木炭	AAA	**-21.94 ± 0.27**	**3,830 ± 20**	**62.07 ± 0.15**
IAAA-112001	11yakushi-9	盛土遺構（IIIK-58(a1)） 包含層3(C-2)	木炭	AAA	**-27.06 ± 0.21**	**2,860 ± 20**	**70.04 ± 0.16**
IAAA-112002	11yakushi-10	盛土遺構（IIIJ-61(b4)） 包含層2(炭化物サンプル)	木炭	AAA	**-23.21 ± 0.19**	**2,880 ± 20**	**69.85 ± 0.16**
IAAA-112003	11yakushi-11	盛土遺構（IIIJ-55(a2)） 包含層3(P-00621 内)	木炭	AAA	**-22.53 ± 0.26**	**2,890 ± 20**	**69.74 ± 0.16**
IAAA-112004	11yakushi-12	盛土遺構（IIIK-58(a1)） 包含層２最下面(P-00753 内)	木炭	AAA	**-21.95 ± 0.25**	**2,790 ± 20**	**70.65 ± 0.15**

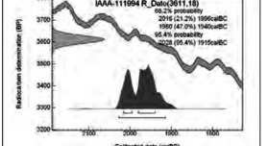
[#4770]

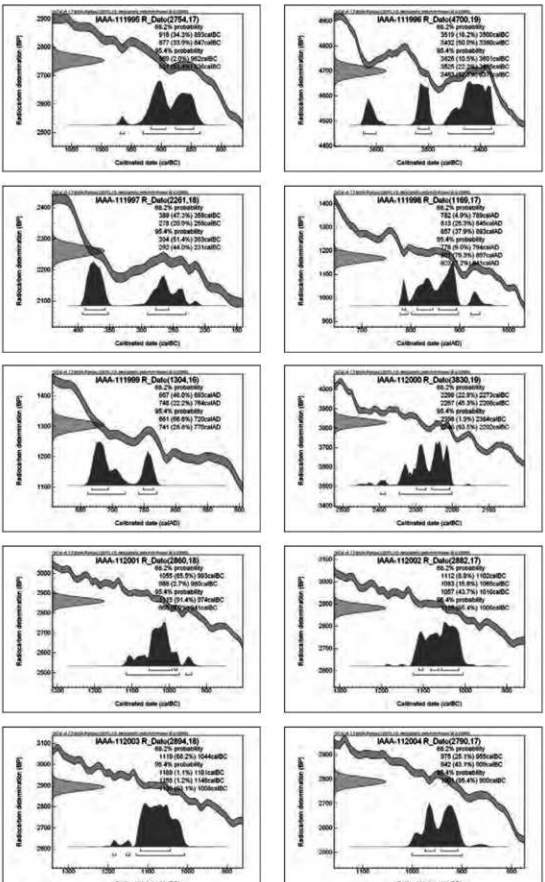
表2

測定番号	δ13C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-111993	3,680 ± 20	63.26 ± 0.14	3,640 ± 18	2032calBC - 1973calBC (68.2%)	2120calBC - 2096calBC (6.8%) 2041calBC - 1943calBC (88.6%)
IAAA-111994	3,620 ± 20	63.73 ± 0.15	3,611 ± 18	2016calBC - 1996calBC (21.2%) 1980calBC - 1940calBC (47.0%)	2028calBC - 1915calBC (95.4%)
IAAA-111995	2,790 ± 20	70.64 ± 0.15	2,754 ± 17	918calBC - 893calBC (34.3%) 877calBC - 847calBC (33.9%)	969calBC - 962calBC (2.0%) 931calBC - 836calBC (93.4%)
IAAA-111996	4,710 ± 20	55.66 ± 0.14	4,700 ± 19	3519calBC - 3500calBC (18.2%) 3432calBC - 3380calBC (50.0%)	3626calBC - 3601calBC (10.5%) 3525calBC - 3495calBC (22.2%) 3463calBC - 3375calBC (62.8%)
IAAA-111997	2,260 ± 20	75.52 ± 0.17	2,261 ± 18	389calBC - 358calBC (47.3%) 278calBC - 258calBC (20.9%)	394calBC - 353calBC (51.4%) 292calBC - 231calBC (44.0%)
IAAA-111998	1,170 ± 20	86.47 ± 0.18	1,169 ± 17	782calAD - 789calAD (4.9%) 813calAD - 845calAD (25.3%) 857calAD - 893calAD (37.9%)	778calAD - 794calAD (9.0%) 801calAD - 897calAD (79.3%) 923calAD - 941calAD (7.2%)
IAAA-111999	1,270 ± 20	85.41 ± 0.17	1,304 ± 16	667calAD - 693calAD (46.0%) 748calAD - 764calAD (22.2%)	661calAD - 720calAD (66.6%) 741calAD - 770calAD (28.8%)
IAAA-112000	3,780 ± 20	62.46 ± 0.14	3,830 ± 19	2299calBC - 2273calBC (22.9%) 2257calBC - 2208calBC (45.3%)	2398calBC - 2384calBC (1.9%) 2346calBC - 2202calBC (93.5%)
IAAA-112001	2,890 ± 20	69.75 ± 0.15	2,860 ± 18	1055calBC - 993calBC (65.5%) 986calBC - 980calBC (2.7%)	1115calBC - 974calBC (91.4%) 956calBC - 941calBC (4.0%)
IAAA-112002	2,850 ± 20	70.11 ± 0.15	2,882 ± 17	1112calBC - 1102calBC (8.9%) 1083calBC - 1065calBC (15.6%) 1057calBC - 1016calBC (43.7%)	1125calBC - 1006calBC (95.4%)
IAAA-112003	2,850 ± 20	70.09 ± 0.15	2,894 ± 18	1119calBC - 1044calBC (68.2%)	1189calBC - 1181calBC (1.1%) 1155calBC - 1146calBC (1.2%) 1130calBC - 1008calBC (93.1%)
IAAA-112004	2,740 ± 20	71.10 ± 0.15	2,790 ± 17	975calBC - 955calBC (25.1%) 942calBC - 909calBC (43.1%)	1001calBC - 900calBC (95.4%)

[参考値]







[参考]暦年較正年代グラフ

3　平成24年度調査分（弥包層・盛土遺構・土器付着物）

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子・菊地有希子・佐々木由香

1　はじめに

青森県弘前市に位置する薬師遺跡の盛土遺構などから採取された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2　試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は、盛土遺構に隣接する弥生時代の遺物包含層である弥包から採取された炭化材1点、盛土遺構の構成土である包2から採取された炭化材3点と炭化種実3点、盛土遺構の下部に広がる縄文時代晩期中葉～後葉の遺物包含層である包3から採取された炭化材1点、弥生の遺物包含層出土の土器1点と、包2出土の土器2点、包3出土の土器1点から採取された土器付着炭化物4点の、計12点である。

弥生時代の遺物包含層出土の試料は、試料No.1（PLD-23254）である。この弥生時代の遺物包含層は、盛土遺構に供給された土が堆積していた区域で確認された包含層である。

盛土遺構の構成土である包2の試料は、包2-D2炭化物層から採取された炭化材の試料No.2（PLD-23255）、包2-E6炭化物層から採取された炭化種実の試料No.3（PLD-23256）、包2-F2から採取された炭化材の試料No.4（PLD-23257）、包2-G2から採取された炭化材の試料No.5（PLD-23258）、包2-HOから採取された炭化種実の試料No.6（PLD-23259）、包2-H3上面から採取された炭化材の試料No.7（PLD-23260）である。盛土遺構は、出土遺物などから縄文時代晩期後葉～弥生時代前期の遺構と考えられている。

盛土遺構下部の縄文時代晩期の遺物包含層である包3の試料は、試料No.8（PLD-23261）である。

炭化材の樹種は、試料No.1が針葉樹、試料No.5がブナ属、試料No.4、7、8がクリで、いずれも最終形成年輪を欠く部位不明の材である。炭化種実は、試料No.3がオニグルミ核、試料No.2と6がクリ果実である。

土器付着炭化物の試料は、弥生の遺物包含層である包1他出土の弥生時代前期の甕の胴上半部外面から採取した試料No.9（PLD-23262）、包2-B下層出土の縄文時代晩期後葉の深鉢の口縁部内面から採取した試料No.10（PLD-23263）、包2-H3出土の縄文時代晩期中葉の鉢の口縁部付近内面から採取した試料No.11（PLD-23264）、包3出土の縄文時代晩期前葉～中葉の台付鉢の口縁部付近内面から採取した試料No.12（PLD-23265）である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

3　結　　果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示し

た^{14}C年代を、図２に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的手法による想定年代	前処理データ	前処理
PLD-23254	試料No. 1 採取位置：弥生の遺物包含層 グリッド：IIIK-63 層位：弥生 整理No. 水洗⑨	種類：炭化材（針葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	土壌形成の時期：弥生前期	前処理前重量：38.20mg 燃焼量：6.61mg 精製炭素量：4.27mg 炭素回収量：1.28mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23255	試料No. 2 採取位置：盛土遺構の堆積土 グリッド：IIIK-55 層位：⑥2-D2炭化物層 整理No. 水洗⑤	種類：炭化種実（クリ果実） 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：32.10mg 燃焼量：6.68mg 精製炭素量：4.27mg 炭素回収量：1.29mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23256	試料No. 3 採取位置：盛土遺構の堆積土 グリッド：IIII-54 層位：⑥2-E6炭化物層 整理No. 水洗⑪	種類：炭化種実（オニグルミ核） 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：18.31mg 燃焼量：6.89mg 精製炭素量：4.37mg 炭素回収量：1.18mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23257	試料No. 4 採取位置：盛土遺構の堆積土 グリッド：IIIJ-55(d3) 層位：⑥2-F2 整理No. 樹③-2	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：210.30mg 燃焼量：6.39mg 精製炭素量：4.23mg 炭素回収量：1.27mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23258	試料No. 5 採取位置：盛土遺構の堆積土 グリッド：IIIJ-56 層位：⑥2-G2 整理No. 樹③-1	種類：炭化材（ブナ属） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：58.81mg 燃焼量：6.23mg 精製炭素量：4.06mg 炭素回収量：1.25mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23259	試料No. 6 採取位置：盛土遺構の堆積土 グリッド：IIIJ-59 層位：⑥2-H0 整理No. 水洗⑬	種類：炭化種実（クリ果実） 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：28.80mg 燃焼量：6.88mg 精製炭素量：4.56mg 炭素回収量：1.32mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23260	試料No. 7 採取位置：盛土遺構の堆積土 整理No. 樹⑦ グリッド：IIIJ-57(c1) 層位：⑥2-H3上面	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期後葉～弥生前期	前処理前重量：47.40mg 燃焼量：5.88mg 精製炭素量：4.22mg 炭素回収量：1.22mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23261	試料No. 8 採取位置：縄文晩期の遺物包含層 グリッド：IIII-56(b2) 層位：⑥3 整理No. 樹⑨-2	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	盛土遺構形成の時期：縄文晩期中葉～後葉	前処理前重量：111.70mg 燃焼量：6.00mg 精製炭素量：4.02mg 炭素回収量：1.21mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23262	試料No. 9 採取位置：土器外面 グリッド：IIIJ-64他 層位：弥生包含層・包1他 図番号：図82-14 整理No. 11349a 他の出土遺構： S305, SP50, SK59他	種類：土器付着物・外面（煤類） 器種：壺 部位：胴部上半 状態：dry 備考：略完形（図上復元）	土器の時期：弥生前期	前処理前重量：45.30mg 燃焼量：6.92mg 精製炭素量：2.53mg 炭素回収量：1.27mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23263	試料No. 10 採取位置：土器内面 グリッド：IIIF-52(g2) 層位：⑥2-B下層 図番号：図127-6 整理No. 12184	種類：土器付着物・内面（おこげ） 器種：深鉢 部位：口縁部 状態：dry 備考：体部上半	土器の時期：縄文晩期後葉	前処理前重量：141.60mg 燃焼量：7.70mg 精製炭素量：4.35mg 炭素回収量：1.28mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23264	試料No. 11 採取位置：土器内面 グリッド：IIIK-59(a3) 層位：⑥2-H3 図番号：図182-14 整理No. 12077	種類：土器付着物・内面（おこげ） 器種：鉢 部位：口縁部付近 状態：dry 備考：略完形（図上復元）	土器の時期：縄文晩期中葉	前処理前重量：124.00mg 燃焼量：7.98mg 精製炭素量：4.26mg 炭素回収量：1.26mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)
PLD-23265	試料No. 12 採取位置：土器内面 グリッド：IIII-54(a4) 層位：⑥3 図番号：図222-8 整理No. 12119	種類：土器付着物・内面（おこげ） 器種：台付鉢 部位：口縁部付近 状態：dry 備考：略完形（図上復元）	土器の時期：縄文晩期前～中葉	前処理前重量：111.20mg 燃焼量：6.36mg 精製炭素量：3.01mg 炭素回収量：1.22mg	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2%,水酸化ナトリウム：1.0%,塩酸：1.2%)

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

表2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	測定回数	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-23254 試料No. 1 整理No. 水洗⑬	8	-25.85±0.21	1320±20	1320±20	660AD(61.7%)689AD 754AD(6.5%)760AD	655AD(77.8%)715AD 744AD(17.6%)769AD
PLD-23255 試料No. 2 整理No. 水洗⑧	9	-24.74±0.22	2468±21	2470±20	750BC(28.3%)688BC 667BC(11.6%)642BC 592BC(28.2%)521BC	760BC(31.9%)682BC 671BC(57.1%)501BC 494BC(0.9%)486BC 463BC(1.8%)448BC 443BC(3.7%)416BC
PLD-23256 試料No. 3 整理No. 水洗⑪	8	-27.62±0.21	2928±23	2930±25	1194BC(33.9%)1142BC 1133BC(15.3%)1111BC 1103BC(14.3%)1076BC 1065BC(4.7%)1056BC	1257BC(4.5%)1235BC 1216BC(90.9%)1043BC
PLD-23257 試料No. 4 整理No. 樹③-2	9	-25.87±0.23	2472±21	2470±20	751BC(28.3%)687BC 667BC(13.2%)639BC 619BC(1.4%)615BC 594BC(24.3%)538BC 528BC(0.9%)525BC	763BC(32.0%)681BC 673BC(59.8%)506BC 462BC(1.1%)450BC 441BC(2.5%)417BC
PLD-23258 試料No. 5 整理No. 樹④-1	8	-27.84±0.26	2472±22	2470±20	751BC(27.4%)687BC 667BC(13.2%)637BC 621BC(2.3%)615BC 594BC(23.8%)537BC 529BC(1.6%)524BC	763BC(31.7%)681BC 673BC(59.7%)506BC 462BC(1.3%)450BC 441BC(2.7%)417BC
PLD-23259 試料No. 6 整理No. 水洗⑬	8	-22.47±0.19	2781±22	2780±20	975BC(20.0%)955BC 943BC(48.2%)900BC	1002BC(86.5%)892BC 878BC(8.9%)847BC
PLD-23260 試料No. 7 整理No. 樹⑦	8	-27.50±0.22	2599±23	2600±25	805BC(68.2%)784BC	811BC(95.4%)768BC
PLD-23261 試料No. 8 整理No. 樹⑨-2	8	-24.65±0.22	2835±23	2835±25	1017BC(45.9%)971BC 961BC(22.3%)934BC	1055BC(95.4%)914BC
PLD-23262 試料No. 9 整理No. 11349	8	-24.90±0.24	2224±22	2225±20	364BC(8.5%)352BC 298BC(51.4%)228BC 222BC(8.3%)210BC	381BC(18.7%)344BC 324BC(76.7%)205BC
PLD-23263 試料No. 10 整理No. 12184	7	-26.85±0.27	2577±24	2575±25	798BC(68.2%)773BC	807BC(87.6%)757BC 685BC(7.5%)668BC 604BC(0.3%)601BC
PLD-23264 試料No. 11 整理No. 12077	8	-27.40±0.25	2777±23	2775±25	976BC(18.7%)953BC 945BC(49.5%)896BC	999BC(81.9%)890BC 881BC(13.5%)845BC
PLD-23265 試料No. 12 整理No. 12119	8	-26.27±0.23	2906±24	2905±25	1129BC(68.2%)1041BC	1207BC(0.6%)1203BC 1195BC(15.9%)1141BC 1135BC(78.9%)1011BC

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４　考　　察

各試料の暦年較正年代のうち、２σ暦年代範囲（95.4％の確率）に着目して結果を整理する。なお、縄文時代の暦年代については、小林（2008）による縄文土器編年と暦年代との対応関係や藤沼・関根（2008）にまとめられている測定例を、弥生時代の暦年代については、小林（2009）を参照した。

弥生時代の遺物包含層出土の試料No.1（PLD-23254）は、655-715 cal AD（77.8％）および744-769 cal AD（17.6％）の暦年代範囲を示した。これは７世紀中頃～８世紀後半で、飛鳥時代～奈良時代に相当する。出土遺物の時期から包含層の土壌形成の時期は弥生時代と考えられているが、炭化材の測定結果は400～500年ほど新しい年代であり、後世に混入した炭化材であった可能性が考えられる。

盛土遺構の構成土である包2出土の炭化材および炭化種実は、測定結果の古い順に整理すると、試料No.3（PLD-23256）が1257-1235 cal BC（4.5％）および1216-1043 cal BC（90.9％）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1260～1040年で縄文時代晩期前葉～中葉に相当する。次に、試料No.6（PLD-23259）は、1002-892 cal BC（86.5％）および878-847 cal BC（8.9％）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1010～840年で縄文時代晩期中葉に相当する。試料No.7（PLD-23260）は、811-768 cal BC（95.4％）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前820～760年で、縄文時代晩期中葉～後葉に相当する。ほかの３点は、ほとんど同じ年代測定結果であった。試料No.2（PLD-23255）は、760-682 cal BC（31.9％）、671-501 cal BC（57.1％）、494-486 cal BC（0.9％）、463-448 cal BC（1.8％）、443-416 cal BC（3.7％）の暦年代範囲を示した。試料No.4（PLD-23257）は763-681 cal BC（32.0％）、673-506 cal BC（59.8％）、462-450 cal BC（1.1％）、441-417 cal BC（2.5％）の暦年代範囲を示した。試料No.5（PLD-23258）は、763-681 cal BC（31.7％）、673-506 cal BC（59.7％）、462-450 cal BC（1.3％）、441-417 cal BC（2.7％）の暦年代範囲を示した。この３点の暦年代は、およそ紀元前770～410年で縄文時代晩期後葉～弥生時代前期に相当する。考古学的所見による盛土遺構の推定時期である縄文時代晩期後葉～弥生時代前期に対して、試料No.3と試料No.6は晩期前葉～中葉に相当する測定結果でやや古い年代を示したが、ほかの試料の測定結果は推定時期に対して整合的であった。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の測定で、推定時期よりもやや古い測定結果が得られた試料No.3と試料No.6は、一年生の種実であるため木材のような問題はなく、古い年代値が出た原因が試料の問題にあった可能性は考えにくい。試料はいずれも盛土遺構から採取された炭化材や炭化種実であり、やや古い年代であった試料については、盛土遺構の

場所に盛られる以前の堆積場所で堆積した炭化種実であった可能性などが考えられる。一方、試料No.4と5、7は部位不明の炭化材であり、測定結果が木材の枯死もしくは伐採年代よりも古い年代を示している可能性を考慮する必要がある。

縄文時代晩期の遺物包含層である包3出土の試料No.8（PLD-23261）は、1055-914 cal BC（95.4%）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1060～910年で縄文時代晩期前葉～中葉に相当し、晩期中葉～後葉という想定年代に対しておおむね整合的であった。想定年代よりもやや古い年代値を含んでいるのは、試料の古木効果の影響による可能性が考えられる。

土器付着炭化物では、弥生時代前期の甕の外面付着炭化物である試料No.9（PLD-23262）が、381-344 cal BC（18.7%）および324-205 cal BC（76.7%）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前390～200年で弥生時代中期に相当する。

縄文時代晩期後葉の深鉢の内面付着炭化物である試料No.10（PLD-23263）は、807-757 cal BC（87.6%）、685-668 cal BC（7.5%）、604-601 cal BC（0.3%）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前810～600年で縄文時代晩期中葉～後葉に相当する。

縄文時代晩期中葉の鉢の内面付着炭化物である試料No.11（PLD-23264）は、999-890 cal BC（81.9%）および881-845 BC（13.5%）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1000～840年で縄文時代晩期中葉に相当する。

縄文時代晩期前葉～中葉の台付鉢の付着炭化物である試料No.12（PLD-23265）は、1207-1203 cal BC（0.6%）、1195-1141 cal BC（15.9%）、1135-1011 cal BC（78.9%）の暦年代範囲を示した。これは、およそ紀元前1210～1010年で縄文時代晩期前葉～中葉に相当する。

【引用・参考文献】

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1）, 337-360.

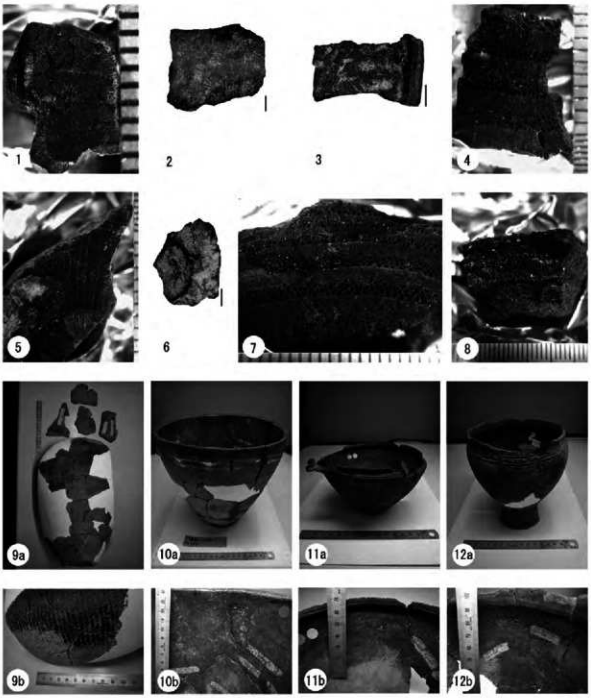
藤沼邦彦・関根達人（2008）亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）．小林達雄編「総覧縄文土器」: 530-535, アム・プロモーション．

小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学２　歴史のものさし」: 257-269, 同成社．

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82, 雄山閣．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」: 3-20, 日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E.（2009）IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



スケール２，３，６：１㎝

図１　薬師遺跡における放射性炭素年代測定の試料写真

1．試料No.１(PLD-23254)、2．試料No.２(PLD-23255)、3．試料No.３(PLD-23256)、4．試料No.４(PLD-23257)、5．試料No.５(PLD-23258)、6．試料No.６(PLD-23259)、7．試料No.７(PLD-23260)、8．試料No.８(PLD-23261)、9a．試料No.9付着土器全体、9b．試料No.９(PLD-23262)採取箇所、10a．試料No.10付着土器全体、10b．試料No.10(PLD-23263)採取箇所、11a．試料No.11付着土器全体、11b．試料No.11(PLD-23264)採取箇所、12a．試料No.12付着土器全体、12b．試料No.12(PLD-23265)採取箇所

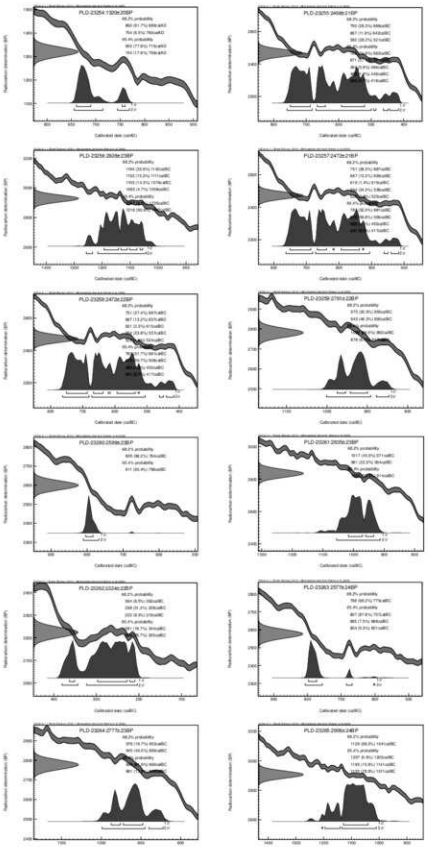


図２　各試料の暦年較正結果

第３節　弘前市薬師遺跡出土縄文土器および弥生土器の胎土分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩木山南東麓の火山麓扇状地（小池ほか編,2005）上に立地する弘前市薬師遺跡では、今回の発掘調査により、縄文時代晩期を主体とし一部弥生時代に至るとされる遺構が、多数検出されている。検出遺構には土坑墓群や盛土遺構も含まれており、多量に出土した土器や石器などの遺物と合わせて、当該期の集落構造や墓域の様相を把握するための貴重な情報を内包する遺跡として注目されている。

今回の分析調査では、薬師遺跡の中心とされる縄文時代晩期の土器と盛土遺構の時代とされる弥生時代前期～中期の土器について、その材質（胎土）の特性を岩石学的手法により把握する。また、土坑内より出土した粘土や盛土の構成土、および調査区内の基本土層の土壌についても比較試料とし、同手法により特性を把握することにした。これは、土器試料との比較検討を通して、土器間の材質の差異や類似性を把握するとともに、周辺の地質との関係性について検討することにより、その生産と供給に関わる具体的な資料を作成できると期待されるためである。

1　試　　料

対象試料は、薬師遺跡から出土した土器片22点と調査区内で採取された土壌４点の合計26点である。土器片試料の内訳は、縄文時代前期とされる土器３点、縄文時代晩期とされる土器11点、弥生時代とされる土器１点、弥生時代前期～中期とされる土器７点である。

土壌試料については、土坑に貯蔵されていたと考えられている粘土１点と弥生時代の整地層とされている土層から採取された土壌１点、さらに調査区内基本土層のうち、ソフトローム層およびハードローム層とされた各層位の土壌２点である。

各試料には、試料番号としてNo.１～No.26が付されている。このうち、No.１～３は縄文時代前期の土器、No.４～14は縄文時代晩期の土器、No.15は弥生時代初頭の土器、No.16～No.22は弥生時代前期～中期の土器、No.23は土坑出土の粘土、No.24は弥生時代整地層の土壌、No.25はソフトローム層、No.26はハードローム層である。各土器試料の整理番号や出土位置および器種や部位などは、一覧にして表１に示す。土壌試料については表２に示す。なお土壌試料については、添付資料に基づき以下便宜上「粘土試料」と記述する。

2　分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は薄片作製観察が主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。今回の試料のように比較的粗粒の砂粒を含み、低温焼成と考えられる縄文土器や弥生土器の分析調査では、前者の方が、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点がある。さらに薄片観察は、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能である。

この情報をより客観的な方法で表現したものとして、松田ほか（1999）の方法がある。これは、胎

土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、ここでは、薄片観察法による胎土分析を行う。以下に手順を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物 ・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3　結　　果

観察結果を表３～８、図１～７に示す。以下に、鉱物片および岩石片の種類構成、砂分全体の粒径組成、砕屑物・基質・孔隙における砕屑物の割合の順に述べる。なお、以下に述べる胎土分類結果は、一覧にして表９に示した。

1）鉱物片および岩石片の種類構成

今回の分析試料には、土器のほかに、土坑から出土した粘土、整地層の土、調査区内で採取された基本土層中のローム層2試料の土壌試料が含まれる。これらのうち、特に調査区内で採取されたローム層の試料（No.25、No.26）から得られた鉱物片と岩石片の組成（以下鉱物・岩石組成と呼ぶ）は、調査地の地質学的背景が最も反映された組成と言える。したがって、ここではNo.25、No.26の鉱物・岩石組成をＡ類とする。

Ａ類の組成の第一の特徴は、斜長石の鉱物片が非常に多く、斜長石以外の砂粒は、鉱物片も岩石片も微量または少量であることである。第二の特徴は、斜長石以外の砂粒の種類である。共通して含まれるものとしては、鉱物片が石英と斜方輝石、単斜輝石であり、岩石片が頁岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、安山岩の4者、および火山ガラスである。同様の組成は、貯蔵粘土とされたNo.23と整地層の土とされたNo.24にも認められる。すなわち、これらの試料もＡ類に分類され、調査地周辺で採取された土である可能性が高い。

一方、土器試料の鉱物 ・岩石組成をみると、上述したＡ類とほぼ同様の特徴を有する組成を認めることができる。No.1、No.2、No.12、No.19、No.20の各試料である。さらに、土器試料の中には、Ａ類の特徴である斜長石の多いことと、斜長石以外の鉱物片と岩石片の種類がほぼ同様でありながら、岩石片の中で凝灰岩または安山岩の量比が斜長石と同程度に多い組成が認められる。これらについては、組成がほぼ同様であることからＡ類に含めて扱い、凝灰岩の多い組成はＡ1類、安山岩の多い組成はＡ2類とし、上述のローム層については、Ａ0類として細分することにする。

Ａ1類に分類される試料は、No.4、No.15、No.18、No.22の４点であり、Ａ2類に分類される試

料は、No.3、No.7、No.9、No.10、No.16、No.21の６点である。なお、No.5については、斜長石と凝灰岩と安山岩の３者が多いことでＡ１類とＡ２類の両者の特性を持つが、砂粒全体の量が少ないことから、本来はいずれかの分類に入る可能性があるため、Ａ１類またはＡ２類とする。

さらに土器試料の中には、斜長石が微量または少量しか含まれない組成も認められており、それらはＡ類ではなく、別分類を設定する。Ａ類に分類されない組成のうち、凝灰岩の岩石片が多い組成をＢ類とし、安山岩の多い組成をＣ類とする。Ｂ類にはNo.11、No.13の２点が分類され、Ｃ類にはNo.8、No.14、No.17の３点が分類される。

No.6については、砂粒全体の量が少なく、斜長石は微量であり、凝灰岩と安山岩は含まれていない。しかし火山ガラスが計数され、さらに珪藻、放散虫、海綿骨針といった微化石類も計数された。このことから、上述したＢ類にもＣ類にも該当しない組成として、Ｄ類を設定する。

2）砂分全体の粒径組成

各試料のモードを示す粒径をみると、試料によって異なっている。モードとなっている粒径は、粗い順に粗粒砂、中粒砂、細粒砂、粗粒シルトの4種類である。ここでは、それらに該当する組成を順にⅠ類、Ⅱ類、Ⅲ類、Ⅳ類とする。

粘土試料では、整地層の土のNo.24のみⅢ類であり、他の３点はⅡ類に分類される。土器試料では、最も多い分類はⅠ類であり、22点の土器試料中過半数の13点が分類される。これに次ぐ分類はⅡ類であり、７点が分類される。Ⅲ類はNo.19の１点のみ、Ⅳ類はNo.5の１点のみである。

3）砕屑物・基質・孔隙における砕屑物の割合

砕屑物の割合は、全試料ともに約７％から18％程度の範囲に入る。この範囲内で、各試料間を比較すれば、砕屑物が多い試料と少ない試料が指摘できるが、分類ができるほどの較差とはいえない。すなわち、砕屑物の割合から分類を設定することは、本結果ではできそうにない。ただし、No.23以下の粘土試料は、４点とも10％未満であり、これに対して土器試料では、10％未満の試料は２点しか認められない。すなわち、粘土試料に対して、土器試料の方が砕屑物の割合が明らかに高い傾向が看取される。

4　考　　察

胎土中の砂粒における鉱物片および岩石片の種類構成は、胎土の材料となった砂や粘土などの堆積物が採取された場所の地質学的背景を反映していると考えられる。今回の分析結果では、粘土試料４点に認められたＡ0類の鉱物・岩石組成が、調査地周辺の地質学的背景を示している。Ａ0類の主な特徴である斜長石の鉱物片は、比較的新鮮であることから、第四紀の火山噴出物に由来するものであると判断されるが、調査地の地理的位置を考慮すれば、その多くは岩木山の火山噴出物に由来すると考えられる。また、岩石片のなかの安山岩についても、比較的新鮮であることから、岩木山の噴出物に由来すると考えられる。その他に、斜方輝石や単斜輝石および角閃石の各鉱物片も、岩木火山の噴出物に多くが由来すると考えられる。

一方で、石英の鉱物片、頁岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイトの各岩石片は、岩木火山の噴出物に由来するものではない。しかし、薬師遺跡の位置する岩木山の火山麓扇状地の表層に形成されたと土壌であるNo.25およびNo.26には、含まれているのである。これらの鉱物片および岩石片は、No.25および

No.26が採取されたローム層の母材の主体となっていると考えられる、風成塵中に含まれている砕屑物に由来することが示唆される。風成塵の主な給源の一つとしては、岩木川およびその水系の河川の河床があげられる。水位の低い時期に広く露出した河原は、いわゆる裸地に近い状態であり、風による砂粒子の移動があったことは充分に想定される。このことについては、早川（1995）や吉永（1995）がすでに火山灰土の成因の中で述べている。

岩木川の河床の砂の由来を考えると、これは流域の山地を構成する地質となる。大沢・須田（1978）や日本の地質「東北地方」編集委員会編（1989）などを参照すれば、岩木川およびその水系の河川上流域は白神山地北部に相当するが、この地域の山地は主に新第三紀中新世の凝灰岩からなり、同時期の頁岩からなる地質も比較的広く分布する。また、これも同時期の流紋岩・デイサイトからなる岩体が局所的ではあるが分布している。すなわち、岩木川とその水系によって津軽平野まで運ばれた河川砂中には、上述した地質に由来する岩石片や鉱物片が混在しており、それらが風成塵となって火山麓扇状地上のロームの母材になっていると考えられるのである。

土器の材料として土坑中に貯蔵されたと考えられているNo.23の粘土は、No.25･No.26と同様のＡ０類に分類された。外観も褐色を呈する火山灰土に近いことから、火山麓扇状地上の粘土分の多いローム層に由来する可能性がある。弥生時代の整地層と考えられたNo.24については、外観が黒褐色を呈する火山灰土いわゆる黒ボク土様を呈することから、No.25やNo.26が採取されたローム層そのものを使用したのではなく、火山麓扇状地上の土壌の最表層を構成する黒ボク土層を材料とした可能性がある。同じ場所における黒ボク土層とローム層は、その母材が共通していることから、鉱物・岩石組成上同様の組成を示すと考えられる。

今回の土器試料の中では、Ａ０類に分類された試料が、縄文時代前期では２点、同晩期では１点、弥生時代前～中期では２点認められた。これらは、土器の材料に火山麓扇状地上のローム、あるいは風化の進んだロームに由来する粘土層が使用されている可能性が高い。Ａ１類とＡ２類についても、火山麓扇状地あるいはその周囲の段丘などに堆積する粘土が使用されている可能性がある。なお、Ａ０類とＡ１類およびＡ２類の粒径組成を比較すると、Ａ０類はⅡ類またはⅢ類であるのに対して、Ａ１類およびＡ２類は、No.16がⅡ類に分類される以外は全てⅠ類に分類されている。すなわち、Ａ１類とＡ２類は、粗粒砂径の砕屑物を比較的多く含む傾向が指摘される。このことから、例えば粗粒砂径の砂をＡ０類に加えることで、その砂に凝灰岩が多く含まれている場合にはＡ１類になり、安山岩ならばＡ２類になると考えられる。上述したように、凝灰岩は岩木川水系上流域の地質に由来し、安山岩は岩木山の噴出物に由来すると考えられることから、Ａ１類の砂は岩木川流域でも山地を流れる上流側に近い地域の地質を、Ａ２類の砂は岩木川が平野に出た中流域に近い地域の地質を、それぞれ反映している可能性がある。

一方Ｂ類とＣ類については、Ａ１類とＡ２類より、さらに凝灰岩および安山岩の岩石片の割合が高い胎土である。また、これらの試料についても、粒径組成は、No.13のＢ類がⅡ類に分類されるほかは、いずれもⅠ類に分類されている。したがって、上述したＡ１類とＡ２類の事情は、そのままＢ類とＣ類にも当てはまる。さらに、斜長石の割合が低いことについては、岩木山の火山噴出物に由来する砕屑物の割合が低いと考えれば、Ｂ類とＣ類は火山麓扇状地上およびその周囲の段丘などではなく、これらより離れた岩木川流域の場所の堆積物が材料に使用されていることが示唆される。

Ｄ類は、Ａ類からＣ類までとは異なり、背景となる地質を直接示す岩石片が検出されない。本分類の特徴とされる火山ガラスは比較的新鮮であることから、おそらく十和田カルデラを給源とするテフラに由来すると考えられるが、火山ガラスは広域に分布するため地域的な指標にはならない。また、別の特徴となる微化石類は、由来する土が海成堆積物であることを示している。海成堆積物については、上述した新第三紀中新世の地質の中に含まれており、これも特に局所的な分布を示すものではない。これよりＤ類については、Ａ類からＣ類までに共通して含まれる岩石片が検出されないということが、その材料採取地の地質的特徴を反映しているといえよう。すなわち、Ａ類からＣ類までの胎土原料が由来する地域とした岩木川流域とその周辺域以外の地域であると推定される。ただし現時点では、その地域を具体的に想定することはできない。

今回の試料について時期別に胎土分類をみると、縄文時代前期は３点しかないが、そのうち２点はＡ０類であり、１点がＡ２類である。縄文時代晩期では、今回分類した全ての分類が認められたが、弥生土器では、No.17がＣ類に分類されたほかは、Ａ０、Ａ１、Ａ２の各分類がそれぞれ２または３点という結果であった。この結果からは、縄文時代晩期土器では、比較的多様な材料採取地が推定されるが、弥生土器では、火山麓扇状地およびその周辺域に限られる傾向が窺える。

今後は、実際に岩木川流域各地の堆積物の鉱物・岩石組成を、今回の分析手法と同様の方法で確認し、比較検討を行うことが望まれる。また、周辺地域の各時期の土器試料の分析事例を蓄積し、遺跡間の空間的変異と胎土の分類との関係を把握することにより、さらに胎土の組成上の特徴が反映する土器製作の事情等を明らかにできるものと期待される。

表１　分析試料一覧(土器)

試料番号	図番号	整理番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	備考
№1	図28-2	11002	SI02	Ⅱ X-80、床直P1,10	縄文	深鉢	略完形	縄文前期
№2	図28-1	11001	SI02pit5	Ⅱ X-80、覆土P1～11	縄文	深鉢	略完形	縄文前期
№3	図259-1	12201 (12408)	―	Ⅲ D-51Ⅲ層	縄文	鉢	略完形	縄文前期
№4	図219-1	12202	―	Ⅲ J-62c3包3、P994,995	縄文	台付鉢	略完形	縄文晩期
№5	図182-2	12203	盛土遺構	Ⅲ J-62b1包2-H3下層、P1008	縄文	台付鉢	略完形	縄文晩期
№6	図219-2	12204	―	Ⅲ J-61包3	縄文	鉢	略完形	縄文晩期
№7	図221-9	12205	―	Ⅲ J-60c4包3	縄文	深鉢	略完形	縄文晩期
№8	図229-1	12206	―	Ⅲ J-59b1c4包3下部、P1209	縄文	広口壺	略完形	使用いただけ
№9	図131-9	12195	盛土遺構	Ⅲ F-54c1包2-B下層、P906	縄文	壺	略完形	縄文晩期
№10	図185-1	12207	盛土遺構	Ⅲ J-60c1包2-H3	縄文	深鉢	略完形	縄文晩期
№11	図222-8	12119	―	Ⅲ I-54a4包3、P1228	縄文	台付鉢	略完形	縄文晩期
№12	図182-14	12077	盛土遺構	Ⅲ K-59a3包2-H3下層、P1164	縄文	鉢	略完形	縄文晩期
№13	図126-8	12056	盛土遺構	Ⅲ F-54a2包2-B下層、P913	縄文	台付鉢	略完形	縄文晩期、赤彩
№14	図127-6	12184	盛土遺構	Ⅲ F-52a4包2-B下層、P971	縄文	深鉢	体部上半	縄文晩期
№15	図209-14	12208	―	Ⅲ D-52b3包1、P872	弥生	鉢	略完形	弥生初頭
№16	図119-3	12209	―	Ⅲ E-52a2包2-A	弥生	鉢	略完形	弥生前～中期
№17	図83-9	11423a	―	Ⅲ K-64包1	弥生	高坏	口縁部	弥生前～中期、赤彩
№18	図208-20	11424	―	Ⅲ K-65Ⅰ層	弥生	台付浅鉢	体部上半	弥生前～中期
№19	図202-2	11446a	SX06	弥包、P306,326,330,690,704,751,765,915,916,939	弥生	短頸壺	口頸部	弥生前～中期
№20	図69-1	11449	SK55	北半覆土	弥生	甕	略完形	弥生前～中期
№21	図204-1	11329	―	Ⅲ J-63Ⅰ層	弥生	甕	体部上半	弥生前～中期
№22	図82-14	11349a	SX06	弥包、P394,418,460,461,463,467,469,470,474	弥生	甕	体部上半	弥生前～中期

表２　分析試料一覧(粘土)

試料番号	図番号	種類	遺構名	グリッド	土層	個別No.	採取日	備考
№23	図112	土器材料粘土?	SK77	―	1層	×	7/26	貯蔵粘土
№24	図197	整地層?	―	Ⅲ K-63	弥包	×	7/26	弥生時代整地層?
№25	図112	比較試料	―	Ⅲ K-58	Ⅴa層	×	7/26	ソフトローム層
№26	図197	比較試料	―	Ⅲ K-63	Ⅴb層	×	7/26	ハードローム層

表３　薄片観察結果（１）

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表4　薄片観察結果（2）

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表５　薄片観察結果（３）

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表6　薄片観察結果（4）

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

表７　薄片観察結果（５）

試料	砂粒区分	砂粒の種類構成																																					合計
		鉱物片													岩石片												その他												
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑簾石	白雲母	黒雲母	不透明鉱物	頁岩	珪質頁岩	砂岩	粗石	スコリア	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	花崗岩類石英斑岩	斜長石斑岩	ホルンフェルス	粘板岩	頁岩	変質岩	珪化岩	火山ガラス	粘土塊	シルト質しゅう粒土塊	酸化鉄結核	珪藻	放散虫	海綿骨針	植物片	植物珪酸体	合計
№21 11329 弥生	砂 細礫			1																																			1
	砂 極粗粒砂																		2																				2
	砂 粗粒砂			6	2	1					1					2			10																				22
	砂 中粒砂			6	3	3					2							1	4															1					20
	砂 細粒砂	2		2	1	2					1								1																				9
	砂 極細粒砂	7		2							1		1					1		2														2					16
	砂 粗粒シルト	4		4																																			8
	砂 中粒シルト	1																																					1
	基質																																						543
	孔隙																																						21
	備考	基質は褐色粘土鉱物やセリサイトによって埋められる。安山岩は新鮮で第四紀火山由来とみられるものが多い。斜長石は新鮮で清澄なものが散見される。																																					
№22 11349 弥生	砂 細礫																																						0
	砂 極粗粒砂	1		1										1			1	2	1							2												9
	砂 粗粒砂	5		9	1									1			9	2	1			1	1			3	2											35
	砂 中粒砂	4		3	1							1					2		4							2	1	3										21
	砂 細粒砂	1		3													1																						5
	砂 極細粒砂			1																																			1
	砂 粗粒シルト																																						0
	砂 中粒シルト																																						0
	基質																																						340
	孔隙																																						13
	備考	基質は雲母鉱物質、変質岩は褐色化した風化岩など。珪化岩は軽石？、凝灰岩？などを置き換えている。斜長石は新鮮で清澄なものが多い。																																					

表8　薄片観察結果（6）

| 試料 | 砂粒区分 | 砂粒の種類構成 | | |

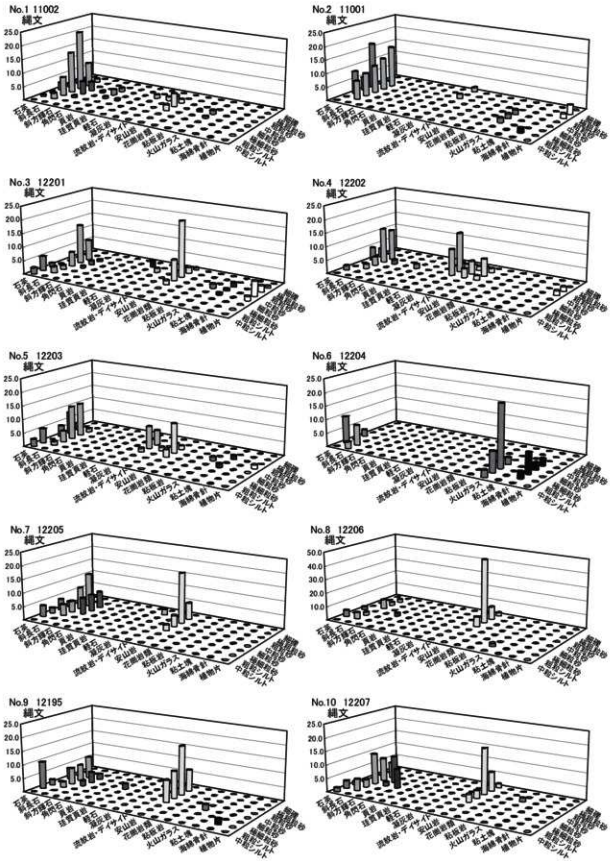


図１　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（１）

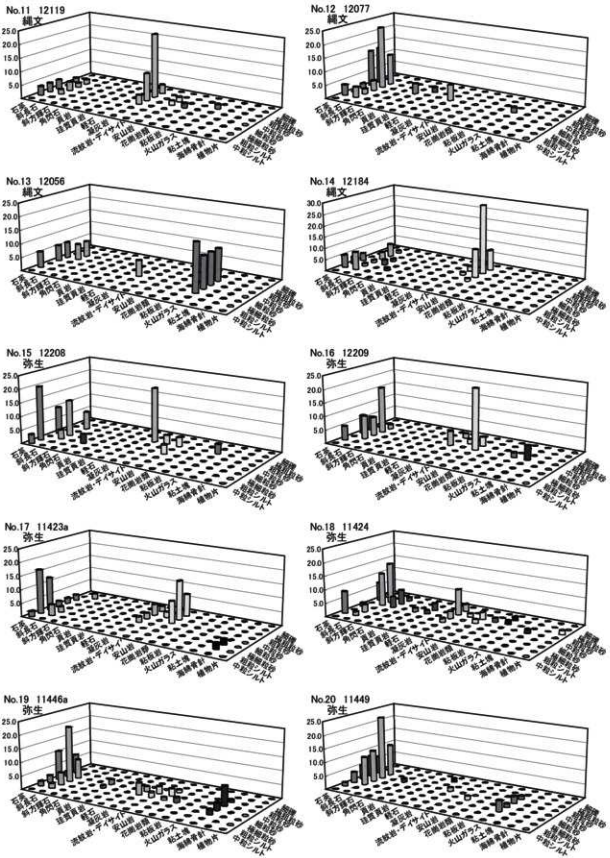


図２　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（２）

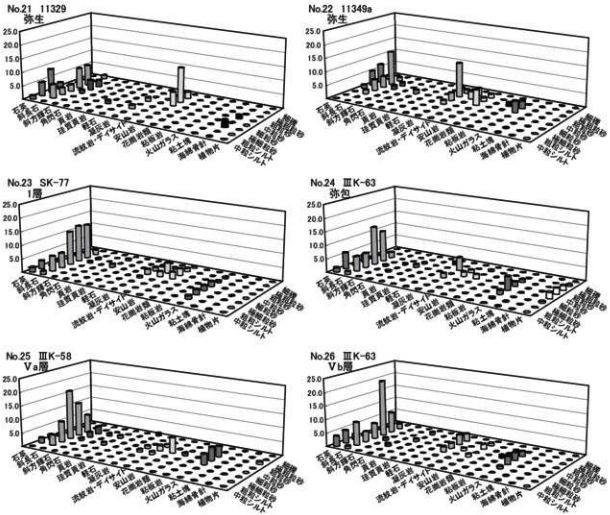


図３　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（３）

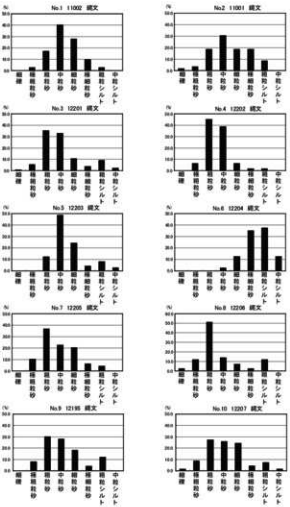


図4　砂の粒径組成（1）

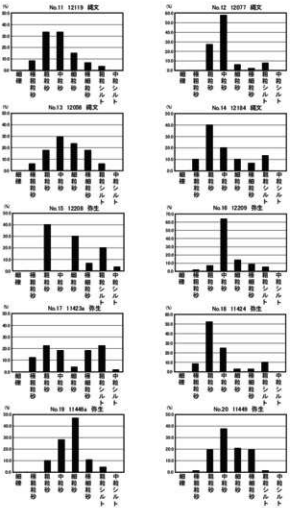


図5　砂の粒径組成（2）

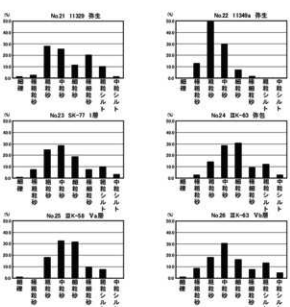


図6　砂の粒径組成（3）

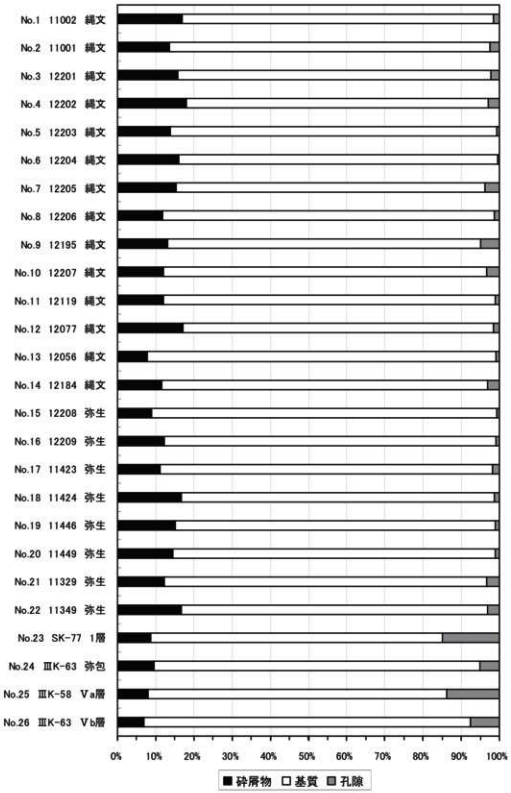


図７　砕屑物・基質・孔隙の割合

表9　胎土分類結果

試料番号	図番号	整理番号・遺構名・グリッド	器種・土層	備考	鉱物・岩石組成	粒径組成
No.1	図28-2	11002	深鉢	縄文前期	A0	Ⅱ
No.2	図28-1	11001	深鉢	縄文前期	A0	Ⅱ
No.3	図259-1	12201(12408)	鉢	縄文前期	A2	Ⅰ
No.4	図219-1	12202	台付鉢	縄文晩期	A1	Ⅰ
No.5	図182-2	12203	台付鉢	縄文晩期	A1/A2	Ⅱ
No.6	図219-2	12204	鉢	縄文晩期	D	Ⅳ
No.7	図221-9	12205	深鉢	縄文晩期	A2	Ⅰ
No.8	図229-1	12206	広口壺	縄文晩期	C	Ⅰ
No.9	図131-9	12195	壺	縄文晩期	A2	Ⅰ
No.10	図185-1	12207	深鉢	縄文晩期	A2	Ⅰ
No.11	図222-8	12119	台付鉢	縄文晩期	B	Ⅰ
No.12	図182-14	12077	鉢	縄文晩期	A0	Ⅱ
No.13	図126-8	12056	台付鉢	縄文晩期、赤彩	B	Ⅱ
No.14	図127-6	12184	深鉢	縄文晩期	C	Ⅰ
No.15	図209-14	12208	鉢	弥生初頭	A1	Ⅰ
No.16	図119-3	12209	鉢	弥生前～中期	A2	Ⅱ
No.17	図83-9	11423a	高坏	弥生前～中期、赤彩	C	Ⅰ
No.18	図208-20	11424	台付浅鉢	弥生前～中期	A1	Ⅰ
No.19	図202-2	11446a	短頸壺	弥生前～中期	A0	Ⅲ
No.20	図69-1	11449	甕	弥生前～中期	A0	Ⅱ
No.21	図204-1	11329	甕	弥生前～中期	A2	Ⅰ
No.22	図82-14	11349a	甕	弥生前～中期	A1	Ⅰ
No.23	図112	SK77	1層	貯蔵粘土	A0	Ⅱ
No.24	図197	ⅢK-63	弥包	弥生時代整地層?	A0	Ⅲ
No.25	図112	ⅢK-58	Ⅴa層	ソフトローム層	A0	Ⅱ
No.26	図197	ⅢK-63	Ⅴb層	ハードローム層	A0	Ⅱ

【引用文献】

早川由紀夫,1995,日本に広く分布するローム層の特徴とその成因.火山,40,177-190.

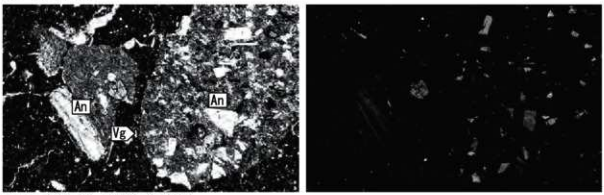
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高,1999,瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－.日本文化財科学会第16回大会発表要旨集,120-121.

日本の地質「東北地方」編集委員会,1989,日本の地質２　東北地方.共立出版,338p.

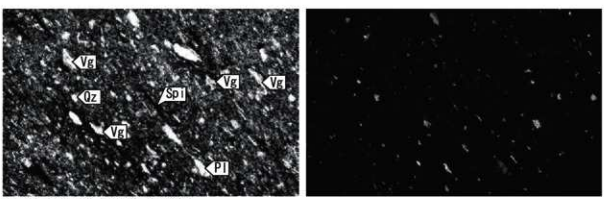
大沢　穠・須田芳朗,1978,20万分の１地質図幅「弘前および深浦」,地質調査所.

吉永秀一郎,1995,風化火山灰土の母材の起源.火山,40,153-166.

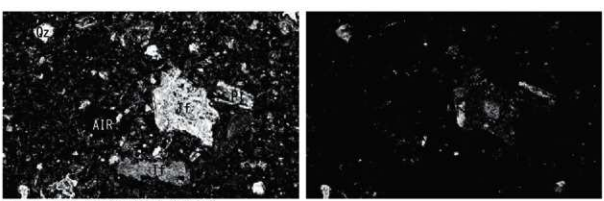
図８　胎土薄片(1)



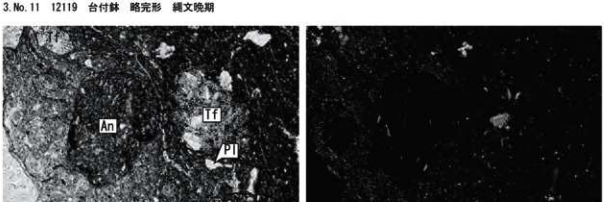
1.No.3　12201　鉢　略完形　縄文前期



2.No.6　12204　鉢　略完形　縄文晩期



3.No.11　12119　台付鉢　略完形　縄文晩期

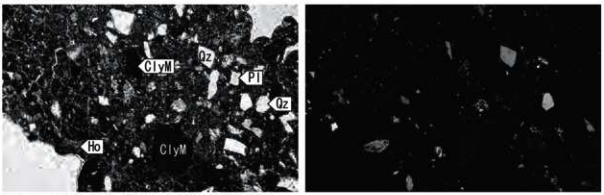


4.No.18　11424　台付浅鉢　体部上半　弥生前～中期

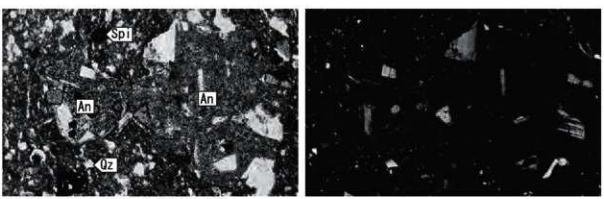
0.5mm

Qz:石英、Pl:斜長石、Tf:凝灰岩、An:安山岩、AIR:変質岩、Vg:火山ガラス、
Spi:海綿骨針、
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

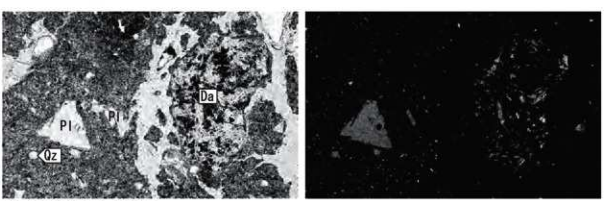
図9　胎土薄片(2)



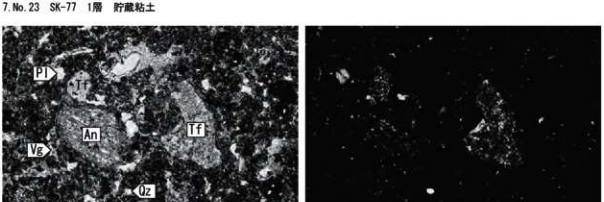
5.No.19　11446a　SX06　短頸壺　口頸部　弥生前～中期



6.No.21　11329　甕　体部上半　弥生前～中期



7.No.23　SK-77　1層　貯蔵粘土



8.No.24　ⅢK-63　弥包　弥生時代整地層?

0.5mm

Qz:石英，Pl:斜長石，Ho:角閃石，Tf:凝灰岩，Da:デイサイト，An:安山岩，
Vg:火山ガラス，ClyM:粘土塊，Spl:海綿骨針，
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

第４節　耳栓の赤色付着物および黒色付着物の成分分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１　はじめに

薬師遺跡は、弘前市の岩木山東南斜面裾野の丘陵地上に位置し、縄文時代晩期および平安時代の遺構・遺物や縄文時代前期末～中期初頭の遺物が出土した遺跡である。

調査では、縄文時代晩期前半と推定される土坑（SK15）（図61-25）から赤色物および黒色物が付着した耳栓が出土した。ここでは、この赤色付着物および黒色付着物について非破壊で成分を検討した。

２　試料と方法

試料は、縄文時代晩期前半と推定されるSK15から出土した耳栓１点である（表１）。この耳栓の表面には、ほぼ全面にわたって赤色物が見られ、また黒色物も比較的広い面積に付着していた。ここでは、非破壊で赤色付着物の成分を調べるために蛍光Ｘ線分析による元素マッピング分析を行い、また黒色付着物の成分を調べるために赤外分光分析を行った。

表１　元素マッピング分析を行った試料

試料No.	遺物名	出土遺構	時期	表面の特徴	分析
1	耳栓	SK15	縄文時代晩期前半	赤色顔料塗布，光沢のない黒色物付着	元素マッピング，赤外分光分析

元素マッピング分析については、元素マッピングを行った後、鉄（Fe）マッピング画像の濃度の高い位置を複数ヵ所選定して点分析を行った。測定は、Ｘ線分析顕微鏡（㈱堀場製作所製XGT-5000 TypeⅡ）を用いた。元素マッピングの測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000secである。点分析の測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP（ファンダメンタルパラメータ）法で半定量分析を行った。

また、赤外分光分析については、黒色付着物を表面（１mm角程度の面積）から手術用メスを用いて薄く剥ぎ取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ１mm程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

３　結果および考察

耳栓を実体顕微鏡で観察すると、赤色物は黒色物の上に付着していた（図版２-１・２・３）。

表２　耳栓の点分析結果（単位%）

点No.	測定位置	対象	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	Fe_2O_3	NiO	CuO	Rb_2O	SrO	Total
1	側面	鉄-rich	0.00	0.01	16.34	45.14	1.80	0.48	1.59	0.05	34.46	0.02	0.05	0.04	0.03	100.01
2		鉄-rich	15.18	1.53	15.59	41.34	2.01	0.45	1.44	0.04	24.28	0.00	0.03	0.06	0.04	99.99
3		鉄-rich	0.44	3.27	9.81	29.24	0.59	0.28	0.49	0.05	55.71	0.00	0.05	0.02	0.06	100.01
4		胎土	6.25	0.85	17.33	62.29	2.90	0.45	2.27	0.03	7.53	0.00	0.03	0.04	0.05	99.98
5	上面（大径側）	鉄-rich	0.28	2.03	12.88	31.59	0.39	0.40	0.36	0.02	51.92	0.00	0.03	0.05	0.04	99.99
6		鉄-rich	10.92	0.00	16.28	19.59	0.89	0.71	1.21	0.04	50.07	0.00	0.05	0.11	0.12	99.99
7		黒色付着物	9.26	2.17	22.20	55.99	1.74	0.27	1.63	0.03	6.64	0.00	0.02	0.03	0.02	100.00
最小値			0.00	0.00	9.81	19.59	0.39	0.27	0.36	0.02	6.64	0.00	0.02	0.02	0.02	
最大値			15.18	3.27	22.20	62.29	2.90	0.71	2.27	0.05	55.71	0.02	0.05	0.11	0.12	

元素マッピング分析を行った結果、赤色部分に対応して鉄(Fe)の輝度が高く検出された。複数ヵ所での点分析では、鉄(FeO)が最大55.71%検出された(表2)。

黒色付着物の赤外分光分析では、生漆のウルシオールの吸収(No.6～8;表3)は見られなかった。なお、生漆の吸収位置のNo.1とNo.2に対応して若干の吸収が見られ、また生漆の吸収位置No.9に対応して漆の劣化等に伴うゴム質の大きな吸収が見られた。縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber (cm^{-1}):カイザー)である。このことから、漆が劣化した可能性が考えられる。

この耳栓表面の赤色物は、元素マッピング分析および点分析の結果から、赤色顔料としてのベンガラと推定される。

ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe_2O_3、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(Ⅲ)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬. 2004)、広い地域で採取することが可能である。また、ベンガラは直径約1μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く、このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリアにより形成されたことが考えられている(岡田. 1997)。

表3　生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ｳﾙｼｵｰﾙ
7	1270.86	46.3336	ｳﾙｼｵｰﾙ
8	1218.79	47.5362	ｳﾙｼｵｰﾙ
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

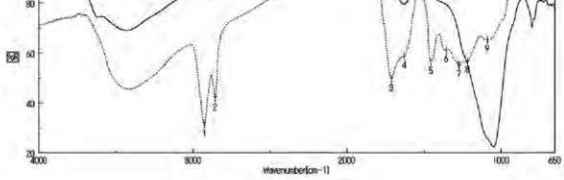
4　おわりに

SK15から出土した縄文時代晩期前半と推定された耳栓は、蛍光X線分析により鉄が多く検出されたことから、赤色付着物の顔料としてはベンガラと推定された。なお、ベンガラの下層に付着する黒色物については、劣化が著しいものの漆の可能性がある。

【引用文献】

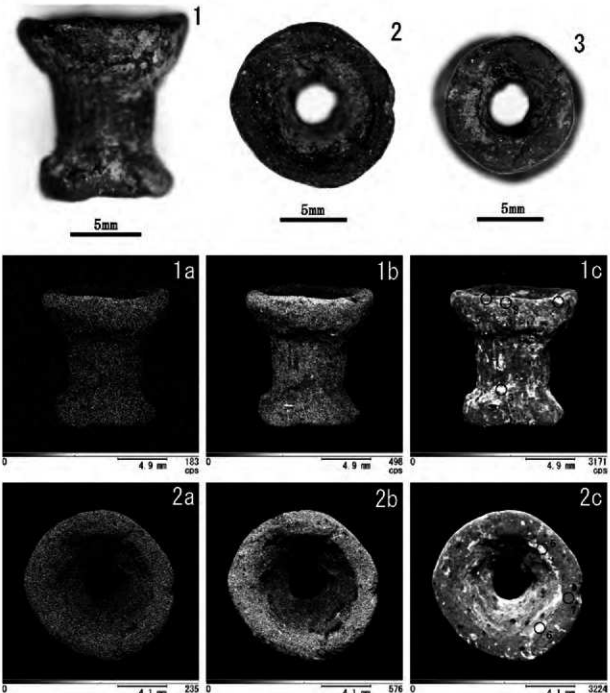
成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料. 正倉院紀要. 13-61. 宮内庁正倉院事務所.

岡田文男(1997)パイプ状ベンガラ粒子の復元. 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集. 38-39.



図版1　耳栓黒色付着物の赤外吸収スペクトル図

縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber (cm^{-1}):カイザー)
実線:黒色付着物、点線:生漆(数字は吸収位置を示す)



図版２　耳栓と元素マッピング図（○は点分析の位置を示す）

1. 耳栓の側面　2. 耳栓の上面（大径側）　3. 耳栓の下面（小径側）

1a. 側面のアルミニウム（Al）マッピング図　1b. 側面のケイ素（Si）マッピング図

1c. 側面の鉄（Fe）マッピング図　2a. 上面のアルミニウム（Al）マッピング図

2b. 上面のケイ素（Si）マッピング図　2c. 上面の鉄（Fe）マッピング図

第５節　薬師遺跡から出土した土器と土製品の塗膜分析

藤根　久・米田恭子(パレオ・ラボ)

１　はじめに

弘前市新岡薬師に所在する薬師遺跡の調査では、盛土遺構の構成土ならびに遺構下部に広がる晩期の遺物包含層から縄文時代晩期後半の赤彩した土器や耳栓、土偶が出土した。ここでは、土器と土製品について、塗膜薄片を作製し、表面部の赤外分光分析と、光学顕微鏡による塗膜構造の観察、走査型電子顕微鏡による反射電子像の観察およびＸ線分析を行い、塗膜構造と材料について検討した。

２　試料と方法

分析試料は、縄文時代晩期後半の赤彩された土器４点、耳栓と土偶の各１点である(表１)。

表１　塗膜試料とその特徴

分析No.	図番号	種類	出土位置	グリッド	整理番号	採取位置	時期	特徴
1	図229-6	壺	包3	Ⅲ I-55	12585	頸部外面	縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り
2	図126-8	台付鉢	包2-B, 下層	Ⅲ F-54	12056	台内面	縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り
3	図162-9	台付鉢	包2-B, 下層	Ⅲ H-54	12200	内面	縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り、内面赤色・黒色塗り
4	図126-6	台付鉢	包2-B, 下層	Ⅲ E-52	12065	口縁部内面	縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り、内面赤色・一部黒色塗り
5	図156-68	耳栓	包2-B, 上層	Ⅲ F-53	土-221		縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り
6	図154-32	土偶	包2-B, 上層	Ⅲ E-53	土偶-39		縄文時代晩期後半	光沢のない赤色塗り

表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、光学顕微鏡観察と透過型電子顕微鏡の観察および成分分析を行った。

試料は、グラインダーを用いて、文様等を避けて赤彩状態の良い破断した場所で、胎土とともに採取した(図版１)。また、赤外分光分析を行うために、採取した一部から分光分析用の試料を採取した。塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して包埋した後、薄片作製機および精密研磨フィルム(#1000, #2000, #4000)を用いて厚さ約50μm前後に仕上げた。各塗膜薄片は、表面に蒸着した後、主に赤色塗膜層を対象としてＸ線分析を行った。Ｘ線分析を行った塗膜薄片は、再度精密研磨フィルム(#1000, #2000, #4000)を用いて厚さ約20μm前後に調製した後、偏光顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

赤外分光分析は、表面部分から採取した一部試料を押しつぶして、厚さ１mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光(株)製 FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

Ｘ線分析では、エネルギー分散型Ｘ線分析装置を付属した走査型電子顕微鏡を用いて無機成分を調べた。観察および測定は、走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製 JSM-5900LV)による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型Ｘ線分析装置(同JED-2200)による定性・簡易定量分析を行った。

３　結果および考察

以下に、土器および土製品の表面部試料の赤外分光分析と、偏光顕微鏡による塗膜構造の観察、走査型電子顕微鏡による反射電子像の観察およびＸ線分析の各結果について述べる。

なお、各試料の表面部分の赤外吸収スペクトル図では、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber（cm^{-1}）；カイザー）を示す。各スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は生漆の赤外吸収位置を示す(表２)。

[分析No.１(壺)]

壺は、外側の全面が赤彩されている(図版1-1)。

外面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.６～８)は確認されなかった(図版３-1c)。塗膜構造は、胎土a層と塗膜c層で構成される(図版２-1a，1b)。塗膜c層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると輝度の高い極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c層のＸ線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大87.87%検出され(表３)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが少量確認された。

表２　生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		
	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

[分析No.２(台付鉢)]

台付鉢は、内面および外側の全面が赤彩されている(図版１-2)。

内面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.６～８)は確認されなかった(図版３-2c)。内面の塗膜構造は、胎土a層と塗膜c層からなる(図版２-2a，2b)。塗膜c層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると輝度の高い極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c層のＸ線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大90.33%検出され(表３)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが確認された。

[分析No.３(台付鉢)]

台付鉢は、内面および外側の全面が赤彩され、やや光沢のある黒色塗りが外面ではわずか、内面には広範囲に見られる(図版1-3)。

内面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.6～8)は確認されなかった(図版3-3c)。内面の塗膜構造は、胎土a層と塗膜c1層、c2層からなる(図版２-3a，3b)。塗膜c1層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると輝度の高い粗粒の鉱物と極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c1層のＸ線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大81.76%検出され(表３)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが確認された。

同様に、塗膜c2層中の粒子は、Ｘ線分析で酸化ケイ素(SiO_2)が65.25%、酸化アルミニウム(Al_2O_3)が16.19%検出されたため(表３)、長石などの鉱物粒子と考えられる。なお、パイプ状ベンガラも少量確認された。この塗膜c2層は、肉眼では黒色塗りの部分であるが、塗膜断面では、鉱物粒子を含む透明の淡褐色層であり、赤外分光分析では確認できなかったが、漆塗りの可能性が考えられる。

[分析No.４(台付鉢)]

台付鉢は、内面および外側の全面が赤彩され、内面の一部に黒色塗りが見られる(図版１-4)。

内面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.6～8)は確認されなかった(図版3-4c)。内面の塗膜構造は、胎土a層と塗膜c層からなる(図版2-4a, 4b)。塗膜c層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると、輝度の高い粗粒の鉱物と極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c層のX線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大59.73%、酸化ケイ素(SiO_2)が最大38.28%検出され(表3)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが少量確認された。

[分析No.5(耳栓)]

耳栓は、外側のほぼ全面が赤彩されている(図版1-5)。

内面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.6～8)は確認されなかった(図版3-5c)。内面の塗膜構造は、胎土a層と塗膜c1層、c2層からなる(図版3-5a, 5b)。塗膜c1層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると輝度の高い極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c1層のX線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大84.35%検出され(表3)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが確認された。

また、塗膜c2層は、透明の淡褐色層からなり、鉱物粒子が少量含まれる。この塗膜c2層は、赤外分光分析では確認できなかったが、漆の可能性が考えられる。

[分析No.6(土偶)]

土偶は、外側のほぼ全面が赤彩されている(図版1-6)。

内面赤色部の赤外分光分析では、ウルシオールの吸収(No.6～8)は確認されなかった(図版3-6c)。内面の塗膜構造は、胎土a層と塗膜c層からなる(図版3-6a, 6b)。塗膜c層は不透明の黒褐色層で、反射電子像の観察によると輝度の高い極細粒の粒子が密に分布する。塗膜c層のX線分析では酸化鉄(Fe_2O_3)が最大89.98%検出され(表3)、赤色は酸化鉄によるものであった。なお、パイプ状ベンガラが少量確認された。

表3　各試料のX線分析結果(単位:%)

試料No.	塗膜層	点No.	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	Fe_2O_3	Total
1	c層	1	0.36	－	2.30	13.97	0.33	0.12	－	82.92	100.00
		2	－	－	1.64	10.31	0.13	0.05	－	87.87	100.00
2	c層	1	2.57	0.16	1.08	5.60	0.16	0.20	0.06	90.17	100.00
		2	1.38	0.15	1.29	6.65	0.10	0.10	－	90.33	100.00
3	c1層	1	－	0.02	4.11	13.55	0.16	－	0.40	81.76	100.00
		2	0.21	－	5.57	33.96	－	－		60.26	100.00
	c2層	3	0.11	0.20	16.19	65.25	0.61	0.46	0.71	16.46	99.99
4	c層	1	－	－	1.54	38.28	0.34	－	0.50	59.34	100.00
		2	2.01	－	2.12	35.76	0.12	0.27	－	59.73	100.01
5	c層	1	0.22	0.57	1.61	12.27	0.26	0.35	0.37	84.35	100.00
		2	1.59	0.62	6.85	17.02	0.33	0.12	0.13	73.33	99.99
6	c層	1	－	0.67	2.40	6.00	0.29	0.07	0.59	89.98	100.00
		2	0.96	0.25	2.38	5.76	0.20	0.78	0.50	89.17	100.00

4　まとめ

縄文時代晩期後半の赤彩された土器4点、耳栓と土偶の各1点について、表面の漆成分を調べるために赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために薄片を作製して、光学顕微鏡観察と透過型電子顕微鏡の観察および成分分析を行った。

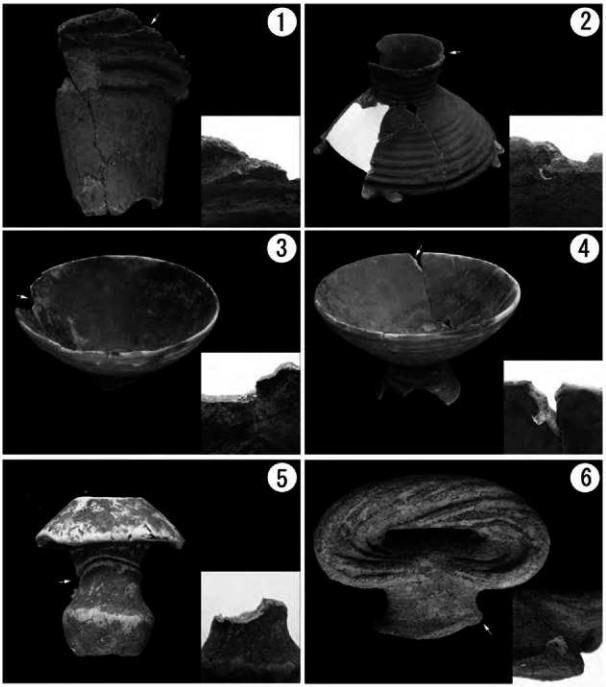
この結果、分析No.1（壺）、分析No.2（台付鉢）、分析No.4（台付鉢）、分析No.6（耳栓）は、胎土a層と塗膜c層からなり、パイプ状ベンガラを少量含む極細粒または細粒のベンガラを用いて赤彩されていた。なお、赤外分光分析では漆は確認できなかった。また、作製した薄片においても分析No.3や分析No.5のような透明の塗膜層は確認できなかった。

一方、分析No.3（台付鉢）と分析No.5（耳栓）は、胎土a層、塗膜c1層およびc2層からなり、塗膜c1層がパイプ状ベンガラを含む細粒のベンガラで赤彩され、塗膜c2層が鉱物粒子あるいはベンガラを含む透明塗膜層であつた。なお、この塗膜c2層は、赤外分光分析では確認できなかったが、漆の可能性が考えられる。

代表的な赤色顔料の種類としては、朱（水銀朱）とベンガラがある。水銀朱は硫化水銀（HgS）で、鉱物としては辰砂と呼ばれる。ベンガラは狭義には三酸化二鉄（Fe_2O_3、鉱物名は赤鉄鉱）をさすが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般をさす（成瀬，2004）。一方、ベンガラは直径約１μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告され、鉄バクテリアを起源とすることが判明し（岡田，1997）、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998）。

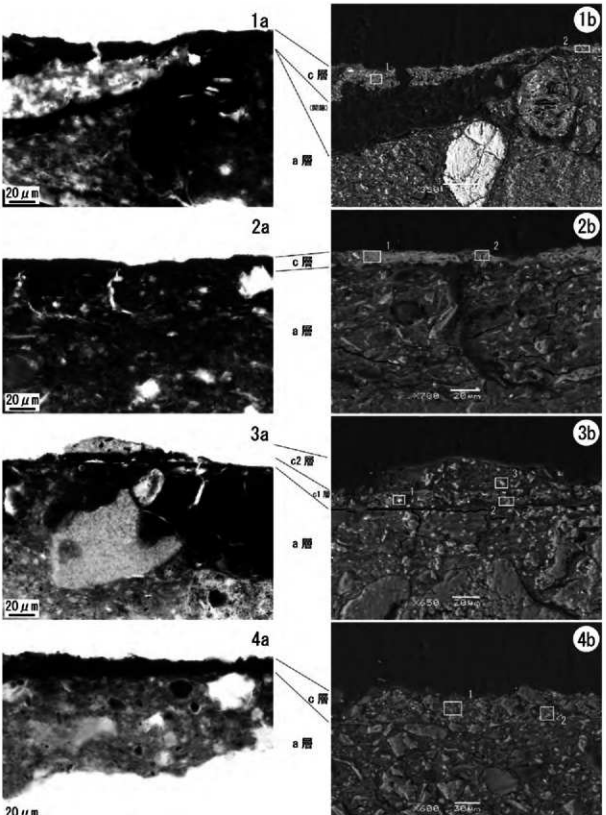
【引用文献】

成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―．考古学ジャーナル，438，10-14.
成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料．正倉院紀要，26，13-61．宮内庁正倉院事務所．
岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集，38-39.



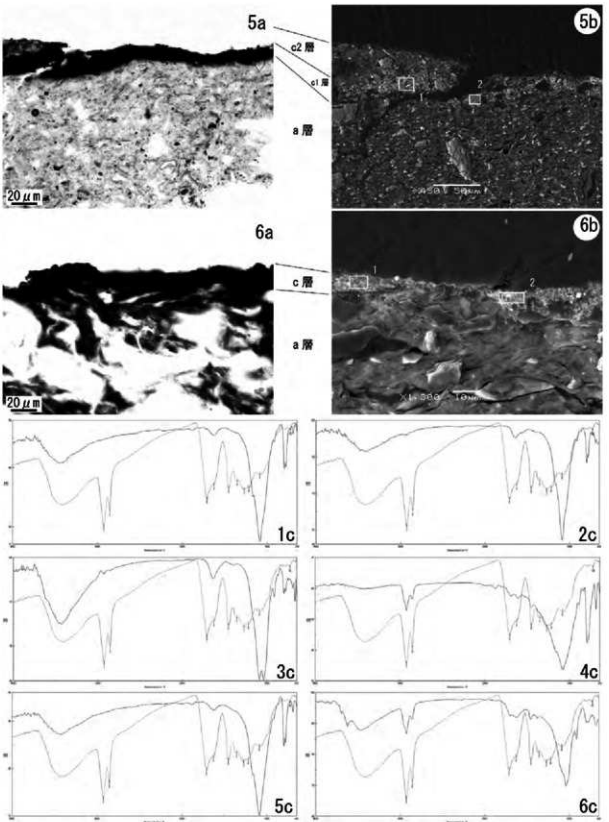
図版1　塗膜分析の対象土器と採取位置

1. 壺(分析No. 1)　2. 台付鉢(分析No. 2)　3. 台付鉢(分析No. 3)　4. 台付鉢(分析No. 4)　5. 耳栓(分析No. 5)　6. 土偶(分析No. 6)



図版２　土器の塗膜構造(a)と反射電子像(b)

1a-1b, 壺(分析No. 1)　2a-2b, 台付鉢(分析No. 2)　3a-3b, 台付鉢(分析No. 3)　4a-4b, 台付鉢(分析No. 4)



図版3　土器と土製品の塗膜構造(a)と反射電子像(b)と各塗膜表面の赤外吸収スペクトル図
(縦軸：透過率、横軸：波数、数字：生漆の赤外吸収位置)

1c. 壺(分析No. 1)　2c. 台付鉢(分析No. 2)　3c. 台付鉢(分析No. 3)　4c. 台付鉢(分析No. 4)　5a-5c. 耳栓(分析No. 5)　6a-6c. 土偶(分析No. 6)

第６節　薬師遺跡出土赤色顔料の蛍光X線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

１　はじめに

弘前市大字新岡字薬師に所在する薬師遺跡から出土した縄文時代晩期の赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

２　試料と方法

分析対象は、表１と図版１に示す石皿（分析No.１）と磨石（分析No.２）に付着した赤色顔料、および顔料粉（分析No.３）、赤色の原石（分析No.４～６）の計６点である。時期は、出土層位より分析No.２、３、６が縄文時代晩期前半、分析No.１が縄文時代晩期後半、分析No.４、５が縄文時代晩期と考えられている。実体顕微鏡下で赤色物をセロハンテープに極微量採取して分析試料とした。

表１　分析対象一覧

分析No.	図番号	整理番号	種類	グリッド	小グリッド	層位	個別番号	時期
1	図150-26	レ-1311	石皿			包2-B上層	S-157	縄文時代晩期後半
2	図248-108	レ-1309	磨石	Ⅲ J-61		包3		縄文時代晩期前半
3	－	顔料粉	顔料粉	Ⅲ I-56		包3	赤色顔料-×	縄文時代晩期前半
4	－	4395	原石	Ⅲ J-55	a1	包2-F5		縄文時代晩期
5	－	4704	原石	Ⅲ K-57		包2-H3		縄文時代晩期
6	－	5053	原石	Ⅲ H-55	d3	包3		縄文時代晩期前半

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000 Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、0.24～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。半定量値の誤差は大きく、注意を要する。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

３　結　　果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図版２に示す。

分析No.１の石皿（レ-1311）からは、ケイ素（Si）と鉄（Fe）が主に検出された。他に、アルミニウム（Al）やリン（P）、硫黄（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）が検出された。

分析No.２の磨石（レ-1309）からは、ケイ素（Si）と鉄（Fe）が主に検出された。他に、アルミニウム（Al）やリン（P）、硫黄（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）が検出された。

分析No.３の顔料粉からは、鉄（Fe）が主に検出された。他に、アルミニウム（Al）やケイ素（Si）、リン（P）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）が検出された。

分析No.4の原石(4395)からは、ケイ素(Si)と鉄(Fe)が主に検出された。他に、アルミニウム(Al)やリン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)が検出された。

分析No.5の原石(4704)からは、鉄(Fe)とケイ素(Si)が主に検出された。他に、リン(P)や硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)が検出された。

分析No.6の原石(5053)からは、鉄(Fe)が主に検出された。他に、アルミニウム(Al)やケイ素(Si)、硫黄(S)、カルシウム(Ca)が検出された。

また、生物顕微鏡観察により得られた画像を図版3に示す。分析No.1とNo.3にはパイプ状粒子が認められた。

4　考　　察

縄文時代の赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe_2O_3、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(Ⅲ)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。

今回分析した6試料からは、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が高く検出されており、赤い発色は鉄によると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。さらに、縄文時代晩期後半の石皿、レ-1311(分析No.1)と晩期前半の顔料粉(分析No.3)からはパイプ状粒子が検出されており、いわゆるパイプ状ベンガラであった。

5　おわりに

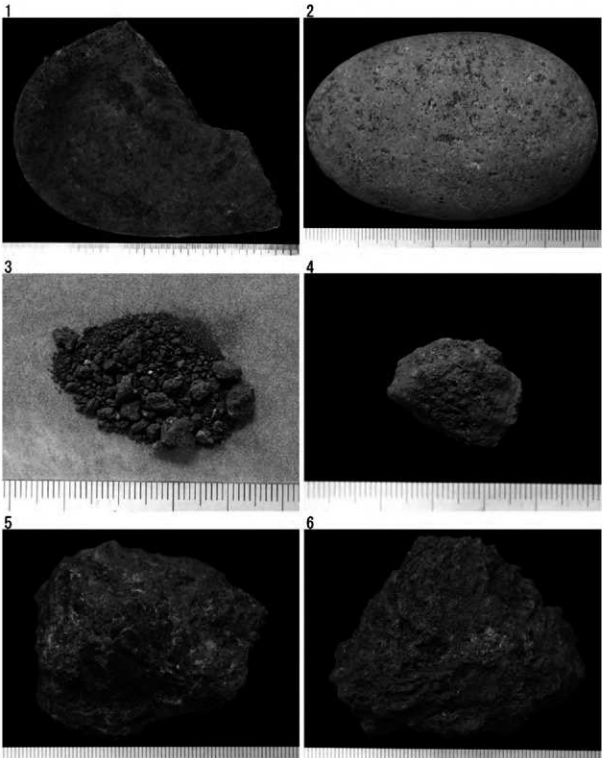
縄文時代晩期の赤色顔料について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄(Ⅲ)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。なお、石皿(分析No.1)と顔料粉(分析No.3)はパイプ状ベンガラであった。

【引用文献】

成瀬正和(1998)縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―. 考古学ジャーナル, 438, 10-14, ニューサイエンス社.

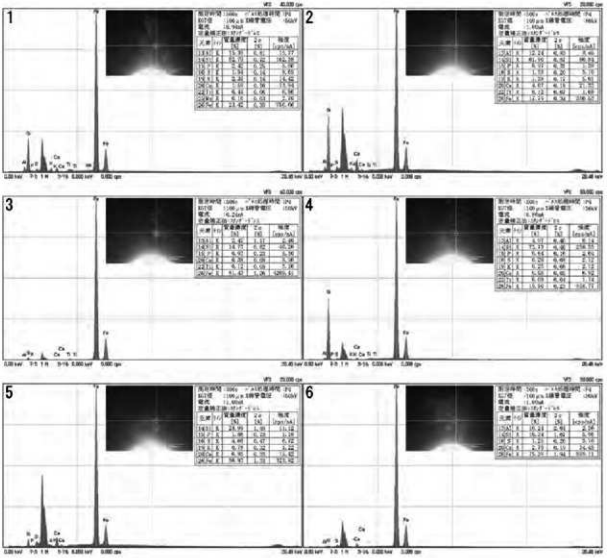
成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料. 正倉院紀要, 26, 13-61, 宮内庁正倉院事務所.

岡田文男(1997)パイプ状ベンガラ粒子の復元. 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39.



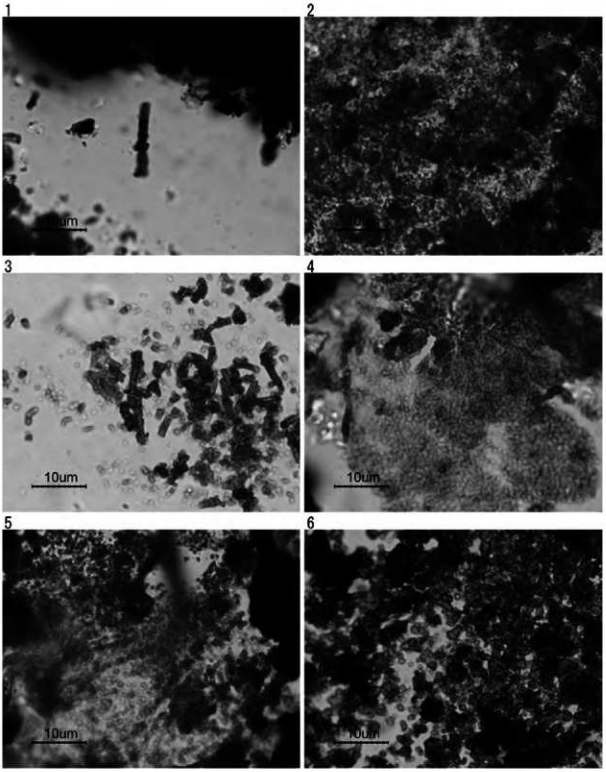
図版１　分析対象資料

1. 分析No. 1(ら－1311)　2. 分析No. 2(ら－1309)　3. 分析No. 3(顔料粉)　4. 分析No. 4(4295)　5. 分析No. 5(4704)　6. 分析No. 6(5053)



図版２　赤色顔料の蛍光X線分析結果

1.分析No.1(ｄ-1311)　2.分析No.2(ｄ-1309)　3.分析No.3(顔料粉)　4.分析No.4(4395)　5.分析No.5(4704)　6.分析No.6(5053)



図版３　赤色顔料の生物顕微鏡写真

1. 分析No. 1(6－1311)　2. 分析No. 2(6－1309)　3. 分析No. 3(顔料粉)　4. 分析No. 4(4395)　5. 分析No. 5(4704)　6. 分析No. 6(5053)

第7節　薬師遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展(パレオ・ラボ)

1　はじめに

弘前市大字新岡字薬師に所在する薬師遺跡より出土した縄文時代晩期および弥生時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2　試料と方法

分析対象は、縄文時代晩期および弥生時代前期の黒曜石製石器48点である(表1)。

表1　分析対象

分析No.	図番号	整理番号	器種	遺構名	グリッド	ｼﾞｬﾝﾙ	層位	個別番号	重量(g)	時期
1	図206-6	784	二次加工剥片	SX06	Ⅲk-67	－	弥包	S-18	3.2	弥生時代（五所式）
2	図206-7	785	剥片	SX06	Ⅲj-63	－	弥包	S-22	0.6	弥生時代（五所式）
3	図206-8	786	剥片	SX06	Ⅲk-67	－	弥包	S-23	1.7	弥生時代（五所式）
4	図206-9	787	剥片	SX06	Ⅲj-63	－	弥包	S-24	1.8	弥生時代（五所式）
5	図206-10	788	剥片	SX06	Ⅲj-63	－	弥包	S-28	7.5	弥生時代（五所式）
6	図なし	789	剥片	SX06	Ⅲg-73	－	弥包	S-29	0.5	弥生時代（五所式）
7	図206-11	790	剥片	SX06	Ⅲj-63	－	弥包	S-35	2.6	弥生時代（五所式）
8	図なし	791	裂片	SX06	Ⅲk-62	－	弥包	S-40	0.6	弥生時代（五所式）
9	図206-12	792	剥片	SX06	Ⅲk-62	－	弥包	S-49	1.9	弥生時代（五所式）
10	図206-13	793	剥片	SX06	Ⅲk-62	－	弥包	S-55	1.3	弥生時代（五所式）
11	図206-14	794	剥片	SX06	Ⅲk-62	－	弥包	S-60	1.6	弥生時代（五所式）
12	図206-15	795	両極石器	SX06	Ⅲk-63	－	弥包	S-69	2.6	弥生時代（五所式）
13	図196-24	867	原石	1mﾚﾝﾁ	Ⅲi-54	a1	－	S-×	273.0	縄文時代晩期
14	図159-11	1177	石鏃	1mﾚﾝﾁ	Ⅲb-53	a1	－	S-×	1.8	縄文時代晩期
15	図160-26	1178	両面加工石器	1mﾚﾝﾁ	Ⅲe-54	a1	－	黒曜石-×	19.1	縄文時代晩期
16	図195-8	1179	縦型石錐	1mﾚﾝﾁ	Ⅲi-54	a1	－	黒曜石-×	13.2	縄文時代晩期
17	図284-4	1182	石鏃	－	Ⅲe-54	－	Ⅰ層	S-×	1.2	縄文時代晩期
18	図146-339	3433	石核	－	Ⅲe-54		包12-B		9.7	縄文時代晩期後半
19	図146-341	3434	石核	－	Ⅲg-54		包12-B下層		68.3	縄文時代晩期後半
20	図146-343	4058	石核		Ⅲb-52		包12-B下層		15.3	縄文時代晩期後半
21	図146-346	4073	原石	横断セク12-1	Ⅲe-52		包12-B上層		28.9	縄文時代晩期後半
22	図146-345	4080	剥片	－	Ⅲe-53		包12-B		28.8	縄文時代晩期後半
23	図146-344	4085	石核	－	Ⅲe-54		包12-B		15.6	縄文時代晩期後半
24	図146-340	4096	石核	－	Ⅲf-53	c3	包12-B下層		26.2	縄文時代晩期後半
25	図146-342	4112	石核	横断セク12-2	Ⅲg-54	bc-1・2	包12-B		19.4	縄文時代晩期後半
26	図174-125	4226	剥片	－	Ⅲi-55		包12-E1		3.9	縄文時代晩期
27	図174-127	4338	原石	横断セク12-3	Ⅲh-55		包12-E2		43.9	縄文時代晩期
28	図174-121	4353	石核	No.3ﾝｾﾀ	Ⅲi-54		包12-E3&4間層		33.0	縄文時代晩期
29	図174-128	4357	原石	－	Ⅲi-54		包12-E4		60.3	縄文時代晩期
30	図174-124	4367	剥片	－	Ⅲi-55		包12-E1		30.3	縄文時代晩期
31	図174-120	4390	石核	No.3ﾝｾﾀ	Ⅲj-55	a1	包12-F1		14.6	縄文時代晩期
32	図174-119	4392	石核	横断ｾｸ12-4	Ⅲj-55		包12-F4		9.5	縄文時代晩期
33	図174-122	4456	石核	－	Ⅲi-56		包12-F1		18.3	縄文時代晩期
34	図174-123	4537	石核	－	Ⅲj-57		包12-F4		22.3	縄文時代晩期
35	図169-31	4558	石鏃	－	Ⅲj-56	b1	包12-G2		4.9	縄文時代晩期
36	図174-126	4565	剥片	－	Ⅲi-55		包12-G1		5.0	縄文時代晩期
37	図186-14	4652	石鏃	横断ｾｸ12-5	Ⅲj-56		包12-H2		1.6	縄文時代晩期
38	図188-55	4705	石核	－	Ⅲk-59		包12-H2		8.2	縄文時代晩期
39	図188-57	4706	剥片	－	Ⅲj-58		包12-H2下層		3.2	縄文時代晩期
40	図188-56	4865	石核	－	Ⅲj-57		包12-H2		29.8	縄文時代晩期
41	図188-58	4881	原石	－	Ⅲj-57		包12-H2		96.0	縄文時代晩期
42	図235-93	5049	石核	－	Ⅲi-55	a3	包13		26.6	縄文時代晩期前半
43	図なし	5050	裂片	－	Ⅲj-54	a4	包13		1.0	縄文時代晩期前半
44	図235-97	5051	裂片	－	Ⅲj-59		包13		3.8	縄文時代晩期前半
45	図235-94	5052	裂片	－			包13		3.7	縄文時代晩期前半
46	図235-95	5284	石核	横断ｾｸ12-3	Ⅲh-55		包13		28.0	縄文時代晩期前半
47	図235-96	5296	石核		Ⅲi-55		包13		14.0	縄文時代晩期前半
48	図211-14	5582	石鏃	－	Ⅲg-53		包11		1.6	縄文時代晩期後半以降

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管ターゲットはロジウム（Rh）、Ｘ線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径８㎜、電圧50kV、電流1000μＡ、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光Ｘ線分析によるＸ線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月，1999など）。本方法では、まず各試料を蛍光Ｘ線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム（K）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の合計７元素のＸ線強度（cps：count per second）について、以下に示す指標値を計算する。

１）Rb分率=Rb強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）

２）Sr分率=Sr強度×100/（Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度）

３）Mn強度×100/Fe強度

４）log（Fe強度/K強度）

そして、これらの指標値を用いた２つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log（Fe強度/K強度）の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光Ｘ線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響を免れないといわれる（望月，1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、log（Fe強度/K強度）の値が減少する。また、風化試料の場合でも、log（Fe強度/K強度）の値が減少する（望月，1999）。そのため、試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選んだ。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

表２　北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)、赤石山山頂、八号沢露頭、八号沢露頭、十勝三股(4) タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)
		白滝2	7の沢川支流(2)、IK露頭(10)、十勝石沢露頭底下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	赤川・土木川(24)
	上士幌	上士幌	
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊浦(10)
	旭川	旭川	近文台(8)、南裏谷(2)
	名寄	名寄	忠烈布川 (19)
	秩父別	秩父別1	中山(66)
		秩父別2	
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
	留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)
		留辺蘂2	
	釧路	釧路	釧路市宮文キー番(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)
	深浦	八森山	岡崎真子(7)、八森山公園(8)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居2	木沢区折居(9)
山形	月山	月山	月山荘前(10)
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
仙台		秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
	塩竈	塩竈	塩竈(10)

図１　北海道・東北地方の黒曜石原石採取地の分布図

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表２に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

３　分析結果および考察

表３に石器の測定値および算出した指標値を、図２と図３に黒曜石原石の判別図に石器48点の指標値をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。分析の結果、44点が出来島群、３点（分析No.39、44、45）が八森山群、１点（分析No.48）が白滝２群の範囲にプロットされた。表３に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

縄文時代晩期の石器は、縄文時代晩期の分析No.39と縄文時代晩期前半の分析No.44、45の３点は八森山群、縄文時代晩期後半以降の分析No.48は白滝2群であった。これら以外は出来島群であった。弥生時代の石器は、いずれも出来島群であった。

４　おわりに

薬師遺跡出土の縄文時代晩期および弥生時代前期の黒曜石製石器48点について、蛍光Ｘ線分析による産地推定を行った結果、44点が木造、３点が深浦、１点が白滝エリア産と推定された。

【引用・参考文献】

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書２　―上和田城山遺跡篇―」: 172-179．大和市教育委員会．

望月明彦（2004）用田大河内遺跡出土黒曜石の産地推定．かながわ考古学財団編「用田大河内遺跡」: 511-517．かながわ考古学財団．

表３　測定値および産地推定結果

分析No.	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	Mn*100/Fe	Sr分率	log Fe/k	判別群
1	214.9	163.3	1241.8	447.6	501.5	309.8	572.3	24.44	13.15	27.39	0.76	出来島
2	218.1	171.2	1357.3	449.8	480.7	292.9	558.7	25.24	12.62	26.97	0.79	出来島
3	172.7	132.2	1049.3	371.5	387.8	245.3	454.7	25.46	12.60	26.58	0.78	出来島
4	196.8	151.6	1185.8	425.1	497.0	298.1	577.9	23.64	12.79	27.64	0.78	出来島
5	258.6	191.9	1494.1	521.3	629.2	361.6	663.6	23.96	12.85	28.92	0.76	出来島
6	68.4	54.3	443.9	135.1	146.2	89.9	157.4	25.56	12.22	27.66	0.81	出来島
7	207.2	157.8	1209.9	443.1	501.3	308.6	578.8	24.19	13.05	27.37	0.77	出来島
8	211.6	168.7	1366.5	461.0	522.9	313.0	591.1	24.42	12.34	27.69	0.81	出来島
9	230.9	178.4	1388.3	475.2	519.9	321.8	582.8	25.02	12.85	27.37	0.78	出来島
10	218.8	168.9	1325.4	471.6	547.5	322.5	596.1	24.34	12.74	28.25	0.78	出来島
11	233.7	178.0	1385.8	483.7	560.2	333.1	623.8	24.18	12.85	28.00	0.77	出来島
12	226.8	176.7	1364.7	487.2	536.2	334.6	610.6	24.75	12.95	27.24	0.78	出来島
13	204.1	161.6	1304.2	420.3	484.6	291.9	543.0	24.16	12.39	27.85	0.81	出来島
14	105.5	81.5	664.8	223.6	241.2	149.2	266.4	25.40	12.26	27.40	0.80	出来島
15	209.0	155.9	1224.6	424.3	472.1	299.0	550.5	24.30	12.73	27.04	0.77	出来島
16	222.1	166.2	1307.1	460.6	508.1	321.5	601.3	24.35	12.71	26.86	0.77	出来島
17	186.2	139.9	1119.6	374.4	404.0	252.5	464.6	25.03	12.49	27.02	0.78	出来島
18	201.5	152.0	1211.6	389.7	432.1	266.8	488.4	24.71	12.54	27.40	0.78	出来島
19	161.5	109.2	854.7	307.9	386.4	222.3	434.3	22.79	12.77	28.60	0.72	出来島
20	236.7	179.0	1416.2	476.5	538.0	329.0	595.3	24.58	12.64	27.75	0.78	出来島
21	201.1	151.3	1180.0	426.0	484.9	298.3	547.5	24.25	12.82	27.60	0.77	出来島
22	158.6	117.2	924.7	319.7	356.1	226.9	419.4	24.18	12.68	26.94	0.77	出来島
23	247.2	189.3	1488.5	446.3	482.4	294.1	539.0	25.33	12.72	27.38	0.78	出来島
24	228.4	170.6	1354.8	476.9	557.2	329.3	651.4	23.67	12.59	27.66	0.77	出来島
25	235.1	177.9	1388.1	490.2	534.8	336.6	638.0	24.52	12.81	26.75	0.77	出来島
26	253.6	190.8	1518.8	496.4	547.5	339.5	620.1	24.78	12.56	27.33	0.78	出来島
27	125.0	89.4	687.8	255.3	300.3	187.2	354.5	23.27	13.00	27.37	0.74	出来島
28	213.8	157.1	1221.1	424.2	483.6	298.8	548.6	24.17	12.86	27.55	0.76	出来島
29	242.4	181.3	1386.7	505.7	565.6	351.2	642.5	24.49	13.07	27.39	0.76	出来島
30	194.4	146.5	1145.8	394.0	453.5	277.7	516.5	24.00	12.79	27.62	0.77	出来島
31	262.8	198.3	1521.2	523.7	578.7	359.4	652.1	24.77	13.04	27.38	0.76	出来島
32	236.6	179.2	1404.5	457.4	529.3	304.1	559.2	24.72	12.76	28.61	0.77	出来島
33	184.6	139.1	1100.4	348.5	388.1	244.2	455.8	24.26	12.64	27.01	0.78	出来島
34	221.9	165.8	1291.7	458.7	509.2	319.2	586.3	24.48	12.84	27.18	0.77	出来島
35	235.7	178.6	1388.7	499.7	560.1	347.3	646.3	24.33	12.86	27.28	0.77	出来島
36	160.2	124.3	959.7	329.6	403.7	231.3	438.4	23.49	12.95	28.78	0.78	出来島
37	222.2	162.2	1249.7	459.4	508.8	323.5	613.3	24.12	12.98	26.71	0.75	出来島
38	239.2	183.6	1426.3	460.9	514.5	312.1	592.4	24.52	12.87	27.37	0.78	出来島
39	182.5	71.9	2552.3	343.5	42.1	307.9	2013.8	12.69	2.82	1.55	1.15	八森山
40	226.6	171.9	1312.6	451.8	529.0	315.1	598.0	23.85	13.10	27.93	0.76	出来島
41	154.6	115.6	897.5	314.3	342.1	222.5	414.0	24.31	12.88	26.46	0.76	出来島
42	210.8	157.1	1214.2	414.1	444.3	279.3	512.8	25.09	12.94	26.92	0.76	出来島
43	246.0	187.0	1466.9	509.0	598.9	346.3	676.5	23.89	12.75	28.11	0.78	出来島
44	233.6	84.7	2963.7	489.1	58.1	447.1	2930.6	12.46	2.86	1.48	1.10	八森山
45	234.7	92.1	3091.7	475.7	62.3	436.1	2912.1	12.24	2.98	1.60	1.12	八森山
46	277.7	212.3	1611.1	558.2	610.0	376.5	688.5	25.00	13.18	27.31	0.76	出来島
47	232.6	171.2	1351.2	440.6	487.9	301.8	549.9	24.75	12.67	27.41	0.76	出来島
48	312.5	102.6	1992.6	1001.6	114.1	467.7	632.1	45.21	5.15	5.15	0.80	白滝2

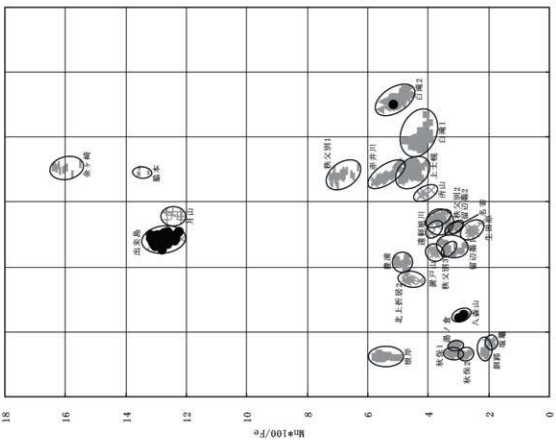


図2　黒曜石産地推定判別図（1）

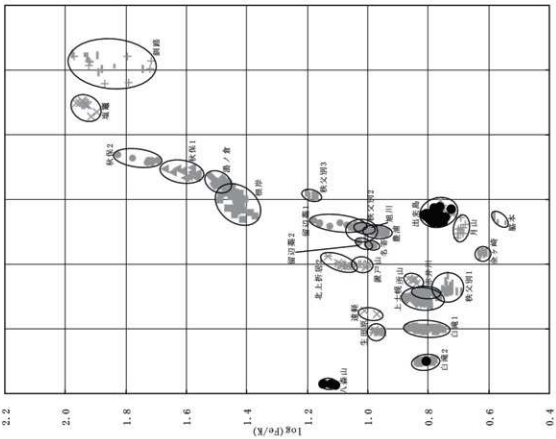


図3　黒曜石産地推定判別図（2）

第８節　玉類の分析

１　SK05出土玉類の成分分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１　はじめに

薬師遺跡は、弘前市の岩木山東南斜面裾野の丘陵地上に位置し、縄文時代晩期および平安時代の遺構・遺物、縄文時代前期末～中期初頭の遺物が出土した遺跡である。調査では、土坑（SK05）から玉類が出土した。ここでは、この玉類の成分を調べるために非破壊による蛍光Ｘ線分析を行った。

２　試料と方法

試料は、SK05から出土した玉類2点である（表１）。試料No.1（図61-14）は、緑灰色～白色の軟質で不均質な凝灰岩質の玉である。また、試料No.2（図61-13）は、緑色～灰色の硬質で不均質な翡翠質の玉である。なお、この土坑の時期は縄文時代晩期前半である。

表１　元素マッピング分析を行った玉類とその特徴

試料No.	遺物名	出土遺構	時期	表面の特徴	分析
1	凝灰岩質玉	SK05	縄文時代晩期前半	緑灰色～白色	元素マッピングによる成分分析
2	翡翠質玉			緑色～灰色	元素マッピングによる成分分析

分析は、正面および側面について元素マッピングを行った後、代表的な部分（平均的部分や鉄（Fe）マッピング画像の濃度の高い位置等）を複数ヵ所選定して点分析を行った。測定は、Ｘ線分析顕微鏡（㈱堀場製作所製XGT-5000 TypeⅡ）を用いた。元素マッピングの測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000secである。点分析の測定条件は、Ｘ線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP（ファンダメンタルパラメータ）法で半定量分析を行った。

３　結果および考察

試料No.1（凝灰岩質玉）の元素マッピング分析では、鉄（Fe）が不均一な分布で（図版１-1e, 2a）、カリウム（K）とカルシウム（Ca）およびチタン（Ti）が若干不均一な分布を示した（図版１-1b, 1c, 1d）。点分析では、ケイ素（SiO_2）が最大66.16%、アルミニウム（Al_2O_3）が最大16.14%、カリウム（K_2O）が最大7.35%、カルシウム（CaO）が最大4.07%、鉄（Fe_2O_3）が最大19.83%であった。なお、ナトリウム（Na_2O）は感度が悪いため参考値である（表２）。化学組成では、この岩石の成分はデイサイト質の凝灰岩であった。

試料No.2（翡翠質玉）の元素マッピング分析では、鉄（Fe）が不均一な分布で（図版２-1e, 2a）、カリウム（K）とカルシウム（Ca）およびクロム（Cr）が若干不均一な分布を示した（図版２-1b, 1c, 1d）。点分析では、ケイ素（SiO_2）が最大51.26%、アルミニウム（Al_2O_3）が最大30.08%、カリウム（K_2O）が最大12.95%、カルシウム（CaO）が最大0.57%、鉄（Fe_2O_3）が最大5.58%、クロム（Cr_2O_3）が最大0.79%であった。なお、ナトリウム（Na_2O）は感度が悪いため参考値である（表２）。

この緑色系の玉の化学組成は、主な成分がケイ素とアルミニウム、カリウム、マグネシウムであり、鉄とクロムが不均一に含まれていた。

翡翠（Jadeite）は、化学式Na（AlFe+3）Si_2O_6で示され（牧野，1998）、鉄やケイ素以外ではナトリウムが特徴的である。一方、緑色系石材の軟玉として知られるアクチノ閃石（Actunolite）は、化学式$Ca_2(Mg,Fe^{+2})_5Si_8O_{22}(OH)_2$で示され（牧野，1998）、鉄やケイ素以外ではカルシウムやマグネシウムが特徴的に含まれる。また、マグネシウムを特徴的に含む蛇紋石（Serpentinite）は、$(Mg,Fe^{+2},Ni)_3SiO_5(OH)_4$で示される。ただし、対象とした玉は、翡翠やアクチノ閃石あるいは蛇紋石のいずれの化学組成とも一致しない。

試料No.2の玉は、実体顕微鏡による表面の質感から軟質の石材と考えられるが、蛍光X線分析による化学組成では特定の鉱物として同定することができなかった。

表2　玉類の点分析結果（単位%）

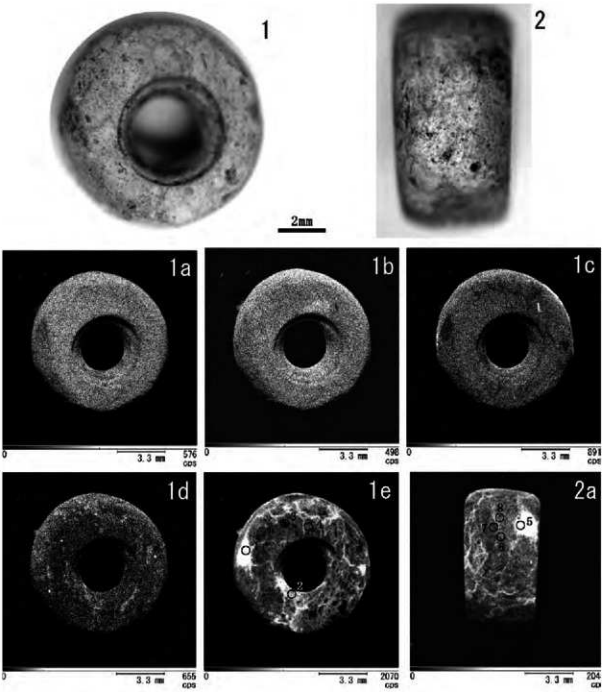
試料No.	点No.	断面位置	対象	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	Fe_2O_3	NiO	CuO	Mn_2O	ZnO	Total
No.1 緑色系石材	1	正面	鉄+ch	5.39	3.89	12.97	49.06	5.54	1.40	1.51	0.00	19.83	0.01	0.02	0.07	0.30	99.99
	2		鉄+ch	5.84	6.79	15.87	56.16	6.07	3.77	2.33	0.00	7.87	0.00	0.03	0.00	0.41	100.00
	3		団部	6.60	6.92	14.52	65.33	7.35	3.78	0.40	0.00	0.62	0.00	0.02	0.03	0.44	100.01
	4	側面		8.44	6.00	12.99	63.76	6.60	3.19	1.17	0.00	3.52	0.00	0.03	0.03	0.28	100.00
	5		鉄+ch	0.00	4.66	16.14	53.19	5.48	2.39	1.28	0.00	16.48	0.00	0.02	0.06	0.30	100.00
	6		団部	6.29	6.00	14.42	63.45	5.67	3.73	1.23	0.00	4.00	0.00	0.02	0.03	0.36	100.00
	7		団部	6.58	6.00	13.46	64.99	6.76	3.90	0.96	0.00	2.99	0.00	0.02	0.03	0.40	99.99
	8			4.14	1.22	14.66	66.16	6.28	4.07	1.00	0.00	2.15	0.00	0.01	0.03	0.35	100.01
	最小値			0.00	0.00	12.97	49.06	5.48	1.40	0.40	0.00	0.62	0.00	0.01	0.03	0.28	
	最大値			8.44	4.66	16.14	66.16	7.35	4.07	2.33	0.00	19.83	0.01	0.03	0.07	0.44	
No.2 蛇紋岩質石	1	正面		0.00	5.03	28.93	36.27	11.43	0.26	0.19	0.00	2.96	0.04	0.01	0.06	0.01	100.01
	2		鉄+ch	0.72	26.40	22.05	36.38	2.44	0.37	0.40	0.20	5.58	0.05	0.00	0.04	0.00	100.00
	3		鉄+ch	3.23	18.27	25.96	42.44	5.26	0.11	0.00	0.00	4.51	0.04	0.02	0.07	0.02	100.02
	4	側面		0.00	3.81	30.08	51.26	12.27	0.31	0.25	0.02	1.90	0.01	0.03	0.06	0.01	100.01
	5		鉄+ch	0.00	7.91	26.83	49.65	10.55	0.32	0.33	0.79	3.49	0.04	0.01	0.08	0.01	99.99
	6		鉄+ch	0.00	6.77	28.29	50.15	10.00	0.32	0.21	0.60	3.22	0.02	0.02	0.06	0.01	100.00
	7		鉄+ch	3.65	9.98	28.48	45.90	8.34	0.14	0.10	0.01	3.22	0.02	0.02	0.05	0.01	100.00
	8			0.00	4.29	29.03	50.83	12.95	0.28	0.28	0.00	2.28	0.02	0.01	0.07	0.01	99.99
	最小値			0.00	3.81	22.05	36.38	2.44	0.11	0.00	0.00	1.90	0.01	0.00	0.04	0.00	
	最大値			3.72	26.40	30.08	51.26	12.95	0.37	0.40	0.79	5.58	0.05	0.03	0.07	0.02	

4　おわりに

縄文時代晩期前半の土坑であるSK05から出土した玉類2点について非破壊による蛍光X線分析を行い、成分を調べた。その結果、試料No.1の玉がデイサイト質凝灰岩製の石材、試料No.2は軟質の石材と考えられる。試料No.2の玉は、実体顕微鏡による表面の質感から軟質石材と考えられるが、蛍光X線分析による化学組成では鉱物を同定することができなかった。なお、元素マッピングにおいて鉄とクロムが不均一な分布を示した。

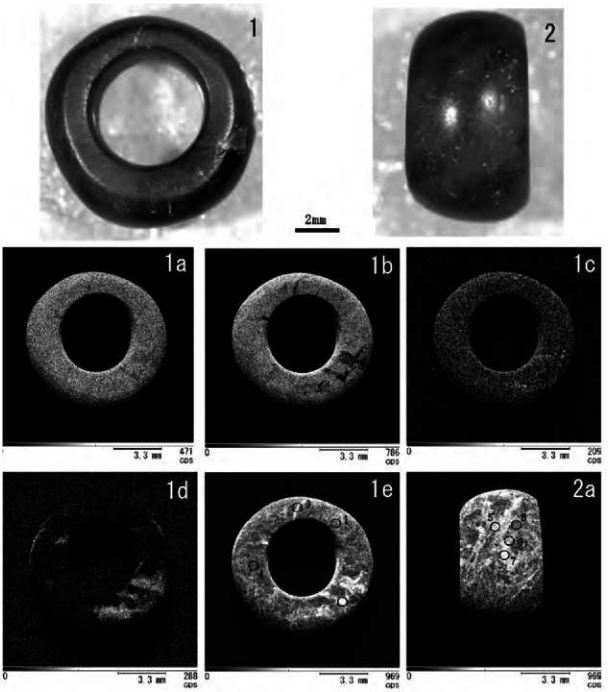
【参考・引用文献】

黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物 第2版．343p．共立出版．
牧野和孝（1998）鉱物資源百科事典．1390p．日刊工業新聞社．



図版１　SK05出土玉（試料No.１）と元素マッピング図（○は点分析の位置）

1. 元素マッピング分析を行った正面　2. 元素マッピング分析を行った側面　1a. 正面のアルミニウム(Al)マッピング図
1b. 正面のカリウム(K)マッピング図　1c. 正面のカルシウム(Ca)マッピング図　1d. 正面のチタン(Ti)マッピング図
1e. 正面の鉄(Fe)マッピング図　2a. 側面の鉄(Fe)マッピング図



図版２　SK05出土玉(試料No.2)と元素マッピング図(○は点分析の位置)

1. 元素マッピング分析を行った正面　2. 元素マッピング分析を行った側面　1a. 正面のケイ素(Si)マッピング図
1b. 正面のカリウム(K)マッピング図　1c. 正面のカルシウム(Ca)マッピング図　1d. 正面のクロム(Cr)マッピング図
1e. 正面の鉄(Fe)マッピング図　2c. 側面の鉄(Fe)マッピング図

2　薬師遺跡出土玉類の石材同定

藤根　久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1　はじめに

弘前市新岡薬師に所在する薬師遺跡の調査では、縄文時代晩期から弥生時代の土坑などから石質の玉類が出土した。ここでは、これら玉類について肉眼観察および蛍光Ｘ線分析を行い、石材について検討した。

2　試料と方法

試料は、縄文時代晩期から弥生時代にかけての石質玉類39点である（表１）。縄文時代晩期の試料は、土坑から出土した玉類19点と包含層から出土した玉類6点である。弥生時代の試料は、遺構から出土した玉類５点と包含層から出土した玉１点である。なお、分析No.20、29、30の玉とNo.26の管玉は縄文時代晩期以降、分析No.28と39の玉は時期不明である。

表１　石材分析を行った玉類

分析No.	図番号	整理番号	器種	備考	遺構名	時期	グリッド	小グリッド	層位	個別番号	重量(g)
1	図62-7	石-064	玉		SK23	縄文時代晩期	－	－	底面	玉-×	0.1以下
2	図62-8	石-065	玉		SK26		－	－	覆土	玉-1	0.1以下
3	図62-9	石-066	玉		SK26		－	－	覆土	玉-2	0.1以下
4	図62-10	石-067	玉		SK26		－	－	覆土	玉-3	0.1以下
5	図62-11	石-068	玉		SK26		－	－	覆土	玉-4	0.1以下
6	図62-12	石-069	玉		SK26		－	－	覆土	玉-5	0.1以下
7	図62-13	石-072	玉		SK26		－	－	床直	玉-7	0.1以下
8	図62-14	石-075	玉		SK26		－	－	床面	玉-10	0.1以下
9	図だし	石-082	玉		SK26		－	－	床直	玉-13	0.1以下
10	図62-15	石-083	玉		SK26		－	－	床直	玉-14	0.1以下
11	図62-16	石-084	玉		SK26		－	－	床直	玉-15	0.1以下
12	図62-17	石-085	玉		SK26		－	－	床直	玉-16	0.1以下
13	図62-18	石-087	玉		SK26		－	－	床直	玉-18	0.1以下
14	図62-19	石-088	玉		SK26		－	－	床直	玉-19	0.1以下
15	図62-20	石-089	玉		SK26		－	－	床面	玉-20	0.1以下
16	図62-21	石-093	玉		SK26		－	－	覆土下	玉-×	0.1以下
17	図62-22	石-094	玉		SK26		－	－	覆土下	玉-×	0.1以下
18	図62-24	石-098	玉		SK26		－	－	覆土下	玉-×	0.1
19	図207-25	石-099	玉		SX06	弥生時代	IIIK-64	b4	弥包	玉-14	0.4
20	図285-32	石-100	玉		－	縄文時代晩期以降	IIIC-53	－	1層	玉-×	7.7
21	図207-26	石-101	玉		SX06	弥生時代	－	－	弥包	玉-10	0.4
22	図66-8	石-102	管玉		SK58	縄文時代晩期	－	－	覆土下位	玉-1	4.7
23	図207-22	石-103	管玉		SX06	弥生時代	－	－	弥包	玉-7	1.9
24	図207-23	石-104	管玉		SX06		－	－	弥包	玉-8	3.0
25	図207-24	石-105	管玉		SX06		－	－	弥包	玉-9	3.3
26	図213-45	石-106	管玉		トレンチ内	縄文時代晩期以降	IIIJ-63	－	包1	玉-2	2.6
27	図207-21	石-107	管玉		－	縄文時代晩期	IIIK-66	c1	－	玉-4	2.4
28	図287-29	石-108	玉		－	不明	IIIK-65	－	ｻﾌﾞﾙｾﾀﾗﾝ	玉-1	0.3
29	図213-42	石-109	玉		－	縄文時代晩期以降	IIIH-53	－	包1	玉-5	0.3
30	図213-43	石-110	玉		－	縄文時代晩期以降	IIIH-53	－	包1	玉-6	0.2
31	図121-29	石-339	玉			弥生時代	IIIG-54	a・b　3～4	包2-A直下	40	1.4
32	図158-38	石-340	玉	片面穿孔	ﾍﾟﾄ	縄文時代晩期後半	IIIF-53		間		0.5
33	図158-6	石-364	玉			縄文時代晩期後半	IIIF-54		包2-B		0.5
34	図158-23	石-443	玉				IIIG-54	b1	包2-B上	50	1.2
35	図158-28	石-444	玉				IIIE-52	c4	包2-B	49	0.8
36	図158-57	石-475	玉材				IIID-52		包2-B下		13.0
37	図158-58	石-476	玉材				IIIF-54	b3	包2-B上		13.6
38	図158-34	石-477	玉				IIIE-53		包2-B	13	1.1
39	図80-6	レ-028	玉の原石		SP11	不明			覆土	S-2	145.7

分析は、あらかじめ実体顕微鏡を用いて鉱物学的特徴や組織あるいは色調等を観察した。この玉類の典型的な部分について、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計を用いて非破壊で測定した。

分析は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計

SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000μAのロジウム（Rh）ターゲット、X線照射径が８mmまたは１mm、X線検出器はSDD検出器である。

この装置は、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、ナトリウムやマグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）といった軽元素は、蛍光X線分析装置の性質上若干検出感度が低い。測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタPb測定用・Cd測定用）の計３条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径８mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

３　結　　果

肉眼観察による鉱物学的特徴や組織および蛍光X線分析による化学組成から、各玉類の岩石を同定した。表２に蛍光X線分析による化学組成を示し、表３に肉眼観察による鉱物学的特徴や組織を示す。なお、蛍光X線分析による分析値は、X線照射径が直径８mmであるため、平均的な組成値を示す。

表２　玉類の半定量分析結果（重量%）

分析No.	試料名	種別番号	種類	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	SO3	Cl	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	CoO	ZnO	Ga2O3	As2O3	Br	Rb2O	SrO	ZrO2	SnO	PbO	total
1	2DC-1	E-064	玉	1.51	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	0.01	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.01
2	2DC-2	E-065	玉	1.48	1.99	56.19	1.91	－	0.09	4.38	0.55	0.03	0.02	－	－	0.01	－	－	－	－	0.01	0.79	－	0.04	0.04	100.00
3	2DC-3	E-066	玉	1.49	10.46	45.76	5.63	－	0.36	4.39	0.56	0.04	0.02	－	－	－	－	－	－	－	0.03	0.43	－	0.04	0.04	100.00
4	2DC-4	E-067	玉	1.52	13.72	42.67	5.32	－	0.43	3.74	0.55	0.03	0.04	2.53	0.01	0.01	－	0.01	－	－	0.03	0.38	－	0.04	0.02	99.99
5	2DC-5	E-068	玉	1.49	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	0.01	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
6	2DC-6	E-069	玉	0.63	11.71	11.84	5.96	－	1.39	7.14	0.23	0.04	0.06	3.03	－	0.01	－	－	－	－	0.01	0.73	－	0.06	1.07	100.02
7	2DC-7	E-070	玉	0.61	11.71	11.84	5.77	－	1.27	6.99	0.23	0.04	0.06	3.03	－	－	－	－	－	－	0.01	0.73	－	0.06	1.07	100.00
8	2DC-8	E-071	玉	0.31	10.46	12.89	1.95	－	1.39	6.99	0.09	0.03	0.02	1.96	－	－	－	－	－	－	0.04	1.39	－	0.10	1.39	0.01 100.00
9	2DC-9	E-072	玉	0.31	10.46	12.89	1.95	－	1.39	6.99	0.09	0.03	0.02	1.96	－	－	－	－	－	－	0.04	1.39	－	0.10	1.39	100.00
10	2DC-10	E-073	玉	1.48	17.09	40.75	1.93	0.37	0.33	4.38	0.55	0.03	0.01	0.10	1.96	0.01	－	－	－	－	0.02	0.44	－	0.04	0.02	100.00
11	2DC-11	E-074	玉	1.48	17.09	40.75	5.09	－	0.34	3.32	0.22	0.03	0.04	1.53	－	－	－	－	－	－	0.02	0.44	－	0.06	1.30	100.01
12	2DC-12	E-075	玉	1.51	10.46	45.76	5.63	0.34	0.36	4.39	0.56	0.04	0.02	1.96	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.43	－	0.04	0.04	100.00
13	2DC-13	E-076	玉	0.63	11.71	11.84	5.77	－	1.27	6.99	0.23	0.04	0.06	3.03	－	－	－	－	－	－	0.01	0.73	－	0.06	1.07	100.00
14	2DC-14	E-077	玉	1.48	17.09	40.75	1.93	0.37	0.33	4.38	0.55	0.03	0.01	0.10	1.96	0.01	－	－	－	－	0.02	0.44	－	0.04	0.02	100.00
15	2DC-15	E-078	玉	1.49	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	0.01	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
16	2DC-16	E-079	玉	1.48	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	－	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
17	2DC-17	E-080	玉	1.48	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	－	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
18	2DC-18	E-081	玉	1.51	10.46	45.76	5.63	0.34	0.36	4.39	0.56	0.04	0.02	1.96	－	－	－	－	－	－	0.03	0.43	－	0.04	0.04	100.00
19	2DC-19	E-082	玉	1.51	11.95	44.32	1.91	0.37	0.36	3.90	0.55	0.04	0.03	0.51	－	－	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	0.01 100.01
20	2DC-20	E-083	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.03	0.51	－	0.01	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	100.01
21	2DC-21	E-084	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.03	0.51	－	0.01	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	100.01
22	2DC-22	E-085	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	0.37	0.34	3.93	0.56	0.04	0.03	0.51	－	0.01	0.01	－	－	－	0.03	0.45	－	0.06	1.23	100.00
23	2DC-23	E-086	玉	1.49	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	－	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
24	2DC-24	E-087	玉	1.51	10.46	45.76	5.63	0.34	0.36	4.39	0.56	0.04	0.02	1.96	－	－	－	－	－	－	0.03	0.43	－	0.04	0.04	100.00
25	2DC-25	E-088	玉	1.48	10.46	45.76	5.29	－	0.49	4.39	0.55	0.04	0.01	0.10	1.96	－	－	－	－	－	0.02	0.42	－	0.03	0.05	100.00
26	2DC-26	E-089	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	0.37	0.36	3.90	0.55	0.04	0.03	0.51	－	－	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	100.00
27	2DC-27	E-090	玉	1.51	10.46	45.76	5.63	0.34	0.36	4.39	0.56	0.04	0.02	1.96	－	－	－	－	－	－	0.03	0.43	－	0.04	0.04	100.00
28	2DC-28	E-091	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	0.37	0.36	3.90	0.55	0.04	0.03	0.51	－	－	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	100.00
29	2DC-29	E-092	玉	1.48	11.95	44.32	1.91	0.37	0.36	3.90	0.55	0.04	0.03	0.51	－	－	－	－	－	－	0.02	0.46	－	0.06	1.23	100.00
30	2DC-30	E-093	玉	1.48	11.71	46.75	5.49	0.33	0.33	4.38	0.55	0.04	0.02	1.96	－	0.01	－	－	－	－	0.03	0.44	－	0.03	0.04	100.00
31	2DC-31	E-094	玉	0.19	9.46	51.73	5.72	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	－	0.01	0.08	－	100.00
32	2DC-32	E-095	管玉	0.19	9.46	51.73	5.72	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	－	0.01	0.08	－	100.00
33	2DC-33	E-096	管玉	0.19	9.46	51.73	5.72	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	－	0.01	0.08	－	100.00
34	2DC-34	E-097	管玉	0.37	9.96	51.93	5.32	0.06	0.35	0.01	0.14	0.01	－	1.70	－	－	－	－	－	－	0.02	－	0.01	0.02	0.06	100.01
35	2DC-35	E-098	管玉	－	6.69	64.11	5.32	0.07	0.12	0.04	0.13	0.01	－	1.13	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－	0.02	0.06	100.00
36	2DC-36	E-099	管玉	0.44	9.96	51.93	5.32	0.06	0.35	0.01	0.14	0.01	－	1.70	－	0.01	－	－	－	－	0.02	0.37	－	0.02	0.05	100.00
37	2DC-37	E-100	玉	－	9.07	25.15	5.32	0.07	0.27	0.01	0.13	0.01	0.02	－	－	－	－	－	－	－	0.01	－	－	0.01	0.02	100.00
38	2DC-38	E-101	玉	1.50	11.53	42.95	5.41	0.34	0.39	1.53	0.45	0.03	0.11	0.96	－	0.01	－	－	－	－	0.04	0.35	－	0.04	1.95	0.01 100.00
39	2DC-39	E-102	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
40	2DC-40	E-103	玉	0.76	11.11	31.36	5.69	－	0.37	3.98	0.22	0.03	0.08	4.51	－	－	－	－	－	－	0.01	0.90	－	0.04	1.14	99.99
41	2DC-41	E-104	玉	0.76	10.37	45.56	5.56	0.37	0.14	0.38	0.45	0.03	0.08	0.40	－	－	－	－	－	－	0.02	0.35	－	0.03	0.05	99.99
42	2DC-42	E-105	玉	0.37	14.16	51.42	5.69	0.37	1.44	0.33	0.38	0.03	0.10	10.20	0.01	0.04	0.01	－	－	－	0.01	0.45	－	0.03	0.29	100.01
43	2DC-43	E-106	玉	0.37	14.16	51.42	5.69	0.37	1.44	0.33	0.38	0.03	0.10	10.20	0.01	0.04	0.01	－	－	－	0.01	0.45	－	0.03	0.29	100.00
44	2DC-44	E-107	玉	1.51	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.08	0.40	－	0.01	－	－	－	－	0.02	0.35	－	0.03	0.05	100.00
45	2DC-45	E-108	玉	1.50	11.53	42.95	5.41	0.34	0.39	1.53	0.45	0.03	0.11	0.96	－	0.01	－	－	－	－	0.04	0.35	－	0.04	1.95	0.01 100.00
46	2DC-46	E-109	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
47	2DC-47	E-110	玉	0.76	11.11	31.36	5.69	－	0.37	3.98	0.22	0.03	0.08	4.51	－	－	－	－	－	－	0.01	0.90	－	0.04	1.14	99.99
48	2DC-48	E-111	玉	0.76	10.37	45.56	5.56	0.37	0.14	0.38	0.45	0.03	0.08	0.40	－	－	－	－	－	－	0.02	0.35	－	0.03	0.05	99.99
49	2DC-49	E-112	玉	0.37	14.16	51.42	5.69	0.37	1.44	0.33	0.38	0.03	0.10	10.20	0.01	0.04	0.01	－	－	－	0.01	0.45	－	0.03	0.29	100.01
50	2DC-50	E-113	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
51	2DC-51	E-114	玉	1.50	11.53	42.95	5.41	0.34	0.39	1.53	0.45	0.03	0.11	0.96	－	0.01	－	－	－	－	0.04	0.35	－	0.04	1.95	0.01 100.00
52	2DC-52	E-115	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
53	2DC-53	E-116	玉	0.76	11.11	31.36	5.69	－	0.37	3.98	0.22	0.03	0.08	4.51	－	－	－	－	－	－	0.01	0.90	－	0.04	1.14	99.99
54	2DC-54	E-117	玉	0.76	10.37	45.56	5.56	0.37	0.14	0.38	0.45	0.03	0.08	0.40	－	－	－	－	－	－	0.02	0.35	－	0.03	0.05	99.99
55	2DC-55	E-118	玉	0.37	14.16	51.42	5.69	0.37	1.44	0.33	0.38	0.03	0.10	10.20	0.01	0.04	0.01	－	－	－	0.01	0.45	－	0.03	0.29	100.01
56	2DC-56	E-119	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
57	2DC-57	E-120	玉	1.50	11.53	42.95	5.41	0.34	0.39	1.53	0.45	0.03	0.11	0.96	－	0.01	－	－	－	－	0.04	0.35	－	0.04	1.95	0.01 100.00
58	2DC-58	E-121	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
59	2DC-59	E-122	玉	0.76	11.11	31.36	5.69	－	0.37	3.98	0.22	0.03	0.08	4.51	－	－	－	－	－	－	0.01	0.90	－	0.04	1.14	99.99
60	2DC-60	E-123	玉	0.76	10.37	45.56	5.56	0.37	0.14	0.38	0.45	0.03	0.08	0.40	－	－	－	－	－	－	0.02	0.35	－	0.03	0.05	99.99
61	2DC-61	E-124	玉	0.37	14.16	51.42	5.69	0.37	1.44	0.33	0.38	0.03	0.10	10.20	0.01	0.04	0.01	－	－	－	0.01	0.45	－	0.03	0.29	100.01
62	2DC-62	E-125	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
63	2DC-63	E-126	玉	1.50	11.53	42.95	5.41	0.34	0.39	1.53	0.45	0.03	0.11	0.96	－	0.01	－	－	－	－	0.04	0.35	－	0.04	1.95	0.01 100.00
64	2DC-64	E-127	玉	1.50	10.37	45.56	5.44	0.39	0.14	0.38	0.45	0.03	0.07	0.51	0.01	0.01	－	－	－	－	0.03	0.31	－	0.04	0.05	100.00
65	2DC-65	E-128	玉	－	9.46	45.73	5.29	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	0.42	－	0.03	0.05	100.00
66	2DC-66	E-129	玉	－	9.46	45.73	5.29	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	0.42	－	0.03	0.05	100.00
67	2DC-67	E-130	玉	－	9.46	45.73	5.29	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	0.42	－	0.03	0.05	100.00
68	2DC-68	E-131	玉	－	9.46	45.73	5.29	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	0.42	－	0.03	0.05	100.00
69	2DC-69	E-132	玉	－	9.46	45.73	5.29	0.59	0.34	0.07	0.55	0.01	0.01	－	－	－	－	－	－	－	0.01	0.42	－	0.03	0.05	100.00

肉眼観察の特徴から、凝灰岩は、分析No.1（石-064）と、分析No.2（石-065）、分析No.3（石-066）、分析No.4（石-067）、分析No.5（石-068）、分析No.6（石-069）、分析No.7（石-072）、分析No.8（石-075）、分析No.9（石-082）、分析No.10（石-083）、分析No.11（石-084）、分析No.12（石-085）、分析No.13（石-087）、分析No.14（石-088）、分析No.15（石-089）、分析No.16（石-093）、分析No.17（石-094）、分析No.18（石-098）、分析No.19（石-099）、分析No.21（石-101）、分析No.26（石-106）、分析No.29（石-109）、分析No.30（石-110）、分析No.31（石-339）、分析No.32（石-340）、分析No.33（石-364）、分析No.34（石-443）、分析No.35（石-444）、分析No.38（石-477）の29点である。なお、分析No.26（石-106）と分析No.29（石-109）は細粒凝灰岩である。

同様に碧玉は、分析No.22（石-102）と、分析No.23（石-103）、分析No.24（石-104）、分析No.25（石-105）、分析No.27（石-107）、分析No.28（石-108）、分析No.36（石-475）、分析No.39（レ-028）の８点

であった。肉眼観察および蛍光Ｘ線分析から、ヒスイは、分析No.20（石-100）と分析No.37（石-476）の２点であった。なお、分析No.37（石-476）は、酸化ナトリウム（Na_2O）を1.73%含み、酸化アルミニウム（Al_2O_3）が一連の碧玉の値よりも高いため、ヒスイと判断した（表２，図１）。

４　考　　察

分析および岩石同定を行った玉類は、凝灰岩29点とヒスイ２点、碧玉８点であった。

時期別に見ると、縄文時代晩期では玉がいずれも凝灰岩、管玉がいずれも碧玉であった。縄文時代晩期後半では、玉がいずれも凝灰岩（細粒凝灰岩を含む）、玉材が凝灰岩と碧玉およびヒスイであった。縄文時代晩期以降では、玉がヒスイと凝灰岩（細粒凝灰岩を含む）、管玉が細粒凝灰岩であった。弥生時代では、玉がいずれも凝灰岩、管玉がいずれも碧玉であった。時期不明の玉および玉の原石が碧玉であった。

ヒスイは、微細なヒスイ輝石（$NaAlSi_2O_6$）を主体とした岩石で、日本では糸魚川周辺地域の産出が特に有名である。白色と半透明緑色が混ざった色調のものが代表的であるが、ヒスイという石の中には、ヒスイ輝石だけでなくオンファス輝石（$(Na,Ca)(Al,Mg,Fe)Si_2O_6$）もよく含まれていることが解ってきており、現在、ヒスイの緑色部の多くはオンファス輝石中の鉄に起因すると考えられている（宮島，2004）。ヒスイの産出地としては、糸魚川周辺地域の他に、鳥取県若桜や、兵庫県大屋、岡山県大佐、長崎県三重、北海道神威古潭、静岡県引佐などが知られている（岡本・工藤，2003など）。

凝灰岩は、玉類として利用できる産地として、遺跡周辺に分布する新第三紀中新世前期－中期の地層が考えられる。碧玉は、こうした凝灰岩中に玉髄として生成した岩石と考えられる。

５　おわりに

主に弥生時代から縄文時代晩期かけての石質玉類39点ついて肉眼観察および蛍光Ｘ線分析を行った。その結果、岩石同定を行った玉類は、凝灰岩29点と、ヒスイ２点、碧玉８点であった。なお、製品別では、玉が凝灰岩とヒスイ、碧玉、管玉が碧玉と凝灰岩、玉材が凝灰岩とヒスイ、碧玉であった。

【引用文献】

宮島　宏（2004）とっておきのひすいの話増補改訂版．40p，フォッサマグナミュージアム．
岡本真琴・工藤智巳（2003）白いヒスイ谷への招待．171p，青山社．

表3　玉類の特徴と岩石名

分析No.	図番号	整理番号	器種	全体的な岩石としての特徴	組織等の特徴	その他	岩石名
1	図62-7	石-064	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	大型白色結晶（または模石）が散状に分布。 細粒で濃い青色粒子（直径70μ m程度）を含む。粒子間に細かな空隙が見られる。		凝灰岩
2	図62-8	石-065	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	大型白色結晶（最大3mm）または模石が散状に分布。 粒子間に細かな空隙がある。		凝灰岩
3	図62-9	石-066	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部と半周状白色結晶帯が縞状に濃い青灰色部が縞状に入る。空隙はなくやや緻密。		凝灰岩
4	図62-10	石-067	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色と白色結晶境界縞状に入る。空隙はなくやや緻密。		凝灰岩
5	図62-11	石-068	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部に1mm程度の白色結晶塊が散状に明瞭に入る。細粒（100μ m程度）の濃い青灰色粒子を含む。青灰色部に空隙が多い。	分析No. 2（石-065）に似る。	凝灰岩
6	図62-12	石-069	玉	やや青みのある白色系のやや不均質な軟質の岩石。	微細白色結晶集合し、一部淡青灰色縞が縞状に入る。		凝灰岩
7	図62-13	石-072	玉	淡青白色系の不均質な軟質の岩石。	淡青白色部に大型白色結晶（模）が散状に分布。粒子間に細かな空隙があり、細粒の濃い青色粒子が入る。		凝灰岩
8	図62-14	石-075	玉	強かに青みのある白色系の不均質な軟質の岩石。	微細白色結晶集合、300μ m程度以下の白色結晶点在。		凝灰岩
9	図なし	石-082	玉	淡青白色系の不均質な軟質の岩石。	淡青白色部に白色結晶（模）が縞状に分布。全体的に細かな空隙があり、淡色の模石質物点在。		凝灰岩
10	図62-15	石-083	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部と白色部が複状または縞状に分布。3mm程度の大型白色結晶に入る。青灰色部及び白色部に空隙多い。		凝灰岩
11	図62-16	石-084	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部と白色部が縞状に分布する。白色結晶に入る。空隙少ない。		凝灰岩
12	図62-17	石-085	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部と白色部が不規則に分布する。濃い青色部に入る。空隙多い。		凝灰岩
13	図62-18	石-087	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	白色結晶が縞状に入る。白色部に青灰色部が縞状に分布する。空隙多	分析No. 3（石-065）に似る。	凝灰岩
14	図62-19	石-088	玉	やや青みのある白色系の不均質な軟質の岩石。	白色結晶が縞状に入る。空隙多い。		凝灰岩
15	図62-20	石-089	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色部に白色結晶塊が縞状に分布する。空隙多い。		凝灰岩
16	図62-21	石-093	玉	やや青みのある白色系の不均質な軟質の岩石。	淡青灰色に白色結晶（一部淡褐色縞）が縞状に入る。空隙多い。		凝灰岩
17	図62-22	石-094	玉	やや青みのある白色系の不均質な岩石。	淡青灰色に白色結晶（一部淡褐色縞）が縞状に入る。空隙多い。	分析No. 16（石-093）に似る。	凝灰岩
18	図62-24	石-098	玉	淡青灰色系の比較的均質な軟質の岩石。	青灰色部に細粒の濃い青色粒子点在する。白色結晶点在なし。空隙少な		凝灰岩
19	図197-25	石-099	玉	やや青みのある白色系の比較的均質な軟質の岩石。	淡灰色中に細粒の青色粒子・淡褐色粒子が縞状に入る。空隙少ない。		凝灰岩
20	図195-32	石-100	玉	淡青灰色系の礫断面が結晶質の硬質の岩石。	青灰色部とやや白味のある部分が調じる。白色部がヒスイ輝石。	酸化ナトリウム（Na_2O）を4.72%含む。	ヒスイ
21	図197-26	石-101	玉	淡青灰色系の不均質な軟質の岩石。	青灰色～白色部に白色結晶が縞状に分布する。黒灰色長石状結晶、緑色粒子が点在する。大きな空隙が点在する（土壌が充填）		凝灰岩
22	図66-8	石-102	管玉	濃い緑色の均質で硬質の岩石。	淡灰が層理的に縞状分布。	X線透過像において破断面に管孔十一致部が有	管玉
23	図197-23	石-103	管玉	濃い緑色の均質で硬質の岩石。	不明瞭な淡灰が層理的に縞状分布。		管玉
24	図197-23	石-104	管玉	濃い緑色の均質で硬質の岩石。	白色部が縞状に一定方向に分布。	X線透過像において破断面に管孔十一致部が有	管玉
25	図197-24	石-105	管玉	濃い緑色の均質で硬質の岩石。	白色部が縞状に一定方向に分布。		管玉
26	図213-45	石-106	管玉	やや青みのある白色系の比較的均質で軟質の岩石。	灰色に細粒の青色または黒色粒子が点在する。		細粒凝灰岩
27	図197-21	石-107	管玉	濃い緑色の均質で硬質の岩石。	不明瞭な淡灰が層理的に縞状分布。		管玉
28	図197-29	石-108	玉	淡青灰色系の不均質で軟質の岩石。	青灰色部と白色結晶が縞状に分布する。黒色結晶が入る。空隙少ない。		管玉
29	図213-42	石-109	玉	やや青みのある白色系の均質な軟質の岩石。	灰色に細粒の青色または黒色粒子が点在。	分析No. 26（石-106）の管玉に似る。	細粒凝灰岩
30	図213-43	石-110	玉	淡青灰色系の不均質な岩石。	青灰色部と白色部が不規則に分布する。濃い青色部に入る。空隙多い。	分析No. 12（石-085）に似る。	凝灰岩
31	図171-29	石-339	玉	淡青灰色系の不均質な岩石。	青灰色部に白色結晶塊が縞状に明瞭に入る。細粒（100μ m程度）の濃い青灰色粒子を含む。空隙少ない。		凝灰岩
32	図158-38	石-340	玉	やや青みのある白色系の不均質な岩石。	淡青灰～淡褐色に白色結晶が縞状に入る。100μ m以下の濃青色～白色～淡黒色の細粒粒子（ビフライト状；火山灰石英？）が入る。空隙多い。		凝灰岩
33	図158-6	石-364	玉	淡青灰色系の不均質な岩石。	青灰色部に白色結晶塊が縞状に明瞭に入る。空隙少ない。		凝灰岩
34	図158-37	石-443	玉	淡青灰色とやや青みのある白色部が混在する不均質な岩石。	白色結晶が縞状に入る。黒白色の長柱状～塊状粒子入る。空隙多い。		凝灰岩
35	図158-39	石-444	玉	やや青みのある白色系の不均質な岩石。	白色結晶が縞状に入る。細粒（100μ m程度）の濃い青灰色粒子を含む。空隙多い。		凝灰岩
36	図158-57	石-475	玉材	濃い青灰色部と淡褐色部が混在する不均質で硬質の岩石。	濃い青灰色部は結晶質で緻密。淡褐灰色部は大型模石の抜け跡が有る。いずれも空隙少ない。		凝灰岩中の管玉
37	図158-58	石-476	玉材	白色と淡青灰色部が混在する硬質の岩石。	空隙少なく緻密。	酸化ナトリウム（Na_2O）を1.73%含む。	ヒスイ
38	図158-34	石-477	玉	やや青みのある白色系の比較的均質で軟質の岩石。	細粒の淡青色～やや濃い青色粒子が散在する。空隙多い。	分析No. 26（石-106）の管玉に似る。	細粒凝灰岩
39	図80-6	レ-026	玉の原石	淡青灰色系の透明結晶が縞状に入る硬質な岩石。	空洞内壁面に結晶成長が有る。		管玉

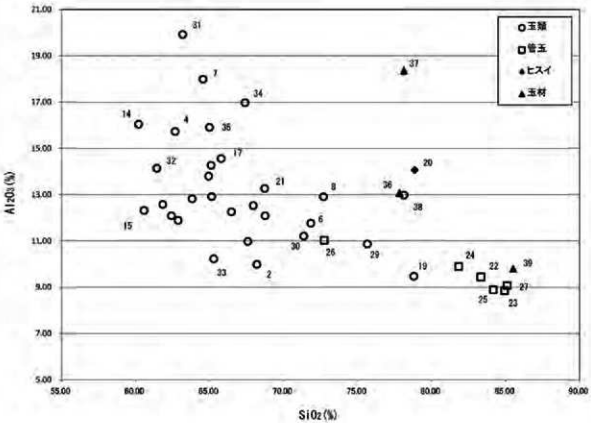
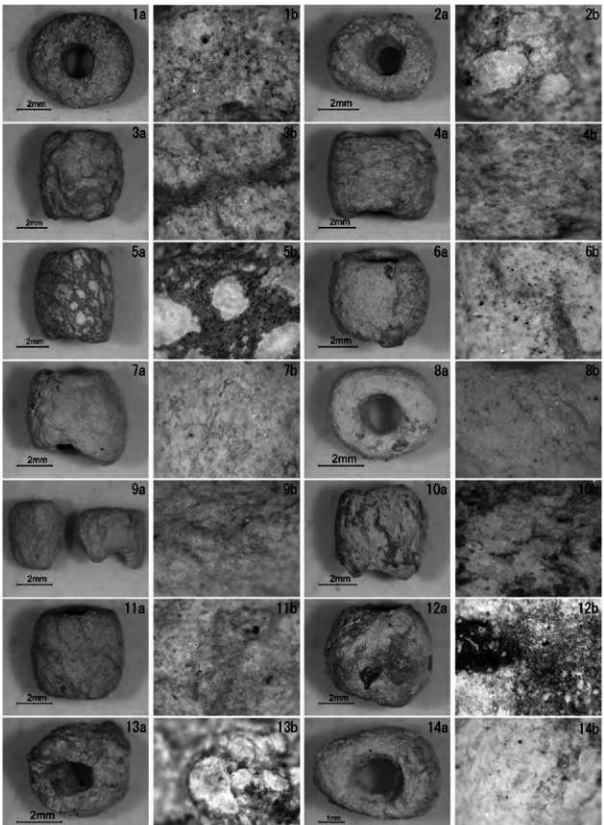
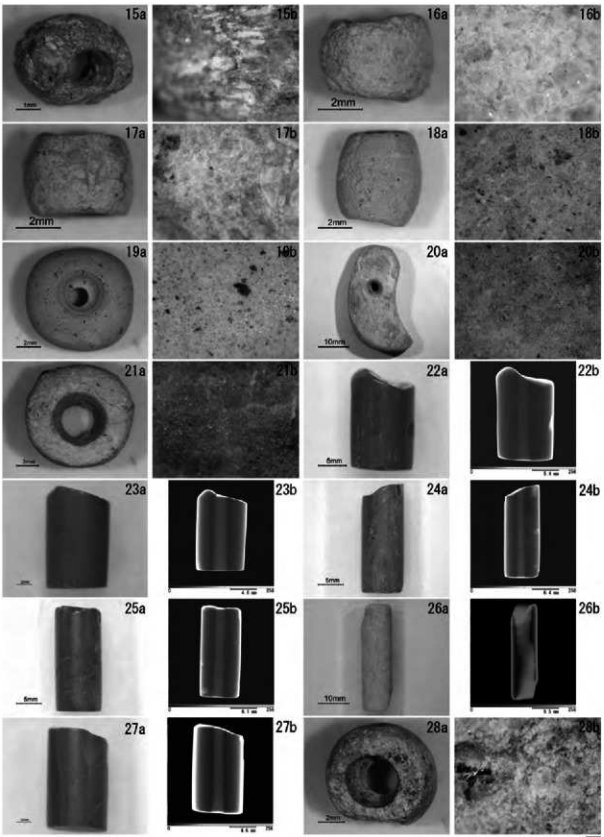


図１　玉類の Al_2O_3-SiO_2分布図



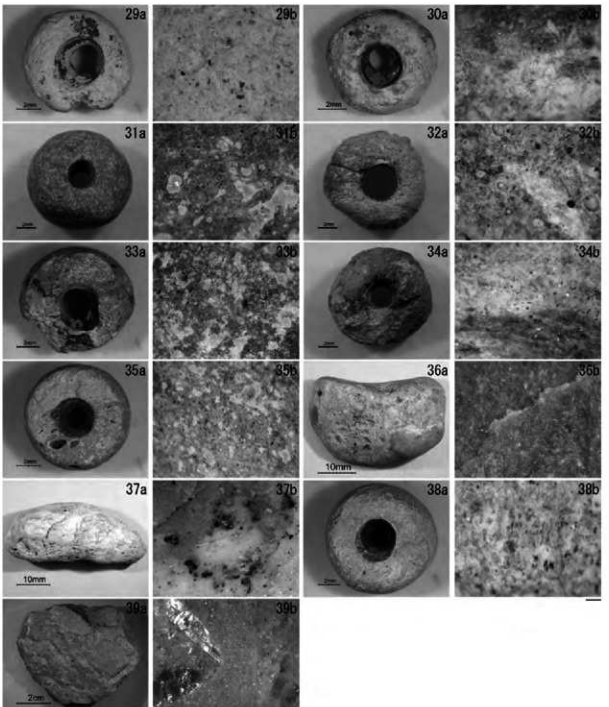
図版1　玉類(a)と拡大部(b、スケール200μm)の実体顕微鏡写真(1)

1. 分析No. 1　2. 分析No. 2　3. 分析No. 3　4. 分析No. 4　5. 分析No. 5　6. 分析No. 6　7. 分析No. 7　8. 分析No. 8　9. 分析No. 9　10. 分析No. 10
11. 分析No. 11　12. 分析No. 12　13. 分析No. 13　14. 分析No. 14



図版２　玉類(a)と拡大部(b、スケール200μm)の実体顕微鏡写真(2)または透過X線像(b)

15. 分析No. 15　16. 分析No. 16　17. 分析No. 17　18. 分析No. 18　19. 分析No. 19　20. 分析No. 20　21. 分析No. 21　22. 分析No. 22　23. 分析No. 23　24. 分析No. 24　25. 分析No. 25　26. 分析No. 26　27. 分析No. 27　28. 分析No. 28



図版3　玉類(a)と拡大部(b、スケール200μm)の実体顕微鏡写真(3)

29. 分析No. 29　30. 分析No. 30　31. 分析No. 31　32. 分析No. 32　33. 分析No. 33　34. 分析No. 34　35. 分析No. 35　36. 分析No. 36　37. 分析No. 37　38. 分析No. 38　39. 分析No. 39

第９節　薬師遺跡出土の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

１　はじめに

弘前市の岩木山東南斜面上に位置する薬師遺跡は、縄文時代晩期から弥生時代前期を主体とする遺跡である。ここでは、焼土遺構や盛土遺構などから出土した炭化種実の同定を行い、利用された種実および当時の植生を検討した。なお、一部の土壌試料については炭化材樹種同定と植物珪酸体分析、また種実の一部を用いて放射性炭素年代測定も行われている（各分析の項参照）。

２　試料と方法

試料は、土壌試料15試料と現地取り上げ試料16試料である。

土壌試料の内訳は、焼土遺構であるSN17とSN21、SN23、SN24から各１試料、SN07から２試料、盛土遺構の構成土であるⅢH-55グリッドの包2-D2と包2-D2炭化物層、ⅢI-54グリッドの包2-E6と包2-E6炭化物層、ⅢJ-59グリッドの包2-HOから各１試料、盛土遺構下部に広がる晩期の遺物包含層である包3についてはⅢH-55とⅢI-54、ⅢJ-59の各グリッドから各1試料、盛土遺構に隣接する弥生遺物の包含層であるⅢK-63グリッドの弥包から１試料である。

現地取り上げ試料の内訳は、焼土遺構であるSN17から取り上げられた６試料と、盛土遺構下部に広がる晩期の遺物包含層である包3についてはⅢG-53とⅢI-55、ⅢI-56の各グリッドから取り上げられた計９試料、遺物包含層であるⅢ層から取り上げられた１試料である。

考古学的な所見による各試料の時期は、Ⅲ層が縄文時代前期末から晩期頃、包3と焼土遺構が晩期中葉から後葉、包2が晩期後葉から弥生時代前期、弥包が弥生時代前期である。

試料の採取は、青森県埋蔵文化財調査センターによって行われた。土壌試料の水洗は最小0.5mm目の篩を用いて行った。水洗の土壌重量は500ccを基本とし、含まれる炭化種実が少ない試料については1000ccとした。種実の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。破片が多い分類群については重量を計量し、完形に換算した個体数を求めた。試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

３　結　果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核とハンノキ属炭化果実、クリ炭化果実・炭化子葉、ウルシ属炭化内果皮、キハダ炭化種子、サンショウ属炭化種子、トチノキ炭化種子・炭化子葉、ブドウ属炭化種子の８分類群、草本植物ではミズヒキ炭化果実と、タデ属炭化果実、ギシギシ属炭化果実、アカネ属炭化種子の４分類群の、計12分類群が見いだされた（表１）。このほかに、科以下の同定ができなかった種実を不明ＡとＢにタイプ分けした。残存が悪く、微細な破片であるため科以下の識別点を持たない一群を同定不能炭化種実とした。種実以外には、炭化した虫えいと子嚢菌が少量得られた。炭化種実のほかにスギナの未炭化の無性芽が得られたが、本遺跡の立地では縄文時代の未炭化の種実は遺存しないと考えられるため、現生として扱った。

表1　土壌試料から出土した炭化種実(1)（括弧内は破片数）

	遺構名	SN17	SN21	SN23	SN24	SN07	
	グリッド	Ⅲ I-54・55	-	-	Ⅲ J-55 (e2)	-	
	層位	-	1・2層	撹土	Ⅲ層	1層(焼土層)	2層
	試料No.	水洗①	水洗②	水洗③	水洗④	水洗⑤	水洗⑥
分類群	水洗量(cc)	500	1000	500	500	1000	500
オニグルミ	炭化核	≦1 1.11g	≦1 0.01g	4～5 6.32g	≦1 0.17g	≦1 0.01g	≦1 0.01g
ハンノキ属	炭化果実					1	
クリ	炭化果実	2～3 1.24g	≦1 0.01g	1～2 0.78g	≦1 0.02g	≦1 0.005g	≦1 0.01g
	炭化子葉			≦1 0.04g		≦1 0.006g	≦1 0.01g
ウルシ属	炭化内果皮				1		
キハダ	炭化種子	(1)			(1)		
トチノキ	炭化種子	(8)		(3)			
ブドウ属	炭化種子	1 (3)		(1)			
ミズヒキ	炭化果実					3 (2)	
タデ属	炭化果実			1			
不明A	炭化種実				(1)		
同定不能	炭化種実	(37)	(5)	(3)	(17)	(3)	(8)
虫えい	炭化		1				
子嚢菌	炭化子嚢	9	2	3	1	1	
スギナ近似種	無性芽						

重量の横の数字は、オニグルミ半割の重量1.49gを用いて完形個体に換算した個体数

表2　土壌試料から出土した炭化種実(2)（括弧内は破片数）

	遺構名	-			-			-		-
	グリッド	Ⅲ H-55			Ⅲ I-54			Ⅲ J-59		Ⅲ K-63
	層位	包2-D2	包2-D2炭化物層	包3	包2-E6	包2-E6炭化物層	包3	包2-H0	包3	弥包
	試料No.	水洗⑦	水洗⑧	水洗⑨	水洗⑩	水洗⑪	水洗⑫	水洗⑬	水洗⑭	水洗⑮
分類群	水洗量(cc)	500	1000	500	500	1000	500	500	500	1000
オニグルミ	炭化核	≦1 0.05g	≦1 0.01g	≦1 0.08g	≦1 0.04g	≦1 0.08g*	≦1 0.25g	≦1 0.05g	≦1 0.14g	≦1 0.02g
クリ	炭化果実	≦1 0.06g	≦1 0.06g*	≦1 0.05g	≦1 0.04g	≦1 0.07g	≦1 0.01g	≦1 0.04g	≦1 0.01g	≦1 0.02g
	炭化子葉			≦1 0.01g	≦1 0.01g	≦1 0.05g		≦1 *	≦1 0.03g	≦1 0.02g
サンショウ属	炭化種子		(1)							
トチノキ	炭化種子		(16)	(2)	(8)	(6)	(23)		(20)	
	炭化子葉								(1)	
ブドウ属	炭化種子					(1)				
ギシギシ属	炭化果実						1			
アカネ属	炭化種子								(1)	
不明B	炭化種実					(1)				
不明	炭化芽						1			
同定不能	炭化種実	(6)	(8)	(13)	(10)	(14)	(12)	(7)	(23)	(5)
虫えい	炭化					1				
子嚢菌	炭化子嚢			1		1				
スギナ近似種	無性芽				2	1 (2)				

＊年代測定用試料を含む、重量は未計量
重量の横の数字は、オニグルミ半割の重量1.49gを用いて完形個体に換算した個体数

表3　現地取り上げ試料から出土した炭化種実

遺構名	グリッド	層位	試料No.	分類群	部位	完形換算個体数※	重量
-	Ⅲ G-53(b4)	包3	種①	オニグルミ	炭化核	≦1	0.45g
	Ⅲ I-55(b3)		種②	オニグルミ	炭化核	≦1	0.23g
	Ⅲ I-55(c2)		種③	オニグルミ	炭化核	≦1	0.46g
	Ⅲ I-55(c3)		種④	オニグルミ	炭化核	≦1	2.15g
	Ⅲ I-55(e2)		種⑤	オニグルミ	炭化核	≦1	1.94g
SN17	Ⅲ I-55(d4)	フク土	種⑥	オニグルミ	炭化核	≦1	0.72g
-	Ⅲ I-56(e1)	包3	種⑦	オニグルミ	炭化核	≒1	3.10g
				クリ	炭化果実	≦1	0.06g
SN17	Ⅲ I-55(e4)	フク土	種⑧	オニグルミ	炭化核	1～2	4.69g
			種⑨	オニグルミ	炭化核	2～3	8.13g
-	Ⅲ I-56(a1)	Ⅲ層	種⑩	オニグルミ	炭化核	≦1	1.18g
SN17	Ⅲ J-55(d4)	-	種⑪	オニグルミ	炭化核	≒3	14.44g
				クリ	炭化果実	≦1	0.33g
横断セク12-4	Ⅲ I-55	包3	種⑫	オニグルミ	炭化核	1～2	4.77g
SN17		埋土1	種⑬	オニグルミ	炭化核	≦1	1.48g
-	Ⅲ I-56付近	Ⅲ層	種⑭		炭化果実	1～2	1.63g
			種⑮	欠番			
-	Ⅲ I-55(b2)	包3	種⑯	欠番			
-	Ⅲ I-55(b4)	包3	種⑰	オニグルミ	炭化核	≦1	1.41g
				クリ	炭化果実	≦1	0.23g
SN17 Ⅲ I-56付近	Ⅲ I-55(a4)	-	種⑱	クリ	炭化果実	≦1	0.05g

※ オニグルミ半割の重量1.49gを用いて完形個体に換算した個体数

以下、炭化種実の出土傾向を遺構別に記載する(不明種実と同定不能種実、虫えい、子嚢菌は除く)。完形換算個体数は、１個より多い場合のみ併記した。

[焼土遺構]

SN17：オニグルミが総計30.57gと10個強分が得られ、クリは総計1.62gで２～３個分が得られた。この他に、キハダとトチノキ、ブドウ属がわずかに得られた。

SN21：オニグルミとクリがわずかに得られた。

SN23：オニグルミが多く４～５個分が得られた。クリ(果実)が１～２個分、クリ(子葉)とトチノキ、ブドウ属、タデ属がわずかに得られた。

SN24：オニグルミとクリ、ウルシ属、キハダがわずかに得られた。

SN07：オニグルミとハンノキ属、クリ(果実・子葉)、ミズヒキがわずかに得られた。

[盛土遺構の構成土]

Ⅲ H-55グリッド包2-D2：オニグルミとクリがわずかに得られた。

Ⅲ H-55グリッド包2-D2炭化物層：トチノキがやや少量、オニグルミとクリ、サンショウ属がわずかに得られた。

Ⅲ I-54グリッド包2-E6：オニグルミとクリ(果実・子葉)、トチノキがわずかに得られた。

Ⅲ I-54グリッド包2-E6炭化物層：オニグルミとクリ(果実・子葉)、トチノキ、ブドウ属がわずかに得られた。

Ⅲ J-59グリッド包2-HO：オニグルミとクリ(果実・子葉)がわずかに得られた。

[盛土遺構下部に広がる晩期の遺物包含層]

Ⅲ G-53グリッド包3：オニグルミがわずかに得られた。

Ⅲ H-55グリッド包3：オニグルミとクリ(果実・子葉)、トチノキがわずかに得られた。

Ⅲ I-54グリッド包3：トチノキがやや少量、オニグルミとクリ、ギシギシ属がわずかに得られた。

Ⅲ I-55グリッド包3：オニグルミが総計10.96gと4個弱得られた。クリがわずかに得られた。

Ⅲ I-56グリッド包3：オニグルミが約１個分、クリがわずかに得られた。

Ⅲ J-59グリッド包3：トチノキ(種子)がやや少量、オニグルミとクリ(果実・子葉)、トチノキ(子葉)、アカネ属がわずかに得られた。

[盛土遺構に隣接する弥生遺物の包含層]

Ⅲ K-63グリッドの弥包：オニグルミとクリ(果実・子葉)がわずかに得られた。

[遺物包含層]

Ⅲ I-56グリッド(付近を含む)Ⅲ層：クリが１～２個分、オニグルミがわずかに得られた。

次に、炭化種実の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。

(１)オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sieboldiana (Maxim.) Makino　炭化核　クルミ

科

すべて破片での出土で、完形ならば側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は角が尖るものが多い。最大の破片で、長さ26.8mm、幅21.5mm、残存厚12.0mm。いずれも1/2以下の残存率であった。

（2）ハンノキ属　Alnus sp.　炭化果実　カバノキ科

上面観は扁平、側面観は狭卵形。表面は平滑。先端には柱頭がある。本来は両側にある翼が部分的に残る。長さ2.3mm、幅1.6mm。

（3）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

果実と子葉はすべて破片で、果実の表面には平滑で縦に細く浅い筋がみられる。殻斗着痕は残存していない。果皮の内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。最大の破片で、残存長16.5mm、残存幅10.6mm。子葉は、完形ならば側面観が広卵形。表面一面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。最大の大きさで、残存長4.8mm、残存幅3.0mm、残存厚3.5mm。

（4）ウルシ属　Toxicodendron sp.　炭化内果皮　ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、片側が膨れる。ざらついた質感がある。形状からヌルデではなくウルシ属と判断した。長さ2.8mm、幅3.8mm、厚さ1.7mm。

（5）キハダ　Phellodendron amurense Rupr.　炭化種子　ミカン科

破片であるが、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は三日月形。表面に亀甲状で大きさのやや揃った網目状隆線がある。残存長2.3mm、残存幅1.4mm。

（6）サンショウ属　Zanthoxylum sp.　炭化種子　ミカン科

破片であるが、完形ならば側面観は倒卵形か。表面には細かく低い網目状隆線があり、側面には着点となる稜線がある。種皮は厚く硬い。サンショウかイヌザンショウの可能性が高い。残存長2.3mm、残存幅1.5mm。

（7）トチノキ　Aesculus turbinata Blume　炭化種子・炭化子葉　トチノキ科

完形の種子はなく、すべて微小な破片である。完形ならば楕円形で、下半部は光沢がなく、上半部には光沢がややある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮は３層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。最大の大きさで、残存長7.8mm、残存幅5.3mm。

子葉は厚みがあり、大型の子葉の破片と推定できる。表面の輪郭の湾曲具合から、元は球形に近かったと思われる個体が含まれる。表面には皺や筋などは見られず、平滑。破片は不定形に割れる。最大の破片で、残存長8.4mm、残存幅6.5mm、残存厚4.0mm。

（8）ブドウ属　Vitis spp.　炭化種子　ブドウ科

上面観は広三角形、側面観は下端が尖る広倒卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面の下端寄りに縦方向の２本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。ヤマブドウ以外のブドウ属である。長さ4.5mm、幅3.4mm、厚さ2.5mm。

（9）ミズヒキ　Persicaria filiformis（Thunb.）Nakai ex W.T.Lee　炭化果実　タデ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。着点には円形の孔があく。壁は薄く、表面はざらざら

している。長さ2.5mm、幅2.0mm。

(10)タデ属　Polygonum sp.　炭化果実　タデ科

上面観は楕円形、側面観は卵形。下端には大きな基部がある。表面は平滑で光沢がある。長さ1.2mm、幅0.9mm。

(11)ギシギシ属　Rumex spp.　炭化果実　タデ科

破片であるが、完形ならば側面観は倒卵形、断面は三稜形。両端が尖る。稜は細く、翼状になる。表面は平滑で、光沢はない。残存長1.7mm、幅1.4mm。

(12)アカネ属　Rubia sp.　炭化種子　アカネ科

破片であるが、完形ならば上面観は円形、側面観は楕円形。側面片側の中央が大きく円形にくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。残存長1.4mm、幅1.5mm。

(13)不明Ａ　Unknown A　炭化種実

上面観は楕円形、側面観はいびつな楕円形。表面には凹凸がある。残存長2.8mm、幅1.9mm。

(14)不明Ｂ　Unknown B　炭化種実

破片のため全体形は不明だが、側面観は倒広卵形か。表面には不規則な皺がある。壁は厚い。残存長4.0mm、残存幅3.9mm。

４　考　　察

焼土遺構や盛土遺構などから出土した炭化種実について検討した結果、土壌試料ではすべての試料から炭化種実が得られた。以下、時期ごとに考察を行う。盛土遺構は、台地上の起伏部分を削り、緩斜面地に土を盛って作られている。したがって構成土には、盛られる前に台地上で堆積した古い時期の炭化種実も混ざっている可能性があり、注意が必要である。

[遺物包含層(Ⅲ層)：縄文時代前期末～晩期頃]

オニグルミとクリが得られた。オニグルミとクリは食用になるが、産出した核と果実の果皮部分は食用部位ではない。また熱を受けているため、形状の観察が困難な破片が多いが、完形個体が炭化したというより、食用のために割られ、破片の状態で炭化したと考えられる。

[盛土遺構下部に広がる晩期の遺物包含層(包3)：縄文時代晩期中葉～後葉]

土壌試料でみると、炭化種実の包含量は全体的に微量であるが、すべての試料からオニグルミが得られ、すべての土壌試料ではオニグルミとクリ、トチノキの３分類群が得られた。クリとトチノキは食用となる子葉とこれを包む種子のみが得られ、食用にならない果実は含まれていなかった。したがって、食用のために集められた個体が保管中や加工中、残渣焼却時などに炭化したと考えられる。この３分類群以外は、ⅢI-54グリッド包3で得られたギシギシ属とⅢJ-59でアカネ属の各１点のみであり、偶発的に炭化して入り込んだ可能性がある。

[焼土遺構(SN07，17，21，23，24)：縄文時代晩期中葉～後葉]

すべての遺構からオニグルミとクリが得られ、SN17とSN23では特に炭化種実の含有量が高く、ト

チノキとブドウ属も得られた。SN17とSN24からはキハダが得られた。キハダの果実は甘酸っぱく、食用のほか、薬用としての利用も想定される。産出数は２点と少ないが、２点ともに破片であり、加工時や加工後の種子が炭化して残った可能性もある。北海道南部や青森県では、縄文時代の住居跡や土坑などからオニグルミやトチノキ、クリなどと共にキハダが一定量産出する例が知られている。例えば青森市に位置する中平遺跡では、縄文時代後期前葉の土坑や包含層からオニグルミやクリ、トチノキといった堅果類やキイチゴ属やブドウ属、ニワトコなどの液果に伴ってキハダの破片が一定量産出している（佐々木・バンダリ，2009）。SN24からはウルシ属も得られた。１点のみのため、走査電子顕微鏡を用いた構造の詳細な観察は行わなかったが、形状からウルシ属と判断した。栽培植物であるウルシの可能性がある。

SN23から得られたタデ属やSN07から得られたハンノキ属とミズヒキは、偶発的に炭化して入り込んだ可能性が考えられる。

[盛土遺構の構成土（包2）：縄文時代晩期後葉～弥生時代前期]

５試料中、オニグルミとクリがすべての試料から得られ、トチノキが３試料から、サンショウ属とブドウ属が各１試料から得られた。炭化物層の種実の含有量は低かったが、すべて食用可能な分類群であった。

[盛土遺構に隣接する弥生遺物の包含層（弥包）：弥生時代前期]

オニグルミとクリが得られた。種実の含有量は低かった。

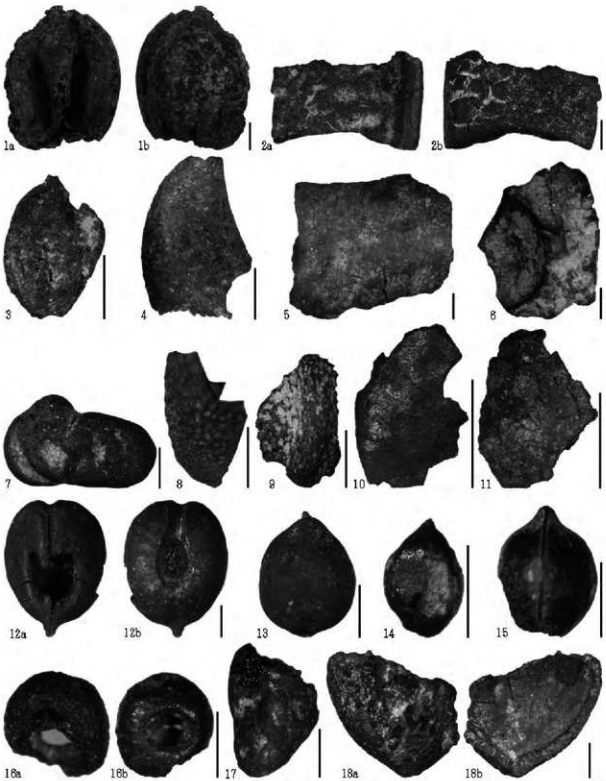
5　おわりに

焼土遺構や、盛土の構成土、包含層から産出した種実を検討した結果、採取地点ごとの構成種に違いはあまりみられなかった。縄文時代前期末から晩期頃の遺物包含層（Ⅲ層）では土壌を水洗していないため詳細は不明であるが、少なくとも縄文時代晩期中葉から弥生時代前期にかけてオニグルミとクリ、トチノキの３種が利用され続けたと推定される。また、この３種に加え、縄文時代晩期中葉から後葉では、利用可能なウルシ属とキハダ、ブドウ属、晩期後葉から弥生時代前期にはサンショウ属とブドウ属も利用されていたと考えられる。イネ科の栽培植物は全く得られなかった。

得られた種実の種類は、青森県の縄文時代の遺跡で普通に産出する種類と変わりはなく、弥生時代前期に至っても変化はなかった。薬師遺跡の周辺では、縄文的な森林資源の利用が弥生時代前期まで継続していたと考えられる。

【引用文献】

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（2009）炭化種実同定．青森県埋蔵文化財調査センター編「中平遺跡（第２分冊）」：25-31，青森県教育委員会．



スケール 1,4,10,11:5mm,2,3,5-9,12-18: 1 mm

図版１　薬師遺跡から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核（SN17フク土、種②）、2. オニグルミ炭化核（包12-E6炭化物層、水洗法Ⅱ、PLD-23256）、3. ハンノキ属炭化果実（SN07　Ⅰ層（焼土層）、水洗法③）、4. クリ炭化果実（Ⅲ層、種法④）、5. クリ炭化果実（包12-D2炭化物層、水洗法⑤、PLD-23255）、6. クリ炭化子葉（包12-H0、水洗法Ⅱ、PLD-23259）、7. ウルシ属炭化内果皮（SN24　Ⅲ層、水洗法④）、8. キハダ炭化種子（SN17、水洗法①）、9. サンショウ属炭化種子（包12-D2炭化物層、水洗法⑤）、10. トチノキ炭化種子（SN17、水洗法①）、11. トチノキ炭化子葉（包3、水洗法④）、12. ブドウ属炭化種子（SN17、水洗法①）、13. ミズヒキ炭化果実（SN07　Ⅰ層（焼土層）、水洗法③）、14. タデ属炭化果実（SN23覆土、水洗法③）、15. ギンギシ属炭化果実（包3、水洗法②）、16. アカネ属炭化種子（包3、水洗法④）、17. 不明A炭化種実（SN24Ⅲ層、水洗法④）、18. 不明B炭化種実（包12-E6炭化物層、水洗法Ⅱ）

第10節　薬師遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

１　はじめに

弘前市の岩木山東南斜面上に位置する薬師遺跡では、縄文時代前期末葉と、縄文時代晩期から弥生時代、平安時代の遺構や遺物が確認されている。ここでは、焼土遺構と盛土遺構から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定と炭化種実同定、植物珪酸体分析も行われている（放射性炭素年代測定、炭化種実同定、植物珪酸体分析の項参照）。

２　試料と方法

試料はすべて炭化材で、計14試料である。自然に堆積および形成されたと思われる黒色土のⅢ層からは２試料（樹⑪、樹⑬）で、時期は考古学的な所見から縄文時代中期から晩期と考えられている。焼土遺構であるSN17のⅢI-56付近からは１試料（樹⑩）で、時期は考古学的な所見から縄文時代晩期中葉～後葉と考えられている。盛土遺構下部の人為堆積の要素が強い遺物包含層である包3からは３試料（樹⑧、樹⑨-2、樹⑫）で、時期は考古学的な所見から縄文時代晩期中葉～後葉と考えられている。盛土遺構の構成土である包2から8試料（樹①、樹②、樹③-2、樹④-1、樹⑤-3、樹⑥-2、樹⑦、樹⑭）で、時期は考古学的な所見から縄文時代晩期後葉から弥生時代前期と考えられている。なお、同一試料内に複数の樹種が確認された場合は、枝番号を附した。

樹種同定は、目視および実体顕微鏡を用いて木取りの確認、径と年輪数の計測を行った後、手あるいは剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径１cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。試料の残りは、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

３　結　　果

針葉樹はイヌガヤ１分類群、広葉樹はクリとブナ属、ニレ属、サクラ属、エゴノキ属、トネリコ属シオジ節、ムラサキシキブ属の７分類群で、計８分類群が確認された（表１）。形状は、ムラサキシキブ属（樹③）が直径0.6cmの芯持丸木であったが、それ以外は破片となっており、元の形状は不明である。針葉樹のイヌガヤは0.5cm以下の破片、広葉樹は1.0～3.0cm程度の破片であった。結果の一覧を付表１に示す。

表１　樹種構成

分類群	計
イヌガヤ	1
クリ	7
ブナ属	1
ニレ属	1
サクラ属	1
エゴノキ属	1
トネリコ属シオジ節	2
ムラサキシキブ属	1
計	15

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（１）イヌガヤ　Cephalotaxus harringtonia（Knight ex Forbes）K. Koch　イヌガヤ科　図版１1a-1c（樹⑫）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。仮道管は薄壁で、晩材部の幅は非常に狭い。樹脂細胞は早材・晩材を通じて均等に分布する。放射組織は単列で２～５細胞高、分野壁孔はトウヒ型で１分野に１～２個存在する。仮道管にらせん肥厚がある。

イヌガヤは岩手県以南の暖帯から温帯に生育する常緑の低木または小高木である。材は堅硬および緻密である。

（２）クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版１　2a-2c(樹①)、3a-3c(樹③)、4a(樹⑦)、5a(樹⑭)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性と耐湿性に優れ、保存性が高い。

（３）ブナ属　Fagus　ブナ科　図版１　6a-6c(樹④-1)

単独の道管が密に分布し、晩材部でやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと階段状の２種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列、２～数列、広放射組織の３種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

（４）ニレ属　Ulmus　ニレ科　図版１・２　7a-7c(樹⑧)

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜めに配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、１～５列幅程度である。

ニレ属は温帯から暖帯に分布する落葉高木で、アキニレとハルニレ、オヒョウの３種がある。材は比較的重硬で靱性があるが、狂いが出やすく、保存性もよくない。

（５）サクラ属(広義)　Prunus s.l.　バラ科　図版２　8a-8c(樹⑤-3-2)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に数個複合する散孔材である。道管に着色物質を含む場合もある。道管の穿孔は単一である。放射組織は１～７列幅の異性である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属は、さらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワズミザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この２種を除いたサクラ属とする。材は比較的重硬で緻密であり、加工性がよい。

（６）エゴノキ属　Styrax　エゴノキ科　図版２　9a-9c(樹②)

小型の道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材で、晩材部で道管が小型になり、数も減る。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は10段程度の階段状である。放射組織は１～４列幅で、異性である。

エゴノキ属は温帯から熱帯にかけて分布する落葉小高木で、エゴノキとハクウンボク、コハクウンボクの３種がある。材はやや重硬で緻密である。

（７）トネリコ属シオジ節　Fraxinus sect. Fraxinaster　モクセイ科　図版２　10a-10c(樹⑩)、11a-11c(樹⑪)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に２～３個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～３列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で靱性があり、

加工性や保存性は中庸である。

(8)ムラサキシキブ属　Callicarpa　クマツヅラ科　図版2　12a-12c(樹⑬)

小型の道管が、単独から数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は随伴散在状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は1～4列幅の異性である。

ムラサキシキブ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉または常緑の低木または小高木で、ヤブムラサキやムラサキシキブなど11種がある。

4　考　察

Ⅲ層とSN17のⅢI-56付近、包3の遺構別の樹種構成を表2に示す。縄文時代中期から晩期の自然堆積と思われる黒色土であるⅢ層では、シオジ節とムラサキシキブ属が1点ずつ確認された。縄文時代晩期後葉から後期の焼土遺構SN17のⅢI-56付近はシオジ節であった。同じく縄文時代晩期後葉から後期の盛土遺構下部の遺物包含層である包3では、イヌガヤとクリ、ニレ属が1点ずつ確認された。

縄文時代晩期後葉から弥生時代前期の盛土遺構である包2の遺構別樹種構成を表3に示す。盛土遺構ではクリが6点で最も多く、その他はブナ属とサクラ属、エゴノキ属が1点ずつ確認された。

全体で一番多く確認されたクリは、縄文時代を通して多用される傾向がある。青森市の三内丸山遺跡では、花粉分析から縄文時代前期から中期にかけて遺跡の周辺にクリの純林が形成されていた可能性が指摘されており、縄文時代後期から晩期ではコナラ亜属やブナ属が増加するがクリも産出している(吉川，2011)。今回の薬師遺跡における樹種同定でも、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけてクリが比較的多く確認されており、遺跡周辺にクリが生育していたと考えられる。クリ以外の樹種も暖帯から温帯、冷温帯に分布する樹木であり、遺跡周辺には落葉広葉樹が生育していたと考えられる。

針葉樹のイヌガヤは耐除性の強い除樹で、適潤性の土壌に生育する常緑の小高木である。北海道西部から本州の日本海側、多雪地帯にはハイイヌガヤが分布する。緻密で靱性がある材質のため、縄文時代には全国で弓に多用されている(伊東・山田編，2012)。ムラサキシキブ属も同様に、関東地方や中部・北陸地方では縄文時代に弓としての利用が確認されているが、本試料は直径0.6cmと小径のため、燃料材か自然木であったと考えられる。それ以外の広葉樹は、いずれも比較的重硬な材で、器具材や建築材などの木製品に利用され、薪炭材としても用いられる樹種であった。

ムラサキシキブ属以外の試料は、破片のため元の形状および用途は不明であるが、盛土遺構であるグリッドⅢJ-59の包2-H0から出土した炭化材(樹⑭)はクリで、灰に含まれていた試料であるため、燃料材の可能性がある。

【引用文献】

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学－出土木製品用材データベース－，449p，海青社.

吉川昌伸(2011)クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況．植生史研究18(2)，64-76，日本植生史学会.

表２　遺構別の樹種構成(1)

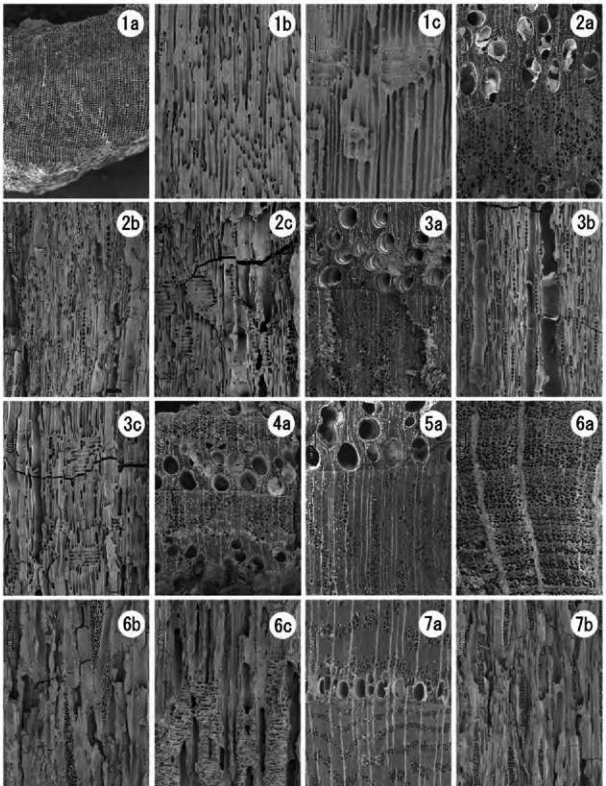
	時代	縄文時代中期～晩期		縄文時代晩期中葉～後葉				
	遺構	黒色土		焼土遺構 SN17ⅢI-56付近	遺物包含層（盛土遺構下部）			
	グリッド	ⅢI-56付近		ⅢI-55(a4)	ⅢI-55(b4)	ⅢI-56(b2)		
	土層	Ⅲ層		－	包3			
分類群	試料No.	樹⑪	樹⑬	樹⑩	樹⑧	樹⑨-2	樹⑫	計
イヌガヤ							1	1
クリ						1		1
ニレ属					1			1
トネリコ属シオジ節		1		1				2
ムラサキシキブ属			1					1
計		1	1	1	1	1	1	6

表３　遺構別の樹種構成(2)

	時代	縄文時代晩期後葉～弥生時代前期									
	遺構	盛土遺構									
	グリッド	ⅢH-54(c1)	ⅢH-55(d1)	ⅢI-55(d3)	ⅢJ-56	ⅢJ-59	ⅢJ-59	ⅢJ-57(a2)	ⅢJ-57(c1)		
	土層	包2-E2	包2-E下層	包2-F4	包2-G2	包2-H0		包2-H2	包2-H3上面		
分類群	試料No.	樹①	樹②	樹③-2	樹④-1	樹⑤-3	樹⑤	樹⑥-2	樹⑦	計	
クリ		1		1		1	1	1	1	6	
ブナ属					1					1	
サクラ属						1				1	
エゴノキ属			1							1	
計		1	1	1	1	2	1	1	1	9	

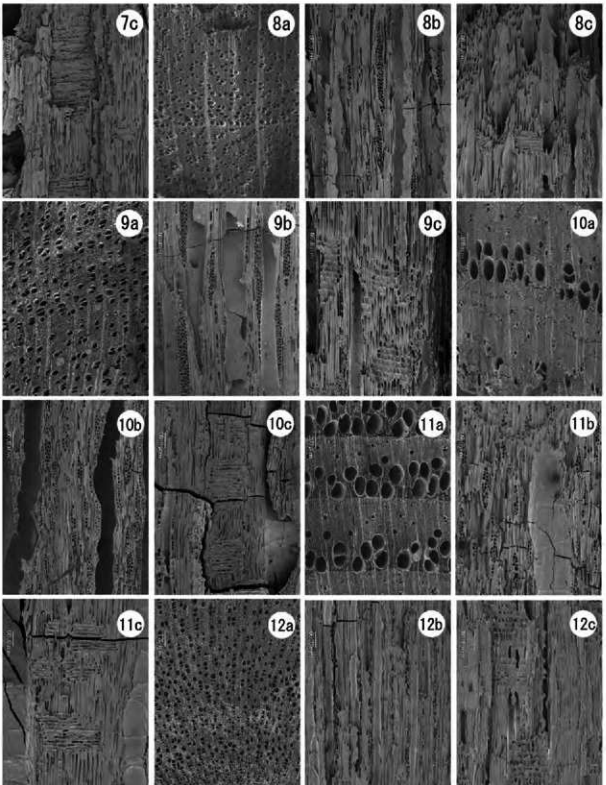
付表１　樹種同定結果

試料番号		遺構名	グリッド	土層	樹種	形状（残存径、残存年輪数）	年代測定番号
樹①	－	－	ⅢH-54(c1)	包2-E2	クリ	破片（1.5×1.3cm、4年輪）	－
樹②	－	－	ⅢH-55(d1)	包2-E下層	エゴノキ属	破片（1.7×0.6cm、2年輪）	－
樹③-2	－	－	ⅢI-55(d3)	包2-F4	クリ	破片（1.0×0.8cm、3年輪）	PLD-23257
樹④-1	－	－	ⅢJ-56	包2-G2	ブナ属	破片（1.8×0.6cm、29年輪）	PLD-23258
樹⑤-3-1	－	－	ⅢJ-59	包2-H0	クリ	破片（2.8×1.0cm、6年輪）	－
樹⑤-3-2					サクラ属	破片（4.0×1.5cm、6年輪）	－
樹⑥-2	－	－	ⅢJ-57(a2)	包2-H2	クリ	破片（1.0×0.7cm、1年輪）	－
樹⑦	－	－	ⅢJ-57(c1)	包2-H3上面	クリ	破片（2.5×1.0cm、5年輪）	PLD-23260
樹⑧	－	－	ⅢI-55(b4)	包3	ニレ属	破片（3.3×2.0cm、9年輪）	－
樹⑨-2	－	－	ⅢI-56(b2)	包3	クリ	破片（2.5×2.0cm、4年輪）	PLD-23261
樹⑫	種⑯			包3	イヌガヤ	破片（0.3×0.2cm、4年輪）	－
樹⑩	－	SN17ⅢI-56付近	ⅢI-55(a4)	－	トネリコ属シオジ節	破片（3.3×2.5cm、32年輪）	－
樹⑪	－	－	ⅢI-56付近	Ⅲ層	トネリコ属シオジ節	破片（4.5×2.0cm、30年輪）	－
樹⑬	種⑮				ムラサキシキブ属	丸木（直径0.6cm、1年輪）	－
樹⑭	種①	－	ⅢJ-59	包2-H0	クリ	破片（0.7×0.6cm、1年輪）	－



図版1　薬師遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. イヌガヤ(樹㉒)、2a-2c. クリ(樹①)、3a-3c. クリ(樹③)、4a. クリ(樹⑦)、5a. クリ(樹⑭)、6a-6c. ブナ属(樹④-1)、
7a-7b. ニレ属(樹⑧)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



図版２　薬師遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

7c. ニレ属(樹⑤)、8a~8c. サクラ属(樹⑤-3-2)、9a~9c. エゴノキ属(樹②)、10a~10c. トネリコ属シオジ節(樹⑩)、
11a~11c. トネリコ属シオジ節(樹⑪)、12a~12c. ムラサキシキブ属(樹⑬)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

第11節　薬師遺跡から出土した灰の母植物

米田恭子(パレオ・ラボ)

1　はじめに

薬師遺跡では、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて形成されたとみられる盛土遺構が検出された。ここでは、初期盛土の炭化物層より採取された炭化材片を含む灰とみられる白色物について植物珪酸体分析を行い、母植物の検討を行った。なお、同試料中の炭化材片については樹種同定、同一土層より採取された土壌については種実同定が行われている(樹種同定および種実同定の項参照)。

2　試料と方法

試料は、盛土遺構構成土の炭化物層である包2-H0より採取された試料No.珪①である。包2-H0は、本格的に盛土が形成される前の窪地部分に、レンズ状に堆積した炭化物層である。土層の堆積時期は、考古学的所見により縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃と考えられている。

試料を実体顕微鏡下で観察し、植物遺体の灰と見られた部分について直接ピンセットで抽出し、グリセリンを用いてプレパラートを作製後、検鏡して母植物の検討を試みた。

3　結　　果

検鏡した結果、観察された植物珪酸体を表1に示した。

表1　薬師遺跡出土灰の植物珪酸体

試料No.	種類	遺構名	グリッド	土層	個別No.	機動細胞珪酸体			短細胞珪酸体		不明植物珪酸体		不明植物細胞片
						ササ属	キビ族	ウシクサ族	タケ・ササ型	キビ型	棒状型	ポイント型	
珪①	灰	－	Ⅲ J-59	包2-H0	灰ｻﾝﾌﾟﾙ-1	○	△	△	△	△	○	△	○

検鏡の結果、ササ属の機動細胞珪酸体が他の機動細胞珪酸体よりやや多く観察された。キビ族の機動細胞珪酸体とウシクサ族の機動細胞珪酸体もわずかに得られた。また、タケ・ササ型短細胞珪酸体とキビ型短細胞珪酸体も観察された。このほかに、棒状型とポイント型の不明植物珪酸体と不明植物細胞片が観察された。棒状型とポイント型の不明植物珪酸体は、すべてのイネ科植物に類似した形態の植物珪酸体が出現するため(近藤，2010)、形状からの同定は困難であり、不明植物珪酸体とした。

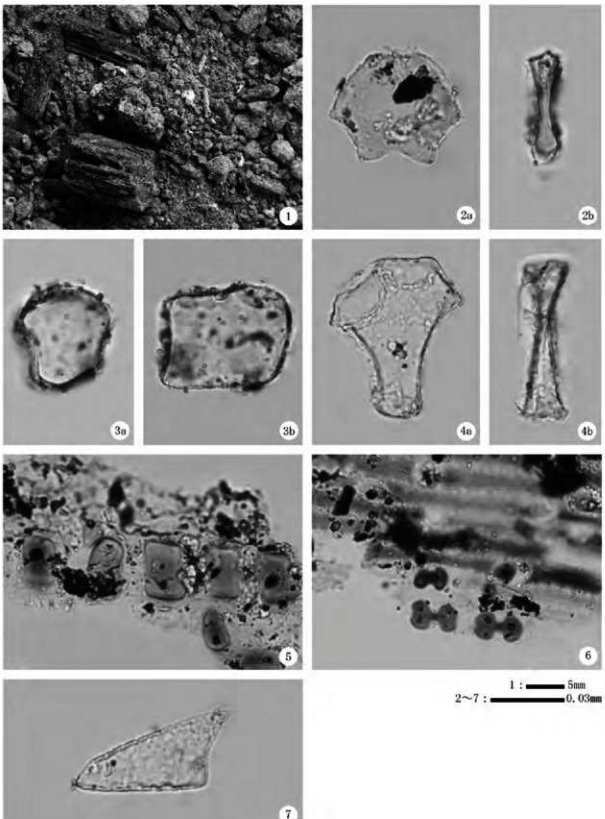
4　考　　察

植物珪酸体分析を行った結果、包2-H0からはササ属とキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体が得られた。珪①の母植物には、チシマザサやチマキザサなどのササ属とキビ族、ススキやチガヤなどのウシクサ族が混在していたと考えられる。なお、今回の分析で検出されたキビ族については、機動細胞珪酸体の形状からはアワやヒエ、キビなどの栽培植物かイヌビエやエノコログサなどの雑草類かの区別が難しく、観察されたキビ族機動細胞珪酸体が栽培植物由来かどうかは不明である。

縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃の薬師遺跡では、今回の分析で検出されたイネ科植物が周辺に生育していたとみられる。試料No.珪①には炭化材片も多く含まれており、イネ科植物が、住居の屋根材や壁材として利用され焼失した後に廃棄された可能性や、着火材などとして木材とともに燃やされ、遺構内に廃棄された可能性などが考えられる。

【引用文献】

近藤錬三(2010)プラント・オパール図譜，167p，北海道大学出版会.



図版１　薬師遺跡包2-H0から出土した灰の母植物

1. 試料の部分写真、2. ササ属機動細胞珪酸体、3. キビ族機動細胞珪酸体、4. ウシクサ族機動細胞珪酸体、5. タケ・ササ型短細胞珪酸体、6. キビ型短細胞珪酸体、7. ポイント型不明植物珪酸体
a：断面，b：側面

第5章　遺物観察表

表1　土器観察表（1）

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	底径	口径 (cm)	底高 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	時期
28	1	S102 pit15	東V-80、周土P1～11	縄文	深鉢	鉢完形	15.0	7.5	17.0	4単位突起、沈線、刺突、LR、RRの回転施文。	胎土分析(No.2)、植物繊維混入	円筒下層式
28	2	S102	東V-80、周囲P1,10	縄文	深鉢	鉢完形	16.2	8.9	20.8	1周波状口縁、結束第1種横位の回転施文、RL斜行回転施文、2段結束横位回転施文。	胎土分析(No.1)、植物繊維混入	円筒下層式
28	3	S102	東I-F8P1,2,5～8	縄文	深鉢	体部上半	14.9	－	(21.8)	口縁直下横位の回転施文、口縁平行線間を斜行回転施文、結束第2種横位の回転、側面RRL斜行回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
28	4	S102	周土上位	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(10.3)	1周波状口縁、結束第1種横位の回転施文、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
28	5	S102	周土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.3)	結束第1種横位の回転、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
28	6	S102	周土上位	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.9)	1周波状口縁、結束第1種横位の回転施文、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
28	7	S102	周土下位P4	縄文	深鉢	胴部	－	(10.1)	(6.4)	RL斜行回転施文。	植物繊維混入	前期末
28	8	S102	周土下位P4	縄文	深鉢	底部	－	(10.8)	(9.3)	RL斜行回転施文。	植物繊維混入	前期末
31	1	S103 pit12	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.4)	結束第1種横位、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
31	2	S103	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.9)	結束第1種横位、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
31	3	S103	周土	縄文	深鉢	底部	－	－	(3.8)	RL斜行回転施文。	植物繊維混入	前期末
31	4	S103	周土	縄文	深鉢	底部	－	9.6	(3.7)	底部外面沈線。		前期末
35	1	S104	東A-78、周囲P39	縄文	深鉢	完形	26.3	13.2	35.1	4単位突起、頂部小破片・横位隆帯上に刺突列、口縁直下横位沈線、口縁平行線間を斜行回転施文、結束第1種横位回転施文、2段結束第1種横位回転施文の2段、側面2本の一部は横位回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
35	2	S104 pit15	周土上位、周土下位、周土P20	縄文	深鉢	鉢完形	14.9	10.0	24.4	口縁平行線間を斜行回転施文、側面半単軸条体単1類回転施文、結束第2種横位回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
35	3	S104	東V-78、周土P28	縄文	鉢	鉢完形	12.0	9.2	7.0	口縁直下横位の回転施文、側面半単軸条体単1類回転施文。	植物繊維、針状物質含む	円筒下層式
35	4	S104	周土中位、東西横断面P2,10,25,32、周土中位P19,21～23～26	縄文	深鉢	体部上半	16.0	－	(39.0)	平行線間を斜行回転施文、側面半単軸条体単1類回転施文、結束第2種横位回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
35	5	S104	周土中位P19	縄文	深鉢	体部下半	－	11.6	(22.6)	半単軸条体単1類縦位回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
35	6	S104	周土中位P19	縄文	鉢	鉢完形	9.3	6.4	11.8	口縁直下横位、1類文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
36	7	S104	東III-F27	縄文	深鉢	体部下半	－	13.4	(17.1)	結束第2種。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
36	8	S104	東III-F27	縄文	深鉢	体部上半	26.5	－	(37.6)	半単軸条体単1類縦位回転施文、RL斜行回転、側面半単軸条体単1A類回転施文。	雲母混和	円筒下層式
36	9	S104	周土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.8)	1類波状口縁、結束、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
36	10	S104	周土上位	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.0)	口縁波状口縁、半単軸条体単1類施文。		円筒下層式
36	11	S104	周土上位、東A-78周囲P2	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.0)	口縁結束、LR斜行回転施文、側面半単軸条体単1類施文。		円筒下層式
36	12	S104	周土上位	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(9.6)	結束口縁、口縁平行線間を斜行回転施文、結束2段横位回転施文、側面2本単軸条体単1類施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
36	13	S104	周土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(3.8)	口縁RRL、口縁直下LR回転施文。	植物繊維、針状物質含む	円筒下層式
36	14	S104	周土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(2.3)	半単軸条体単1類回転施文。	雲母含む、植物繊維混入	前期末か
40	1	S105	東溝	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.6)	結束第1種横位2段回転施文、側面RL斜回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
40	2	S105	東溝	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.9)	半単軸条体単1類縦位回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
40	3	S105	東溝	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.8)	半単軸条体単1類縦位回転施文。	胎土分析(No.4)、植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
40	4	S105	東溝	縄文	深鉢	底部	－	(10.2)	(4.6)	半単軸条体単1類縦位回転施文。	胎土分析(No.3)、植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
43	1	S107 pit12	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.8)	半単軸条体単1類縦位回転、結束第1種横位回転施文、LR斜行回転施文。	植物繊維、針状物質含む	円筒下層式
43	2	S107 pit12	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(8.4)	LR斜行回転施文。	植物繊維混入	前期末
43	3	S1-08	周土-507下	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(6.4)	結束、LR斜行回転。	雲母含む、植物繊維混入	前期末
43	4	S1-08	周土-507下	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.0)	RL斜行回転。	植物繊維混入	円筒下層式
43	5	S1-08	77上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.2)	結束第1種横位2段回転施文、LR半単軸条体単1類回転施文。	植物繊維、針状物質含む	円筒下層式
43	6	S1-08	77上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.1)	口縁LR斜回転、RL2段結束1種による横位回転。	植物繊維、針状物質含む	円筒下層式
61	1	S6.02	東溝	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.0)	平行沈線間に刺突、LR斜行回転施文(横位)。	雲母	大浦式か
61	2	S6.02	東溝	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(3.9)	三角形突起、LR斜行回転施文。沈線、刺突。		大浦式か
61	3	S6.02	東溝	縄文	台付鉢?	台部	－	－	(1.9)	台付鉢の脚部か。		大浦式か
61	4	S6.02	東溝	縄文	鉢	口縁部	－	－	(6.4)	LR斜行回転施文。	口縁直下に穿孔	縄期末か
61	5	S6.02	東溝	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.4)	口縁下2本一組の刺突列、結束2段LR斜回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	6	S6.02	東溝	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.8)	1類文。		縄期
61	7	S6.02	東溝	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.2)	LR斜行回転施文。		縄期
61	8	S6.02	東溝	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.4)	RL斜行回転施文。	内面炭化物付着。	縄期
61	9	S6.02	東溝	縄文	鉢	底部	－	6.6	(3.2)	RL斜行回転施文。		縄期
61	10	S6.05	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.4)	平行沈線間に刺突、平行沈線間に結束、側面LR縦回転施文。	内外面炭化物付着。	大浦式か
61	11	S6.05	周土	縄文	深鉢	胴部	－	－	(6.8)	LR斜行回転施文。		縄期
61	15	S6.06	東溝	縄文	深鉢	底部	－	(11.2)	(3.6)	1類文。	底外面に不明炭素付。胴部一部に穴あり。胴部一部に穴あり。	縄期か
61	16	S6.09	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(2.4)	沈線間平行線間を斜行回転。	雲母。	大浦式か
61	17	S6.09、S6.15	東溝東上、S6.15底面東上P1	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.1)	RL斜行回転施文。		縄期末か
61	18	S6.09	東溝東上P1	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.8)	RL斜行回転施文。		縄期
61	19	S6.09	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.5)	隆帯上に刺突、半単軸条体縦位回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	20	S6.09	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.5)	1類文。	植物繊維混入	前期末
61	21	S6.09	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.2)	LR斜行回転施文。	針状物質含む	縄期
61	22	S6.11	東溝東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(6.5)	1類文。	雲母含む	前期末か
61	23	S6.15	東溝東上P1	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.4)	LR斜行回転施文。		縄期
61	24	S6.15	東	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(6.6)	半単軸条体単1類縦行回転施文。	植物繊維混入	前期末か
61	25	S6.15	東	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.1)	1類波状口縁、結束回転文、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式か
61	27	S6.19	東V-80(S1501)周囲P2	縄文	深鉢	胴部	－	(9.7)	(8.0)	胴部突起下部に隆帯状に刺突文2条間を半単軸条体縦回転施文の直線。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
61	28	S6.19	東V-80(S1501)周囲P2	縄文	深鉢	胴部	－	－	(6.2)	RL斜行回転施文。	植物繊維混入、針状物質含む	円筒下層式
61	29	S6.19	東上P1	縄文?	深鉢?	底部	－	(8.0)	(2.4)	1類底部。	針状物質含む	縄期か
61	30	S6.21	東上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(2.4)	1類文。		円筒下層式
61	31	S6.21	東上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.0)	1類波状、口縁下隆起帯、隆起部突列。	植物繊維混入	円筒下層式
61	32	S6.21	東上	縄文	深鉢	胴部下半	－	－	(6.4)	1類文。		円筒下層式
61	33	S6.21	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(6.1)	1類文。		縄期
61	34	S6.21	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(4.2)	結束第1種横位回転施文、RL斜行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	35	S6.21	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(7.0)	RL斜行回転施文。		縄期
61	36、37	S6.21、S6.24	東溝東、S6.24上P2	縄文	深鉢	胴部下半	－	6.2	(3.1)	口縁直下ヨコナデ、胴部ミガキ。	雲母和チャート混ず。	縄期か
61	38	S6.31	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.8)	半単軸条体単1類縦行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	39	S6.31	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(7.2)	半単軸条体単1類縦行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	40	S6.31	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.0)	半単軸条体単1類縦行回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
61	41	S6.31	東上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.8)	半単軸条体単1類縦回転、口縁LR横回転施文。	植物繊維混入	円筒下層式
62	27	S8.31	東溝東	縄文	深鉢	底部	－	(11.6)	(4.1)	結束平行線文が斜行する。胴部に1本沈線。	植物繊維混入	円筒下層式
62	28	S8.33	東溝西上	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.6)	口縁波状、平行沈線、口縁2段LR。	内面炭化物付着。	縄期
62	29	S8.39	東III-31、周上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.0)	口縁波状、平行沈線、口縁2段LR。		大浦式
62	30	S8.39	東	縄文	深鉢	体部上半	10.8	－	(5.7)	口縁直下横位の回転施文、胴部RL斜行回転施文。	口縁直下に穴	縄期
62	31	S8.39	東III-31、周上	縄文	深鉢	胴部	－	－	(5.0)	平行沈線、口縁2段LR回転施文。	内面炭化物付着。	縄期か
62	32	S8.39	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.6)	RL斜行回転施文。平行沈線。		大浦式
62	33	S8.39	東	縄文	深鉢	胴部	－	－	(3.8)	1類文。		大浦式か
62	35	S8.39	東III-31、周上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.3)	波状口縁、刺突、1類波状文。	植物繊維混入	円筒下層式か
62	36	S8.39	－	縄文	深鉢	胴部上半	－	－	(5.3)	胴部突起下部に隆帯状に刺突文2条間を半単軸条体縦回転施文の直線？。	植物繊維混入	円筒下層式

表1　土器観察表（2）

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
62	32	SK39	-	縄文	深鉢	胴部	-	-	(5.3)	1単軸斜条体側面圧痕、側面圧痕不明(表巻回転文?)条痕と単軸斜条体側面又の重複?	植物繊維無混入。	円筒下層式
63	1	SK37	覆土	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(2.1)	沈線。		十腰内1式
63	2	SK37	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(5.2)	沈線。		十腰内1式
63	3	SK37, SX05	SK37覆土、SX05覆土一括V-32上層	縄文	深鉢	底部	-	11.5	(8.5)	(無文)		十腰内1式
63	4	SK37	覆土	縄文	鉢	口縁部	8.2	-	(4.1)	口縁内面に縦1条。		晩期
63	5	SK37	覆土	縄文	浅鉢?	胴部	-	-	(2.4)	沈線。		晩期
63	6	SK37	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(4.4)	沈線。		後期組織
63	7	SK37	SK37覆土、V-8一括	縄文	浅鉢	体部上半	-	-	(4.9)	平行沈線、縦位短沈線、突起。	針状物質無混入。	大洞A式
63	8	SK37	SK37覆土、V-8一括V-8	縄文	深鉢	底部	-	9.8	(2.6)	(無文)		晩期?
63	9	SK37	覆土F2-2	縄文	深鉢	底部上半	28.8	-	(17.0)	沈線。		円筒下層式
63	10	SK40	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(8.0)	1単軸斜条体第1類縦回転施文。	植物繊維混入。	円筒下層式
63	11	SK40	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(8.0)	1単軸斜条体第1類縦回転施文。	植物繊維無混入。	円筒下層式
64	7	SK47	覆土	弥生	鉢	胴部	-	-	(3.6)	平行沈線、口縁部・胴位回転施文。		五所式～井沢式
64	8	SK49	覆土	弥生	口縁部	口縁部	-	-	(5.9)	口縁刻み?、?線沈による平行刻線?、平行沈線、結束沈線文。		井沢式
64	9	SK49	覆土	弥生	台付土器	台部	-	5.9	(3.1)	平行沈線、波状文、縦長透かし。		五所式～井沢式
64	10	SK40	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(4.6)	1単軸斜条体第1類縦回転施文。	植物繊維無混入。	円筒下層式
64	11	SK40	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(5.9)	1単軸斜条体第1類縦回転施文。	植物繊維無混入。	円筒下層式
64	12	SK40	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(5.9)	1単軸斜条体第1類縦回転施文。	植物繊維無混入。	円筒下層式
64	13	SK40	覆土F1	縄文	深鉢	胴部	-	-	(4.6)	口縁～口縁に1単軸斜条、側面多軸斜条体縦回転施文。	植物繊維無混入。	円筒下層式
65	1	SK43	覆土F1	縄文	深鉢	底部	17.1	8.4	24.9	口縁～口縁に1単軸斜条、側面多軸斜条体縦回転施文。		円筒下層式
65	2	SK43	覆土F1	縄文	深鉢	胴部	-	-	(8.0)	多軸斜条体縦位回転施文。		前期
65	3	SK43	覆土一括	縄文	深鉢	胴部	-	-	(8.3)	多軸斜条体縦位回転施文。		前期
65	4	SK43	覆土F1	縄文	深鉢	胴部	-	-	(8.1)	口縁位回転施文。		前期
65	5	SK43	覆土一括	縄文	深鉢	胴部	-	-	(4.1)	1単軸斜条第1類縦回転施文。		前期
65	7	SK54	覆土	縄文	深鉢	胴部	-	-	(4.7)	2と平行の条件交互に重ね合わせた単軸斜条体第1類を縦位回転。	植物繊維無混入。	円筒下層式
65	8	SK57	覆土	弥生	台付土器	台部	-	(9.8)	(3.6)	平行沈線、波状文、刻目、縦長透かし。	赤彩。	五所式～井沢式
65	9	SK57	覆土	縄文?	深鉢	底部	-	-	(2.4)	組紐圧痕縦施文、編目?圧痕。		晩期～弥生
65	10	SK58	確認面	弥生	小型壺	口頸部	-	-	(3.0)	組紐圧痕縦施文。		弥生前半
65	11	SK50	SK50覆土V-8、第4-46a図	弥生	壺	口縁部	31.2	-	(3.6)	口縁部に組紐圧痕縦施文?(平行線)、頸部に沈線、内面沈線3条。		五所式～井沢式
65	12	SK50	覆土V-8	弥生	台付浅鉢	口縁部	-	-	(5.4)	刻目口縁、平行沈線、沈線、組紐圧痕縦施文。	赤彩。	五所式～井沢式
65	13	SK50	SK50覆土V-8、第4-46a図	弥生	台付鉢	体部下半	-	8.8	(10.6)	平行沈線、組紐圧痕縦施文、刻目平行沈線、波状文、沈線、透かし。		五所式～井沢式
65	14	SK50, SK52, SP52	SK50覆土V-8、SP52覆土	弥生	台付浅鉢	胴部下半	-	-	(10.0)	平行沈線、胴部組紐圧痕縦施文。	赤彩。針状物質無混入。	第4-14・SB66-7層一括。	五所式～井沢式
66	1	SK01, SK66, SX06	SK31覆土、SK40確認面、SX06第5P19、P20、第4-65b表層・第4a-15図	弥生	広口壺	体部上半	15.8	-	(16.2)	口縁刻み、口縁平行沈線、口縁直行刻線施文、内面沈線1条、貫通孔あり、胴部平行沈線、変形工文?、1単位の胴部文、平行沈線。	赤彩。	第2-4・SB66-1層、SB83-10、SD31-5、SD210-23同一個体。	井沢式
66	3	SK31	覆土	弥生	壺	口縁部	6.6	-	(3.0)	平行沈線、結束沈線。		五所式～井沢式
66	4	SK31	覆土	弥生	浅鉢	口縁部	-	-	(4.0)	口縁刻み、平行沈線、変形工文?、内面沈線2条。	赤彩。	五所式
66	5	SK31	覆土	弥生	土鍋	口縁部	-	-	(2.0)	波状口縁、平行沈線、内面沈線2条。		五所式
66	8	SK34	SK34覆土1、第4-46a図、第4-62b図、第4-63b図、第4-65a図、第4-65b図、第4-65d図、第4-66図	弥生	壺?・甕?	体部下半	-	(6.0)	(13.4)	結束沈線、胴部組紐圧痕縦施文。	針状物質無混入。	五所式～井沢式
66	6	SK34	覆土	弥生	台付土器	台部	-	12.2	(5.1)	平行沈線、波状文。	針状物質無混入。	五所式～井沢式
66	7	SK38	SK38覆土F1、第4-46b図、第4-66図	弥生	台付浅鉢	胴部	-	-	(8.0)	平行沈線、結束沈線。	赤彩。	第2-14・SB66-7層一個体。	五所式～井沢式
67	1	SK32	SK32覆土、第4-46b図、第4-67図、第4-68a図、第4-68b図、第4-68c図、第4-68d図、第4-68e図、第4-68f図、第4-68g図、第4-68h図、第4-68i図、第4-68j図、第4-68k図、第4-68l図、第4-68m図、第4-68n図、第4-68o図、第4-68p図、第4-68q図、第4-68r図、第4-68s図、第4-68t図、第4-68u図、第4-68v図、第4-68w図、第4-68x図、第4-68y図、第4-68z図、第4-68aa図、第4-68ab図、第4-68ac図、第4-68ad図、第4-68ae図、第4-68af図、第4-68ag図、第4-68ah図、第4-68ai図、第4-68aj図、第4-68ak図、第4-68al図、第4-68am図、第4-68an図、第4-68ao図、第4-68ap図、第4-68aq図、第4-68ar図、第4-68as図、第4-68at図、第4-68au図、第4-68av図、第4-68aw図、第4-68ax図、第4-68ay図、第4-68az図、第4-68ba図、第4-68bb図、第4-68bc図、第4-68bd図、第4-68be図、第4-68bf図、第4-68bg図、第4-68bh図、第4-68bi図、第4-68bj図、第4-68bk図、第4-68bl図、第4-68bm図、第4-68bn図、第4-68bo図、第4-68bp図、第4-68bq図、第4-68br図、第4-68bs図、第4-68bt図、第4-68bu図、第4-68bv図、第4-68bw図、第4-68bx図、第4-68by図、第4-68bz図、第4-68ca図、第4-68cb図、第4-68cc図、第4-68cd図、第4-68ce図、第4-68cf図、第4-68cg図、第4-68ch図、第4-68ci図、第4-68cj図、第4-68ck図、第4-68cl図、第4-68cm図、第4-68cn図、第4-68co図、第4-68cp図、第4-68cq図、第4-68cr図、第4-68cs図、第4-68ct図、第4-68cu図、第4-68cv図、第4-68cw図、第4-68cx図、第4-68cy図、第4-68cz図、第4-68da図、第4-68db図、第4-68dc図、第4-68dd図、第4-68de図、第4-68df図、第4-68dg図、第4-68dh図、第4-68di図、第4-68dj図、第4-68dk図、第4-68dl図、第4-68dm図、第4-68dn図、第4-68do図、第4-68dp図、第4-68dq図、第4-68dr図、第4-68ds図、第4-68dt図、第4-68du図、第4-68dv図、第4-68dw図、第4-68dx図、第4-68dy図、第4-68dz図、第4-68ea図、第4-68eb図、第4-68ec図、第4-68ed図、第4-68ee図、第4-68ef図、第4-68eg図、第4-68eh図、第4-68ei図、第4-68ej図、第4-68ek図、第4-68el図、第4-68em図、第4-68en図、第4-68eo図、第4-68ep図、第4-68eq図、第4-68er図、第4-68es図、第4-68et図、第4-68eu図、第4-68ev図、第4-68ew図、第4-68ex図、第4-68ey図、第4-68ez図、第4-68fa図、第4-68fb図、第4-68fc図、第4-68fd図、第4-68fe図、第4-68ff図、第4-68fg図、第4-68fh図、第4-68fi図、第4-68fj図、第4-68fk図、第4-68fl図、第4-68fm図、第4-68fn図、第4-68fo図、第4-68fp図、第4-68fq図、第4-68fr図、第4-68fs図、第4-68ft図、第4-68fu図、第4-68fv図、第4-68fw図、第4-68fx図、第4-68fy図、第4-68fz図、第4-68ga図、第4-68gb図、第4-68gc図、第4-68gd図、第4-68ge図、第4-68gf図、第4-68gg図、第4-68gh図、第4-68gi図、第4-68gj図、第4-68gk図、第4-68gl図、第4-68gm図、第4-68gn図、第4-68go図、第4-68gp図、第4-68gq図、第4-68gr図、第4-68gs図、第4-68gt図、第4-68gu図、第4-68gv図、第4-68gw図、第4-68gx図、第4-68gy図、第4-68gz図、第4-68ha図、第4-68hb図、第4-68hc図、第4-68hd図、第4-68he図、第4-68hf図、第4-68hg図、第4-68hh図、第4-68hi図、第4-68hj図、第4-68hk図、第4-68hl図、第4-68hm図、第4-68hn図、第4-68ho図、第4-68hp図、第4-68hq図、第4-68hr図、第4-68hs図、第4-68ht図、第4-68hu図、第4-68hv図、第4-68hw図、第4-68hx図、第4-68hy図、第4-68hz図、第4-68ia図、第4-68ib図、第4-68ic図、第4-68id図、第4-68ie図、第4-68if図、第4-68ig図、第4-68ih図、第4-68ii図、第4-68ij図、第4-68ik図、第4-68il図、第4-68im図、第4-68in図、第4-68io図、第4-68ip図、第4-68iq図、第4-68ir図、第4-68is図、第4-68it図、第4-68iu図、第4-68iv図、第4-68iw図、第4-68ix図、第4-68iy図、第4-68iz図、第4-68ja図、第4-68jb図、第4-68jc図、第4-68jd図、第4-68je図、第4-68jf図、第4-68jg図、第4-68jh図、第4-68ji図、第4-68jj図、第4-68jk図、第4-68jl図、第4-68jm図、第4-68jn図、第4-68jo図、第4-68jp図、第4-68jq図、第4-68jr図、第4-68js図、第4-68jt図、第4-68ju図、第4-68jv図、第4-68jw図、第4-68jx図、第4-68jy図、第4-68jz図、第4-68ka図、第4-68kb図、第4-68kc図、第4-68kd図、第4-68ke図、第4-68kf図、第4-68kg図、第4-68kh図、第4-68ki図、第4-68kj図、第4-68kk図、第4-68kl図、第4-68km図、第4-68kn図、第4-68ko図、第4-68kp図、第4-68kq図、第4-68kr図、第4-68ks図、第4-68kt図、第4-68ku図、第4-68kv図、第4-68kw図、第4-68kx図、第4-68ky図、第4-68kz図、第4-68la図、第4-68lb図、第4-68lc図、第4-68ld図、第4-68le図、第4-68lf図、第4-68lg図、第4-68lh図、第4-68li図、第4-68lj図、第4-68lk図、第4-68ll図、第4-68lm図、第4-68ln図、第4-68lo図、第4-68lp図、第4-68lq図、第4-68lr図、第4-68ls図、第4-68lt図、第4-68lu図、第4-68lv図、第4-68lw図、第4-68lx図、第4-68ly図、第4-68lz図、第4-68ma図、第4-68mb図、第4-68mc図、第4-68md図、第4-68me図、第4-68mf図、第4-68mg図、第4-68mh図、第4-68mi図、第4-68mj図、第4-68mk図、第4-68ml図、第4-68mm図、第4-68mn図、第4-68mo図、第4-68mp図、第4-68mq図、第4-68mr図、第4-68ms図、第4-68mt図、第4-68mu図、第4-68mv図、第4-68mw図、第4-68mx図、第4-68my図、第4-68mz図、第4-68na図、第4-68nb図、第4-68nc図、第4-68nd図、第4-68ne図、第4-68nf図、第4-68ng図、第4-68nh図、第4-68ni図、第4-68nj図、第4-68nk図、第4-68nl図、第4-68nm図、第4-68nn図、第4-68no図、第4-68np図、第4-68nq図、第4-68nr図、第4-68ns図、第4-68nt図、第4-68nu図、第4-68nv図、第4-68nw図、第4-68nx図、第4-68ny図、第4-68nz図、第4-68oa図、第4-68ob図、第4-68oc図、第4-68od図、第4-68oe図、第4-68of図、第4-68og図、第4-68oh図、第4-68oi図、第4-68oj図、第4-68ok図、第4-68ol図、第4-68om図、第4-68on図、第4-68oo図、第4-68op図、第4-68oq図、第4-68or図、第4-68os図、第4-68ot図、第4-68ou図、第4-68ov図、第4-68ow図、第4-68ox図、第4-68oy図、第4-68oz図、第4-68pa図、第4-68pb図、第4-68pc図、第4-68pd図、第4-68pe図、第4-68pf図、第4-68pg図、第4-68ph図、第4-68pi図、第4-68pj図、第4-68pk図、第4-68pl図、第4-68pm図、第4-68pn図、第4-68po図、第4-68pp図、第4-68pq図、第4-68pr図、第4-68ps図、第4-68pt図、第4-68pu図、第4-68pv図、第4-68pw図、第4-68px図、第4-68py図、第4-68pz図、第4-68qa図、第4-68qb図、第4-68qc図、第4-68qd図、第4-68qe図、第4-68qf図、第4-68qg図、第4-68qh図、第4-68qi図、第4-68qj図、第4-68qk図、第4-68ql図、第4-68qm図、第4-68qn図、第4-68qo図、第4-68qp図、第4-68qq図、第4-68qr図、第4-68qs図、第4-68qt図、第4-68qu図、第4-68qv図、第4-68qw図、第4-68qx図、第4-68qy図、第4-68qz図、第4-68ra図、第4-68rb図、第4-68rc図、第4-68rd図、第4-68re図、第4-68rf図、第4-68rg図、第4-68rh図、第4-68ri図、第4-68rj図、第4-68rk図、第4-68rl図、第4-68rm図、第4-68rn図、第4-68ro図、第4-68rp図、第4-68rq図、第4-68rr図、第4-68rs図、第4-68rt図、第4-68ru図、第4-68rv図、第4-68rw図、第4-68rx図、第4-68ry図、第4-68rz図、第4-68sa図、第4-68sb図、第4-68sc図、第4-68sd図、第4-68se図、第4-68sf図、第4-68sg図、第4-68sh図、第4-68si図、第4-68sj図、第4-68sk図、第4-68sl図、第4-68sm図、第4-68sn図、第4-68so図、第4-68sp図、第4-68sq図、第4-68sr図、第4-68ss図、第4-68st図、第4-68su図、第4-68sv図、第4-68sw図、第4-68sx図、第4-68sy図、第4-68sz図、第4-68ta図、第4-68tb図、第4-68tc図、第4-68td図、第4-68te図、第4-68tf図、第4-68tg図、第4-68th図、第4-68ti図、第4-68tj図、第4-68tk図、第4-68tl図、第4-68tm図、第4-68tn図、第4-68to図、第4-68tp図、第4-68tq図、第4-68tr図、第4-68ts図、第4-68tt図、第4-68tu図、第4-68tv図、第4-68tw図、第4-68tx図、第4-68ty図、第4-68tz図、第4-68ua図、第4-68ub図、第4-68uc図、第4-68ud図、第4-68ue図、第4-68uf図、第4-68ug図、第4-68uh図、第4-68ui図、第4-68uj図、第4-68uk図、第4-68ul図、第4-68um図、第4-68un図、第4-68uo図、第4-68up図、第4-68uq図、第4-68ur図、第4-68us図、第4-68ut図、第4-68uu図、第4-68uv図、第4-68uw図、第4-68ux図、第4-68uy図、第4-68uz図、第4-68va図、第4-68vb図、第4-68vc図、第4-68vd図、第4-68ve図、第4-68vf図、第4-68vg図、第4-68vh図、第4-68vi図、第4-68vj図、第4-68vk図、第4-68vl図、第4-68vm図、第4-68vn図、第4-68vo図、第4-68vp図、第4-68vq図、第4-68vr図、第4-68vs図、第4-68vt図、第4-68vu図、第4-68vv図、第4-68vw図、第4-68vx図、第4-68vy図、第4-68vz図、第4-68wa図、第4-68wb図、第4-68wc図、第4-68wd図、第4-68we図、第4-68wf図、第4-68wg図、第4-68wh図、第4-68wi図、第4-68wj図、第4-68wk図、第4-68wl図、第4-68wm図、第4-68wn図、第4-68wo図、第4-68wp図、第4-68wq図、第4-68wr図、第4-68ws図、第4-68wt図、第4-68wu図、第4-68wv図、第4-68ww図、第4-68wx図、第4-68wy図、第4-68wz図、第4-68xa図、第4-68xb図、第4-68xc図、第4-68xd図、第4-68xe図、第4-68xf図、第4-68xg図、第4-68xh図、第4-68xi図、第4-68xj図、第4-68xk図、第4-68xl図、第4-68xm図、第4-68xn図、第4-68xo図、第4-68xp図、第4-68xq図、第4-68xr図、第4-68xs図、第4-68xt図、第4-68xu図、第4-68xv図、第4-68xw図、第4-68xx図、第4-68xy図、第4-68xz図、第4-68ya図、第4-68yb図、第4-68yc図、第4-68yd図、第4-68ye図、第4-68yf図、第4-68yg図、第4-68yh図、第4-68yi図、第4-68yj図、第4-68yk図、第4-68yl図、第4-68ym図、第4-68yn図、第4-68yo図、第4-68yp図、第4-68yq図、第4-68yr図、第4-68ys図、第4-68yt図、第4-68yu図、第4-68yv図、第4-68yw図、第4-68yx図、第4-68yy図、第4-68yz図、第4-68za図、第4-68zb図、第4-68zc図、第4-68zd図、第4-68ze図、第4-68zf図、第4-68zg図、第4-68zh図、第4-68zi図、第4-68zj図、第4-68zk図、第4-68zl図、第4-68zm図、第4-68zn図、第4-68zo図、第4-68zp図、第4-68zq図、第4-68zr図、第4-68zs図、第4-68zt図、第4-68zu図、第4-68zv図、第4-68zw図、第4-68zx図、第4-68zy図、第4-68zz図、第4-68aa図、第4-68ab図、第4-68ac図、第4-68ad図、第4-68ae図、第4-68af図、第4-68ag図、第4-68ah図、第4-68ai図、第4-68aj図、第4-68ak図、第4-68al図、第4-68am図、第4-68an図、第4-68ao図、第4-68ap図、第4-68aq図、第4-68ar図、第4-68as図、第4-68at図、第4-68au図、第4-68av図、第4-68aw図、第4-68ax図、第4-68ay図、第4-68az図、第4-68ba図、第4-68bb図、第4-68bc図、第4-68bd図、第4-68be図、第4-68bf図、第4-68bg図、第4-68bh図、第4-68bi図、第4-68bj図、第4-68bk図、第4-68bl図、第4-68bm図、第4-68bn図、第4-68bo図、第4-68bp図、第4-68bq図、第4-68br図、第4-68bs図、第4-68bt図、第4-68bu図、第4-68bv図、第4-68bw図、第4-68bx図、第4-68by図、第4-68bz図、第4-68ca図、第4-68cb図、第4-68cc図、第4-68cd図、第4-68ce図、第4-68cf図、第4-68cg図、第4-68ch図、第4-68ci図、第4-68cj図、第4-68ck図、第4-68cl図、第4-68cm図、第4-68cn図、第4-68co図、第4-68cp図、第4-68cq図、第4-68cr図、第4-68cs図、第4-68ct図、第4-68cu図、第4-68cv図、第4-68cw図、第4-68cx図、第4-68cy図、第4-68cz図、第4-68da図、第4-68db図、第4-68dc図、第4-68dd図、第4-68de図、第4-68df図、第4-68dg図、第4-68dh図、第4-68di図、第4-68dj図、第4-68dk図、第4-68dl図、第4-68dm図、第4-68dn図、第4-68do図、第4-68dp図、第4-68dq図、第4-68dr図、第4-68ds図、第4-68dt図、第4-68du図、第4-68dv図、第4-68dw図、第4-68dx図、第4-68dy図、第4-68dz図、第4-68ea図、第4-68eb図、第4-68ec図、第4-68ed図、第4-68ee図、第4-68ef図、第4-68eg図、第4-68eh図、第4-68ei図、第4-68ej図、第4-68ek図、第4-68el図、第4-68em図、第4-68en図、第4-68eo図、第4-68ep図、第4-68eq図、第4-68er図、第4-68es図、第4-68et図、第4-68eu図、第4-68ev図、第4-68ew図、第4-68ex図、第4-68ey図、第4-68ez図、第4-68fa図、第4-68fb図、第4-68fc図、第4-68fd図、第4-68fe図、第4-68ff図、第4-68fg図、第4-68fh図、第4-68fi図、第4-68fj図、第4-68fk図、第4-68fl図、第4-68fm図、第4-68fn図、第4-68fo図、第4-68fp図、第4-68fq図、第4-68fr図、第4-68fs図、第4-68ft図、第4-68fu図、第4-68fv図、第4-68fw図、第4-68fx図、第4-68fy図、第4-68fz図、第4-68ga図、第4-68gb図、第4-68gc図、第4-68gd図、第4-68ge図、第4-68gf図、第4-68gg図、第4-68gh図、第4-68gi図、第4-68gj図、第4-68gk図、第4-68gl図、第4-68gm図、第4-68gn図、第4-68go図、第4-68gp図、第4-68gq図、第4-68gr図、第4-68gs図、第4-68gt図、第4-68gu図、第4-68gv図、第4-68gw図、第4-68gx図、第4-68gy図、第4-68gz図、第4-68ha図、第4-68hb図、第4-68hc図、第4-68hd図、第4-68he図、第4-68hf図、第4-68hg図、第4-68hh図、第4-68hi図、第4-68hj図、第4-68hk図、第4-68hl図、第4-68hm図、第4-68hn図、第4-68ho図、第4-68hp図、第4-68hq図、第4-68hr図、第4-68hs図、第4-68ht図、第4-68hu図、第4-68hv図、第4-68hw図、第4-68hx図、第4-68hy図、第4-68hz図、第4-68ia図、第4-68ib図、第4-68ic図、第4-68id図、第4-68ie図、第4-68if図、第4-68ig図、第4-68ih図、第4-68ii図、第4-68ij図、第4-68ik図、第4-68il図、第4-68im図、第4-68in図、第4-68io図、第4-68ip図、第4-68iq図、第4-68ir図、第4-68is図、第4-68it図、第4-68iu図、第4-68iv図、第4-68iw図、第4-68ix図、第4-68iy図、第4-68iz図、第4-68ja図、第4-68jb図、第4-68jc図、第4-68jd図、第4-68je図、第4-68jf図、第4-68jg図、第4-68jh図、第4-68ji図、第4-68jj図、第4-68jk図、第4-68jl図、第4-68jm図、第4-68jn図、第4-68jo図、第4-68jp図、第4-68jq図、第4-68jr図、第4-68js図、第4-68jt図、第4-68ju図、第4-68jv図、第4-68jw図、第4-68jx図、第4-68jy図、第4-68jz図、第4-68ka図、第4-68kb図、第4-68kc図、第4-68kd図、第4-68ke図、第4-68kf図、第4-68kg図、第4-68kh図、第4-68ki図、第4-68kj図、第4-68kk図、第4-68kl図、第4-68km図、第4-68kn図、第4-68ko図、第4-68kp図、第4-68kq図、第4-68kr図、第4-68ks図、第4-68kt図、第4-68ku図、第4-68kv図、第4-68kw図、第4-68kx図、第4-68ky図、第4-68kz図、第4-68la図、第4-68lb図、第4-68lc図、第4-68ld図、第4-68le図、第4-68lf図、第4-68lg図、第4-68lh図、第4-68li図、第4-68lj図、第4-68lk図、第4-68ll図、第4-68lm図、第4-68ln図、第4-68lo図、第4-68lp図、第4-68lq図、第4-68lr図、第4-68ls図、第4-68lt図、第4-68lu図、第4-68lv図、第4-68lw図、第4-68lx図、第4-68ly図、第4-68lz図、第4-68ma図、第4-68mb図、第4-68mc図、第4-68md図、第4-68me図、第4-68mf図、第4-68mg図、第4-68mh図、第4-68mi図、第4-68mj図、第4-68mk図、第4-68ml図、第4-68mm図、第4-68mn図、第4-68mo図、第4-68mp図、第4-68mq図、第4-68mr図、第4-68ms図、第4-68mt図、第4-68mu図、第4-68mv図、第4-68mw図、第4-68mx図、第4-68my図、第4-68mz図、第4-68na図、第4-68nb図、第4-68nc図、第4-68nd図、第4-68ne図、第4-68nf図、第4-68ng図、第4-68nh図、第4-68ni図、第4-68nj図、第4-68nk図、第4-68nl図、第4-68nm図、第4-68nn図、第4-68no図、第4-68np図、第4-68nq図、第4-68nr図、第4-68ns図、第4-68nt図、第4-68nu図、第4-68nv図、第4-68nw図、第4-68nx図、第4-68ny図、第4-68nz図、第4-68oa図、第4-68ob図、第4-68oc図、第4-68od図、第4-68oe図、第4-68of図、第4-68og図、第4-68oh図、第4-68oi図、第4-68oj図、第4-68ok図、第4-68ol図、第4-68om図、第4-68on図、第4-68oo図、第4-68op図、第4-68oq図、第4-68or図、第4-68os図、第4-68ot図、第4-68ou図、第4-68ov図、第4-68ow図、第4-68ox図、第4-68oy図、第4-68oz図、第4-68pa図、第4-68pb図、第4-68pc図、第4-68pd図、第4-68pe図、第4-68pf図、第4-68pg図、第4-68ph図、第4-68pi図、第4-68pj図、第4-68pk図、第4-68pl図、第4-68pm図、第4-68pn図、第4-68po図、第4-68pp図、第4-68pq図、第4-68pr図、第4-68ps図、第4-68pt図、第4-68pu図、第4-68pv図、第4-68pw図、第4-68px図、第4-68py図、第4-68pz図、第4-68qa図、第4-68qb図、第4-68qc図、第4-68qd図、第4-68qe図、第4-68qf図、第4-68qg図、第4-68qh図、第4-68qi図、第4-68qj図、第4-68qk図、第4-68ql図、第4-68qm図、第4-68qn図、第4-68qo図、第4-68qp図、第4-68qq図、第4-68qr図、第4-68qs図、第4-68qt図、第4-68qu図、第4-68qv図、第4-68qw図、第4-68qx図、第4-68qy図、第4-68qz図、第4-68ra図、第4-68rb図、第4-68rc図、第4-68rd図、第4-68re図、第4-68rf図、第4-68rg図、第4-68rh図、第4-68ri図、第4-68rj図、第4-68rk図、第4-68rl図、第4-68rm図、第4-68rn図、第4-68ro図、第4-68rp図、第4-68rq図、第4-68rr図、第4-68rs図、第4-68rt図、第4-68ru図、第4-68rv図、第4-68rw図、第4-68rx図、第4-68ry図、第4-68rz図、第4-68sa図、第4-68sb図、第4-68sc図、第4-68sd図、第4-68se図、第4-68sf図、第4-68sg図、第4-68sh図、第4-68si図、第4-68sj図、第4-68sk図、第4-68sl図、第4-68sm図、第4-68sn図、第4-68so図、第4-68sp図、第4-68sq図、第4-68sr図、第4-68ss図、第4-68st図、第4-68su図、第4-68sv図、第4-68sw図、第4-68sx図、第4-68sy図、第4-68sz図、第4-68ta図、第4-68tb図、第4-68tc図、第4-68td図、第4-68te図、第4-68tf図、第4-68tg図、第4-68th図、第4-68ti図、第4-68tj図、第4-68tk図、第4-68tl図、第4-68tm図、第4-68tn図、第4-68to図、第4-68tp図、第4-68tq図、第4-68tr図、第4-68ts図、第4-68tt図、第4-68tu図、第4-68tv図、第4-68tw図、第4-68tx図、第4-68ty図、第4-68tz図、第4-68ua図、第4-68ub図、第4-68uc図、第4-68ud図、第4-68ue図、第4-68uf図、第4-68ug図、第4-68uh図、第4-68ui図、第4-68uj図、第4-68uk図、第4-68ul図、第4-68um図、第4-68un図、第4-68uo図、第4-68up図、第4-68uq図、第4-68ur図、第4-68us図、第4-68ut図、第4-68uu図、第4-68uv図、第4-68uw図、第4-68ux図、第4-68uy図、第4-68uz図、第4-68va図、第4-68vb図、第4-68vc図、第4-68vd図、第4-68ve図、第4-68vf図、第4-68vg図、第4-68vh図、第4-68vi図、第4-68vj図、第4-68vk図、第4-68vl図、第4-68vm図、第4-68vn図、第4-68vo図、第4-68vp図、第4-68vq図、第4-68vr図、第4-68vs図、第4-68vt図、第4-68vu図、第4-68vv図、第4-68vw図、第4-68vx図、第4-68vy図、第4-68vz図、第4-68wa図、第4-68wb図、第4-68wc図、第4-68wd図、第4-68we図、第4-68wf図、第4-68wg図、第4-68wh図、第4-68wi図、第4-68wj図、第4-68wk図、第4-68wl図、第4-68wm図、第4-68wn図、第4-68wo図、第4-68wp図、第4-68wq図、第4-68wr図、第4-68ws図、第4-68wt図、第4-68wu図、第4-68wv図、第4-68ww図、第4-68wx図、第4-68wy図、第4-68wz図、第4-68xa図、第4-68xb図、第4-68xc図、第4-68xd図、第4-68xe図、第4-68xf図、第4-68xg図、第4-68xh図、第4-68xi図、第4-68xj図、第4-68xk図、第4-68xl図、第4-68xm図、第4-68xn図、第4-68xo図、第4-68xp図、第4-68xq図、第4-68xr図、第4-68xs図、第4-68xt図、第4-68xu図、第4-68xv図、第4-68xw図、第4-68xx図、第4-68xy図、第4-68xz図、第4-68ya図、第4-68yb図、第4-68yc図、第4-68yd図、第4-68ye図、第4-68yf図、第4-68yg図、第4-68yh図、第4-68yi図、第4-68yj図、第4-68yk図、第4-68yl図、第4-68ym図、第4-68yn図、第4-68yo図、第4-68yp図、第4-68yq図、第4-68yr図、第4-68ys図、第4-68yt図、第4-68yu図、第4-68yv図、第4-68yw図、第4-68yx図、第4-68yy図、第4-68yz図、第4-68za図、第4-68zb図、第4-68zc図、第4-68zd図、第4-68ze図、第4-68zf図、第4-68zg図、第4-68zh図、第4-68zi図、第4-68zj図、第4-68zk図、第4-68zl図、第4-68zm図、第4-68zn図、第4-68zo図、第4-68zp図、第4-68zq図、第4-68zr図、第4-68zs図、第4-68zt図、第4-68zu図、第4-68zv図、第4-68zw図、第4-68zx図、第4-68zy図、第4-68zz図、第4-68aa図、第4-68ab図、第4-68ac図、第4-68ad図、第4-68ae図、第4-68af図、第4-68ag図、第4-68ah図、第4-68ai図、第4-68aj図、第4-68ak図、第4-68al図、第4-68am図、第4-68an図、第4-68ao図、第4-68ap図、第4-68aq図、第4-68ar図、第4-68as図、第4-68at図、第4-68au図、第4-68av図、第4-68aw図、第4-68ax図、第4-68ay図、第4-68az図、第4-68ba図、第4-68bb図、第4-68bc図、第4-68bd図、第4-68be図、第4-68bf図、第4-68bg図、第4-68bh図、第4-68bi図、第4-68bj図、第4-68bk図、第4-68bl図、第4-68bm図、第4-68bn図、第4-68bo図、第4-68bp図、第4-68bq図、第4-68br図、第4-68bs図、第4-68bt図、第4-68bu図、第4-68bv図、第4-68bw図、第4-68bx図、第4-68by図、第4-68bz図、第4-68ca図、第4-68cb図、第4-68cc図、第4-68cd図、第4-68ce図、第4-68cf図、第4-68cg図、第4-68ch図、第4-68ci図、第4-68cj図、第4-68ck図、第4-68cl図、第4-68cm図、第4-68cn図、第4-68co図、第4-68cp図、第4-68cq図、第4-68cr図、第4-68cs図、第4-68ct図、第4-68cu図、第4-68cv図、第4-68cw図、第4-68cx図、第4-68cy図、第4-68cz図、第4-68da図、第4-68db図、第4-68dc図、第4-68dd図、第4-68de図、第4-68df図、第4-68dg図、第4-68dh図、第4-68di図、第4-68dj図、第4-68dk図、第4-68dl図、第4-68dm図、第4-68dn図、第4-68do図、第4-68dp図、第4-68dq図、第4-68dr図、第4-68ds図、第4-68dt図、第4-68du図、第4-68dv図、第4-68dw図、第4-68dx図、第4-68dy図、第4-68dz図、第4-68ea図、第4-68eb図、第4-68ec図、第4-68ed図、第4-68ee図、第4-68ef図、第4-68eg図、第4-68eh図、第4-68ei図、第4-68ej図、第4-68ek図、第4-68el図、第4-68em図、第4-68en図、第4-68eo図、第4-68ep図、第4-68eq図、第4-68er図、第4-68es図、第4-68et図、第4-68eu図、第4-68ev図、第4-68ew図、第4-68ex図、第4-68ey図、第4-68ez図、第4-68fa図、第4-68fb図、第4-68fc図、第4-68fd図、第4-68fe図、第4-68ff図、第4-68fg図、第4-68fh図、第4-68fi図、第4-68fj図、第4-68fk図、第4-68fl図、第4-68fm図、第4-68fn図、第4-68fo図、第4-68fp図、第4-68fq図、第4-68fr図、第4-68fs図、第4-68ft図、第4-68fu図、第4-68fv図、第4-68fw図、第4-68fx図、第4-68fy図、第4-

表 1　土器観察表（3）

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
68	4	SK56	確認面	縄文	深鉢	深鉢	(6.8)	(3.4)	(6.8)	底部以縁部平行平行沈線、側面、内面沈線	針状胎土	晩期
69	5	SK55	確認面	弥生	鉢	体部上半	-	-	(3.8)	縁部以縁部平行平行沈線、側面、内面沈線、口縁以下3～5条一列刻目3条。	針状胎土	大洞式
69	6	SK53、SK55、SK56	SK53西半覆土、SK55東半覆土・南半覆土、SK56西半覆土	弥生	台付壺類	体部上半	29.0	-	(10.6)	口縁部平、頸部以縁部平行沈線、平行沈線、縁部下2字上、右横位沈線、内面沈線。	SK69・2、SK69・4・7同一個体	大洞式
69	7	SK55、SK56	SK55西半覆土、SK56西半覆土、SK56西半覆土	弥生	台付壺類	台部	-	12.4	(8.2)	下2字上下4字平行、平行沈線、縁部周囲、一条刻目3条。	SK69・2、SK69・6、SK69・7同一個体	大洞式
69	8	SK55	SK55覆土、SK4・6SK5上、SK4上面	弥生	壺	体部下半	-	6.3	(11.4)	平底で底部以縁部沈線。上部と下部は以縁部沈線。		弥生前半
69	9	SK55	SK55覆土	弥生?	壺	頸部	-	-	(5.3)	平行沈線、波状下2字。	SK69・12・22一個体	大洞式
70	10	SK56	SK56西半覆土、SK56西半覆土・北半覆土、SK4・6SK4SK5上	弥生	壺	体部上半	-	-	(13.2)	口縁部無。以縁部沈線。	SK70・10～12同一個体	弥生前半
70	11	SK55	SK55西半覆土、SK56北半覆土、SK4・6SK4SK5上	弥生	壺	頸部	-	-	(13.4)	以縁部沈線。	SK70・10～12同一個体	弥生前半
70	12	SK55	SK55覆土、SK4・6SK5上、SK4・6SK5SK4SK5上	弥生	壺	体部上半	-	-	(20.0)	以縁部沈線。	SK70・10～12同一個体	弥生前半
71	1	SK64	覆土	弥生	小鉢	口縁部	-	-	(2.5)	波状口縁、平行沈線、内面沈線口縁2条一部欠損。		大洞式
71	2	SK64	覆土P1	弥生	鉢	口縁部	-	-	(2.2)	波状口縁、平行沈線、内面沈線。		大洞式
71	3	SK64	覆土P2	弥生	鉢	口縁部	-	-	(2.1)	口縁部以縁部、平行沈線、内面沈線3条。		大洞式
71	4	SK64	覆土P3	弥生	鉢	頸部	-	-	(2.7)	平行沈線、縁部以縁部沈線。		大洞式
71	5	SK64	石蓋直上P10	縄文?	深鉢	頸部	-	-	(5.8)	縄、平行沈線(縄文?)波状(ワラ之型縄)。		晩期
71	6	SK65	覆土	縄文?	深鉢	頸部下半	-	-	(4.3)	縄文。		晩期
71	9	SK66、SK63	SK66西半覆土P2SK63西半覆土、SK4・6SK2SK1上、SK4・6SK2SK1上面、SK4・6SK1	弥生	台付壺類	体部上半	-	-	(5.2)	頸部以縁部平行平行沈線、平行沈線間に縁部刻み、定形下2字上、平行沈線、内面沈線。口縁上面一部欠損。		大洞式～弥生式
71	10	SK66	石蓋直上P1	弥生	台付壺類	脚部相	(9.5)	(5.3)	8.3	平行沈線、杜、頸部以縁部沈線。台部平行沈線、内面沈線上部。	赤彩。	大洞式～弥生式
71	11	SK66	石蓋直上P1	弥生	鉢	頸部	-	-	(4.7)	沈線、杜、縁部以縁部沈線。		大洞式～弥生式
71	12	SK66	覆土	縄文	深鉢	頸部	-	-	(3.0)	杜、縁部沈線。		晩期
71	13	SK66	SK66覆土、SK4・6SK4SK1上、SK4・6SK4SK1上面	弥生	壺	口縁部	-	-	(7.6)	口縁杜、縁部以縁部沈線。平行沈線、2条一部小刻目、定形下2字。	SK71・13、SK71・7、SK69・8、SK70・9・11、SK63・19SK66一個体?	大洞式
71	14	SK66	SK66覆土、SK4・6SK4SK1上、SK4・6SK4SK1上面、SK4・6SK1SK2SK1上面、SK4・6SK2SK1	弥生	壺	体部上半	-	-	(24.7)	杜、縁部以縁部沈線。		弥生前半
72	1	SK67	SK67-SD覆土P1	縄文	深鉢	粗突部	31.6	12.2	32.6	上部2段、縄の沈線。下部2段、縄部以縁部沈線。底部2段以縁部、縄部沈線。		晩期
72	3	SK68	SK67-SD7上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(7.4)	口縁沈線、杜、縁部以縁部沈線。沈線、刻目、縄沈線。		大洞A式
72	4	SK68	SK67-SD7上	縄文	深鉢	体部上半	-	-	(5.9)	口縁2段～3段の沈線、縄部平行沈線、波状下部沈線、縄沈線。口縁沈線。	SK72・4・5同一個体。	大洞A式
72	5	SK68	SK67-SD7上	縄文	深鉢	体部上半	-	-	(8.2)	口縁部一定間隔の下2字上下1字。縄部平行沈線、定形下2字。縄沈線、縄沈線。口縁沈線。	SK72・4・5同一個体。	大洞A式
72	6	SK68	SK67-SD7上	縄文	鉢	口縁部	-	-	(7.0)	口縁杜、縁部沈線。平行沈線、内面沈線上。		大洞A式
72	7	SK68	SK67-SD7上	縄文	鉢	頸部	9.3	5.2	8.1	平行沈線2～4条下一(縄)刻目5～6間隔。		大洞A式
72	8	SK68	SK67-SD7上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(5.9)	平行沈線、条痕。		大洞A式
72	9	SK68	SK67-SD7上	縄文	深鉢	底部	-	(6.2)	(6.4)	底部沈線。下部、縄部以縁部沈線。		晩期
73	1	SK69	覆土-SD、7T上D地上面2～7	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(9.4)	単軸絡条体第1類縄部結節。結束第2類縄文2段。口縁部沈線。	植物繊維胎土、ガラス1～9同一個体。	円筒下層式
73	2	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(6.8)	口縁沈線。側面、条痕絡条体縄結節。		円筒下層式
73	3	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	頸部	-	-	(2.8)	口縁沈線。		円筒下層式
73	4	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	頸部	-	-	(6.0)	口縁沈線。		晩期
73	5	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	頸部	-	-	(3.1)	口縁沈線。		晩期
73	6	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.8)	口縁沈線。		晩期
73	7	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	深鉢	頸部	-	-	(4.3)	口縁沈線。		晩期
73	8	SK69	覆土-SD、D地上面2～7	縄文	鉢	頸部	-	-	(5.2)	(無文)		晩期
73	9	SK69	覆土-SD、7T上D地上面2～7	縄文	深鉢	底部	-	8.4	(13.6)	側面沈線。	植物繊維胎土、ガラス1～9同一個体。	円筒下層式
73	11	SK70	覆土-SK1上	縄文	小鉢	口縁部	5.2	-	(2.6)	口縁結束第2類縄文。下部縄。	植物繊維胎土、針状胎土	晩期
73	12	SK70	覆土-SK1上	縄文	鉢	口縁部	-	-	(2.2)	口縁結束第2類縄文2段。口縁沈線、縄、縄沈線。	SK73・12・13同一個体。	大洞C1式
73	13	SK70	覆土-SK1上	縄文	鉢	頸部	-	-	(4.6)	平行沈線、杜、縄沈線。	SK73・12同一個体。	大洞C1式
73	14	SK70	覆土-SK1上	縄文	鉢	頸部	-	-	(4.7)	沈線、縄沈線。		晩期
73	15	SK70	覆土-SK1上	縄文	注口土器	頸部	-	-	(3.4)	口縁(無文)。	粗石、SK73・15～18同一個体。	大洞C1式
73	16	SK70	覆土-SK1上	縄文	注口土器	頸部	-	-	(3.3)	(無文)	粗石、SK73・15～18同一個体。	大洞C1式
73	17	SK70	覆土-SK1上	縄文	注口土器	頸部	-	-	(2.4)	口縁部、無文。縄部。	粗石、SK73・15～18同一個体。	大洞C1式
73	18	SK70	覆土-SK1上	縄文	注口土器	頸部	-	-	(2.4)	縄部。	粗石、SK73・15～18同一個体。	大洞C1式
73	19	SK70	覆土-SK1上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(4.0)	口縁沈線。	植物繊維胎土	晩期
73	20	SK70	覆土-SK1上	縄文	深鉢	体部下半	-	7.8	(17.4)	口縁、縄沈線。口縁沈線。	針状胎土、針状胎土	晩期
73	21	SK70	覆土-SK1上	縄文	深鉢	底部	-	7.2	(6.9)	(無文)	針状胎土	晩期
写真41	参考	SK70	覆土-SK1SD P5D5	縄文	注口	注口部・頸部	-	-	(3.0)	注口部突起4単位。頸部突起から(単位数1)。	植物繊維胎土、ガラス1～9、SK73・15～18と同SK13同一個体。	大洞C1式
74	1	SK73	覆土P6?7上1	縄文	深鉢	頸部下半	-	-	(4.3)	口条方切縄無。		晩期
74	2	SK76	7T上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(5.4)	(単節による小不明)	SK74・2・3・7同一個体。	円筒下層式
74	3	SK76	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.4)	口条方切縄無。		円筒下層式
74	4	SK76	7T上-P10上-2	縄文	深鉢	体部上半	-	-	(27.6)	口縁部、口縁下単軸絡条体第1類縄(方向縄)。口縁部沈線。頸部8単軸絡条体第1類縄(方向縄)。	植物繊維胎土	円筒下層式
74	5	SK76	7T上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(4.0)	口縁部沈線。口縁部沈線。	植物繊維胎土、針状胎土	円筒下層式
74	6	SK76	7T上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(3.8)	口縁部沈線。口縁部沈線。	植物繊維胎土、針状胎土	円筒下層式
74	7	SK76	7T上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(4.3)	波状口縁。口縁下2段。単軸絡条体第1類縄。頸部。条痕絡条体縄結節。	植物繊維胎土、針状胎土	円筒下層式
74	8	SK76	7T上、床面上-2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(11.6)	口縁部沈線。側面、結束第1種縄結節。口縁部沈線。口縁部沈線。	植物繊維胎土、針状胎土	円筒下層式
74	9	SK76	7T上下位、7T上P-1-6	縄文	深鉢	頸部	-	-	(26.9)	口縁部沈線。口縁部沈線。底部打圧は下単軸絡条体第1類縄結節。結束第1種縄結節。	植物繊維胎土、針状胎土、粗石、SK74・8・10同一個体。	円筒下層式
74	10	SK76	7T上	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(4.1)	口縁部沈線。側面、結束第1種縄結節。口縁部沈線。口縁部沈線。	植物繊維胎土、針状胎土、粗石、SK74・8・10同一個体。	円筒下層式
75	1	SK79	覆土-SD7上1	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.4)	単軸絡条体縄結節。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	2	SK79	覆土-SD7上1	縄文	深鉢	頸部	-	-	(3.4)	単軸絡条体縄結節。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	3	SK79	覆土-SD7上1	縄文	鉢	頸部	-	-	(3.0)	口縁部沈線。		晩期
75	5	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(4.1)	口縁部沈線。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	6	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.0)	波状口縁(8単)条痕絡条体縄文下条痕。単軸絡条体縄結節。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	7	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.8)	口縁部沈線。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	8	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.0)	単軸絡条体第1類縄結節。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	9	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(5.3)	単軸絡条体第1類縄結節。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	10	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部下半	-	-	(5.8)	口縁部沈線。	植物繊維胎土	円筒下層式
75	11	SK80	7T上	縄文	深鉢	頸部	-	-	(4.8)	結束第2類縄文。	植物繊維胎土	晩期
75	12	SK81	SK81覆土-覆土P1、覆土P-3上1-3層	縄文	深鉢	頸部	-	7.8	(25.4)	条痕。	SK76・1～3同一個体。	晩期
76	2	SK01	覆土、覆土P覆土	縄文	深鉢	口縁部	-	-	(4.3)	口縁沈線。口条方切縄沈線。条痕。	SK76・1～3同一個体。	晩期

表1　土器観察表（4）

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
76	1	SB03	柱穴覆土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.4)	口縁押圧、条痕	図20-1～3同一個体。	晩期
76	2	SB03	柱	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(3.1)	口縁部沿軸条文		晩期
76	3	SB03	覆土	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(3.1)	口縁部沿軸条文		晩期
76	4	SB03	第1層(2)、第1層(3)、第2層(3)、第3層(3)、第4層(4)、第5層(4)、第6層(4)、第7層(4)、第8層(4)、第9層(4)、第10層(4)、第11層(4)、第12層(4)、第13層(4)、第14層(4)、第15層(4)、第16層(4)、第17層(4)、第18層(4)、第19層(4)、第20層(4)、第21層(4)、第22層(4)、第23層(4)、第24層(4)、第25層(4)、第26層(4)、第27層(4)、第28層(4)、第29層(4)、第30層(4)、第31層(4)、第32層(4)、第33層(4)、第34層(4)、第35層(4)、第36層(4)、第37層(4)、第38層(4)、第39層(4)、第40層(4)、第41層(4)、第42層(4)、第43層(4)、第44層(4)、第45層(4)、第46層(4)、第47層(4)、第48層(4)、第49層(4)、第50層(4)、第51層(4)、第52層(4)、第53層(4)、第54層(4)、第55層(4)、第56層(4)、第57層(4)、第58層(4)、第59層(4)、第60層(4)、第61層(4)、第62層(4)、第63層(4)、第64層(4)、第65層(4)、第66層(4)、第67層(4)、第68層(4)、第69層(4)、第70層(4)、第71層(4)、第72層(4)、第73層(4)、第74層(4)、第75層(4)、第76層(4)、第77層(4)、第78層(4)、第79層(4)、第80層(4)、第81層(4)、第82層(4)、第83層(4)、第84層(4)、第85層(4)、第86層(4)、第87層(4)、第88層(4)、第89層(4)、第90層(4)、第91層(4)、第92層(4)、第93層(4)、第94層(4)、第95層(4)、第96層(4)、第97層(4)、第98層(4)、第99層(4)、第100層(4)、第101層(4)、第102層(4)、第103層(4)、第104層(4)、第105層(4)、第106層(4)、第107層(4)、第108層(4)、第109層(4)、第110層(4)、第111層(4)、第112層(4)、第113層(4)、第114層(4)、第115層(4)、第116層(4)、第117層(4)、第118層(4)、第119層(4)、第120層(4)、第121層(4)、第122層(4)、第123層(4)、第124層(4)、第125層(4)、第126層(4)、第127層(4)、第128層(4)、第129層(4)、第130層(4)、第131層(4)、第132層(4)、第133層(4)、第134層(4)、第135層(4)、第136層(4)、第137層(4)、第138層(4)、第139層(4)、第140層(4)、第141層(4)、第142層(4)、第143層(4)、第144層(4)、第145層(4)、第146層(4)、第147層(4)、第148層(4)、第149層(4)、第150層(4)、第151層(4)、第152層(4)、第153層(4)、第154層(4)、第155層(4)、第156層(4)、第157層(4)、第158層(4)、第159層(4)、第160層(4)、第161層(4)、第162層(4)、第163層(4)、第164層(4)、第165層(4)、第166層(4)、第167層(4)、第168層(4)、第169層(4)、第170層(4)、第171層(4)、第172層(4)、第173層(4)、第174層(4)、第175層(4)、第176層(4)、第177層(4)、第178層(4)、第179層(4)、第180層(4)、第181層(4)、第182層(4)、第183層(4)、第184層(4)、第185層(4)、第186層(4)、第187層(4)、第188層(4)、第189層(4)、第190層(4)、第191層(4)、第192層(4)、第193層(4)、第194層(4)、第195層(4)、第196層(4)、第197層(4)、第198層(4)、第199層(4)、第200層(4)、第201層(4)、第202層(4)、第203層(4)、第204層(4)、第205層(4)、第206層(4)、第207層(4)、第208層(4)、第209層(4)、第210層(4)、第211層(4)、第212層(4)、第213層(4)、第214層(4)、第215層(4)、第216層(4)、第217層(4)、第218層(4)、第219層(4)、第220層(4)、第221層(4)、第222層(4)、第223層(4)、第224層(4)、第225層(4)、第226層(4)、第227層(4)、第228層(4)、第229層(4)、第230層(4)、第231層(4)、第232層(4)、第233層(4)、第234層(4)、第235層(4)、第236層(4)、第237層(4)、第238層(4)、第239層(4)、第240層(4)、第241層(4)、第242層(4)、第243層(4)、第244層(4)、第245層(4)、第246層(4)、第247層(4)、第248層(4)、第249層(4)、第250層(4)、第251層(4)、第252層(4)、第253層(4)、第254層(4)、第255層(4)、第256層(4)、第257層(4)、第258層(4)、第259層(4)、第260層(4)、第261層(4)、第262層(4)、第263層(4)、第264層(4)、第265層(4)、第266層(4)、第267層(4)、第268層(4)、第269層(4)、第270層(4)、第271層(4)、第272層(4)、第273層(4)、第274層(4)、第275層(4)、第276層(4)、第277層(4)、第278層(4)、第279層(4)、第280層(4)、第281層(4)、第282層(4)、第283層(4)、第284層(4)、第285層(4)、第286層(4)、第287層(4)、第288層(4)、第289層(4)、第290層(4)、第291層(4)、第292層(4)、第293層(4)、第294層(4)、第295層(4)、第296層(4)、第297層(4)、第298層(4)、第299層(4)、第300層(4)、第301層(4)、第302層(4)、第303層(4)、第304層(4)、第305層(4)、第306層(4)、第307層(4)、第308層(4)、第309層(4)、第310層(4)、第311層(4)、第312層(4)、第313層(4)、第314層(4)、第315層(4)、第316層(4)、第317層(4)、第318層(4)、第319層(4)、第320層(4)、第321層(4)、第322層(4)、第323層(4)、第324層(4)、第325層(4)、第326層(4)、第327層(4)、第328層(4)、第329層(4)、第330層(4)、第331層(4)、第332層(4)、第333層(4)、第334層(4)、第335層(4)、第336層(4)、第337層(4)、第338層(4)、第339層(4)、第340層(4)、第341層(4)、第342層(4)、第343層(4)、第344層(4)、第345層(4)、第346層(4)、第347層(4)、第348層(4)、第349層(4)、第350層(4)、第351層(4)、第352層(4)、第353層(4)、第354層(4)、第355層(4)、第356層(4)、第357層(4)、第358層(4)、第359層(4)、第360層(4)、第361層(4)、第362層(4)、第363層(4)、第364層(4)、第365層(4)、第366層(4)、第367層(4)、第368層(4)、第369層(4)、第370層(4)、第371層(4)、第372層(4)、第373層(4)、第374層(4)、第375層(4)、第376層(4)、第377層(4)、第378層(4)、第379層(4)、第380層(4)、第381層(4)、第382層(4)、第383層(4)、第384層(4)、第385層(4)、第386層(4)、第387層(4)、第388層(4)、第389層(4)、第390層(4)、第391層(4)、第392層(4)、第393層(4)、第394層(4)、第395層(4)、第396層(4)、第397層(4)、第398層(4)、第399層(4)、第400層(4)、第401層(4)、第402層(4)、第403層(4)、第404層(4)、第405層(4)、第406層(4)、第407層(4)、第408層(4)、第409層(4)、第410層(4)、第411層(4)、第412層(4)、第413層(4)、第414層(4)、第415層(4)、第416層(4)、第417層(4)、第418層(4)、第419層(4)、第420層(4)、第421層(4)、第422層(4)、第423層(4)、第424層(4)、第425層(4)、第426層(4)、第427層(4)、第428層(4)、第429層(4)、第430層(4)、第431層(4)、第432層(4)、第433層(4)、第434層(4)、第435層(4)、第436層(4)、第437層(4)、第438層(4)、第439層(4)、第440層(4)、第441層(4)、第442層(4)、第443層(4)、第444層(4)、第445層(4)、第446層(4)、第447層(4)、第448層(4)、第449層(4)、第450層(4)、第451層(4)、第452層(4)、第453層(4)、第454層(4)、第455層(4)、第456層(4)、第457層(4)、第458層(4)、第459層(4)、第460層(4)、第461層(4)、第462層(4)、第463層(4)、第464層(4)、第465層(4)、第466層(4)、第467層(4)、第468層(4)、第469層(4)、第470層(4)、第471層(4)、第472層(4)、第473層(4)、第474層(4)、第475層(4)、第476層(4)、第477層(4)、第478層(4)、第479層(4)、第480層(4)、第481層(4)、第482層(4)、第483層(4)、第484層(4)、第485層(4)、第486層(4)、第487層(4)、第488層(4)、第489層(4)、第490層(4)、第491層(4)、第492層(4)、第493層(4)、第494層(4)、第495層(4)、第496層(4)、第497層(4)、第498層(4)、第499層(4)、第500層(4)、第501層(4)、第502層(4)、第503層(4)、第504層(4)、第505層(4)、第506層(4)、第507層(4)、第508層(4)、第509層(4)、第510層(4)、第511層(4)、第512層(4)、第513層(4)、第514層(4)、第515層(4)、第516層(4)、第517層(4)、第518層(4)、第519層(4)、第520層(4)、第521層(4)、第522層(4)、第523層(4)、第524層(4)、第525層(4)、第526層(4)、第527層(4)、第528層(4)、第529層(4)、第530層(4)、第531層(4)、第532層(4)、第533層(4)、第534層(4)、第535層(4)、第536層(4)、第537層(4)、第538層(4)、第539層(4)、第540層(4)、第541層(4)、第542層(4)、第543層(4)、第544層(4)、第545層(4)、第546層(4)、第547層(4)、第548層(4)、第549層(4)、第550層(4)、第551層(4)、第552層(4)、第553層(4)、第554層(4)、第555層(4)、第556層(4)、第557層(4)、第558層(4)、第559層(4)、第560層(4)、第561層(4)、第562層(4)、第563層(4)、第564層(4)、第565層(4)、第566層(4)、第567層(4)、第568層(4)、第569層(4)、第570層(4)、第571層(4)、第572層(4)、第573層(4)、第574層(4)、第575層(4)、第576層(4)、第577層(4)、第578層(4)、第579層(4)、第580層(4)、第581層(4)、第582層(4)、第583層(4)、第584層(4)、第585層(4)、第586層(4)、第587層(4)、第588層(4)、第589層(4)、第590層(4)、第591層(4)、第592層(4)、第593層(4)、第594層(4)、第595層(4)、第596層(4)、第597層(4)、第598層(4)、第599層(4)、第600層(4)、第601層(4)、第602層(4)、第603層(4)、第604層(4)、第605層(4)、第606層(4)、第607層(4)、第608層(4)、第609層(4)、第610層(4)、第611層(4)、第612層(4)、第613層(4)、第614層(4)、第615層(4)、第616層(4)、第617層(4)、第618層(4)、第619層(4)、第620層(4)、第621層(4)、第622層(4)、第623層(4)、第624層(4)、第625層(4)、第626層(4)、第627層(4)、第628層(4)、第629層(4)、第630層(4)、第631層(4)、第632層(4)、第633層(4)、第634層(4)、第635層(4)、第636層(4)、第637層(4)、第638層(4)、第639層(4)、第640層(4)、第641層(4)、第642層(4)、第643層(4)、第644層(4)、第645層(4)、第646層(4)、第647層(4)、第648層(4)、第649層(4)、第650層(4)、第651層(4)、第652層(4)、第653層(4)、第654層(4)、第655層(4)、第656層(4)、第657層(4)、第658層(4)、第659層(4)、第660層(4)、第661層(4)、第662層(4)、第663層(4)、第664層(4)、第665層(4)、第666層(4)、第667層(4)、第668層(4)、第669層(4)、第670層(4)、第671層(4)、第672層(4)、第673層(4)、第674層(4)、第675層(4)、第676層(4)、第677層(4)、第678層(4)、第679層(4)、第680層(4)、第681層(4)、第682層(4)、第683層(4)、第684層(4)、第685層(4)、第686層(4)、第687層(4)、第688層(4)、第689層(4)、第690層(4)、第691層(4)、第692層(4)、第693層(4)、第694層(4)、第695層(4)、第696層(4)、第697層(4)、第698層(4)、第699層(4)、第700層(4)、第701層(4)、第702層(4)、第703層(4)、第704層(4)、第705層(4)、第706層(4)、第707層(4)、第708層(4)、第709層(4)、第710層(4)、第711層(4)、第712層(4)、第713層(4)、第714層(4)、第715層(4)、第716層(4)、第717層(4)、第718層(4)、第719層(4)、第720層(4)、第721層(4)、第722層(4)、第723層(4)、第724層(4)、第725層(4)、第726層(4)、第727層(4)、第728層(4)、第729層(4)、第730層(4)、第731層(4)、第732層(4)、第733層(4)、第734層(4)、第735層(4)、第736層(4)、第737層(4)、第738層(4)、第739層(4)、第740層(4)、第741層(4)、第742層(4)、第743層(4)、第744層(4)、第745層(4)、第746層(4)、第747層(4)、第748層(4)、第749層(4)、第750層(4)、第751層(4)、第752層(4)、第753層(4)、第754層(4)、第755層(4)、第756層(4)、第757層(4)、第758層(4)、第759層(4)、第760層(4)、第761層(4)、第762層(4)、第763層(4)、第764層(4)、第765層(4)、第766層(4)、第767層(4)、第768層(4)、第769層(4)、第770層(4)、第771層(4)、第772層(4)、第773層(4)、第774層(4)、第775層(4)、第776層(4)、第777層(4)、第778層(4)、第779層(4)、第780層(4)、第781層(4)、第782層(4)、第783層(4)、第784層(4)、第785層(4)、第786層(4)、第787層(4)、第788層(4)、第789層(4)、第790層(4)、第791層(4)、第792層(4)、第793層(4)、第794層(4)、第795層(4)、第796層(4)、第797層(4)、第798層(4)、第799層(4)、第800層(4)、第801層(4)、第802層(4)、第803層(4)、第804層(4)、第805層(4)、第806層(4)、第807層(4)、第808層(4)、第809層(4)、第810層(4)、第811層(4)、第812層(4)、第813層(4)、第814層(4)、第815層(4)、第816層(4)、第817層(4)、第818層(4)、第819層(4)、第820層(4)、第821層(4)、第822層(4)、第823層(4)、第824層(4)、第825層(4)、第826層(4)、第827層(4)、第828層(4)、第829層(4)、第830層(4)、第831層(4)、第832層(4)、第833層(4)、第834層(4)、第835層(4)、第836層(4)、第837層(4)、第838層(4)、第839層(4)、第840層(4)、第841層(4)、第842層(4)、第843層(4)、第844層(4)、第845層(4)、第846層(4)、第847層(4)、第848層(4)、第849層(4)、第850層(4)、第851層(4)、第852層(4)、第853層(4)、第854層(4)、第855層(4)、第856層(4)、第857層(4)、第858層(4)、第859層(4)、第860層(4)、第861層(4)、第862層(4)、第863層(4)、第864層(4)、第865層(4)、第866層(4)、第867層(4)、第868層(4)、第869層(4)、第870層(4)、第871層(4)、第872層(4)、第873層(4)、第874層(4)、第875層(4)、第876層(4)、第877層(4)、第878層(4)、第879層(4)、第880層(4)、第881層(4)、第882層(4)、第883層(4)、第884層(4)、第885層(4)、第886層(4)、第887層(4)、第888層(4)、第889層(4)、第890層(4)、第891層(4)、第892層(4)、第893層(4)、第894層(4)、第895層(4)、第896層(4)、第897層(4)、第898層(4)、第899層(4)、第900層(4)、第901層(4)、第902層(4)、第903層(4)、第904層(4)、第905層(4)、第906層(4)、第907層(4)、第908層(4)、第909層(4)、第910層(4)、第911層(4)、第912層(4)、第913層(4)、第914層(4)、第915層(4)、第916層(4)、第917層(4)、第918層(4)、第919層(4)、第920層(4)、第921層(4)、第922層(4)、第923層(4)、第924層(4)、第925層(4)、第926層(4)、第927層(4)、第928層(4)、第929層(4)、第930層(4)、第931層(4)、第932層(4)、第933層(4)、第934層(4)、第935層(4)、第936層(4)、第937層(4)、第938層(4)、第939層(4)、第940層(4)、第941層(4)、第942層(4)、第943層(4)、第944層(4)、第945層(4)、第946層(4)、第947層(4)、第948層(4)、第949層(4)、第950層(4)、第951層(4)、第952層(4)、第953層(4)、第954層(4)、第955層(4)、第956層(4)、第957層(4)、第958層(4)、第959層(4)、第960層(4)、第961層(4)、第962層(4)、第963層(4)、第964層(4)、第965層(4)、第966層(4)、第967層(4)、第968層(4)、第969層(4)、第970層(4)、第971層(4)、第972層(4)、第973層(4)、第974層(4)、第975層(4)、第976層(4)、第977層(4)、第978層(4)、第979層(4)、第980層(4)、第981層(4)、第982層(4)、第983層(4)、第984層(4)、第985層(4)、第986層(4)、第987層(4)、第988層(4)、第989層(4)、第990層(4)、第991層(4)、第992層(4)、第993層(4)、第994層(4)、第995層(4)、第996層(4)、第997層(4)、第998層(4)、第999層(4)、第1000層(4)、第1001層(4)、第1002層(4)、第1003層(4)、第1004層(4)、第1005層(4)、第1006層(4)、第1007層(4)、第1008層(4)、第1009層(4)、第1010層(4)、第1011層(4)、第1012層(4)、第1013層(4)、第1014層(4)、第1015層(4)、第1016層(4)、第1017層(4)、第1018層(4)、第1019層(4)、第1020層(4)、第1021層(4)、第1022層(4)、第1023層(4)、第1024層(4)、第1025層(4)、第1026層(4)、第1027層(4)、第1028層(4)、第1029層(4)、第1030層(4)、第1031層(4)、第1032層(4)、第1033層(4)、第1034層(4)、第1035層(4)、第1036層(4)、第1037層(4)、第1038層(4)、第1039層(4)、第1040層(4)、第1041層(4)、第1042層(4)、第1043層(4)、第1044層(4)、第1045層(4)、第1046層(4)、第1047層(4)、第1048層(4)、第1049層(4)、第1050層(4)、第1051層(4)、第1052層(4)、第1053層(4)、第1054層(4)、第1055層(4)、第1056層(4)、第1057層(4)、第1058層(4)、第1059層(4)、第1060層(4)、第1061層(4)、第1062層(4)、第1063層(4)、第1064層(4)、第1065層(4)、第1066層(4)、第1067層(4)、第1068層(4)、第1069層(4)、第1070層(4)、第1071層(4)、第1072層(4)、第1073層(4)、第1074層(4)、第1075層(4)、第1076層(4)、第1077層(4)、第1078層(4)、第1079層(4)、第1080層(4)、第1081層(4)、第1082層(4)、第1083層(4)、第1084層(4)、第1085層(4)、第1086層(4)、第1087層(4)、第1088層(4)、第1089層(4)、第1090層(4)、第1091層(4)、第1092層(4)、第1093層(4)、第1094層(4)、第1095層(4)、第1096層(4)、第1097層(4)、第1098層(4)、第1099層(4)、第1100層(4)、第1101層(4)、第1102層(4)、第1103層(4)、第1104層(4)、第1105層(4)、第1106層(4)、第1107層(4)、第1108層(4)、第1109層(4)、第1110層(4)、第1111層(4)、第1112層(4)、第1113層(4)、第1114層(4)、第1115層(4)、第1116層(4)、第1117層(4)、第1118層(4)、第1119層(4)、第1120層(4)、第1121層(4)、第1122層(4)、第1123層(4)、第1124層(4)、第1125層(4)、第1126層(4)、第1127層(4)、第1128層(4)、第1129層(4)、第1130層(4)、第1131層(4)、第1132層(4)、第1133層(4)、第1134層(4)、第1135層(4)、第1136層(4)、第1137層(4)、第1138層(4)、第1139層(4)、第1140層(4)、第1141層(4)、第1142層(4)、第1143層(4)、第1144層(4)、第1145層(4)、第1146層(4)、第1147層(4)、第1148層(4)、第1149層(4)、第1150層(4)、第1151層(4)、第1152層(4)、第1153層(4)、第1154層(4)、第1155層(4)、第1156層(4)、第1157層(4)、第1158層(4)、第1159層(4)、第1160層(4)、第1161層(4)、第1162層(4)、第1163層(4)、第1164層(4)、第1165層(4)、第1166層(4)、第1167層(4)、第1168層(4)、第1169層(4)、第1170層(4)、第1171層(4)、第1172層(4)、第1173層(4)、第1174層(4)、第1175層(4)、第1176層(4)、第1177層(4)、第1178層(4)、第1179層(4)、第1180層(4)、第1181層(4)、第1182層(4)、第1183層(4)、第1184層(4)、第1185層(4)、第1186層(4)、第1187層(4)、第1188層(4)、第1189層(4)、第1190層(4)、第1191層(4)、第1192層(4)、第1193層(4)、第1194層(4)、第1195層(4)、第1196層(4)、第1197層(4)、第1198層(4)、第1199層(4)、第1200層(4)、第1201層(4)、第1202層(4)、第1203層(4)、第1204層(4)、第1205層(4)、第1206層(4)、第1207層(4)、第1208層(4)、第1209層(4)、第1210層(4)、第1211層(4)、第1212層(4)、第1213層(4)、第1214層(4)、第1215層(4)、第1216層(4)、第1217層(4)、第1218層(4)、第1219層(4)、第1220層(4)、第1221層(4)、第1222層(4)、第1223層(4)、第1224層(4)、第1225層(4)、第1226層(4)、第1227層(4)、第1228層(4)、第1229層(4)、第1230層(4)、第1231層(4)、第1232層(4)、第1233層(4)、第1234層(4)、第1235層(4)、第1236層(4)、第1237層(4)、第1238層(4)、第1239層(4)、第1240層(4)、第1241層(4)、第1242層(4)、第1243層(4)、第1244層(4)、第1245層(4)、第1246層(4)、第1247層(4)、第1248層(4)、第1249層(4)、第1250層(4)、第1251層(4)、第1252層(4)、第1253層(4)、第1254層(4)、第1255層(4)、第1256層(4)、第1257層(4)、第1258層(4)、第1259層(4)、第1260層(4)、第1261層(4)、第1262層(4)、第1263層(4)、第1264層(4)、第1265層(4)、第1266層(4)、第1267層(4)、第1268層(4)、第1269層(4)、第1270層(4)、第1271層(4)、第1272層(4)、第1273層(4)、第1274層(4)、第1275層(4)、第1276層(4)、第1277層(4)、第1278層(4)、第1279層(4)、第1280層(4)、第1281層(4)、第1282層(4)、第1283層(4)、第1284層(4)、第1285層(4)、第1286層(4)、第1287層(4)、第1288層(4)、第1289層(4)、第1290層(4)、第1291層(4)、第1292層(4)、第1293層(4)、第1294層(4)、第1295層(4)、第1296層(4)、第1297層(4)、第1298層(4)、第1299層(4)、第1300層(4)、第1301層(4)、第1302層(4)、第1303層(4)、第1304層(4)、第1305層(4)、第1306層(4)、第1307層(4)、第1308層(4)、第1309層(4)、第1310層(4)、第1311層(4)、第1312層(4)、第1313層(4)、第1314層(4)、第1315層(4)、第1316層(4)、第1317層(4)、第1318層(4)、第1319層(4)、第1320層(4)、第1321層(4)、第1322層(4)、第1323層(4)、第1324層(4)、第1325層(4)、第1326層(4)、第1327層(4)、第1328層(4)、第1329層(4)、第1330層(4)、第1331層(4)、第1332層(4)、第1333層(4)、第1334層(4)、第1335層(4)、第1336層(4)、第1337層(4)、第1338層(4)、第1339層(4)、第1340層(4)、第1341層(4)、第1342層(4)、第1343層(4)、第1344層(4)、第1345層(4)、第1346層(4)、第1347層(4)、第1348層(4)、第1349層(4)、第1350層(4)、第1351層(4)、第1352層(4)、第1353層(4)、第1354層(4)、第1355層(4)、第1356層(4)、第1357層(4)、第1358層(4)、第1359層(4)、第1360層(4)、第1361層(4)、第1362層(4)、第1363層(4)、第1364層(4)、第1365層(4)、第1366層(4)、第1367層(4)、第1368層(4)、第1369層(4)、第1370層(4)、第1371層(4)、第1372層(4)、第1373層(4)、第1374層(4)、第1375層(4)、第1376層(4)、第1377層(4)、第1378層(4)、第1379層(4)、第1380層(4)、第1381層(4)、第1382層(4)、第1383層(4)、第1384層(4)、第1385層(4)、第1386層(4)、第1387層(4)、第1388層(4)、第1389層(4)、第1390層(4)、第1391層(4)、第1392層(4)、第1393層(4)、第1394層(4)、第1395層(4)、第1396層(4)、第1397層(4)、第1398層(4)、第1399層(4)、第1400層(4)、第1401層(4)、第1402層(4)、第1403層(4)、第1404層(4)、第1405層(4)、第1406層(4)、第1407層(4)、第1408層(4)、第1409層(4)、第1410層(4)、第1411層(4)、第1412層(4)、第1413層(4)、第1414層(4)、第1415層(4)、第1416層(4)、第1417層(4)、第1418層(4)、第1419層(4)、第1420層(4)、第1421層(4)、第1422層(4)、第1423層(4)、第1424層(4)、第1425層(4)、第1426層(4)、第1427層(4)、第1428層(4)、第1429層(4)、第1430層(4)、第1431層(4)、第1432層(4)、第1433層(4)、第1434層(4)、第1435層(4)、第1436層(4)、第1437層(4)、第1438層(4)、第1439層(4)、第1440層(4)、第1441層(4)、第1442層(4)、第1443層(4)、第1444層(4)、第1445層(4)、第1446層(4)、第1447層(4)、第1448層(4)、第1449層(4)、第1450層(4)、第1451層(4)、第1452層(4)、第1453層(4)、第1454層(4)、第1455層(4)、第1456層(4)、第1457層(4)、第1458層(4)、第1459層(4)、第1460層(4)、第1461層(4)、第1462層(4)、第1463層(4)、第1464層(4)、第1465層(4)、第1466層(4)、第1467層(4)、第1468層(4)、第1469層(4)、第1470層(4)、第1471層(4)、第1472層(4)、第1473層(4)、第1474層(4)、第1475層(4)、第1476層(4)、第1477層(4)、第1478層(4)、第1479層(4)、第1480層(4)、第1481層(4)、第1482層(4)、第1483層(4)、第1484層(4)、第1485層(4)、第1486層(4)、第1487層(4)、第1488層(4)、第1489層(4)、第1490層(4)、第1491層(4)、第1492層(4)、第1493層(4)、第1494層(4)、第1495層(4)、第1496層(4)、第1497層(4)、第1498層(4)、第1499層(4)、第1500層(4)、第1501層(4)、第1502層(4)、第1503層(4)、第1504層(4)、第1505層(4)、第1506層(4)、第1507層(4)、第1508層(4)、第1509層(4)、第1510層(4)、第1511層(4)、第1512層(4)、第1513層(4)、第1514層(4)、第1515層(4)、第1516層(4)、第1517層(4)、第1518層(4)、第1519層(4)、第1520層(4)、第1521層(4)、第1522層(4)、第1523層(4)、第1524層(4)、第1525層(4)、第1526層(4)、第1527層(4)、第1528層(4)、第1529層(4)、第1530層(4)、第1531層(4)、第1532層(4)、第1533層(4)、第1534層(4)、第1535層(4)、第1536層(4)、第1537層(4)、第1538層(4)、第1539層(4)、第1540層(4)、第1541層(4)、第1542層(4)、第1543層(4)、第1544層(4)、第1545層(4)、第1546層(4)、第1547層(4)、第1548層(4)、第1549層(4)、第1550層(4)、第1551層(4)、第1552層(4)、第1553層(4)、第1554層(4)、第1555層(4)、第1556層(4)、第1557層(4)、第1558層(4)、第1559層(4)、第1560層(4)、第1561層(4)、第1562層(4)、第1563層(4)、第1564層(4)、第1565層(4)、第1566層(4)、第1567層(4)、第1568層(4)、第1569層(4)、第1570層(4)、第1571層(4)、第1572層(4)、第1573層(4)、第1574層(4)、第1575層(4)、第1576層(4)、第1577層(4)、第1578層(4)、第1579層(4)、第1580層(4)、第1581層(4)、第1582層(4)、第1583層(4)、第1584層(4)、第1585層(4)、第1586層(4)、第1587層(4)、第1588層(4)、第1589層(4)、第1590層(4)、第1591層(4)、第1592層(4)、第1593層(4)、第1594層(4)、第1595層(4)、第1596層(4)、第1597層(4)、第1598層(4)、第1599層(4)、第1600層(4)、第1601層(4)、第1602層(4)、第1603層(4)、第1604層(4)、第1605層(4)、第1606層(4)、第1607層(4)、第1608層(4)、第1609層(4)、第1610層(4)、第1611層(4)、第1612層(4)、第1613層(4)、第1614層(4)、第1615層(4)、第1616層(4)、第1617層(4)、第1618層(4)、第1619層(4)、第1620層(4)、第1621層(4)、第1622層(4)、第1623層(4)、第1624層(4)、第1625層(4)、第1626層(4)、第1627層(4)、第1628層(4)、第1629層(4)、第1630層(4)、第1631層(4)、第1632層(4)、第1633層(4)、第1634層(4)、第1635層(4)、第1636層(4)、第1637層(4)、第1638層(4)、第1639層(4)、第1640層(4)、第1641層(4)、第1642層(4)、第1643層(4)、第1644層(4)、第1645層(4)、第1646層(4)、第1647層(4)、第1648層(4)、第1649層(4)、第1650層(4)、第1651層(4)、第1652層(4)、第1653層(4)、第1654層(4)、第1655層(4)、第1656層(4)、第1657層(4)、第1658層(4)、第1659層(4)、第1660層(4)、第1661層(4)、第1662層(4)、第1663層(4)、第1664層(4)、第1665層(4)、第1666層(4)、第1667層(4)、第1668層(4)、第1669層(4)、第1670層(4)、第1671層(4)、第1672層(4)、第1673層(4)、第1674層(4)、第1675層(4)、第1676層(4)、第1677層(4)、第1678層(4)、第1679層(4)、第1680層(4)、第1681層(4)、第1682層(4)、第1683層(4)、第1684層(4)、第1685層(4)、第1686層(4)、第1687層(4)、第1688層(4)、第1689層(4)、第1690層(4)、第1691層(4)、第1692層(4)、第1693層(4)、第1694層(4)、第1695層(4)、第1696層(4)、第1697層(4)、第1698層(4)、第1699層(4)、第1700層(4)、第1701層(4)、第1702層(4)、第1703層(4)、第1704層(4)、第1705層(4)、第1706層(4)、第1707層(4)、第1708層(4)、第1709層(4)、第1710層(4)、第1711層(4)、第1712層(4)、第1713層(4)、第1714層(4)、第1715層(4)、第1716層(4)、第1717層(4)、第1718層(4)、第1719層(4)、第1720層(4)、第1721層(4)、第1722層(4)、第1723層(4)、第1724層(4)、第1725層(4)、第1726層(4)、第1727層(4)、第1728層(4)、第1729層(4)、第1730層(4)、第1731層(4)、第1732層(4)、第1733層(4)、第1734層(4)、第1735層(4)、第1736層(4)、第1737層(4)、第1738層(4)、第1739層(4)、第1740層(4)、第1741層(4)、第1742層(4)、第1743層(4)、第1744層(4)、第1745層(4)、第1746層(4)、第1747層(4)、第1748層(4)、第1749層(4)、第1750層(4)、第1751層(4)、第1752層(4)、第1753層(4)、第1754層(4)、第1755層(4)、第1756層(4)、第1757層(4)、第1758層(4)、第1759層(4)、第1760層(4)、第1761層(4)、第1762層(4)、第1763層(4)、第1764層(4)、第1765層(4)、第1766層(4)、第1767層(4)、第1768層(4)、第1769層(4)、第1770層(4)、第1771層(4)、第1772層(4)、第1773層(4)、第1774層(4)、第1775層(4)、第1776層(4)、第1777層(4)、第1778層(4)、第1779層(4)、第1780層(4)、第1781層(4)、第1782層(4)、第1783層(4)、第1784層(4)、第1785層(4)、第1786層(4)、第1787層(4)、第1788層(4)、第1789層(4)、第1790層(4)、第1791層(4)、第1792層(4)、第1793層(4)、第1794層(4)、第1795層(4)、第1796層(4)、第1797層(4)、第1798層(4)、第1799層(4)、第1800層(4)、第1801層(4)、第1802層(4)、第1803層(4)、第1804層(4)、第1805層(4)、第1806層(4)、第1807層(4)、第1808層(4)、第1809層(4)、第1810層(4)、第1811層(4)、第1812層(4)、第1813層(4)、第1814層(4)、第1815層(4)、第1816層(4)、第1817層(4)、第1818層(4)、第1819層(4)、第1820層(4)、第1821層(4)、第1822層(4)、第1823層(4)、第1824層(4)、第1825層(4)、第1826層(4)、第1827層(4)、第1828層(4)、第1829層(4)、第1830層(4)、第1831層(4)、第1832層(4)、第1833層(4)、第1834層(4)、第1835層(4)、第1836層(4)、第1837層(4)、第1838層(4)、第1839層(4)、第1840層(4)、第1841層(4)、第1842層(4)、第1843層(4)、第1844層(4)、第1845層(4)、第1846層(4)、第1847層(4)、第1848層(4)、第1849層(4)、第1850層(4)、第1851層(4)、第1852層(4)、第1853層(4)、第1854層(4)、第1855層(4)、第1856層(4)、第1857層(4)、第1858層(4)、第1859層(4)、第1860層(4)、第1861層(4)、第1862層(4)、第1863層(4)、第1864層(4)、第1865層(4)、第1866層(4)、第1867層(4)、第1868層(4)、第1869層(4)、第1870層(4)、第1871層(4)、第1872層(4)、第1873層(4)、第1874層(4)、第1875層(4)、第1876層(4)、第1877層(4)、第1878層(4)、第1879層(4)、第1880層(4)、第1881層(4)、第1882層(4)、第1883層(4)、第1884層(4)、第1885層(4)、第1886層(4)、第1887層(4)、第1888層(4)、第1889層(4)、第1890層(4)、第1891層(4)、第1892層(4)、第1893層(4)、第1894層(4)、第1895層(4)、第1896層(4)、第1897層(4)、第1898層(4)、第1899層(4)、第1900層(4)、第1901層(4)、第1902層(4)、第1903層(4)、第1904層(4)、第1905層(4)、第1906層(4)、第1907層(4)、第1908層(4)、第1909層(4)、第1910層(4)、第1911層(4)、第1912層(4)、第1913層(4)、第1914層(4)、第1915層(4)、第1916層(4)、第1917層(4)、第1918層(4)、第1919層(4)、第1920層(4)、第1921層(4)、第1922層(4)、第1923層(4)、第1924層(4)、第1925層(4)、第1926層(4)、第1927層(4)、第1928層(4)、第1929層(4)、第1930層(4)、第1931層(4)、第1932層(4)、第1933層(4)、第1934層(4)、第1935層(4)、第1936層(4)、第1937層(4)、第1938層(4)、第1939層(4)、第1940層(4)、第1941層(4)、第1942層(4)、第1943層(4)、第1944層(4)、第1945層(4)、第1946層(4)、第1947層(4)、第1948層(4)、第1949層(4)、第1950層(4)、第1951層(4)、第1952層(4)、第1953層(4)、第1954層(4)、第1955層(4)、第1956層(4)、第1957層(4)、第1958層(4)、第1959層(4)、第1960層(4)、第1961層(4)、第1962層(4)、第1963層(4)、第1964層(4)、第1965層(4)、第1966層(4)、第1967層(4)、第1968層(4)、第1969層(4)、第1970層(4)、第1971層(4)、第1972層(4)、第1973層(4)、第1974層(4)、第1975層(4)、第1976層(4)、第1977層(4)、第1978層(4)、第1979層(4)、第1980層(4)、第1981層(4)、第1982層(4)、第1983層(4)、第1984層(4)、第1985層(4)、第1986層(4)、第1987層(4)、第1988層(4)、第1989層(4)、第1990層(4)、第1991層(4)、第1992層(4)、第1993層(4)、第1994層(4)、第1995層(4)、第1996層(4)、第1997層(4)、第1998層(4)、第1999層(4)、第2000層(4)、第2001層(4)、第2002層(4)、第2003層(4)、第2004層(4)、第2005層(4)、第2006層(4)、第2007層(4)、第2008層(4)、第2009層(4)、第2010層(4)、第2011層(4)、第2012層(4)、第2013層(4)、第2014層(4)、第2015層(4)、第2016層(4)、第2017層(4)、第2018層(4)、第2019層(4)、第2020層(4)、第2021層(4)、第2022層(4)、第2023層(4)、第2024層(4)、第2025層(4)、第2026層(4)、第2027層(4)、第2028層(4)、第2029層(4)、第2030層(4)、第2031層(4)、第2032層(4)、第2033層(4)、第2034層(4)、第2035層(4)、第2036層(4)、第2037層(4)、第2038層(4)、第2039層(4)、第2040層(4)、第2041層(4)、第2042層(4)、第2043層(4)、第2044層(4)、第2045層(4)、第2046層(4)、第2047層(4)、第2048層(4)、第2049層(4)、第2050層(4)、第2051層(4)、第2052層(4)、第2053層(4)、第2054層(4)、第2055層(4)、第2056層(4)、第2057層(4)、第2058層(4)、第2059層(4)、第2060層(4)、第2061層(4)、第2062層(4)、第2063層(4)、第2064層(4)、第2065層(4)、第2066層(4)、第2067層(4)、第2068層(4)、第2069層(4)、第2070層(4)、第2071層(4)、第2072層(4)、

表 1　土器観察表(5)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
84	15	SP95	第1-35,37上	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(7.1)	口縁部に1条の沈線		晩期
84	16	SP95	第1-35,37上	縄文	深鉢	頸部	－	－	(7.6)	上段3段目に1条平行線を交叉する平行線群を挟む形で入り込む三角形 上段直上横位回転施文	円筒下層式	円筒下層式
84	17	SP95	第1-35,37上	縄文	台付土器	台脚	－	－	(2.4)	二軸文		晩期中葉
84	18	SP103	(10)15-10(1)17上	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.6)	口縁に2条一対の突起 口縁平行沈線間に刺入	内面沿化物付着	大洞C1式
84	19	SP103	(10)15-10(1)17上	縄文	土瓶	口縁部	－	－	(1.6)	二軸文		晩期
85	1	SK01	市SP4 表面4.8層P2,3	弥生	長頸壺	頸元部	17.3	6.4	24.2	頸部以縁本部位平面形に押圧 口縁部沈線 2条 平行沈線 頸部以縁位沈線施文 内面沈線 口縁上第一段間 2条	頸上段元	玉川式
85	2	SK07	第4-(1)1(1)上面 F-14,15 上層下	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(7.0)	口縁部沈線		大洞A式
85	3	SK07	第6下	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(3.4)	口縁部沈線 平行沈線 突起 内面沈線上条		大洞A式
85	4	SK07	第4-(1)1(1)上面 F-14	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(7.0)	口縁部沈線 上から下沈線 口縁部沈線施文		大洞A式
85	5	SK07	下12層	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.0)	二軸文		大洞A式
85	7	SK07	第6下	縄文	小形	口縁部	－	－	(2.1)	二軸文	担状物質無塗入	晩期
85	8	SK07	第6下	縄文	台付土器	台脚	－	－	(3.3)	二軸文		晩期
85	9	SK11	第2-3(5)2-F4	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(2.4)	口縁平行沈線 縦 横沈線施文 平行沈線 円形沈線上縁 3条		大洞A式
85	10	SK11	第2-3(5)4(5)2-F4上	縄文	深鉢	頸部	－	－	(8.6)	縦 横沈線施文		晩期
85	12	SK15	第3層	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.1)	口縁押圧による小波状口縁 沈線 二文又	担状物質無塗入	大洞B式
85	13	SK15	第3層	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(2.1)	平行沈線 突起		大洞C1式
85	14	SK15	第3層	縄文	深鉢	頸部	－	－	(4.5)	口縁部沈線施文		晩期
85	16	SK16	第3層	縄文	鉢	口縁部	12.8	－	(6.9)	口縁部沈線 縦 横沈線		晩期
85	17	SK16	第3層	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.8)	二軸文		晩期
86	1	SK17	第1-35(3)1(5)	縄文	深鉢	口縁部	24.9	－	(7.8)	口縁に3条突起 2条1帯 円形 口縁沈線施文	担状物質無塗入	晩期
86	2	SK17	第1-35(7)1	縄文	深鉢	口縁部	16.0	－	(5.4)	口縁に2条突起 1帯3条 口縁沈線施文		晩期
86	3	SK17	第1-35(9)1	縄文	深鉢	口縁部	16.0	－	(14.8)	口縁沈線施文 一内面に条線沈線間 縦 横		晩期
86	4	SK17	第1-35(5)(9)上1	縄文	深鉢	頸部	－	－	(8.9)	口縁に2条突起 1帯3条 口縁沈線施文 内面条線沈線間 縦 横	内部彩環3重入り	大洞B式
86	5	SK17	第1-35(9)17上 F-12(1)	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(11.8)	口縁に3条突起 2帯3条 口縁沈線施文 内面彩環3重入り	内部彩環3重入り	晩期
86	6	SK17		縄文	深鉢	口縁部	－	－	(5.4)	口縁沈線施文		晩期
86	7	SK17	SK17層下-35(9)1上, 第1-35(8)(5)F12(1) 第1-35(8)(5)F12(1)上 SK17 層 第1-35(7)(5)F12(1)上	縄文	鉢	頸元部	10.8	(6.4)	17.0	口縁沈線施文		晩期
86	8	SK17	1m×2層1-36(4)1-B F-7層 第1-35(4)1-B SK17 層 第1-35(5)1-B F-7層 第1-35(5)1-B F-7層	縄文	深鉢	体部上半	27.8	－	(22.0)	口縁押圧による小波状口縁 ケズリ ナデ		晩期
86	9	SK17	第1-35(3)1	縄文	蓋	摘部上半	8.1	－	(22.2)	ケズリ ナデ		晩期
87	10	SK17	第1-35(4)17上, 第1-35(4)F12(1)	縄文	香	頸元部	11.0	9.0	35.0	頸部上半に段 沈線 あり 頸部は縦沈線 横施文で 底部付近は横沈線施文		大洞BC式
87	11	SK17	第1-35(5)1	縄文	浅鉢? 蓋?	口縁部	－	－	(3.1)	突起に二文状取り込み	担状物質無塗入	大洞BC式
87	12	SK17	第1-35-2(5)1 F12(1)	縄文	浅鉢	頸元部	20.9	4.7	7.3	口縁部平行沈線間に刺突列 縦 横沈線 口縁 横沈線施文	赤彩	大洞C1式
87	13	SK17	SK17層1-35(5)1, 横断F12-4 横断F12-4 第1-35(5)1, 第1-35a(5)SP 18層, 第1-35(5)1	縄文	浅鉢	頸元部	23.3	3.0	5.1	口縁部に二文状突起 口縁 平行沈線間に刺突列 縦 横沈線 頸部に突起 1帯 底部	黏土中に白色粒状物質を微量含む	大洞C1式
88	14	SK17	SK17層下35a(4)7上 F24(5)+a2(5)3 1a(5)+7, 第1-35a(5) SP18(5)+c1(5)2+1(5) 2+1(5)2+3(5)3+5(5) SP1(1), 横断F12-3-12-4, 第1-35(5)3-3(5)+2(5)+c2(5)	縄文	浅鉢	頸元部	46.8? 47.6	－	(14.7)	口縁部に縦 沈線 隆帯上に刻み 結束 結束 口縁部平行沈線間に刺突列 1帯 底部文 3帯 沈 口縁部沈線施文	口縁部無文 頸 結束 結束 結束

表1　土器観察表（6）

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
92	9	XI004	堀材打込（14～17ブロック、13、14、15）	弥生	壺	底部	6.2	9.3	10.4	底、斜位刷毛調整文。	図版7-1と同一個体	五所式
93	1	XI005	堀上、埋土下層	縄文	台付鉢	鉢完形	(11.2)	5.7	9.6	波状口縁、平行沈線、小突起。口縁沿面無文、胴部、底部に沈線、口縁内面沈線1条。		大洞A式
93	2	XI005	埋土、埋土下層	縄文	壺	鉢完形	(9.0)	5.8	14.0	口縁3突起、斜、横位刷毛調整文。	底外面剥落。	晩期
93	3	XI005	確認面	縄文?	壺	鉢完形	5.2	6.2	14.2	波状口縁、平行沈線下2条刻目付、下部横位刷毛調整文、口縁内面沈線1条。	折状物質兼混入。	晩期
93	4	XI005	埋土下层	縄文	壺	体部下半	－	－	(13.6)	（無文）	折状物質兼混入。	晩期
93	5	XI005	埋土、埋土上位	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(4.3)	波状口縁、波頂押圧し突起上に刻目、口縁沈線、平行沈線、斜位、横位、内面沈線1条。	赤彩、折状物質兼混入。	砂式
93	6	XI005	埋土上位	弥生	浅鉢	体部上半	－	－	(4.6)	波状口縁、波頂に押圧、口縁沈線、変形工字文、斜位、横位、内面沈線2条。	七ヶ宿土等。	砂式
93	7	XI005	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.6)	波状口縁、口縁沈線、内面沈線1条。	赤彩、折状物質兼混入。	砂式
93	8	XI005	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.6)	口縁沈線、内面沈線1条、平行沈線、突起。	折状物質兼混入。	大洞A式
93	9	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.0)	平行沈線、突起、内面沈線2条。	折状物質兼混入。	大洞B式
93	10	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(4.6)	口縁突起、沈線。		十腰内1式
93	11	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(3.0)	沈線。		十腰内1式
93	12	XI005	埋土、直下層上層	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.0)	沈線。		十腰内1式
93	13	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.3)	半楕円状多体第1類沈線。	植物繊維混入。	十腰内1式
93	14	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.8)	口縁沈線刻目隆帯文、口縁上横沈線。	植物繊維混入。	十腰内1式
93	15	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.1)	波状沈線、口縁沈線、内面沈線1条。	植物繊維混入。	大洞A式
93	16	XI005	埋土中层	縄文	鉢	口縁部	－	－	(4.0)	平行沈線、突起間、突起、斜、横位刷毛調整文。	図版10-2と同一？	大洞A式
93	17	XI005	埋土中层	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.7)	平行沈線、突起、斜、横位刷毛調整文。	図版10-2と同一？	大洞A式
93	18	XI005	埋土	縄文	台付鉢	口縁部	－	－	(2.7)	平行沈線、突起。		大洞A式
93	19	XI005	埋土	弥生?	鉢	胴部	－	－	(5.2)	平行沈線、斜、斜位刷毛調整文。	図版10-1と接合。折状物質兼混入。	砂ヶ浦中
100	1	XI005	埋土上層	縄文	壺	胴部	－	－	(2.5)	（無文）。胴部に沈線2段重ねり。		晩期
100	2	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(2.5)	条痕。		晩期
100	3	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.2)	条痕。		晩期
100	4	XI005	埋土	縄文	鉢	胴部	－	－	(3.3)	（無文）		晩期
100	10	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(6.0)	（無文）		晩期
100	11	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(4.8)	楕円状沈線、口縁・口縁部と半楕円状多体第1類沈線。	植物繊維・折状物質兼混入。	十腰内3式
100	12	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.8)	結束沈線、口縁部沈線、多段沈線。	植物繊維混入。	十腰内1類式?
100	13	XI005	埋土上層	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.4)	半楕円状多体1A類沈線。	植物繊維・折状物質兼混入。	十腰内1類式
100	14	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.4)	半楕円状多体5類沈線。	植物繊維混入。	十腰内1類式
100	15	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(5.0)	多楕円状多体沈線。	植物繊維混入。	十腰内1類式
100	16	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(5.2)	三角沈線文又は工字文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
100	17	XI005	埋土下层	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(5.7)	半楕円状多体第6類沈線。	植物繊維混入。	十腰内1類式
100	18	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	口縁	－	－	(3.7)	平行沈線。	折状物質兼混入。	十腰内1類式
100	19	XI005	埋土	縄文	浅鉢	口縁	－	－	(4.0)	斜、横位刷毛調整文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
100	20	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(3.7)	（無文）。		晩期
100	21	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	(4.6)	－	(3.7)	（無文）。		晩期
100	22	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	(2.4)	8.0	(3.7)	条痕。内面に沈線状の工具痕あり。		晩期
100	23	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	(5.6)	(5.6)	(3.6)	斜、横位刷毛調整文。		晩期
100	24	XI005	確認	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(3.6)	斜、横位刷毛調整文。		晩期
100	25	XI005	埋土中层	縄文	浅鉢	胴部	(8.4)	－	(3.6)	（無文）。		晩期
100	26	XI005	埋土	縄文	浅鉢	胴部	(7.7)	(7.1)	(3.6)	（無文）。		晩期
100	27	XI005	埋土下层	縄文	鉢	胴部	－	－	(3.6)	（無文）。	折状物質兼混入。	晩期
100	28	XI005	埋土、埋土上層	縄文	鉢	体部下半	－	7.6	(12.6)	沈線、斜、横位刷毛調整文。		大洞A式
100	1	XI005a	確認	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.0)	口縁部。口縁沈線、口縁沈線1条。		砂ヶ浦中
104	1	XI005b	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.7)	斜、横位刷毛調整文。		晩期
104	2	XI005b	確認	弥生	鉢	胴部	－	－	(4.0)	平行沈線（工字？）、沈線、変形工字文。		砂ヶ浦中？
104	3	XI005b	確認面上	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(3.9)	（無文）。		晩期
104	4	XI005b	埋土	縄文	壺	胴部	－	－	(4.2)	半楕円状多体第1類沈線刻目隆帯文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
104	5	XI005b	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.4)	多楕円状結節沈線刻目隆帯文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
104	6	XI005b	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(6.4)	半楕円状多体第1類沈線刻目隆帯文。	植物繊維・折状物質兼混入。	十腰内1類式
104	7	XI005b	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.2)	（無文）。		晩期
105	1	XI005	埋土	縄文	浅鉢	体部上半	24.8	－	(18.0)	条痕。	図版10-3と同一。	晩期
105	2	XI-XII	堆積	縄文	浅鉢	底部	－	11.2	(4.6)	条痕。	図版10-1と同一。	晩期
105	3	XI005	底面	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(9.2)	斜、横位刷毛調整文。平行沈線、突起、縦位短沈線。	図版10-2と同一、内面折れ曲り有。	大洞A式
105	4	XI005	底面	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.8)	口縁文字胴部に工字？平行口縁部沈線。		晩期
105	5	XI005	埋土	縄文	台付浅鉢	口縁部	－	－	(3.9)	口縁突起、平行沈線、縦位短沈線、口縁内面沈線2条。	折状物質兼混入。	大洞A式
105	6	XI005	埋土	縄文	鉢	口縁部	－	－	(3.9)	口縁部刻目隆帯文、平行沈線。		大洞A式
105	7	XI005	底面	縄文?	鉢	口縁部	－	－	(2.2)	平行沈線、内面沈線1条。	折状物質兼混入。	縄文?～弥生
105	8	XI005	底面	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.8)	口縁部沈線。		大洞A式?
105	9	XI005	底面	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(4.0)	口縁部沈線。		晩期
105	10	XI005	底面	縄文	台付土器	口縁部	－	－	(2.2)	斜、横位刷毛調整文。	折状物質兼混入。	晩期中葉
105	1	XI006	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(2.4)	平行沈線、口縁沈線刻目隆帯。		大洞A式
106	5	XI008	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(5.3)	楕円状沈線、押圧、沈線、円形刻目、口縁沈線刻目隆帯。		十腰内1式
106	6	XI008	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.6)	沈線、工字文、口縁沈線。		十腰内1式
106	7	XI008	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(2.5)	沈線、口縁沈線刻目隆帯。		十腰内1式
106	8	XI008	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(2.5)	沈線。		十腰内1式
106	9	XI008	埋土	縄文	壺	胴部	－	－	(6.3)	沈線。	紐手剥落	十腰内1式
106	10	XI008	埋土	縄文	壺	底部	－	(11.3)	(1.9)	沈線。		砂ヶ浦
106	11	XI008	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(2.6)	斜、横位刷毛調整文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
106	12	XI008	埋土	縄文	浅鉢	胴部	－	－	(5.6)	多楕円状沈線刻目隆帯文。	植物繊維混入。	十腰内1類式
107	1	XI010	埋土	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.6)	（無縄）。土器片錘。		晩期中葉
107	2	XI010 (XI004)	埋土	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(8.6)	斜、横位刷毛調整文。平行沈線、突起。	図版10-3と同一。内面に炭化物付着。	大洞A式
119	1	遺土遺構(5) 2-A層)	横打12-1　G12-A 北	縄文	台付浅鉢?	体部上半	14.4	－	(8.7)	波状口縁、重弧下工字文、口縁・内面沈線各1条。		大洞A？式
119	2	遺土遺構(5) 2-A層)	横打12-1　G12-A 北	縄文	鉢	体部上半	(14.4)	－	(5.2)	沈線、変形工字文。内面沈線1条。		大洞A？式
119	3	遺土遺構(5) 2-A層)	横打-32×2G12-A、横打-G12-1 横打-32G12-A、横打-32G12-A	弥生	鉢	鉢完形	17.6	7.6	7.7	2段一対の突起を有する波状口縁で、鋸歯状2段の突起と平行あり。口縁部下にあると思われる1条4、変形工字文と平行沈線を鋸状に配置し、平行沈線間に口縁部、口縁突起間を結ぶ縦位沈線、内面に沈線1条。	植物繊維・折状物質兼混入。	五所式
119	4	遺土遺構(5) 2-A層)	北成8.9ライン 横打-32a 3 横打-32 G12-A 横打-32 G12-A	縄文	浅鉢	体部上半	20.7	－	(13.0)	口縁2単一突起、結束沈線、口縁部、横位刷毛調整文、平行沈線、突起、胴部刻目隆帯文。内面沈線1条。		大洞A式
119	5	遺土遺構(5) 2-A層)	横打12 G12-A 横打-32 G12-A 横打-32 G12-A	縄文	浅鉢	体部上半	11.2	(5.0)	9.6	平行沈線、突起、縦位短沈線、斜、横位刷毛調整文。内面沈線1条。		大洞A？式
119	6	遺土遺構(5) 2-A層)	横打-32 G12-A 横打-32 G12-A 横打-32 G12-A 北成8.9ライン	縄文	台付鉢	体部上半	11.2	－	9.4	平行沈線、縦位短沈線、内面沈線1条。		大洞A式～
119	7	遺土遺構(5) 2-A層)	横打12-2 G12-A	縄文	鉢	口縁部	－	－	(3.6)	平行沈線、入突起下部3重平行線し、口縁・内面に沈線各1条。		大洞A式
120	1	遺土遺構(5) 2-B層)	横打12-2 G12-A 北	縄文	浅口平	胴部	－	－	(4.3)	斜位短沈線、沈線、斜、横位刷毛調整文(未燃)。	図版4-1、図版8-2、図版3-1同一個体。	後期後葉
124	2	遺土遺構(5) 2-B層)	横打-33G12-B	縄文	浅鉢	鉢完形	(10.6)	(5.2)	(3.0)	口縁突起1個のみ現存。	折状物質兼混入。	晩期後半
124	3	遺土遺構(5) 2-B層)	横打-33G12-B	縄文	鉢	鉢完形	(12.0)	(3.0)	(2.5)	口縁に沈線1条。	金雲母混入。	晩期後半
124	4	遺土遺構(5) 2-B層)	横打-34G12-B	縄文	鉢	鉢完形	(16.4)	5.0	6.3	口縁部に2突起対2ヵ所存在(単位2突起)。口縁部直下、平行沈線3に二1本の平行沈線、口縁沈線1条。内面沈線1条。		大洞A式

表 1　土器観察表（7）

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
124	5	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-33-61(2上面P821	縄文	台付鉢	完形	12.5	5.3	9.4	口縁部に4条平行沈線と1条の突起。突起部は4カ所と1カ所に口縁内面に沈線がのこる。底部内面に沈線がいくつかある。内面に矢羽根状沈線文が施文。	大洞A式
124	6	掘上遺構(1)第2-6地)	掘C-53 S1貯蔵 掘B-52 S2-B	縄文	台付鉢	体部上半	11.5	–	(5.2)	口縁部に3条平、平行沈線が間隔のとりまち風(鋸状)になる。胴部の表面は4単位とみられ、1カ所区切りの部分で2カ所区切り小部分とみられる。内面に沈線1条。	大洞A式
124	7	掘上遺構(1)第2-6地)	掘G-34-F12-下 P1140	縄文	台付鉢	体部上半	12.8	–	(6.0)	平行沈線、櫛状沈線1単位。内面に沈線、口縁部3条1条。	大洞A式
124	8	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-34-61 S-2-上層 F-X	縄文	鉢(台付鉢)	底部	(12.0)	–	6.7	口縁平行線文帯、口縁、内面に沈線、口縁部3単位が4単位。4単位沈線は4突起。内面底に沈線1条巡る。口縁に4条沈線のこ、縁部に沈線で楕円状に区切りとる。口縁部沈線条に、縁のっぺ沈線部は沈線部に隣丸方形状に区ってのこるとある。	内外面赤彩。	大洞A式
124	9	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54-G-下 P1	縄文	台付鉢	体部上半	(24.6)	–	(10.2)	平行沈線4条1上から3条目に2条一組一対の突起3単位ずつ。口縁沈線帯(ぼん。	大洞C式	大洞C式
124	10	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-11-2 掘G-52-2S-2-6 掘G-53-S1-B2-B	縄文	浅鉢	体部上半	(30.6)	–	(9.0)	口縁沈線文。口縁部9。	大洞C式	大洞C式
124	11	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-33-G12-下 P964	縄文	鉢	鉢完形	(9.0)	(4.6)	(5.2)	(無文)	内面輪積み痕あり。折状物質混入。	晩期後半?
124	12	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-32-3S2-下 P964	縄文	鉢?	鉢完形?	(13.4)	(4.5)	6.0	沈線	内面汗者物あり。所属物調査。	晩期後半
124	13	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-33-F12-下 P1	縄文	台付土鉢	体部上半	(10.9)	–	(4.3)	(無文)底内面に円形くぼる。	赤彩。折状物質混入。	晩期後半
124	14	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-33-2S2-下 P1	縄文	台付鉢	鉢完形	11.7	6.8	8.6	(無文。台部底部に沈線横調整。		晩期後半
124	15	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-32-3S-F12-下 P1 掘F-32 G12-6 P1	縄文	片口台付鉢	鉢完形	(12.2)	(7.2)	7.3	片口部両側口縁に小突起各2個。頂部沈線2条?	片口部欠損。	大洞C式
125	1	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53-2S2-本土層 掘E-35S2	縄文	鉢	鉢完形	–	–	(7.5)	菱格沈線、櫛状、直本下字文。矢羽根状文。	折状物質混入。	大洞A式
125	2	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54-G2-下 P960 F-X	縄文	鉢	鉢完形	(8.8)	4.6	6.6	平行沈線、口縁2条。櫛状下半本条。櫛状文縦書石棺(沈線文。その区切り上部の平行沈線間に縦位沈線文。内面沈線1条。	鉢部壁面にとり又縦不鮮明。折状物質混入。	大洞A式
125	3	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-11-1 掘F-52 S2-6 工層 掘E-52 S2-上層	縄文	鉢	鉢完形	(10.1)	7.8	4.6	平行沈線3条。櫛状18欠沈線文。		大洞A式
125	4	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54S2-下 P960 F-X	縄文	鉢	鉢完形	(8.5)	3.7	7.1	平行沈線多条間隔。短沈線なし。H1 斜行沈線文。	折状物質混入。	大洞C式～A式
125	5	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-32-6H12-下 P915	縄文	鉢	鉢完形	(9.6)	4.7	8.9	口縁平行沈線多条1カ小さ3条目に2カ所結束作。4単位?。底部付近に平行沈線2条。底文は縦沈線。	大洞C式～A式	大洞C式～A式
125	6	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-32-F12-3 掘F-53S2-6	縄文	鉢	鉢完形	(9.9)	(8.9)	8.6	平行沈線多条1上から2条目に突起2カ各。(10丁字帯分。縦位短沈線なし)。口縁部櫛状。櫛状18欠沈線文。	無文胴(縦文一部付一式線)。	大洞A式
125	7	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-52x4S2-6 F-X P918	縄文	鉢	完形	11.4	5.3	8.9	平行沈線4条1上から2条目に2カ所突起部に突起。縦位短沈線なし。18欠沈線文。櫛状下半横沈線。H1 斜行沈線文。	折状物質混入。	大洞C式～A式
125	8	掘上遺構(1)第2-6地)	掘E53 S2-6, 掘E	縄文	鉢	鉢完形	(11.8)	6.0	11.4	口縁部。平行沈線2条。18欠沈線文。		大洞C式～A式
125	9	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53 S2-H上層	縄文	鉢	鉢完形	(13.3)	(6.6)	13.0	口縁に第一対の突起4単位平行沈線多条上から3条目に突起18単位?。縦位短沈線なし。口縁・内面沈線多1条。底部3条1本。櫛状18欠沈線文。	折状物質混入。	大洞A式
125	10	掘上遺構(1)第2-6地)	掘G-54H12-6下 P926	縄文	鉢	鉢完形	14.2	7.4	13.3	口縁に第一対の突起4単位平行沈線多条上から2条目に突起18単位?。縦位短沈線なし。櫛状H斜行沈線文。	無文胴(縦文一部付一式線)。折状物質混入。	大洞A式
125	11	掘上遺構(1)第2-6地)	掘G-54x4S2-6上層 F960	縄文	鉢	鉢完形	14.87 15.0	7.2	13.7	口縁部に沈線。平行沈線多条1上から3条目に2カ所突起2単位(18単位?)。4・5条目5・6条目をまたく縦位短沈線あり)。口縁櫛状。櫛状H斜行沈線文。		大洞A式
125	12	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-51, S2 S2-6	縄文	鉢	鉢完形	(14.5)	5.6	15.6	平行沈線3条。18欠沈線文。		大洞A式
125	13	掘上遺構(1)第2-6地)	掘E-F12-1 掘F-53S2-6	縄文	鉢	鉢完形	(11.1)	5.5	9.1	H斜行沈線文。	折状物質混入。	晩期後半
125	14	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53x2F-(x3 F-3-6上層	縄文	台付鉢	鉢完形	(9.3)	5.9	9.4	H斜行沈線文。		晩期後半～弥生前半
125	15	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54x1H12-6下 P960	縄文	鉢	完形	11.9	5.1	11.6	H斜行沈線文。	折状物質混入。	晩期後半
125	16	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53x-F12-6 P977	縄文	鉢	鉢完形	13.77 14.1	6.276.7	12.7	H斜行沈線文。		晩期後半
125	17	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F12-1 掘E-53x-S2-B下層	縄文	鉢	鉢完形	(15.7)	6.2	12.5	H斜行沈線文。	口縁欠損?	晩期後半
125	18	掘上遺構(1)第2-6地)	掘E-53x4S2-6 P936	縄文	鉢	鉢完形	13.5	7.4	12.7	(無文。口縁かぞ?(?)		晩期後半?
126	1	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-52S2-6上層 F-X	縄文	台付浅鉢	体部上半	11.8	–	(4.9)	平行沈線多条1上から2条目に2条一組一対の突起4カ所単位。上から3・5条目。4・5条目。3～6条目に縦位短沈線あり。台部に4条平行沈線。底内面に円形沈線。	(ほぼ全部復元できている。)。全面赤彩と思われる。折状物質混入。	大洞A式
126	2	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-52S2-6上層 F-X	縄文	台付浅鉢	体部上半	14.0	–	(5.9)	平行沈線多条1上から2条目に2条一組一対の突起4単位。上から3～5条目3～4条目をまたく縦位短沈線あり。台部に沈線2条。底内面沈線1条。	赤彩部分。折状物質混入。	大洞A式
126	3	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54-2S2-6 F945	縄文	台付浅鉢	体部上半	15.8	–	(5.5)	平行沈線多条1上から2条目に2カ所突起2単位。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あり。	赤彩部分。折状物質混入。	大洞A式
126	4	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-52x4S2-6下 P917	縄文	台付浅鉢	鉢完形	13.4	6.0	8.2	口縁に2条一対の突起2カ所。平行沈線多1上から2条目に2条一対の突起2カ所。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あり。台部に平行沈線4条。H斜行沈線文。底内面に円形沈線。	赤彩部分。折状物質混入。	大洞A式
126	5	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53 S2-H, 掘E,	縄文	台付浅鉢	鉢完形	12.4	5.9	7.5	口縁2条一対突起4単位。平行沈線7条1上から2条目に2条一対の突起4単位。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あり。台部に平行沈線6条。底内面沈線2カ所沈線。	赤彩部分。折状物質混入。	大洞A式
126	6	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-52x4S2-6下 P990	縄文	台付浅鉢	鉢完形	15.4	6.6	9.1	平行沈線7条1上から2条目に2条一対の突起4単位。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あり。一部は2条目。台部に平行沈線4条。底内面に円形のこる。	赤彩部分。裏胴構造分析(No.6)。底部構造分析(No.2)。	大洞A式
126	7	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-53x2S2-6 F-X	縄文	台付浅鉢	鉢完形	16.27 16.7	7.077.4	11.0	口縁2条一対突起4単位。平行沈線7条1上から3条目に2条一対の突起4単位。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あ。一部は2条目をまたく縦位短沈線あ。台部に平行沈線6条1上から2～4条目。3～5条目をまたく縦位短沈線あり。一部は2条目。台部に沈線2カ所。底内面に円形のこる。口縁に沈線。	赤彩部分。折状物質混入。	大洞A式
126	8	掘上遺構(1)第2-6地)	掘F-54x2S2-6下 P913	縄文	台付浅鉢	鉢完形	14.87 16.3	7.2	9.7	口縁に2条一対突起4単位。平行沈線7条1上から3条目に2条一対の突起4単位。上から3・5条目。4～6条目をまたく縦位短沈線あ。一部は2条目。台部に平行沈線6条1上から1～3条目。2～4条目をまたく縦位短沈線あ。一部は2条目。台部に沈線2カ所。底内面に円形くぼる。	赤彩部分。折状物質混入。裏胴構造分析(No.7)。底部分析(No.13)。	大洞A式

表１　土器観察表（８）

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種別	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
126	9	区土遺構(分２-6類)	層F-53G2-8 P-X	縄文	台付浅鉢	鍔近部	15.8? 16.5	(8.4)	11.0	平行沈線７条上から２条目と２条一足の受沈4単位。上から３～５条目、4～6条目をまたぐ縦位短沈線あって一組は下方文を形成。台部は平行沈線６条上から２～4条目、５～５条目に縦位短沈線入れて下文を形成し、鍔部側に円形ハ沈あり。	折衷物質量混入。	大洞A式
126	10	区土遺構(分２-6類)	層F-54G2-8 P856	縄文	台付鉢	鍔近部	(10.4)	4.8	8.9	口縁部受沈(単位?)平行沈線６条上から３条目に受沈7ヶ(単位?)。上から4～6条目、５～6条目をまたぐ２ヶ縦位短沈線あり。鍔近部沈線欠損。縦位沈線。台部無文。全ロ平行沈線。口縁は鍔下沈線は縦位沈線。台部内面沈線１条。	無文胴(縄文一足付一沈線)。胴部壁厚2.7ヶ。沈線が不鮮明。折衷物質量混入。	大洞A式
126	11	区土遺構(分２-6類)	層F-53G4-2 P854	縄文	台付鉢	鍔近部	13.9? 14.0	7.0	11.6	口縁部に２段一足？平行沈線７条上から２条目と２条一足の受沈4単位。鍔部に平行沈線３条上から２条目と２条一足の受沈4単位。鍔部下に平行沈線３条。平行沈線間に縦位文様入る。胴部に縦位沈線。台部に縦位沈線。	外面炭化物付着。折衷物質量混入。	大洞A式
126	12	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-8 P-X	縄文	台付鉢	鍔近部	(10.6)	5.8	8.8	口縁部に受沈2ヶ単位。平行沈線４条。口縁は鍔下沈線。台部無文。		大洞A式
126	13	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P904	縄文	台付鉢	鍔近部	9.7	6.17ε.5	11.1	平行沈線７条上から２条目に受沈10単位?。上から３～５条目、4～6条目に受沈沈線２ヶ下文を形成。4～6条目に縦位受沈沈線２ヶ下文を形成。口縁は鍔部。鍔直下沈線は縦位。	口縁部異文は沈線無文後に無文。	大洞A式
126	14	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	台付鉢	完形	10.6? 10.9	6.07ε.4	10.0	口縁部に２段一足の受沈4単位。平行沈線７条上から３条目と２条一足の受沈沈単位。上から４～５条目をまたぐ縦位短沈線７単位。上、鍔部・台部間に縦位沈線。無文。台部無文。沈線。	折衷物が口縁内面から外面鍔部下半に占付着。	大洞A式
126	15	区土遺構(分２-6類)	層G-54G1-2 P1009	縄文	台付鉢	体部上半	(12.8)	-	(10.8)	口縁部は沈線。平行沈線７条上から３条目に２単位の受沈3単位?単位。受沈下部の３～６条目に縦位短沈線がつくられた。口縁沈線無文。	無文胴(縄文一足付一沈線)。	大洞A式
126	16	区土遺構(分２-6類)	層G-53G4-2 P858	縄文	台付鉢	体部上半	(13.7)	-	(9.6)	口縁は２段一足の平行沈線４単位?。口縁部に平行沈線３条。鍔部に縦位沈線。受沈(縦横沈文)あり。胴横位沈線無文。口縁沈線。	内面炭化物付着。	大洞A式
126	17	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P884	縄文	台付鉢	鍔近部	(16.4)	8.17ε.6	12.6	口縁２段一足の受沈の4単位。平行沈線。鍔部沈線間無文。鍔部上半に２段一足の受沈の4単位。沈線。台部に１段の受沈の4単位?。縦文は横位沈線。		大洞A式
127	1	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-8 P866	縄文	深鉢	鍔近部	16.4? 14.8	6.5	14.5	平行沈線５条上から３条目と２単位の受沈5単位?。受沈下部の上から６～７条目沈線をつって縦位短沈線あり。口縁から底部まで沈線の沈線無文。口縁沈線。	内外面炭化物付着。	大洞A式
127	2	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P903	縄文	深鉢	鍔近部	(13.9)	5.2	14.6	平行沈線９条上から４条目と２単位の受沈5ヶ単位?。受沈下部の上から６～７条目沈線をつって縦位短沈線あり。口縁から底部まで沈線の沈線無文。口縁沈線。	内面炭化物付着。	大洞A式
127	3	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-8 P925	縄文	深鉢	鍔近部	16.2? 16.8	6.7	16.5	口縁部内のみ２段一足の受沈2単位。平行沈線２条。鍔部沈線沈線無文。		大洞A式
127	4	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P991	縄文	深鉢	鍔近部	17.5	15.8	10.7	口縁部平行沈線３条。口縁沈線鍔下沈線。底部沈線沈線無文。		大洞A式
127	5	区土遺構(分２-6類)	層F-55G3-2 P924	縄文	深鉢	鍔近部	(19.1)	6.7	20.5	平行沈線10条上から３条目と２単位の受沈3単位?単位?。上から２～５条目をつって縦位短沈線あり。鍔部沈線沈線無文。口縁沈線。	内面炭化物付着。イイキ沈線近似?。(第23図)。粘土分析(No14)。	大洞A式
127	6	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	深鉢	完形	21.2	7.6	21.0	口縁部は沈線ボード。鍔部沈線中に上段一足受沈2単位。口縁部沈線。鍔部沈線沈線沈線無文。口縁沈線。	内面炭化物付着。イイキ沈線近似?。(第23図)。粘土分析(No14)。	大洞A式
127	7	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P966	縄文	深鉢	鍔近部	22.4? 22.7	(8.0? 9.0)	23.0	口縁に沈線２ヶ沈線が上段押圧による小沈線が上段。鍔部無文。胴横位沈線無文。		大洞A式
128	1	区土遺構(分２-6類)	層F-54G2-2 P968	縄文	深鉢	鍔近部	17.8? 18.5	8.27ε.6	23.3	平行沈線３条。口縁沈線無文。	外面煤付着ていて、底面煤付着はこの上を煤形平痕(NO.12079 底面ノ煤痕)。	晩期後半
128	2	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-2 P962	縄文	深鉢	鍔近部	(26.5)	9.07ε.4	28.5	口縁１ヶ押圧。平行沈線３条。６種位沈線無文。	無文胴(沈線一足)。	晩期後半
128	3	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-8 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	22.2	7.0	26.5	平行沈線３条。鍔沈線沈線無文。		晩期後半
128	4	区土遺構(分２-6類)	層F-52G1?1?G2-8 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	21.9	(8.3)	23.8	平行沈線３条。口縁沈線無文。	内面輪積ら低あり。	晩期後半
128	5	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	20.6	7.7	20.8	平行沈線３条。口縁部沈線沈。鍔部沈線沈線無文。	内面輪積ら低あり。	晩期後半
129	2	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	23.1	9.0	24.4	口縁ナデ。口縁沈線無文。	内面輪積ら低あり。	晩期後半
129	3	区土遺構(分２-6類)	層F-53G3-2 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	20.2	9.7	30.4	口縁部２段沈１ヶ平行沈線口縁沈線無文。胴部２段沈沈線沈線無文。	貫通孔(縄帯孔)１穴あり。	晩期
129	4	区土遺構(分２-6類)	層F-54G1-2 (No.2?-10 層D?-52 E11 (no)?)?層F-52G1-2 E-1?層	縄文	深鉢	鍔近部	19.6	(8.4)	25.5	口縁沈線無文。底部付近は横位沈線無文。		晩期
130	2	区土遺構(分２-6類)	層F-54G1-2 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	21.2	8.8	23.8	口縁沈線無文。		晩期
130	3	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	18.4	9.0	21.0	口縁沈線無文。		晩期
130	4	区土遺構(分２-6類)	層F-53G4-2 P-X	縄文	深鉢	体部上半	20.4	-	(18.0)	口縁部無ヶ。口縁沈線無文。		晩期
130	5	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-8 P-X	縄文	深鉢	鍔近部	26.5	11.6	36.0	口縁押圧による小波状口縁。条痕。		晩期
131	1	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	無頸小鉢	完形	3.0	1.2	4.6	(無文)		晩期
131	2	区土遺構(分２-6類)	層F-53G3-2 P-X	縄文	小鉢	体部下半	(2.0)	2.9	5.4	(無文)		晩期
131	3	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	小鉢	体部下半	(2.1)	3.7	(6.2)	(無文)底部上げ底風。		晩期
131	4	区土遺構(分２-6類)	層F-53G4-2 P-X	縄文	壺	完形	4.1	5.7	6.8	口縁沈線無文。底部上げ底風。	胎土焼成ともに低く不鮮明。	晩期
131	5	区土遺構(分２-6類)	層F-52G3-2 P-X	縄文	壺	鍔近部	7.4	5.4	11.6	上段受沈胴部に受沈2ヶ下段沈。胴部は受沈2単位のみ。肩部下段沈。受沈部分の口縁は沈線のみあり。鍔部は沈線無文。	折衷物質量混入。	大洞A式
131	6	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 (D-52 E-1 (no)?)?層F-52G1-2 P-X	縄文	壺	鍔近部	7.0	5.1	15.7	上段受沈胴部に受沈2単位下段沈。胴部上段２単位の受沈7ヶ横位。受沈部分の口縁は沈線あり。鍔部は下段無文。胴部下段に横位沈線あり。鍔部に横位の上下に沈線の間無文。	折衷物質量混入。	大洞A式
131	7	区土遺構(分２-6類)	層F-52G2-2 P-X	縄文	壺	体部下半	(4.7)	6.2	(9.6)	(無文)内面に煤ヤけ痕物あり。	胎土焼成ともに低く不鮮明。	晩期
131	8	区土遺構(分２-6類)	層F-54G2-8 P905	縄文	壺	鍔近部	7.7	5.0	8.8	上段受沈胴部に受沈2ヶ下段沈。受沈部分の口縁は沈線のみあり。上段下段の外面には沈線あり。鍔部の鍔下は沈線のみあったものと思われる。鍔部は沈線無文。	折衷物質量混入。	大洞A式
131	9	区土遺構(分２-6類)	層F-54G1?G2-8 P-X	縄文	壺	鍔近部	7.8	5.3	15.1	上段受沈胴部に受沈2ヶ下段沈。胴部上段２単位の受沈7ヶ横位。受沈部分の口縁は沈線あり。上段下段の外面には沈線あり。鍔部は下段無文。胴部下段に横位沈線あり。鍔部に横位の上下に沈線の間無文。	粘土分析(No.9)。折衷物質量混入。	大洞A式
131	10	区土遺構(分２-6類)	層F-52G4-2 P-X	縄文	壺	鍔近部	6.1	5.1	14.6	口縁部に上段一足の受沈2単位。口縁部に受沈が多ったと思われるが欠損。受沈部分の口縁は沈線あり。鍔部は下段無文。		大洞A式
131	11	区土遺構(分２-6類)	層F-54G1?G2-8 P1139	縄文	壺	体部上半	8.9	-	(17.9)	上段受沈胴部に受沈2ヶあるが、下の外面には受沈1ヶ見えた。上段下段の外面には沈線あり。上段下段の内外面には沈線あり。一段目の鍔下は沈線のみあったものと思われる。鍔部は下段無文。		大洞A式

表 1　土器観察表（9）

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様	備考	時期
131	12	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	完形	18.8	4.6	19.4	大波状と両側の小突起を2個ずつ有する。ただの波状とは口縁に沿無に沿わる。大突起下の外面には横に沿い横線がある。ただ一本線の線で山みは形成されていない。開放口下は無文。	全面赤色顔料塗布。	大洞A式
132	1	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	底部	8.3	6.6	14.9	平底底部から大開下開部に口縁部連続明瞭にいった沿い横線あり。開部以下無文。口縁内面に横線1条。		大洞A式
132	2	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	底部	6.2	5.3	16.9	口縁に平行1条の横線。平行横線間は沿無に沿無文。開口部。		大洞A式
132	3	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	胴部	-	-	(14.2)	胴部に4条文様。口縁部と底部文無し。外面無文。胴下部に内面から穿孔した痕跡がある。穿孔部。	針状物質塗布。	大洞A式
132	4	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	体部上半	6.8?2.2	-	(20.6)	口縁部に1平行横線。口縁部と底部文無し。外面無文。胴下部に内面から穿孔した痕跡がある。穿孔部。口縁内面に赤色。	外面と内面部分に赤色顔料塗布。	大洞A式
132	5	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	胴部	10.7	10.8	30.4	胴部2段横線。	外面黒褐色。	大洞C2式～A式
132	6	住居遺構(1)2-6 M|	縄文土器	縄文	鉢	体部上半	(10.6)	-	(6.4)	口縁部一平行沿。口縁部ハ。口縁部ハ。平行沿無。縄目無文横線。平行沿無。胴部に平行沿無。口縁部胴無文。内面底部ス。	金属赤色顔料。	大洞A式
132	7	住居遺構(1)2-6 M		縄文土器	縄文	広口壺	体部上半	16.0	-	(12.4)	口縁部一平行沿1平行。口縁部ハ。平行沿無。口縁部平行沿無。横線沿無。胴部沿無。胴部沿無。胴部

表１　土器観察表(10)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
164	8	盛土遺構(5)[2-E地]	Nb30ｸﾘｯﾄﾞ 層I-54 [52-E]	縄文	鉢	略完形	11.1	(7.2)	11.0	平行沈線10条上から3条目ユ字状刻目単位？、5・6条目上から6・7条目ユ字・条条目に縦位短沈線、1段目沈線無し、底部付近に沈線2条。		大洞A式
164	9	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-32(a,f) (a,b)分 2-E最下層 P-452	縄文	鉢	略完形	15.0	5.6	13.3	平行沈線3条上から3条目ユ字状刻目単位？、口縁部横位、頸部以下1段目沈線無し、底部		大洞A式
164	10	盛土遺構(5)[2-E地]	層P12-2、層G-55 [52-E地]、層G-56(d)(f)[52-E地]	縄文	浅鉢	略完形	15.0	6.0	14.6	口縁1段横位沈線施文、平行沈線4条上から3条目ユ字状沈線、頸部1段目沈線施文。口縁内面、口縁内面直下に沈線有。	内外面炭化物付着。	大洞A式
164	11	盛土遺構(5)[2-E地]	層P32(a,b)[52-E地]下層P-348、341、351～354	縄文	鉢	略完形	14.6	7.4	12.7	平行沈線3条、頸部1段目沈線施文。口縁内面直下に沈線有。	内外面炭化物付着。	大洞A式
165	1	盛土遺構(5)[2-E地]	層P32-2(a,b)[52-E地]下層P-324	縄文	鉢	略完形	16.7	7.4	15.5	口縁・頸部1段目沈線施文。平行沈線7条（上から1・3条目は断続沈線で間延あり）。口縁内面直下に沈線有。	折状物質微量混入。	大洞A式
165	2	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-32(d,f)[52-E地]下層P-178～182、184～186	縄文	鉢	略完形	15.4	7.0	17.0	平行沈線9条（上から4条目ユ字状刻目単位？）、口縁1段横位、頸部1段目沈線施文。口縁直下、胴に沈線、縦位短沈	折状物質微量混入。	大洞A式
165	3	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-64(a,f)[52-E]下層P-968、層G-56(a,b)[52-E]下層P-1	縄文	浅鉢	略完形	14.6	7.6	14.9	平行沈線3条上から3条目断続沈線・無数短沈線、頸部1段目沈線施文。口縁沈線。	内外面炭化物付着。	大洞A式
165	4	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-64(a,f)[52-E]下層P-1	縄文	浅鉢	略完形	14.0	6.9	17.4	口縁押圧ユ字状刻目単位、平行沈線2条、頸部上半1段横位、下半1段目沈線施文。	折状物質微量混入。	大洞A式
165	5	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-32(a,b3,4)[52-E地]、層P-32(a,b4)[52-E地]下層P-1	縄文	鉢	略完形	15.8	13.6	16.4	平行沈線2条、口縁沈線施文。		大洞A式
165	6	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-34(b,f)[52-E]	縄文	鉢	略完形	16.4	9.2	25.1	口縁2段一定間隔4単位程度（6単位？）平行沈線8条上から3・4条目ユ字状刻目で間延（12～14単位？）、3～6条目・5～7条目ニエ字状の縦位短沈線あり。口縁2段沈線施文。内面石膏1条。	折状物質微量混入。	大洞A式
165	7	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-32(d,f)[52-E地]下層P-490、495層G-55[52]最下層	縄文	浅鉢	体部上半	10.6	-	(21.0)	平行沈線3条、口縁沈線施文。		大洞A式
165	8	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-56(a)[52-E地]下層P-490、495、223、225、227、228、240～252（a)(c)下層B-64(a)[52-E地]	縄文	浅鉢	略完形	15.7	8.9	19.8	口縁沈線施文。	折状物質微量混入。	晩期
166	1	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(b,4)[52-E地]下層	縄文	浅鉢	略完形	16.1	7.2	19.5	口縁沈線2段、体部下半1段目沈線施文。	外面輪積み痕あり。	晩期
166	2	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(c,d)[52-E地]下層P-124、127、132、133、137、138、140～144、146	縄文	鉢	略完形	(19.4)	6.4	20.6	口縁2段横位沈線施文。		晩期
166	3	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(c,d)[52-E地]下層P-122	縄文	鉢	略完形	(20.4)	7.7	21.4	口縁2段沈線施文。		晩期
166	4	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(e,f)[52-E]無底部	縄文	鉢	略完形	21.8	10.0	28.7	口縁2段沈線施文。底部無数の圧痕。		晩期
166	5	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(a,b)[52-E]下層	縄文	浅鉢	略完形（口縁部）	21.9	8.6	(28.4)	口縁2段沈線施文。		晩期
167	1	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B5(a,b)[52-E]	縄文	浅鉢	略完形（口縁部）	31.5	(9.8)	31.6	口唇面取り、平行沈線3条、口縁2段沈線施文。		大洞A式
167	2	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B5(a,b)[52-E地]下層	縄文	浅鉢	略完形（口縁部）	28.2	(9.4)	(33.3)	口縁2段横位沈線施文。平行沈線10条（上から4条目ニエ字状刻目、7・8条目は縦位短沈線）。頸部上半1段横位、下半1段目沈線施文。底部付近沈線2条。口縁内面直下に沈線1条。	外面煤痕、内面炭化物付着。	大洞A式
167	3	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-35 [52-E]下層B	縄文	壺	略完形	6.8	5.8	12.1	無文、胴突、唇刻文、平行沈線		大洞B式
167	4	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-35(c)[52-E]	縄文	壺	略完形	5.6	5.2	11.4	(無文)		晩期中葉
167	5	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B5 [52-E]出土遺物	縄文	壺	体部下半	-	3.6	(9.1)	口縁部欠損。(無文)	底部に欠ちのある同類(壺)あり。	晩期中葉
167	6	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-54 [52-E]	縄文	壺	略完形	9.8	8.2	23.3	口唇面取り、口縁2段沈線施文。	摩滅顕著。折状物質微量混入。	大洞B式～A式
167	7	盛土遺構(5)[2-E地]	Nb30ｸﾘｯﾄﾞ 層P-54 [52-E]	縄文	壺	略完形	6.9	5.4	15.2	口縁2段横位沈線、頸部の外面部は2段構成。2段沈線、大型2段に二段構成線。頸部に沈線1条。口縁内面直下の二沈線。頸部以下無文。		大洞A式
168	2	盛土遺構(5)[2-E地]	Nc31ｸﾘｯﾄﾞ 層P-54 [52-E]、層G-54 [52-E]	縄文	壺	略完形	(8.8)	(4.0)	14.6	口縁2段横位沈線、頸部の外面部は2段構成。口唇一部に沈線。頸部以下無文。	折状物質微量混入。	大洞A式
168	3	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-54 [52-E]、層G-54 [52-E]、層I-35(b,c)[52-E]	縄文	壺	胴部	-	-	(10.8)	突起、沈線、矢羽根状文、工字文	赤彩。	大洞A式
168	4	盛土遺構(5)[2-E地]	層P-B3(b,c)下層P-21[52-E]下層P-21[52-E]、層B-53-2[52-E]下層P-2	縄文	壺	体部下半	-	-	(33.8)	平行沈線、矢羽根状文、縦位短沈線。	折状物質微量混入。	大洞A式
168	5	盛土遺構(5)[2-E地]	層P12-1、層E-54 [52-E]、層F-53 [52-E]、層L-5(b)[52-E]	縄文	壺	体部上半	(7.6)	-	(16.6)	口縁に沈線、下方文、胴部に十字文間に縦位沖状文胴部間、連続下方文に下方文間に縦位短沈線。平行沈線。口縁内面に沈線2条。		大洞A式
182	1	盛土遺構(5)[2-E地]	層K-38a(b)[52-E]P145	縄文	浅鉢	略完形	16.2?16.8	-	5.9	平行沈線(口縁部下方断面)下方ユ字状刻目単位。口縁部2段横位沈線施文。	胎土層(口縁部平行沈線)一部ユ字状刻目。胎土中に白色粒状物質と赤褐色粒。	大洞C式
182	2	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-63(c)[52-E]下層P-1006、1[最新層]下層P-62(c)[52]	縄文	台付浅鉢	略完形	16.6	-	(3.9)	口唇下文化粒りあり。隆帯上に刻み。平行沈線。突起下。口縁2段横位沈線施文(文様)。	赤彩。折状物質微量混入。胎土分析(No3)。	大洞C式
182	3	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-39a(c)[52-E]P1108	縄文	台付鉢	略完形	6.0	4.2	4.4	走査突起(刻目)、突起間2段、突起直下横位沈線。上面ヨコ方文(石膏面)にかこまれた第一次ロの突起(石膏面)。平行沈線。胴、胴部沈線施文。	赤彩。折状物質微量混入。	大洞C式
182	4	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-36(d,f)[52-E]P1224	縄文	台付鉢	略完形	(14.8)	4.3	10.3	口唇突起、口縁隆帯、平行沈線3条。上半1段横位、下半4段目沈線施文。上から下目第2・3段、底部付近に平行沈線2条。	内面炭化物付着。	大洞C式
182	5	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-38 [52-E]2下層	縄文	鉢	略完形	10.4	4.7	6.8	(無文)	内外面炭化物付着。	晩期中葉
182	6	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-38a(c)[52-E]2下層	縄文	鉢	略完形	9.9	4.3	7.6	(無文)	内面上部に炭化物付着。	晩期中葉
182	7	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-32 [52-E]	縄文	鉢	略完形	11.8	5.2	9.5	口縁2段一対4単位？口縁沈線施文。		晩期中葉
182	8	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-36(b)[52-E]2下層P1006	縄文	鉢	略完形	(9.3)	3.7	7.3	口縁部欠ち。平行沈線。口縁沈線施文。口縁内面沈線。		大洞C式
182	9	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-36(b)[52-E]2下層P1202	縄文	鉢	略完形	10.4	4.5	7.0	口唇部に下方ユ字状刻み。平行沈線。口縁沈線施文。	上げ底。	大洞C式～A式
182	10	盛土遺構(5)[2-E地]	層I-37 [52-E]	縄文	鉢	略完形	(12.6)	5.0	11.1	口縁部欠ち。平行沈線。口縁沈線施文。	内面炭化物付着。	大洞C式～A式
182	11	盛土遺構(5)[2-E地]	層K-38b(b)[52-E]P1191	縄文	鉢	略完形	11.8?12.0	4.275.0	9.5	口唇部欠ち。平行沈線。胴部2段一対2ロ突起(ミ字状)。口縁沈線施文。口縁内面沈線1条。	折状物質微量混入。	大洞C式～A式
182	12	盛土遺構(5)[2-E地]	層K-37a(b)[52-E]P1048	縄文	鉢	略完形	(12.3)	5.5	9.2	口縁部欠ち。平行沈線。胴部2段一対2ロ突起(ミ字状)。口縁沈線施文。口縁内面沈線1条。	口縁部内面炭化物付着。	大洞C式

表 1　土器観察表(11)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
182	13	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-H12-R3 P1192	縄文	鉢	略完形	12.3	6.0	9.9	口縁部無文。平行沈線、側面上半に1帯の突起、底部沼田海苔痕。口縁内面沈線。	内面炭化物付着。折状物質微量入。	大洞C2式
182	14	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-H12-R3 P1164	縄文	鉢	略完形	12.7/14.2	6.9	9.2	口縁部無文。側面上1帯以上の突起。大突起、小突起交互に配置。小突起は1帯以上の突起。底部上方に1帯以上の突起。側面平行沈線。底部沼田海苔痕。口縁内面沈線1条。	粗大胴(底付一鍋又一式鍋)。口縁部から胴部の内外面に沿って平行、(14年代測定試料PLD-23264)。粗土(粗)(PL121)。	大洞C2式
182	15	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-H12-R3 P1071	縄文	台付鉢	完形	12.4/12.7	7.0	10.1	胴部に1帯以上の突起。中央突起の胴脇に2個一対の突起が対をなすように配置(中央に1対、平行沈線。底部沼田海苔痕。	内面炭化物付着。	大洞C2式
182	1	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-G12-R3-83 上面 P-1032 鍋2-E-J12-R3	縄文	深鉢	体部上半	30.4	–	(16.6)	口縁部無文。胴部平行沈線間に側面、胴部上2段一対突起2ヶ所配置。底部沼田海苔痕。口縁内面沈線。	内面炭化物付着。	大洞C1式
182	2	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-I12-R3	縄文	深鉢	体部上半	(24.2)	–	(16.6)	口縁部無文。胴部平行沈線。側面上突起(矢羽)が側面に配置。他に上突起2ヶ所配置。底部沼田海苔痕。口縁部上1条。	内面炭化物付着。折状物質微量入。	大洞C2式
182	3	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-G12-R3 鍋2-E-G12 上面 P1005	縄文	深鉢	体部上半	(24.0)	–	(17.6)	口縁部無文。平行沈線。棒状工具によるミガキ。		大洞C2式
182	5	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-M12-R3-2-E P1190	縄文	深鉢	略完形	(26.4)	7.6	23.1	口縁部無文。平行沈線2条。側面上半に2段一対突起2ヶ所配置。底部沼田海苔痕。		晩期中葉
182	4	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-H12-R3 P1190	縄文	深鉢	略完形	22.5/23.4	6.7	19.7	口縁部無文。平行沈線3条。側面上半に1帯以上の突起。底部沼田海苔痕。口縁部上1条。	粗面(棒状工具による整形痕)(No.126)(粗)(粗)(内面炭化物付着)。	大洞C2式
184	1	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-S12-R3	縄文	深鉢	体部上半	(32.3)	–	(15.5)	口縁部に2条の沈線。胴部上下に1帯以上の突起。側面に1帯。	折状物質微量入。	大洞C2式
184	2	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-S6(A-87)12-R3 上層	縄文	深鉢	体部上半	(15.4)	–	(16.5)	口縁部に2段一対突起2単位程度。平行沈線。口縁部上2条。山形沼田海苔痕。	内面炭化物付着。	大洞A式
184	3	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-U12-R3-83 P-1040, 1049	縄文	深鉢	略完形	(14.1)	–	(14.6)	口縁部に2段一対突起1単位程度。底部沼田海苔痕。	内面炭化物付着。	晩期
184	4	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-R12-R3	縄文	深鉢	略完形	21.1	9.2	21.5	口縁部に2段一対突起3単位。LR横位回転施文。	内外面に輪積痕残る。	晩期
184	5	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-U12-R3 鍋2-E-H12 P-1074	縄文	深鉢	体部上半	26.7	–	(28.0)	口縁部に2段一対突起2単位程度(1単位欠損)。底部沼田海苔痕。	口縁内面に段あり。	晩期
185	1	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-G12-R3, 鍋2-E-G12 P-1065	縄文	深鉢	略完形	(23.8)	9.4	26.2	口縁押圧による小波状口縁。条痕。	粗土分析(No.10)。	晩期
185	2	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-G12-R3-2-E P-1050	縄文	深鉢	略完形	(22.6)	7.6	26.9	口縁押圧による小波状口縁。LR横位回転施文。	外面輪積痕残る。内面に赤色顔料付着。	晩期
185	3	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-T12-R3 鍋2-E-S6(S-2-E) 鍋2-E-R6 鍋2-E-S6	縄文	広口壺	略完形	9.0	(6.6)	13.1	(無文)。口縁に突起?		晩期
185	4	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-W12-R3	縄文	壺	完形	4.2	6.075.2	12.8	口縁部ミニ十字の突起が3単位。平行沈線。	粗土、内面上内面間に赤色顔料付着。折状物質微量入。	大洞A式
185	5	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-W12-R3	縄文	壺	略完形	(7.8)	6.3	12.0	口縁部沈線。	土付底。	晩期中葉
185	6	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-U12-R3	縄文	壺	完形	5.0	6.076.7	14.6	口縁平沈線。胴部に突起が2個。胴部上位沼田海苔痕。口縁部沈線1条。		大洞C2式
185	7	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-G12-R3 P-1200	縄文	壺	完形	5.3	3.4	9.3	口縁部に2段一対突起。胴部に1単位の突起。口縁部沈線。	折状物質微量入。	晩期中葉
185	8	住土遺構(1)2-E地	鍋2-D-G12 鍋2-E-H12 鍋2-D-G2-H1	縄文	壺	体部上半	9.4	–	(17.7)	口縁部に突起1ヶ所。平行沈線。LR横位回転施文。下半は縦位回転施文。口縁内面沈線の跡あり。		晩期中葉
185	9	住土遺構(1)2-E地	鍋2-E-S12 P22-R3 P-1035	縄文	壺	略完形	(9.3)	–	17.7	口縁に突起1ヶ所。平行沈線。LR横位回転施文。	折状物質微量入。	晩期中葉
194	1	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S5a1 1m1ハ	縄文	台付鉢	略完形	8.5	4.3	6.7	口縁部無文。胴部、平行沈線。側面上半に1帯以上の突起(側面)。内面沼田海苔痕。口縁部上1条。外面に強かな突起が組合わさって(1)(2)突起。一部強度ヌケの為で側面ひずみ状の単位。		大洞C2式
194	2	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S4 1m1ハ	縄文	台付鉢	略完形	10.2	5.8	8.0	口縁部突起。胴部突起1単位。胴部平行沈線。胴部平面に平行沈線。側面上半に1帯以上の突起。LR横位回転施文。	折状物質微量入。	大洞C1式
194	3	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S5a1 1m1ハ	縄文	台付鉢	体部上半	11.6	–	(11.4)	口縁部突起。胴部突起1単位。胴部平面に平行沈線。平行沈線。LR横位回転施文。		大洞C1式
194	4	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S4a1 1m1ハ	縄文	鉢	略完形	(13.2)	4.7	11.2	口縁突起一対突起4単位。胴部突起平行沈線。平行沈線。LR横位回転施文。胴部上半に1帯以上の突起。	折状物質微量入。	大洞A式
194	5	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S4a1 1m1ハ 鍋2-F-S6(F-2)1 P-1253	縄文	壺	体部下半	–	7.0	(16.1)	胴部平行沈線。突起。LR横位回転施文。	土器内面上部折れ式(14年代測定試料(IAAA-112001))。	晩期後半
194	6	住土遺構(1)2-F地	鍋2-F-S4 1m1ハ	縄文	壺	略完形	8.3	(6.5)	12.1	胴部沈線。内面沈線1条。	赤彩。	晩期
197	1	住土遺構(1)2-H地	鍋K-G3a1 1m1ハ	弥生	壺	胴部	–	–	7.6	平行沈線。変形工字文?胴部LR横位回転施文。	鍋1-13、鍋1W-7、鍋2W-9、鍋2D-9-11、鍋2K2-19-20鍋5-7	土器式
197	1	住宅地図(S56)	住宅P1338	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(6.9)	口縁肥厚。沈線。内面沈線1条。		十腰内1式
197	2	住宅地図(S56)	鍋J-G3c4住G	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(4.5)	波状口縁。沈線。		十腰内1式
197	3	住宅地図(S56)	住宅P1235	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(3.6)	平行沈線間に結ん。鋸状文。LR横位回転施文(横)。	折状物質微量入。	大洞C1式
197	4	住宅地図(S56)	住宅P1042	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(2.5)	口縁一次突起ヤ三次。口縁部刻目。沈線。鋸状文。LR横位回転施文(横)。	赤彩。折状物質微量入。	大洞C1式
197	5	住宅地図(S56)	住宅P831	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(2.0)	口縁一次突起ヤ三次。平行沈線。鋸状文。LR横位回転施文(横)。	赤彩。	大洞C1式
197	6	住宅地図(S56)	住宅P1265	縄文	深鉢	胴部	–	–	(2.3)	鋸状文。	赤彩。	大洞B式
197	7	住宅地図(S56)	住宅P829	縄文	鉢	口縁部	–	–	(3.0)	口縁突起。口縁肥厚。平行沈線。刺突。LR横位回転施文。		大洞C1式
197	8	住宅地図(S56)	鍋J-G3c4住G	縄文	小鉢	胴部	–	–	(3.8)	胴部平行沈線。突起。LR横位回転施文。		大洞C1式
197	9	住宅地図(S56)	住宅P1005	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(4.4)	口縁突起。平行沈線。突起。RL横位回転施文。		大洞A式
197	10	住宅地図(S56)	住宅P1170	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(3.6)	口縁突起。平行沈線。突起。RL横位回転施文。内面沈線1条。		大洞A式
197	11	住宅地図(S56)	住宅P1225	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(3.7)	平行沈線。突起。口縁沈線1条。		大洞A式
197	12	住宅地図(S56)	住宅P1084	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(4.7)	平行沈線。RL横位回転施文。内面沈線1条。		大洞A式
197	13	住宅地図(S56)	住宅P979	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(3.1)	平行沈線。突起。口縁沈線。RL横位回転施文。		大洞A式
197	14	住宅地図(S56)	住宅P1452	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(2.6)	平行沈線。突起。口縁沈線RL横位回転施文。		大洞A式
197	15	住宅地図(S56)	住宅P314	縄文	台付鉢	台部	–	(5.3)	(2.1)	平行沈線。LR横位回転施文。	折状物質微量入。	晩期中葉
197	16	住宅地図(S56)	住宅P879	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(6.9)	LR横位回転施文。	No.11(山)と別個体	晩期
197	17	住宅地図(S56)	住宅P894	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(6.2)	口縁突起?LR横位回転施文。	折状物質微量入。	晩期
197	18	住宅地図(S56)	住宅P1063	縄文	深鉢	口縁部	–	–	(6.5)	RL横位回転施文。		晩期
197	19	住宅地図(S56)	住宅P1053	縄文	深鉢	胴部	–	–	(3.6)	沈線、押圧		晩期
197	20	住宅地図(S56)	住宅P836	縄文	壺	胴部	–	–	(4.1)	平行沈線。LR横位回転施文。	折状物質微量入。図版5-20-21、図版6-9参照。	大洞C1式
197	21	住宅地図(S56)	住宅P896	縄文	壺	胴部下半	–	–	(3.6)	平行沈線。LR横位回転施文。	折状物質微量入。図版5-20-21、図版6-9参照。	大洞C1式
197	22	住宅地図(S56)	住宅P1162	縄文	壺	口縁部	–	–	(2.7)	口縁突起。内面沈線1条。		晩期
197	23	住宅地図(S56)	住宅P999	縄文	壺	口縁部	9.3	–	(2.9)	胴部沈線。		晩期
197	24	住宅地図(S56)	住宅P1376	縄文	壺	口縁部	–	–	(3.9)	口縁突起?(無文)輪積痕残あり。		晩期後半

表1　土器観察表(12)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
198	25	竪穴範囲(XX06)	表D2P1060	縄文	壺	頸部	－	－	(3.7)	RL斜位回転施文。		晩期後半
198	26	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P1265、表E+64h45II、表E+64i45II、表E+64i46II、表K+65分布域、表K+65b2I、表K+65c2III	縄文	壺	頸部	－	－	(6.1)	RL斜位回転施文。		晩期後半
198	27	竪穴範囲(XX06)	表D2P439	縄文	壺?	底部	－	5.0	(2.3)	LR横位回転施文。	上げ底。	晩期
198	28	竪穴範囲(XX06)	表D2P1413	縄文	注口	頸部	－	－	(2.8)	一文字貫ぬき孔、沈線、撚糸文、LR横位回転施文(撚糸)。		大洞B1式
199	1	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P447、455、464、473、表E+64i46II、表F+64i46II、表G+64i46II、表H+64i46II、表I+64i46II、表J+64i46II	弥生	壺	口縁部～頸部	－	－	(14.0)	平行沈線、変形工字文？LR横位回転施文。台部変形工字文。	折れ物質無量混入。図199-4と同一個体？	五所式
199	2	竪穴範囲(XX06)	表D2P326、363、378、379、379	弥生	浅鉢	体部上半	(14.7)	－	(3.3)	波状口縁本単位？平行沈線、変形工字文。内面沈線2条一2条。		五所式
199	3	竪穴範囲(XX06)、(XX05)、(XX10)	XX06表D2P420、425、427、430、436、437、XX05表D2P1、2	弥生	浅鉢	体部上半	(24.2)	－	(7.4)	波状口縁本単位？、平行沈線、変形工字文。内面沈線2条一2条。		五所式
199	4	竪穴範囲(XX06)	表F+63d39II、表E+64i46II～64j46II	弥生	壺	口縁部～頸部	25.8	－	(8.7)	波状口縁、変形工字文？横位平行沈線。平行沈線、変形工字文？、内面沈線口縁1条一頸部3条。	折れ物質無量混入。図209-4と同一個体。	五所式
199	5	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P417～182、表K+66i28南、表K+65h46II	弥生	壺	口縁部	－	－	(5.5)	波状口縁、平行沈線、変形工字文。2段一対の刺突、内面沈線口縁2条一頸部4条。	折れ物質無量混入。	五所式
199	6	竪穴範囲(XX06)	表D2P400	弥生	壺	口縁部～頸部	－	－	(3.6)	平行沈線、変形工字文。内面沈線3条。	折れ物質無量混入。図199-12と同一個体？	五所式
199	7	竪穴範囲(XX06)	表K+66i28南+63h39	弥生	壺	口縁部～頸部	－	－	(6.6)	波状口縁、平行沈線、胴部調文？刺、内面沈線口縁1条。	赤彩。折れ物質無量混入。図207-11と同一個体。	五所式～井沢式
199	8	竪穴範囲(XX06)	表D2P1961	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(3.5)	平行沈線、口縁部沈線施文。内面沈線3条。	図209-13と同一個体？	五所式
199	9	竪穴範囲(XX06)	表D2P239～265	弥生	浅鉢	体部上半	－	－	(8.1)	波状口縁、平行沈線、胴部上半LR斜位回転施文。平行沈線の回転施文。内面沈線口縁1条一頸部3条。		井沢式
199	10	竪穴範囲(XX06)	表F+66i28南、表E+64i46II～64j46II、表F+64i46II	弥生	浅鉢	体部上半	－	－	(5.0)	波状口縁、平行沈線、口縁部沈線施文。内面沈線口縁1条一頸部3条。		井沢式
199	11	竪穴範囲(XX06)	表D2P556～794	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(4.3)	波状口縁、平行沈線、変形工字文、刺突。内面沈線3条。	折れ物質無量混入。	五所式
199	12	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P1～3、399、406、表F+64i46II～64j46II、表E+64i46II	弥生	壺	口縁部～頸部	－	－	(8.4)	平行沈線3条1単位。	折れ物質無量混入。	弥生前半
199	13	竪穴範囲(XX06)	表D2P401～409	弥生	壺	台付注口部	台部	－	(9.0)	(5.7)	平行沈線、波状文、刺突2個一対、横長透孔。	赤彩。	五所式～井沢式
200	1	竪穴範囲(XX06)	表D2P1277	弥生	鉢	口縁部	－	－	(4.8)	変形工字文、突起。内面沈線3条。	内外面ミガキ調整。	砂沢式
200	2	竪穴範囲(XX06)	表D2P311	弥生	鉢	鍔状部	(10.2)	5.1	4.9	鍔ヨコとる波状口縁？LR横位回転施文。	孔底あり。	五所式～井沢式
200	3	竪穴範囲(XX06)	表K+65i28南、表K+65h2～h3+2311	弥生	台付鉢	鍔状部	(16.6)	6.1	12.9	2段一対の小形突起を単位？変形工字文、一本突起。口縁・頸部LR斜位回転施文。台脚平行沈線。内面沈線1条一頸部2条。	折れ物質無量混入。	井沢式
200	4	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P1～3、表E+64i46II～64j46II、表K+64i45II、表E+64i45II、表F+64i45II、表G+64i45II、表H+64i45II、表I+64i45II	弥生	台付鉢	鍔状部	(19.3)	(9.2)	10.9	山形状突起？平行沈線、変形工字文、刺突。LR横位回転施文。内面沈線3条。台脚平行沈線。	折れ物質無量混入。	五所式
200	5	竪穴範囲(XX06)	表D2P586～599、表E+64i44II～64j44II、表F+64i45II、表G+64i45II、表H+64i45II、表I+64i45II	弥生	台付鉢	鍔状部	19.8	8.0	11.1	沈線、変形工字文。平行沈線、胴部LR横位、孤状付台付け回転施文。内面沈線3条。台部平行沈線。	図上皮元。	五所式
200	6	竪穴範囲(XX06)	表F+66i28南、表E+66i35II、表F+66i45II、表G+66i45II	弥生	台付土器	体部下半	－	(10.0)	(6.6)	平行沈線、変形格状沈線結節点に刺突施文。一定間、結節点に刺突。胴部上部縦位LR施文。	Na1139と接合、赤彩。	五所式
200	7	竪穴範囲(XX06)	表D2P353	弥生	台付鉢	体部上半	－	－	(6.1)	平行沈線、山形文。LR斜位回転施文。		弥生前半
200	8	竪穴範囲(XX06)	表K+65i28南、表K+65h46II	弥生	鉢	口縁部	(15.6)	－	(4.2)	波状口縁4単位？平行沈線、刺突。	折れ物質無量混入。	五所式
200	9	竪穴範囲(XX06)	表K+66i28南	弥生	鉢	口縁部	－	－	(4.0)	波状口縁、平行沈線、刺突、胴部上部沈線。LR斜位回転施文。内面沈線3条。		五所式
200	10	竪穴範囲(XX06)	表K+66i28南	弥生?	鉢	胴部	－	－	(4.2)	変形工字文		五所式
200	11	竪穴範囲(XX06)	表D2P694、764、910	弥生	鉢	口縁部	－	－	(5.1)	平行沈線、変形工字文、刺突。LR斜位回転施文。内面沈線3条。	赤彩。図209-12と同一個体？	五所式
200	12	竪穴範囲(XX06)	表D2P931	弥生	鉢	口縁部	－	－	(3.7)	平行沈線、変形工字文？刺突。内面沈線3条。	図209-11と同一個体？折れ物質無量混入。	五所式
200	13	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P40、256、表K+65h2II、表K+65h2III、表K+65i2II、表K+66i2III、表L+66h1III	弥生	鉢	胴部	(9.8)	－	(6.6)	平行沈線、変形工字文？、突起。LR斜位回転施文。	折れ物質無量混入。	五所式
200	14	竪穴範囲(XX06)	表D2P1352、1372	弥生	鉢	胴部	－	－	(5.7)	平行沈線、LR斜位回転施文。		井沢式？
200	15	竪穴範囲(XX06)	表D2P977	弥生?	鉢	口縁部	－	－	(3.9)	突起、平行沈線。	折れ物質無量混入。	弥生前半？
200	16	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P479、表F+64i23II	弥生	壺	口縁部	(8.8)	－	(2.7)	RL斜位回転施文。		五所式～井沢式
200	17	竪穴範囲(XX06)	表D2P446	弥生?	鉢	底部	－	(5.1)	－	底外面に縦心円状沈線。		五所式？
200	18	竪穴範囲(XX06)	XX06表D2P46、表K+65i45II	弥生	鉢	鍔状部	7.5	1.4	3.9	口縁部ヨコ、平行沈線。	丸底。	五所式～井沢式
200	19	竪穴範囲(XX06)	表F+63i28南	弥生	小鉢	口縁部	(9.0)	－	(2.4)	波状口縁、平行沈線、変形工字文。内面沈線2条。	内面に輪積み痕あり。	五所式
200	20	竪穴範囲(XX06)	表D2P32	弥生	小鉢	口縁部	－	－	(1.5)	波状口縁、平行沈線。内面沈線2条？。		五所式～井沢式
200	21	竪穴範囲(XX06)	表D2P775	弥生	小鉢	口縁部	－	－	(2.0)	波状口縁部下2段沈線。平行沈線。内面沈線2条。	口縁肥厚。	五所式～井沢式
200	22	竪穴範囲(XX06)	表D2P864	弥生	小鉢	口縁部	－	－	(1.4)	波状口縁、平行沈線。内面沈線2条。	折れ物質無量混入。	五所式
200	23	竪穴範囲(XX06)	表D2P401	弥生	壺	胴部	－	－	(3.0)	平行沈線、変形工字文、刺突。	赤彩。折れ物質無量混入。	五所式
200	24	竪穴範囲(XX06)	表D2P732	弥生	鉢	胴部	－	－	(2.7)	変形工字文、小突起、刺突。		五所式～井沢式
200	25	竪穴範囲(XX06)	表D2P462	縄文	鉢	底部	－	4.3	(3.2)	沈線、LR横位回転施文。		大洞A式
200	26	竪穴範囲(XX06)	表D2P965	弥生?	台付小鉢	台部	－	3.0	(2.1)	沈線？		五所式～井沢式？
201	1	竪穴範囲(XX06)	表D2P284	弥生	壺	口頸部	－	－	(2.6)	波状口縁、平行沈線、変形工字文、刺突。内面沈線2条。貫通あり。	折れ物質無量混入。	五所式
201	2	竪穴範囲(XX06)	表F+63i45II	弥生	壺	口頸部	－	－	(2.6)	平行沈線。内面沈線2条。	赤彩。折れ物質無量混入。	五所式～井沢式
201	3	竪穴範囲(XX06)	表D2P1374	弥生	壺	口頸部	－	－	(2.7)	平行沈線。内面沈線3条。貫通あり。		五所式～井沢式
201	4	竪穴範囲(XX06)	表D2P301	弥生	壺	口頸部	－	－	(2.3)	平行沈線。内面沈線3条。	折れ物質無量混入。	五所式
201	5	竪穴範囲(XX06)	表D2P1402、1403	弥生	広口壺	口頸部	－	－	(4.3)	口縁部ヨコ、平行沈線。LR斜位回転施文。内面沈線3条。	図201-7、図201-10、図201-9、図210-2は同一個体。	井沢式
201	6	竪穴範囲(XX06)	表D2P493、494	弥生	壺	体部上半	－	－	(4.5)	平行沈線、変形工字文、刺突。胴部に貫通孔あり。LR斜位回転施文。		五所式

表 1　土器観察表(13)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
201	7	掘平範囲(3X06)	表SP183	弥生	壺	口縁部	－	－	(3.0)	平行沈線、結構回転施文。		玉井式～井沢式
201	8	掘平範囲(3X06)	表SP668	弥生	壺？	胴部	－	－	(3.8)	平行沈線、変形工字文、刺突。	図201-6、図210-20、図202-21同一個体。	弥生前半
201	9	掘平範囲(3X06)	掘K-63(北壁域+b+f)(3+b2)(1	弥生	壺	頸部	－	－	(13.0)	平行沈線、変形工字文、刺突	図7-12、図210-7、図201-9、図210-9-11、図202-19-20同一個体。	玉井式
201	10	掘平範囲(3X06)	3X06表SP289、掘F-(k+f)(3+b2)(1	弥生	壺	頸部	－	－	(27.6)	平行沈線、流水工字文、結具回転施文。	封鉄物質農業法人。図7-1、図8-1、図21-3、図201-10、図205-7と同一個体。	玉井式
201	11	掘平範囲(3X06)	3X06表SP、掘K-65(2)(3)(1	弥生	壺	頸部	－	－	(14.2)	結具回転施文。	図201-11+12同一個体。	井沢式
201	12	掘平範囲(3X06)	3X06表SP430、掘K-65(2)	弥生	壺	底部	－	－	(8.6)	結具回転施文。	図210-6、図201-11+12同一個体？	井沢式
202	1	掘平範囲(3X06)、第13図-5と	東封層上、第12層上、3X06表SP、掘K-61(4-5)(1-5)(2-9)(4-7)(3-3)(1-3)(2-3)(3-3)(4-6)(4-8)、赤浦遺跡	弥生	壺	頸部～底部	(20.5)	7.8	(31.9)	結具工具等見(一部欠損)上端於見打突起(三角)、口縁端部上に沈線と小の上下に刻み、頸部平行沈線、胴部平行沈線、流水工字文、平行沈線、隆帯上加み、隆帯上半に横位回転施文、内面沈線3条。	赤浦、針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
202	2	掘平範囲(3X06)	3X06表SP300、336、530、690、704、751、765、915、916、936、1002-67(2)(1)、掘J-67(2)(1)	弥生	短頸壺	口頸部	20.7	－	(7.0)	平行沈線、流水工字文。	赤浦、針状物質農業法人。知土分析(No.10)。	玉井式～井沢式
203	1	掘平範囲(3X06)	表SP336、530	弥生	壺	口縁部	－	－	(5.7)	平行沈線、結具横位回転施文。	針状物質農業法人。	玉井式
203	2	掘平範囲(3X06)	表SP942	弥生？	壺	口縁部	－	－	(5.5)	結具横位回転施文。		玉井式～井沢式
203	3	掘平範囲(3X06)	掘K-66(北壁域)	弥生	壺	口縁部	－	－	(5.7)	口縁部ヘ、沈線、結具回転施文。	図203-3+604一個体？	玉井式～井沢式
203	4	掘平範囲(3X06)	表SP122、124	弥生	壺	頸部	－	－	(7.5)	沈線1条+列点1条、結具回転施文。	図203-3+604一個体？	玉井式～井沢式
203	5	掘平範囲(3X06)	表SP、242、685、701、711	弥生	壺	頸部	－	－	(8.6)	平行沈線、貫通孔2箇	赤浦、針状物質農業法人。	玉井式
203	6	掘平範囲(3X06)	3X06表SP345、381、397、398、399、404-605(2)、掘K-64(1)、掘K-64(2-5)(3-4)(4-2)(5-3)(4-5)(2)、掘K-65(1-2)(2)	弥生	壺	肩部～底部	(17.6)	(6.6)	18.7	小波状口縁、頸部平行沈線、刺突、口縁・頸部結具回転施文。	針状物質農業法人。	井沢式
203	7	掘平範囲(3X06)	掘K-65(北壁域+2)(1+2)(2-3)(3-1)(1)	弥生	深鉢	口縁部	21.0	－	(6.0)	結具横位回転施文。	図203-7+604一個体？	弥生前半
203	8	掘平範囲(3X06)	3X06表SP、掘K-65(2)(3)(4)(5)(2)(3)(1)	弥生	深鉢	体部下半	－	(8.0)	(14.4)	結具横位回転施文。	図203-7+604一個体？	弥生前半
203	9	掘平範囲(3X06)	3X06表SP530、571、掘K-63(北壁)、掘K-65(1)、掘K-66(2-5)(3-4)(4+5)(1)、掘K-66-1(1)、掘F-66(1)(4)(5)(1)	弥生	壺	体部上半	24.0	－	(15.3)	口縁条痕、頸部結具回転施文。	外面黒化物付着。	弥生前半
203	10	掘平範囲(3X06)	表SP5	弥生	壺	口縁部	－	－	(4.3)	口縁沈線、平行沈線、結具回転施文。内面黒化顔1条。		弥生前期～中期
203	11	掘平範囲(3X06)	表SP606	弥生	壺	口縁部	－	－	(6.8)	口縁部ヘ、口縁平行沈線、結具回転施文。	図5-1①-④(No.11)13と接合。	弥生前期～中期
204	1	掘平範囲(3X06)	掘F-62(1-6)、掘F-63(北壁域)、掘F-63(2-3)(3-1)(3-2)(3-3)(4-2)(4-3)(4-4)(5)、掘K-63(2-3)(1)	弥生	壺	体部上半	28.3	－	(26.3)	小波状口縁、結具回転施文。	針状物質多量混入。知土分析(No.21)。	弥生前半
204	2	掘平範囲(3X06)	3X06表SP、掘K-64a(北壁)、掘F-64c(1)(2)、掘F-64d(1)(2)、掘F-64d(3)(4)(5)、掘K-64a(1)(2)	弥生	壺	口頸部	(25.2)	－	(7.2)	結具回転施文。頸部刺突円文。		玉井式～井沢式
204	3	掘平範囲(3X06)	3X06表SP306、339、掘K-65(北壁域+5)(1)	弥生	壺	口頸部	－	－	(9.0)	結具回転施文。頸部刺突円文。	針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
204	4	掘平範囲(3X06)	表SP635、1012、1479	弥生？	壺	口頸部	－	－	(7.3)	結具回転施文。頸部刺突円文。	針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
204	5	掘平範囲(3X06)	表SP12、72、73、346、590、706、714	弥生	壺	口縁部	25.8	－	(10.2)	頸部刺突円(隣接使用？)2条。頸部結具回転施文。		玉井式～井沢式
204	6	掘平範囲(3X06)	掘F-66(北壁域)、掘F-66c(2)(1)	弥生	壺	口縁部	38.4	－	(4.2)	口縁部結具横位回転施文。頸部刺突円。	針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
205	1	掘平範囲(3X06)	3X06表SP1041、掘K-64b(1)(2)(4)(5)	弥生	壺	口頸部	(40.6)	－	(10.3)	頸部に刺突円。	漆用巾武器用。	弥生前半
205	2	掘平範囲(3X06)	3X06表SP、掘F-64b(1)(2-3)(3)、掘K-64b(1)(4)	弥生	壺	頸部	－	－	(5.0)	平行沈線。	漆用巾武器？図205-1～4と図210-16は同一個体？	弥生前半
205	3	掘平範囲(3X06)	3X06表SP、P380、393、395、掘F-64d(3)(4)、掘K-64a(3)(4)(5)	弥生	壺	頸部	－	－	(17.4)	(無文)	漆用巾武器？図205-1～4と図210-16は同一個体？	弥生前半
205	4	掘平範囲(3X06)	掘F-64a(3)(4)(5)(2)(3)(4)(1)、掘K-63(1)、掘K-63(2)(3)(4)(5)、掘K-66(1)(2)(3)(4)	弥生	壺	底部	－	(15.6)	18.6	(無文)	漆用巾武器？図205-1～4と図210-16は同一個体？	弥生前半
205	5	掘平範囲(3X06)	3X06表SP418、掘F-64(2)(3)(4)(5)、掘K-64(2)(3)	弥生	壺	頸部	－	－	(10.8)	結具回転施文。	図210-10と同一個体。針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
205	6	掘平範囲(3X06)	掘F-67-4(北壁域)、掘K-67(2)(3)	弥生	壺	底部	－	8.0	(7.2)	結具回転施文。		玉井式～井沢式
205	7	掘平範囲(3X06)	3X06表SP622、640、649、659、掘K-65(-4-1)(-5-1)	弥生	壺	体部下半	－	(8.6)	(25.7)	結具回転施文。	図8-3、図67-1、図66-1、図201-10、図205-7と同一個体。針状物質農業法人。	玉井式～井沢式
206	1	遺構外(引地)	掘K-63(3)(1)	縄文	深鉢	頸部	－	－	(4.0)	粘土紐付、円形刺突、沈線		後期前葉？
206	2	遺構外(引地)	掘H-11-2～掘H-13、掘J-63	縄文	注口？	胴部下半	－	－	(4.8)	沈線、1条縄文	図214-1、図206-2、図203-1同一個体。	後期前葉
206	3	遺構外(引地)	掘J-64(4)(5)	縄文	深鉢	頸部	－	－	(3.3)	8突起、1条縄文、沈線、刺み目、鬼形文、貼付(ミガク)	図206-3、図207-1、図208-1、図209-10、図210-2と同一個体。	大洞BC式
206	4	遺構外(引地)	掘J-64(1)(4)	縄文	深鉢	頸部	－	－	(2.8)	1条縄文、沈線、鬼形文		大洞BC式
206	5	遺構外(引地)	掘K-65(3)(5)	縄文	鉢	頸部	－	－	(4.1)	沈線、鬼形文	赤浦、金鶏谷農業法人	大洞BC式
206	6	遺構外(引地)	掘J-64(4)(5)	縄文	鉢	口縁部	－	－	(3.2)	結構文、沈線、平面状文、口縁突起、口縁部、口縁部突	田化物付着	大洞C1式
206	7	遺構外(引地)	掘K-63(4)(5)	縄文	鉢	口縁部	－	－	(2.8)	結構文、沈線、突起、内面沈線1条		大洞A式
206	8	遺構外(引地)	掘K-63(4)(5)	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(6.3)	結構文、沈線、突起		大洞A式
206	9	遺構外(引地)	掘J-63(-2)(1)	縄文	深鉢	体部上半	－	－	(5.4)	8突起、結構文、沈線、刺み目、鬼形文、貼付(ミガク)	図206-9、図208-9、図209-20-21同一個体。	大洞C1式
206	10	遺構外(引地)	掘K-63(3)(1)、掘K-63(3)(1)、掘K-63(3)(1)、掘K-65(-2)(1)	縄文	壺	体部上半	－	(7.8)	16.0	(無文)	西脇の内、2部遺存。	晩期
206	11	遺構外(引地)	掘K-64(-1)(1)	弥生	深鉢	口縁部	－	－	(2.0)	2段一対突起、沈線、連続刺突沈線、内面沈線1条、口縁沈線		弥生前半
206	12	遺構外(引地)	掘K-64(4)(1)	弥生	深鉢	口縁部	－	－	(4.2)	波状口縁、結構文、沈線、刺突沈線、内面沈線1条、口縁沈線		弥生前半

表１　土器観察表(14)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
200	13	遺構外(5)[B]	縄X-66○2[1]	弥生	甕	甕形底部	－	－	(3.1)	波状口縁，口唇面文，平行沈線，内面沈線１		五所式
200	14	遺構外(5)[B]	縄X-65○2[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(6.6)	口縁文，沈線，内面沈線３条		弥生前半
200	15	遺構外(5)[B]	縄X-64○3[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(2.5)	工具ナデ原体？，変形工字文，内面沈線３条		五所式
200	16	遺構外(5)[B]	縄X-63○4[1]	弥生	浅鉢	胴部	－	－	(2.9)	沈線，変形工字文		五所式
200	17	遺構外(5)[B]	縄X-66○2[1]	弥生？	浅鉢	口縁部	－	－	(3.0)	沈線，変形工字文？，内面沈線３条		弥生前半
200	18	遺構外(5)[B]	縄X-65○2[1]	弥生	甕	平行沈線文	－	－	(4.2)	波状口縁，変形工字文，刺突，内面沈線２～３条		五所式
200	19	遺構外(5)[B]	縄X-65○1[1]	弥生	甕	平行沈線文	－	－	(4.1)	波状口縁，沈線，変形工字文，刺突，内面沈線３～２条		五所式
200	20	遺構外(5)[B]	縄X-65ｉ1 層，縄X-65ｅ4○1[1]，縄X-65ｆ3○1[1]，縄X-65ｇ2[1]	弥生	甕	外付け高杯	体部上半	(27.4)	－	(9.0)	波状口縁，平行沈線，変形工字文，結縄文沈線，斜格子ハ＋沈線，口唇刻み，内面沈線	粕上分析(No.10)	五所式
200	21	遺構外(5)[B]	縄X-65○2[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(2.7)	波状口縁，沈線，内面沈線		五所式
200	22	遺構外(5)[B]	縄X-64○2[1]	弥生	浅鉢	胴部	－	－	(4.1)	沈線，押圧，変形工字文，内面沈線		五所式
200	23	遺構外(5)[B]	縄X-64○1[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(3.6)	沈線，変形工字文，刺突，内面沈線６条		五所式
200	24	遺構外(5)[B]	縄X-64○4[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(2.7)	平行沈線，結ち目，内面沈線３条	図206-23と同一個体	五所式
200	25	遺構外(5)[B]	縄X-64○4[1]	弥生	浅鉢	口縁部	－	－	(3.6)	平行沈線，結ち目，内面沈線３条	図206-24と同一個体	五所式
200	26	遺構外(5)[B]	縄X-64○1[1]	弥生	浅鉢	胴部	－	－	(2.6)	平行沈線，結ち目，変形工字文，内面沈線		五所式
200	1	遺構外(5)[B]	縄X-64ｆ3[1]	弥生	付付土器	台部	－	－	(4.7)	平行沈線，波水工字文		五所式
200	2	遺構外(5)[B]	縄X-65○3[1]	弥生	付付土器	台部	－	4.6	(2.7)	変形工字文，透かし		五所式
200	3	遺構外(5)[B]	縄X-65○3[1]	弥生？	付付土器	台部	－	(7.6)	(3.5)	平行沈線		五所式？
200	4	遺構外(5)[B]	縄X-64○3[1]，縄X-64ｉ1 層	弥生	付付土器	台部	－	(9.3)	(3.8)	変形工字文		五所式
200	5	遺構外(5)[B]	縄X-65○1[1]	弥生	付付土器	台部	－	－	(4.6)	平行沈線，波状文，透かし		五所式
200	6	遺構外(5)[B]	縄X-66○2[1]	弥生	付付浅鉢	台部	－	－	(5.4)	平行沈線，波状文，透かし	図209-4，図209-6同一個体	五所式
200	7	遺構外(5)[B]	縄X-65○3[1]，縄X-65ｅ4○1[1]	弥生	付付土器	台部	－	(9.7)	(5.4)	平行沈線，斜格状文，透かし		五所式
200	8	遺構外(5)[B]	縄X-64○4[1]，縄X-64ｅ5[1]，縄X-65○3[1]，縄X-65○5[1]	弥生	付付土器	台部	－	(9.6)	(7.7)	平行沈線，波状文		五所式
200	9	遺構外(5)[B]	縄X-65○5[1]，縄X-65ｅ2[1]，縄X-65ｆ2[1]，縄X-65ｇ2[1]，縄X-65ｈ2[1]，縄X-65ｉ2[1]，縄X-65ｊ2[1]，縄X-65ｋ2[1]，縄X-65ｌ2[1]，縄X-65ｍ2[1]，縄X-65ｎ2[1]，縄X-65ｏ2[1]，縄X-65ｐ2[1]，縄X-65ｑ2[1]，縄X-65ｒ2[1]，縄X-65ｓ2[1]，縄X-65ｔ2[1]，縄X-65ｕ2[1]，縄X-65ｖ2[1]，縄X-65ｗ2[1]，縄X-65ｘ2[1]，縄X-65ｙ2[1]，縄X-65ｚ2[1]，縄X-66○1[1]，縄X-66ｅ1[1]，縄X-66ｆ1[1]，縄X-66ｇ1[1]，縄X-66ｈ1[1]，縄X-66ｉ1[1]，縄X-66ｊ1[1]，縄X-66ｋ1[1]，縄X-66ｌ1[1]，縄X-66ｍ1[1]，縄X-66ｎ1[1]，縄X-66ｏ1[1]，縄X-66ｐ1[1]，縄X-66ｑ1[1]，縄X-66ｒ1[1]，縄X-66ｓ1[1]，縄X-66ｔ1[1]，縄X-66ｕ1[1]，縄X-66ｖ1[1]，縄X-66ｗ1[1]，縄X-66ｘ1[1]，縄X-66ｙ1[1]，縄X-66ｚ1[1]，縄X-67○1[1]，縄X-67ｅ1[1]，縄X-67ｆ1[1]，縄X-67ｇ1[1]，縄X-67ｈ1[1]，縄X-67ｉ1[1]，縄X-67ｊ1[1]，縄X-67ｋ1[1]，縄X-67ｌ1[1]，縄X-67ｍ1[1]，縄X-67ｎ1[1]，縄X-67ｏ1[1]，縄X-67ｐ1[1]，縄X-67ｑ1[1]，縄X-67ｒ1[1]，縄X-67ｓ1[1]，縄X-67ｔ1[1]，縄X-67ｕ1[1]，縄X-67ｖ1[1]，縄X-67ｗ1[1]，縄X-67ｘ1[1]，縄X-67ｙ1[1]，縄X-67ｚ1[1]，縄X-68○1[1]，縄X-68ｅ1[1]，縄X-68ｆ1[1]，縄X-68ｇ1[1]，縄X-68ｈ1[1]，縄X-68ｉ1[1]，縄X-68ｊ1[1]，縄X-68ｋ1[1]，縄X-68ｌ1[1]，縄X-68ｍ1[1]，縄X-68ｎ1[1]，縄X-68ｏ1[1]，縄X-68ｐ1[1]，縄X-68ｑ1[1]，縄X-68ｒ1[1]，縄X-68ｓ1[1]，縄X-68ｔ1[1]，縄X-68ｕ1[1]，縄X-68ｖ1[1]，縄X-68ｗ1[1]，縄X-68ｘ1[1]，縄X-68ｙ1[1]，縄X-68ｚ1[1]，縄X-69○1[1]，縄X-69ｅ1[1]，縄X-69ｆ1[1]，縄X-69ｇ1[1]，縄X-69ｈ1[1]，縄X-69ｉ1[1]，縄X-69ｊ1[1]，縄X-69ｋ1[1]，縄X-69ｌ1[1]，縄X-69ｍ1[1]，縄X-69ｎ1[1]，縄X-69ｏ1[1]，縄X-69ｐ1[1]，縄X-69ｑ1[1]，縄X-69ｒ1[1]，縄X-69ｓ1[1]，縄X-69ｔ1[1]，縄X-69ｕ1[1]，縄X-69ｖ1[1]，縄X-69ｗ1[1]，縄X-69ｘ1[1]，縄X-69ｙ1[1]，縄X-69ｚ1[1]，縄X-70○1[1]，縄X-70ｅ1[1]，縄X-70ｆ1[1]，縄X-70ｇ1[1]，縄X-70ｈ1[1]，縄X-70ｉ1[1]，縄X-70ｊ1[1]，縄X-70ｋ1[1]，縄X-70ｌ1[1]，縄X-70ｍ1[1]，縄X-70ｎ1[1]，縄X-70ｏ1[1]，縄X-70ｐ1[1]，縄X-70ｑ1[1]，縄X-70ｒ1[1]，縄X-70ｓ1[1]，縄X-70ｔ1[1]，縄X-70ｕ1[1]，縄X-70ｖ1[1]，縄X-70ｗ1[1]，縄X-70ｘ1[1]，縄X-70ｙ1[1]，縄X-70ｚ1[1]，縄X-71○1[1]，縄X-71ｅ1[1]，縄X-71ｆ1[1]，縄X-71ｇ1[1]，縄X-71ｈ1[1]，縄X-71ｉ1[1]，縄X-71ｊ1[1]，縄X-71ｋ1[1]，縄X-71ｌ1[1]，縄X-71ｍ1[1]，縄X-71ｎ1[1]，縄X-71ｏ1[1]，縄X-71ｐ1[1]，縄X-71ｑ1[1]，縄X-71ｒ1[1]，縄X-71ｓ1[1]，縄X-71ｔ1[1]，縄X-71ｕ1[1]，縄X-71ｖ1[1]，縄X-71ｗ1[1]，縄X-71ｘ1[1]，縄X-71ｙ1[1]，縄X-71ｚ1[1]，縄X-72○1[1]，縄X-72ｅ1[1]，縄X-72ｆ1[1]，縄X-72ｇ1[1]，縄X-72ｈ1[1]，縄X-72ｉ1[1]，縄X-72ｊ1[1]，縄X-72ｋ1[1]，縄X-72ｌ1[1]，縄X-72ｍ1[1]，縄X-72ｎ1[1]，縄X-72ｏ1[1]，縄X-72ｐ1[1]，縄X-72ｑ1[1]，縄X-72ｒ1[1]，縄X-72ｓ1[1]，縄X-72ｔ1[1]，縄X-72ｕ1[1]，縄X-72ｖ1[1]，縄X-72ｗ1[1]，縄X-72ｘ1[1]，縄X-72ｙ1[1]，縄X-72ｚ1[1]，縄X-73○1[1]，縄X-73ｅ1[1]，縄X-73ｆ1[1]，縄X-73ｇ1[1]，縄X-73ｈ1[1]，縄X-73ｉ1[1]，縄X-73ｊ1[1]，縄X-73ｋ1[1]，縄X-73ｌ1[1]，縄X-73ｍ1[1]，縄X-73ｎ1[1]，縄X-73ｏ1[1]，縄X-73ｐ1[1]，縄X-73ｑ1[1]，縄X-73ｒ1[1]，縄X-73ｓ1[1]，縄X-73ｔ1[1]，縄X-73ｕ1[1]，縄X-73ｖ1[1]，縄X-73ｗ1[1]，縄X-73ｘ1[1]，縄X-73ｙ1[1]，縄X-73ｚ1[1]，縄X-74○1[1]，縄X-74ｅ1[1]，縄X-74ｆ1[1]，縄X-74ｇ1[1]，縄X-74ｈ1[1]，縄X-74ｉ1[1]，縄X-74ｊ1[1]，縄X-74ｋ1[1]，縄X-74ｌ1[1]，縄X-74ｍ1[1]，縄X-74ｎ1[1]，縄X-74ｏ1[1]，縄X-74ｐ1[1]，縄X-74ｑ1[1]，縄X-74ｒ1[1]，縄X-74ｓ1[1]，縄X-74ｔ1[1]，縄X-74ｕ1[1]，縄X-74ｖ1[1]，縄X-74ｗ1[1]，縄X-74ｘ1[1]，縄X-74ｙ1[1]，縄X-74ｚ1[1]，縄X-75○1[1]，縄X-75ｅ1[1]，縄X-75ｆ1[1]，縄X-75ｇ1[1]，縄X-75ｈ1[1]，縄X-75ｉ1[1]，縄X-75ｊ1[1]，縄X-75ｋ1[1]，縄X-75ｌ1[1]，縄X-75ｍ1[1]，縄X-75ｎ1[1]，縄X-75ｏ1[1]，縄X-75ｐ1[1]，縄X-75ｑ1[1]，縄X-75ｒ1[1]，縄X-75ｓ1[1]，縄X-75ｔ1[1]，縄X-75ｕ1[1]，縄X-75ｖ1[1]，縄X-75ｗ1[1]，縄X-75ｘ1[1]，縄X-75ｙ1[1]，縄X-75ｚ1[1]，縄X-76○1[1]，縄X-76ｅ1[1]，縄X-76ｆ1[1]，縄X-76ｇ1[1]，縄X-76ｈ1[1]，縄X-76ｉ1[1]，縄X-76ｊ1[1]，縄X-76ｋ1[1]，縄X-76ｌ1[1]，縄X-76ｍ1[1]，縄X-76ｎ1[1]，縄X-76ｏ1[1]，縄X-76ｐ1[1]，縄X-76ｑ1[1]，縄X-76ｒ1[1]，縄X-76ｓ1[1]，縄X-76ｔ1[1]，縄X-76ｕ1[1]，縄X-76ｖ1[1]，縄X-76ｗ1[1]，縄X-76ｘ1[1]，縄X-76ｙ1[1]，縄X-76ｚ1[1]，縄X-77○1[1]，縄X-77ｅ1[1]，縄X-77ｆ1[1]，縄X-77ｇ1[1]，縄X-77ｈ1[1]，縄X-77ｉ1[1]，縄X-77ｊ1[1]，縄X-77ｋ1[1]，縄X-77ｌ1[1]，縄X-77ｍ1[1]，縄X-77ｎ1[1]，縄X-77ｏ1[1]，縄X-77ｐ1[1]，縄X-77ｑ1[1]，縄X-77ｒ1[1]，縄X-77ｓ1[1]，縄X-77ｔ1[1]，縄X-77ｕ1[1]，縄X-77ｖ1[1]，縄X-77ｗ1[1]，縄X-77ｘ1[1]，縄X-77ｙ1[1]，縄X-77ｚ1[1]，縄X-78○1[1]，縄X-78ｅ1[1]，縄X-78ｆ1[1]，縄X-78ｇ1[1]，縄X-78ｈ1[1]，縄X-78ｉ1[1]，縄X-78ｊ1[1]，縄X-78ｋ1[1]，縄X-78ｌ1[1]，縄X-78ｍ1[1]，縄X-78ｎ1[1]，縄X-78ｏ1[1]，縄X-78ｐ1[1]，縄X-78ｑ1[1]，縄X-78ｒ1[1]，縄X-78ｓ1[1]，縄X-78ｔ1[1]，縄X-78ｕ1[1]，縄X-78ｖ1[1]，縄X-78ｗ1[1]，縄X-78ｘ1[1]，縄X-78ｙ1[1]，縄X-78ｚ1[1]，縄X-79○1[1]，縄X-79ｅ1[1]，縄X-79ｆ1[1]，縄X-79ｇ1[1]，縄X-79ｈ1[1]，縄X-79ｉ1[1]，縄X-79ｊ1[1]，縄X-79ｋ1[1]，縄X-79ｌ1[1]，縄X-79ｍ1[1]，縄X-79ｎ1[1]，縄X-79ｏ1[1]，縄X-79ｐ1[1]，縄X-79ｑ1[1]，縄X-79ｒ1[1]，縄X-79ｓ1[1]，縄X-79ｔ1[1]，縄X-79ｕ1[1]，縄X-79ｖ1[1]，縄X-79ｗ1[1]，縄X-79ｘ1[1]，縄X-79ｙ1[1]，縄X-79ｚ1[1]，縄X-80○1[1]，縄X-80ｅ1[1]，縄X-80ｆ1[1]，縄X-80ｇ1[1]，縄X-80ｈ1[1]，縄X-80ｉ1[1]，縄X-80ｊ1[1]，縄X-80ｋ1[1]，縄X-80ｌ1[1]，縄X-80ｍ1[1]，縄X-80ｎ1[1]，縄X-80ｏ1[1]，縄X-80ｐ1[1]，縄X-80ｑ1[1]，縄X-80ｒ1[1]，縄X-80ｓ1[1]，縄X-80ｔ1[1]，縄X-80ｕ1[1]，縄X-80ｖ1[1]，縄X-80ｗ1[1]，縄X-80ｘ1[1]，縄X-80ｙ1[1]，縄X-80ｚ1[1]	弥生	付付浅鉢	体部下半	－	(5.3)	10.7	変形工字文？，内部平行沈線・波状文・横長透かし	図209-9，図211-13同一個体	五所式
200	10	遺構外(5)[B]	縄X-64○1[1]	弥生	付付土器	台部	－	(9.8)	(4.6)	平行沈線，波状文		五所式
200	11	遺構外(5)[B]	縄X-64○2[1]，縄X-64ｉ1 層 +b+5[1]，縄X-64ｉ1 層 +c+5[1]	弥生	付付浅鉢	台部	－	(15.8)	(14.0)	平行沈線，波状文	赤彩，SF61出土土器(図ピット：9)と同一個体	五所式
200	12	遺構外(5)[B]	縄X-55○5[1]	弥生	付付浅鉢	体部上半	－	－	(6.7)	羽状小沈線文？，内部平行沈線，変形工字文，結節文沈線，斜格子ハ沈線，口唇刻み，内面沈線１条	図209-5，図209-11同一個体	砂沢式
200	13	遺構外(5)[B]	縄X-64○1[1]＋42[1]	弥生	浅鉢	体部上半	(22.7)	－	(6.2)	平行沈線，結ち目沈線文，内面沈線３条	図209-8と同一個体？	五所式
200	14	遺構外(5)[B]	縄X-52○3[1]，縄X-P472	縄文	鉢	鉢底部	(13.6)	7.9	6.7	3条の平行沈線で中段に刺突と結ち目結ぶ山を，その間に山形平行沈線１条で底部縁に沈線１条，内面沈線１条。	内外面とガキ痕跡，粕上分析(No.11)	大洞A'式
200	15	遺構外(5)[B]	縄X-62○4[1]，縄X-62○6[1]	弥生	鉢	鉢底	－	－	(2.7)	変形工字文，刺突		五所式～井沢式
200	16	遺構外(5)[B]	縄X-55○1[1]	縄文	鉢	体部上半	－	－	(5.3)	平行沈線，結び目沈線，変形工字文。		大洞A'式
200	17	遺構外(5)[B]	縄X-96○3[1]	弥生？	鉢	口縁部	－	－	(4.3)	平行沈線，変形工字文，内面沈線４条＋刺突１２条		井沢式
200	18	遺構外(5)[B]	縄X-96○4[1]	弥生	鉢	口縁部	－	－	(4.0)	平行沈線，変形工字文，内面沈線３条＋３条。	粕状物質検査因入。	五所式
200	19	遺構外(5)[B]	縄X-66○4[1]	弥生	鉢	口縁部	－	－	(4.1)	平行沈線，変形工字文，内面沈線１条。		五所式
200	20	遺構外(5)[B]	縄X-63○5[1]，縄X-65○3[1]	弥生	鉢	体部上半	(7.4)	－	(5.1)	平行沈線，変形工字文，内面沈線１条。		五所式～井沢式
200	21	遺構外(5)[B]	縄X-64○4[1]	弥生	鉢	鉢底部	(9.5)	(4.8)	4.8	平行沈線，結ち目沈線，内面沈線２条。		五所式～井沢式
200	22	遺構外(5)[B]	縄X-65○5[1]	弥生	鉢	口縁部	－	－	(4.5)	平行沈線，結ち目沈線，内面沈線。	粕状物質検査因入。	五所式～井沢式
200	23	遺構外(5)[B]	縄X-64○4[1]	弥生	鉢	体部上半	(11.6)	－	(2.5)	結ち目沈線，内面沈線。		五所式～井沢式
200	24	遺構外(5)[B]	縄X-64○2[1]	弥生	小鉢	口縁部	(8.6)	－	(3.2)	口縁下横一本突起，平行沈線，変形工字文，刺突，結び目沈線，内面沈線２条。	粕状物質検査因入。	五所式
200	25	遺構外(5)[B]	縄X-63○3[1]，縄X-65○3[1]	弥生	小鉢	体部上半	(9.6)	－	(5.7)	平行沈線，結び目沈線，変形工字文，内面沈線２条。	粕状物質検査因入。	五所式
200	26	遺構外(5)[B]	縄X-65○5[1]，縄X-66○2[1]	弥生	小鉢	体部上半	(11.4)	－	(3.1)	口縁部一本の突起，平行沈線，刺突，結び目沈線，内面沈線２条。		五所式～井沢式
200	27	遺構外(5)[B]	縄X-64○3[1]	弥生	小鉢	鉢底部	(6.9)	(3.0)	3.0	口縁部一本の突起，沈線，変形工字文，内面沈線１条。	粕状物質検査因入。変形工字文類似品に貫通孔１個。	五所式
200	28	遺構外(5)[B]	縄X-65ｉ1 層，縄X-65○1，縄X-66○1[1]	弥生	付付小鉢	鉢底部	(6.2)	(3.8)	4.0	口唇刻み，平行沈線，刺突，内面沈線１条。	赤彩，台部に貫通孔１個。	五所式～井沢式
200	29	遺構外(5)[B]	縄X-63○5[1]	弥生	付付小鉢	台部	－	3.8	(1.7)	平行沈線。		弥生前半
200	30	遺構外(5)[B]	縄X-66○3[1]	弥生	蓋	天井部	(5.7)	－	2.0	沈線		弥生前期～中葉
200	1	遺構外(5)[B]	縄X-67○2[1]	弥生	五徳鍋	口縁部	－	－	(5.3)	破片部ル，平行沈線，内面沈線２条。		弥生前期～中葉
200	2	遺構外(5)[B]	縄X-67○2[1]	弥生	五徳鍋	口縁部	－	－	(2.6)	破片部ル，平行沈線，内面沈線２条。		弥生前期～中葉
200	3	遺構外(5)[B]	縄X-66○2[1]	弥生	付付土器	台部	－	－	(2.6)	平行沈線，破片部ル。		弥生前期～中葉
200	4	遺構外(5)[B]	縄X-66○2[1]	弥生	壺	口縁部	－	－	(5.1)	口縁押圧，平行沈線，結ち目沈線文。	図的分岩－11(No.13)参照。	弥生前期～中葉
200	5	遺構外(5)[B]	縄X-67○2[1]	弥生	壺	口頸部	－	－	(7.0)	結ち目沈線文，平行沈線。	粕状物質検査因入。	五所式～井沢式
200	6	遺構外(5)[B]	縄X-65○2[1]	弥生	壺	口縁部	－	－	(5.9)	口唇刻み，平行沈線，結ち目沈線文。	図201-11-17，図210-11同一個体？粕状物質検査因入。	五所式
200	7	遺構外(5)[B]	縄X-65○3[1]，縄X-65○1[1]，縄X-65○2[1]	弥生	壺	口縁部	－	－	(8.9)	結ち目沈線文，刺突列２条。	粕状物質検査因入。	五所式～井沢式
200	8	遺構外(5)[B]	縄X-67○1[1]	弥生	壺	口縁部	－	－	(4.1)	口縁結ち目沈線文，横位沈線。	粕状物質検査因入。	五所式
200	9	遺構外(5)[B]	縄X-66○1[1]	弥生	壺	口縁部	－	－	(3.8)	口縁結ち目沈線文，横位沈線。	図211-12，図194-7，図201-9，図210-9-11，図203-19-2010～図203-19-2011同一個体？	五所式
200	10	遺構外(5)[B]	縄X-66○5[1]＋6[1]，縄X-66○3[1]	弥生	壺	胴部	－	－	(5.1)	平行沈線。	青銅刀代工房？図203-7～8と図210-10-12同一個体？	弥生前半
200	11	遺構外(5)[B]	縄X-64○5[1]＋33[1]	弥生	壺	胴部	－	－	(9.6)	平行沈線。	図211-11，図194-7，図201-9，図210-9-11，図203-19-2010～図203-19-2011同一個体？	五所式～井沢式
200	12	遺構外(5)[B]	縄X-66○4[1]	弥生	壺	胴部	－	－	(6.1)	平行沈線，刺突２條・結上帯状突起。	粕状物質検査因入。	井沢式

表 1　土器観察表(15)

図版番号	遺物番号	遺構名 出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
219	13	遺構外(B3地区) B区-62&64区、第7-66区	弥生	壺	頸部	-	-	(6.4)	平行沈線、刺突、1条回沈線加文。	折衷物質農業遺人。	弥生式
219	14	遺構外(B3地区) B区-67&71区	弥生	壺	底部	-	-	9.0	凹底付回転加文。		土師式～弥生式
219	15	遺構外(B3地区) B区-63&93区	弥生	壺	体部上半	(12.0)	-	(14.8)	重複平行沈線、平行沈線等上に刺突、山形状波線・頂部に小突起・刺突に小突起・平行沈線、円盤沈線上金。		弥生式
219	16	遺構外(B3地区) B区-66&72区、第7-67区	弥生	壺	広口壺	(14.4)	-	(5.6)	平行沈線、波点下字文、口縁部縦走条痕下円盤沈線金。	赤彩。	土師式
219	17	遺構外(B3地区) B区-63&93区、第7-68区	弥生	壺	口縁部	(12.6)	-	(3.4)	頂部口縁多帯状、沈線、貫通孔上部、円盤沈線金。		土師式
219	18	遺構外(B3地区) B区-66&72区	弥生?壺	壺	体部上半	(8.1)	-	(8.0)	平行沈線、円盤沈線上金、頂部上部回沈線加文。		弥生前半
219	19	遺構外(B3地区) B区-67&71区、第7-62区	弥生	壺	口縁部	-	-	(4.0)	沈線、刺突、貫通孔1個、円盤沈線3金。		土師式
219	20	遺構外(B3地区) B区-63&93区、第7-63&64区	弥生	壺	頸部	-	-	(6.2)	沈線、刺突	図20-1、図20-10、図20-2、図20-23同一個体。	弥生前半
219	21	遺構外(B3地区) B区-64&66区	弥生	壺	広口壺	口縁部	-	(4.0)	口縁部外、平行沈線、1条回沈線加文。円盤沈線上金。貫通孔上部。	図6-1、図8-10、図20-1、図20-2同一個体。	弥生式
219	22	遺構外(B3地区) B区-67&72区	弥生	壺	頸部	頸部	-	(6.9)	頸部上部結束沈線下、平行沈線、刺突回沈線加文。		弥生式
219	23	遺構外(B3地区) B区-66a2区	弥生?壺	壺	口縁部	4.1	-	(5.1)	平行沈線、円盤沈線上金。	内面輪積み痕あり。	弥生前半?
219	24	遺構外(B3地区) B区-62&72区、第7-35区、第7-42区	弥生	壺	底部	(14.1)	6.6	14.3	頂部押圧の小波状口縁下4等位、不規則回転加文。		弥生前半
219	25	遺構外(B3地区) B区-65&68区	弥生	壺	口縁部	(11.6)	-	(4.2)	頂部押圧の小波状口縁下4等位、刺突回沈線加文。		弥生前半
219	26	遺構外(B3地区) B区-66c1区	弥生	壺	口縁部	-	-	(2.6)	平行沈線、1条回沈線加文。円盤沈線2金。		弥生式
219	27	遺構外(B3地区) B区-63&93区	弥生	壺	口縁部	-	-	(3.0)	口縁・頸部に平行沈線、円盤頸部沈線2金。		弥生式
219	28	遺構外(B3地区) B区-64c4区	弥生	壺	広口壺	口縁部	-	(3.1)	口縁部外、平行重層沈線、貫通孔1個。		弥生式
219	29	遺構外(B3地区) B区-66a2区	弥生	壺	頸部	-	-	(2.4)	平行沈線、変形下字文、刺突、円盤沈線金。		弥生式
219	30	遺構外(B3地区) B区-64&71区	弥生	壺	頸部	-	-	(4.2)	頸部に突起4等位、平行沈線、変形下字文、刺突。		土師式～弥生式
219	31	遺構外(B3地区) B区-64&70区	弥生	壺	頸部	-	-	(2.4)	沈線、変形下字文、刺突。		土師式～弥生式
219	32	遺構外(B3地区) B区-64a3区	弥生	壺	体部下半	-	-	(3.6)	平行沈線、刺突、1条回沈線加文。	赤彩。	土師式～弥生式
219	33	遺構外(B3地区) B区-64&71区	弥生	壺	底部	-	-	(3.6)	平行沈線、波点下字文?	折衷物質農業遺人。	土師式
219	1	遺構外(B3地区) B区-54b3区 SD	縄文	浅鉢	鉢底部	25.3	-	6.8	口縁部に二文帯の細り込み、平行沈線、黒彩文、結束縦文、頸部に沈線引平行。口縁部に沿線引平行。		大洞C1式
219	3	遺構外(B3地区) B区-55a2区、第1-1区、第1-148区	縄文	浅鉢	体部上半	22.3	-	(5.8)	口縁部に二文帯の細り込み、刺突、結束縦文、結束縦文、結束縦文(連続)。	口縁部無文帯(幅4.1～同6～9.0cm)。	大洞C1式
219	4	遺構外(B3地区) B区-54a3区	縄文	浅鉢	鉢底部	(25.6)	(12.6)	6.0	口縁部に二文帯の細り込み、結束上に刺突、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	赤彩。	大洞C1式
219	5	遺構外(B3地区) B区-54a3区、第1-2区	縄文	浅鉢	鉢底部	18.5	3.7	5.0	口縁部に二文帯の細り込み、結束上に刺突、結束上に刺突、結束縦文、結束縦文(連続)。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
219	2	遺構外(B3地区) B区-55d1区、第1-3区	縄文	浅鉢	鉢底部	(19.8)	4.4	8.8	口縁部直線帯に刺突列、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。		大洞C1式
219	7	遺構外(B3地区) B区-54c4区、第1-4区	縄文	浅鉢	鉢底部	19.4? (3.9)	(7.4)	6.1	口縁部平行沈線間に刺突列、黒彩文、結束縦文(連続)。		大洞C1式
219	8	遺構外(B3地区) B区-54c4区、第1-5区	縄文	浅鉢	鉢底部	(16.4)	4.2	6.5	口縁部に刺突列、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	外面摩滅が著しい。	大洞C1式
219	9	遺構外(B3地区) B区-55b1区(2)、第1-6区、第1-10区、第1-11区	縄文	浅鉢	鉢底部	18.7	6.2	7.0	口縁部直線帯に刺突列、黒彩文、結束縦文(連続)。	折衷物質農業遺人。	大洞B式
219	10	遺構外(B3地区) B区-55c2区、第1-9区	縄文	浅鉢	鉢底部	15.9? 16.1	4.4?4.6	6.2	口縁部平行沈線間に刺突列(12単位?)、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。		大洞C1式
219	12	遺構外(B3地区) B区-54c4区、第1-12区	縄文	浅鉢	鉢底部	(19.8)	(5.2)	7.6	口縁部に刺突列、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	口縁部に穴、無文の可能性あり。赤彩。	大洞C1式
219	13	遺構外(B3地区) B区-54d2区、第1-14区	縄文	浅鉢	鉢底部	15.3	(4.4)	5.7	口縁に突起六個程度、平行沈線、黒彩文、結束縦文、結束縦文(連続)。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
219	14	遺構外(B3地区) B区-55a3区、第1-15区	縄文	浅鉢	鉢底部	16.3	5.9	7.2	口縁部に突起六個程度、平行沈線間に刺突列、結束縦文(連続)。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
219	6	遺構外(B3地区) B区-55c1区、第1-7区、第1-8区	縄文	浅鉢	鉢底部	14.0	4.6	5.6	口縁部に突起六個程度、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
219	15	遺構外(B3地区) B区-55、第1-16区、第1-17区、第1-18区、第1-19区	縄文	鉢	鉢底部	(20.0)	5.2	8.6	口縁部に突起六個程度、平行沈線、黒彩文。	折衷物質農業遺人。赤彩。	大洞B式
219	16	遺構外(B3地区) B区-54d4区、第1-20区	縄文	鉢	鉢底部	13.5	6.0	6.7	口縁部に突起六個程度、平行沈線、結束縦文(連続)。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
219	17	遺構外(B3地区) B区-65-3区、第7-64、99、第7-65区、第7-66区	縄文	台付浅鉢	鉢底部	21.4	9.1	11.2	口縁部に4等位の突起、口縁部に二文帯を小さく入れ、平行沈線、黒彩文、(4個以50角)を上部の下半は口縁部直線帯、台部上半に平行沈線、黒彩文、結束縦文、口縁部沿線加文。	台部に輪積み痕あり。折衷物質農業遺人。粘土中に白色針状物質(No.6)を微量含有。	大洞B式
219	18	遺構外(B3地区) B区-62&72区	縄文	鉢	鉢底部	(10.4)	2.5	6.7	口縁部に突起1等位下口縁に沿う、大結束縦文。	粘土分析(No.6)、折衷物質農業遺人。	大洞B式
219	3	遺構外(B3地区) B区-54c4区 SD	縄文	鉢	鉢底部	12.8	6.1	4.8	口縁に4等位突起、口縁に二等位突起、口縁・内面に沿線多入条、口縁外面平行沈線。	粘土に四角の方ち、二箇所有。赤彩。折衷物質農業遺人。	大洞B式
219	4	遺構外(B3地区) B区-55c2区 SD	縄文	鉢	鉢底部	8.1	(2.2)	3.2	指圧痕あり。	底面剥落。	晩期
219	5	遺構外(B3地区) B区-54、第1-1区、SD	縄文	台付鉢	鉢底部	15.8	7.4	8.0	口縁に隆帯セットの突起1等位。		大洞B式
219	6	遺構外(B3地区) B区-55b2区 SD、第1-2区、SD-2区	縄文	鉢	完形	16.3	5.4	7.0	(無文)	内外面とも摩滅顕著。折衷物質農業遺人。	晩期
219	7	遺構外(B3地区) B区-55c2区 SD、第1-3区、SD	縄文	鉢	鉢底部	(9.8)	3.4	4.5	平行沈線(一部断続的)。	折衷物質農業遺人。	晩期
219	8	遺構外(B3地区) B区-55d1区、第1-4区	縄文	浅鉢	鉢底部	16.4	7.0	4.9	沈線	折衷物質多く混入。	晩期前半
219	9	遺構外(B3地区) B区-55c4区、第1-5区	縄文	浅鉢	鉢底部	20.0	4.2	6.0	平行沈線	土浮き顕著。赤彩。	晩期前半
219	10	遺構外(B3地区) B区-56b4、SD-8区、第1-106区、第1-20、SD	縄文	浅鉢	鉢底部	(22.1)	(13.0)	5.0	口縁に3条結束縦文帯交互に各4等位。口縁文帯、内縁内外に段あり。結束外周に平行沈線、黒彩文、結束縦文。	赤彩。折衷物質農業遺人。	大洞A式
219	11	遺構外(B3地区) B区-57、SD	縄文	浅鉢	体部上半	11.2	-	(6.6)	口縁部直線帯に結束縦文(連続)、平行沈線、刺突、大結束縦文。結束縦文(連続)。	折衷物質農業遺人。	大洞B式
220	2	遺構外(B3地区) B区-54b3&55b1区、第1-21区、第1-22区、第1-23区、第1-24区、第1-25区、第1-26区、第1-27区、第1-28区、第1-29区、第1-30区、第1-31区、第1-32区、第1-33区、第1-34区、第1-35区、第1-36区、第1-37区、第1-38区、第1-39区、第1-40区、第1-41区、第1-42区、第1-43区、第1-44区、第1-45区、第1-46区、第1-47区、第1-48区、第1-49区、第1-50区、第1-51区、第1-52区、第1-53区、第1-54区、第1-55区、第1-56区、第1-57区、第1-58区、第1-59区、第1-60区、第1-61区、第1-62区、第1-63区、第1-64区、第1-65区、第1-66区、第1-67区、第1-68区、第1-69区、第1-70区、第1-71区、第1-72区、第1-73区、第1-74区、第1-75区、第1-76区、第1-77区、第1-78区、第1-79区、第1-80区、第1-81区、第1-82区、第1-83区、第1-84区、第1-85区、第1-86区、第1-87区、第1-88区、第1-89区、第1-90区、第1-91区、第1-92区、第1-93区、第1-94区、第1-95区、第1-96区、第1-97区、第1-98区、第1-99区、第1-100区、第1-101区、第1-102区、第1-103区、第1-104区、第1-105区、第1-107区、第1-108区、第1-109区、第1-110区、第1-111区、第1-112区、第1-113区、第1-114区、第1-115区、第1-116区、第1-117区、第1-118区、第1-119区、第1-120区、第1-121区、第1-122区、第1-123区、第1-124区、第1-125区、第1-126区、第1-127区、第1-128区、第1-129区、第1-130区、第1-131区、第1-132区、第1-133区、第1-134区、第1-135区、第1-136区、第1-137区、第1-138区、第1-139区、第1-140区、第1-141区、第1-142区、第1-143区、第1-144区、第1-145区、第1-146区、第1-147区、第1-148区、第1-149区、第1-150区、第1-151区、第1-152区、第1-153区、第1-154区、第1-155区、第1-156区、第1-157区、第1-158区、第1-159区、第1-160区、第1-161区、第1-162区、第1-163区、第1-164区、第1-165区、第1-166区、第1-167区、第1-168区、第1-169区、第1-170区、第1-171区、第1-172区、第1-173区、第1-174区、第1-175区、第1-176区、第1-177区、第1-178区、第1-179区、第1-180区、第1-181区、第1-182区、第1-183区、第1-184区、第1-185区、第1-186区、第1-187区、第1-188区、第1-189区、第1-190区、第1-191区、第1-192区、第1-193区、第1-194区、第1-195区、第1-196区、第1-197区、第1-198区、第1-199区、第1-200区、第1-201区、第1-202区、第1-203区、第1-204区、第1-205区、第1-206区、第1-207区、第1-208区、第1-209区、第1-210区、第1-211区、第1-212区、第1-213区、第1-214区、第1-215区、第1-216区、第1-217区、第1-218区、第1-219区、第1-220区、第1-221区、第1-222区、第1-223区、第1-224区、第1-225区、第1-226区、第1-227区、第1-228区、第1-229区、第1-230区、第1-231区、第1-232区、第1-233区、第1-234区、第1-235区、第1-236区、第1-237区、第1-238区、第1-239区、第1-240区、第1-241区、第1-242区、第1-243区、第1-244区、第1-245区、第1-246区、第1-247区、第1-248区、第1-249区、第1-250区、第1-251区、第1-252区、第1-253区、第1-254区、第1-255区、第1-256区、第1-257区、第1-258区、第1-259区、第1-260区、第1-261区、第1-262区、第1-263区、第1-264区、第1-265区、第1-266区、第1-267区、第1-268区、第1-269区、第1-270区、第1-271区、第1-272区、第1-273区、第1-274区、第1-275区、第1-276区、第1-277区、第1-278区、第1-279区、第1-280区、第1-281区、第1-282区、第1-283区、第1-284区、第1-285区、第1-286区、第1-287区、第1-288区、第1-289区、第1-290区、第1-291区、第1-292区、第1-293区、第1-294区、第1-295区、第1-296区、第1-297区、第1-298区、第1-299区、第1-300区、第1-301区、第1-302区、第1-303区、第1-304区、第1-305区、第1-306区、第1-307区、第1-308区、第1-309区、第1-310区、第1-311区、第1-312区、第1-313区、第1-314区、第1-315区、第1-316区、第1-317区、第1-318区、第1-319区、第1-320区、第1-321区、第1-322区、第1-323区、第1-324区、第1-325区、第1-326区、第1-327区、第1-328区、第1-329区、第1-330区、第1-331区、第1-332区、第1-333区、第1-334区、第1-335区、第1-336区、第1-337区、第1-338区、第1-339区、第1-340区、第1-341区、第1-342区、第1-343区、第1-344区、第1-345区、第1-346区、第1-347区、第1-348区、第1-349区、第1-350区、第1-351区、第1-352区、第1-353区、第1-354区、第1-355区、第1-356区、第1-357区、第1-358区、第1-359区、第1-360区、第1-361区、第1-362区、第1-363区、第1-364区、第1-365区、第1-366区、第1-367区、第1-368区、第1-369区、第1-370区、第1-371区、第1-372区、第1-373区、第1-374区、第1-375区、第1-376区、第1-377区、第1-378区、第1-379区、第1-380区、第1-381区、第1-382区、第1-383区、第1-384区、第1-385区、第1-386区、第1-387区、第1-388区、第1-389区、第1-390区、第1-391区、第1-392区、第1-393区、第1-394区、第1-395区、第1-396区、第1-397区、第1-398区、第1-399区、第1-400区、第1-401区、第1-402区、第1-403区、第1-404区、第1-405区、第1-406区、第1-407区、第1-408区、第1-409区、第1-410区、第1-411区、第1-412区、第1-413区、第1-414区、第1-415区、第1-416区、第1-417区、第1-418区、第1-419区、第1-420区、第1-421区、第1-422区、第1-423区、第1-424区、第1-425区、第1-426区、第1-427区、第1-428区、第1-429区、第1-430区、第1-431区、第1-432区、第1-433区、第1-434区、第1-435区、第1-436区、第1-437区、第1-438区、第1-439区、第1-440区、第1-441区、第1-442区、第1-443区、第1-444区、第1-445区、第1-446区、第1-447区、第1-448区、第1-449区、第1-450区、第1-451区、第1-452区、第1-453区、第1-454区、第1-455区、第1-456区、第1-457区、第1-458区、第1-459区、第1-460区、第1-461区、第1-462区、第1-463区、第1-464区、第1-465区、第1-466区、第1-467区、第1-468区、第1-469区、第1-470区、第1-471区、第1-472区、第1-473区、第1-474区、第1-475区、第1-476区、第1-477区、第1-478区、第1-479区、第1-480区、第1-481区、第1-482区、第1-483区、第1-484区、第1-485区、第1-486区、第1-487区、第1-488区、第1-489区、第1-490区、第1-491区、第1-492区、第1-493区、第1-494区、第1-495区、第1-496区、第1-497区、第1-498区、第1-499区、第1-500区、第1-501区、第1-502区、第1-503区、第1-504区、第1-505区、第1-506区、第1-507区、第1-508区、第1-509区、第1-510区、第1-511区、第1-512区、第1-513区、第1-514区、第1-515区、第1-516区、第1-517区、第1-518区、第1-519区、第1-520区、第1-521区、第1-522区、第1-523区、第1-524区、第1-525区、第1-526区、第1-527区、第1-528区、第1-529区、第1-530区、第1-531区、第1-532区、第1-533区、第1-534区、第1-535区、第1-536区、第1-537区、第1-538区、第1-539区、第1-540区、第1-541区、第1-542区、第1-543区、第1-544区、第1-545区、第1-546区、第1-547区、第1-548区、第1-549区、第1-550区、第1-551区、第1-552区、第1-553区、第1-554区、第1-555区、第1-556区、第1-557区、第1-558区、第1-559区、第1-560区、第1-561区、第1-562区、第1-563区、第1-564区、第1-565区、第1-566区、第1-567区、第1-568区、第1-569区、第1-570区、第1-571区、第1-572区、第1-573区、第1-574区、第1-575区、第1-576区、第1-577区、第1-578区、第1-579区、第1-580区、第1-581区、第1-582区、第1-583区、第1-584区、第1-585区、第1-586区、第1-587区、第1-588区、第1-589区、第1-590区、第1-591区、第1-592区、第1-593区、第1-594区、第1-595区、第1-596区、第1-597区、第1-598区、第1-599区、第1-600区、第1-601区、第1-602区、第1-603区、第1-604区、第1-605区、第1-606区、第1-607区、第1-608区、第1-609区、第1-610区、第1-611区、第1-612区、第1-613区、第1-614区、第1-615区、第1-616区、第1-617区、第1-618区、第1-619区、第1-620区、第1-621区、第1-622区、第1-623区、第1-624区、第1-625区、第1-626区、第1-627区、第1-628区、第1-629区、第1-630区、第1-631区、第1-632区、第1-633区、第1-634区、第1-635区、第1-636区、第1-637区、第1-638区、第1-639区、第1-640区、第1-641区、第1-642区、第1-643区、第1-644区、第1-645区、第1-646区、第1-647区、第1-648区、第1-649区、第1-650区、第1-651区、第1-652区、第1-653区、第1-654区、第1-655区、第1-656区、第1-657区、第1-658区、第1-659区、第1-660区、第1-661区、第1-662区、第1-663区、第1-664区、第1-665区、第1-666区、第1-667区、第1-668区、第1-669区、第1-670区、第1-671区、第1-672区、第1-673区、第1-674区、第1-675区、第1-676区、第1-677区、第1-678区、第1-679区、第1-680区、第1-681区、第1-682区、第1-683区、第1-684区、第1-685区、第1-686区、第1-687区、第1-688区、第1-689区、第1-690区、第1-691区、第1-692区、第1-693区、第1-694区、第1-695区、第1-696区、第1-697区、第1-698区、第1-699区、第1-700区、第1-701区、第1-702区、第1-703区、第1-704区、第1-705区、第1-706区、第1-707区、第1-708区、第1-709区、第1-710区、第1-711区、第1-712区、第1-713区、第1-714区、第1-715区、第1-716区、第1-717区、第1-718区、第1-719区、第1-720区、第1-721区、第1-722区、第1-723区、第1-724区、第1-725区、第1-726区、第1-727区、第1-728区、第1-729区、第1-730区、第1-731区、第1-732区、第1-733区、第1-734区、第1-735区、第1-736区、第1-737区、第1-738区、第1-739区、第1-740区、第1-741区、第1-742区、第1-743区、第1-744区、第1-745区、第1-746区、第1-747区、第1-748区、第1-749区、第1-750区、第1-751区、第1-752区、第1-753区、第1-754区、第1-755区、第1-756区、第1-757区、第1-758区、第1-759区、第1-760区、第1-761区、第1-762区、第1-763区、第1-764区、第1-765区、第1-766区、第1-767区、第1-768区、第1-769区、第1-770区、第1-771区、第1-772区、第1-773区、第1-774区、第1-775区、第1-776区、第1-777区、第1-778区、第1-779区、第1-780区、第1-781区、第1-782区、第1-783区、第1-784区、第1-785区、第1-786区、第1-787区、第1-788区、第1-789区、第1-790区、第1-791区、第1-792区、第1-793区、第1-794区、第1-795区、第1-796区、第1-797区、第1-798区、第1-799区、第1-800区、第1-801区、第1-802区、第1-803区、第1-804区、第1-805区、第1-806区、第1-807区、第1-808区、第1-809区、第1-810区、第1-811区、第1-812区、第1-813区、第1-814区、第1-815区、第1-816区、第1-817区、第1-818区、第1-819区、第1-820区、第1-821区、第1-822区、第1-823区、第1-824区、第1-825区、第1-826区、第1-827区、第1-828区、第1-829区、第1-830区、第1-831区、第1-832区、第1-833区、第1-834区、第1-835区、第1-836区、第1-837区、第1-838区、第1-839区、第1-840区、第1-841区、第1-842区、第1-843区、第1-844区、第1-845区、第1-846区、第1-847区、第1-848区、第1-849区、第1-850区、第1-851区、第1-852区、第1-853区、第1-854区、第1-855区、第1-856区、第1-857区、第1-858区、第1-859区、第1-860区、第1-861区、第1-862区、第1-863区、第1-864区、第1-865区、第1-866区、第1-867区、第1-868区、第1-869区、第1-870区、第1-871区、第1-872区、第1-873区、第1-874区、第1-875区、第1-876区、第1-877区、第1-878区、第1-879区、第1-880区、第1-881区、第1-882区、第1-883区、第1-884区、第1-885区、第1-886区、第1-887区、第1-888区、第1-889区、第1-890区、第1-891区、第1-892区、第1-893区、第1-894区、第1-895区、第1-896区、第1-897区、第1-898区、第1-899区、第1-900区	縄文時代前期末～中期初頭。口縁部直線帯に刺突、山形状波線・頂部に小突起・刺突に小突起・平行沈線、円盤沈線上金。	大洞C2～弥生式
220	1	遺構外(B3地区) B区-54b3&55b1区、第1-21区、第1-22区、第1-23区、第1-24区、第1-25区、第1-26区、第1-27区、第1-28区、第1-29区、第1-30区、第1-31区、第1-32区、第1-33区、第1-34区、第1-35区、第1-36区、第1-37区、第1-38区、第1-39区、第1-40区、第1-41区、第1-42区、第1-43区、第1-44区、第1-45区、第1-46区、第1-47区、第1-48区、第1-49区、第1-50区、第1-51区、第1-52区、第1-53区、第1-54区、第1-55区、第1-56区、第1-57区、第1-58区、第1-59区、第1-60区、第1-61区、第1-62区、第1-63区、第1-64区、第1-65区、第1-66区、第1-67区、第1-68区、第1-69区、第1-70区、第1-71区、第1-72区、第1-73区、第1-74区、第1-75区、第1-76区、第1-77区、第1-78区、第1-79区、第1-80区、第1-81区、第1-82区、第1-83区、第1-84区、第1-85区、第1-86区、第1-87区、第1-88区、第1-89区、第1-90区、第1-91区、第1-92区、第1-93区、第1-94区、第1-95区、第1-96区、第1-97区、第1-98区、第1-99区、第1-100区、第1-101区、第1-102区、第1-103区、第1-104区、第1-105区、第1-107区、第1-108区、第1-109区、第1-110区、第1-111区、第1-112区、第1-113区、第1-114区、第1-115区、第1-116区、第1-117区、第1-118区、第1-119区、第1-120区、第1-121区、第1-122区、第1-123区、第1-124区、第1-125区、第1-126区、第1-127区、第1-128区、第1-129区、第1-130区、第1-131区、第1-132区、第1-133区、第1-134区、第1-135区、第1-136区、第1-137区、第1-138区、第1-139区、第1-140区、第1-141区、第1-142区、第1-143区、第1-144区、第1-145区、第1-146区、第1-147区、第1-148区、第1-149区、第1-150区、第1-151区、第1-152区、第1-153区、第1-154区、第1-155区、第1-156区、第1-157区、第1-158区、第1-159区、第1-160区、第1-161区、第1-162区、第1-163区、第1-164区、第1-165区、第1-166区、第1-167区、第1-168区、第1-169区、第1-170区、第1-171区、第1-172区、第1-173区、第1-174区、第1-175区、第1-176区、第1-177区、第1-178区、第1-179区、第1-180区、第1-181区、第1-182区、第1-183区、第1-184区、第1-185区、第1-186区、第1-187区、第1-188区、第1-189区、第1-190区、第1-191区、第1-192区、第1-193区、第1-194区、第1-195区、第1-196区、第1-197区、第1-198区、第1-199区、第1-200区、第1-201区、第1-202区、第1-203区、第1-204区、第1-205区、第1-206区、第1-207区、第1-208区、第1-209区、第1-210区、第1-211区、第1-212区、第1-213区、第1-214区、第1-215区、第1-216区、第1-217区、第1-218区、第1-219区、第1-220区、第1-221区、第1-222区、第1-223区、第1-224区、第1-225区、第1-226区、第1-227区、第1-228区、第1-229区、第1-230区、第1-231区、第1-232区、第1-233区、第1-234区、第1-235区、第1-236区、第1-237区、第1-238区、第1-239区、第1-240区、第1-241区、第1-242区、第1-243区、第1-244区、第1-245区、第1-246区、第1-247区、第1-248区、第1-249区、第1-250区、第1-251区、第1-252区、第1-253区、第1-254区、第1-255区、第1-256区、第1-257区、第1-258区、第1-259区、第1-260区、第1-261区、第1-262区、第1-263区、第1-264区、第1-265区、第1-266区、第1-267区、第1-268区、第1-269区、第1-270区、第1-271区、第1-272区、第1-273区、第1-274区、第1-275区、第1-276区、第1-277区、第1-278区、第1-279区、第1-280区、第1-281区、第1-282区、第1-283区、第1-284区、第1-285区、第1-286区、第1-287区、第1-288区、第1-289区、第1-290区、第1-291区、第1-292区、第1-293区、第1-294区、第1-295区、第1-296区、第1-297区、第1-298区、第1-299区、第1-300区	縄文時代前期末～中期初頭。口縁部直線帯に刺突列、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	大洞B式
220	2	遺構外(B3地区) B区-54b3&55b1区、第1-1区、第1-2区、第1-3区、第1-4区、第1-5区、第1-6区、第1-7区、第1-8区、第1-9区、第1-10区、第1-11区、第1-12区、第1-13区、第1-14区、第1-15区、第1-16区、第1-17区、第1-18区、第1-19区、第1-20区、第1-21区、第1-22区、第1-23区、第1-24区、第1-25区、第1-26区、第1-27区、第1-28区、第1-29区、第1-30区、第1-31区、第1-32区、第1-33区、第1-34区、第1-35区、第1-36区、第1-37区、第1-38区、第1-39区、第1-40区、第1-41区、第1-42区、第1-43区、第1-44区、第1-45区、第1-46区、第1-47区、第1-48区、第1-49区、第1-50区、第1-51区、第1-52区、第1-53区、第1-54区、第1-55区、第1-56区、第1-57区、第1-58区、第1-59区、第1-60区、第1-61区、第1-62区、第1-63区、第1-64区、第1-65区、第1-66区、第1-67区、第1-68区、第1-69区、第1-70区、第1-71区、第1-72区、第1-73区、第1-74区、第1-75区、第1-76区、第1-77区、第1-78区、第1-79区、第1-80区、第1-81区、第1-82区、第1-83区、第1-84区、第1-85区、第1-86区、第1-87区、第1-88区、第1-89区、第1-90区、第1-91区、第1-92区、第1-93区、第1-94区、第1-95区、第1-96区、第1-97区、第1-98区、第1-99区、第1-100区、第1-101区、第1-102区、第1-103区、第1-104区、第1-105区、第1-107区、第1-108区、第1-109区、第1-110区、第1-111区、第1-112区、第1-113区、第1-114区、第1-115区、第1-116区、第1-117区、第1-118区、第1-119区、第1-120区、第1-121区、第1-122区、第1-123区、第1-124区、第1-125区、第1-126区、第1-127区、第1-128区、第1-129区、第1-130区、第1-131区、第1-132区、第1-133区、第1-134区、第1-135区、第1-136区、第1-137区、第1-138区、第1-139区、第1-140区、第1-141区、第1-142区、第1-143区、第1-144区、第1-145区、第1-146区、第1-147区、第1-148区、第1-149区、第1-150区、第1-151区、第1-152区、第1-153区、第1-154区、第1-155区、第1-156区、第1-157区、第1-158区、第1-159区、第1-160区、第1-161区、第1-162区、第1-163区、第1-164区、第1-165区、第1-166区、第1-167区、第1-168区、第1-169区、第1-170区、第1-171区、第1-172区、第1-173区、第1-174区、第1-175区、第1-176区、第1-177区、第1-178区、第1-179区、第1-180区、第1-181区、第1-182区、第1-183区、第1-184区、第1-185区、第1-186区、第1-187区、第1-188区、第1-189区、第1-190区、第1-191区、第1-192区、第1-193区、第1-194区、第1-195区、第1-196区、第1-197区、第1-198区、第1-199区、第1-200区、第1-201区、第1-202区、第1-203区、第1-204区、第1-205区、第1-206区、第1-207区、第1-208区、第1-209区、第1-210区、第1-211区、第1-212区、第1-213区、第1-214区、第1-215区、第1-216区、第1-217区、第1-218区、第1-219区、第1-220区、第1-221区、第1-222区、第1-223区、第1-224区、第1-225区、第1-226区、第1-227区、第1-228区、第1-229区、第1-230区、第1-231区、第1-232区、第1-233区、第1-234区、第1-235区、第1-236区、第1-237区、第1-238区、第1-239区、第1-240区、第1-241区、第1-242区、第1-243区、第1-244区、第1-245区、第1-246区、第1-247区、第1-248区、第1-249区、第1-250区、第1-251区、第1-252区、第1-253区、第1-254区、第1-255区、第1-256区、第1-257区、第1-258区、第1-259区、第1-260区、第1-261区、第1-262区、第1-263区、第1-264区、第1-265区、第1-266区、第1-267区、第1-268区、第1-269区、第1-270区、第1-271区、第1-272区、第1-273区、第1-274区、第1-275区、第1-276区、第1-277区、第1-278区、第1-279区、第1-280区、第1-281区、第1-282区、第1-283区、第1-284区、第1-285区、第1-286区、第1-287区、第1-288区、第1-289区、第1-290区、第1-291区、第1-292区、第1-293区、第1-294区、第1-295区、第1-296区、第1-297区、第1-298区、第1-299区、第1-300区	縄文時代前期末～中期初頭。口縁部直線帯に刺突列、平行沈線、黒彩文、結束縦文(連続)。	大洞B式
220	3	遺構外(B3地区) B区-54b3&55b1区、第1-1区、第1-2区、第1-3区、第1-4区、第1-5区、第1-6区、第1-7区、第1-8区、第1-9区、第1-10区、第1-11区、第1-12区、第1-13区、第1-14区、第1-15区、第1-16区、第1-17区、第1-18区、第1-19区、第1-20区、第1-21区、第1-22区、第1-23区、第1-24区、第1-25区、第1-26区、第1-27区、第1-28区、第1-29区、第1-30区、第1-31区、第1-32区、第1-33区、第1-34区、第1-35区、第1-36区、第1-37区、第1-38区、第1-39区、第1-40区、第1-41区、第1-42区、第1-43区、第1-44区、第1-45区、第1-46区、第1-47区、第1-48区、第1-49区、第1-50区、第1-51区、第1-52区、第1-53区、第1-54区、第1-55区、第1-56区、第1-57区、第1-58区、第1-59区、第1-60区、第1-61区、第1-62区、第1-63区、第1-64区、第1-65区、第1-66区、第1-67区、第1-68区、第1-69区、第1-70区、第1-71区、第1-72区、第1-73区、第1-74区、第1-75区、第1-76区、第1-77区、第1-78区、第1-79区、第1-80区、第1-81区、第1-82区、第1-83区、第1-84区、第1-85区、第1-86区、第1-87区、第1-88区、第1-89区、第1-90区、第1-91区、第1-92区、第1-93区、第1-94区、第1-95区、第1-96区、第1-97区、第1-98区、第1-99区、第1-100区、第1-101区、第1-102区、第1-103区、第1-104区、第1-105区、第1-107区、第1-108区、第1-109区、第1-110区、第1-111区、第1-112区、第1-113区、第1-114区、第1-115区、第1-116区、第1-117区、第1-118区、第1-119区、第1-120区、第1-121区、第1-122区、第1-123区、第1-124区、第1-125区、第1-126区、第1-127区、第1-128区、第1-129区、第1-130区、第1-131区、第1-132区、第1-133区、第1-134区、第1-135区、第1-136区、第1

表1　土器観察表(16)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
229	5	遺構外(SD1)	調F-39+1区3 P1208	縄文	鉢	精光部	(19.2)	7.0	16.4	口縁部から、口縁部に突起1個残存し、之の下部の胴部に突起1個残存。底面上に縄痕残。粗、精の回転施文。底部上げ底。	内面炭化物付着。外面摩耗が著しい。	大洞C2式
229	6	遺構外(SD1)	調F-39+2区3 P1209b	縄文	鉢	精光部	14.7 15.6	6.0	11.3	口縁部欠損。底面上面に、突起1個残存し、之の下部、粗、精の回転施文。胴部半行程施文後、口縁部の横位施文。	無文帯(沼ヶ一)横文一次調。	大洞C2式
229	7	遺構外(SD1)	調F-35+35区2-E5 調F-35-3区	縄文	鉢	精光部	10.4	5.6	9.3	完形。胴部上2段一組の突起3単位。粗、精の回転施文。	炭化物付着。底面大。	大洞C2式
230	8	遺構外(SD1)	調F-39+1区3 P1208	縄文	鉢	精光部	13.8? 14.1	4.9	9.8	底部完形。上面胴部上半突起の欠ケつ。胴上半(1+胴部)、胴部半行程施文後、胴部粗、精の回転施文。	無文帯(沼ヶ一)横一次調。口縁部から胴部上半の内外面に炭化物付着。	大洞C2式
230	9	遺構外(SD1)	調F-34+1区3 P-1083	縄文	鉢	精光部	14.7	-	8.3	(無文)口縁、平行沈線、粗、精の回転施文。底部上げ底。	内面炭化物付着。	大洞C2式
230	10	遺構外(SD1)	調F-32区3 e, b 調F-37区2-D3 3	縄文	鉢	底部	精光部 (底上端	11.5	15.0	13.8	(無文)。底面に焼成痕。	炭化物付着。	晩期
230	1	遺構外(SD1)	調F-32区3 P-x	縄文	鉢	精光部	(15.8)	7.2	13.2	口縁部に沈線、胴部上半に突起一対の突起沢2対残存(2単位?)。口縁部に平行沈線、口縁に粗、精の回転施文。胴部に粗、精の回転施文。	無文帯(沼ヶ一)沈線→横文一次調。横文帯(沼ヶ一)沈線→横文一次調。	大洞A式
231	2	遺構外(SD1)	調F-32区3 P-x	縄文	鉢	精光部	11.4? 11.8	6.6	12.3	口縁部に沈線の平行沈線、口縁部胴部施文。	無文帯(横文一次調)	晩期甲類一類型
231	3	遺構外(SD1)	調F-17-1、調F-32区-E7 調、調E-32区3	縄文	鉢	精光部	12.8	6.0	9.2	口縁平行沈線上後、口縁部胴部施文。底部粗、精平行沈線2条。口縁内面胴部に二段段子。	体部上半3/4・口下端、底部台1/3残。	晩期甲類
231	4	遺構外(SD1)	調F-39+2区3 P-1208	縄文	鉢	精光部	12.4	5.7	13.5	粗、精の回転施文。	炭化物付着(%)。	晩期甲類
231	5	遺構外(SD1)	調F-34+1区3 P-1208	縄文	鉢	注部	9.0	5.275.5	9.8	口縁の胴部施文。口縁部は鋸歯状圧痕。注部は胴部の胴部圧痕あり。	内面輪積痕が残ある。平行状無管無無無注入。	晩期甲類一類型
231	6	遺構外(SD1)	調F-32区3 (+)(+)F 調F-35-4区3 P-663	縄文	鉢	精光部	(9.0)	4.0	7.4	口縁に沈線突起1単位?。口縁部ヨコ、胴部の回転施文。	底外面剥落。	晩期甲類
231	7	遺構外(SD1)	調F-34+1区3 P1116	縄文	浅鉢	体部上半	24.8? 24.5	-	(19.6)	口縁部無りとなること突起列(2単位)、胴ヨコ、平行沈線3条。胴部に突起1単位。口縁部の横施文。内面沈線1条。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C2式
231	8	遺構外(SD1)	調F-40区2-R5	縄文	浅鉢	底部	-	-	(10.6)	胴、横の回転施文。	内外面炭化物多量付着。片口土器の可能性あり。(SD4-1)と接合。	晩期中葉
231	9	遺構外(SD1)	調F-66+45区3、調F-60区3	縄文	浅鉢	体部上半	(26.6)	9.2	18.9	口縁に平沈線、注突起半欠かった。胴外突起を2本沈線で区切る。これに平行する沈線2条。胴部に粗、精の回転施文。	粘土分析(%)。内外面炭化物多量付着。片口土器の可能性あり。	大洞C1式
231	10	遺構外(SD1)	調F-61区3 P-1208	縄文	浅鉢	体部上半	19.2	-	(15.1)	口縁平沈線に平行する沈線一対ヨコ。沈線、胴部半突起、粗、精の回転施文。胴部は横位施文。	内面炭化物付着。	大洞C1式
231	11	遺構外(SD1)	調F-12-4、調F-35区3	縄文	片口	精光部	(15.2)	6.5	10.3	平沈線2条1組に、口縁に2段四方、胴部に横位施文。	片口部分に輪積痕残。	晩期中葉
231	12	遺構外(SD1)	調F-38区3 P1109	縄文	注付鉢	精光部	16.4	5.9	14.0	口縁部無りとなる突起列(2単位)、胴ヨコ、平行沈線3条。胴部に粗、精の回転施文。	注部突起部欠損。一部炭化物付着。	大洞B式
231	13	遺構外(SD1)	調F-36-2区3 P-x	縄文	注付鉢	精光部	13.0? 13.4	8.6	12.9	口縁部に平沈線2条。胴部に横位の胴部施文。注部に平行沈線2条。注部、注突起、平行沈線部に横位粗、精の回転施文。	内面、注部に炭化物付着。	大洞C1式
232	14	遺構外(SD1)	調F-55区3 P1224	縄文	注付鉢	精光部	12.1	7.2?7.9	11.7	口縁部に突起2単位。胴部に横位の胴部施文。注部に平行沈線2条。胴部に粗、精の回転施文。	内面、注部に炭化物付着。	大洞C1式
232	15	遺構外(SD1)	調F-35+1区3 P1217	縄文	注付鉢	精光部	8.4?8.1	5.4	9.2	口縁部に突起2単位を欠ケ。胴部に平行沈線2条。胴部半行程施文後、胴部粗、精の回転施文。注部に1段沈線。胴部に横位の胴部施文。	外面炭化物多量付着。	大洞C1式
232	16	遺構外(SD1)	調F-55区3 P1058	縄文	注付鉢	精光部	11.0	7.3	8.7	口縁部に突起2単位を欠ケ。口縁部平行沈線1条。注部突起2本沈線間に横列刺。胴部上半、中段は1本横沈線。胴部下半は横沈線。	内面と底面、横状工具による ミガキ。口縁内外面に炭化物付着。粘土分析実施無し。	大洞C1式
232	17	遺構外(SD1)	調F-35区3 P1101	縄文	注付鉢	精光部	13.8	6.0	12.1	口縁部に突起2単位を欠ケ。口縁部に横位1本。平行沈線に横列刺(横列の突起が連続はなく、連続している)。台部に円形穿孔3ヶ。(突起列間、胴部上半・中段は1本横沈線。胴部下半は横沈線。	内外面口縁部に炭化物付着。	大洞C1式
232	18	遺構外(SD1)	調F-36+4区3 P1254	縄文	注付鉢	注部	14.0	7.3?6.0	11.0	口縁部に1単位の突起。口縁に沈線。胴部に1単位の突起。胴部半行程施文後に沈線(突起直下部分半周)。胴部に横位施文。注部に沈線2段。	胴部摩耗により横文不鮮明。	大洞C1式
232	19	遺構外(SD1)	調F-34+4区3 P1228	縄文	注付鉢	精光部	12.9? 13.5	(8.0)	15.8	口縁、胴部上端部による横位の沈線。胴部半行程施間に横列一段五ヶ刺。口縁に沈線。注部に沈線2段。注部突起に沈線を連続刺突文。	無文帯(沼ヶ一)横文一次調。内面炭化物付。C14年代測定資料(Pl-2320)。粘土分析(%)11。炭化物付着。	大洞C1式
232	20	遺構外(SD1)	調F-34+4区3 P1216	縄文	注付鉢	精光部	8.9	4.5	7.8	口縁部に突起2ヶ残存。平行沈線、縦列刺(口縁突起2個)。胴部上半に突起(先端尖端状)1単位。(突起列間)に小突起。胴部、台部、胴部半行程施文。	内面炭化物付着。	大洞C1式
232	21	遺構外(SD1)	調F-36+2区3 P1142	縄文	注付鉢	精光部	(9.6)	5.4	(7.9)	口縁部に突起2単位を欠ケ。胴部、注部に横位の胴部施文。注部に1本沈線。	胴部に突起剥落部。	大洞C1式
232	22	遺構外(SD1)	調F-36、41区3 P-x	縄文	注付鉢	精光部	(12.2)	7.1	9.7	口縁部に突起2単位を欠ケ。口縁に平行沈線。突起列単位。胴部上半・中段は1本沈線。胴部下半は横沈線。注部に1本沈線。注突起。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	大洞C1式
232	23	遺構外(SD1)	調F-34-4区3 P-x	縄文	注付鉢	精光部	(10.4)	6.7	12.0	口縁に突起。平沈線1条。平行沈線、突起列1単位。口縁内面沈線。	炭化物付着。	大洞C1式
232	24	遺構外(SD1)	調F-39+3区3 P1208	縄文	注付鉢	体部上半	11.5	-	(9.4)	口縁部欠ケ。口縁部に平行沈線。注部突起2ヶ残存。胴部に横位の胴部施文。	台部欠損。炭化物付着。	大洞C1式
232	25	遺構外(SD1)	調F-34+4区3 P1219	縄文	注付鉢	精光部	(16.6)	9.6	16.7	口縁部無りとなる突起列(2単位)。平行沈線。突起、胴部に突起が斜角度。口縁部沈線。	粘土分析実施。	大洞C1式
232	26	遺構外(SD1)	調F-32区3 P-x	縄文	注付鉢	精光部	(9.8)	4.0	9.5	胴部上半に突起一対の突起(2対?)1ヶ残存。平行沈線。胴部粗、精の回転施文。	内面摩耗が著しい。	大洞A式
232	27	遺構外(SD1)	調F-34+2区3 P1223	縄文	注付鉢	精光部	(13.6)	8.1	9.6	口縁部に突起一対の突起(2対?)残存。平行沈線。胴部上半に注突起一対の突起(2対)残存。注部に沈線。胴部上半に注突起。胴部半行程施文後、胴部粗、精の回転施文。注部に沈線2条。注部の沈線。	内面炭化物付着。	大洞A式
232	28	遺構外(SD1)	調F-32区3 P-x	縄文	注付鉢	体部上半	13.7? 14.7	-	(11.6)	口縁部に沈線。胴部の突起部に横位の胴部施文。注部に沈線。注突起部下に横位の胴部施文。胴部半行程施文。注部一対の突起(2ヶ)1単位。粗、精の回転施文。	粘土分析(%)。内面炭化物付着。	大洞A式
232	29	遺構外(SD1)	調F-35-3区3-E7 調F-35区3、調F-37区2	縄文	注付鉢	精光部	17.8	8.4	7.6	口縁部に沈線。胴部の突起部に横位の胴部施文。注部に沈線。注部に突起の突起部2単位。小型の突起は単位。突起は大型の突起。注部に2段一対の小突起あり。小型突起下部に2段一対の小突起あり。平行沈線。縦位粗、精の回転施文。内面沈線2条。	内面口縁に炭化物付着。粘土分析実施無し。	大洞A式
232	30	遺構外(SD1)	調F-34 区3-E1 調F-34 区3 調F-34 区3 P-1026	縄文	注付鉢	精光部	(19.2)	(9.4)	17.3	口縁部無りとなる突起列。胴部に突起。注部に突起。注部の突起部に沈線。胴部に沈線。口縁部に沈線。注部の沈線。注部に沈線。胴部に横位の胴部施文。内面沈線2条。	粘土分析実施無し。	大洞A式
232	31	遺構外(SD1)	調F-36+1区3 P1117	縄文	注付鉢	体部上半	23.2? 24.5	-	38.4	平行沈線(4条)とかつ3条平行沈線列間、上ハケ。4条目に沈線列間(横ハケ)で区切る。区切る部位(1ヶ所のみ)6・7条目。口縁部、横位の沈線。胴部粗、精の回転施文。内面沈線3条。	補修孔が1ヶ所(孔径1ヶ残存)。炭化物付着。	大洞A式
232	32	遺構外(SD1)	調F-36+6区3 P1011	縄文	注付鉢	精光部	24.4	8.4	38.8	口縁部欠損。上半中段平行沈線。粗、精。	補修孔が1ヶ所(孔径1ヶ残存)。	晩期後半

表 1　土器観察表(17)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	底径	口径 (cm)	器高 (cm)	胴径 (cm)	文様	備考	時期
224	1-7	遺構内(引込線)	横ｱﾐ12-2　層3-56(a1) Q-21 (c1)(d1)　Q13　層B-55(d1)　Q13	縄文	深鉢	体部上半	－	－	9.（17.5）9.（22）	口縁部突起2個一対と十字状突起に付随し、入組文、平行沈線、連続弧沈線、胴部は連続弧沈線施文。		大洞B式
225	1	遺構内(引込線)	層T-53-5(1)　Q13　P-1106	縄文	深鉢	略完形	16.0	7.2	15.6	口縁部から上は不分明状沈線。胴部沈線施文。	針状物質表面付着。	晩期後半
225	2	遺構内(引込線)	層B-55a+63(1)　Q13　P1110	縄文	深鉢	略完形	26.57 31.5	－	(34.7)	口縁部に突起2箇所有(3箇一単位と思われる)。胴部沈線施文。	針状物質表面付着。	晩期中葉
225	3	遺構内(引込線)	層J-56b2(3)　Q13　P1179	縄文	深鉢	略完形	23.5	6.4	27.0	胴部を分割する突起2単位。口縁部は横沈線施文。胴部は斜行沈線施文で一部に口縁部沈線施文。上げ底。		晩期
225	4	遺構内(引込線)	層J-58　-60　Q13	縄文	深鉢	略完形	(20.2)	6.0	18.2	口縁に突起2箇所有(4単位)。胴部は斜行沈線と一緒の沈線施文。底部は沈線沈線施文。外面端部に横あり。	針状物質表面付着。	晩期
225	5	遺構内(引込線)	層T-55c3(3)　Q13　P1118	縄文	深鉢	略完形	29.37 31.5	(10.2)	34.0	口縁に突起が3箇一単位。口縁部沈線施文。	針状物質表面付着。	晩期中葉
226	1	遺構内(引込線)	層T-54(3)　Q13　P1015	縄文	深鉢	略完形	27.4	9.6	35.7	口縁に突起が単位有(3単位か?)。口縁部沈線施文。上げ底底部。	内外面に横磨り痕あり。	晩期終末
226	2	遺構内(引込線)	層K-57a(3)　Q13上面　P-1051	縄文	深鉢	略完形	23.6	－	(29.4)	十字。	外面端部下部まで、小波状沿線。尖平底に横磨りた痕跡あり。	晩期中葉
226	3	遺構内(引込線)	層T-56+61(3)　Q13　P1200	縄文	深鉢	略完形	33.07 34.0	12.2	39.1	口縁部沈線施文(底部付近は斜行沈線施文)。上げ底底部。		晩期
227	1	遺構内(引込線)	層T-57a1(3)　Q13　P1130	縄文	小皿	完形	3.6	1.6	6.4	口縁部ヨコ、平行沈線。		晩期
227	2	遺構内(引込線)	ｾｸﾀｰ7下　層B-53+61(3)P1271	縄文	小皿	完形	4.0	1.8	5.6	(無文)		晩期
227	3	遺構内(引込線)	層T-56-2(3)　Q13　P1128	縄文	小皿	完形	4.4	1.0	7.1	(無文)		晩期
227	4	遺構内(引込線)	層T-56-4(3)　Q13	縄文	小皿	略完形	(5.4)	4.5	10.2	山形状突起1単位。胴部に小突起、口縁部に沈線1条。胴部は連続沈線施文。		大洞A式
227	5	遺構内(引込線)	層B-54+61(3)　Q13　P1097	縄文	深鉢	体部下半	－	5.9	(12.2)	(無文)	口縁欠損。	晩期後葉
227	6	遺構内(引込線)	層K-57b-2(3)　Q13　層K-57a(3)　Q13	縄文	広口壺	略完形	8.0	6.0	11.1	(無文)	底部上げ底。針状物質表面付着。	晩期前葉
227	7	遺構内(引込線)	層T-56a+61(3)　Q13　P1201	縄文	小皿	体部下半	(1.6)	1.0	(5.2)	開放隆帯・沈線。口縁と開放隆起矢印、間隔は粗雑。	赤彩。内面にも赤色顔料あり。	晩期前葉～中葉
227	8	遺構内(引込線)	層G-54(a4)　Q13　P-1132	縄文	皿	体部下半	3.2	2.2	(7.4)	開放隆帯・沈線、突起4単位(縦一横突起)。口縁部沈線施文。	赤彩。内面にも赤色顔料あり。	晩期前葉～中葉
227	9	遺構内(引込線)	層J-61-2(3)　Q13　P1220	縄文	小皿	完形	3.2	2.2	8.1	開放隆帯・沈線、突起4単位(3個突起)。底部に沈線施文。	赤彩。針状物質表面付着。	晩期前葉～中葉
227	10	遺構内(引込線)	層J-55(a4)　Q13　P-1020	縄文	皿	体部下半	3.3	2.1	6.7	開放隆帯・沈線、突起4単位(3個突起)。口縁欠損。底部に沈線ヨコ。	赤彩。内面にも赤色顔料あり。	晩期前葉～中葉
227	11	遺構内(引込線)	層T-56-2(3)　Q13　P1197	縄文	皿	体部下半	(2.8)	3.2	7.1	口縁欠損。沈線。	赤彩。内面にも赤色顔料あり。	晩期前葉～中葉
227	12	遺構内(引込線)	層T-55-2(3)　Q13　P1184	縄文	小皿	略完形	(4.2)	3.0	9.4	開放隆帯、突起4単位(3個突起)。底部に沈線ヨコ。	赤彩。内面にも赤色顔料あり。	晩期前葉～中葉
227	13	遺構内(引込線)	層T-55e+61　Q13　P1185	縄文	皿	完形	5.2	5.57.0	9.1	開放沈線、開放孔。横位の胴部施文。	開放に成型時の痕跡?。底部あり。	晩期後葉
227	14	遺構内(引込線)	層T-55e+61　Q13　P1103	縄文	皿	完形	5.9	－	8.1	開放孔。横位の胴部施文。	針状物質表面付着。	晩期中葉
227	15	遺構内(引込線)	横断ｱﾐ2-3　層B-55(2)　P-x	縄文	小皿	略完形	6.6	3.1	8.0	開放孔。横位の胴部施文。底部に円形くぼみ。	針状物質表面付着。口縁内面に横磨り痕あり。	晩期中葉
227	16	遺構内(引込線)	層J-55a-1 (a4)(c1)　Q13P621	縄文	皿	完形	4.9	5.3	9.6	口縁部にトンの突起が有序。ヒラミ突起が3ヶ所。ヒラミ間よりも小口縁部文様の各不明。胴部沈線施文。	上面内出土。宮石村平内遺跡(第4層第2面2)針状物質表面付着。	晩期後葉
227	17	遺構内(引込線)	層B-55-2(3)　Q13	縄文	皿	略完形	5.2	5.57.0	9.1	開放孔。横位の胴部施文。	開放成型時のヒのと思われる。	晩期後葉
227	18	遺構内(引込線)	層G-54(a3)　Q13　層G-54(a4)　Q13　層G-54　層無	縄文	皿	体部上半	(8.2)	－	(12.2)	口縁部に2条一対と思われる突起があるが、ともに欠損。開放孔。横位の胴部施文。		晩期前葉～中葉
227	19	遺構内(引込線)	層T-56-3(3)　Q13	縄文	皿	略完形	8.2	6.3	13.6	口縁に2箇一対の突起。開放孔。横位の胴部施文。	針状物質表面付着。	晩期前葉～中葉
227	20	遺構内(引込線)	層T-55-1(3)　P-1108	縄文	皿	完形	7.8	7.3	20.4	口縁部沈線施文。開放孔。横位の胴部施文。		晩期前葉～中葉
228	1	遺構内(引込線)	層T-57b+61　Q13　P1085	縄文	皿	完形	7.8	2.1	10.3	口縁部沈線施文。開放孔。横位の胴部施文。平行沈線。突起2単位有。突起は、口縁部沈線施文。	墨痕跡有。赤彩。針状物質表面付着。	大洞C1式
228	2	遺構内(引込線)	層T-56-6(3)　Q13　P1207	縄文	皿	完形	5.4	3.5	13.1	口縁部に3ヶ所突起。開放孔。横位の胴部施文。平行沈線。突起は、口縁部沈線施文。底部に沈線施文。	針状物質表面付着。	大洞C1式
228	3	遺構内(引込線)	層T-61+62(3)　Q13　P1007	縄文	皿	略完形	7.0	6.0	(19.7)	口縁部に突起2箇所有。開放孔。横位の胴部施文。平行沈線。突起は、口縁部沈線施文。底部に沈線施文。	針状物質表面付着。	大洞C1式
228	4	遺構内(引込線)	層B-55(2)　Q13　P-1208	縄文	皿	略完形	5.7	4.5	8.2	口縁に突起あるが欠損のため不明。開放孔。平行沈線。横位の胴部施文。平行沈線間に斜行沈線。突起は、口縁部沈線施文(横沈)。底部に円形くぼみ。	針状物質表面付着。	大洞C1式
228	5	遺構内(引込線)	層B-55e2(3)　Q13　P1267	縄文	皿	略完形	10.4	5.0?5.4	12.0	口縁部に2ヶ所突起。開放孔。口縁部より上は平行沈線。横位の胴部施文。平行沈線間に斜行沈線。突起は、口縁部沈線施文(横沈)。底部上げ底。	針状物質表面付着。口縁外面に横磨り痕あり。	大洞C1式
229	1	遺構内(引込線)	層T-56b1+61(3)T直　P1209　層J-59直層	縄文	広口壺	略完形	(10.2)	(6.6)	11.2	ニ文字。沈線。開放孔。口縁部沈線施文。	黒土分析(No.8)。針状物質表面付着。	大洞B式
229	2	遺構内(引込線)	ｾｸﾀｰ7下　層J-61　P-1265	縄文	皿	体部上半	(11.6)	－	(18.9)	口縁に突起あるが欠損のため不明。沈線。横位。	内外面赤彩。	大洞C1式
229	3	遺構内(引込線)	横ｱﾐ12-2　層B-55　Q13　層B-55(b1)　Q13	縄文	広口壺	体部上半	16.6	－	(10.9)	粘土上。文状沈線に2条の突起の痕。横位の胴部施文。口縁部沈線施文。	針状物質表面付着。	大洞C1式
229	4	遺構内(引込線)	層B-55b1(3)　Q13　P1060	縄文	皿	完形	8.5?8.0	7.5	10.0	口縁部に突起4単位。開放孔。突起の単位は、口縁部沈線。横位の胴部施文。底部に沈線施文。沈線間に斜行沈線。突起から沈線間が3箇所。その内側に沈線。	外面端部に横磨り痕あり。	大洞C1式
229	5	遺構内(引込線)	層T-55b2(3)　Q13　P-1182	縄文	広口壺	略完形	7.6	2.7	6.3	開放孔。底部平底。口縁部沈線施文。平行沈線。突起は、底部に沈線施文。	内外面赤彩。針状物質表面付着。	大洞C1式
229	6	遺構内(引込線)	層T-55c4(3)　Q13　P-1194	縄文	皿	開放	－	－	(6.7)	開放に隆帯・突起4単位(3単位か)。	内外面赤色顔料有序。針状物質表面付着。口縁部に横磨り痕あり。	晩期中葉
229	7	遺構内(引込線)	層T-55a2(3)　Q13　P1150	縄文	皿	体部下半	－	3.0	9.3	開放2条の隆帯によりまとまりつつ突起2単位。上側隆帯上に2個ヶ所の突起2単位。平行沈線。斜行沈線。横位の胴部施文。	外面赤彩。ミガキ痕跡。	大洞B式
229	8	遺構内(引込線)	横断ｱﾐ12-2　層B-55(2)　P-x	縄文	皿	略完形	10.2	5.8	17.7	口縁部に突起3箇。突起間隔が広く3箇。突起は単位2単位で1単位か?。開放孔。突起間は平行沈線。横位の胴部施文。上げ底。口縁部沈線施文。上げ底。		大洞C1式
229	9	遺構内(引込線)	層T-55e+61　Q13　P1102	縄文	皿	略完形	6.8	2.5	8.0	開放孔1単位の突起。開放孔。平行沈線。胴部は横位の胴部施文。底部に円形沈線。	顔面墨痕。	晩期前葉～中葉
229	10	遺構内(引込線)	ｾｸﾀｰ7下　層B-55(2)　P-x	縄文	皿	略完形	10.3	6.4	12.8	口縁部に突起が2ヶ所有。胴部は横位の胴部施文。	粘土中に白色針状物質を微量含有。	晩期前葉～中葉
229	11	遺構内(引込線)	層T-54c3(3)　Q13　P1231	縄文	広口壺	略完形	8.3?8.0	3.3	6.0	口縁部にトンの突起。刺突孔1単位の突起。平行沈線。胴部は横位の胴部施文。底部に円形くぼみ。口縁部沈線施文。	底部内面、胴部下段にふるくずれ。針状物質表面付着。	晩期前葉～中葉
229	12	遺構内(引込線)	層T-54b3(3)　Q13　P-1224	縄文	皿	体部下半	－	5.8	(9.7)	開放孔1単位突起。開放孔。横位の胴部施文。一部で沈線が胴部施文。	針状物質表面付着。外面上半部に赤彩。	晩期前葉～中葉
229	13	遺構内(引込線)	層T-54b2(3)　Q13　P-943	縄文	皿	体部下半	－	6.7	(13.8)	開放沈線。開放孔。横位の胴部施文。	外面墨痕跡有。	晩期前葉～中葉
229	14	遺構内(引込線)	層T-54b4(3)　Q13　P-1214	縄文	皿	略完形	(7.3)	(5.8)	10.4	開放突起1単位。平行沈線。口縁内面沈線。開放孔。横位の胴部施文。		晩期前葉～中葉
230	1	遺構内(引込線)	層T-57a(3)　Q13　P1129　層J-57　Q13	縄文	注口	略完形	(8.2)	－	(8.6)	口縁突起1単位(3単位か?)。ニ文字。沈線。	注口部欠損。	大洞B式

表１　土器観察表(18)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	器台	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
230	1	遺構外(15) 遺構外(15)	層Ⅰ-37a(1)　SD 層Ⅰ-37b(1)	縄文	注口	口縁部	-	-	(6.9)	口縁突起2単位残存。入組三叉文、沈線。		大洞B式
230	2	遺構外(15) 遺構外(15)	層Ⅰ-36b(2)　SD	縄文	注口	胴部	5.7	-	7.7	口縁突起1単位。三叉文、沈線。	底面摩滅顕著。	大洞B式
230	4	遺構外(15)	層Ⅰ-37a(1)　SD P-1126	縄文	注口	胴部	(6.8)	-	9.6	口縁突起2単位残存。(無文)	折状物質微量混入。	大洞B式
230	5	遺構外(15)	層Ⅰ-37a(1)　SD P-1082	縄文	注口	胴部	9.6	-	8.6	口縁突起1単位。C字の蛇目(無文)。		大洞B式
230	6	遺構外(15)	層Ⅰ-37a(1)　SD P-1126	縄文	注口	口縁部	9.6	-	(4.8)	口縁突起4単位。	図20-7と同一個体。折状物質微量混入。	大洞B式
230	7	遺構外(15)	層Ⅰ-37a(1)　SD P-1126	縄文	注口	胴部下半	-	-	(5.8)	(無文)	図20-6と同一個体。折状物質微量混入。	大洞B式
230	8	遺構外(15)	層Ⅰ-36a(2)　SD P-1126	縄文	注口	体部下半	-	-	(5.6)	胴部突起3単位。V字状・U字状懸垂。口縁部突起4単位。胴部突起3単位。三叉状垂り込み。沈線沈線。	折状物質微量混入。	大洞C式
230	9	遺構外(15)	層Ⅰ-34a(3)(5) P1213	縄文	注口	胴部	10.2	-	7.6	口縁部突起。口縁部に沈線。胴部表下半に沈線間に刺突列。体部文様は単位。胴部突起は1.5単位。沈線沈線。	折状物質微量混入。	大洞BC式
230	1	遺構外(15)	層Ⅰ-31　胴部	縄文	鉢	鉢底部	15.7	8.7	10.6	口縁部ヘ。刺突、条痕。	植物繊維微量混入。粗土少量。	片口下層41式
230	2	遺構外(15)	層Ⅰ-31　胴部 層Ⅰ-32(1)　胴部 層Ⅰ-32(2)　胴部 P-993 No.2~4は層Ⅰ-31胴部	縄文	浅鉢	鉢底部	16.4	9.8	20.8	上半胴部条体部1類を二段繰返。胴部縦位沈線。胴部下半胴部条体部2類を二段繰返。胴部上半胴部条体部2類を二段繰返。	植物繊維、折状物質微量混入。	片口下層41式
230	3	遺構外(15)	層Ⅰ-31　SD西側、胴部 層Ⅰ-32　上層 層Ⅰ-32(4)　胴部 P-993 No.2~4は層Ⅰ-31胴部	縄文	浅鉢	鉢底部	24.9	14.6	30.7	口縁・口縁部条体部3類を二段繰返三重。胴部横位沈線上に刺突。胴部上半胴部条体部2類を二段繰返。	植物繊維微量混入。	片口下層41式
230	4	遺構外(15)	層Ⅰ-31　胴部 層Ⅰ-32　胴部 P-997,998	縄文	浅鉢	体部上半	(32.4)	-	(33.5)	頸部口縁下単位(頂部下に円形刺突)。頸部二分突起と橋状突起あり。口唇・口縁・頸部条体2に1類縦沈線。橋状突起に1類縦沈線を二段繰返。胴部に、縦単線1類縦沈線を二段繰返。胴部上半胴部2類縦沈線を二段繰返。内面に刺突2列。	植物繊維微量、折状物質微量混入。	片口下層41式
230	5	遺構外(15)	層Ⅰ-31胴	縄文	鉢	付付浅鉢	台部	-	6.4	(3.0)	(無文)	片口下層41式
230	6	遺構外(15)	層Ⅰ-32(3)　胴部	縄文	浅鉢	鉢平面	-	-	(7.8)	沈線、刺突。口縁沈線。		十腰内B式
230	7	遺構外(15)	層Ⅰ-37　胴部	縄文	鉢	口縁部	-	-	(5.8)	口縁押圧による平行波状口縁。入組三叉文。	赤彩。折状物質微量混入。	大洞BC式
230	2	遺構外(15)	層Ⅰ-37　胴部	縄文	鉢	口縁部	-	-	(9.4)	入組三叉文。LR横位回転施文。	折状物質微量混入。	大洞B式
230	3	遺構外(15)	層Ⅰ-12-3　胴下-55 胴部	縄文	浅鉢	鉢底部	6.8	5.6	6.0	平行沈線間に刺突。圧痕文。胴下部に横位沈線文(圧痕)。	折状物質微量混入。	大洞B式
230	4	遺構外(15)	層Ⅰ-12-3　胴下-55 胴部、図20-6、図20-7	縄文	浅鉢	鉢底部	(21.7)	4.0	7.2	鉢ヘ。平行沈線。圧痕文。LR横位回転施文。	折状物質微量混入。	大洞C式
230	5	遺構外(15)	層Ⅰ-12-3 胴下-55　図20、胴部	縄文	鉢	鉢底部	(15.6)	7.3	6.5	口唇に刻突起(3~4)単位で1単位。LR横位回転施文。	折状物質微量混入。	大洞BC式
230	6	遺構外(15)	層Ⅰ-34(4)　胴部	縄文	鉢	鉢底部	9.0	4.4	9.0	LR横位回転施文。		晩期中葉
230	7	遺構外(15)	層Ⅰ-34　胴部	縄文	鉢	鉢底部	(10.5)	5.0	8.4	RL横位回転施文。		大洞C2式~A式
230	8	遺構外(15)	層Ⅰ-33胴部	晩期	小鉢	鉢底部	7.4	4.0	3.7	頂部に押圧ある突起4単位。平行沈線2条。	折状物質微量混入。	大洞A式
230	9	遺構外(15)	層Ⅰ-31(4)　SD西側 胴部-51　胴部	縄文	鉢	鉢底部	25.2	8.5	15.6	平行沈線。蕨形(?)文。刺突。口縁部横位回転施文。胴部上半斜回転施文。内面横位沈線。底部(胴部)に刺突。	折状物質微量混入。	大洞A'式
230	10	遺構外(15)	層Ⅰ-55　胴部	縄文	付付鉢	体部上半	(12.0)	-	(12.0)	口縁部2段1単位で1単位押圧。平行沈線。LR横位回転施文。		大洞B式
230	11	遺構外(15)	層Ⅰ-54(4)　胴部	縄文	付付鉢?	体部上半	10.9	-	(9.4)	口縁部一定間隔で1単位刺突。口縁部に沈線。平行沈線。胴部に刺突1単位。LR横位。底部付近は1段刺突(圧痕)。内面ケズリ。	折状物質微量混入。	大洞BC式
230	12	遺構外(15)	No.4の下層Ⅰ-55　胴部、SD 層Ⅰ-55 層Ⅰ-55(3)　胴部 P-1166	縄文	付付鉢	鉢底部	10.8	7.5	11.2	口縁部一定間隔で1単位。胴部に突起1単位。平行沈線。胴部に円形連なり。二叉文4単位。連なり。1段刺突。LR横位。胴部上半横位沈線。胴部下半横位。内面横位沈線。内面は横位回転施文。	内面、横位工具による丁寧ナデ。	大洞BC式
230	13	遺構外(15)	層Ⅰ-34a(3)胴部、SD P1230	縄文	付付鉢	鉢底部	(2.1) 12.4	(8.1)	12.2	口縁部一定間隔で1単位。胴部に突起1単位。平行沈線間に刺突。胴部横位。底部付近は横位沈線間に刺突。内面ケズリ。内面下位に沈線。内面に円形連なり。二叉文(4単位)。	内外面摩滅顕著。	大洞BC式
230	14	遺構外(15)	層Ⅰ-55a(3)胴部、SD 胴部-55(3)胴部 P-1166	縄文	付付鉢	鉢底部	9.8	-	(9.7)	口縁部一定間隔で1単位。胴部に突起1単位。平行沈線間に刺突。胴部横位。底部付近は横位沈線間に刺突。内面ケズリ。内面下位に沈線。内面に円形連なり。二叉文(4単位)。	折状物質微量混入。	大洞BC式
230	15	遺構外(15)	No.4の下層Ⅰ-55　胴部 胴部-55(3)胴部 P-1166	縄文	付付鉢	鉢底部	9.6	6.0	10.3	口縁に刻突列3単位で1単位に突起1単位。平行沈線間に刺突。LR横位回転施文。	折状物質微量混入。	大洞C1式
230	16	遺構外(15)	層Ⅰ-55a(4)胴部 P837	縄文	付付鉢	体部上半	14.0	-	(9.2)	平行沈線3条1まとかで2条間隔で1単位の小粘土貼付(4単位)。細沢型沈線なし。台形平行沈線(3条間隔)。口唇沈線。底内面に円形沈線。		大洞A式
231	1	遺構外(15)	層Ⅰ-34(4)(5)(6) (5)(6)　SD　層Ⅰ-54 胴部	縄文	片口	体部上半	22.2	-	(15.6)	口唇刻突起10単位で1単位沈線施文。	内外面ともに炭化物付着(特に外面多量)。	大洞BC式
231	2	遺構外(15)	層Ⅰ-54a(4)胴部 P1213	縄文	深鉢	鉢底部	14.1	6.5	19.5	口縁に平行沈線3条。LR横位回転施文。底面に平行沈線多条。台脚沈線。	折状物質微量混入。	大洞A式
231	3	遺構外(15) 遺構外(15)	層Ⅰ-53　SD2-6 層Ⅰ-53　胴部　P-879	縄文	深鉢	鉢底部	26.6	10.0	24.5	口唇に2段一定の間隔で刻突起あるが単位・配置の定不明。口縁平行沈線3条とかつ3条間で2段一対突起を単位とする。口縁と胴部の間無文。胴部上半胴部に3条1の一組沈線沈線施文あり。	歪み大きい。	大洞C2式
231	4	遺構外(15)	No.3の下層Ⅰ-53　胴部	縄文	深鉢	鉢底部	24.8	9.4	22.0	平行沈線3条。LR横位回転施文。口唇面有り。二段沈線あり。	沈線施文後縦文施文。	大洞A式
231	5	遺構外(15)	SD、37(層Ⅰ-33　胴部) (層Ⅰ-12-1　層Ⅰ-53) (層Ⅰ-53　胴部)	縄文	深鉢	体部上半	(25.8)	-	(18.4)	平行沈線3条とかつ3条間で2段一対突起の3ヵ所。鉢底付近に円形連なり。二叉文(4単位)。細沢型沈線なし。口唇沈線。内面ケズリ。		大洞A式
231	1	遺構外(15)	層Ⅰ-12-1　層Ⅰ-75 層Ⅰ-72　SD　胴部 層Ⅰ-72　SD　胴部上層	縄文	深鉢	体部上半	24.5	-	(18.4)	口縁押圧による平行波状口縁。平行沈線4条。LR横位回転施文。		晩期中葉~後葉
231	2	遺構外(15)	層Ⅰ-54(5)　胴部 P-1250	縄文	深鉢	鉢底部	20.2	-	(23.0)	口縁押圧による平行波状口縁。LR横位回転施文。胴部上半は台形沈線施文。		晩期中葉
231	3	遺構外(15)	No.2の下層Ⅰ-37　P-980 層Ⅰ-53　胴部 層Ⅰ-53　胴部	縄文	深鉢	体部上半	(23.2)	-	(19.3)	口縁押圧による平行波状口縁。幅広の沈線。LR横位回転施文。		晩期中葉~後葉
231	4	遺構外(15)	層Ⅰ-12-1　SD　SD 層Ⅰ-53　胴部	縄文	深鉢	鉢底部	(15.4)	-	14.0	平行沈線。入組三叉文。		大洞B式
231	1	遺構外(15)	層Ⅰ-54(5)　胴部 P-1231	縄文	小皿	鉢底部	(3.3)	3.0	5.0	普通底。沈線。	折状物質微量混入。	晩期中葉
231	2	遺構外(15)	層Ⅰ-54a(4)胴部 P929	縄文	皿	体部下半	-	2.0	9.0	隆帯3条とかつ1~2条間に有間隔1単位。隆帯1条上に粘土貼付(円形)。底外面に円形沈線。	赤彩	晩期中葉
231	3	遺構外(15)	層Ⅰ-55(4)　胴部 P-1109	縄文	皿	鉢底部	6.6	4.9	14.3	口縁に突起3単位。突起と単位。3~5段刻突。LR横位回転施文。底面に小粘土貼。	胎土目にアスファルト塗布?	大洞C1式
231	4	遺構外(15)	層Ⅰ-54(4)　胴部 P-1232	縄文	皿	体部下半	-	5.0	9.1	隆帯に突起1単位。1~2段刻突。LR横位。	金雲母混入。	大洞C1式
231	5	遺構外(15)	層Ⅰ-55(4)胴部 P920	縄文	皿	体部下半	-	5.6	9.0	隆帯平行沈線。突起1単位。LR横位回転施文。	折状物質微量混入。	大洞C1式
231	6	遺構外(15)	層Ⅰ-56　胴部	縄文	皿	鉢底部	11.3	6.5	9.5	口縁沈線。LR横位回転施文。		晩期

表 1　土器観察表(19)

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	文様	備考	時期
263	2	遺構外(縄層)	縄6-55(石器層P1105)	縄文	壺	完形	9.1	5.5	11.1	口縁部に突起文様が断続的あり。胴部に沈線、胴部以下に横位の突起、底部は横位の結束文。口縁内外面と底部、下端立ち上がり。	折衷物質農業説入。	大洞C1式
263	8	遺構外(縄層)	縄6-55(b21) (b33縄層)	縄文	壺	体部上半	(12.6)	－	(20.2)	口縁大突起間隔欠損。胴部に有突起を1個あり。有突起間に口縁沈線あり。胴部上半は横位回転。下半は斜位回転加工。口縁内面沈線1条。		大洞C2式
263	9	遺構外(縄層)	縄6-55(d3縄層P1200)	縄文	壺	略完形	(6.7)	6.0	10.0	口縁部横位回転加工。口縁面取り。		晩期
263	10	遺構外(縄層)	5a3(f7)T 縄層P-5(d3縄層P-54、G3縄層P-119)	縄文	壺	略完形	10.6	7.0	15.8	胴、横位回転加工。	土半分3層、下半層地出土	大洞BC式
263	11	遺構外(縄層)	縄6T(f2-3 縄層P-55(d1-G3、縄層P-119))	縄文	壺	略完形	10.0	(8.5)	26.5	口縁部横位回転加工だが、下部では部分的に口縁斜位回転加工。		大洞BC式
278	1	遺構外(沢層)	縄F-53 沢層	縄文	深鉢	略完形(頸上部2/3)	20.0	13.3	36.0	口唇肥厚沢層横位回転加工。口縁上側面近傍、頸部隆帯上に結束縄文横位回転加工。胴部以斜位回転加工。	福物繊維農業説入。	円筒下層d式
278	2	遺構外(沢層)	縄T-57(f2) IV層P-1203	縄文	深鉢	体部上半	23.6	－	(18.0)	口唇は横位回転加工。口縁上側面近傍、結束縄文横位回転加工。胴部上半は縦位回転加工。	福物繊維農業説入。	円筒下層d式
278	3	遺構外(沢層)	縄G-53(b7)、縄F-53(b2)	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(4.0)	半隆起条珠等1個側面近傍。隆帯上に竹管状沈線。上半地紋条珠等1個側面近傍。	福物繊維農業説入。	円筒下層d式
278	5	遺構外(沢層)	縄C-76(沢層)	縄文	高台	台部	－	(6.0)	(4.1)	胴、横位回転加工。中実高台風。	福物繊維、折衷物質農業説入。	円筒下層式
278	5	遺構外(沢層)、(b33)(縄層)	(b33)E-8(b)(縄層)、縄G-53(a)(沢層上面)	縄文	深鉢	略完形	26.6	12.0	40.2	口唇・口縁(縄層)突起直下(沢層)条珠第1段間隔近傍。口縁部下に結束縄文横位回転加工。胴部に結束縄文横位回転加工。結束縄文横位回転加工。	福物繊維農業説入。	円筒下層d式
263	1	遺構外(I層)	縄F-53 I層	縄文	口辺?	胴部	－	－	(5.4)	沈線、RL+LR充填縄文。	(図23-1)、(図20-2、(図23-1)は一個体。	後期前葉?
263	2	遺構外(I層)	縄J-63 I層	縄文	浅鉢	体部上半	(8.0)	－	(4.5)	平行沈線3条。		大洞A式
263	3	遺構外(I層)	縄D-52 I層	縄文	鉢	略完形	16.5	6.0	17.0	口唇に2条一対の突起4単位平行沈線4条と2条1対2条1対の突起10単位。口縁に4条1対2条1対に縦位沈線。胴部は縦位。胴部に横位沈線。底部は平行沈線。口縁内面沈線1条。	折衷物質農業説入。内外面炭化物付着。	大洞A式
263	4-2	遺構外(I層)	縄J-62 I層	縄文	鉢	口縁部	(20.0)	－	(15.7)	口唇肥厚に2本の沈線。沈線、平行沈線。口縁内面沈線。内面に指ナデ痕。	(図263-4-2)は同一個体。	大洞C2式
263	4-3	遺構外(I層)	縄J-63 I層	縄文	鉢	底部	－	6.8	(7.8)	口縁内面沈線1条。底外面に調整痕。	(図263-4-3)は同一個体。	大洞C2式
263	5	遺構外(I層)	縄Y-36 I層	弥生	鉢	口縁部	－	－	(3.0)	波状口縁。沈線、刺突、擬似結束。口唇部分的に沈線。内面沈線1条。	(図263-6-5)は同一?	砂沢式
263	6	遺構外(I層)	縄Y-40 I層	弥生	鉢	口縁部	－	－	(6.0)	波状口縁。沈線、口唇沈線。内面沈線1条。	(図263-5-5)は同一?	砂沢式
263	7	遺構外(I層)	縄A-51 I層	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.3)	波状口縁。頂部に押圧。平行沈線。結束縄文押工沈文。口縁沈線。内面沈線1条。		大洞A'式
263	8	遺構外(I層)	縄W-39 I層	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(4.0)	波状口縁。平行沈線3条。内面沈線1条		大洞A式
263	9	遺構外(I層)	縄Y-36 I層	弥生	鉢	略完形	(9.1)	(6.0)	6.2	平行沈線。波状文。口縁内面沈線1条。	折衷物質農業説入。	砂沢式
263	10	遺構外(I層)	X-91	弥生	壺	頸部	－	－	(12.5)	平行沈線。刺突。変形工字文?沈線内面沈線2条。		砂沢式
263	11	遺構外(I層)	縄F-53 I層	縄文?	壺	頸部	－	－	(12.9)	内面ケズリ。		平安時代
263	12	遺構外(現表)	縄A-79(現表)	縄文	深鉢	口縁部	－	－	(16.0)	沈線		十腰内1式
263	13	遺構外(現表)	縄F-53(f2) 現表P-95	縄文	壺	体部下半	－	1.4	(15.2)	隆帯隆帯2条。有突起4単位。底外面に打痕。底部。	赤彩。	晩期中葉
263	14	遺構外(現表)	縄X-47(現表)	縄文	浅鉢	口縁部	－	－	(3.0)	平行沈線。工字文。内面沈線1条。		大洞A式
263	15	遺構外(現表)	縄Y-83(現表、縄W-83)(現表)	弥生	台付鉢?	体部上半	(17.1)	－	(5.8)	平行沈線。変形工字文。内面沈線3条。	赤彩。	砂沢式
263	16	遺構外(現表)	縄B-71(現表)	弥生	広口壺	口縁部	－	－	(4.7)	平行沈線。綾杉沈線。内面沈線1条。	(図263-17)は同一個体	弥生前半?
263	17	遺構外(現表)	縄B-71(現表)	弥生	広口壺	口縁部	－	－	(4.7)	2条一対突起。平行沈線。内面沈線1条。	(図263-16)は同一個体	弥生前半?
263	18	遺構外(現表)	縄B-71(現表)	弥生	広口壺	頸部	－	－	(5.5)	列点。平行沈線。波状文?。横行文。	(図263-16)は同一個体	弥生前半?
263	19	遺構外(現表)(縄層)	縄K-61水流(現表)	弥生	広口壺	頸部	－	－	(4.6)	沈線(変形工字文?)。	(図71-13、(図104-7、(図201-9-、(図203-9-11、(図263-19-(図68-2-(図63-2)は一個体。	五所式
263	20	遺構外(現表)(縄層)	縄J-64(現表)(縄層)	弥生	広口壺	頸部	－	－	(4.4)	沈線(変形工字文?)。	(図71-13、(図104-7、(図201-9-、(図203-9-11、(図263-19-(図68-2-(図63-2)は一個体。	五所式
263	21	遺構外(現表)	縄G-66水流(現表)	弥生	広口壺	頸部	－	－	(7.5)	変形工字文?、研究。	(図20-20、(図203-21)は一個体。	五所式
263	22	遺構外(現表)	縄B-71(現表)	弥生	小壺	体部上半	－	－	(3.7)	平行沈線。変形工字文?研究。		五所式
263	23	遺構外(現表)	縄B-71(現表)	弥生	小壺	体部上半	－	－	(3.6)	平行沈線。変形工字文?研究。貫通孔1個。		五所式
263	24	遺構外(現表)	現表	土師器	甕	底部	－	9.0	(3.6)	ヘラキ。ケズ。底外面底痕あり。内面ケズ。		平安時代
263	25	遺構外(現表)	縄F-53 現表	須恵器	甕	頸部	－	－	(4.1)	外面ケズキ。内面ケズ。		平安時代

表2　石器・石製品観察表（1）

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工痕跡	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
32	16	D	G101	ヴ上層	東C-80	ch	一	敲石		表面	角角度強さ	20.3	4.7	2.4	1.4
32	17	P	G101	ヴ上層	東X-80	ch	剥離			裏面	機能面不明瞭	20.1	3.6	2.6	1.4
32	18	Y	G101	埋表	東X-79	ch	打	打之		裏面	機能面不明瞭	204.1	10.2	6.4	3.5
32	19	X	G101	埋表	東X-81	ad	—	—			打石？	2,404.1	21.0	10.9	6.1
32	20	Y	G101	埋表	東X-81	ad	—	—				203.6	8.3	6.4	6.7
32	21	Tp1	G101	埋表	東X-81	ad	—	Pub		裏面		3,940.0	26.0	14.8	12.1
32	22	Y	G101	埋表	東X-79	ch						2,980.0	26.0	16.0	6.4
32	23	Ay	G104	ヴ上層	東X-90	ch	敲石					1.8	2.8	1.1	0.4
32	24	Pb	G104	ヴ上層	東X-90	ch	打痕					3.6	2.1	1.1	1.0
32	25	L	G104	ヴ上層	東X-78	ch						37.8	5.2	3.3	2.7
32	26	L	G104	ヴ上層	東X-78	ch						37.4	5.2	3.3	2.7
32	27	L	G104	ヴ上層	東X-78	ch						46.8	4.9	4.4	2.7
32	28	P	G104	ヴ	東X-78	ad	打			側辺	機能面欠損	473.4	7.1	10.3	1.8
32	29	P	G104	埋表	東X-77	ad	打	打之		半側		446.9	11.9	9.3	2.8
32	30	Y	G104	埋表	東X-78	ad	打	打?Pu-e		裏面		439.9	12.7	7.1	3.4
32	31	Ay	G104	埋表	東X-78	ad	打L	L-Pu		側辺	在側内P1に接し	326.9	8.1	8.4	4.6
32	32	Qu	G104	ヴ上	東X-78	ad	打L	L-Pu				1,494.3	12.5	11.7	7.6
32	33	Ay	G104	ヴ上	東X-78	ad	—	Pu			被覆石	2,360.0	16.0	14.0	9.0
32	34	Ty	G104	埋表	東X-78	ad	—	L-T			固力強い	1,749.3	20.3	11.7	6.6
32	35	Ty	G104	埋表	東X-78	ad	—	L-T		側辺		1,538.2	10.6	10.4	5.3
32	36	Y	G104	ヴ上	東X-78	chal	—	—				264.6	9.9	9.5	1.9
32	37	Y	G104	ヴ上		ch						18.7	3.4	3.6	1.7
32	38	Qu	G105	ヴ上		chl	打L	L-T			固力強い	625.6	11.0	8.4	6.5
33	39	Ty	G105	ヴ上層	東E-71	ad						6,020.0	31.4	22.4	9.0
33	40	Tp1	G105	ヴ上層	東E-75	ad		Pub				12,020.0	46.0	36.6	9.0
33	41	Tp1	G105	ヴ上層	東F-75	ad		Pub				16,440.0	46.4	38.2	10.2
33	42	Ty	G105	ヴ上層	東E-74	ad		Pu			被覆石、芯象の痕跡	15,960.0	37.0	24.1	13.6
33	43	L	G105	ヴ上		ch	剥刃	ad				6.7	7.3	3.4	1.9
33	44	Zr2	G105	ヴ上		Ttf	台2	—				0.7	0.6	0.6	0.3
33	45	Zr2	G105	ヴ上		tuffa	台2	—				0.5	0.6	0.5	0.3
33	46	Zr1	G105	ヴ上層	東W-92	tuffa	台?1					0.3	0.5	0.4	0.3
63	1	Zr1	G131	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.4	0.3
63	2	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.4	0.3
63	3	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.3	0.4
63	4	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.4	0.3
63	5	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.3	0.3
63	6	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.3	0.4
63	7	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.3	0.3
63	8	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.3	0.4
63	9	Zr1	G126	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.6	0.4
63	10	Zr1	G126	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.3
63	11	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.3	0.3
63	12	Zr1	G126	ヴ上		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.3	0.4
63	13	Zr1	G126	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.6	0.4
63	14	Zr1	G126	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.3
63	15	Zr2	G126	遺構確認表土層		tuffa	台2	—				0.1	0.5	0.3	0.3
63	16	Zr2	G126	遺構確認表土層		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.4	0.3
63	17	Zr2	G126	遺構確認表土		tuffa	台2	—				0.1	0.6	0.6	0.3
63	18	Zr2	G126	遺構確認表土		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.4	0.3
63	19	Zr2	G126	遺構確認表土		tuffa	台2	—				0.1	0.3	0.2	0.4
63	20	Zr2	G126	遺構		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.4
63	21	Zr2	G126	ヴ上層		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.4
63	22	Zr2	G126	ヴ上層		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.4
63	23	Zr2	G126	ヴ上層		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.4
63	24	Zr2	G126	ヴ上層		tuffa	台2	—				0.1	0.4	0.3	0.4
63	25	Ay	G126	ヴ上	東V-91	ch	一	敲石		天端	側面平	6.2	4.8	3.7	0.5
63	26	L	G126	ヴ上		ch						36.6	5.1	4.4	1.9
63	27	Dp1	G127	ヴ上		ch	剥離				機型石斧？	37.6	3.8	3.4	1.2
63	28	Qu	G127	ヴ上		ch						802.7	12.3	8.3	3.9
63	29	Y	G127	ヴ上	東W-93	ayw	打	Pu-Pb				813.2	10.2	7.9	15.3
63	30	Y	G127	ヴ上	東W-93	chal	—	—			打石？	1,645.3	18.8	10.3	5.1
63	31	L	G128	遺構確認表土	東V-91	ch						306.6	7.8	4.4	6.2
64	32	Tp1	G128	ヴ上	東V-91	ad	Pu	Pub			縁多辺、日あり	4,960.0	20.7	18.9	6.6
64	33	Ay	G128	ヴ上	東V-91	ch	打L	L-Pu		縁側	芯痕無し	626.6	9.1	8.1	6.0
64	34	Qu	G142	ヴ上		ch	打L					1.8	1.8	2.1	0.4
64	35	P	G142	ヴ上		ch	打	Pu2				805.3	20.8	11.1	4.8
64	36	Y	G138	ヴ上		tuffa	台2	—		縁側	被覆石摩滅	1.7	2.0	1.1	1.1
64	37	Ty	G138	ヴ上		ch				裏面		166.7	5.6	6.4	4.8
66	38	Ay	G155	ヴ上	東K-66	ch	一	敲石		天端		0.8	2.4	1.1	0.5
66	39	Qu	G64	遺構確認表土	東K-67	ad	打L	L-T				501.6	9.7	8.3	6.4
71	40	Ty	G64	ヴ上	東K-67	ad	打	L-T				3,662.8	18.6	13.9	13.6
71	41	Ay	G67	ヴ上	東P-52	ch	一	敲石		天端		1.7	1.0	1.0	0.3
72	42	Ay	G68	ヴ上	東P-53	chal	—	敲石				1.0	2.5	0.8	0.5
72	43	Ty	G69	ヴ上	東P-52	ad				側辺		6,138.8	26.1	12.4	8.8
72	44	Ty	G70	ヴ上	東P-52	ad	打L	L-T		側辺		1,699.1	16.3	15.3	8.0
72	45	Ay	G76	ヴ上		ch	打痕					48.0	7.5	4.9	1.7
72	46	Ty	G76	ヴ上		chl	打L	打L-凝			敲刃痕？	309.8	12.0	8.9	3.7
72	47	Y	G76	ヴ上		ch	打	Pu2				607.4	12.1	7.6	4.3
72	48	Y	G76	ヴ上		ch					長軸に一対の抉り	476.0	14.2	10.5	2.9
78	49	Qu	G109	ヴ上		aw	打L	Pu		縁側		179.4	7.3	4.6	2.9
80	50	Ay	G240	ヴ上		ch	打L	L-T				882.0	16.5	8.4	5.5
80	51	Ty	G211	ヴ上		tuffa					固力強い	145.7	7.1	6.0	3.2
80	52	P	G211	ヴ上		ch	打	Pu2			天材	767.2	11.6	8.5	1.9
81	53	Qu	G230	ヴ上		ad	打L	L-T?				495.1	11.3	7.6	5.3
81	54	Ay	G230	ヴ上		ad	打	Pu		側辺	縁不明瞭	216.6	7.8	6.5	3.1
85	55	Tp1	G501	ヴ上	東K-67	ad	Pu	Pub		側辺	縁不明瞭	806.1	15.7	7.1	5.3
85	56	Tp1	G501	ヴ上	東L-66	ch	敲石		天端部位	天端部位		1.8	2.7	1.0	0.4
85	57	Ay	G510	ヴ上		ch	敲石		天端部	天端部位		1.8	2.7	1.0	0.4
85	58	Ay	G510	ヴ上	東L-70	ch	敲石		天端部			0.9	2.1	1.0	0.4
85	59	Tp2	G507	ヴ上層	東K-64	ad	Pub			側辺	機能面不明瞭	17,640.0	32.7	26.7	13.8
85	60	Ty	G507	ヴ上層	東K-64	ad	打L	L-T				263.9	7.8	7.8	4.1
85	61	Ay	G504	ヴ上	東K-67	ch	敲石		天端部位			2.0	2.8	1.4	0.6
85	62	L	G504	ヴ上	ピット1	ch	剥刃					28.1	5.2	2.4	1.4
85	63	Ay	G505	ヴ上	東W-94	ch	敲石		天端			1.1	2.9	1.0	0.6
85	64	L	G505	ヴ上		ch	剥刃	ad 調査				32.4	6.3	4.0	1.7
85	65	Ay	G505	ヴ上層		ch	打痕・調査				剥片使用？	32.3	4.8	4.7	1.2
85	66	Qu	G505	ヴ上		chal	打L	L-Pu1				508.4	13.0	7.6	4.4
85	67	L	G505	ヴ上		ch	母岩折り					326.6	10.6	8.6	3.6
85	68	Qu	G505	ヴ上		ad	打L	L-Pu				472.9	10.0	8.5	4.9
100	69	Ca	G501	ヴ上層	東X-43	ch						4.4	1.8	1.3	1.0
100	70	Qu1	G501	ヴ上	東X-42	ch	打痕					7.0	34.0	28.0	10.0
100	71	Ty	G501	ヴ上層	東Y-44	ch				側辺?		6.1	2.0	1.4	1.0
100	72	K	G501	ヴ上層	東Y-42	ch	敲刃	ad	天端			28.6	6.0	4.6	13.6
100	73	Y	G501	ヴ上層	東Y-43	ch	敲刃	ad				8.9	52.0	48.0	14.0
100	74	Ma	G501	遺構	東Y-43	ch	—	—				42.4	50.0	67.0	17.0
100	75	Ma	G501	遺構確認表土	東Y-43	ch	—	—				26.2	40.0	48.0	13.0
100	76	Ma	G501	ヴ上層	東Y-42	ch	—	—			赤いまま	5.9	32.0	29.0	17.0
100	77	Ma	G501	ヴ上層	東Y-43	ch	—	—				179.1	9.6	46.0	10.0
101	78	S	G501	遺構確認表土	東X-43	ad	打	Pu2				426.4	8.8	99.0	26.0
101	79	S	G501	遺構確認表土	東X-43	ad	打	Pu2				1,008.8	16.0	97.0	17.0
101	80	Qu	G501	遺構確認表土	東X-44	ad	打L	L-Pu				424.1	10.5	7.7	30.0
101	81	Ay	G501	ヴ上層	東Y-43	ad	打L	L-Pu		側面		396.7	10.0	8.0	10.0
101	82	Qu	G501	遺構確認表土	東Y-43	ad	打L	L-Pu				546.7	124.0	62.0	41.0
101	83	Qu	G501	ヴ上層	東Y-43	ad	打L	L-T				504.3	10.0	86.0	19.0
101	84	Qu	G501	遺構	東Y-43	ad	打L	L-Pu				315.1	93.0	53.0	41.0
101	85	Qu	G501	ヴ上層	東Y-43	ad	打L	L-Pu				237.2	74.0	65.0	44.0
101	86	Qu	G501	ヴ上層	東Y-43	ad	打L	L-Pu				251.5	93.0	62.0	34.0
101	87	Qu	G501	遺構	東Y-43	ad	打L	L-Pu				699.7	114.0	78.0	37.0
101	88	Qu	G501	遺構確認表土	東Y-43	ad	打L	L-Pu		側辺		449.0	141.0	89.0	41.0
101	89	Qu	G501	遺構	東Y-43	ad	打L	L-T				375.5	87.0	62.0	56.0
101	90	Qu	G501	遺構	東Y-43	ad	打L	L-Pu				368.6	95.0	60.0	30.0
101	91	Qu2	G501	ヴ上	東Y-43	ad	打?1	Pu-?1/Pu-2				603.8	91.0	76.0	34.0
101	92	A	G501	遺構	東Y-43	ad	—	—				203.7	39.0	63.0	16.0
101	93	Tp1	G501	ヴ上層		ad		Pub		側辺	角度表裏位置既？	1,495.0	32.0	23.2	7.0
101	94	Tp1	G501	ヴ上層	東Y-41	ad	Pu	Pub				3,440.1	31.1	18.9	9.6

表２　石器・石製品観察表（２）

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
103	1	Sp3	SD01	遺構	東T-44	dci	Fc	Ub		側圧	環状石製品	5,200.0	16.0	22.0	19.5
103	2	Sp3	SD01	遺構	東T-44	dci	Fc			側圧	小口	1,507.0	10.0	9.0	10.0
103	3	Sp	SD02b	ｱﾌﾟﾛｰﾁ層		ad	Gc	線状			中立型の遺物	386.0	8.0	7.0	6.0
104	4	Sp	SD02b	遺構底上		sh	Gc	—			打面作製所	34.5	4.0	4.0	1.0
104	5	qz	SD02b	遺構底上		ad	Gc	A-Ub				538.7	9.0	8.0	6.0
104	11	qz	SD02b	遺構底上		dci	Gc	A-Ub		側圧		436.5	11.0	7.0	6.0
104	12	qz	SD02b	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		ad	Gc	A-f				326.6	8.9	6.5	5.6
104	13	Tu1	SD02b	遺構		ad	Fc	Ub			縁小剥離	843.0	10.9	11.6	6.5
104	14	Tb	SD02b	遺構		dci						1,238.0	18.4	8.0	7.0
105	15	Tb	SD03	ｱﾌﾟﾛｰﾁ上層		dci				側圧		1,326.4	24.5	13.5	7.0
105	17	qz	SD03	遺構		dci	Gc	C-Ub				251.6	9.0	6.0	3.0
105	18	qz	SD03	ｱﾌﾟﾛｰﾁ	東T-32	ad	Gc	C-Ub				206.7	10.4	6.0	4.0
105	19	qz	SD03	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		ad	Gc	C-Ub				412.5	9.0	8.0	7.0
105	20	qz	SD03	遺構	東T-33	ad	Gc	C-f				452.8	10.4	8.0	7.0
105	21	qz	SD03	遺構	東T-33	ad	Gc	C-Ub				264.8	9.0	7.0	4.0
105	22	qz	SD03	遺構		ad	Gc	C-Ub				370.6	9.0	7.0	4.0
106	18	s	SD05	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		tuff	Fc	—				62.9	5.0	5.0	1.0
106	4	Sh/h	SD06	ｱﾌﾟﾛｰﾁ	東T-31	ad	Gc	C-Ub-f				605.0	10.0	12.0	6.0
106	5	qz	SD06	ｱﾌﾟﾛｰﾁ	東T-31	ad	Gc	C-f				1,627.1	12.0	14.0	10.0
106	6	qz	SD06	遺構	東T-31	ad	Gc	C-Ub				134.4	9.0	3.5	3.0
106	13	qz	SD08	ｱﾌﾟﾛｰﾁ	東T-31	dci	Gc	C-f				520.2	9.7	7.0	6.5
107	1	s	SD12	遺構		ad	Fc	Ub				195.9	13.0	11.0	6.0
107	4	qz	SD12	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		ad	Gc	A-Ub				324.1	11.0	9.0	5.0
107	5	qz	SD12	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		dci	Gc	A-f				626.7	10.0	8.0	6.0
107	6	qz	SD12	遺構		dci	Gc	A-Ub				1,009.4	12.0	10.0	10.0
107	7	qz	SD12	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		dci	Gc	A-f				452.3	9.0	8.0	7.0
107	8	Tb	SD12	ｱﾌﾟﾛｰﾁ		ad		A-f				1,481.5	17.3	13.1	5.4
108	9	Tb	SD12	遺構		ad		A-Ub				2,315.5	19.0	17.0	10.0
108	10	Tb	SD12	遺構底上		ad						6,993.9	27.0	23.0	12.0
108	11	Tu1	SD12	遺構		ad	Fc	Ub		側圧	交換	5,553.7	21.5	22.0	8.0
108	12	Tu1	SD12	遺構				Ub		側圧		7,435.1	16.9	22.4	7.6
108	13	Sp2	SD12	遺構	東T-36	ad		Ub		側圧		1,146.2	17.0	11.2	5.0
120	1	Ata	横穴No.1	区-A	横T-33	sh	等辺		a.黒曜	黒曜		9.9	2.4	1.1	0.7
120	2	Ata	横穴No.1	区-A	横T-33	sh	等辺			先端		2.9	3.5	1.2	0.5
120	3	Ata		区-A	横T-32	sh	等辺			先端		1.9	2.9	1.1	0.5
120	4	Ata		区-A	横T-33	sh	等辺		a.黒曜			3.1	3.1	1.2	0.5
120	5	Ah		区-A	横T-32	sh	等辺					2.8	2.9	1.0	0.5
120	6	Ca		区-A	横T-32	sh						3.4	3.0	1.1	0.8
120	7	Ch		区-A	横T-33	sh		摩滅				1.9	3.0	1.0	0.7
120	8	Cb	横穴No.2	区-A	横T-34	sh		摩滅				2.1	3.4	1.0	0.7
120	9	Ch		区-A	横T-33	chal		摩滅				2.1	3.0	1.1	0.6
120	10	Cc		区-A	横T-34	sh		摩滅				3.2	3.9	1.8	0.8
120	11	Fa1	横穴No.1	区-A	横T-33	sh	両面				側主力面と平行	2.2	3.3	1.1	0.6
120	12	Fa1	横穴No.1	区-A	横T-33	sh	両面		a.頭ネル			4.6	2.5	3.0	1.5
120	13	Fa1		区-A	横T-32	sh	単辺	af		刃端		18.1	6.4	2.7	1.1
120	14	Fa1	ﾋ字型No.2	区-A	横T-32	sh	単辺	af			整形剥ﾋ調節	19.6	6.6	3.5	1.1
120	15	Ga1	横穴No.1	区-A	横T-33	sh	平面				剥離先端ﾋ	1.4	2.5	1.4	0.4
120	16	Gb1		区-A	横T-32	sh	切目面				剥離先端ﾋ	11.1	3.9	2.1	1.2
120	17	Gb1		区-A	横T-32	sh	平面 線状					25.4	6.1	3.7	2.1
120	18	Gb3		区-A	横T-32	sh	単辺	af			整形足ﾋ1及刃面	56.9	8.1	5.3	3.1
120	19	K		区-A	横T-32	sh	単辺	af/摩滅				56.2	8.4	5.5	2.1
121	20	P		区-A	横T-32	sh	Dh1			頭頂		169.3	7.3	7.4	3.2
121	21	qz	横穴No.1	区-A	横T-34	dci	Gc	C-f				473.8	10.0	7.1	5.7
121	22	qz	横穴No.1	区-A	横T-33	dci	Gc	C-s		頭頂		137.4	4.6	6.0	2.0
121	23	Y		区-A	横T-32	tuff	Fc				縁平面に摩滅みられる	20.9	4.3	3.9	1.0
121	24	s		区-A	横T-32	tuff	Fc					66.5	5.5	4.0	1.0
121	29	Zr2		区-A	横T-34	tuff	zfr2	—				1.4	1.5	1.2	0.8
121	30	Zr2		区-A	横T-33	tuff	zfr2					0.8	1.5	0.5	0.5
121	1	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺		a.黒曜	黒曜		1.2	2.4	1.2	0.5
121	2	Ata	横穴No.1	区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.2	2.4	1.1	0.5
121	3	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.8	2.4	0.9	0.5
121	4	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			黒曜		0.8	2.0	1.0	0.4
121	5	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺		a.黒曜	先端黒曜		0.7	1.7	1.0	0.3
121	6	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺			先端黒曜		0.7	2.4	1.0	0.3
121	7	Ata		区-B	横T-32	sh	両面				識別に対し黒長い	1.1	2.4	1.1	0.5
121	8	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺			先端		0.7	2.1	1.0	0.4
121	9	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.8	2.3	1.0	0.5
121	10	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.7	2.1	1.0	0.4
121	11	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜	先端黒曜		0.9	2.6	1.0	0.5
121	12	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺					0.7	2.6	0.8	0.3
121	13	Ata	横穴No.1	区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.0	2.6	1.1	0.4
121	14	Ata	横穴No.1	区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.2	2.6	1.1	0.6
121	15	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.2	2.1	1.0	0.6
121	16	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端黒曜		0.9	2.1	0.9	0.5
121	17	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺			先端黒曜		1.1	2.5	1.1	0.7
121	18	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺					0.6	2.5	1.1	0.2
121	19	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺					0.9	2.1	1.0	0.5
121	20	Ata	ﾋ字型No.2	区-B	横T-34	sh	両面					0.9	2.1	1.1	0.5
121	21	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					1.2	2.9	1.1	0.5
121	22	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					0.8	2.1	1.0	0.4
121	23	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜	先端		1.0	2.6	1.1	0.6
121	24	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端黒曜		1.0	2.4	1.1	0.5
121	25	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端黒曜		1.1	2.9	1.1	0.5
121	26	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			黒曜		1.0	2.9	1.3	0.7
121	27	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.8	2.9	1.0	0.4
121	28	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.9	2.9	1.0	0.5
121	29	Ata	横穴No.1	区-B	横T-32	sh	等辺					1.1	2.9	1.1	0.6
121	30	Ata	横穴No.1	区-B	横T-32	sh	等辺					1.4	3.0	1.2	0.5
121	31	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					0.8	2.5	1.1	0.7
121	32	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜			0.9	3.1	1.1	0.4
121	33	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					1.1	3.1	1.2	0.5
121	34	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					1.1	3.1	1.1	0.6
121	35	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端黒曜		1.0	2.4	1.1	0.4
121	36	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			黒曜		1.1	3.1	1.0	0.4
121	37	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					0.9	2.9	1.1	0.7
121	38	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					1.1	3.1	1.1	0.4
121	39	Ata	横穴No.1	区-B	横T-33	sh	等辺					1.1	3.0	1.2	0.5
121	40	Ata	横穴No.1	区-B	横T-32	sh	等辺	剥離刃潰	a.黒曜	先端黒曜		1.1	3.0	1.1	0.5
121	41	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					1.1	3.0	1.1	0.5
121	42	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					0.8	2.9	1.1	0.5
121	43	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					1.4	3.2	1.2	0.6
121	44	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺		a.黒曜	黒曜		1.1	3.2	1.1	0.6
121	45	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					1.1	3.2	1.1	0.6
121	46	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺	剥離刃潰		先端黒曜		1.1	3.0	1.1	0.6
121	47	Ata	ﾋ字型No.2	区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.1	3.3	1.0	0.5
121	48	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺					1.1	3.4	1.1	0.4
121	49	Ata		区-B	横T-33	chert	等辺		a.黒曜	先端		1.2	3.2	1.3	0.6
121	50	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺			先端		1.1	3.2	1.1	0.4
121	51	Ata		区-B	横T-33	sh	等辺		a.黒曜	黒曜		1.4	3.2	1.3	0.4
121	52	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					1.4	3.2	1.2	0.5
121	53	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜			1.5	3.6	1.2	0.5
121	54	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺				切面状の形態	1.1	3.2	1.1	0.5
121	55	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜			1.4	3.7	1.2	0.6
121	56	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜			1.3	3.6	1.2	0.6
121	57	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺		a.黒曜	先端		1.1	3.6	1.1	0.5
121	58	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺					0.7	3.0	1.1	0.3
121	59	Ata		区-B	横T-32	sh	等辺			先端		1.4	3.6	1.1	0.4
121	60	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺					1.6	2.5	0.9	0.5
121	61	Ata		区-B	横T-34	sh	等辺			先端		1.1	3.6	0.9	0.5

表２　石器・石製品観察表（３）

図版No.	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工痕跡	使用痕	付着物	被熱箇所	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
133	60	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		1.8	3.1	1.0	0.6
133	61	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		0.7	2.7	1.0	0.4
133	62	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		1.4	2.9	1.1	0.5
133	63	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成黒変		3.1	2.7	1.0	0.5
133	64	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		1.1	2.7	1.0	0.5
133	65	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.0	3.1	0.9	0.4
133	66	Ａ１	焼ｴﾘNo.2	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成	左右潰変形	1.9	2.8	1.4	0.5
133	67	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.5	3.5	1.0	0.5
133	68	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.0	3.1	1.1	0.4
134	71	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.4	3.6	1.1	0.5
134	72	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.6	3.4	1.3	0.6
134	73	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		1.9	3.3	1.3	0.5
134	74	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0		▲黒炭			1.0	3.2	1.1	0.4
134	75	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成黒変		1.6	3.1	1.1	0.5
134	76	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					2.3	4.0	1.0	0.5
134	77	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		1.6	3.1	1.1	0.5
134	78	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					1.5	3.6	1.0	0.5
134	79	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.6	2.8	1.1	0.5
134	80	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.4	3.6	1.1	0.4
134	81	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					1.7	3.6	1.0	0.4
134	82	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.4	3.6	0.9	0.5
134	83	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.0	3.1	1.1	0.5
134	84	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成黒変		1.6	3.6	1.0	0.4
134	85	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		1.6	3.1	1.1	0.5
134	86	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.0	3.5	1.1	0.5
134	87	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.0	3.1	1.1	0.4
134	88	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭			1.2	3.3	1.1	0.4
134	89	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.2	3.1	0.9	0.6
134	90	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			生成		1.4	3.6	1.1	0.4
134	91	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					2.0	4.0	1.1	0.6
134	92	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			生成		1.7	4.1	1.1	0.6
134	93	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.2	4.1	1.1	0.5
134	94	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			生成		1.2	3.1	1.0	0.4
134	95	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		2.1	4.1	1.2	0.5
134	96	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		1.9	3.2	1.2	0.5
134	97	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	生成		2.3	3.9	1.1	0.4
134	98	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-52	chert	有/0					2.7	4.0	1.1	0.7
134	99	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.6	3.9	1.1	0.4
134	100	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭			1.7	3.8	1.1	0.5
134	101	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成黒変		2.3	3.4	1.2	0.7
134	102	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			生成		2.1	4.1	1.1	0.6
134	103	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			2.2	3.7	1.0	0.7
134	104	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					1.4	3.7	1.2	0.4
134	105	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					1.4	3.7	1.2	0.5
134	106	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成		2.2	3.5	1.0	0.7
134	107	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		1.8	3.5	1.0	0.7
134	108	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		1.6	4.2	1.1	0.3
134	109	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-52	ch	有/0		▲黒炭	生成		1.8	4.4	1.2	0.5
134	110	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	生成		1.5	4.6	1.1	0.4
134	111	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		1.4	4.5	1.1	0.3
134	112	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		1.5	4.0	1.1	0.5
134	113	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		1.0	4.1	0.9	0.3
134	114	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成黒変		2.2	4.0	1.2	0.6
134	115	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成		2.6	4.1	1.2	0.6
134	116	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	flint	有/0			生成黒変		2.1	3.7	1.1	0.6
134	117	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			黒炭		2.2	3.7	1.1	0.5
134	118	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	chert	有/0					2.4	3.8	1.2	0.5
134	119	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		2.5	4.1	1.1	0.6
134	120	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		2.2	3.9	1.1	0.6
134	121	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0					3.3	4.5	1.2	0.7
134	122	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭			3.9	4.5	1.2	0.6
134	123	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0			黒炭		0.6	2.1	1.0	0.3
134	124	Ａ１	焼ｴﾘNo.2	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.9	3.8	1.0	0.4
134	125	Ａ１	焼ｴﾘNo.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.8	3.1	1.1	0.7
134	126	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					2.0	3.9	1.1	0.6
134	127	Ａ１	焼ｴﾘNo.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					2.7	4.0	1.2	0.7
135	128	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0		▲黒炭			2.7	5.5	1.4	0.5
135	129	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					1.6	3.6	1.0	0.6
135	130	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成		3.1	4.9	1.1	0.6
135	131	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					2.1	3.7	1.2	0.6
135	132	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	chert	有/0					1.6	3.0	1.1	0.4
135	133	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		1.6	4.9	1.1	0.6
135	134	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					2.3	4.8	1.1	0.7
135	135	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成黒変		1.9	4.1	1.1	0.3
135	137	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0					3.9	5.5	1.2	0.7
135	138	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53/54	ch	有/0					2.5	3.9	1.1	0.5
135	139	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	焼層1	最Ｇ-53	ch	有/0			生成		0.9	2.6	1.1	0.4
135	140	Ａ１	焼ｴﾘNo.3	焼層1	最Ｇ-53/54	ch	有/0		▲黒炭	黒炭		0.9	3.1	1.1	0.3
135	141	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	ch	有/0			黒炭		1.1	2.2	1.1	0.4
135	142	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	ch	有/0		▲黒炭	生成		0.8	2.5	1.0	0.4
135	143	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	ch	有/0					0.5	2.1	1.1	0.5
135	144	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	dyr	有/0					0.5	2.1	1.1	0.3
135	145	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-52	ch	有/0			黒炭	ホンド	2.1	4.6	1.1	0.5
135	146	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				焼面黒変黒変1	3.3	4.1	1.0	0.5
135	147	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	3.3	3.1	1.0	0.5
135	148	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成	後期土器底の縁不明瞭	0.8	2.2	1.0	0.4
135	149	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	2.0	3.1	1.0	0.5
135	150	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭		後期土器底の縁不明瞭	1.9	3.1	1.0	0.5
135	151	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0	擦痕			石器に転用	0.7	2.5	1.1	0.5
135	152	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成	後期土器底の縁不明瞭	1.2	2.1	1.1	0.4
135	153	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	1.9	3.5	0.9	0.5
135	154	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	1.1	3.5	1.1	0.3
135	155	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					1.9	3.5	1.1	0.7
135	156	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	1.5	3.1	1.1	0.3
135	157	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	1.5	3.1	1.1	0.3
135	158	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-54	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	3.4	3.1	0.9	0.7
135	159	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成	後期土器底の縁不明瞭	2.3	3.1	1.1	0.7
135	160	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	2.3	4.2	1.1	0.7
135	161	Ａ１	ピット75No.3	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	2.3	4.1	1.1	0.6
135	162	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0				後期土器底の縁不明瞭	2.3	4.1	1.1	0.6
135	163	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	chert	有/0				後期土器底の縁不明瞭	3.0	4.1	1.1	0.6
135	164	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-52	ch	有/0			生成	後期土器底の縁不明瞭	1.5	2.5	1.2	0.6
135	165	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0		▲黒炭			0.7	2.6	0.9	0.4
135	166	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成黒変		1.1	2.1	1.1	0.3
135	167	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		0.8	2.9	1.1	0.4
135	168	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					0.8	2.1	1.1	0.4
135	169	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			白黒		1.1	2.1	1.1	0.4
135	170	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.0	2.1	1.1	0.4
135	171	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.1	3.0	1.1	0.4
135	172	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0					1.1	3.0	1.1	0.5
135	173	Ａ１	焼ｴﾘNo.1	Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		1.1	2.1	1.1	0.4
135	174	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0					1.4	2.5	1.1	0.4
135	175	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			黒炭		1.1	3.1	1.0	0.4
135	176	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-53	ch	有/0			生成		1.1	3.1	1.1	0.4
135	177	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｇ-53	ch	有/0			黒炭		1.4	3.2	1.2	0.5
135	178	Ａ１		Ⅵ2-Ｂ	最Ｆ-54	ch	有/0			生成	短側辺の剥離	1.1	2.5	1.1	0.5
135	179	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		2.1	3.5	1.1	0.5
135	180	Ａ１		焼層1	最Ｇ-54	ch	有/0			生成		1.5	2.6	1.1	0.6

表2　石器・石製品観察表（4）

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
135	181	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製				石製品	1.1	3.1	1.0	0.3
135	182	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製		★基部	基部		1.0	2.4	1.0	0.3
135	183	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製		★基部			1.0	2.5	0.7	0.4
136	184	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製				縁状に近い形態	1.0	3.5	0.7	0.4
136	185	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製		★基部	先端		1.1	2.9	1.0	0.3
136	186	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端		1.5	2.4	1.3	0.5
136	187	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製				縁状に近い形態	0.8	2.1	0.8	0.4
136	188	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端		1.1	2.7	1.0	0.3
136	189	Ab		区2-8	縄文-53	chbit	剥製					2.4	3.5	1.4	0.6
136	190	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製					1.6	4.1	1.1	0.4
136	191	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製		★基部	先端		1.9	4.0	1.1	0.6
136	192	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製				刻線子	2.9	4.9	1.1	0.6
136	193	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製					2.9	4.1	1.1	0.6
136	194	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製					3.1	4.4	1.1	0.6
136	195	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製					3.9	5.1	1.4	0.7
136	196	Aa	欠番No.5	区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端		3.1	5.7	1.6	0.7
136	197	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製				欠損品	3.6	5.4	1.6	0.5
136	198	Ab		区2-8	縄文-53	ch	剥製			基部	欠損品	3.4	5.1	1.6	0.7
136	199	Ac		区2-8	縄文-53	ch	剥製					3.1	3.9	1.6	0.6
136	200	Ad	欠番No.5	区2-8	縄文-54	ch	剥製			先端		3.3	4.5	1.6	0.7
136	201	Ad		区2-8	縄文-53	ch	剥製					4.6	5.0	1.8	0.9
136	202	Ad		区2-8	縄文-53	ch	剥製					4.1	3.4	1.7	0.7
136	203	Ac		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端基部		1.5	2.4	0.9	0.7
136	204	Aa		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端基部		0.7	2.2	1.1	0.3
136	205	Ac		区2-8	縄文-54	ch	剥製			基部		0.7	2.4	1.1	0.3
136	206	Ac	欠番No.5	区2-8	縄文-54	ch	剥製			先端		1.1	3.0	1.1	0.3
136	207	Ac	カイ7No.3	区2-8	縄文-53	ch	剥製			基部		2.6	3.3	1.4	0.6
136	208	Ac		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端基部		1.1	2.6	1.1	0.4
136	209	Ac		区2-8	縄文-53	ch	剥製			基部		1.0	2.6	0.9	0.6
136	210	Ac		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端基部		2.0	2.8	1.4	0.5
136	211	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製			先端		1.2	2.8	1.1	0.4
136	212	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製					4.1	3.1	1.7	0.7
136	213	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製					9.3	6.2	1.9	0.8
136	214	Ar		区2-8	縄文-54	ch	剥製					8.4	4.6	1.8	1.0
136	215	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製					1.1	2.5	1.0	0.6
136	216	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製					5.4	3.6	1.9	0.9
136	217	Ar		区2-8	縄文-53	ch	剥製					1.7	2.5	1.6	0.5
136	218	B		区2-8	縄文-53	ch						23.1	7.4	3.2	1.5
136	219	B		区2-8	縄文-53	ch						33.8	8.1	3.4	1.7
137	220	Ga		区2-8	縄文-54	ch				錐部		5.7	3.4	1.5	0.9
137	221	Ga		区2-8	縄文-53	ch						7.6	6.1	1.9	0.8
137	222	Ga		区2-8	縄文-53	ch						16.7	5.9	3.4	1.3
137	223	Ga	★41	区2-8	縄文-53	ch			★基部			8.1	4.9	2.3	0.9
137	224	Ga		区2-8	縄文-53	ch				錐部		8.2	4.6	1.8	1.7
137	225	Ga	欠番No.1	区2-8	縄文-53	ch						7.1	3.8	1.7	0.9
137	226	Ga		区2-8	縄文-53	ch				先端		3.5	4.6	1.3	1.0
137	227	Ga		区2-8	縄文-53	ch				錐部		6.8	4.3	2.4	1.0
137	228	Ga		区2-8	縄文-53	ch				錐部		4.7	3.6	1.3	0.5
137	229	Ga		区2-8	縄文-53	ch		摩滅				5.7	4.4	1.6	0.8
137	230	Ga	欠番No.2	区2-8	縄文-54	ch				錐部		7.8	4.9	2.0	1.1
137	231	Ch		区2-8	縄文-53	ch						6.1	4.4	1.9	1.0
137	232	Ch		区2-8	縄文-53	chsl					小形石斧	1.3	2.0	0.8	0.3
137	233	Ch		区2-8	縄文-53	ch					両端磨製	1.9	2.9	1.0	0.5
137	234	Ch		区2-8	縄文-53	ch						1.1	2.2	0.9	0.4
137	235	Ch		区2-8	縄文-53	chsl						1.1	2.0	1.2	0.3
137	236	Ch		区2-8	縄文-54	ch						1.1	2.1	0.9	0.7
137	237	Ch	欠番	区2-8	縄文-54	ch						2.9	3.7	0.9	0.7
137	238	Ch		区2-8	縄文-53	ch						3.3	3.4	1.1	0.8
137	239	Ch		区2-8	縄文-54	ch						4.3	3.1	1.1	0.8
137	240	Ch		区2-8	縄文-53	ch						3.4	3.6	1.1	0.8
137	241	Ch		区2-8	縄文-53	ch						1.2	3.3	1.0	0.7
137	242	Ec	欠番No.1	区2-8	縄文-54	ch			焼土跡内		焼石面利用の錐部	3.3	3.5	1.4	1.0
137	243	Ec		区2-8	縄文-54	ch			焼土跡内		焼石面利用の錐部	2.9	3.3	1.6	0.6
137	244	Ec		区2-8	縄文-53	ch				錐部		4.1	3.1	1.7	1.0
137	245	Ec	カイ7No.3	区2-8	縄文-53	ch				錐部		3.4	3.6	1.4	0.5
137	246	Ec		区2-8	縄文-53	ch						4.3	2.7	1.3	1.0
137	247	Ec		区2-8	縄文-53	ch					二側辺の凸状面加工	3.9	3.5	1.5	0.6
137	248	B		区2-8	縄文-53	ch	両面				刻目	26.7	7.0	3.1	1.4
138	249	B	カイ7No.2	区2-8	縄文-53	ch	両面				短く粗い	24.6	8.5	3.1	1.7
138	250	B	カイ7No.2	区2-8	縄文-54	ch	両面					22.2	4.7	3.1	1.4
138	251	B		区2-8	縄文-54	ch	両面					42.5	6.6	3.5	1.9
138	252	B	カイ7No.3	区2-8	縄文-53	ch	両面					36.1	8.5	3.7	1.1
138	253	B		区2-8	縄文-53	ch	両面					23.4	6.9	2.6	1.9
138	254	F	カイ7No.2	区2-8	縄文-53	ch				刃部		10.9	4.8	2.1	1.9
138	255	Aa	欠番No.5	区2-8	縄文-53	ch						4.4	5.1	1.9	0.8
138	256	Ga1	欠番No.5	区2-8	縄文-54	chms	反打面					40.9	7.0	4.3	1.3
138	257	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	片面					38.4	6.0	4.1	1.3
138	258	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	片面/剥離				急角度加工	7.7	3.5	1.6	1.1
138	259	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	反打面					18.4	6.7	3.1	1.0
138	260	Ga2		区2-8	縄文-53	ch	反打面				急角度加工	7.2	3.1	2.3	1.0
138	261	Ga2		区2-8	縄文-53	ch	裏刃		ml			6.4	3.5	1.5	1.0
138	262	Ga2	欠番No.1	区2-8	縄文-53	ch	両面					3.7	3.9	1.6	0.6
138	263	Ga2	カイ7No.3	区2-8	縄文-53	ch	両面					10.5	5.1	1.8	1.9
139	264	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	両面					47.3	6.6	5.5	1.2
139	265	Ga1	欠番No.1	区2-8	縄文-53	ch	両面					6.1	3.1	2.1	0.8
139	266	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	片面	光沢				45.5	7.4	5.5	1.6
139	267	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	両面				縁まわり部の剥離	40.3	10.4	3.6	1.6
139	268	Ga1	カイ7No.2	区2-8	縄文-53	ch	両面				石目3面	32.4	7.0	4.6	1.5
139	269	Ga1	カイ7No.3	区2-8	縄文-54	ch	両面				石目3面	66.4	9.1	4.0	2.0
139	270	Ga1		区2-8	縄文-54	ch	両面				縁まわり部の剥離	16.1	5.5	3.8	1.0
139	271	Ga1	カイ7No.2	欠番	縄文-53/54	ch	両面					26.3	5.9	4.4	1.0
139	272	Ga1	欠番No.2	区2-8	縄文-53	ch	裏刃		ml			14.8	5.9	3.4	0.8
139	273	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	裏刃		ml			14.9	5.9	3.4	1.2
139	274	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	裏刃		ml			9.4	5.1	2.8	1.9
139	275	Ga1	欠番No.2	欠番	縄文-53	ch	裏刃		ml		稜線	2.8	4.4	1.8	0.9
139	276	Ga1		区2-8	縄文-53	ch	裏刃				稜線	2.2	4.3	1.5	0.5
140	277	Ga		区2-8	縄文-54	ch	両面					15.1	5.2	6.1	1.0
140	278	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					7.4	4.6	2.1	0.8
140	279	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					33.9	6.1	5.0	1.0
140	280	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面			★腹まわ		17.0	6.0	4.0	1.0
140	281	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面			★腹まわ		12.5	6.4	4.4	0.9
140	282	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					12.3	5.1	3.7	1.0
140	283	Ga		区2-8	縄文-53	ch	片面				石斧品	3.1	2.3	1.8	0.6
140	284	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					26.1	5.9	5.1	1.0
140	285	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					8.8	4.1	3.4	0.6
140	286	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面			★腹まわ		32.0	7.1	5.1	1.1
140	287	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面			★腹まわ		12.5	3.8	4.8	1.0
140	288	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					28.4	5.6	6.1	1.0
141	289	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					37.2	5.9	6.6	1.3
141	290	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					32.6	6.1	6.3	1.6
141	291	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面			★腹まわ		41.4	6.5	7.3	1.6
141	292	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面				刃部一端	26.4	5.7	5.8	1.4
141	293	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					16.1	5.7	5.8	1.4
141	294	Ga		区2-8	縄文-53	ch	両面					16.9	6.0	5.1	1.1
141	295	Ga	カイ7No.3	区2-8	縄文-53	chms	両面					8.1	4.3	3.7	0.7
141	296	Fb		区2-8	縄文-53	ch	裏刃		ml		稜線	8.7	4.3	3.7	0.7
141	297	Gb2		区2-8	縄文-53	ch	片面			★左辺		14.6	6.6	2.9	1.1
141	298	Gb2		区2-8	縄文-53	ch	両面				反辺及腹部	10.6	6.6	3.2	1.4
141	299	Gb2		区2-8	縄文-53	ch	両面			★左辺		7.1	5.6	1.9	0.9

表２　石器・石製品観察表（５）

図版No.	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工痕跡	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
142	300	磨製石斧	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ch	研磨				左刃欠損?	25.2	6.0	3.1	1.4
142	301	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					9.4	3.0	2.1	0.7
142	302	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨	光沢				14.0	6.4	2.2	0.9
142	303	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					6.4	4.5	2.0	0.6
142	304	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					12.1	5.0	3.1	0.8
142	305	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					9.4	3.5	3.8	0.8
142	306	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					16.4	7.8	3.5	1.1
142	307	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨	光沢		末端		11.0	3.1	3.0	1.0
142	308	磨製石斧	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ch	研磨					11.2	4.8	2.8	0.8
142	309	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨				右刃欠損	9.3	4.8	2.4	0.9
142	310	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	刃潰し					38.9	6.9	4.1	1.6
142	311	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨	ad 線痕				12.2	4.1	1.9	1.6
142	312	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨	擦痕				24.0	6.1	4.0	0.8
142	313	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨					9.4	6.1	1.9	0.7
142	314	磨製石斧		第2層	第4-D-3	chm	研磨			打撃		10.6	3.4	3.3	0.9
142	315	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨	ad			刃部薄く調整	29.7	5.9	3.8	1.4
142	316	磨製石斧		第2層	第4-D-3	ch	研磨				末端敲痕加工	26.6	5.1	4.0	1.4
142	317	磨製石斧	ピット No. 3	第2層	第4-D-4	ch	研磨					12.0	4.0	2.5	1.1
142	318	磨製石斧	ピット No. 3	第2層	第4-D-4	ch	研磨					19.6	4.0	4.0	1.4
142	319	Qb3		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad+光沢				6.3	3.4	3.5	0.9
142	320	Qb3		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad				37.6	4.5	6.0	1.6
142	321	Qb3		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad			一対の敲打	11.5	6.5	3.5	0.9
142	322	Qb3		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad				34.4	4.0	5.5	1.3
142	323	k		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad+光沢				36.7	6.0	4.6	1.4
142	324	k		第2層	第4-D-3	ch	敲打	擦痕				67.1	7.7	5.1	3.1
142	325	k		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad				46.0	4.5	5.5	2.7
142	326	k	磨ｽﾗNo. 1	第2層	第4-D-2	ch	敲打	ad	4体部			41.4	4.6	5.7	1.6
142	327	k		第2層	第4-D-3	ch	敲打	ad				1.6	2.0	2.1	0.6
142	328	B		第2層	第4-D-4	ch						17.9	3.9	3.5	2.0
142	329	B		第2層	第4-D-4	ch						4.9	2.7	3.5	0.9
142	330	I	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ch	—	—			主剥ホ性剥片	18.0	6.4	3.2	1.1
142	331	I		第2層	第4-D-3	ch	—	—			剥片	5.0	3.1	2.5	0.9
142	332	I		第2層	第4-D-3	ch	—	—				14.8	4.1	2.7	1.1
142	333	I		第2層	第4-D-3	chal	—	—				47.1	5.9	3.6	3.2
142	334	I		第2層	第4-D-3	ch	—	—				30.7	5.2	3.8	2.0
142	335	L	磨ｽﾗNo. 1	第2層	第4-D-3	ch						75.1	5.9	4.2	3.6
142	336	L		第2層	第4-D-4	ch						69.0	3.9	4.6	3.6
142	337	L	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-4	ch						36.5	4.8	4.0	1.5
143	338	L		第2層	第4-D-3	ch						96.8	6.1	5.0	4.4
143	339	L		第2層	第4-D-4	ch						9.7	2.5	3.3	1.3
143	340	L		第2層	第4-D-4	ch						26.2	2.9	4.5	2.7
143	341	L		第2層	第4-D-4	ch						69.4	4.1	5.0	3.1
143	342	L	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-4	ch						19.4	2.8	2.1	1.9
143	343	L		第2層	第4-D-3	ch						15.3	2.9	2.1	2.6
143	344	Na		第2層	第4-D-3	ch	—	—				16.6	2.9	3.6	1.8
143	345	Na		第2層	第4-D-3	ch	—	—			礫面?	18.4	4.7	3.9	1.8
143	346	I	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-4	ch	—	—				28.0	2.5	4.1	1.5
143	1	O		第2層	第4-D-4	片岩	Pu+Pd+F				縁色片剥離	40.5	6.8	3.1	1.5
143	2	O		第2層	第4-D-4	ch	Pu+Pd			刃部	表打撃角度大	117.6	10.4	4.6	2.2
143	3	O		第2層	第4-D-4	ch	Pu+Pd			刃部	表裏平剥片	34.7	5.7	3.6	1.6
143	4	Ia		第2層	第4-D-4	chal	—	—		側面		109.8	9.0	7.5	1.9
143	5	S		第2層	第4-D-3	ad	F1	Pu2		縁部		107.9	6.2	8.0	3.1
143	6	P		第2層	第4-D-3	ad	F1	Pu2		縁部		537.7	11.6	8.9	2.9
143	7	P	ピット No. 3	第2層	第4-D-3/4	ad	F1	Pu2				224.6	9.4	8.0	3.9
143	8	S		第2層	第4-D-3	ad	F1	Pu2				306.6	11.8	7.6	3.5
143	9	I		第2層	第4-D-3	chm	Pu+F1	擦痕				66.8	12.0	3.1	2.1
143	10	Qa		第2層	第4-D-3	ad	Q1	L+Tu+1				265.3	10.7	5.7	4.2
143	11	Qa		第2層	第4-D-3	ad	Q1	L+Tu+1				218.8	9.2	6.3	4.1
143	12	Qa	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ad	Q1	L+Tu				365.5	10.4	6.5	5.9
143	13	Qa		第2層	第4-D-3	cuff	Q1	L+Tu				235.1	11.1	6.4	4.2
143	14	Qa		第2層	第4-D-3	ad	Q1	L+Tu		縁部		161.2	6.9	6.9	3.6
143	15	Qa		第2層	第4-D-4	ad	Q1	L+Tu				236.7	12.1	6.0	4.6
143	16	Qc		第2層	第4-D-3	ch	Q1	Pu		側面		136.4	5.0	5.6	4.2
143	17	Qc		第2層	第4-D-3	ch	Q1	Pu				71.0	4.7	4.1	3.3
143	18	Qc		第2層	第4-D-3	chl	Q1	Pu				96.6	4.7	4.1	3.8
143	19	Qc		第2層	第4-D-3	chl	Q1	Pu				81.7	5.1	4.1	3.9
143	20	Qc		第2層	第4-D-3	ad	Q1	Pu				73.4	4.5	4.3	2.7
143	21	Qb	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ad	Q1	Pu+F			表裏平	1,100.0	15.8	10.0	5.7
143	22	Qb		第2層	第4-D-4	ad	Q1	Pu+F				1,101.9	9.3	10.5	12.3
143	23	Qb	ピット No. 3	第2層	第4-D-4	ad	Q1	Pu+Pa				808.1	11.1	10.0	5.1
143	24	B	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-3	ch	F1				鈍りトン	93.7	4.9	5.0	3.8
143	25	B	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ch	F1					44.1	3.9	4.1	2.3
143	26	Ta1		第2層	第4-D-3	ad	Pu	Pa,B	工種痕跡	縁部	裏面に縁部及び左側に部ラ	1,020.1	16.6	15.1	4.9
143	27	Ta1	ピット No. 3	第2層	第4-D-4	ad	Pu	Pa,B		縁部	表右裏の右材	533.3	8.9	12.9	6.4
143	28	Ta		第2層	第4-D-4	ad	Pu	Pa+F				86.3	5.9	3.3	2.3
143	29	Ta		第2層	第4-D-3	chl	Pu+F					48.5	6.7	4.3	1.5
143	30	S		第2層	第4-D-4	ad	Pu				表裏角度に研磨	42.3	5.1	3.1	1.5
143	31	S		第2層	第4-D-4	cuff	Pu					180.3	13.1	4.1	2.0
143	32	S		第2層	第4-D-4	ad	F1				大刃の敲打?	721.0	10.1	10.1	4.1
143	33	S		第2層	第4-D-4	ad	F1				大刃の敲打?	1,022.9	12.3	11.7	6.6
143	34	Zd		第2層	第4-D-3	ad	Pu+F1	—				38.7	4.6	3.1	1.1
143	35	Zd		第2層	第4-D-3	ad	Pu+F1	—				200.4	5.1	5.7	2.6
143	36	Zd		第2層	第4-D-3	ad	Pu+F1	—				102.8	6.5	5.7	2.1
143	37	Zd		第2層	第4-D-3	ad	Pu+F1	—				172.6	6.4	6.0	2.6
143	38	Zd	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	ad	Pu+F1	—			側面に縁部裏	268.8	8.1	8.1	2.7
143	39	Zd		第2層	第4-D-4	chl	Pu+Pa	—		縁部	横鉄分	235.1	9.5	5.7	5.3
143	40	Zb2		第2層	第4-D-3	ch	—	—		刃部		57.8	5.0	2.6	2.1
143	41	Zc	23	第2層	第4-D-3	ad	—	—		刃部		168.4	10.6	5.2	3.8
143	42	Zc		第2層	第4-D-3	ch	Pu	—		縁部		34.1	4.9	2.8	1.0
143	43	Zc		第2層	第4-D-3	clm	Pu	—		刃部		31.5	11.0	3.6	1.4
143	44	Zc		第2層	第4-D-3	ad	—	—			表裏平剥離面	37.5	5.8	4.2	1.1
143	45	Zc		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—			右側辺	8.3	3.6	2.0	1.9
143	46	Zc		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—		刃部	左側辺	16.8	3.1	4.4	1.9
143	47	Zc		第2層	第4-D-3	ad	—	—			右側辺	33.9	4.1	4.3	2.5
143	48	Zc		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—		縁部	表裏面	3.4	1.9	1.1	0.6
143	49	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				6.1	2.1	1.1	0.6
143	50	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.4	2.7	0.6	0.4
143	51	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.8	0.6	0.4
143	52	Zc2	ピット No. 3	第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.5	2.6	0.6	0.4
143	53	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.9	2.7	0.7	0.4
143	54	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.1	2.6	0.6	0.4
143	55	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.5	2.6	0.6	0.4
143	56	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	57	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	58	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	59	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	60	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	61	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	62	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	63	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	64	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	65	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	66	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	67	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	68	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	69	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	70	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	71	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	72	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	73	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	74	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	75	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	76	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	77	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	78	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	79	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	80	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	81	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	82	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	83	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	84	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	85	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	86	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	87	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	88	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	89	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	90	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	91	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	92	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	93	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	94	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	95	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	96	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	97	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	98	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	99	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	100	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	101	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	102	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	103	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	104	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	105	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	106	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	107	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	108	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	109	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	110	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	111	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	112	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	113	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	114	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	115	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	116	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	117	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	118	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	119	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	120	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	121	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	122	Zc2	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	123	Zc2	磨ｽﾗNo. 2	第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	124	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—		縁部		9.3	2.6	0.6	0.4
143	125	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	126	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	127	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	128	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	129	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	130	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	131	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	132	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	133	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	134	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	135	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	136	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	137	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	138	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	139	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	140	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	141	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	142	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	143	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	144	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	145	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	146	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	147	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	148	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	149	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	150	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	151	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	152	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	153	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	154	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	155	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	156	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	157	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	158	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	159	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	160	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	161	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	162	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	163	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	164	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	165	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	166	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	167	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	168	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	169	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	170	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	171	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	172	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	173	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	174	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	175	Zc2		第2層	第4-D-3	cuff	Pu	—				9.3	2.6	0.6	0.4
143	176	Zc2		第2層

表2　石器・石製品観察表(6)

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	破損部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
158	37	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—		頭部		1.2	1.3	1.3	0.6
158	38	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—		頭部		1.7	1.5	1.5	0.8
158	39	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.5	0.8	0.8	0.2
158	39	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.5	1.0	1.0	0.7
158	39	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.4	0.8	0.8	0.3
158	41	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.3	0.8	0.8	0.4
158	42	Zp2		SZ2-8	撹C-54	tuffz	dr2	—				0.3	0.8	0.8	0.3
158	43	Zp2	?-37	SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				1.1	1.1	1.1	0.8
158	44	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				1.4	1.4	1.4	0.6
158	45	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.6	1.0	1.0	0.7
158	46	Zp2		SZ2-8	撹C-54	tuffz	dr2	—				1.0	1.0	1.0	0.4
158	47	Zp2		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—				0.5	1.1	0.9	0.3
158	48	Zp4	?-41	撹層	撹C-53	tuffz	dr1	—				0.5	1.3	1.2	0.6
158	49	Zp4B		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—			穿孔途中	0.4	0.8	0.9	0.3
158	50	Zp4B	欠No.1	SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr	—			穿孔途中	1.1	1.1	1.1	0.6
158	51	Zp4B		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr	—			穿孔途中	1.4	1.4	1.3	0.9
158	52	Zp4B		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr	—			穿孔途中	1.6	1.3	1.2	0.8
158	53	Zp6		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr2	—		先		0.3	0.8	0.8	0.2
158	54	Zp6		SZ2-8	撹C-53	ind	dr2	—		先		0.1	0.6	0.6	0.9
158	55	Zp6		SZ2-8	撹C-53	tuffz	dr1	—		先		2.8	2.0	0.8	2.0
158	56	Zp8B		SZ2-8	撹C-53	tuffz	Pn	—				0.6	1.2	0.8	0.7
158	57	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				0.8	1.1	1.0	1.3
158	58	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				2.7	1.6	1.0	0.8
158	59	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				0.3	1.0	0.8	0.5
158	60	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				1.6	1.1	1.3	0.6
158	61	Zp99		SZ2-8	撹C-54	tuffz	—	—				1.1	1.1	1.0	0.8
158	62	Zp99	欠No.2	SZ2-8	撹C-54	tuffz	—	—				1.7	1.1	1.1	1.0
158	63	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				2.1	1.1	1.1	1.1
158	64	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				4.1	1.9	1.5	1.1
158	65	Zp99		SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				1.4	1.4	1.0	0.7
158	66	Zp99	欠No.1	SZ2-8	撹C-53	tuffz	—	—				0.3	1.0	0.8	0.2
158	67	Zp99		SZ2-8	撹C-54	tuffz	—	—				13.7	3.6	1.4	3.1
158	68	Zp99		SZ2-8	撹C-54	tuffz	—	—				13.6	4.5	1.7	1.6
158	69	X		SZ2-8	撹C-54	chal	—	—				11.6	3.2	3.0	1.2
158	70	X		SZ2-8	撹C-54	chal	—	—				5.3	2.5	1.9	0.7
158	71	X		SZ2-8	撹C-54	chal	—	—				7.0	3.4	1.7	1.3
158	72	X		SZ2-8	撹C-54	mud	—	—				1.7	1.7	1.4	0.7
159	1	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片			a基部			4.5	7.1	1.2	0.6
159	2	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片			a基部	基端		3.5	4.9	1.1	0.7
159	3	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片				先端		2.2	4.1	1.1	0.6
159	4	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片						1.4	4.1	1.1	0.4
159	5	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片						1.0	3.1	1.1	0.4
159	6	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	frags	剥片						1.5	3.4	1.1	0.4
159	7	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh	剥片						1.1	3.3	0.9	0.5
159	8	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片				先端		2.1	3.6	1.1	0.5
159	9	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片					右側平	2.1	4.0	0.9	0.5
159	10	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片						2.3	3.4	1.1	0.4
159	11	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片				基部		1.8	3.8	1.1	0.7
159	12	Aa	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	剥片				基部		1.5	4.4	1.1	0.4
159	13	Ca	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							2.3	3.1	1.1	0.9
159	14	Ca	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							2.3	3.4	1.1	0.4
159	15	Ca	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							4.0	4.1	1.6	0.6
159	16	Fg1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整			a腹面ﾌﾚｰﾑ			11.9	6.0	3.4	1.1
159	17	Fb	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整						38.2	6.4	2.9	1.4
159	18	Ga2	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	石刃面						13.5	4.3	3.1	
159	19	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整						13.1	4.3	3.1	1.8
159	20	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整						13.1	5.3	5.2	0.9
159	21	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹C-53	sh	調整				末端		7.3	3.7	3.5	0.9
159	22	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹C-53	sh	調整						4.5	6.9	2.6	0.7
159	23	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整				末端		13.5	5.7	2.4	1.1
159	24	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整				末端		5.5	5.2	1.9	0.7
159	25	Gb1	ﾁｬｰﾄ	撹B-53	sh	調整						22.9	6.5	3.3	1.1
159	26	Ga	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							19.1	4.3	3.9	1.4
159	27	L	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							46.4	8.4	5.1	2.1
159	28	L	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							105.4	8.6	6.9	3.7
159	29	L	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	sh							46.1	7.3	5.1	2.1
159	30	Za6	ﾁｬｰﾄ	撹C-54	tuff						有孔石製品、自然礫1つ	65.5	5.6	5.1	1.6
169	1	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片			基部		1.6	4.1	1.1	0.5
169	2	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					3.1	3.7	1.1	0.7
169	3	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片					2.4	3.7	1.1	0.7
169	4	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片			基部		2.6	3.7	1.0	0.6
169	5	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片			先端		2.2	3.4	1.1	0.5
169	6	Aia	先行ﾌﾚｰﾑ	SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					1.5	3.9	1.1	0.4
169	7	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					1.9	3.6	1.2	0.3
169	8	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片			先端		1.1	3.1	1.1	0.4
169	9	Aia	先行ﾌﾚｰﾑ	SZ2-6	撹B-53	sh	剥片				左右背面形	1.4	3.1	1.0	0.4
169	10	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片			先端		0.4	2.4	1.0	0.4
169	11	Aia	欠No.2	SZ2-6	撹C-53	sh	剥片					2.2	3.5	1.6	0.5
169	12	Aia		SZ2-6	撹C-53	sh	剥片			先端基部		0.6	2.1	1.0	0.3
169	13	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片			先端		1.8	3.5	1.4	0.6
169	14	Aia		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片			先端		1.1	2.9	1.1	0.4
169	15	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片					1.8	3.9	1.5	0.6
169	16	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片			a基部		1.3	3.9	1.1	0.6
169	17	Aia		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片			a基部		1.1	2.9	1.0	0.5
169	18	Aia	ﾁｬｰﾄNo.3	SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					1.1	2.6	1.1	0.5
169	19	Aia	ﾁｬｰﾄNo.3	SZ2-6	撹B-54	sh	剥片			a基部	先端	1.2	2.5	1.1	0.5
169	20	Aia		SZ2-6	撹B-54	sh	剥片					1.0	2.2	1.1	0.6
169	21	Aia	人式ﾌﾚｰﾑ	SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					0.8	2.6	0.9	0.4
169	22	Aia	先行ﾌﾚｰﾑ	SZ2-4	撹B-56	sh	剥片					0.6	2.6	1.1	0.4
169	23	Aia	先行ﾌﾚｰﾑ	SZ2-4	撹B-55	sh	剥片					1.0	3.0	1.1	0.4
169	24	Aia		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片			先端		1.1	3.1	1.1	0.4
169	25	Aia		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片			先端		2.1	4.0	1.5	0.6
169	26	Aia		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片		a基部	基部		2.1	3.9	1.3	0.4
169	27	Aia	土器内	SZ2-4	撹B-56	sh	剥片		a基部	基部		1.1	3.4	1.2	0.5
169	28	Aia		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片			先端		2.1	3.5	1.1	0.5
169	29	Aia		SZ2-02	撹B-56	sh	剥片		a基部			1.4	3.5	1.2	0.4
169	30	Aia		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片					1.3	3.4	1.1	0.4
169	31	Aib		SZ2-9	撹C-53	sh	剥片		a基部			0.9	2.9	1.1	0.4
169	32	Aib		SZ2-9	撹B-53	sh	剥片					1.1	3.1	1.1	0.4
169	33	Aib		SZ2-9	撹B-53	sh	剥片					2.1	3.6	1.5	0.5
169	34	Aib		SZ2-9	撹B-53	sh	剥片		a基部	基部		1.1	3.1	1.1	0.4
169	35	Aib		SZ2-9	撹B-54	sh	剥片		a基部	基部		1.1	3.7	1.1	0.6
169	36	Aib		SZ2-9	撹B-54	sh	剥片			基部		1.1	3.7	1.1	0.4
169	37	Aib		SZ2-9	撹B-56	sh	剥片					2.1	4.3	1.1	0.5
169	38	Aib		SZ2-9	撹C-54	sh	剥片					1.1	3.1	1.1	0.4
169	39	Aib	ﾁｬｰﾄNo.2	SZ2-9	撹B-57	sh	剥片			先端		1.6	3.9	1.0	0.5
169	40	Aib	ﾁｬｰﾄNo.2	SZ2-9	撹B-56	sh	剥片			先端		4.1	3.9	1.1	0.6
169	41	Aib		SZ2-4	撹B-56	sh	剥片					1.8	3.5	1.1	0.6
169	42	Aib	ﾁｬｰﾄNo.3	SZ2-4	撹B-56	sh	剥片			先端		1.1	3.1	1.1	0.4
169	43	Aib		SZ2-4	撹B-56	chal	剥片			先端	表裏に薄い 曲げ剥離	0.6	3.5	1.1	0.3
169	44	Aic		SZ2-02	撹B-56	sh	剥片			先端基部	たがね 剥離	0.1	2.6	1.6	0.4
169	45	Aa		SZ2-6	撹C-54	sh	剥片		a体部	先端		2.2	4.7	0.8	0.6
169	47	Aa	ﾁｬｰﾄNo.3	SZ2-6	撹B-54	sh	剥片			先端		1.9	3.1	1.0	0.5
169	48	Aa		SZ2-6	撹B-54	sh	剥片					1.8	3.1	1.0	0.2
169	49	Aa	欠No.3	SZ2-02	撹B-53	sh	剥片			先端		2.8	3.1	1.4	0.6
169	50	Aa		SZ2-6	撹B-53	sh	剥片					2.5	3.1	1.1	0.2
169	51	Aa		SZ2-6	撹B-54	sh	剥片					2.9	3.1	1.4	0.8
169	52	Aa		SZ2-6	撹B-54	sh	剥片		a基部			2.1	4.0	1.1	0.6

表２　石器・石製品観察表（７）

図番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工痕跡	使用痕	付着物	被熱箇所	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
150	54	Au		SG-D1	第２層	ch	剥離			焼成		5.3	4.1	1.8	0.7
150	55	Au		SG-E4	第Ⅲ-54	ch	敲石					5.3	4.3	1.6	0.4
150	56	Au		SG-E4	第Ⅲ-54	chert	敲石			表面		5.6	4.1	1.5	0.7
150	56	Au		SG-E5	第Ⅲ-55	ch	敲石					5.1	3.5	1.3	1.0
150	57	Au		SG-E5	第Ⅲ-55	ch	敲石				左脚不明瞭	5.1	4.1	1.3	0.4
150	58	Au	ﾋﾞｰｽﾞ No. 3	SG-F	第Ⅲ-54	ch	敲石					7.8	3.2	1.4	0.6
150	59	Ad		SG-C	第Ⅲ-54	ch	敲石					7.4	3.5	0.8	0.6
150	60	Au		SG-E2	第Ⅲ-54	ch	敲石			表面		7.9	3.7	1.3	0.5
150	61	Au		SG-E3	第Ⅲ-54	ch	敲石			表面		7.6	3.4	1.4	0.8
150	62	Au	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F2	第Ⅲ-54	ch	敲石			表面		7.6	2.9	1.3	0.6
150	63	Au		SG-F9	第Ⅲ-54	ch	剥離					8.5	3.9	2.0	0.7
150	64	F		SG-E4	第Ⅲ-54	ch						10.2	4.1	2.4	1.1
150	65	E		SG-F4	第Ⅲ-56	ch						6.9	4.9	2.3	1.0
150	66	Ca	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-D	第Ⅲ-54	ch				焼成		5.3	3.5	1.9	1.0
150	67	Ca		SG-D1	第Ⅲ-54	ch				焼成		6.0	3.1	1.7	1.1
150	68	Ca		SG-D1	第Ⅲ-54	ch						7.7	3.6	2.1	1.1
150	69	Ca		SG-E	第Ⅲ-55	ch				焼成		10.9	4.3	3.4	2.3
150	70	Ca		SG-E	第Ⅲ-53	ch						10.5	3.8	3.3	0.9
150	71	Ca	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F4	第Ⅲ-55	ch				焼成		6.8	3.6	2.1	1.6
150	72	Ca		SG-F4	第Ⅲ-55	ch				焼成		5.1	3.9	1.6	0.7
150	73	Ch		SG-C	第Ⅲ-54	ch				焼成	石脚？	7.8	3.2	1.2	0.6
150	74	Ch		SG-D	第Ⅲ-54	ch					石脚？	2.3	1.9	1.4	0.7
150	75	Ch	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-E4	第Ⅲ-54	ch		擦痕				2.5	3.0	1.0	0.8
150	76	Ch		SG-G1	第２層	ch						3.7	2.5	0.8	0.9
150	77	Ch		SG-G2	第２層	ch						2.0	3.0	1.3	0.5
150	78	Ec		SG-G1	第２層	ch						3.1	2.2	1.1	0.9
150	79	E		SG	第２層	ch						10.9	4.1	3.9	0.9
150	80	E	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-D	第Ⅲ-54	ch				焼成		16.0	5.1	2.2	1.1
151	81	E	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第２層	ch						16.7	3.6	2.7	1.5
151	82	Fa1		SG-C	第Ⅲ-56	ch						19.1	5.8	5.5	1.5
151	83	Fa1		SG-D1	第Ⅲ-54	ch	摩滅		a 縁ふり			10.6	6.2	3.4	0.9
151	84	Fa1		SG-F3	第２層	ch	摩滅					10.2	5.9	2.5	0.8
151	85	Fa1		SG-D	第Ⅲ-55	ch	剥ｏｆｆ	ｂｆ			複製	3.5	4.1	1.7	0.7
151	86	Fa1		SG-E2	第Ⅲ-54	ch	剥ｏｆｆ	ｂｆ			複製	3.1	5.8	2.3	0.8
151	87	Fb		SG-D	第２層	ch	摩滅		a 縁ふり			20.5	6.1	6.1	1.0
151	88	Fb		SG-C	第Ⅲ-54	ch	摩滅			縁ふり		35.0	3.7	9.7	1.4
151	89	Fb		SG-D	第Ⅲ-54	ch	摩滅					36.8	4.2	8.7	1.7
151	90	Fb		SG-D1	第Ⅲ-59	ch	摩滅				為角度加工	35.1	4.0	6.8	1.6
151	91	Fb		SG-D3	第Ⅲ-53	chert	摩滅			縁ふり		8.6	3.1	4.3	1.1
151	92	Fb		SG-F3	第２層	ch	摩滅		a 縁ふり			31.4	5.5	5.3	1.4
151	93	Fb	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F	第Ⅲ-54	ch	摩滅		a 縁ふり			45.5	5.3	8.5	1.7
151	94	Fb	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F	第Ⅲ-54	ch	剥ｏｆｆ	ｂｆ			複製	6.4	3.4	4.4	0.7
151	95	Gn2		土器集中	第２層	ch	打撃／摩滅				為角度加工	13.1	5.6	3.1	1.1
151	96	Gn2		土器集中	第Ⅲ-55	ch	打撃				為角度加工	9.3	3.4	2.7	1.0
151	97	Gn3		SG-F	第Ⅲ-54	ch	摩滅			表面	縁欠け数？	9.9	5.3	1.9	1.1
151	98	Gn3		SG-F3	第Ⅲ-54	ch	摩滅			表面	平滑	13.1	5.6	3.1	1.0
151	99	Gn3		土器集中	第Ⅲ-53	ch	打撃					9.0	3.8	2.3	1.1
151	100	Gn3		土器集中	第Ⅲ-53	ch	剥ｏｆｆ	ｂｆ		表面		15.0	4.4	3.1	1.5
151	101	H		SG-E	第Ⅲ-54	ch					石脚？	12.6	4.1	2.1	1.5
151	102	I		SG-F2	第２層	ch	剥ｏｆｆ	ｂｆ				14.7	7.5	4.3	1.5
151	103	I		SG-C	第Ⅲ-54	ch				石脚？	石脚？	3.8	2.3	1.9	0.8
151	104	I		SG-E1	第Ⅲ-55	ch					石脚？	5.9	3.2	2.9	0.6
151	105	L		SG-F1	第Ⅲ-55	ch						8.1	4.7	4.7	3.4
151	106	L	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F	第Ⅲ-54	ch						10.5	4.5	4.5	3.9
151	107	L	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-E	第Ⅲ-53	ch						103.1	4.9	6.3	4.9
151	108	L	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-E2	第Ⅲ-54	ch						10.9	2.7	3.0	3.2
151	109	L	土器集中	SG-F	第Ⅲ-53	ch						30.5	2.7	3.0	3.2
151	110	L	土器集中	SG-F3	第Ⅲ-56	ch						120.1	5.4	6.3	5.4
151	111	L		SG-G1	第２層	ch						54.9	2.6	3.1	3.2
151	112	H		SG-F3	第Ⅲ-54	chert						21.7	2.0	2.4	1.7
151	113	L	土器集中	SG-D3	第Ⅲ-53	ch						15.6	2.1	4.3	1.9
151	114	L	土器集中	SG-D3	第Ⅲ-53	chert						104.2	5.8	5.1	6.1
151	115	L	土器集中	SG-D3	第Ⅲ-53	ch						71.1	2.9	5.7	4.5
151	116	L		SG-F3	第Ⅲ-54	chert						36.3	3.2	6.2	4.2
151	117	L	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第２層	ch						135.3	4.5	6.1	4.2
151	118	L	土器集中	SG-D3	第Ⅲ-53	ch						100.3	2.4	7.0	3.0
151	119	L	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第２層	ch						9.9	3.4	2.4	1.5
151	120	L	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-F3	第Ⅲ-54	ch						14.6	4.1	3.1	2.3
151	121	L	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-F3	第Ⅲ-54	ch						15.3	2.9	3.9	2.3
151	122	L		SG-F1	第Ⅲ-55	ch						100.3	3.6	7.8	2.6
151	123	L		SG-F4	第２層	ch						52.3	2.4	4.0	3.0
151	124	Ma		SG-F1	第２層	ch	—	—				30.7	3.4	3.5	2.7
151	125	Ma		SG-E1	第２層	ch	—	—				6.9	2.5	3.1	0.9
151	126	Ma		SG-G1	第２層	ch	—	—				5.9	3.2	2.0	0.8
151	127	X	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F3	第Ⅲ-54	ch	—	—			黒曜石の原石	43.9	5.7	3.7	2.1
151	128	X		SG-C4	第Ⅲ-54	ch	—	—			黒曜石の原石	66.1	5.2	5.3	3.7
151	129	X		土器集中	第Ⅲ-54	chert	—	—				121.1	6.4	7.2	3.1
151	130	X		土器集中	第Ⅲ-53	chert	—	—				124.8	4.0	6.3	2.9
151	131	X		土器集中	第Ⅲ-53	chert	—	—				30.3	4.5	3.4	2.1
151	1	O		SG	第２層	cla	Ｐｏ/Ｐｏ			平滑		17.4	6.4	5.2	0.8
151	2	O		SG-E6	第Ⅲ-55	chert	Ｐｏ/Ｐｏ			平滑		10.8	5.4	4.1	0.8
151	3	E		SG	第Ⅲ-55	ad	ｆｌ		a 抜型			36.8	3.9	5.7	1.5
151	4	E		SG	第Ⅲ-54	ad	ｆｌ	Ｐｏ/Ｐｏ				605.7	11.9	7.6	4.2
151	5	Qsh	土器集中	SG-D3	第Ⅲ-53	ａｓｈ	ｆｌ	ﾋﾞﾆﾙ/Ｐｏ-ａ			機能面不明瞭	661.7	11.7	8.4	4.5
151	6	Qc	土器集中	SG-F3	第Ⅲ-54	chert	ｆｌ	ﾋﾞｰﾄ			両刃ピケ？	491.3	12.8	7.4	3.5
151	7	Qh		SG-G2	第２層	ad	ｆｌ	ﾋﾞﾆﾙ				492.2	10.7	7.6	6.5
151	8	Qsh		SG	第２層	ad	ｆｌ	ﾋﾞｰﾄ/Ｐｏ-ｆ				494.9	6.9	7.6	6.3
151	9	Qsh		SG-C	第Ⅲ-54	ａｓｈ	ｆｌ	ﾋﾞｰﾄ			機能面不明瞭	1,264.9	14.0	6.6	6.9
151	10	Qsh	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-D	第Ⅲ-54	ａｓｈ	ｆｌ	ﾋﾞｰﾄ/Ｐｏ-ｆ			機能面不明瞭	186.1	8.1	5.4	2.6
151	11	R	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-D	第Ⅲ-54	ｔｕｆｆ	ｆｌ	Ｐｏ			不明瞭に抜け	251.1	11.3	6.1	5.6
151	12	Ta1		SG-E	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ	Ｐｏ/Ｐｏ		断片	表裏に別点	635.6	15.4	10.3	3.5
151	13	Ta1		SG-E1	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ	Ｐｏ/Ｐｏ			表裏に別点	1,031.1	11.6	12.7	7.6
151	14	Ta1	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ	Ｐｏ/Ｐｏ				1,411.6	11.3	19.5	7.1
151	15	Ta2		SG-E		ad		Ｐｏ/Ｐｏ		断片		1,125.7	21.9	15.1	3.9
151	16	Ta2		土器集中		chert		Ｐｏ/Ｐｏ		断片	表裏に別点、断面観察	2,376.8	16.0	15.4	5.2
151	1	Zc1		SG-E	第Ⅲ-53	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２					6.7	3.9	3.8	0.6
151	2	Zc2	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-D	第Ⅲ-53	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２					0.2	0.9	0.9	0.4
151	3	Zc2		SG-E	第Ⅲ-54	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２					0.3	0.9	0.8	0.4
151	4	Zc2	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F	第Ⅲ-53	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２					0.5	1.0	0.8	0.6
151	5	Zc2	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第Ⅲ-55	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２					0.4	0.9	0.7	0.3
151	6	Zc4	鑑ﾋﾞｰｽ No. 3	SG-F3	第Ⅲ-55	ｔｕｆｆａ	ｆｌ/２			被熱	生	7.8	2.6	3.0	1.5
151	7	Zc(B)			第Ⅲ-59	ｔｕｆｆａ						2.2	3.1	1.5	0.3
151	8	Zg		SG-G2	第Ⅲ-56	ｔｕｆｆ	Ｐｏ/光沢			被熱	入り組みスキーマ	7.7	2.9	1.5	0.9
151	9	Zc6		SG-F	第Ⅲ-56	ｔｕｆｆ	Ｐｏ			断片	下部欠損	2.0	1.5	1.2	0.5
180	1	Zf	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F4	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ/ｆｌ					125.7	6.7	5.4	5.4
180	2	Zf		SG-E	第Ⅲ-54	ad	Ｐｏ/ｆｌ					86.3	4.7	4.7	3.7
180	3	Zf		SG-E2	第Ⅲ-54	ad	Ｐｏ/ｆｌ					29.1	4.4	4.4	1.2
180	4	Zf	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-E1	第Ⅲ-54	ad	Ｐｏ/ｆｌ					107.8	7.1	6.8	2.7
180	5	Zf		SG-E1	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ/ｆｌ					98.8	4.6	5.4	2.5
180	6	Zf		SG-E1	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ/ｆｌ					63.5	5.0	5.5	2.1
180	7	Zf		SG-E4	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ/ｆｌ					48.6	6.3	3.1	1.9
180	8	Zf		SG-F3	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ/ｆｌ					64.7	5.1	4.7	1.9
180	9	Zf	土器内	SG-F5	第２層	ad	Ｐｏ/ｆｌ					105.3	5.2	5.9	2.9
180	10	Zf	鑑ﾋﾞｰｽ No. 4	SG-F2	第２層	ad	Ｐｏ/ｆｌ					107.1	6.0	4.9	3.7
180	11	Zf		SG-G	第２層	ad	Ｐｏ/ｆｌ					110.4	6.8	6.2	3.7
180	12	Za		SG-F3	第Ⅲ-55	ad	Ｐｏ				光沢	136.1	11.1	5.0	3.4
180	13	Zh3		SG-E	第Ⅲ-54	ｃｌａ	Ｐｏ			焼成断片	一度被の痕跡	30.1	7.8	4.0	1.2
180	14	Zh3		SG-F	第Ⅲ-54	ｃｌａ	Ｐｏ			断片		59.7	6.1	3.9	0.9
180	15	Zh(B)	ﾋｽﾌｧﾙﾄ?	SG-F4	第Ⅲ-54	ｃｌａ	Ｐｏ			断片		20.7	9.2	3.5	1.6

表2　石器・石製品観察表(8)

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
186	1	Ata		SZ2-B1	第3-26	ch	一次剥					1.7	2.4	1.4	0.4
186	2	Ata		SZ2-B3	第8-58	ch	一次剥		a.裏面		裏面不明瞭	1.7	2.4	1.4	0.5
186	3	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥			欠損		1.7	2.6	1.3	0.4
186	4	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	自然面			裏面		1.9	2.5	1.7	0.6
186	5	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	自然面					1.1	2.3	1.3	0.3
186	6	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥			欠損		0.9	2.5	1.3	0.4
186	7	Ata		SZ2-B3	第8-66	ch	一次剥		a.裏面	欠損		1.8	3.4	1.8	0.5
186	8	Ata		SZ2-B3	第8-32	ch	一次剥		a.裏面	欠損裏面		1.8	4.0	1.4	0.4
186	9	Ata		SZ2-B3	第8-32	ch	一次剥		a.裏面	裏面		2.8	3.8	1.5	0.8
186	10	Ata		SZ2-B3	第8-58	ch	一次剥				裏面敲打	2.8	3.6	1.5	0.8
186	11	Ata		SZ2-B3	第8-58	ch	一次剥			欠損裏面		2.3	3.1	1.5	0.6
186	12	Ata		SZ2-B3	第8-58	ch	一次剥		a.裏面	裏面		1.5	2.7	1.1	0.4
186	13	Ata		SZ2-B3	第3-26	ch	一次剥					2.1	4.0	1.1	0.6
186	14	Ata	横HT No.5	SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥					1.1	2.1	1.4	0.3
186	15	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥					1.4	2.8	1.4	0.4
186	16	Ata		SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥					1.1	2.5	1.4	0.4
186	17	Atc		SZ2-B2	第3-26	ch	自然面			左辺二箇所にピット状、両端ピット		0.9	2.2	1.4	0.4
186	18	Aa		SZ2-B1	第3-26	ch	一次剥		a.裏面	欠損	欠損西側ピット	2.3	4.3	1.8	0.5
186	19	Aa		SZ2-B3	第3-26	ch	一次剥			欠損		3.5	3.4	1.5	0.6
186	20	Aa		SZ2-B3	第8-30	ch	一次剥					3.2	3.8	1.5	0.8
186	21	Aa		SZ2-B2	第3-32	ch	一次剥					2.8	3.4	1.6	0.7
186	22	Aa		SZ2-B2	第3-26	ch	一次剥					1.1	2.1	1.3	0.3
186	23	Ac		SZ2-B2	第3-32	ch	一次剥			裏面		1.5	2.3	1.8	0.5
186	24	Ac		SZ2-B2	第3-32	ch	不明					2.1	2.6	1.3	0.6
186	25	Ac		SZ2-B2	第3-32	ch	一次剥			裏面		6.5	3.1	3.4	0.7
186	26	Ca		SZ2-B3	第8-58	ch						1.1	2.4	1.4	0.3
186	27	Ca		SZ2-B3	第8-30	chan						2.4	2.6	2.1	0.9
186	28	Ca		SZ2-B3	第3-26	ch				裏面		3.3	2.1	1.7	0.9
186	29	Ca		SZ2-B3	第3-61	ch						3.3	4.9	2.1	0.9
186	30	Cb	横HT No.3	SZ2-B2	第3-26	ch		擦痕				5.4	4.9	1.4	0.9
186	31	Cb		SZ2-B2	第3-26	ch				裏面		2.5	3.3	1.1	0.7
186	32	Cb		SZ2-B2	第3-26	ch					全形石器	6.1	2.5	1.4	0.8
186	33	Cb		SZ2-B2	第3-26	ch						1.3	2.9	0.8	0.4
186	34	Cb		SZ2-B2	第8-30	ch						2.3	3.1	0.8	0.9
186	35	Cb		SZ2-B2	第3-26	ch						2.2	2.9	1.1	0.7
186	36	Cb		SZ2-B3	第3-61	ch						1.4	2.2	0.8	0.5
186	37	Cb		SZ2-B3	第3-26	ch		擦痕				0.8	2.6	0.6	0.5
186	38	Cb		SZ2-B3	第3-26	chan						1.9	3.6	1.2	0.6
186	39	Cc		SZ2-B3	第3-60	ch						2.2	3.7	1.4	0.4
186	40	T	横HT No.6	SZ2-B2	第3-26	ch						52.5	9.9	5.3	1.9
186	41	T		SZ2-B2	第3-26	ch						19.0	6.5	3.4	1.4
186	42	T		SZ2-B3	第3-60	ch						11.0	5.3	2.5	1.4
187	43	Fa1		SZ2-B3	第8-30	ch	両端		a.体部	不明		9.1	4.4	3.1	0.8
187	44	Fa1		SZ2-B2	第3-26	ch	裏刃	ad				28.4	6.5	5.1	1.5
187	45	Fa1		SZ2-B3	第3-26	ch	裏刃	ad		不明		26.1	7.6	5.2	1.3
187	46	Fa1		SZ2-B3	第8-32	ch	裏刃	ad				8.5	4.5	2.3	0.9
187	47	Fb	ピット No.2	SZ2-B2	第3-26	ch	両面					13.8	3.2	4.8	1.0
187	48	Fb		SZ2-B2	第3-26	ch	両面		a.側面先			7.9	4.0	4.8	0.7
187	49	Gb1		SZ2-B2	第8-32	ch	両面					6.8	3.5	4.8	1.0
187	50	Gb1		SZ2-B2	第3-26	ch	片面			裏面周辺		14.5	6.1	3.9	1.4
187	51	I		SZ2-B2	第3-60	ch				片面		6.1	3.1	6.7	1.1
187	52	L		SZ2-B3	第8-26	ch						43.9	3.8	9.0	2.4
187	53	L		SZ2-B3	第8-30	ch				両端右縁平		45.4	4.1	8.0	2.9
187	54	L		SZ2-B3	第8-26	ch						24.9	3.3	3.9	2.2
187	55	L		SZ2-B2	第8-30	ch						8.5	3.6	2.1	1.2
187	56	L		SZ2-B2	第3-26	ch						20.4	5.1	3.4	1.7
187	57	Ba		SZ2-B2	第3-26	ch	—	—				2.5	2.8	2.4	0.9
188	58	L		SZ2-B3	第3-26	ch	—	—		裏面右1/3有		96.8	6.1	6.3	2.9
188	59	L		SZ2-B2	第3-26	ad	打			基部		35.9	6.1	5.3	1.5
188	60	L		SZ2-B3	第3-26	ad	打					8.8	3.5	3.1	1.1
188	61	D		SZ2-B3	第3-26	dri	Dr/Pr			基部		179.3	7.6	6.8	5.2
188	62	D		SZ2-B3	第3-26	dri	Dr/Pr			刃部		43.9	5.1	5.8	2.0
188	63	D		SZ2-B1	第3-26	ar	Dr/剥片			基部	安易式剥製石斧	75.6	4.9	4.3	2.7
188	64	Ga		SZ2-B2	第3-32	ad	裏刃	ad				464.4	10.6	15.3	3.4
188	65	Gb	横HT No.8	SZ2-B3	第8-32	ad	穿孔	k-Tr				202.3	7.6	8.3	4.6
188	66	Gb		SZ2-B3	第8-26	dri	穿孔	k-Tr				436.9	11.3	9.1	4.6
189	67	Gb		SZ2-B3	第8-61	ad	穿孔	k-Tr				1,038.1	21.4	10.8	7.1
189	68	Gb		SZ2-B3	第8-61	dri	穿孔	k-Tr				348.5	10.6	6.7	4.3
189	69	Gc		SZ2-B1	第3-26	ch	穿孔	Pr				85.5	5.5	5.6	3.6
189	70	Gc		SZ2-B2	第3-26	ad	穿孔	Pr				29.4	3.3	3.3	1.1
189	71	Ta1		SZ2-B3	第8-58	ad	Dr	Dr,B	擦痕	L字状2箇所一箇所		436.2	13.1	10.2	4.9
189	72	Ta1		SZ2-B3	第8-58	ad	Dr	Dr,B	擦痕	L字状2箇所一箇所		612.9	16.1	11.4	4.7
189	73	Ta2		SZ2-B3	第8-26	ad		Dr,D	擦痕			746.7	20.0	11.6	6.2
189	74	Ta2		SZ2-B3	第8-32	ad		Dr,D	擦痕			992.1	9.1	18.6	5.9
189	75	Ta2		SZ2-B3	第8-26	ad		Dr,D	擦痕			4,091.6	25.9	19.8	8.2
189	76	Ta2		SZ2-B3	第8-32	ad		Dr,D	擦痕			626.2	16.9	9.8	5.1
189	77	Ta2		SZ2-B3	第8-26	ad		Dr,C	擦痕			436.9	8.3	15.9	3.7
189	78	Ta2		SZ2-B2	第3-32	ad		Dr,C	擦痕			3,555.6	25.8	14.9	8.7
189	79	Tb			第8-61	ad	横の裏側		擦痕			6,995.9	36.6	20.9	8.1
189	80	Tc		SZ2-B3	第8-58	cut?				擦痕	縦化?	19.7	3.1	3.9	3.2
189	81	Zd		SZ2-B3	第3-26	ad	Pr/剥	—				124.6	10.2	5.9	2.1
189	82	Zd		SZ2-B3	第3-26	ad	Pr/剥	—				112.8	5.4	5.4	2.1
189	83	Zd	横HT No.9	SZ2-B3	第7-26	ad	Pr/剥片	—			表面研磨	139.9	6.1	6.1	2.1
189	84	Zd		SZ2-B3	第3-26	ad	Pr/剥	—				134.6	5.0	5.3	2.8
189	85	Zd		SZ2-B2	第3-26	ad	打面	—				81.1	4.7	5.1	2.1
189	86	Zd		SZ2-B2	第3-32	ad	Pr/剥	—				85.5	6.0	5.3	2.1
189	87	Zd		SZ2-B2	第3-32	ad	Pr/剥	—				85.2	5.9	5.3	2.1
189	88	Zd		SZ2-B1	第3-26	ad	Pr/剥	—				107.8	6.1	6.0	2.3
189	89	Zd		SZ2-B2	第3-26	ad	Pr/剥	—				124.8	8.6	5.1	2.3
189	90	Zd		SZ2-B3	第3-32	ad	剥/剥	—				136.2	6.5	6.2	2.5
189	91	Zd		SZ2-B3	第3-26	ad	Pr/剥	—	a.体部			123.8	6.4	5.7	2.1
189	92	Zd		SZ2-B3	第8-26	ad	Pr/剥	—				123.3	6.4	5.8	2.6
189	93	Zd		SZ2-B1	第8-26	ad	Pr/剥	—				71.1	5.3	4.9	1.5
189	94	Zb3		SZ2-B3	第8-26	cra	—	—		欠損	頭部潰れ	113.1	22.2	5.8	3.5
189	95	Zb3		SZ2-B3	第8-30	jaw	—	—		擦痕		140.3	17.3	5.2	2.0
189	96	Zb/Zj		SZ2-B3	第8-26	jaw	—	—		擦痕		16.6	5.1	2.3	0.9
195	1	Ata	1ページ	—	第3-63	ch	一次剥		a.裏面	欠損裏面		1.7	3.5	1.4	0.5
195	2	Ata	1ページ	—	第8-60	ch	一次剥		a.裏面			1.7	3.5	1.1	0.4
195	3	Ata	1ページ	—	第8-60	ch	一次剥					1.6	3.6	1.2	0.5
195	4	Ca	1ページ	—	第3-61	ch						4.0	3.1	1.8	0.8
195	5	Ca	1ページ	—	第3-61	ch				擦痕		4.9	3.7	1.9	1.0
195	6	Cb	1ページ	—	第3-26	ch		擦痕				2.8	4.1	1.1	0.8
195	7	Cb	1ページ	—	第8-32	ch						1.3	2.5	1.0	0.5
195	8	Fa1	1ページ	—	第3-54	ch	片面		右半身			13.6	5.1	3.1	0.7
195	9	Fa1		—	第8-32	ch	裏刃	ad				11.1	5.1	2.1	1.1
195	10	Fa1	1ページ	—	第3-26	ch	裏刃	ad			鋸刃	7.4	3.8	2.2	0.7
195	11	Fa1	1ページ		第8-61	ch	裏刃	ad			鋸きみかつ	16.6	6.8	6.0	1.2
195	12	Fa1	1ページ		第3-26	chal	両面		a.側面先	鋸歯		7.1	3.5	2.1	0.8
195	13	Fb	1ページ	—	第3-26	ch	両面/鋸歯		a.側面先		両側両面ピット	13.9	6.1	3.6	1.0
195	14	Fb	1ページ	—	第3-26	ch	片面					10.3	3.5	4.4	0.7
195	15	Gb1	1ページ		第3-26	ch	両面					15.9	3.1	5.3	1.4
195	16	Gb1	1ページ		第3-26	ch	両面					38.1	6.0	5.1	1.9
195	17	Gb1	1ページ		第3-26	ch	片面					10.3	5.4	4.5	1.4
195	18	Ia	1ページ		第3-26	ch						21.4	5.9	5.5	1.9
195	19	L	1ページ		第3-26	ch			a.体部			11.9	3.5	3.4	1.2
195	20	L	1ページ		第3-54	ch				欠損片面状		171.0	7.5	6.2	4.9
196	21	L	1ページ		第3-26	ch				強点打撃		24.4	5.9	4.9	2.7
196	22	L	1ページ		第3-26	chal						90.5	4.8	6.1	3.1
196	23	L	1ページ		第7-26	ch						70.6	4.8	6.1	3.0

表２　石器・石製品観察表（９）

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
106	5	D	1ｍピット		第Ｆ-61	ch	ｐｌ+Ｆ1	—		側辺	大型剥片、加重痕跡	215.4	7.8	6.4	2.5
106	6	D	1ｍピット		第Ｆ-61	chl	ｐｌ+Ｆ1	—		側辺	定角式剥離技法	115.1	6.8	5.4	2.5
106	7	Ｈ1	1ｍピット		第Ｆ-61	clm	Ｐｒ	—				209.7	10.7	5.7	2.5
106	8	Ｈ1	1ｍピット		第Ｆ-60	clm		—		先端	微細敲痕	160.4	18.2	3.5	2.0
106	10	Ｈ1	1ｍピット		第Ｆ-61	clm		—		側辺		86.8	10.0	3.1	2.1
106	1	Ｇｂ1	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	打面					31.7	9.9	4.0	1.8
106	2	Ｇｂ1	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-64	ch	側面			打面		4.7	2.8	2.3	0.8
106	3	Ｋ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	裏刃	ul				17.1	4.7	2.5	2.0
106	4	Ｇｂ1	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	反打面					44.0	5.0	4.6	1.9
106	5	Ｋ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-63	ch						129.2	8.4	6.6	1.8
106	6	Ｔｅ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-63	ch	—	—				0.8	1.9	0.7	0.9
106	8	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｆ-63	ch	—	—				1.7	2.5	1.8	0.5
106	9	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-63	ch	—	—				1.7	2.5	1.6	0.6
106	9	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-63	ch	—	—				1.9	2.2	1.5	0.5
106	10	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｆ-63	ch	—	—				2.0	3.2	3.3	0.8
106	11	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｆ-63	ch	—	—		縁辺が		2.1	2.4	1.8	0.5
106	12	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	—	—				1.9	2.7	1.5	0.7
106	13	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	—	—				1.9	2.7	1.5	0.7
106	14	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	—	—				3.6	2.5	1.9	0.6
106	15	Ｈｂ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ch	—	—				3.6	2.5	1.9	0.9
106	16	Ｏ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	ar	ｐｌ+Ｐｒ+Ｆ1	Ｐｒ			最終未使用	425.9	8.5	5.9	5.6
106	17	Ｏ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-62	chl						903.1	6.6	12.0	11.8
107	16	Ｔ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-65	ul	—					3,690.9	24.0	12.7	11.0
107	19	Ｔｃ	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｆ-60	chl	ｐｌ+					2,660.0	43.1	12.3	11.9
107	20	Ｔｅ1	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-66	chl	ｐｌ+					2,758.3	33.1	17.3	5.5
107	21	Ｆｃ1	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-66	cmf	ｆｌ2	—		破損	破損部摩滅	1.4	1.4	0.8	0.9
107	22	Ｆｃ1	５Ｍ６	第Ⅵ		cmf	ｆｌ2	—		破損	破損部摩滅	1.9	1.6	0.9	0.9
107	23	Ｆｃ1	５Ｍ６	第Ⅵ		cmf	ｆｌ2	—		破損	破損部摩滅	1.3	2.1	0.9	0.9
107	24	Ｆｃ1	５Ｍ６	第Ⅵ		cmf	ｆｌ2	—		破損	破損部摩滅	1.3	2.5	0.9	0.9
107	25	Ｆｃ4	５Ｍ６	第Ⅵ	第Ｋ-64	cmf	ｆｌ2	—			ペンダントを状	0.4	1.0	0.9	0.4
107	26	Ｆｃ1	５Ｍ６	第Ⅵ		cmf	ｆｌ2	—				0.4	1.0	1.0	0.3
111	1	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	剥離			先端		2.2	4.4	1.1	0.7
111	2	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	剥離					2.2	4.1	1.1	0.6
111	3	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｆ-63	chsc	剥離		ａ黒曜	黒曜		3.9	4.3	1.2	0.5
111	4	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｋ-64	ch	剥離			黒曜	左ｔｅｒｍｉｎａｌ剥離	3.9	4.5	1.6	0.7
111	5	Ａｔａ	鏃ｔｙｐｅ３	Ｓ1	第Ｈ-55	ch	剥離					2.6	3.3	1.2	0.6
111	6	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	剥離					2.7	3.1	1.1	0.6
111	7	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	剥離			黒曜		1.4	3.1	1.0	0.5
111	8	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	剥離					1.6	2.1	0.9	0.4
111	9	Ａｔａ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	剥離				後期ナ実形ノ端ヲ剥離	0.7	2.1	0.9	0.4
111	10	Ａｔｂ		Ｓ1	第Ｇ-63	chsl	剥離					2.2	3.2	1.1	0.4
111	11	Ａｔｂ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	剥離					2.3	3.6	1.1	0.6
111	12	Ａｔ		Ｓ1	第Ｋ-64	ch	剥離				縁辺加工	2.1	2.2	0.8	0.7
111	13	Ａｔ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch	剥離					2.1	4.4	1.1	0.5
111	14	Ａｔ		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	剥離			表面	打面潰	1.0	3.3	1.4	0.9
111	15	Ａｔ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	剥離			表面		0.5	3.9	2.0	0.7
111	16	Ｃｈ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch						0.9	2.8	2.1	0.8
111	17	Ｃｈ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ1	第Ｇ-54	ch						13.1	3.7	3.0	1.1
111	18	Ｃｈ		Ｓ1	第Ｆ-55	ch						3.2	3.1	2.0	0.8
111	19	Ｃｈ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch						10.0	5.1	2.3	1.1
111	20	Ｃｈ		Ｓ1	第Ｆ-54	chsl						0.4	2.0	0.8	0.5
111	21	Ｂ		Ｓ1	第Ｊ-60	chl	剥離			表面		9.0	3.1	2.0	1.0
111	22	Ｇｂ1		Ｓ1	第Ｋ-63	ch	打面			表面		2.7	4.4	2.6	1.3
111	23	Ｇｂ1		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	打面	ul 刺突				20.7	6.8	3.9	1.0
111	24	Ｇｂ1		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	打面					34.3	7.9	3.0	1.3
111	25	Ｇｂ2		Ｓ1	第Ｇ-63	ch	剥離					16.9	6.1	3.1	1.1
111	26	Ｇｂ1		Ｓ1	第Ｋ-62	ch	反ｒ剥離					13.4	5.9	2.4	1.4
111	27	Ｆｐ1		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	打面		ａ顕ヒカ			12.1	4.6	2.9	1.3
111	28	Ｆｐ1		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	裏刃	ul			左辺縁部状加工	15.2	5.6	3.1	1.6
111	29	Ｆｂ		Ｓ1	第Ｆ-63	ch	裏刃	ul				6.6	3.8	1.6	1.1
111	30	Ｆｂ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch	剥離					16.6	6.5	3.7	1.4
111	31	Ｆｂ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch	剥離		一端一端			14.6	5.1	3.1	1.1
111	32	Ｆｂ		Ｓ1	第Ｆ-54	ch	剥離		一端一端			11.4	5.7	3.3	1.2
111	33	Ｏ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch	ｐｌ+ｆｌ+剥離			表面	定角式剥離技法	102.7	7.4	4.1	2.7
111	34	Ｏ		Ｓ1	第Ｆ-55	chl	ｐｌ+			側辺		10.4	3.7	2.8	1.7
111	35	Ｔｃ		Ｓ1	第Ｇ-55	cmf	ｆｌ	ul		破損		303.4	6.1	6.3	2.7
111	36	Ｔｅ	鏃ｔｙｐｅ３	Ｓ1	第Ｇ-55	cmf		刺突		側辺	側ｆｌ面に沿って決離	39.8	3.7	4.3	1.6
111	37	Ｔｅ		Ｓ1	第Ｆ-55	cmf	ｆｌ	ul		破損		407.7	11.0	6.6	4.0
111	38	Ｔｅ		Ｓ1	第Ｋ-66	cmf	ｆｌ			破損	両面加工	407.8	10.9	5.5	3.5
111	39	Ｔｃ		Ｓ1	第Ｇ-55	ch					石棒？	16.5	4.1	2.7	2.3
111	40	Ｈｂ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ1	第Ｇ-55	chsc				側辺		38.5	12.3	2.1	1.6
111	41	Ｈｂ		Ｓ1	第Ｇ-55	cmf	ｆｌ+Ｐｒ				表面研磨	98.5	6.9	4.7	3.9
111	42	Ｆｃ2		Ｓ1	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.3	0.9	0.9	0.5
111	43	Ｆｃ2		Ｓ1	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.2	0.9	0.8	0.4
111	44	Ｆｃ2		Ｓ1	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.2	1.0	0.8	0.4
111	45	Ｔｃ1		Ｓ1	第Ｆ-63	cmf	ｆｌ			破損	地の裏不上裏ヒなる	2.5	3.5	1.0	1.0
111	46	Ｆｅ6		Ｓ1	第Ｆ-54	cmf					鉄鏃ｔｙｐｅ	1.6	2.1	1.6	0.9
111	47	Ｆｅ6		Ｓ1	第Ｆ-54	cmf		—			有孔石製品、装飾品？	7.9	3.7	2.6	1.1
113	1	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-54	ch	剥離			黒曜		1.6	2.6	1.0	0.4
113	2	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-54	ch	剥離					0.7	2.1	1.0	0.6
113	3	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｈ-55	ch	剥離				小形品	0.4	1.6	0.8	0.4
113	4	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｈ-54	ch	剥離			黒曜		0.6	2.1	0.9	0.4
113	5	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-58	ch	剥離					0.5	1.5	1.0	0.3
113	6	Ａｔａ	鏃ｔｙｐｅ１	Ｓ3	第Ｇ-52	ch	剥離			先端		1.7	3.0	1.0	0.7
113	7	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					1.1	2.1	1.0	0.7
113	8	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-53	ch	剥離					1.6	3.5	1.3	0.4
113	9	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					1.7	2.2	1.2	0.5
113	10	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-52	ch	剥離		ａ黒曜			0.9	2.7	1.1	0.4
113	11	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-52	ch	剥離			先端		0.9	2.1	1.0	0.4
113	12	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-52	ch	剥離			先端		0.9	2.9	1.0	0.4
113	13	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-50	ch	剥離		ａ黒曜			1.4	2.9	1.4	0.5
113	14	Ａｔａ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					0.9	2.2	0.8	0.5
113	15	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-53	chsc	剥離					0.9	2.9	1.1	0.3
113	16	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					0.9	2.5	1.0	0.5
113	17	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-56	ch	剥離		ａ黒曜			1.9	3.4	1.4	0.6
113	18	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｆ-50	ch	剥離			先端		1.6	2.9	1.1	0.6
113	19	Ａｔａ		Ｓ3	第Ｇ-54	ch	剥離					1.6	3.7	1.0	0.6
113	20	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					1.6	2.7	1.1	0.5
113	21	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-61	ch	剥離		ａ黒曜			2.4	3.6	1.4	0.5
113	22	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-56	ch	剥離		ａ黒曜	先端		2.3	3.1	1.1	0.6
113	23	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-53	ch	剥離	断撃剥離		先端黒曜		2.3	3.5	1.2	0.5
113	24	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｇ-54	ch	剥離					2.2	3.5	1.2	0.5
113	25	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｇ-54	ch	剥離		ａ黒曜			2.3	4.6	1.2	0.6
113	26	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-58	ch	剥離		ａ黒曜	先端		2.1	3.5	1.1	0.6
113	27	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-61	ch	剥離		ａ黒曜	黒曜		2.1	3.9	1.2	0.7
113	28	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-59	ch	剥離				先端ナル	1.9	2.7	1.0	0.5
113	29	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-54	ch	剥離			黒曜		0.7	2.2	1.1	0.4
113	30	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離			先端		0.7	2.1	1.1	0.4
113	31	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-53	ch	剥離			先端		0.7	2.0	1.0	0.4
113	32	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-53	ch	剥離			黒曜		1.7	3.6	1.1	0.5
113	33	Ａｔｂ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ3	第Ｆ-54	ch	剥離					0.6	1.9	0.8	0.3
113	34	Ａｔｂ		Ｓ3	第Ｆ-54	ch	剥離				小形	0.4	1.1	0.7	0.3
113	35	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	36	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	37	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	38	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	39	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	40	Ｃｈ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch						0.9	2.1	1.1	0.4
113	41	Ｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	chl	剥離			表面		3.9	3.1	1.9	0.9
113	42	Ｇｂ1		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	打面					3.7	3.1	1.9	0.9
113	43	Ｇｂ1		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	打面					3.7	3.1	1.9	0.9
113	44	Ｆｐ1		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	裏刃	ul				1.7	2.1	1.1	0.4
113	45	Ｆｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					1.7	2.1	1.1	0.4
113	46	Ｆｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	剥離					1.7	2.1	1.1	0.4
113	47	Ｏ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch	ｐｌ+ｆｌ+剥離			表面	定角式剥離技法	102.7	7.4	4.1	2.7
113	48	Ｏ		Ｓ3	第Ｆ-53	chl	ｐｌ+			側辺		10.4	3.7	2.8	1.7
113	49	Ｔｃ		Ｓ3	第Ｇ-53	cmf	ｆｌ	ul		破損		303.4	6.1	6.3	2.7
113	50	Ｔｅ	鏃ｔｙｐｅ３	Ｓ3	第Ｇ-53	cmf		刺突		側辺	側ｆｌ面に沿って決離	39.8	3.7	4.3	1.6
113	51	Ｔｅ		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ	ul		破損		407.7	11.0	6.6	4.0
113	52	Ｔｃ		Ｓ3	第Ｇ-53	cmf	ｆｌ			破損	両面加工	407.8	10.9	5.5	3.5
113	53	Ｔｃ		Ｓ3	第Ｇ-53	ch					石棒？	16.5	4.1	2.7	2.3
113	54	Ｈｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	chsc				側辺		38.5	12.3	2.1	1.6
113	55	Ｈｂ		Ｓ3	第Ｇ-53	cmf	ｆｌ+Ｐｒ				表面研磨	98.5	6.9	4.7	3.9
113	56	Ｆｃ2		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.3	0.9	0.9	0.5
113	57	Ｆｃ2		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.2	0.9	0.8	0.4
113	58	Ｆｃ2		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ2	—				0.2	1.0	0.8	0.4
113	59	Ｔｃ1		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf	ｆｌ			破損	地の裏不上裏ヒなる	2.5	3.5	1.0	1.0
113	60	Ｆｅ6		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf					鉄鏃ｔｙｐｅ	1.6	2.1	1.6	0.9
113	61	Ｆｅ6		Ｓ3	第Ｆ-53	cmf		—			有孔石製品、装飾品？	7.9	3.7	2.6	1.1
115	1	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-54	ch	剥離			黒曜		1.6	2.6	1.0	0.4
115	2	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-54	ch	剥離					0.7	2.1	1.0	0.6
115	3	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｈ-55	ch	剥離				小形品	0.4	1.6	0.8	0.4
115	4	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｈ-54	ch	剥離			黒曜		0.6	2.1	0.9	0.4
115	5	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-58	ch	剥離					0.5	1.5	1.0	0.3
115	6	Ａｔａ	鏃ｔｙｐｅ１	Ｓ2	第Ｇ-52	ch	剥離			先端		1.7	3.0	1.0	0.7
115	7	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離					1.1	2.1	1.0	0.7
115	8	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-53	ch	剥離					1.6	3.5	1.3	0.4
115	9	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離					1.7	2.2	1.2	0.5
115	10	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-52	ch	剥離		ａ黒曜			0.9	2.7	1.1	0.4
115	11	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-52	ch	剥離			先端		0.9	2.1	1.0	0.4
115	12	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-52	ch	剥離			先端		0.9	2.9	1.0	0.4
115	13	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-50	ch	剥離		ａ黒曜			1.4	2.9	1.4	0.5
115	14	Ａｔａ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離					0.9	2.2	0.8	0.5
115	15	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-53	chsc	剥離					0.9	2.9	1.1	0.3
115	16	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離					0.9	2.5	1.0	0.5
115	17	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-56	ch	剥離		ａ黒曜			1.9	3.4	1.4	0.6
115	18	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｆ-50	ch	剥離			先端		1.6	2.9	1.1	0.6
115	19	Ａｔａ		Ｓ2	第Ｇ-54	ch	剥離					1.6	3.7	1.0	0.6
115	20	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離					1.6	2.7	1.1	0.5
115	21	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-61	ch	剥離		ａ黒曜			2.4	3.6	1.4	0.5
115	22	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-56	ch	剥離		ａ黒曜	先端		2.3	3.1	1.1	0.6
115	23	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-53	ch	剥離	断撃剥離		先端黒曜		2.3	3.5	1.2	0.5
115	24	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｇ-54	ch	剥離					2.2	3.5	1.2	0.5
115	25	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｇ-54	ch	剥離		ａ黒曜			2.3	4.6	1.2	0.6
115	26	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-58	ch	剥離		ａ黒曜	先端		2.1	3.5	1.1	0.6
115	27	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-61	ch	剥離		ａ黒曜	黒曜		2.1	3.9	1.2	0.7
115	28	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-59	ch	剥離				先端ナル	1.9	2.7	1.0	0.5
115	29	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離			黒曜		0.7	2.2	1.1	0.4
115	30	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｇ-53	ch	剥離			先端		0.7	2.1	1.1	0.4
115	31	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-53	ch	剥離			先端		0.7	2.0	1.0	0.4
115	32	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-53	ch	剥離			黒曜		1.7	3.6	1.1	0.5
115	33	Ａｔｂ	ﾐﾆﾁｭｱ3.5	Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離				小形	0.6	1.9	0.8	0.4
115	34	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離		ａ黒曜	表面		0.4	1.1	0.7	0.3
115	35	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離		ａ黒曜			0.4	3.9	1.7	0.4
115	36	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離					1.5	2.8	1.0	0.5
115	37	Ａｔｂ		Ｓ2	第Ｆ-54	ch	剥離					1.5	2.8	1.0	0.5
115	38	Ａｔ		Ｓ2	第Ｇ-58	ch	剥離					0.7	4.4	1.1	0.4
115	39	Ａｔ		Ｓ2	第Ｇ-58	ch	剥離					0.7	2.7	1.1	0.4
115	40	Ａｔ		Ｓ2	第Ｆ-56	ch	剥離				先ハキ	1.6	3.1	1.1	0.4
115	41	Ａｔ		Ｓ2	第Ｆ-55	ch	剥離			表面		0.9	2.8	1.1	0.4

表 2　石器・石製品観察表(10)

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
232	44	Az		SI3	第1-56	sh	一次剥			基部		1.3	3.1	1.7	0.4
232	45	Az		SI3	第1-56	sh	一次剥			基部		2.5	3.6	1.7	0.5
232	46	Az		SI3	第1-56	sh	不明					2.5	2.6	1.7	0.4
232	47	Ga		SI3	第1-55	sh						4.6	5.5	2.1	0.8
232	48	Ga		SI3	第1-55	sh						3.1	3.6	2.6	0.5
232	49	Gb		SI3	第1-54	chert						3.7	4.5	1.1	1.0
232	50	Gb		SI3	第1-56	sh		摩滅				6.8	5.6	1.6	1.0
232	51	Gb		SI3	第1-56	sh						3.0	3.3	1.5	0.8
232	52	Gb		SI3	第1-56	sh		摩滅				5.4	4.4	1.3	0.8
232	53	Gb		SI3	第1-56	sh					全形石器	6.8	3.8	0.6	0.5
232	54	Gb		SI3	第1-56	sh		摩滅				7.1	3.3	0.9	0.6
232	55	Gb		SI3	第1-56	sh						1.1	4.5	1.1	0.6
232	56	Gc		SI3	第1-56	sh					剥片形状利用	9.8	6.9	2.5	0.9
232	57	D		SI3	第1-56	sh	両面					16.9	4.7	2.7	1.1
232	58	D		SI3	第1-56	sh	両面	摩滅				16.7	5.7	5.1	1.8
232	59	F	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	sh					スレート	13.1	5.0	2.7	1.0
232	60	Fa		SI3	第1-55	sh						15.1	4.6	7.6	1.5
232	61	Fa1		SI3	第1-56	sh	両面					61.8	6.1	1.7	6.0
232	62	Fa1		SI3	第1-56	sh	両面			a基正方	未風	34.2	7.0	5.3	1.9
232	63	Fa1		SI3	第1-56	sh	両面					19.6	6.1	5.3	1.1
232	64	Fa1		SI3	第1-54	sh	片面			未風		42.1	8.1	3.8	1.7
232	65	Fa1		SI3	第1-56	sh	片面				横方頭小剥離	26.6	7.0	4.0	1.0
232	66	Fa1		SI3	第1-54	sh	縁刃	af		鋸歯		3.8	3.8	1.7	0.8
232	67	Fb	ヒンプFig. 3	SI3	第1-55	sh	両面					11.1	3.3	1.5	0.8
232	68	Fb	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	sh	片面	af・両面				31.6	4.4	2.5	1.4
232	69	Ga1		SI3	第1-54	sh	片面・剥離				整形尾加工	34.1	7.8	3.6	2.3
232	70	Ga1		SI3	第1-55	sh	片面				整形尾加工	13.0	5.3	2.7	1.0
232	71	Ga2		SI3	第1-54	sh	片・剥離				整形尾加工	27.2	6.9	3.1	2.1
232	72	Gb3		SI3	第1-54	sh	片面	摩滅				16.8	3.7	3.5	1.1
232	73	Gb1		SI3	第1-54	sh	片面				整尾度加工	6.4	3.9	1.6	0.9
232	74	Gb1		SI3	第1-54	sh	片面		a基正			20.2	6.2	3.4	1.2
232	75	Gb1		SI3	第1-55	sh	両面			未風		13.7	6.1	2.4	0.9
232	76	Gb3		SI3	第1-55	sh	片面	摩滅				7.8	3.1	2.6	1.0
232	77	Gb3		SI3	第1-55	sh	裏刃	af				37.7	4.9	4.1	1.9
232	78	Gb3		SI3	第1-55	sh	裏刃	af			左辺剥離状加工	26.2	6.4	4.1	1.8
232	79	Gb3		SI3	第1-56	sh	裏刃	af				34.5	6.1	4.0	1.9
232	80	K		SI3	第1-54	sh						38.3	6.6	3.8	1.5
232	81	K		SI3	第1-55	sh	裏刃	af・両面				31.3	6.1	3.8	1.5
232	82	K		SI3	第1-55	sh	裏刃	af			剥材剥片	9.4	6.0	1.9	0.8
232	83	L		SI3	第1-56	sh						6.3	3.7	1.6	1.6
232	84	L		SI3	第1-56	sh						17.1	6.1	2.1	1.4
232	85	L		SI3	第1-55	sh				鋸歯	入刃	7.8	3.6	3.9	0.7
232	86	L		SI3	第1-60	sh					鋸刃	2.7	3.5	2.7	0.7
232	87	L	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	sh						2.5	2.5	2.1	0.7
232	88	Mb		SI3	第1-55	sh	—		a基正			7.4	3.9	2.1	0.9
232	89	L		SI3	第1-55	sh	—				両端刃部分	31.9	6.5	3.8	3.2
232	90	L		SI3	第1-55	sh	—					102.7	8.4	5.1	3.4
232	91	L		SI3	第1-55	sh	—					55.7	9.1	5.4	3.2
232	92	L		SI3	第1-55	sh	—					80.8	6.4	4.5	3.4
232	93	L		SI3	第1-55	sh	—					62.6	8.3	4.6	4.1
232	94	L		SI3	第1-56	sh	—					91.1	6.1	4.9	3.8
232	95	Ma		SI3	第1-55	sh	—					34.8	8.1	3.3	1.9
232	96	Mb	欠損Fig. 3	SI3	第1-55	sh	—					3.1	2.3	1.1	0.8
232	97	Mb		SI3	第1-55	sh	—					28.8	4.9	3.1	1.8
232	98	Mb		SI3	第1-55	sh	—					14.9	3.9	3.6	1.8
232	99	Mb		SI3	第1-55	sh	—					8.1	2.9	2.1	1.1
236	1	N		SI3	第1-55	ad	平行			基部		799.7	11.1	7.1	2.5
236	2	N		SI3	第1-54	ad	対角			刃部		71.8	9.1	5.1	1.4
236	3	O		SI3	第1-56	dci	Pro平行				全形片刃磨製石斧	16.8	3.5	1.9	0.9
236	4	O	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	ind	Pro	af		基部		148.1	9.0	5.1	2.0
236	5	O	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	indg	Pro平行			側片		117.6	9.1	5.1	3.9
236	6	O	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	inir	Pro平行			刃部		39.1	8.0	3.9	1.8
236	7	O		SI3	第1-55	ariq	Pro平行			刃部		43.9	6.7	5.3	1.9
236	8	O	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	ner	Pro平行			側片		47.1	7.7	4.1	2.7
236	9	O		SI3	第1-55	ar	Pro平行			刃部	両端下	135.6	9.1	4.7	3.1
236	10	P		SI3	第1-55	ad	Pro	Pro2		鋸歯		69.4	11.3	5.1	2.0
236	11	S		SI3	第1-56	dci	Pro平行	Pro2				294.4	11.0	6.8	5.0
236	12	R		SI3	第1-60	indf	平				切れ目鋸、両側全加工	35.3	4.9	3.1	1.6
236	13	R		SI3	第1-56	dci	平				鋸刃に対する切り	211.3	14.1	7.8	2.5
236	14	F	欠損Fig. 4	SI3	第1-55	indf	平			側片	刃部に加工	34.1	5.3	4.0	1.1
236	15	R		SI3	第1-55	indf	平				横刃加工	83.6	8.6	6.0	1.2
236	16	R		SI3	第1-54	ind	平				横刃加工	190.3	7.6	6.3	2.1
236	17	R		SI3	第1-54	ina	平				横刃加工	86.1	8.1	5.1	1.6
236	1	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				508.1	12.9	6.8	5.1
236	2	Qa		SI3	第1-54	indf	交L	C-Tr				394.8	8.6	6.8	6.2
236	3	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	C-Tr				447.5	10.1	10.1	5.3
236	4	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				617.5	10.6	7.1	6.2
236	5	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				730.7	12.8	10.6	5.5
236	6	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr			側為度・	607.8	9.1	7.1	6.1
236	7	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				290.5	10.8	6.7	5.5
236	8	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				536.8	10.1	8.1	6.8
236	9	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	C-Tr				389.9	11.3	7.1	4.1
236	10	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				354.6	8.1	6.8	6.2
236	11	Qa		SI3	第1-56	ad	交L	C-T				255.5	7.0	7.9	4.1
236	12	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	C-T				606.4	9.1	8.1	5.9
236	13	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr				353.0	12.5	10.1	5.6
236	14	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr				741.2	12.1	9.8	6.2
236	15	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr				403.5	11.1	6.8	5.6
236	16	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	C-T				477.1	10.1	8.1	5.1
236	17	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr			側為度・	456.1	12.5	9.7	5.0
236	18	Qa		SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr				675.6	12.7	8.1	6.8
236	19	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				1,268.0	14.1	9.6	8.4
236	20	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-T				543.9	8.4	8.1	6.2
236	21	Qa		SI3	第1-54	dci	交L	C-T				865.4	13.9	6.1	7.8
236	22	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	A-Tr				720.2	9.1	9.0	7.8
236	23	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-T				306.4	8.1	7.1	5.1
236	24	Qa		SI3	第1-53	ad	交L	C-T				413.4	12.3	7.3	5.9
236	25	Qa	ヒンプFig. 4	SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				504.1	11.1	10.1	5.1
236	26	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	A-Tr				267.9	9.1	6.7	3.6
236	27	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-T				422.8	9.1	7.8	5.6
236	28	Qa		SI3	第1-54	dci	交L	C-T				402.8	10.0	9.6	5.1
236	29	Qa	ヒンプFig. 3	SI3	第1-54	ad	交L	C-T				403.6	10.1	8.1	4.2
236	30	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-T				245.3	9.0	6.0	3.9
236	31	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-Tr				386.6	9.7	7.1	4.1
236	32	Qa		SI3	第1-54	dci	交L	C-T				563.8	11.3	7.8	6.1
236	33	Qa		SI3	第1-54	ad	交L	C-T				483.1	10.0	7.1	6.2
236	34	Qa	欠損Fig. 2	SI3	第1-55	ad	交L	A-Tr				346.1	8.5	7.3	4.7
236	35	Qa	欠損Fig. 3	SI3	第1-55	dci	交L	A-T				224.1	8.9	6.1	3.1
236	36	Qa	ヒンプFig. 4	SI3	第1-55	ad	交L	A-T				710.9	10.7	9.1	6.6
236	37	Qa	ヒンプFig. 4	SI3	第1-55	ad	交L	C-Tr				384.5	9.9	5.6	5.8
236	38	Qa	欠損Fig. 3	SI3	第1-55	ad	交L	A-T				386.2	9.3	9.0	6.3
236	39	Qa		SI3	第1-56	dci	交L	A-Tr				402.1	10.1	8.1	5.1
236	40	Qa	ヒンプFig. 4	SI3	第1-56	ad	交L	A-Tr				342.4	10.0	6.9	4.5
236	41	Qa		SI3	第1-56	ad	交L	A-Tr				159.8	7.4	4.8	3.1
236	42	Qa	欠損Fig. 4	SI3	第1-56	ad	交L	A-Tr				1,419.0	11.7	11.1	8.0
236	43	Qa		SI3	第1-60	ad	交L	C-T				313.1	7.9	6.7	5.3
236	44	Qa		SI3	第1-59	ad	交L	C-Tr				688.9	11.9	6.9	6.7
236	45	Qa		SI3	第1-59	ad	交L	A-Tr				1,057.6	16.0	10.5	7.7
236	46	Qa		SI3	第1-60	dci	交L	A-Tr				337.4	11.0	8.0	3.4

表2　石器・石製品観察表(11)

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
242	45	Qa	SI3		第E-60	dol	欠し	欠し				257.8	8.4	6.4	4.0
242	46	Qa	SI3		第E-57	dol	欠し	欠し				232.2	9.2	7.4	3.3
242	48	Qa	SI3		第E-59	sil	欠し	欠し/Ha				425.3	9.4	6.4	5.6
242	56	Qa	SI3		第E-57	dol	欠し	欠し/Ha				232.6	6.6	7.4	4.2
242	57	Qa	SI3		第E-57	dol	欠し	欠し/Ha				364.6	7.4	7.2	5.6
242	62	Qa	SI3		第E-57	dol	欠し	欠し				326.0	8.5	6.3	4.9
242	63	Qa	SI3		第E-60	sil	欠し	欠し/Ha				259.6	6.6	6.5	5.3
242	64	Qa	SI3		第E-57	dol	欠し	欠し/Ha				120.2	6.1	5.5	3.2
242	65	Qa	SI3		第E-60	sil	欠し	欠し/Ha				1,038.3	15.0	10.3	7.6
242	66	Qa	SI3		第E-60	sil	欠し	欠し/Ha				1,056.5	15.6	12.7	7.5
242	67	Qa	SI3		第E-60	sil	欠し	欠し/Ha				346.6	13.6	10.1	3.3
242	68	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し/Ha				315.4	10.5	8.8	3.1
242	69	Qa	SI3		第E-61	dol	欠し	欠し/Ha				371.8	10.0	6.3	3.3
242	70	Qa	SI3		第E-61	sil	欠し	欠し/Ha				462.6	10.9	8.6	3.7
242	81	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し/Ha				1,309.8	16.2	10.4	7.5
242	82	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し/Ha				1,026.3	17.4	13.8	7.7
244	63	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し				329.6	12.4	7.7	2.6
244	64	Qa	SI3		第E-59	tuff	欠し	欠し/Ha				215.2	9.8	6.3	3.0
244	65	Qa	SI3		第E-59	sil	欠し	欠し				107.6	5.8	5.2	3.4
244	66	Qa	SI3		第E-59	sil	欠し	欠し/Ha				254.6	11.1	10.5	3.2
244	67	Qa	SI3		第E-59	sil	欠し	欠し/Ha				1,304.1	12.5	13.9	8.9
244	68	Qa	SI3		第E-56	sil	欠し	欠し				1,018.9	15.6	7.8	6.6
244	69	Qa	縄文No.4		第E-56	sil	欠し	欠し				310.6	7.9	6.7	5.3
244	70	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し				456.7	12.1	10.0	3.5
244	71	Qa	SI3		第E-56	sil	欠し	欠し/Ha				226.3	7.9	6.3	4.6
244	72	Qa	SI3		第E-56	sil	欠し	欠し/Ha				367.2	10.3	6.3	4.4
245	73	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し				278.4	12.3	6.0	4.1
245	74	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	欠し	固ろ浅い			246.7	9.1	6.8	4.9
245	75	Qa	縄文No.4		第E-55	sil	欠し	欠し	固ろ浅い			131.1	5.1	7.7	3.7
245	78	Qa	縄文No.4		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				215.5	9.1	7.5	5.5
245	79	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				452.9	10.8	9.1	7.8
245	78	Qa	縄文No.4		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				364.4	9.7	7.7	5.6
245	79	Qa	縄文No.4		第E-57	sil	欠し	欠し/Ha	固ろ浅い			416.7	11.6	6.7	3.9
245	80	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				556.9	10.7	9.7	3.6
245	81	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				968.4	20.5	9.1	6.1
245	82	Qa	SI3		第E-55	dol	欠し	欠し/Ha				357.0	11.7	8.4	4.1
245	85	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	欠し/Ha				358.0	10.1	8.5	4.0
245	86	Qa	SI3		第E-54	tuff	欠し	欠し	固ろ浅い			111.0	6.9	5.3	3.7
245	87	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	欠し				1,624.8	14.8	11.3	10.9
245	96	Qa	SI3		第E-55	dol	欠し	欠し/Ha				246.4	8.8	6.5	4.6
245	94	Qa	縄文No.4		第E-56	sil	欠し	欠し	固ろ浅い			256.6	10.4	6.1	4.4
245	95	Qa	縄文No.4		第E-56	sil	欠し	欠し	固ろ浅い			136.9	5.8	5.6	3.4
245	89	Qa	SI3		第E-54	sil	欠し/Ha/ポ					196.7	7.5	6.8	4.3
245	96	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し/Ha/ポ					975.1	14.0	10.3	7.2
245	98	Qa	SI3		第E-59	sil	欠し/Ha/ポ		固ろ浅い			244.3	8.1	7.8	3.8
245	95	Qa	SI3		第E-56	sil	欠し/ポ		固転浸出			635.2	10.9	8.4	5.3
245	90	Qa	SI3		第E-54	sil	欠し/ポ					56.9	4.0	3.4	2.4
247	84	Qa	縄文No.4		第E-55	sil	欠し	Ha				61.6	4.2	4.5	3.0
247	85	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	Ha				54.7	4.0	4.5	3.9
247	86	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	Ha				38.4	3.0	3.7	2.7
247	87	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	Ha				57.9	4.0	3.4	3.1
247	88	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	Ha				71.0	4.4	3.8	3.3
247	89	Qa	SI3		第E-55	sil	欠し	Ha				61.8	4.8	3.8	3.3
247	90	Qa	縄文No.4		第E-55	tuff	欠し	Ha				40.3	3.1	4.9	2.1
247	103	Qa	SI3		第E-54	mud	欠し	Ha				126.1	14.0	38.9	38.6
247	102	Qa	SI3		第E-54	mud	欠し	Ha				80.1	7.4	6.6	6.3
247	103	Qa	SI3		第E-56	dol	欠し	Ha				254.6	8.6	8.0	5.3
247	104	Qa	SI3		第E-53	sil	欠し	Ha		敲打に敲打を伴う		315.2	9.3	8.3	5.3
247	106	Qa	SI3		第E-60	sil	欠し	Ha				204.9	8.9	6.0	4.1
247	106	Qa	SI3		第E-55	tuff	欠し	Ha				204.0	8.1	6.3	4.1
248	107	Qa	SI3		第E-57	sil	欠し	Ha/Fe	子機能面			866.8	10.7	8.9	8.6
248	108	Qa	SI3		第E-54	sil	欠し	Ha	子機能面		短軸平行に敲打痕	207.7	8.1	6.5	3.9
248	109	Qa/h	SI3		第E-54	dol	欠し	ピ/Ha/ル	子機能面		固ろ浅い	164.2	7.6	5.7	5.3
248	110	Qa	SI3		第E-62	sil	欠し	Ha/Fe/ル				236.0	10.0	6.6	4.7
248	111	Qa/h	SI3		第E-54	dol	欠し	ピ/Ha/ル				417.9	8.6	7.4	6.7
248	112	Qa/h	SI3		第E-54	dol	欠し	ピ/Ha		機能面不明瞭		631.0	8.8	8.4	7.9
248	113	Qbc	SI3		第E-53	sil	欠し	Ha/Fe		機能面不明瞭		124.2	6.0	3.5	3.9
248	114	Ta1	SI3		第E-56	sil	欠し	Ha		中央凹面、機能面平滑		2,500.0	15.3	18.7	13.4
248	115	Ta1	SI3		第E-54	sil	欠し	Ha		被覆剥ぎ痕跡		9,920.0	37.4	24.5	19.7
248	116	Ta1	SI3		第E-54	tuff	欠し	Ha	被覆	被覆剥ぎ痕跡		407.1	14.0	13.4	8.3
248	117	Ta1	SI3		第E-57	sil	欠し	Ha	被覆			734.9	14.5	13.5	6.9
248	118	Ta1	SI3		第E-57	sil	欠し	Ha				1,098.8	15.4	11.3	8.5
248	119	Ta1	SI3		第E-57	sil	欠し	Ha	被覆			332.4	10.5	8.3	5.7
250	120	Ta1	SI3		第E-56	sil	欠し	Ha	被覆	裏面に固ろ		549.0	10.7	11.3	5.7
250	121	Ta1	SI3		第E-54	sil	欠し	Ha	被覆			1,139.3	21.8	11.3	5.3
250	122	Ta1	SI3		第E-54	sil	欠し	Ha	被覆			806.2	19.7	10.2	5.3
250	123	Ta2	SI3		第E-54	sil	欠し	Ha	被覆	機能面不明瞭		1,000.0	19.5	16.5	6.0
250	124	Ta2	SI3		第E-56	sil	欠し	Ha	被覆	機能面不明瞭		6,269.8	29.6	19.7	10.0
250	126	Ec	SI3		第E-54	sil	欠し					31.0	3.3	3.3	1.1
250	126	Ec	ピット7No.3		第E-54	tuff						14.4	4.9	3.1	0.9
250	127	Ha	SI3		第E-54	sil	欠し					16,300.0	37.6	28.7	8.6
250	128	Ha	SI3		第E-54	sil		Ta2				1,848.4	12.4	12.7	9.1
250	129	Ha	SI3		第E-54	sil		Ta2				5,997.2	19.6	15.5	11.1
250	130	Th	SI3		第E-54	sil		軸の装飾				2,360.5	36.3	19.4	7.8
250	131	Y	縄文No.4		第E-56	sil	欠し					4.8	2.4	1.8	1.0
250	132	Y	SI3		第E-56	tuff						16.1	3.7	3.6	1.9
265	1	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				44.9	5.1	4.6	1.5
265	2	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				46.9	5.3	4.4	1.5
265	3	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				106.3	6.8	5.3	2.3
265	4	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				42.1	4.0	3.9	1.7
265	5	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				39.2	3.8	3.8	1.6
265	6	Ff	SI3		第E-54	tuff	Pw/Pl	—				136.4	6.5	5.4	2.8
265	7	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—	土珠面			90.1	5.2	6.0	1.9
265	8	Ff	縄文No.4		第E-54	sil	Pw/Pl	—				220.2	7.8	7.5	2.7
265	9	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				57.4	3.7	3.3	1.8
265	10	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				36.9	3.9	3.9	1.1
265	11	Ff	縄文No.4		第E-55	sil	Pw/Pl	—				96.1	5.2	5.7	2.1
265	12	Ff	SI3		第E-55	sil	Pw/Pl	—				68.6	6.0	4.1	1.5
265	13	Ff	ピット7No.3		第E-56	sil	Pw/Pl	—				86.1	4.7	5.7	1.6
265	14	Ff	SI3		第E-56	sil	Pw/Pl	—				98.4	5.6	5.1	1.9
265	15	Ff	SI3		第E-56	sil	Pl	—				95.6	5.6	5.1	1.6
265	16	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				84.0	5.5	4.8	1.6
265	17	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				65.7	5.4	5.2	2.4
265	18	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				114.4	6.3	6.3	2.7
265	19	Ff	SI3		第E-56	sil	Pw/Pl	—				130.5	6.0	6.0	2.3
265	20	Ff	SI3		第E-56	sil	Pw/Pl	—				76.7	4.9	3.9	1.9
265	21	Ff	SI3		第E-57	sil	Pw/Pl	—				139.8	6.9	6.7	1.9
265	22	Ff	SI3		第E-57	sil	Pw/Pl	—				130.1	6.8	6.6	2.1
265	23	Ff	SI3		第E-59	sil	Pw/Pl/Ha	—		表面研磨		51.2	3.0	4.1	1.5
265	24	Ff	SI3		第E-59	sil	Pw/Pl/Ha	—				89.9	6.0	5.4	1.7
265	25	Ff	SI3		第E-59	sil	Pw/Pl	—				124.1	6.2	5.9	2.8
265	26	Ff	ピット7No.3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				117.0	6.1	6.0	2.1
265	27	Ff	ピット7No.3		第E-54	sil	Pw/Pl	—				107.9	5.4	5.1	2.7
265	28	Ff	SI3		第E-55	sil	Pw/Pl	—				291.3	7.4	7.6	3.6
265	29	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl/Ha	—				32.0	3.7	3.1	1.6
265	30	Ff	SI3		第E-54	sil	Pw/Pl	—	土珠面			130.8	6.1	6.9	2.4
265	31	Ff	Ta1/ピット		第E-54	sil				断片	大の頭ラスモポーク	15.0	4.9	1.1	1.1
265	32	Ff	SI3		第E-56	tuff				断片	武器か	5.4	2.1	1.9	0.9
265	33	Ff	SI3		第E-56	tuff	Ha	—		被熱		114.5	5.9	9.1	1.1

表2　石器・石製品観察表(12)

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
252	54	Zc		区3	第3-G6	tuff		—		破損		412.5	10.1	7.5	2.8
252	55	Zb3		区3	第3-G6	slate		—		先端		145.3	10.6	5.1	1.9
252	56	Zb3		区3	第3-F4	slate		—		断片		56.9	5.7	4.2	0.8
252	57	Zb1		区3	第3-J7	slate		—		断片		16.0	2.6	2.8	0.9
252	58	Zb3		区3	第3-J7	slate		—		断片		73.3	11.1	3.6	1.5
252	59	Zb3		区3	第3-J7	slate		—		断片		44.0	5.1	3.7	1.9
252	60	Zb3		区3	第3-F4	slate		—		破損		3,459.3	21.4	12.0	6.3
252	61	Zb3		区3	第3-J6	sed	Ap	—		断片		252.7	7.9	6.5	4.1
252	62	X		区3	第3-J6	slate		—			焼状痕	402.7	8.4	8.7	4.4
252	63	Zb99		区3	第3-J6	slate		—				65.7	10.5	3.5	1.0
252	64	Zb3	欠ﾅﾝﾊﾞ3	区3	第3-K-16	slate		—				180.3	9.0	7.7	3.0
252	65	Zb3		区3	第3-F4	tuff	加工痕跡	—		破損		2.1	3.7	1.6	0.7
252	66	Zc6		区3	第3-G6	tuff	ﾌﾚｰｸﾞﾒﾝﾄ	—			ガラス質石製品	10.6	3.1	3.1	1.1
252	67	Zc		区3	第3-J7	tuff	ﾌﾚｰｸﾞﾒﾝﾄ	—	r面取	破損	石製品、入口最大スリット	8.8	4.3	1.9	0.6
252	68	Zc99		区3	第3-J6	tuff	—	—				4.1	3.6	2.1	1.0
252	69	Ff		区3	第3-J7	sed		—			てくりし	9.1	2.6	1.7	1.6
264	1	A1a		区	第B-34	chal	一部分			先端		0.6	1.9	0.9	0.5
264	2	A1a		区	第C-33	sh	一部分		a面底	先端		1.1	2.1	1.3	0.5
264	3	A1a		区	第C-33	sh	一部分			先端		0.8	1.9	1.3	0.5
264	4	A1a		区	第C-32	sh	一部分			先端		0.8	1.9	0.9	0.5
264	5	A1a		区	第C-32	sh	一部分					2.0	3.1	1.5	0.7
264	6	A1a		区	第B-33	sh	一部分			先端		1.0	1.9	0.9	0.4
264	7	A1a		区	第C-33	sh	一部分		a面底	先端		1.1	3.0	1.5	0.4
264	8	A1a		区	第C-34	sh	一部分		a面底			1.1	3.4	1.7	0.5
264	9	A1a		区	第C-33	sh	一部分			先端		2.6	3.3	1.7	0.7
264	10	A1a		区	第C-33	sh	一部分					2.2	4.3	1.3	0.6
264	11	A1a		区	第C-33	sh	一部分		a面底	先端基部		2.5	3.9	1.1	0.6
264	12	A1a		区	第C-33	sh	一部分					2.1	4.1	1.1	0.7
264	13	A1a		区	第F-34	sh	一部分		a面底			2.7	4.7	1.3	0.6
264	14	A1a		区	第C-32	sh	一部分			先端		3.1	6.6	1.7	0.8
264	15	A1b		区	第C-31	sh	一部分					1.0	2.6	1.3	0.5
264	16	A1b		区	第C-31	sh	一部分			先端		1.9	3.1	1.1	0.5
264	17	A1b		区	第B-32	sh	一部分		a面底			1.7	3.3	1.3	0.5
264	18	A1b		区	第B-32	sh	一部分					1.5	3.3	1.2	0.9
264	19	A1b	欠ﾅﾝﾊﾞ No.1	区	第B-33	sh	一部分					1.5	3.3	1.1	0.7
264	20	A1b	ｸﾘｱﾌﾟﾗｽNo.1	区	第B-33	sh	一部分		a面底			2.9	3.6	1.2	0.6
264	21	A1b		区	第B-33	sh	表面剥					2.2	3.7	1.4	0.4
264	22	Aa		区	第C-32	chert	表面剥					2.1	3.4	1.3	0.7
264	23	Aa		区	第C-33	sh	一部分			基部		1.1	3.1	1.2	0.4
264	24	Aa		区	第B-32	sh	一部分					1.2	2.6	1.0	0.5
264	25	Aa		区	第C-36	sh	一部分			先端		2.1	4.6	1.3	0.7
264	26	Aa		区	第F-35	sh	一部分			先端		2.6	6.0	1.3	0.5
264	27	Aa		区	第F-34	sh	一部分		a面底	先端		2.2	4.6	1.7	0.5
264	28	Aa		区	第C-33	sh	一部分			先端		2.6	3.3	1.3	0.6
264	29	Ab		区	第C-33	sh	一部分			先端		2.2	2.7	1.3	0.4
264	30	Ab		区	第F-35	sh	一部分			基部		2.5	3.5	1.3	0.5
264	31	Ac		区	第F-34	sh	一部分					6.1	4.3	2.4	0.8
264	32	Ga		区	第G-35/34	sh				鋸歯		4.8	3.7	2.6	1.0
264	33	Ga		区	第C-33	sh	表面剥					4.3	3.5	2.2	0.6
264	34	Ga		区	第C-33	sh						3.4	3.5	1.9	0.7
264	35	Gb		区	第C-33	sh		摩滅				8.4	4.1	1.7	1.1
264	36	Gb		区	第C-33	sh						3.3	3.1	1.6	0.7
264	37	Gc		区	第C-33	sh	加工跡不明				剥片面利用の鋸歯	3.3	3.1	1.2	0.9
264	38	Gc		区	第C-33	sh						2.4	4.5	1.1	0.7
264	39	I		区	第F-33	sh				先端		10.8	4.3	1.1	1.4
264	40	Ia		区	第B-40	sh	側面				刃部欠損又は刃	8.4	4.7	1.7	0.9
265	41	Fa1		区	第B-34	sh	側面					8.5	5.3	2.1	0.7
265	42	Fa1		区	第F-34	sh	片面	光沢				16.1	5.1	2.1	1.4
265	43	Fa1		区	第B-32	sh	片面			先端	敲石状加工	16.9	5.4	2.9	1.4
265	44	Fa1		区	第C-33	sh	片面					10.6	4.0	2.1	0.9
265	45	Fa1		区	第C-33	sh	側面	光沢				14.6	6.0	1.5	0.7
265	46	Fb		区	第C-33	sh	側面	光沢	a面全面			37.4	6.9	3.1	1.5
265	47	Fb		区	第C-33	sh	裏片	sed				2.8	2.8	2.2	0.6
265	48	Fb		区	第C-32	sh	側面					27.7	6.4	3.5	1.5
265	49	Fb		区	第C-32	sh	側面					35.4	5.1	6.6	1.0
265	50	Fb		区	第B-33	sh	片面					12.1	4.6	2.4	1.1
265	51	Gb1		区	第K-36	sh	片面					1.9	3.1	1.5	0.5
265	52	Gb1		区	第F-32	sh	側面					6.3	4.4	2.6	0.8
265	53	Gb1		区	第F-32	sh	片面					31.5	10.9	4.0	1.9
265	54	J		区	第B-33	sh					凹部	4.4	4.5	2.7	0.9
265	55	J		区	第C-35	sh					石敷状	10.6	6.1	2.1	0.8
266	56	Gb1	欠ﾅﾝﾊﾞ No.4	区	第F-32	sh	側面					173.0	10.1	6.1	2.1
266	57	Gb3		区	第F-34	sh	裏刃	sed			打製石斧?	128.3	8.4	6.0	4.3
266	58	L		区	第F-34	sh						34.1	3.5	4.8	2.3
266	59	L		区	第F-33	sh						17.1	2.5	3.8	2.3
266	60	L		区	第F-34	sh						133.0	6.0	6.2	3.1
266	61	L		区	第F-34	sh						84.1	5.0	6.1	2.1
266	62	L	欠ﾅﾝﾊﾞ No.2	区	第F-36	sh						50.0	4.1	4.2	3.0
266	63	L	ｸﾘｱﾌﾟﾗｽNo.2	区	第F-33	sh						53.0	6.4	5.1	2.4
267	1	Ia		区	第F-34	chert						79.1	6.9	6.1	3.1
267	2	A		区	第C-32	tuff	本刃			断片		301.9	8.3	9.5	5.1
267	3	O		区	第C-32	sh	ﾋﾟｴﾃﾞ					403.4	9.4	9.5	7.9
267	4	O		区	第B-33	sh	ﾋﾟｴﾃﾞ?			刃部		55.0	6.1	6.8	1.9
267	5	O		区	第B-33	sh	ﾋﾟｴﾃﾞ			刃部		65.9	5.8	5.5	2.5
267	6	O		区	第B-33	sh	ﾋﾟｴﾃﾞ					189.7	12.0	7.6	4.7
267	7	P		区	第F-34	sed	F1	Fc2		破損		341.8	17.9	9.2	2.7
267	8	P		区	第C-32	sed	F1	Fc2		破損		296.8	12.4	8.5	2.4
267	9	P	ｸﾘｱﾌﾟﾗｽNo.2	区	第F-34	sed	F1	Fc2		破損		261.0	10.1	9.8	2.6
267	10	P		区	第F-33	sed	F1	Fc2		破損		216.0	9.0	9.1	2.5
268	11	P		区	第C-32	sed	F1	Fc2		破損		292.3	9.3	9.3	2.5
268	12	P		区	第C-33	sed	F1	Fc2		破損		396.7	7.4	8.3	2.6
268	13	P		区	第C-33	sed	F1			破損	掘削面欠損	309.3	9.3	10.1	2.6
268	14	P	欠ﾅﾝﾊﾞ No.1	区	第C-33	sed	F2	Fc1/Fe/Fb				263.3	8.0	7.1	3.4
268	15	Qa		区	第B-34	dol	F2	C-U				366.0	9.1	6.1	4.8
268	16	Qa		区	第B-34	sed	F2	C-U				493.2	9.8	8.8	6.4
268	17	Qa		区	第B-33	dol	F2	C-Ur				473.0	10.1	8.1	5.5
268	18	Qa		区	第B-33	sed	F2	C-Fb				369.1	9.8	7.7	6.3
268	19	Qa		区	第B-33	dol	F2	C-Ur				668.1	11.1	9.1	6.1
268	20	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-U				612.6	9.9	8.8	6.9
268	21	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Ur				142.0	5.7	6.7	4.2
268	22	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				430.3	12.8	6.7	3.5
268	23	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				690.4	10.1	8.6	6.9
268	24	Qa	ｸﾘｱﾌﾟﾗｽNo.1	区	第F-33	sed	F2	C-Fb				535.8	11.5	8.0	6.6
268	25	Qa		区	第F-33	dol	F2	C-Ur				224.1	8.3	7.1	4.3
268	26	Qa	欠ﾅﾝﾊﾞ No.1	区	第F-33	sed	F2	C-Fb				315.7	10.9	6.8	4.6
268	27	Qa		区	第F-36	sed	F2	C-Ur				492.1	11.7	9.0	5.1
268	28	Qc		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				125.4	6.3	5.4	4.5
270	29	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				189.2	8.6	7.6	3.4
270	30	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				189.2	6.6	7.6	3.4
270	31	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-U		破損		566.8	8.6	8.8	6.3
270	32	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Ur				710.8	10.0	9.8	6.8
270	33	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Ur				777.1	11.4	9.5	7.1
270	34	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Ur		断片		401.0	11.1	7.3	5.1
270	35	Qa		区	第F-34	sed	F2	C-Fb				460.4	11.8	7.9	5.2
270	36	Qa		区	第F-33	sed	F2	C-U				363.8	10.1	7.9	5.1
270	37	Qa		区	第G-33	sed	F2	C-Fb				435.3	8.7	8.0	6.3
270	38	Qa	欠ﾅﾝﾊﾞ No.2	区	第G-33	dol	F2	C-Fb				397.0	10.3	7.5	5.1
270	39	Qa	欠ﾅﾝﾊﾞ No.2	区	第G-33	sed	F2	C-U				423.6	10.4	7.4	4.8
270	40	Qa		区	第G-33	sed	F2	C-U				391.7	9.3	6.9	5.9

表2　石器・石製品観察表(13)

図版No.	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
251	41	Qu	建		建D-31	ad	なし	なし				426.1	10.4	8.4	4.4
251	42	Qu	建		建D-31	ad	なし	L-f				404.9	11.9	8.4	3.5
251	43	Qu	建	C-Y75G-5	建F-53	ad	なし	L-Tb				424.9	12.1	8.3	4.1
251	44	Qu	建		建F-53	del	なし	L-Tb				315.1	8.6	6.9	5.1
251	45	Qu	建		建F-53	ad	なし	L-f				296.8	11.2	8.4	3.5
251	46	Qu	建		建F-53	ad	なし	L-f				283.6	13.5	8.1	3.3
251	47	Qu	建		建F-53	ad	なし	L-Tb				596.4	11.3	8.1	6.6
251	48	Qu	建		建V-53	ad	なし	L-Tb				596.4	8.5	12.3	13.0
251	49	Qu	建		建F-53	ear	なし	L-Tb				192.2	8.4	7.4	38.0
251	50	Qu	建		建F-53	ad	なし	Tw-Tb				171.2	9.3	6.0	1.8
251	51	Qu	建		建F-53	cuff	なし	Tw-Tb				51.1	5.1	6.2	2.4
251	52	Qu	建		建F-53	ad	なし	Tx		朱以前製石斧を切り整え		30.4	3.5	2.7	1.4
251	53	Qc	建		建F-60	ch	なし	Tw				31.8	4.1	3.6	2.5
251	54	Qc	建	7.5YR6/4	建F-53	ch	なし	Tw				37.9	3.3	3.1	1.7
251	55	Qc	建		建F-54	ad	なし	Tw				115.2	6.8	5.0	2.4
251	56	Qc	建	7.5YR6/3	建C-53	ad	なし	Tw				139.5	6.7	5.9	2.1
251	57	Qc	建		建F-54	mol	なし	Tw				139.4	5.6	4.7	4.0
251	58	Qc	建		建F-53	ch	なし	Tw				128.9	6.6	4.4	3.3
251	59	Qc	建		建G-59	del	なし	Tw		鐵鏃		359.9	7.7	7.2	5.6
251	60	Qc	建	C-Y75G-5	建F-55	ear	なし	Tw				203.6	7.3	6.1	4.6
251	61	S	竪穴		竪C-52	chs	Pw			焼け痕及び焼成破砕面		48.2	7.6	3.9	0.9
251	62	S	建	C-Y75G-5	建F-53	ad	Pw			焼け痕及び焼成破砕面		60.6	8.1	6.9	1.5
251	63	X	建		建F-57	del	—	—				30.7	4.4	4.5	4.0
251	64	X	建		建F-53	ear	—	—				206.6	8.4	5.8	3.3
251	65	X	建		建V-39	crush	—	—				216.3	91.0	62.0	25.0
251	66	Ta1	建		建F-58	ad	Pw	Pt,R		鐵鏃に混入		6108.4	45.4	11.1	4.8
251	67	Ta1	建		建F-53	ad	Pw	Pt,A	a.機能面	銀行		1,499.1	22.1	8.1	9.5
251	68	Ta2	建		建F-53	ad	Pw	Pt,R	a.機能面	銀行		371.8	12.8	10.1	4.5
251	69	Ta2	建		建F-54	ad	—	Pt,D	a.機能面	銀行		637.2	12.6	8.7	3.8
251	70	Ta2	建		建G-54	ad	—	Pt,R				844.2	12.7	8.4	4.1
251	71	Ta2	建		建G-54	ad	—	Pt,R		銀行		1,992.3	14.1	13.1	6.5
251	72	Ta2	建		建F-53	ad	—	Pt,R		銀行	亀ヶ岡遺跡出土下顎骨	436.1	9.7	8.4	3.7
251	73	Ta2	建		建F-53	ad	—	Pt,R		銀行		1,035.7	17.6	13.1	5.7
252	74	B	竪SD8		竪C-52	ch						17.7	4.9	3.1	1.4
252	75	Cu	竪SD8		竪C-51	ch						1.1	2.2	1.4	0.6
252	76	Cu	竪SD8		竪C-52	ch						10.4	4.2	3.9	1.1
252	77	Ta1	竪SD8		竪C-52	ad	擦刃	ad		鉄サビ		5.8	4.0	2.8	0.6
252	78	Ta1	竪SD8		竪C-52	ch	擦面					5.8	4.0	2.8	0.6
252	79	Fb	竪SD8		竪C-53	ch	打撃		a.無点			11.4	5.3	4.1	1.6
252	1	Z2	建		建F-53	ad	FT	—				154.7	6.0	6.2	2.9
252	2	Z2	建	7.5YR6/2	建F-53	ad	FT	—				134.3	6.2	6.4	2.4
252	3	Z2	建		建F-53	ad	FT	—				36.1	4.9	3.4	2.6
252	4	Z2	建	7.5YR5/4	建F-55	cuff	FT	—				50.1	5.7	3.9	2.7
252	5	Z2	建		建F-54	ad	Pw,FT	—				126.3	7.6	6.5	2.1
252	6	Z2	建		建G-54	ear	Pw,FT	—				8.2	2.9	3.6	1.0
252	7	Z2	建		建F-55	cuff	—	—			大方縁欠文ポテーク	32.1	3.9	3.7	2.0
252	8	Z2b	建		建F-53	ch	—	—		銀行		42.6	7.9	2.1	1.6
252	9	X	建		建F-54	del	—	—				202.7	13.3	5.1	3.6
252	10	Ta2	建		建G-53	chs	—	—	朱塊	鐵鏃基部		217.6	12.8	5.1	2.2
252	11	Z2b	建		建F-53	cuff	—	—		有孔石製品、首飾孔1つ		46.4	6.1	5.5	2.7
252	12	Z2	建		建F-53	cuff	Z2	—				0.7	0.1	0.1	0.2
252	13	Z2	建		建F-53	cuff	Z2	—				0.2	0.1	0.0	0.1
252	14	Z2	建		建F-54	cuff	Z2	—				1.8	1.9	1.4	0.9
252	15	Z2	建		建F-53	cuff	Z2	—				0.8	0.9	0.9	0.5
252	16	Z2	建		建F-54	cuff	Z2	—				0.6	0.8	0.5	0.6
252	17	X	建		建F-53	ear	—	—			写真照付？	6.9	2.9	3.6	1.8
252	18	Zr/W	建		建C-55	cuff	—	—				63.9	5.9	3.4	2.5
252	1	B	IV		建F-53	ch						1.1	1.9	1.1	1.1
252	2	B	IV		建F-53	ch	擦面					9.3	4.6	1.9	1.1
252	3	Ba	建	7.5YR5/1	建F-53	ad	—	—				19.4	6.3	3.1	1.6
252	4	O	IV		建L-59	del	Pw		黒褐	黒斑西海土		319.4	11.6	6.9	6.6
252	5	S	C-Y75G-5		建F-53	ad	FT	Pt,T				317.5	10.1	9.8	4.9
252	6	S	IV		建G-53	ad	FT	Pt,T				317.3	13.8	9.4	4.4
252	7	S	IV		建F-59	ad	FT	Pt,T		粉石器西海土		256.7	10.6	6.6	4.1
252	8	S	IV		建K-59	cuff	FT	Pt,T				485.9	10.7	8.5	4.0
252	9	S	IV		建F-60	ad	FT	Pt,T				431.1	10.7	7.4	3.9
252	10	Qu	IV		建V-58	ad	なし	L-Tb				969.2	14.9	12.1	6.6
252	11	Qu	IV		建F-60	ad	なし	L-f				1,476.7	16.6	12.1	6.3
252	12	Qu	IV		建F-53	ad	なし	L-Tb				177.2	7.7	6.3	3.1
252	13	Qu	IV		建F-53	ad	なし	L-Tb				448.4	10.6	9.2	5.7
252	14	Qu	IV		建F-60	ad	なし	L-Tb				678.4	10.9	8.7	4.6
252	15	Qu	IV		建F-60	ad	なし	L-Tb				471.2	10.2	6.4	5.2
252	16	Qu	建	7.5YR5/1	建F-53	ad	なし	L-Tb				162.6	10.8	8.4	3.7
252	17	Qu	IV		建G-53	del	なし	L-f				479.9	8.5	8.6	6.1
252	18	Qu	IV		建F-60	ad	なし	L-Tbr				315.9	10.3	8.4	4.9
252	19	Qu	IV		建G-53	del	なし	L-Tb				146.1	6.6	5.9	4.0
252	20	Qu	IV		建F-60	ad	なし	L-Tbr				662.5	16.0	11.0	9.6
252	21	Qu	IV		建F-60	del	なし	L-Tb				755.2	11.6	8.9	6.6
252	22	Qu	IV		建G-53	ad	なし	L-f				364.6	10.1	10.4	4.1
252	23	Qu	IV		建G-53	ad	なし	L-f				371.3	10.1	7.2	4.1
252	24	Qu	IV		建F-53	ad	なし	L-Tb				365.9	9.2	8.4	4.9
252	25	Qu	IV		建G-53	ch	なし	Tw				50.3	6.1	3.5	3.6
252	26	Qu	IV		建K-59	ad	—	—			丸輪に一部の磨き	695.9	16.1	10.8	4.1
252	27	X	IV		建V-39	chs	—	—				134.5	7.3	3.4	3.3
252	28	X	IV		建F-53	del	—	—			1～12分銅一	28.6	2.8	2.7	2.2
252	29	X	IV		建G-53	del	—	—			1～12分銅一	76.0	2.7	2.7	2.7
252	30	X	IV		建G-53	del	—	—				440.3	17.1	13.8	10.8
252	31	Zr/W	IV		建F-56	del	Pw	—		銀行		76.9	5.5	4.4	2.3
252	32	Z2	IV		建F-53	ad	Pw	—			南東切要整形	16.2	2.8	2.8	1.2
253	1	Ata	建		建F-54	ch	一角切					1.8	3.6	1.7	0.5
253	2	Ata	建	7.5YR5/1	建F-54	ch	一角切					1.2	2.7	1.2	0.3
253	3	Ata	建		建F-54	ch	一角切					0.6	2.6	0.9	0.4
253	4	Ata	建		建E-54	ch	一角切					1.2	3.4	1.3	0.4
253	5	Ata	建		建C-53	ch	一角切					1.7	4.1	0.8	0.5
253	6	Ata	建		建G-54	ch	一角切		黒鉛			1.1	2.9	1.7	0.3
253	7	Ata	建		建F-54	ad	一角切	a.黒鉛			鐵鏃に黒鉛ブロックが付着	0.9	1.9	1.1	0.3
253	8	Ca	建		建F-53	ch						3.6	2.4	1.3	0.6
253	9	Ch	建		建F-53	ch						1.1	2.1	0.8	0.3
253	10	Ch	建		建F-54	ch	擦痕		鐵鏃	鉄錆の痕跡？		4.4	3.4	1.8	0.6
253	11	Ch	建		建C-54	ch				鉄サビ痕跡		6.9	3.6	2.1	0.8
253	12	Pa1	建		建F-53	ch	擦面					36.1	8.7	5.7	1.5
253	13	Fb	C-Y75G-5		建F-53	ch	擦面	a.無点				25.9	5.4	4.3	1.7
253	14	Qu1	建		建V-56	ch	打撃	擦痕				5.9	42.0	24.0	6.0
253	15	Qu1	建		建V-56	ch	擦面					7.5	7.7	3.9	1.0
253	16	Qu2	C-Y75G-5		建F-53	ch	擦面	a.左辺	刃部一部			9.5	6.6	2.8	0.7
253	17	Qu1	建		建V-54	ch	擦面					7.7	3.0	30.0	12.0
253	18	Qu1	建		建V-56	ch	擦面					12.4	28.0	46.0	10.0
253	19	Qu1	建		建V-55	ch						12.4	41.0	30.0	18.0
253	20	Ib	建		建K-60	ch					刃部に一部磨ず	5.6	3.7	3.1	10.0
253	21	k	建		建F-53	ch	剥ず	ad.C.軟武				17.7	5.6	4.2	1.2
253	22	k	建		建G-55	ch	剥ず	ad		木塊		10.4	39.0	22.5	10.0
253	23	k	建		建F-53	ch	剥ず	ad				9.7	31.0	28.0	10.0
253	24	k	建		建V-56	ch	剥ず	ad				18.4	30.0	36.0	15.0
253	25	k	建		建V-56	ch	剥ず	ad				29.4	61.0	46.9	14.0
253	26	Qu2	C-Y75G-5		建F-53	ad	Pw		刃部	赤色水銀粉右評		102.4	19.1	4.7	3.6
253	27	G	建		建F-62	cuff	Pw,FT	ad		黒鉛銀行鐵鏃		196.6	9.1	4.5	2.1
253	28	Qu	建		建V-47	ear	Pw	—		鐵鏃破片？		627.7	10.1	7.8	5.1
253	29	Qu	建		建V-39	del	なし	L-Tb				321.3	7.5	25.0	30.0
253	30	Qu	建		建V-51	ad	なし	Pt,T				331.9	36.0	65.0	10.0

表 2　石器・石製品観察表(14)

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	石材	加工技術	使用痕	付着物	被熱部位	備考	重量/g	長/cm	幅/cm	厚/cm
285	31	石斧		1	横C-33	ofa	Pm	—		刃部		57.7	10.4	5.3	4.5
285	32	石斧		1	横C-33	tuffa	ab2	—				9.2	5.4	2.3	0.8
285	33	Ko-B1		表採	横C-33	tuff	ab2	—				1.7	2.7	1.0	0.9
286	1	Ata		表採	横E-44	sh	一部ab	—				6.5	9.0	11.0	4.0
286	2	Ata	3TP	3TP	横E-33	sh	一部ab	—	木製柄			6.4	7.3	1.7	0.4
286	3	Ata	3TP	3TP	横E-33	sh	—	—	木製柄		石鏃刺	4.3	3.5	2.0	0.9
286	4	Gh1		3TP	横E-33	sh	—	—				14.4	10.0	10.0	13.0
286	5	k	表採	横E-60	sh	磨刃	ab	—				10.9	6.9	3.0	10.0
286	6	k	3TP	横E-33	sh	磨刃	ab	—				26.4	6.0	4.0	13.0
286	7	Ma	3TP	横E-47	sh	—	—	—				15.0	10.0	4.0	13.0
286	8	O	表採	横E-60	sh	—	—	—				11.0	6.0	3.0	13.0
286	9	O	3TP	横E-33	sh	—	—	—				17.0	7.0	6.0	20.0
286	10	O	3TP	横E-33	打製	Pm	—	—		刃	黄色耳飾製	11.5	5.3	5.2	1.1
286	11	O	3TP	横E-33	ar	Pm	—	—				11.4	4.5	3.0	1.1
286	12	O	3TP	横E-33	ar	Pm	—	—				13.1	5.1	5.4	1.1
286	13	O	3TP	横E-33	Pm	Pm	—	—				118.7	8.1	4.0	2.7
286	14	Y	3TP	横E-72	ad	ff2	Dcr	—				488.7	11.9	10.6	3.0
286	15	Ga	3TP	横E-47	ad	ff2	U-Ch	—				535.8	10.0	9.0	36.0
286	16	Ga	3TP	横E-48	dri	ff2	U-Chr	—				549.4	10.0	7.0	63.0
286	17	Ga	3TP	横E-33	dri	ff2	U-Chr	—				620.9	13.0	9.0	66.0
286	18	Ga	3D17	ブナ上	横E-43	dri	ff2	A-Ch	—			290.5	10.0	5.0	40.0
286	19	Ga	3D17	ブナ上	横E-44	ad	ff2	A-Ch	—			310.3	12.0	8.0	72.0
286	20	Gai	3D17	ブナ上	横E-44	ad	ff2	A-Chr	—			660.8	9.0	9.0	46.0
286	21	Ta1	3TP	ブナ上	横E-44	ad	Pc	Dch	—			338.9	7.6	6.3	4.7
286	22	Ta2	3D17	ブナ上	横E-44	ad	Pc	Dch	—	刃部	機能痕不明瞭	196.5	12.4	13.3	4.1
287	23	k	3TP	3TP	横E-33	tuff	—	—	—			11.9	4.5	2.3	0.6
287	24	Fa	3TP	横E-33	chr	—	—	—	—		指先石	27.9	3.5	3.1	1.9
287	25	Fa	3TP	横E-33	ad	—	—	—	—		耳飾製	81.1	6.5	6.1	2.4
287	26	Fa6	3TP	横E-33	ad	—	—	—	顔料		有孔石製品	12.3	4.3	3.3	1.5
287	27	Fa6	3TP	横E-36	tuff	—	—	—	—		有孔石製品　首飾状ミニチュア	6.2	2.2	1.5	0.3
287	28	A	3TP	横E-33	ch	—	—	—	—			15.4	5.8	2.0	3.4
287	29	Ko2	3TP	横E-43	tuffa	ff2	—	—	顔料			0.3	0.9	0.9	0.8
287	30	Ko3	3TP	横E-33	tuffa	ff2	—	—	—			0.5	0.8	0.7	0.7
287	4-426L1	Y	3D2-F3	横E-33	chr	—	—	—	—		指先石形に磨製起因剥離	8.5	2.0	2.0	2.0
287	4-1701	Y	3D2-H3	横E-33	chr	—	—	—	—		指先石形に磨製起因剥離	12.0	2.0	2.0	2.0
287	4-1931	Y	3D2	横E-33	chr	—	—	—	—		指先石形に磨製起因剥離	10.1	2.0	2.0	2.0
287	4-1941	指輪状石製品	3D2	横E-33	—	—	—	—	—		白粉付着	2.0	2.0	2.0	2.0
287	7-749	Ma	3D06	表採	横G-73	sh	—	—	—			6.5	2.0	2.0	2.0
287	7-763	Ma	3D06	表採	横G-60	sh	—	—	—			6.6	2.0	2.0	2.0
287	7-1930	Ma	3D2	3TP	横F-54	sh	—	—	—			1.0	1.6	1.0	0.6
287	7-6906	ヘラ状石製品	石器表土			tuffa	ab2	—				0.1	2.2	2.2	2.2

使用痕	
k	擦傷
ar	敲・打痕
Pc	敲打痕
Pm	磨痕
Pcr	ポリッシュ状痕
—	不明
—	不明
—	不明
—	不明
—	不明
—	不明

石材記号					
ad	凝灰岩	ar	凝灰質頁岩	tuffa	石英
ch	チャート	ayan	安山岩	chr	黒曜石
chal	頁岩	chal	正珪質頁岩	sa	砂岩
chal	頁岩	黒色粘土質頁岩	hch	ホルンフェルス	ch	珪質頁岩
ch	頁岩	本質	ad	凝灰岩	chr	黒曜石	黒曜石
dri	ガイライト	sh	頁岩	本質	chr	黒曜石	黒曜石
dcr	閃緑岩	ad	凝灰岩	本質	tuff	凝灰岩
Pm	粘土質頁岩	石器表土			tuffa	凝灰質頁岩
Fmgs	鉄石英	pa	珪化木			

付着物	
A	アスファルト
O	赤色顔料

加工技術	
Pc	敲打痕
Pc	敲打痕形
ab	研磨
ab2	部分研磨
ff2	平面研磨
ff	研磨

石器・石製品観察表の凡例

表 3　土製品観察表(1)

図版番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	焼成	備考	土師器区	正面文様	裏面文様	重量/g	長(下段)/cm	幅(下段)/cm	厚/cm
29	15	灯明	3D10	ブナ	横L-40		灯明土器素材		正輪L		30.3	7.3	6.8	4.0
29	16	灯明	3D10	ブナ	横L-41		灯明土器素材		正輪L		22.4	4.4	3.5	2.0
29	17	灯明	3D10	ブナ	横L-41		灯明土器素材		正輪L		27.5	5.0	5.5	1.0
29	18	灯明	3D10	ブナ	横L-43		灯明土器素材		正輪L		12.0	3.7	3.0	1.0
29	19	灯明	3D04	ブナ	横L-33				浮出線中		30.8	6.4	6.6	6.6
61	33	注口土器	3K10	ブナ		有					4.3	5.4	1.3	1.5
61	34	中空土偶	3K10	ブナ	横N-34			脚・腕	正面4本縦文	正面	10.0	4.0	3.0	1.0
15	5	灯明	3K19	ブナ			灯明土器素材		正輪L		19.9	6.3	4.0	6.8
89	28	土鈴	3D17	ブナ	横T-55			上明	網目	網目	1.2	2.0	2.0	2.0
92	12	土玉	3D04	ブナ							3.9	1.5	1.4	1.4
92	13	土玉	3D06	ブナ					正面	正面	30.0	3.0	3.0	3.0
132	33	錘車		3D-A	横L-53						11.7	3.3	3.2	2.0
132	34	錘車		3D-A	横L-53						4.4	2.0	2.0	2.0
132	35	土鈴		3D-A	横L-46		黒色付着物	上平面	横線	正面	30.6	5.0	5.5	1.8
132	36	灯明		3D-A	横L-53				正輪L		12.0	3.7	3.0	1.0
132	1	錘車		3D-B	横E-52				横線・斜方		25.9	5.9	5.4	4.8
132	2	錘車		3D-B	横E-52				横線		17.0	4.0	4.0	4.3
132	3	錘車		3D-B	横E-53				横線		11.6	3.5	3.7	3.2
132	4	錘車		3D-B	横F-53				正線・斜孔		40.7	6.0	6.0	6.0
132	5	馬形車		3D-B	横F-53						16.6	5.4	5.9	約25
132	6	馬形車		3D-B	横F-53				平行正線		25.4	7.1	6.0	約25
132	7	馬形車		3D-B	横F-53		正線切り				10.1	4.4	3.0	約25
132	8	馬形車	横ﾄﾚﾝﾁ-2	3D-B	横F-53		正線切り				26.1	7.7	5.8	約25
132	9	錘車		3D-B	横F-53				平行正線		25.3	5.9	5.8	約25
132	10	錘車		3D-B	横F-53						11.2	3.0	3.1	約25
132	11	錘車		3D-B	横F-53						12.7	4.0	2.5	約25
132	12	錘車		3D-B	横F-53		亀甲文		平行正線		17.9	5.3	7.2	約25
132	13	錘車		3D-B	横F-53						12.9	4.0	3.0	約25
132	14	錘車		3D-B	横F-53				平行正線		30.9	5.5	3.4	約25
132	15	錘車		3D-B	横F-53				平行正線		26.0	4.8	5.0	約25
132	16	錘車		3D-B	横F-53						35.4	5.1	4.9	約25
132	17	錘車		3D-B	横F-53						18.0	4.0	4.0	約25
132	18	錘車		3D-B	横F-54						20.0	5.7	5.2	約25
132	19	錘車	横ﾄﾚﾝﾁ-1	3D-B	横F-54						20.0	5.0	4.8	約25
132	20	錘車	1a22	3D-B	横F-54						30.9	5.5	5.6	約25
132	21	馬形車		3D-B	横F-55		亀甲に正線で囲む		正線		16.0	4.0	4.0	約25
132	22	錘車		3D-B	横F-55		小渦状		渦文		7.1	3.7	約25	約25
132	23	土鈴	横ﾄﾚﾝﾁ-1	3D-B	横F-55				正線		20.0	3.7	3.0	1.5
132	24	土鈴		3D-B	横F-55				正線		12.0	3.7	3.0	1.5
132	25	馬形車上面	横ﾄﾚﾝﾁ-1	3D-B	横F-55			背面形	横線・正線	横線	40.1	6.0	5.0	4.0
132	26	馬形車上面		3D-B	横F-55		横に正線	背面形	横線		40.1	6.0	5.0	4.0
132	27	馬形車上面		3D-B	横F-55		上下の線間に輪を上乗っている。	上面形	正線・斜方	正線・斜方	60.7	10.4	5.5	5.5
132	28	馬形車上面		3D-B	横F-55		横線横断はリブ状に盛り	背面形	横線・正線	正線・斜方	50.2	8.1	6.7	2.1
132	29	土鈴		3D-B	横F-55		胴部中軸に穿孔	上平面	横線	横線	35.2	6.0	5.7	2.1
154	31	馬形車上面		3D-B	横F-55	有	横杆状	背面形	横線・正線・斜方	横線・正線	26.3	4.5	4.7	2.1
154	32	馬形車上面	横ﾄﾚﾝﾁ-1	3D-B	横F-55			胴部形	凹	横線・斜方・斜方	4.1	1.5	2.8	1.0
154	33	土鈴		3D-B	横F-55	有		胴部	横線・斜方・斜方	正線・斜方	41.0	5.9	5.5	2.5
154	34	中空土偶		3D-B	横F-55	有		胴部	横線・正線・斜方	横線	78.4	6.9	6.0	5.8
154	35	土鈴		3D-B	横F-55			胴部	横線	横線	7.0	3.9	2.0	1.0
154	37	馬形車上面		3D-B	横F-55	有		胴部	横線・正線	凹	119.7	7.9	7.7	5.5
154	38	土鈴		3D-B	横F-55			胴部	横線・正線	横線	8.4	2.8	3.2	1.2
154	39	土鈴		3D-B	横F-55			胴部	横線・正線・斜方	横線	35.8	5.3	4.1	2.6
154	40	中空土偶		3D-B	横F-54	有		胴部横	横線	正線	40.1	5.1	5.4	6.5

表３　土製品観察表（２）

挿図番号	番号	器種	遺構名	層位	グリッド	重複	備考	土色指標	正面文様	裏面文様	底部：g	長（径）：cm	幅（径）：cm	厚：cm
155	10	土偶		第2層	調F-54			土師器	隆帯・沈線・網目	沈線	34.5	6.1	4.5	1.5
155	12	土偶		第2層	調E-52		わずかに隆起部による平ていている。	土師器	白	白	28.6	6.1	4.5	1.5
155	13	中空土偶		第2層	調F-53			石英	隆帯・沈線・網目	網目	34.9	6.6	4.5	1.5
155	14	土偶		第2層	調F-54			石英	隆帯・沈線	沈線・網目	16.2	2.9	3.5	2.1
155	15	土偶		第2層	調F-53			石英	隆帯	白	4.9	1.7	2.5	0.8
155	16	土偶		第2層	調E-52			石英	白	白	3.0	2.0	2.5	0.9
155	17	土偶		第2層	調F-53			輝石	沈線	沈線	5.9	3.2	3.5	2.0
155	18	土偶		第2層	調F-53			輝石	網目	網目	10.5	4.1	2.5	1.6
155	19	土偶	縄文1-2	第2層	調F-53			石英	沈線	網目	17.4	5.1	4.5	1.9
155	20	土偶		第2層	調E-52			石英	沈線・粗・縄文	沈線・粗・縄文	38.9	6.5	4.5	1.9
155	21	中空土偶	縄文1-2	第2層	調E-52			石英	沈線・網目	沈線	50.1	6.7	4.5	2.1
155	22	土偶		第2層	調E-52			石英	白	白	31.0	4.5	3.5	2.1
155	23	土偶		第2層	調E-53			石英	沈線	沈線	12.6	2.7	2.5	2.8
155	24	土偶		第2層	調E-53			石英	白	白	5.1	2.1	2.5	0.5
155	25	土偶	縄文1-2	第2層	調E-52			輝石	白	白	10.1	3.6	2.5	1.1
156	26	土偶		第2層	調E-52	有		石英	沈線	網目	8.7	3.5	2.5	1.5
156	27	耳付土偶	Tnl1ップ	第2層	調F-53	有		石英	隆帯・網目	隆帯・網目	16.1	4.6	6.5	3.6
156	28	土偶		第2層	調F-54			石英	沈線	白	36.4	10.0	8.5	2.8
156	29	中空土偶		第2層	調E-53			輝石	白	白	18.3	7.0	4.5	2.5
156	30	土偶	Tnl1ップ	第2層	調F-53			白	白	白	36.4	8.6	4.5	2.5
156	31	土偶		第2層	調E-52		コの字形文様、1点突出	石英	沈線	沈線	39.6	6.1	4.1	1.7
156	32	土偶		第2層	調F-53			石英	白		18.8	3.8	4.5	0.7
156	33	土偶胴	Tnl1ップ		調F-52		矢羽根状の抉り				40.8	4.1	3.5	0.8
156	34	耳飾り		第2層	調F-53		優位				2.3	2.2	2.5	0.6
156	35	耳飾り		第2層	調E-52	有					3.6	1.9	1.9	1.8
156	36	耳飾り		第2層	調F-52	有					2.9	1.8	1.9	1.9
156	37	耳飾り		第2層	調E-53	有					3.1	1.9	2.1	2.0
156	38	耳飾り		第2層	調F-53	有					4.0	1.8	1.9	1.8
156	39	耳飾り		第2層	調F-53	有					3.8	1.8	1.9	1.9
156	40	耳飾り		第2層	調E-53	有					2.2	1.7	1.5	1.4
156	41	耳飾り		第2層	調F-53	有					1.8	0.8	1.5	1.2
156	42	耳飾り		第2層	調F-53	有					1.5	1.5	1.5	1.5
156	43	耳飾り		第2層	調E-53	有					3.0	2.2	2.1	2.1
156	44	耳飾り		第2層	調E-53	有					11.1	3.5	3.5	2.1
157	1	鈴形	縄文1-2	第2層	調E-53						17.4	6.4	3.5	2.9
157	2	鈴形		第2層	調F-54		口縁と底状、肥厚				30.4	5.6	5.5	2.1
157	3	鈴形	Nn2ップ	第2層	調F-54						52.2	5.6	4.5	2.0
157	4	鈴形	Nn2ップ	第2層	調F-54		底円打撃痕				38.9	5.0	5.5	2.0
157	5	鈴形	縄文1-2	第2層	調E-53						39.9	2.9	4.0	2.0
157	6	赤ボール		第2層	調E-53						4.3	2.0	2.0	2.0
157	7	土製品	Nn2ップ	第2層	調F-54						10.1	3.0	3.5	3.0
157	8	土製品	Tnl1ップ		調F-56						29.0	5.5	5.5	2.0
157	9	中空土偶	Nn2ップ	第2層	調F-54		胴部	堀類型	隆帯・沈線・縄文	沈線	16.4	2.6	4.5	2.5
157	10	土偶		第2層	調F-54	有	胴部	輝石	白	白	10.5	4.5	2.5	2.1
157	11	鈴型文土製	Nn2ップ	第2層	調F-54		胴部打撃痕	石英	隆帯・沈線・網目	隆帯・網目	35.5	4.5	2.5	4.1
157	12	土偶		第2層	調F-54		胴部打撃痕	石英	隆帯	沈線	64.1	5.5	5.5	2.1
157	13	土偶		第2層	調E-52	有		土師器	沈線	沈線	30.9	8.0	6.5	2.1
157	14	土偶	縄文1-2	第2層	調E-53	有		石英	沈線	沈線	22.1	3.6	4.5	2.1
157	15	土偶		第2層	調E-53	有					3.2	1.9	1.5	0.8
157	16	土偶		第2層	調E-53	有	腰状				3.2	1.6	1.5	0.8
157	17	土製品		第2層	調E-52D				隆帯・沈線		12.7	3.0	4.5	2.5
157	18	円盤		第2層	調F-54		浮状工製品に形状は類似		平軸組・条件第1類	平軸組・条件第1類	52.0	6.1	4.5	2.5
157	19	円盤		第2層	調F-54		円周土器胴材		石英		35.1	5.5	4.5	0.9
157	20	円盤	生石ハニ?	第2層	調F-54		胴部厚さ途中		石英		16.0	4.6	4.9	0.8
157	21	円盤		第2層	調F-54		円周土器胴材		石英		27.1	5.5	4.5	0.9
157	22	円盤		第2層	調F-54		底部厚素材		土師器		34.8	6.4	6.0	0.9
157	23	円盤	縄文1-2	第2層	調F-54		底部厚素材		土師器		38.9	5.5	5.5	1.1
157	24	円盤		第2層	調E-53				土師器		4.9	2.5	2.5	0.7
157	25	円盤		第2層	調E-53				土師器		3.9	2.5	2.5	0.7
157	26	円盤		第2層	調E-53						24.7	3.5	4.5	2.1
157	27	赤ボール		第2層	調E-53						10.2	2.5	6.5	2.5
157	28	土製品		大溝	調F-59		3.9部分の変起				6.3	1.6	2.5	2.9
157	29	土偶		第1層	調F-56			土師器	隆帯・沈線	沈線	29.9	6.5	5.5	2.5
157	30	土偶		第1層	調F-56			輝石	隆帯・沈線・網目	沈線	37.0	5.5	5.5	1.8
157	31	土偶		第2層	調F-56			輝石	隆帯・沈線・網目		33.4	4.5	4.5	2.1
157	32	鈴型文土偶		第2層	調E-52		胴部に貫通孔、下に心棒痕	土師器	隆帯		46.3	4.5	5.9	1.2
157	33	中空土偶		第2層	調F-59		上半身	輝石	隆帯		42.0	4.6	5.1	2.5
157	34	土偶		第2層	調F-60			輝石	沈線		30.0	5.5	5.1	2.5
157	35	土偶		第2層	調E-61		石棒痕	輝石	隆帯・沈線	隆帯・沈線	38.4	4.5	4.5	2.5
157	36	鈴型文土偶		第2層	調E-60			輝石	網目	網目・沈線	45.5	5.1	4.5	3.8
157	37	中空土偶		第2層	調E-60			輝石			41.0	5.4	4.5	2.5
157	38	土偶		第2層	調E-61	有	胴部分		隆帯・沈線・網目		35.2	4.1	5.1	4.0
157	39	土偶	Tnl1ップ	第2層	調F-56				沈線	沈線	29.1	4.4	6.5	17.0
157	40	土製品		第2層	調E-61				白	白	43.3	5.5	4.5	2.5
157	41	円盤		第2層	調E-63	有					11.0	5.5	5.5	0.5
157	42	円盤		第2層	調E-56				石英		7.3	2.5	2.5	0.7
157	43	円盤		第2層	調E-61				石英		11.8	4.5	4.5	0.7
157	44	円盤		第2層	調E-56		孔の位置が中央でない		石英		14.1	4.5	4.5	0.7
157	45	円盤		第2層	調E-62				土師器		6.2	3.5	3.5	0.5
157	46	円盤		第2層	調E-61				土師器		5.8	3.5	3.5	0.5
157	47	円盤		第2層	調E-62				土師器		5.1	3.5	3.5	0.4
157	48	円盤		第2層	調E-62				土師器		16.6	4.1	4.5	0.5
157	49	円盤		第2層	調E-61				土師器		5.3	3.1	3.5	0.5
157	50	円盤		第2層	調E-61				土師器		5.7	3.1	3.5	0.5
157	51	円盤		第2層	調E-62				土師器		13.3	4.5	4.5	0.5
157	52	円盤		第2層	調E-61				土師器		8.7	3.9	3.5	0.5
157	53	円盤		第2層	調E-56		焼化物付着		土師器		43.0	5.4	6.1	0.5
157	54	円盤	Tnl1ップ		調F-56		土器円盤素材		土師器		7.1	2.5	2.5	0.5
157	55	土玉	SX06	第5層							0.5	1.1	1.1	0.4
157	56	土玉	SX06	第5層							0.4	1.2	1.2	0.4
157	57	土玉	SX06	第5層							0.5	1.0	1.0	0.3
157	58	土玉	SX06	第5層	調E-63			工半身	沈線	沈線・網目	12.3	3.5	3.5	2.4
157	59	土偶	SX06	第5層	調E-66			輝石	隆帯・沈線	隆帯	38.9	4.5	4.5	2.1
157	60	土偶	SX06	第5層	調E-61			石英	隆帯	沈線	13.1	3.4	3.5	1.8
157	61	円盤	SX06	第5層	調E-63		底部厚素材				31.9	5.5	5.5	2.1
157	62	円盤	SX06	第5層	調E-63						17.4	4.6	4.5	0.7
157	63	土偶		第1層	調F-53						6.9	2.5	2.5	0.5
157	64	土偶		第1層	調F-53		浮彫造形文				5.9	3.4	3.5	2.1
157	65	土偶	Nn2ップ	第1層	調F-53	有		堀類型	隆帯・網目	隆帯・網目	16.9	4.5	4.5	2.1
157	66	土偶		第1層	調E-63			堀類型	沈線・粗・縄文	沈線・粗・縄文	28.9	4.0	3.5	2.1
157	67	土偶		第1層	調E-63			輝石	沈線・網目	網目	15.3	3.0	3.5	1.1
157	68	土偶		第1層	調E-63			石英	沈線	沈線・網目	35.0	3.5	5.5	2.8
157	69	土偶		第1層	調E-63			工半身	沈線・縄文	沈線・縄文	60.3	5.5	5.5	2.1
157	70	土偶		第1層	調E-63				土師器		5.9	3.5	3.5	0.5
157	71	土製品		第1層	調F-53	有					4.6	2.0	2.5	0.5
157	72	土製品		第2層	調E-63						5.2	0.9	1.5	1.2
157	73	土偶形		第2層	調F-54						30.8	5.5	5.5	2.1
157	74	土偶形		第2層	調E-53	有					35.9	3.5	3.5	2.1
157	75	土偶形		第2層	調E-53	有					16.6	3.5	3.5	2.1
157	76	土偶形		第2層	調E-56		文様有り				5.9	1.5	2.5	1.8
157	77	土偶形		第2層	調E-55		口縁近の部分				11.4	3.5	4.5	2.1
157	78	土偶形	縄文1-2	第2層	調E-50						8.0	2.1	2.5	2.6
157	79	土製品		第2層	調E-56	有					2.9	2.6	3.5	1.9
157	80	土製品		第2層	調E-56						5.8	2.6	3.5	0.9
157	81	土偶	Tnl1ップ	第2層	調F-55			輝石	沈線	沈線	66.4	16.4	10.5	7.8

表3　土製品観察表(3)

図版番号	番号	器種	遺構名	地区	グリッド	重量	備考	上端部位	正面文様	裏面文様	胴部高(mm)	胴部厚(mm)	幅(底径)(mm)	厚(mm)
253	14	土鈴		93	調F-51	有		無疑	なし	なし	25.0	1.9	7.5	2.4
253	15	中空土偶		93	調B-55			頭部欠損	隆帯・連繋		23.2	1.3	7.5	2.4
253	16	土偶		93	調F-50			欠損	沒線・刺突・引潰文	沒線・引潰文	27.2	2.0	4.7	2.2
253	17	土偶		93	調B-55			右部	沒線	沒線	30.0	5.6	3.4	5.2
253	18	土偶		93	調F-51			右部	なし	なし	7.3	1.2	3.1	1.1
253	19	土偶		93	調X-61			不明	沒線		49.8	1.8	5.0	2.4
253	20	道具石		93	調F-55		磨痕				11.3	3.4	1.7	0.7
253	20	道具石		93	調G-54		磨痕				7.4	1.2	2.7	0.5
254	21	円盤	縄付け-3	93	調F-55			正右平			15.6	4.8	4.8	8.0
254	22	円盤		93	調F-55			正右平			11.9	3.6	3.5	6.5
254	23	円盤		93	調F-55			正右平			6.7	1.9	2.3	0.6
254	24	円盤		93	調F-55			正右平			6.1	1.9	2.1	0.6
254	25	円盤		93	調F-55			正右平			6.1	1.6	2.1	0.7
254	26	円盤	縄付け-4	93	調F-55			正右平			28.0	4.9	5.0	8.6
254	27	円盤		93	調X-59			正右平			15.9	5.1	5.0	9.5
254	28	円盤		93	調F-55			正右平			19.7	5.2	6.4	9.5
254	29	円盤		93	調X-56		河原土器素材、両面穿孔途中	正右平			34.4	5.9	5.7	9.8
254	30	円盤		93	調F-54		穿孔途中?	正無し			31.8	5.3	5.1	9.0
254	31	円盤		93	調F-56		土器内土器素材	正無し			36.5	5.5	5.6	9.7
254	32	円盤		93	調F-57		土器内土器素材	正無し			35.5	5.1	5.3	8.8
254	33	円盤		93	調F-62		土器内土器素材	正無し			35.5	5.5	4.4	9.9
254	34	円盤		93	調F-54			正右平			19.0	4.8	4.0	7.5
254	35	円盤	縄付け-3	93	調W-50			正無し			46.2	5.7	4.8	9.5
254	36	円盤	縄付け-3	93	調B-52			正無し			6.2	3.0	3.3	0.7
254	37	円盤		93	調F-56			正無し			6.1	1.6	2.7	0.6
254	38	円盤		93	調F-55			正無し			4.3	1.6	2.9	0.5
254	39	円盤		93	調F-55			正無し			13.3	3.0	4.7	0.5
254	40	円盤	縄付け-4	93	調F-55			正無し			11.6	4.0	4.1	8.2
254	41	円盤		93	調F-57			正無し			12.6	3.8	3.5	9.7
254	42	円盤		93	調X-57			正無し			16.8	4.8	4.6	8.6
254	43	円盤	縄付け-4	93	調F-55			正無し			16.1	4.2	4.0	8.6
254	44	円盤		93	調F-56		基盤文土器素材	正無し			8.9	1.3	3.5	0.6
254	45	円盤		93	調F-62		基盤文土器素材	正無し			11.1	2.3	4.1	0.5
254	46	土製紡錘		93	調F-56		転輪に転び跡?				20.3	1.2	7.4	0.3
256	1	鈴形	縄付け-5	鼎	調F-46		又鈴は単独	入口部欠損			65.0	6.0	4.1	8.0
256	2	鈴形		鼎	調F-53	有			工字文		55.3	5.1	5.0	8.0
256	3	鈴形		鼎	調F-50						7.9	1.7	3.6	2.0
256	4	道具石	縄付け-3	鼎	調F-50		磨痕				4.5	1.5	3.4	2.1
256	5	土偶		鼎	調F-40			頭部	隆帯・沒線・刺目		12.7	3.7	3.9	2.0
256	6	土偶		鼎	調G-55			頭部	隆帯・沒線・刺目		12.6	3.3	3.4	2.9
256	7	結束文土偶		鼎	調G-55			右部	沒線	刺突	15.8	2.2	4.4	1.3
256	8	土偶		鼎	調G-55		胴遺伝	頭部	隆帯・沒線	沒線	11.7	3.3	3.5	5.4
256	9	土偶		鼎	調G-55			頭部	隆帯	なし	30.0	5.1	5.4	3.0
256	10	土偶	tailピ?	鼎	調G-55				隆帯		22.7	6.1	5.3	1.4
256	11	円盤		鼎	調F-53				正右平		13.1	4.3	3.8	8.5
256	12	円盤		鼎	調F-54				正無し		23.5	5.3	5.9	8.6
256	13	円盤		鼎	調G-53/54		穿孔側付着		正無し		21.2	5.4	4.7	8.7
256	14	円盤		鼎	調F-54				正無し		13.4	3.7	3.4	8.6
256	15	道具石		鼎	調F-53	有					7.3	3.4	2.1	1.5
256	16	道具石	~21	鼎	調G-53	有					2.6	3.7	2.1	1.9
262	1	鈴形		1	調F-50		物質				7.1	1.8	3.1	1.4
262	2	結束文土偶		1	調F-54			上半身	隆帯・沒線		16.3	3.7	3.3	1.6
262	3	土偶		1	調F-53			頭部	隆帯・沒線		8.3	1.1	3.2	1.8
262	4	土偶		1	調F-54			頭部	隆帯・沒線		16.1	3.7	3.3	1.9
262	5	土偶		1	調F-53		コの字状文様		沒線・刺目	沒線・刺目	30.4	5.7	3.0	1.2
262	6	鈴形		372	調F-52						4.4	2.7	2.0	0.5
262	7	円盤状		372	調F-52						9.2	1.7	3.0	0.8
262	8	赤ハケ		372	調F-53		赤彩の跡				7.4	1.2	2.0	1.0
266	4	土偶		372	調G-53		指状突起を持つ	頭部	隆帯・沒線	なし	23.9	3.8	3.5	3.0
266	5	土偶		372	調G-53			頭部・左腕	沒線・結繋文	沒線・結繋文	123.1	10.7	6.6	2.5
266	6	土偶		372	調G-53		指状突起を持つ	頭部	隆帯・沒線		62.4	6.1	7.5	2.6
266	7	土偶		372	調F-53			上半身	沒線	沒線	39.5	5.1	4.8	2.0
266	8	土偶		372	調F-53			頭部	沒線	沒線	42.2	6.7	4.8	1.6
266	9	土偶		372	調F-54			右部	沒線	刺突	20.3	4.4	3.9	1.9
266	10	土偶		372	調F-53			右部	隆帯・沒線	沒線・刺突	19.6	3.8	3.0	1.6
266	11	土偶		372	調F-53			脚・腕	沒線	沒線	23.9	5.7	3.9	2.1
266	13	土偶		372	調B-53		コの字状文様		沒線	沒線	16.5	4.4	3.2	1.5
266	14	道具石		372	調F-53		石斧				11.0	3.1	4.0	8.0
266	15	円盤		372	調F-54				正右平		16.5	3.9	5.8	8.6
266	16	円盤		372	調F-60				正無し		11.7	4.1	3.3	8.6
266	16	円盤		372	調F-60		基盤文土器素材		正無し		14.2	4.4	4.5	0.7
266	17	円盤		372	調F-63				正無し		4.9	1.7	2.5	0.4
266	18	円盤		372	調F-60				正無し		3.8	1.3	2.2	0.7

第６章　総括

第１節　遺構の変遷

薬師遺跡における３ヶ年の発掘調査において、多数の遺構を検出した。それらによって構成される集落の変遷と各時期の特徴について、１　縄文時代前期、２　縄文時代後期、３　縄文時代晩期～弥生時代、４　古代以降、の４時期に分けて記載する。

１　縄文時代前期

調査区東部で前期末の竪穴住居跡が7軒検出された。いずれも円筒下層ｄ式期のものであるが、拡張される第２号竪穴住居跡や、重複関係にある第２・３・４号竪穴住居跡、第５号竪穴住居跡と第31号土坑、第7号竪穴住居跡と土坑・ピットなどがみられることから、短期間のなかにも集落の変遷をうかがい知ることができる。第５号竪穴住居跡では、確認面で半ば埋もれた晩期玉砥石が出土しており、前期末の竪穴住居は晩期にはまだ埋まりきっておらず、窪地であったことがわかる。

竪穴住居跡以外の前期末の遺構として、土坑、埋設土器遺構などが検出された。第43号土坑では、半円状扁平打製石器と深鉢が並んで出土している。第31･33･34号土坑は規模・形状に加えて、堆積土も褐色土を主体とするなど、類似点が多い遺構である。埋設土器遺構は７基（SR02･06･08･10･11･13･14）検出され、これらは56～61ラインに比較的まとまる傾向がみられる。また、第7号竪穴住居跡の近くで検出された第40号土坑も土器が接合しなかったが埋設土器遺構の可能性がある。

２　縄文時代後期

十腰内Ⅰ式土器と磨石・石皿が出土している第28号土坑や、後期前葉のフラスコ状土坑と思われる第22号土坑など、散発的に遺構が存在していたものと思われる。

３　縄文時代晩期～弥生時代

縄文時代晩期から弥生時代については、明瞭な時期的区切りを見いだせず、連続する期間の中で遺構が変遷するものと考えられることから、ここでは（１）盛土遺構形成以前の遺構、（２）盛土遺構と削平範囲（弥生包含層）、（３）盛土遺構形成開始後の遺構、として総括する。また、盛土遺構との時期関係が分からない縄文時代晩期の土坑墓については、（４）に記載する。

（１）盛土遺構形成以前の遺構

焼土遺構は25基検出されたが、盛土遺構形成前の晩期前葉～中葉と判断できるものが18基（SN07･09～25）検出された。これら焼土遺構は、晩期前半の遺物を多量に包含する包３層中に形成されており、活発な人間活動の一環を垣間見ることができる。他に建物跡１棟（SB01）、埋設土器遺構４基（SR01･04･05･12）、土坑30数基も当該期の遺構と思われる。

（２）盛土遺構と削平範囲（弥生包含層）

盛土遺構は、ロームと土層、炭化物層などが互層をなして形成されている。堆積層の中には、焼土が確認されているが、焼け面がないので、焼土層を廃棄したものと思われる。その構築は塚状あるいはマウンド状に盛り上げたものではなく、特定方向から土を廃棄もしくは盛った結果形成された可能

性が高い。盛土遺構の構成土は、堆積時期や傾斜角度、黒色土の醸成、母材となる土質の違いなどから大きく包２－Ａ層、包２－Ｂ層、包２－Ｃ～Ｇ層、包２－Ｈ層の４時期に分けられた。それぞれの出土遺物の時期は、包２－Ａ層が晩期終末から弥生時代初頭、包２－Ｂ層が大洞Ａ式、包２－Ｃ～Ｇ層が大洞C2式から大洞Ａ式、包２－Ｈ層は大洞C2式が多く出土し、晩期前半の遺物を多く含んでいる包３層を覆っている。

盛土遺構の構築時期については、埋設土器遺構２基(SR07･09)も看過できない事象である。第７号埋設土器遺構は包２－Ｈ１・Ｈ２ａ層で、第９号埋設土器遺構は包２－Ｇ２層で検出されたものである。これらに埋設されていた土器は晩期後半期の大洞Ａ式頃と目される。一方ⅢＨ－53グリッドでは、大洞Ａ式期の遺物(大洞Ａ式廃棄面)に褐色土を主体とする包２－Ｅ層が覆っている。つまり東側(57･58ライン)では大洞Ａ式期の前に盛土遺構があり、西側(53ライン)では大洞Ａ式の後に盛土遺構が作られていることになる。このことは、大洞Ａ式期に東から盛土を形成し始め、西方向へ進み、大洞Ａ式期中に包２－Ｂ層までの形成がなされたことと考えられる。そして晩期終末から弥生時代には包２－Ａ層が形成され、西端では弥生時代前葉まで盛土遺構が形成されたものと考えられる。

盛土層の土質からみると。その形成過程は次の試案が考えられる。

第１段階：縄文時代晩期遺物や焼土・炭化物を含むある地点の黒色土層(包３層・第Ⅲ層)を削り、包３層上部に廃棄もしくは盛る。　→黒色土を母材とする**包２－Ｈ層の形成**

第２段階：ある地点のローム質土(第Ⅳ層・第Ⅴ層)を削り、包２－Ｈ層末端に廃棄もしくは盛る。
→ローム質土を母材とする**包２－Ｃ～Ｇ層の形成**

第３段階：包２－Ｃ層南西部において、第２段階形成時もしくはそれ以前に祭祀活動や遺物廃棄活動が行われる。削る地点を変更して包３層・第Ⅲ層を削り、谷部分の包２－Ｃ層南西部に廃棄。人為的活動に加えて第２段階で形成した盛土の一部土砂が降雨や風雪等で流出・自然堆積し、これらの相互作用によって谷と遺物を埋めていく。
→黒褐色土とローム質土の互層である**包２－Ｂ層の形成**

第４段階：第３段階で削り取った地点の下位層(第Ⅳ層・第Ⅴ層)を削り、包２－Ｂ層の南西部に廃棄。　→ローム質土を母材とする**包２－Ａ層の形成**

出土遺物等の分析・検討を十分行ったわけではないので、あくまで形成過程の一試案であるが、各土層群によって構成土母材が明瞭に異なっていることは注視する必要があろう。

岩木山麓では、尾上山遺跡においても盛土と推定されている遺構が確認されている。他県においては岩手県大橋遺跡、秋田県向様田Ｄ遺跡などでも晩期の盛土遺構が確認されており、北東北における晩期の土木工事、あるいは精神世界観を垣間見ることにつながる貴重な知見を得られた。

盛土遺構には大量の土壌が堆積されているわけで、次に考えなければならないのが、どこから土を運んできたか、つまり土壌供給源の問題である。その供給源の一つとして考えられるのが削平範囲である。概ね61～68ラインまでは確実に縄文晩期の遺物包含層(包３層)、第Ⅳ層、そして第Ⅴ層の一部が欠落し、ロームとの漸移層から弥生時代遺物が出土したことから削平された範囲と考えた。黒曜石散布範囲でも弥生時代遺物が出土したことから､73ライン付近まで削平範囲が広がる可能性がある。

弥生時代遺物包含層(弥包層)の主体は五所式・井沢式とされる遺物で、縄文時代晩期～弥生時代初頭遺物は破片資料で客体的である。一方盛土遺構は出土遺物の状況から、大洞Ａ式頃に形成開始さ

図 289　盛土遺構・削平範囲の概念図

れたとみられることから削平範囲（弥包層）の出土遺物と盛土遺構からの出土遺物では時間的隔たりがある。しかし視点を変えると、削平範囲の土壌を削って盛土遺構を形成した時期と、削平範囲で弥生包含層を形成した時期が異なっていると考えることもできる。つまり、大洞Ａ式期に盛土遺構を形成するために削平範囲の土壌を削るが、そこでは広場など、遺構構築や遺物散布など生活痕跡が残されなかったことが考えられる。そして弥生時代五所式・井沢式期になって土器・石器・玉類（土製玉・管玉）を持ち込み、建物跡や土坑・焼土遺構などの生活痕跡が残された、ということが考えられる。

弥生包含層の上位層である包含層１層からも五所式・井沢式土器が出土しており、遺物図版では分けて掲載しているが、実際には弥生包含層と包含層１層で接合した遺物や、同一個体とみられる遺物が非常に多い。また火山灰分析によると弥生包含層には十和田ａ火山灰が、包含層１層には十和田ａ火山灰と白頭山苫小牧火山灰が含まれていることが確認されている。このことも考慮に入れると、地点によっては包含層１層と弥生包含層に分層されたが、実際は両層とも弥生時代から平安時代まで漸移的に堆積したものであったと思われる。

盛土遺構と削平範囲はいずれも調査区域外に延びている。昭和33年と35年の調査では、今回の調査区周辺から北側台地までの範囲に18箇所トレンチを設定している。盛土遺構に関しては、昭和35年調査Ｇ・Ｈトレンチ部分が盛土遺構の範囲に含まれるが、水路の北側にあったマウンドに設置された昭和33年調査Ｅ・Ｆトレンチでは、集石遺構やピットが検出されていて盛土遺構は延びてきていないようである。一方削平範囲に関して、昭和35年調査Ｄ・Ｅトレンチ周辺は「平坦地の拡張といった人為的平地の造成工作が行われたように感じられる」と田村誠一氏は記しており、今回の調査所見と整合するものである。昭和33年調査Ａ・Ｂ・Ｄトレンチでは、「遺構は特記されるべきものがなく、遺物もきわめて少量で」あったようで、この区域は削平範囲に含まれる可能性があるものの、盛土遺構にはならないことは確実であろう。

（３）盛土遺構形成開始後の遺構

貯水池状遺構とそれに接続する第５号溝跡からは、大洞Ａ式や前期の土器片が出土しているが、第５号溝跡底面からは、晩期終末から弥生初頭と思われる土器（図105－７）が出土した。小破片で、時期を決定づけるには弱いが、この時期には遺構として機能していたことを示すものである。大洞Ａ式期に盛土遺構が開始され、弥生時代初頭まで形成が続いたとみられることから、貯水池状遺構も盛土遺構と同時期に機能していた可能性がある。貯水池状遺構の具体的な機能は明らかにすることができなかったが、ピット列を伴う比較的大規模な遺構であることから、組織的に掘削作業を行う集団がいたことは確実で、盛土遺構形成集団と同一集団かどうか、関心がもたれるところである。

盛土遺構形成以後の遺構は、建物跡２棟（SB02･03）、土坑22基（SK46～60･62～68）、埋設土器遺構１基（SR03）、焼土遺構７基（SN01～06･07）、集石遺構１基、黒曜石散布範囲１箇所が挙げられる。これらの遺構の大半は削平範囲内に占地し、出土遺物の内容・量などから五所式期から井沢式期のものが多いと考えられる。土坑のうち、SK58から管玉が、SK66から小型の台付き浅鉢が出土しており、墓の可能性があるものと思われる。

（４）　縄文時代晩期の土坑墓

縄文時代晩期の墓と思われる土坑が、可能性のあるものも含めて27基検出された。土坑墓の平面形は長方形のものが多いが、楕円形もしくは円形を呈するものもある。土坑墓の規模についてまとめた

のが図290である。規模は長さ110～130cm程度、幅は50～60cm程度のものが多い。深さは15～30cmに大半が収まるが、上部が削平されているものが多いことから、本来はもっと深かったものと思われる。

検出された土坑墓には分布上、3つのまとまりがあることから便宜上、西から A～C 群とした。

土坑墓群A　ⅡX－39～42グリッド　11基(SK－01･02･03･04･05･06･08･09･10･11･18)

土坑墓群B　ⅡY－46～47グリッド　8基(SK-12･13･14･15･16･17･19･20)

土坑墓群C　ⅡW－81～83グリッド　8基(SK－21･23･26･29･35･36、可能性ありSK-30･32)

これらのうち、長軸方向のわかる平面形を有する土坑について長軸方位を示したのが図291で、全土坑墓と群別とで示した。全土坑墓では不明瞭であるが、群別でみると比較的各群の特徴を見出すことができる。A群ではN―20～50°―Eに収まるものとN―70～100°―Wに収まるものとに2分される。B群ではN―60～100°―Wにすべてが収まり、C群ではN―20～70°―Wに収まり、N－60～70°－Wにやや密な状況がある。A～C群とも西－東から北西－南東方向に長軸をとるものが多いが、A群では北東－南西に長軸をとるものが加わっていることがわかる。

本遺跡の西方には標高1,625mの岩木山があり、その山頂には北から巌鬼山、岩木山、鳥海山という3つの峰が連なっている。本遺跡からは概ねN－70°－W前後に3つの峰を臨むことができ、A～C群に共通する西－東から北西－南東方向に長軸をとるものと方向が合致してくる。一方、A群でみられる北東－南西に長軸をとるものは岩木山山頂方向に短軸が合致しており、言い方を変えれば長軸を岩木山山頂方向と直交するように構築しているとみることができる。一部の土坑墓(SK11･35など)は当てはまらないが、薬師遺跡の土坑墓は岩木山山頂に対して長軸をとるものと、長軸を直交させるものとがあるといえる。

土坑墓からは土器破片が若干出土しているもののいずれも副葬品とはみなしがたい。副葬品としてとらえられるのは、SK-05の平玉2点、SK-15の耳飾り1点、SK-23の平玉1点、SK-26の平玉34点である。つまり27基の土坑墓のうち4基のみであり、比率では14.8%であった。

土坑墓では時期を判断しうる土器類がほとんどないため、軸方向の違いや副葬品の有無の違いなどは時期差によるものなのか、別の理由に起因するものなのか、今回の調査では明らかにできなかった。

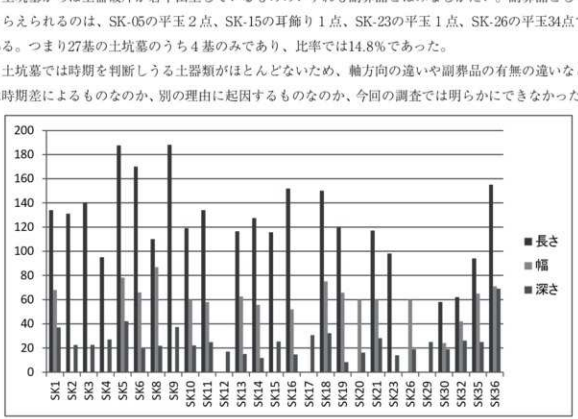


図290　晩期土坑墓の規模

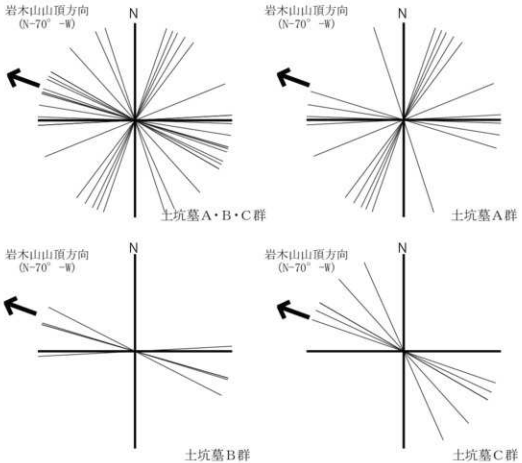


図 291　晩期土坑墓の主軸方位

4　古代以降

古代以降については、第24号土坑、第７号土坑・第６号溝跡、第１号溝跡が挙げられる。

第24号土坑から古式土師器の可能性がある球胴甕が出土した。復元個体１点のみの出土で、他に同時期の遺物がみられない。第７号土坑は調査中も湧水があったことと、その断面形状から古代以降の井戸跡である可能性がある。この上部を壊す第６号溝跡はこれよりさらに新しいものである。

第１号溝跡は調査区西側で検出され、幅約２m、深さ65～93cmの規模で、両端とも調査区域外に延び、長さ約20m以上あることを確認した。薬師遺跡の立地する台地について、村越潔氏は『岩木山』の報告書中に「あたかもチャシのような形状を呈するこの台地」と表しているが、「新岡村領絵図　文政七年」（弘前市立図書館蔵、図15）には薬師遺跡の立地する三角形状に張り出した台地部分に「夷館」と記され（図292）、その南側には水路と思われる水の流れがある。また昭和33年調査の薬師Ⅰ号遺跡発掘調査報告書（『岩木山』）には空壕があるとの記載があり、それは絵図にある水路とは軸方向を異にしている。この空壕は南側で水路に接しており、そこから台地を横切るように東方向へ屈曲するのではないかと思われる。台地先端にある「夷館」を守る壕であれば、そういった配置がなされる必然性がある。「夷館」の廃絶後、水路を開削する際、空壕を利用して絵図にあるように水路を作出したものと考えられることから、今回検出した第１号溝跡は、館の壕から外れた水路部分を検出したものではないかと考えられる。

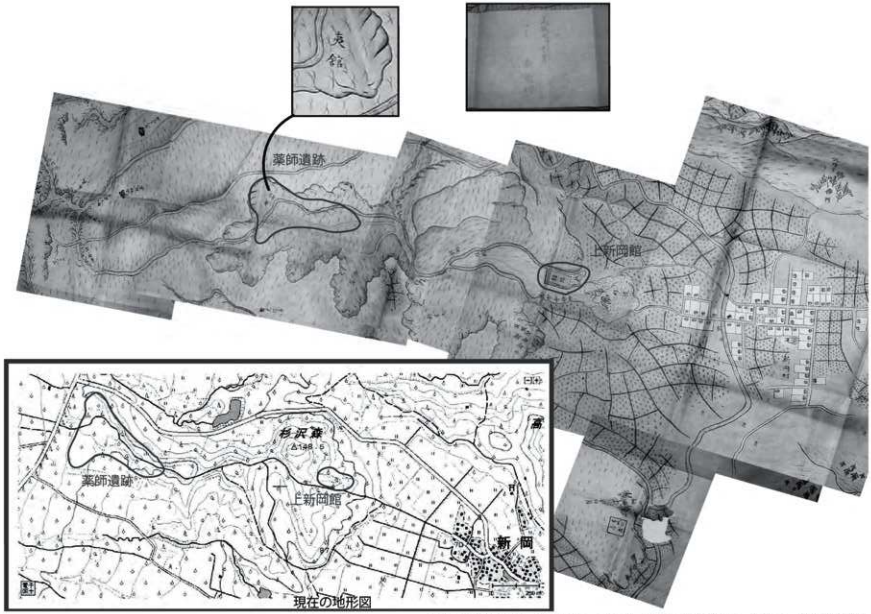


図292　新岡村領絵図と薬師遺跡

※「新岡村領絵図　文政七年」（1824、弘前市立図書館蔵）を改変、遺跡範囲等を加筆。
絵図全体は図15を参照。

第２節　縄文土器

縄文土器は、１　前期：円筒下層式、２　後期：十腰内式、３　晩期：大洞式の各土器が出土した。

１　前期：円筒下層式

大半が円筒下層ｄ式期であり、住居一括資料や埋設土器遺構として出土している。一般的な深鉢が最も多いが、器高の低い鉢（図35－３、図259－１）や台付き土器（図259－５）も出土した。特徴的な土器として、円筒下層ｄ２式と思われる胴部上半部が膨らむ形状の土器が３点（図28－１、図35－１、図259－４）、竪穴住居跡や第Ⅳ層から出土している。大木６式土器に球胴形深鉢が多くみられることから、その影響を少なからず受けたものであろう。また、包含層３層から半球状の大形突起を持つ内傾口縁の土器片（図216－１）が出土した。内面に化粧粘土を塗り、胎土には小石などが混入する。類例は確認できなかったが、北陸など他地域の系統の土器と思われる。

２　後期：十腰内式

後期前葉の十腰内Ⅰ式のものが若干出土し、わずかながら後期中葉（十腰内Ⅱ式）、後期後葉（十腰内Ⅳ式）のものが存在する。後期前葉のものはSK27･28、SD08、各包含層から、中葉のものは第Ⅲ層から出土した。後葉のものは、注口と思われる瘤付土器片がⅢＦ・ⅢＧ－53･54グリッドの包２－Ｂ層（図124－１）、包１層（図208－２）、Ⅰ層（図283－１）から各１片、計３片が出土しただけである。接合はしなかったが同一個体と思われる。

３　晩期：大洞式

晩期の土器は各包含層から出土しているため、下位の包含層から特徴等を記載していく。

（１）第Ⅲ層

包３層下位にある第Ⅲ層は、十腰内Ⅱ・Ⅳ式や円筒下層ｄ式期の土器の他に、晩期前半期の土器が出土し、幅広い段階の資料を含んでいる。ただ主体は晩期前半の土器である。

（２）包含層第３層（図293）

土器組成としては、深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口、片口などで構成されている。

浅鉢は雲形文が展開した資料が多く、口縁部も彫刻的な手法で飾られているものが多数ある。特にSN17から出土した浅鉢（図88）は大形品であり、薬師遺跡出土土器の大半は胎土に小石が混入するなど粗い胎土を用いている中で、胎土の精製度や彫刻の肉彫り的な面など、他の土器と比較し良好な作りの土器である。時期は大洞Ｃ１式と考えられる。他に、無文で皿に近い浅鉢が出土している。

鉢形土器は、SN17から出土した三叉文が口縁部に展開しているものや、口縁部に平行沈線が数状巡りその下に突起を持つもの、同じ文様を有する台付き資料などもあり、多様な特徴を有するものが出土している。コップ形状（図上復元）で底部に４つの孔を持つ無文土器（図220－10）もある。これは新潟県元屋敷遺跡などで出土している多孔底土器の一種と思われ、濾過器として使用された可能性が想定されている。鉢形土器類は、その特徴からおおよそ大洞Ｂ式からＣ１式の段階と思われる。

深鉢は、縄文施文の内湾した口縁部を持ちＢ突起がつくものが多い。炭化物が付着しているものもある。中には入組文をもつ大形の深鉢（図224－１・２）が出土し、類例は大森勝山遺跡などにある。

また晩期後半に属すると思われる平行沈線が何条も巡る深鉢が確認されている(図224－３)。

壺は小型から大型まで法量に差がみられ、無文と縄文施文がある。徳利形も数点出土している(図228)。図228－１は、算盤玉の体部に長い頸部を有する器形で、その特徴から大洞Ｃ１式と思われる。類例に五所川原市五月女萢遺跡出土例がある。またSN17や埋設土器でも大形の壺が出土している。

注口土器は晩期前葉から中葉までのものがみられ、ⅢＪ-57グリッドで４点まとまって出土している。また近場のグリッドでも数点確認されており、注口土器の分布に偏りがみられる。

片口土器(図221－11)は、無節の縄文を施文し、口縁部にＢ突起を持つ。

上記以外に、SN17では表面にケズリ調整のみの無文深鉢と壺が出土している。器体の部位によってケズリの方向に差異がみられる。

このように包３層出土土器は、およそ大洞Ｂ～Ｃ1式が主体で、同時期に形成された包含層と考えられる。土器型式の分布については、おおむね南側のⅢＧ・Ｈあたりに大洞Ｃ１式などの中葉期の土器が分布し、北東側の方のⅢＫ・Ｊ一帯に大洞Ｂ・ＢＣ式などの古手の段階が分布する傾向がある。

(３)包含層第２－Ｃ～Ｇ層とＨ層(図294)

盛土遺構に相当する包２－Ｃ～Ｇ層では、鉢・台付鉢・深鉢・壺などが出土している。

鉢形土器は平行沈線を持つものが確認されている。台付鉢は平行沈線と工字文をもつものが多く出土している。図12－９は台付鉢の内面に漆が塗られ、刷毛ではいたような痕跡が認められる。漆製品の塗布する際のパレットの様な用途に用いられたと考えられる。

壺類は、工字文を肩部に展開する資料がみられる。図168－５は、破片の多くが水道管設置工事の際に巻き込まれ、底部が欠損している点で、全体像を知ることはできないが、盛土時期を決定する上で貴重な資料である。薄い器壁の資料で、他の土器と比較して非常に良質の胎土を用いている。肩部に流水状工字文風の文様が展開し、文様を区切るように、縦に沈線が４条走る。頸部との境には沈線間に矢羽根状の刺突が２条めぐっている。大洞Ａ式でも比較的古手の段階に属する資料である。

上記の特徴から包２－Ｃ～Ｇ層では、出土土器の内容が大洞Ｃ２式の資料も含まれるが、大多数は大洞Ａ式段階の資料である。包２－Ｈ層は、包２－Ｃ～Ｇ層よりもやや古手の土器が出土している。

(４)包含層第２－Ｂ層(図294)

土器組成は、鉢・台付鉢(四脚土器)・深鉢・壺などで構成されている。

鉢は、多くは平行沈線が口縁部に巡る資料である。図125－１は流水状工字文に矢羽根状文様をもつ体部片である。台付鉢は工字文をもち、赤彩など多様な特徴を持つ。無文の台付鉢(図124－13･14)は、文様を持つ台付鉢と比較すると趣を異にしており、同時期の資料でこうした形状の蓋形土器があることから、これらも蓋の可能性がある。

深鉢については、口縁部に平行沈線が巡るもの、縄文施文のみのものが多数出土している。晩期前半期と比較し、口縁部が直立もしくは軽く外反するものが多くなる。埋設土器などで条痕文土器が確認されているが、未図化資料の体部片を含め、おおむねこの段階の資料に帰属すると思われる。

壺は無文資料が多く、また二個一対の状態で出土した資料も何組か確認され、口縁部分に鉢で蓋をした状態で出土した資料もあるが、現状ではその意味は不明であり、類例などまとめる必要があろう。

包２－Ｂ層から出土した土器は、上記の特徴から大洞Ａ式期に比定されると思われる。

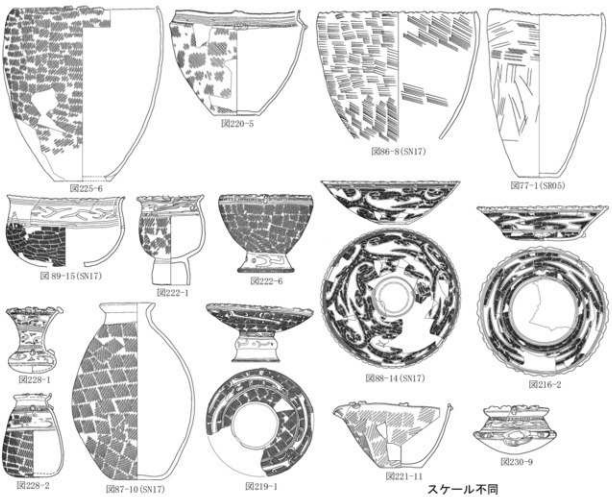


図 293　包含層第３層出土土器

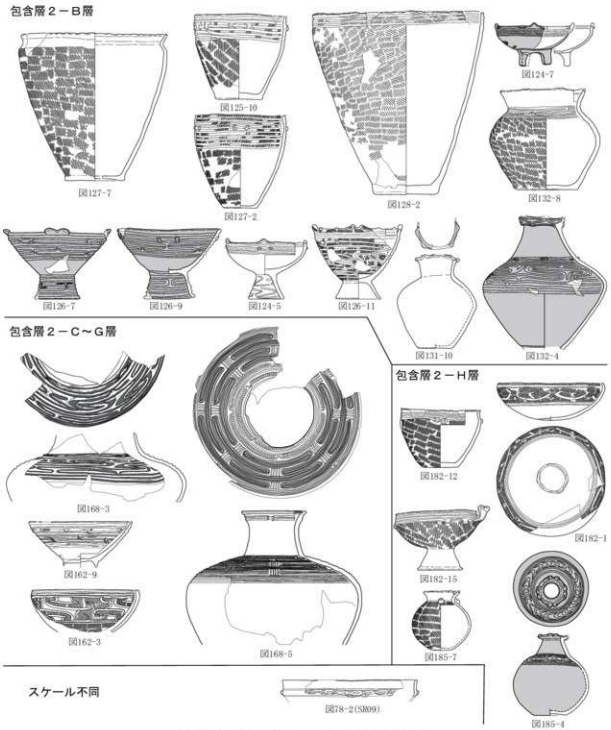


図 294　包含層第２－Ｂ～Ｈ層出土土器

第３節　弥生土器

包含層１層、弥生包含層、包２－Ａ層、黒曜石散布範囲からまとまった弥生時代の土器が出土した。器種構成は、甕・壺・高坏(台付鉢)、若干の蓋形土器で構成されている。

この地域の弥生文化の様相について、伊東信雄(1960)は田舎館遺跡出土の土器を検討した結果、大洞Ａ'式の伝統を引きながらも、弥生時代の影響を受けていると見通しを立てた。そして垂柳遺跡の資料を基に、田舎館式土器を２つの系統にあることを指摘した。ただ層位的に同一層から出土しており、時間的な前後関係を捉えるには至らなかった。そして田舎館式と大洞Ａ'式との間には大きな差があるので、間を埋める土器型式の存在を示唆した。後にこの間は砂沢式(芹沢1960)、五所式(村越1965)、二枚橋式(須藤1970)の設定で整理された。

須藤隆(1970)は二枚橋式の分析を通して、砂沢式を大洞Ａ'式の直後に置き、五所式と二枚橋式土器を後続する土器型式に置いた。五所式は砂沢式と二枚橋式との型式的な連続性は弱いとした上で、青森県内ではこの時期に、津軽・下北地域の二系統の土器文化があることが指摘された。そして資料が蓄積されていく過程で、五所式と二枚橋式の後続型式に井沢式や宇鉄Ⅱ式などを設定し、田舎館式前段階の土器型式とした(須藤1990)。近年東北地方のこの時期で、編年・文化観の再構築などが進められており(高瀬2004など)、五所式を弥生中期にいれるなど、須藤の編年観と時代区分と差がみられる。しかし土器型式の編年的な順序では変更はほぼみられないので、ここでは時代観などにあまり触れず、砂沢式、五所式、井沢式、田舎館式という土器型式の変遷の枠組みで薬師遺跡の弥生土器について検討する。

砂沢式土器は、甕、鉢、高坏などで構成され、太い沈線と明確な瘤を持ち、肉彫り風の変形工字文(Ａ型)や波状工字文、刺突文、口縁部の波状突起が高まるなどの特徴を有する土器である。薬師遺跡では溝跡や第Ⅰ層などから出土している資料が該当する。

五所式は多条化する沈線、口唇部に沈線が巡らない、変形工字文(Ｂ型)の発達、文様部にあるコブの未発達などの特徴がある。大半の薬師遺跡の弥生土器は、多条化した沈線文を中心とした、変形工字文Ｂ型や波状工字文、波状文、刺突文で文様を構成し、沈線も砂沢式と比べ細くて鋭く、五所式の特徴を有している資料が多い。また胎土の面でも、砂沢式の資料は精製の胎土を用いているが、五所式段階と推定される資料はそれにくらべ胎土が粗い。こうした特徴から薬師遺跡の弥生土器は砂沢式段階よりも新しい時期に位置づけられる。

田舎館式との関係では、垂柳遺跡出土の田舎館式を７つのグループに分類し、二枚橋遺跡との比較から、二枚橋遺跡の伝統、二枚橋式にはみられないグループ、わずかにみられる、の３つに区分されている(須藤1970)。二枚橋式の伝統には長頸甕や複雑化した波状工字文を持つ台付深鉢、わずかにみられる要素として、短頸壺と蓋形土器の存在、二枚橋式にはみられない要素として鋸歯状山形文を有する短頸の甕形土器や磨り消し縄文手法を有する台付き浅鉢、無頸壺の存在をあげた。

薬師遺跡の弥生土器は、無頸壺や鋸歯状山形文を有する土器がない点、土器組成における蓋形土器の割合が低いこと、高坏の存在などから、少なくとも田舎館式より古い段階の様相を持つ土器である。以上の特徴から薬師遺跡の弥生土器は砂沢式よりも新しく、田舎館式土器よりも古い段階に位置づけられ、当資料は五所式・井沢式の範疇に入ると思われる。

五所式は、標識遺跡である五所遺跡の資料が断片であり、不明確な点も多いが、砂沢式との比較か

ら、変形工字文B型の発達、沈線の多条化、口唇部沈線の欠如、変形工字文の瘤の未発達などの特徴が挙げられている。

井沢式は、五所式や田舎館式との比較を通して、外反口縁を持つ甕(頸部に平行線、列点文、刺突文)・台付き深鉢・鉢・蓋・壺・広口壺を主な器種構成とし、高坏の減少といった特徴を有している。文様として、流水文的な変形工字文や鐙形文、隆帯の発達などがあげられる。

両型式は上記のような特徴を有しており、次に薬師遺跡の弥生土器が五所式と井沢式におけるどの段階に相当するかを検討する。

[甕形土器]　茶褐色の胎土を用い、大形品から小形品まであり、RL縄文が縦走する資料が多い。頸部直下に刺突や平行沈線が施文されている。こうした資料は、五所遺跡でも出土しているが、むしろ田舎館式など後続する土器型式に繋がる資料である(須藤1970)。全体的には井沢遺跡出土土器の内容と酷似しているものが多い。

弥生包含層から出土した頸部にハケメを持つ資料(図203－９)は、垂柳遺跡に類例がある。SN03から長頸甕が出土している。

[壺形土器]　壺形土器については、SK55から膨らみが強く、球形の体部で、流水工字文を持つ資料が確認され、類例は五所遺跡で出土している。また短頸壺や流水状工字文を持つ大形の壺形土器などが確認されており(図202－１、２)、津山遺跡などでも類例が確認されている。SP43では、大形の壺が出土し、流水状工字文が簡略化されたような文様がみられる。

またSK53 では、沈線で縦区画をし、その部分は縄文が施文されず、区画間に鐙文が崩れ、三日月形の文様を展開した土器(図68-2)が出土している。井沢式などでも比較的類似した特徴を有する壺形土器が出土している。また五所式にみられない要素に、頸部や胴部の隆帯が指摘されているが、薬師遺跡では数点(図210-15など)確認されている。

[蓋形土器]蓋形土器は１点(図209-30)のみ確認できた。

[高坏・鉢・台付鉢など]背の高い台部を持つ高坏が多数確認されている。文様としては、細い沈線が口縁内外面に重層している。瘤は低く目立たないものであり、変形工字文B型が展開する。胎土の多くは比較的橙色の粗い胎土を用い、上記の甕形土器と異なる資料が多い。五所遺跡でも多数確認されている器形でもある。SK65では三角形状の変形工字文が連繋し、その上部に刻みを持つ高坏が出土している。変形工字文は、高坏以外に、鉢・浅鉢などに施文されている。

波状工字文が施文される鉢はSP50から出土しているが、これ以外に波状工字文はほとんどみられず、変形工字文が圧倒的に多い。

弥生包含層から出土した台付き深鉢(図200－３)は井沢遺跡に、同じく弥生包含層出土の崩れた波状工字文が施文される小鉢(図200-13)は垂柳遺跡に、それぞれ類例がみられる。

[まとめ]　以上の点を踏まえると、薬師遺跡出土の弥生土器は、弥生時代前期から中期前半段階の砂沢式、五所式、井沢式期の資料が出土している。ただ砂沢式は第Ⅰ層や溝跡などから出土しており、帰属層が不明瞭な場合が多いので、大半は五所式・井沢式期の資料である。出土状況から両型式を区分することはできず、混在した状況である。

弥生土器が確認できたことから考えなければならない点は、農耕が行われていた痕跡が存在するかである。焼土遺構から種子同定を行った結果、ヒエなどの食用となるイネ科植物の検出は確認できな

図295　弥生時代 土器

かった。後述する石器でも、縄文時代晩期からの連続性が伺え、農耕に関わる道具へと石器組成などが変化した様相が伺えないことから、この地で農耕が行われていたと積極的に言及できる要素が認められなかった。

[その他]　SK24 から古式土師器に類似した球胴甕(図62－５)が出土している。胎土、表面調整(ハケメやナデ)の点で、他時期の土器と比較し異質である。どの段階に属する資料かは現状では明言できない。

第４節　石器

１　各石器について

【石鏃】 石鏃は他の石器と比較して時代や地域性が反映されており、石鏃の形状などを分類することは、石器から編年や地域性を示す貴重なデータを提供する。薬師遺跡では、包２－Ｂ層、包２－Ｃ～Ｇ層、包２－Ｈ層、包３層、第Ⅲ層が晩期の前半と後半に、包１層、弥包層、包２－Ａ層が弥生時代に分かれるので、この間に大きな変化があるかを検討した。

石鏃の石材は９割近くが珪質頁岩であり、若干赤色の珪質頁岩、黒曜石、玉髄、玉髄質珪質頁岩が加わる。各層において、その割合に変化はない。

形状は尖基有茎鏃（Ata）が大半であり（表４）、平基有茎鏃（Atb）や尖基鏃（Aa）がそれに続く。平基有茎鏃、尖基鏃と尖基有茎鏃は、分類境界が不明瞭であり、どちらにも分類できる資料が多々あった。また無形鏃の中でアスファルトが付着するのは尖基鏃のみであるので、この３形態は製作上における程度の差と考えられる。

表４　層位別石鏃分類

		Aa	Ab	Ac	Ad	Ata	Atb	Atc	総計
縄文	Ⅲ	9				15	7		31
縄文	包3	7	1		1	28	4		41
縄文	包2-H	4		1		18		1	24
縄文	包2-C～G	12		2	1	31	13	1	60
縄文	包2-B	19	1	1	3	171	17	1	213
弥生	包1	6				54	7		67
弥生	弥2-A		1			4			5
総計		57	3	4	5	321	48	3	441

形状の点で他地域と比較してみると、薬師遺跡では凹基有茎鏃少ないため、かえし部が発達した石鏃はほとんどない。同時期の関東・中部で凹基有茎鏃が多く、それに加えて五角鏃、飛行機鏃、鋸歯やかえしが発達した形態が多い。そのため、薬師遺跡において石鏃の製作の点で他地域の影響を受けたような痕跡は確認できなかった。

次に石鏃の規格について検討する。長さに変異が大きいので、0.5cmごとに区分して傾向をみてみた（表５）。縄文晩期全体としては３から3.5cmにピークがある。包２－Ｂ層、包３層、包２－Ｃ～Ｇ層、包２－Ｈ層、第Ⅲ層の各段階で、特にどの段階に突出した規格の石鏃が偏って分布するようではなかった。また厚さは0.5cmをピークに0.4から0.7cmが多く、１cm近くはほとんどない。重量も1.5gをピークに0.7から３ｇの間が多く、４ｇを越える資料はほとんどない。

表５　層位別石鏃長さの分布（単位は cm「以上～未満」）

晩期全体	
長さ	全体
1.5～2	3
2～2.5	37
2.5～3	67
3～3.5	96
3.5～4	86
4～4.5	50
4.5～5	19
5～5.5	5
5.5～6	3
6～6.5	2
6.5～7	0
7～7.5	1

包2-B層	
長さ	完形品
1.5～2	0
2～2.5	8
2.5～3	14
3～3.5	37
3.5～4	32
4～4.5	17
4.5～5	6
5～5.5	4
5.5～6	2
6～6.5	0
6.5～7	0
7～7.5	1

包３層	
長さ	完形品
1.5～2	1
2～2.5	4
2.5～3	4
3～3.5	9
3.5～4	4
4～4.5	1
4.5～5	3
5～5.5	0
5.5～6	0
6～6.5	0
6.5～7	0
7～7.5	0

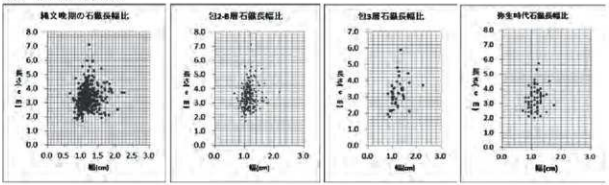
弥生時代	
長さ	完形品
1.5～2	0
2～2.5	9
2.5～3	7
3～3.5	7
3.5～4	9
4～4.5	11
4.5～5	5
5～5.5	1
5.5～6	1
6～6.5	0
6.5～7	0
7～7.5	0

表６は、第Ⅲ層、包３層、盛土、包２－Ｂ層から出土した完形石鏃の長幅比である。幅は長さに対して半分以下の割合が高い。長幅比が１：１になるのはわずかである。

鏃身の形状は、長幅比の関係からも伺えるように、二等辺三角形状が大半であり、若干三角形や五角形がみられる。また側辺が細かな剥離で鋸歯状に加工された石鏃が包１層（図211－12）やSK39（図62－39）などから出土している。ただ北陸方面で出土しているような明瞭な鋸歯縁の作りだしは、薬師遺跡の場合認められない。

石鏃の製作について、石鏃未成品が確認でき、中には包含層２－Ｂ層の図136-217のような縦長剥

表６　層位別石鏃長幅比



片を素材とし、素材両側辺を両面加工で整形している石鏃製作の初期工程の資料も確認でき、遺跡内で石鏃を製作していたと思われる。

使用に関しては、165点に石鏃の破損が確認でき、先端破損が88点と多く、次いで茎部と基部で46点、先端と茎部・基部両方で28点出土している。中には衝撃剥離で破損しているので、石鏃の用途という点からみれば破損する確率が高い点は理解できる。また衝撃を発生させる用途以外に、先端部に摩滅がみられ石錐として用いられた資料が包２－Ｂ層から出土している。

このように薬師遺跡の晩期前半から後半にかけての石鏃は、形状・規格的に大きな変化は認められなかったので、晩期を通して一貫した石鏃の製作が行われたと考えられる。

弥生時代に関しては、包１層、弥包層、包２－Ａ層について検討した。結果的に縄文時代の石鏃と差はなく、晩期から弥生時代にかけて一貫した石鏃生産が行われたと考えられる（表４～６）。

【石匙・削器】　藤森栄一は(1935)、石匙の片刃・両刃の差を用途・地域性に関わると指摘している。そこで包２－Ｂ層、包２－Ｃ～Ｇ層、包２－Ｈ層、包３層、第Ⅲ層、包１層、弥包層、包２－Ａ層の資料を用いて、石匙と削器の刃部加工に変化があったかを検討した。

表７　石匙と削器の刃部加工

	縄文時代晩期				弥生時代			
	表刃	片面	両面	総計	表刃	片面	両面	総計
縦形石匙	14	7	18	39	3	1	4	8
横形石匙	4	7	30	41	2	1	3	6
削器1	2	101	37	140		14	1	15
削器2		3	8	11			1	1
総計	20	118	93	231	5	14	9	30

削器については、Gb2と分類した両側辺加工の削器２はアスファルト付着資料から判断すれば、片側辺が刃部であり、アスファルト付着側の辺は基部として機能していたと推定される。推定される刃部から判断する限りこれらも大半は両刃である。類似した形状の石器は秋田県秋田市上新城中学校遺跡（秋田市教育委員会1992）、岩手県北上市大橋遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006石匙Ⅴ類：摘まみの小さいもの）などでも出土し、これら資料も刃部は両刃が多い。

片刃が主体的になるのはGb1と分類した削器１である。

弥生時代の場合も晩期と同じ傾向が伺えるので、石匙、削器の刃部の特徴は晩期からの継続である。

縄文時代前期は、薬師遺跡では明確な資料がないので他の成果を代用すると、縄文時代前期の石匙の刃部を検討した結果、円筒式土器期に属する石匙は片刃が多いことが指摘されている（髙橋2012）。

このように縄文晩期と弥生時代の石匙と削器の刃部を比較すると大きな変化は認められない。しか

し縄文前期円筒下層式期の石匙の刃部を比較すると、片刃と両刃という形状の差がみられる。このことは刃部加工における晩期から弥生時代への継続性と、晩期と前期の石器製作技術などの差と捉えられる。刃部形状の差が用途と関わっていたかは使用痕分析などを通して検証していく必要がある。

【磨製石斧】　加工技術と石材の関係でみると（表８）、緑色岩を用いる磨製石斧は、擦切痕を有するのに対し、それ以外の石材は、擦切痕がみられず、敲打整形が顕著な磨製石斧が主体を占める。

他の縄文晩期の遺跡で出土している磨製石斧も同じような傾向を示しており、石材と製作技術の関係は相関性が高いと思われる。擦切具が出土しているので、磨製石斧との関係については、さらに検討が必要である。

表８　磨製石斧の石材と加工技術

	研磨のみ	剥離	敲打	敲打+剥離	敲打+擦切	擦切	総計
安山岩		1					1
花崗閃緑岩		1					1
斑岩		1					1
緑色凝灰岩				1			1
閃緑岩			1	1			2
凝灰岩	1			1			2
片岩	1			1			2
粘板岩			3				3
粗粒玄武岩	4	1	1				6
緑色岩	4	1	3	3	2	1	14
総計	10	5	8	7	2	1	33

＊研磨整形は省略

【石皿・磨石】

［形状と製作］　石皿は、縁有りのTa1と縁なしのTa2に分かれる。Ta1はガラス質安山岩素材が多く、敲打整形がなされているのに対し、Ta2は安山岩などの扁平な礫を使用し、加工はみられないものが多い。

表９　石皿磨面の形状分類

	PoA	PoB	PoC	PoD	PoE	総計
縁有り	2	23			1	26
縁なし			4	25		29
総計	2	23	4	25	1	55

［磨面］　次に機能面についてみてみる。磨面の断面形状から５つに分類した（図296、表9）。Ta1は機能面が深く磨り減る（PoA）は少なく、わずかに機能面が磨り減っている（PoB）が主体的である。Ta2に関しては、円もしくは楕円形の平面形状でその部分が磨り減っている（PoC）が４点であり、他は機能面が磨り減りわずかにくぼむ（PoD）が主体的である。

次に付着物との関係である。表10の通り、赤色顔料はPoA、PoC には確認できなかった。しかし、観音林遺跡第八次（五所川原市教育委員会1990）や、土井Ⅰ号遺跡（板柳町教育委員会1993）出土の凹みのある石皿（PoC）には赤色顔料が付着しており、石皿の機能面の差が用途とどのように関係するかの傾向はつかめなかった。

表10　石皿磨面形状と付着物

	黒色付着物	赤色顔料	総計
PoA	1		1
PoB		1	1
PoC			
PoD		2	2
PoE			
総計	1	3	4

土器や土製品などに赤色顔料が付着している資料が多く、顔料素材の石や粉末が出土しているので、遺跡内で顔料が製作され、これら製品に塗布されたと思われる。

［凹み痕］　Ta1は裏面側の縁に沿って蜂の巣状の凹みが確認されている。同じ痕跡を持つ資料は土井Ⅰ号遺跡（板柳町教育委員会1993）、大森勝山遺跡（弘前市教育委員2010）、観音林遺跡第七次（五所川原市教育委員会1989）、亀ヶ岡遺跡（青森県立郷土館1984）などにおいても見いだせる。これらの痕跡は敲打整形としては深く、凹石の使用痕と同じ特徴を有している。こうした痕跡は関東・中部では中期末以降一般化してくるので、形状の類似性から使用した痕跡とも考えられる。

［その他］　筋砥石は円筒下層式期の住居から出土したが、晩期関連の層からは出土していない。ただ出土状況から晩期の可能性も比定できない。

図 296　石皿の機能面断面形状模式図

【凹石】　石鏃に次いで多数検出できた石器である。第Ⅲ層、包２－Ｂ層、包３層、盛土の230点を用いてその特徴を記す。

重量的には400gをピークとして、300から500gに多く分布する。石材も安山岩が166点と大半で次にデイサイトが53点程度である（表11）。表裏が平らな礫を用いており、使用痕（表12）は表裏と正面のみで大半を占めている。これと組み合わさるような台石が出土し、蜂の巣状を呈するものや、石皿の裏面にも同じような痕跡を有している。

表11　凹石の石材

安山岩	166
ﾃﾞｲｻｲﾄ	53
斑岩	1
流紋岩	1
砂岩	1
凝灰岩	8
総計	230

表12　凹石の使用

凹み痕跡	3
全面	3
正面	99
表裏	95
正面1側面	8
表裏1側面	22
表裏2側面	1
総計	230

【その他石器】

［石錐］　各層から一定量が出土しており、安定した出土状況の石器である。錐部の摩滅などを検討した結果、Cb（棒状形態）の錐部に磨滅が多く認められた。

［打製石斧］　打製石斧の用途は土掘り具などと一般に考えられており、旧金木町千苅（１）遺跡（青森県教育委員会1995）や山形県小国町下叶水遺跡（山形県教育委員会2009）のように珪質頁岩製の打製石斧に土擦痕が確認されている。

薬師遺跡では数点打製石斧が確認されているが、刃部が残された資料には、土擦痕は確認されていない。土擦痕が確認できない資料は、秋田県秋田市上新城中学校遺跡（秋田市教育委員会1992）、五所川原市観音林遺跡第五次（五所川原市教育委員会1987）、弘前市大森勝山遺跡（弘前市教育委員会2010）、八戸市是川中居遺跡（八戸遺跡調査会2002）の打製石斧にでも確認されており、晩期の打製石斧の用途については、今後課題である。

［石核・剥片］　石器製作技術に関しては、詳細な分析を試みなかったので、図化した石核から薬師遺跡の剥片剥離技術について述べたい。石核は、打面転移が頻繁に行われた資料が多く、これに円盤状石核や作業面が１面しか持たない石核が確認できた。石核はおおむね小ぶりであり、残された作業面の規格と、石匙や削器の素材剥片規格を比較すると、これら石核から素材剥片を剥離したとは思えない。そのため多くの石核は、剥離が進行して最終的に廃棄された残核であると思われる。

［線刻礫］　SK78から出土した砥石は、円筒下層式期に属する資料である。類似資料は、西目屋村水上(2)遺跡（青森県教育委員会2013）にて出土しており、同遺跡では線刻礫と報告されている。

［切目石錘］　包３層から出土している（図237-12）。秋田県では多数確認されているが、青森県では非常に希少な例である。

［加工礫］　薬師遺跡では加工礫の一群にいれた、礫長軸の端部に擦痕がみられる石器がある（図150－30、31など）。亀ヶ岡遺跡で磨石、観音林遺跡では使用痕のある扁平石器と分類されている資料と同一である。特に観音林遺跡では多数検出されており、晩期の一般的な石器と思われる。その性格などは今後の課題である。

2　石材について

出土石器の重量は、表13に記した通り、1,053,532.3ｇ確認されている。表13の右の円グラフは類似した種類の石材ごとに区分した百分率である。G、M、S、V、Xの石材は、発掘調査段階で石器と認定しなかった場合廃棄した。また、一時選択段階で自然礫と認定し、はぶいた資料は重量計測していない。そのため、必ずしも遺跡全体から出土した礫の総重量ではない。剥片石器の素材となるＡからＣの石材について検討したい。

Ａに相当する石材は184, 619.4ｇ出土し、中でも珪質頁岩が180,837ｇと圧倒的である。黒曜石が9,416.6ｇであり、Ｃは2,478ｇである。また黒曜石は重量の割に加工があるものは304.9gであり、石鏃や削器などに関しては50.4gとさらに少ない。

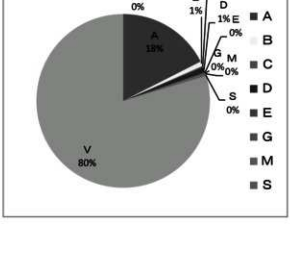
よって薬師遺跡では剥片石器の大半は珪質頁岩で製作していることになる。

［黒曜石］　原産地分析を行った限り、大半は出来島産であり、一部深浦産がはいる。また肉眼観察でも多くは類似した石材である。上述した通り、製品は非常に少ない。

他地域からの黒曜石としては、包１層（弥生時代）から北海道白滝産の黒曜石で作られた石鏃が出土している。続縄文文化との関係も考慮する必要があるが、弥生時代に属する遺物を見る限り、北海道系の遺物などは確認できなかったので、白滝産黒曜石が、どのような要因で岩木山麓にまで持ち込まれたかは不明である。

表13　石材構成

石材区分	重量(g)	石材区分	重量(g)
A	**184,619.4**	**S**	**3,428.3**
珪質頁岩	180,837.0	粘板岩	2,038.6
赤色珪質頁岩	549.9	珪化木	735.3
玉珪頁	1,297.8	泥岩	521.0
玉髄	1,934.7	砂岩	133.4
B　黒曜石	**9,416.6**	**V**	**839,176.5**
C	**2,478.0**	安山岩	678,801.9
チャート	1,715.5	デイサイト	85,722.0
水晶	353.4	安山岩系	51,869.1
石英	126.9	花崗閃緑岩	16,741.0
鉄石英	282.2	流紋岩	1,681.6
D　凝灰岩	**10,308.2**	粗粒玄武岩	1,522.7
E　緑色凝灰岩	**1,897.6**	花崗岩	1,174.6
G　緑色岩	**1,237.9**	閃緑岩	1,144.0
M	**1,167.1**	斑岩	415.7
ホルンフェルス	1,066.2	軽石	103.9
片岩	100.9	**X　ヒスイ・滑石**	**2.7**
		総計	**1,053,532.3**



原石は小さなものが多いが、11年度調査にて盛土から大形の楕円礫（図196-24）が確認されている。こうした礫は、亀ヶ岡遺跡Ｂ区出土黒曜石でも確認されており（青森県立郷土館1984）、礫単位で遺跡に持ち込まれ、割られたといえよう。

［礫石器の石材］　礫石器は大半が安山岩・デイサイト、凝灰岩、花崗閃緑岩の扁平楕円礫で製作されている。遺跡近辺で採取できる石材を使用したと推定される。

［遠隔地の石材］　磨製石斧の石材の緑色岩や青色片岩、玉素材のヒスイは製作痕跡をしめす剥片など

が出土しないため、遠隔地から製品の状態で搬入されたものと思われる。滑石製の玦状耳飾が出土しているが、形状から前期の資料であろう。

３　石器組成について

包２－Ｂ層、包２－Ｃ～Ｇ層、包２－Ｈ層、包３層、第Ⅲ層、包１層、弥包層、包２－Ａ層を用いて薬師遺跡の石器組成について検討する。点数が極端に少ない、異形石器や(北海道式)石冠、石製品、石器製作に関わる石核・二次加工剥片などは除外し、主要な器種でその構成の変異を検討したい。

包２－Ｂ層(表14)は出土土器から縄文時代晩期後半に相当する。出土した石器は剥片石器が占める割合が高く、中でも石鏃が非常に多い。その反面、敲磨器類や石皿、磨製石斧が少ない傾向がある。

包３層は縄文時代晩期前半ごろが主体である。出土した石器は、石鏃が包２－Ｂ層と比較しあまり多くないが、敲磨器類が非常に多く、石皿と磨製石斧も多いため、石器組成に占める礫石器の割合が高いことが伺える。

その中間にあたる、包２－Ｃ～Ｇ層とＨ層についてみてみる。堆積状況から、包２－Ｃ～Ｇ層は包２－Ｈ層より新しい堆積層である。石器組成については、包２－Ｃ～Ｇ層は包２－Ｂ層に近い反面、包２－Ｈ層はより包３層に近い傾向がある。そして包３層直下の第Ⅲ層についても、包３層と類似した石器組成を示している。

そのため、層位的な関係を考慮すると、晩期前半から後半になるにつれて、剥片石器の占める割合が高まり、逆に礫石器の占める割合が減少していく傾向が伺える。

石製品においては(表15)、包２－Ｂ層では、緑色凝灰岩製の玉類が多い反面、層位的に古くなるにしたがい、玉製品の割合は減少し、石製円盤関係の資料が増加する傾向がみられた。

このように石器・石製品において、層ごとに石器組成が異なることが確認できた。

さて各層の堆積形成や状況であるが、包３層が盛土で覆われていたので、当時の生活面を残されていたのに対し、包２－Ｃ～Ｈ層は人為堆積であり、包２－Ｂ層も人為・自然堆積の両方が考えられる。堆積層の性格が異なるので、上記の石器組成が晩期前半と後半の石器組成の差と捉えるのは早計ではある。ただ津軽半島の今津遺跡(青森県教育委員会1986)において、石器組成の検討から大洞Ｃ２式段階で石鏃などが多く敲磨器が少ないという所見が得られており、薬師遺跡の包含層２－Ｂ層と類似した特徴がある。これが晩期一般の石器組成かは今後の時期的な関係が良好な資料を検討した上で再度考察する必要がある。

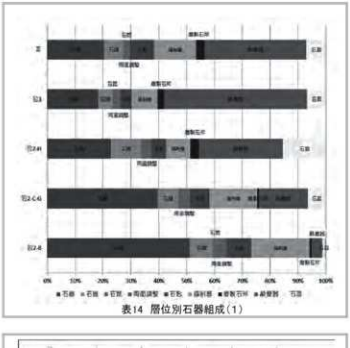


表14　層位別石器組成(1)

表15　層位別石製品組成(2)

表16　弥生時代石器組成(3)

弥生時代に関して、安定した石器量が出土している包１層を中心に検討した結果、石器組成の内容は包２－Ｂ層と大差がないことがわかった(表16)。縄文晩期後半の石器の特徴を有しており、大陸系磨製石器や、収穫具などの石器も確認されていない。ただ管玉のような弥生文化系の遺物が出土しており、何らかの形で影響はあったと思われる。

石器組成、石鏃・石匙・削器製作の一貫性からも薬師遺跡においては、縄文から弥生時代にかけて石器製作などの面では大きな変化はなかったと思われる。

第５節　土偶・土製品

包２－Ｂ層から形状が明瞭な中空土偶、刺突文土偶、結髪形土偶が出土している。晩期後半期のまとまった土偶の資料として貴重な事例となる。

土偶の胎土について、胎土の1mm程度の細礫がかなり混入しており、全体に胎土が粗いものと、胎土にガラス質の輝度をもつ鉱物が混入されており、比較的胎土が良好な、２つのタイプがある。前者は中実土偶に多く、後者は中空土偶に多い。全体には粗い胎土の土偶の方が多数を占めている。

類例としては、砂沢遺跡（弘前市教育委員1991）、牧野Ⅱ遺跡（弘前大学教育学部考古学研究室1981）、宇田野（２）遺跡（青森県教育委員会1997）などで確認されている。

またこの層から、ミニチュア土器や赤彩の耳飾りが多数出土している。

包含層３層については、土偶は少ないが、土製円盤が多く出土している。類似した形状の石製円盤も包含層３層から多数出土しており、こうした円盤状の遺物が薬師遺跡の晩期前半段階に多く確認できることが分かった。

土製品は、資料の選択の段階でだいぶ偏りがあるため、再検討が必要であると断ったうえで、２点ほど薬師遺跡の土製品について得られた所見を指摘する。まず包２－Ｂ層から多数の土偶と耳飾りが出土したこと。第二に、土製円盤は包含層３層から多数確認されていることである。石製品とあわせれば、晩期後半期に土偶や玉・耳飾りといった装飾品が、晩期前半で土製・石製円盤が多数出土したことになり、晩期前半と後半で土製品の内容も異なっていた可能性がある。

第６節　玉

【平玉】 包２－Ｂ層から原石から完成品まで一連の工程が追求できる玉製品の一括資料が出土しており、図297にその工程を示した。

まず素材の原石について、薬師遺跡では緑色凝灰岩製玉素材が多数出土している。亀ヶ岡遺跡、観音林遺跡や十腰内Ⅰ遺跡でも多量の玉素材が出土している。特に十腰内Ⅰ遺跡で緑色凝灰岩の玉素材が壺内部からまとまって出土している例もあり、遺跡ごとに緑色凝灰岩を保管していたことが伺える。次の研磨工程では、素材の側面に研磨整形が認められた。穿孔途中資料を考慮すると、穿孔前に小口面の整形など、全体の形状がこの段階で整えられる。小口面は平に研磨されている（図158－41･42など）。

穿孔段階は、片面・両面穿孔の痕跡が確認できた。また同一層から小形の玉髄石錐が出土しており、玉穿孔に用いられたと思われる。同じような石錐は亀ヶ岡遺跡でも多数出土している。

製品としては、平玉１、２を主体としており、小口面は平らで両面穿孔資料が多い。38は数少ない片面穿孔である。両面穿孔の多くは小口面が平に研磨されているが、片面穿孔の場合、小口面が幾分丸みを帯びており、形状の差も確認できた。

こうした玉類は津軽地域の各遺跡で確認されており、報告書実測図の断面形状から判断して、平野遺跡（両面穿孔多数）、源常平遺跡（両面 ・片面穿孔）、亀ヶ岡遺跡（両面穿孔）、宇鉄Ⅱ遺跡（両面穿孔多数）、長森遺跡（両面穿孔多数）、朝日山遺跡（両面 ・片面穿孔）などで同種平玉が出土している。また薬師遺跡以外でも、玉の原石や小型石錐が出土しているので、晩期の段階で緑色凝灰岩製の玉が各遺跡・もしくは津軽地域の小地域ごとに製作されていたことが伺える。

【管玉】 管玉は弥生時代の五所式 ・井沢式段階に属する層から出土している。管玉は砂沢遺跡（弘前

市教育委員会1991)、井沢遺跡(平賀町教育委員会1976)などでも出土しており、少数ながらも管玉が津軽平野の各遺跡に搬入されていることが明らかになった。当資料は径が太く、弥生中期以降各地で確認されている管玉と比べると大形品であり(図298)、砂沢遺跡で出土した太い形状の管玉がより近い特徴を有している。また破損面には磨滅がみられ、壊れた後も使用されていたと思われる。

薬師遺跡では管玉の製作工程を追求できるような資料が存在していない。ただ包含層1層から緑色凝灰岩を用いた管玉(図213-45)が出土している。その資料は両面穿孔で孔の径が太く、碧玉製の管玉と異なる面が多い。そのため在地の技術で管玉を模倣したものと思われる。こうした資料から当地域には管玉を製作する技術がないことが伺え、管玉の破損面が磨滅していることからも、管玉はその希少性から長期間に渡り使用されていたと思われる。

【ヒスイ】 SK05の13はヒスイの可能性がある資料である。この資料の穿孔は断面形状から判断できないが、土井Ⅰ号遺跡や、観音林遺跡第六次、朝日山遺跡などで出土したヒスイ製の丸玉や勾玉は、大半は片面穿孔である。緑色凝灰岩の平玉が両面穿孔であるのと対象的である。

【まとめ】 縄文時代晩期において玉造の痕跡が確認できた。平玉は両面穿孔が大半である。一方でヒスイや平玉の一部は片面穿孔が主体的である。片面穿孔の平玉は、小口面が丸みを帯び、ヒスイ玉なども多くは小口面が丸みを帯びており、両面穿孔の平玉が小口面を平に整形しているのと異なっている。こうした形状・穿孔方向の差は、製作場所における玉造の技術差とも考えられる。つまりヒスイなどは製品の状態で搬入されたのに対し、緑色凝灰岩製の平玉は在地の石材を用いて、在地技術による製作であったと考えられる。そして弥生時代になると、管玉が確認されるが、この製作痕跡はなく、搬入品と推定される。また在地の技術でもって模倣したような管玉も出土している。こうした玉造の変遷や地域性が晩期から弥生時代にあり、これが、どのように当時の社会状況と連動していたかは課題であろう。

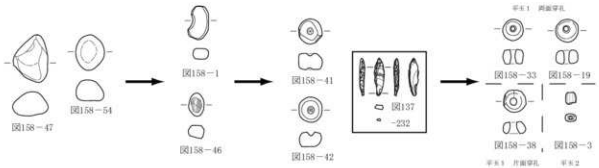


図 297　玉製品の製作工程（包２－Ｂ層）

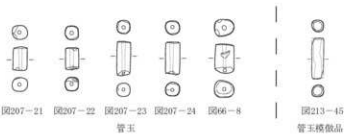


図 298　管玉

第７節　まとめ

薬師遺跡は、旧岩木町の市街地から東に５kmの岩木山麓に位置し、舌状台地の先端近くに立地する。この遺跡は昭和33･35年に行われた岩木山麓古代遺跡発掘調査事業（この成果は『岩木山』に所収されている）によって50年以上前から存在が知られた遺跡であり、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている。なお、昭和35年の第２次調査Ｆトレンチ跡を、今回の調査で一部確認した。

県営一般農道整備事業（山村振興）に伴う３カ年にわたる調査で、縄文時代前期・晩期、弥生時代を中心とした遺構・遺物などが確認され、当地域での文化様相をとらえる多くの知見を得ることができた。ここでは本書に記載した内容を踏まえ、当センターの発掘調査で明らかになったことと、今後の課題を全体的に総括し、まとめとする。

地山にあたる第Ⅳ層において、縄文時代前期の竪穴住居や、土器埋設遺構、土坑などの遺構が確認され、当時期に集落がこの地に形成されたことが明らかになった。出土した土器型式が円筒下層ｄ式期の範疇に収まることから、比較的短い期間に形成された集落であることが判明した。他の円筒下層式期の集落同様に、台地の縁にあたる、地形の変換点に沿って集落が形成された可能性がある。

地山直上の第Ⅲ層や包含層第３層においては、縄文時代晩期前半を中心とした多数の遺物と、焼土遺構などが確認できた。

包含層第３層の上には、包含層第２－Ｂ層、包含層第２－Ｃ～Ｈ層に相当する、盛土遺構が確認できた。盛土遺構は、塚状に土を盛り上げたのではなく特定方向から土を廃棄もしくは盛った結果形成されており、斜傾堆積の状態を呈している。盛土の包含層は黄色のローム層、炭化物層、シルト層が互層をなして形成されている。

盛土の形成原因は、今回の調査では明瞭にすることはできなかったが、大森勝山遺跡の環状列石とともに、縄文時代晩期の精神世界の解明にむけての貴重な資料を得ることができた。また、出土した土器の大半は縄文晩期後半の大洞Ａ式期段階の資料であり、盛土もこの段階に築かれたとしてほぼ間違いないであろう。これらは、削平範囲や貯水池状遺構との関連性も考えられ、縄文時代晩期から弥生時代の人々の一連の土木作業や造成工作の新資料となりうるものと思われる。

他の晩期の遺構として土坑墓群が確認できた。土坑の軸方向には岩木山山頂との関連が伺え、岩木山との精神的なつながりを垣間見ることができそうである。土坑墓群からは時期を決定できる遺物がほとんど出土していないため時期詳細は不明であるが、硬玉（ヒスイ）がほとんどなく、もっぱら両面穿孔の緑色凝灰岩製平玉が出土していることから、形成時期はおおまかに晩期後半と推察できる。縄文時代晩期の土器・石器・土製品・石製品などの豊富な物質文化を得ることができ、土偶など精神文化を象徴する資料も少なくないことは大きな成果の一つであろう。

弥生時代に関しては、まとまった土器資料を確保できた。当地域には弥生時代の標識遺跡である五所遺跡が旧相馬村に位置する。五所式土器は不明瞭な点が多く、その内容が不明確な状態が長く続いていたが、津山遺跡や井沢遺跡の調査でその概要が少しずつ明らかになり、そして今回の資料で五所式の解明へ前進する重要な知見が得られた。

石器・石製品の面からは、農耕を示すような遺物は確認できなかったが、碧玉製の管玉の出土など弥生文化の影響が着実にこの地にも浸透していることが明らかとなった。

今回の調査では、盛土遺構の内容の解明や、晩期・弥生時代の諸活動を検討する点から、炭化物な

どの年代測定、遺跡の植生・植物利用、黒曜石・玉製品の産地分析、顔料分析といった理化学的分析を行った。炭素年代測定の結果、土器型式の所見と大きく食い違う点は見られなかった。また黒曜石はおおむね青森県産の黒曜石を用いていたが、包含層１層の弥生時代に北海道白滝産が確認できた。縄文文化との関係も伺えるが、土器・石器ともに縄文的な様相は見られなかった。

最後に、発掘報告書編集者の力量不足から、十分なデータと所見を引き出すことができなかったが、これらの資料が今後の津軽地域の歴史・文化の解明に大きく貢献することができる重要な情報を提供できたことには変わりなく、今回深く掘り下げられなかった部分については、今後の研究活動に期待したい。

（神・高橋）

＜引用・参考文献＞

青森県教育委員会　1978　『源常平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集

青森県教育委員会　1985　『垂柳遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第88集

青森県教育委員会　1986　『今津遺跡・間沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第95集

青森県教育委員会　1994　『朝日山遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第156集

青森県教育委員会　1995　『千刈（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第174集

青森県教育委員会　1997　『宇田野（２）遺跡・宇田野（３）遺跡・草薙（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第217集

青森県教育委員会　1997　『津山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第221集

青森県教育委員会　1999　『十腰内（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第261集

青森県教育委員会　2001　『十腰内（１）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第304集

青森県教育委員会　2004　『朝日山（２）遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第369集

青森県教育委員会　2006　『川原平（１）・（４）・大川添（２）遺跡・水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第409集

青森県立郷土館　1979　『宇鉄Ⅱ遺跡発掘調査報告書』青森県立郷土館調査報告書第６集

青森県立郷土館　1984　『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館調査報告書第17集

青森県立郷土館　1989　『三厩村宇鉄遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』青森県立郷土館調査報告書第25集

青森市教育委員会　1985　『長森遺跡発掘調査報告書』

青森市教育委員会　1996　『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第30集　青森市教育委員会

青森市教育委員会　2004　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第72集　青森市教育委員会

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006『大橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第481集

秋田県埋蔵文化財センター　1989　『八木遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第181集　秋田県教育委員会

秋田市教育委員会　1992　『秋田市上新城中学校遺跡』秋田市教育委員会

板柳町教育委員会　1993　『土井Ⅰ号遺跡』板柳町教育委員会

伊東信雄　1960　「東北北部の弥生文化」『文化』第24巻１号　17-45頁

伊東信雄・須藤隆　1982　『瀬野遺跡』東北考古学会

大坂拓　2010　「田舎館式土器の再検討－津軽平野南部における弥生時代中期土器型式の変遷と型式交渉－」『考古学集刊』第６号　39-66頁

五所川原市教育委員会　1987　『観音林遺跡（第五次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集

五所川原市教育委員会　1988　『観音林遺跡（第六次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集

五所川原市教育委員会　1989　『観音林遺跡（第七次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

五所川原市教育委員会　1990　『観音林遺跡（第八次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

五所川原市教育委員会　1991　『観音林遺跡（第九次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

五所川原市教育委員会　1992　『観音林遺跡（第十次発掘調査報告書）』五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

小林達雄編　2008　『総覧縄文土器』ＵＭPromotion
齋藤瑞穂　2004　「東北北部における弥生時代中期土器編年の再検討」『古代文化』第56巻第８号　1-18頁
鈴木克彦　1984　「小型土器の考察－青森県における資料を中心に－」『考古風土記』第９号　1-30頁
鈴木克彦　2003　「円筒土器文化の岩偶の起源とその系譜－岩偶の類型編年－」『國學院大学考古学資料館紀要』第19輯　49-80頁
鈴木克彦　2004　「硬玉研究序論－玉研究の現状と諸問題－」『玉文化』創刊号　1-38頁
鈴木克彦　2005　「石偶に関する研究-石偶、異形石製品-」『葛西勵先生還暦記念論文集 北奥の考古学」　葛西勵先生還暦記念論文集刊行会　337-376頁
鈴木克彦・川口潤　1985　「亀ヶ岡遺跡沢根Ｄ区出土の遺物」『青森県立郷土館調査研究年報』第10号　73-83頁
鈴木道之助　1981　『図録石器の基礎知識Ⅲ　縄文』柏書房
須藤隆　1970　「青森県大畑町二枚橋遺跡出土の土器・石器について」『考古学雑誌』第56巻第２号　10-65頁
須藤隆　1973　「土器組成論－東北地方における初期稲作農耕社会成立過程究明のための基礎的研究－」『考古学研究』第19巻第４号　62-89頁
須藤隆　1976　「亀ヶ岡式土器の終末と東北地方における初期弥生土器の成立」『考古学研究』第23巻第２号　25-50頁
須藤隆　1990　「東北地方における弥生文化」『伊東信雄先生追悼　考古学古代史論攷』 243-322頁
須藤隆　1992　「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」『加藤稔先生還暦記念　東北文化論のための先史学歴史学論集』」加藤稔先生還暦記念会編　655-707頁
須藤隆　2007　「東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性」東北大学大学院文学研究科
芹沢長介　1958　「縄文土器」『世界陶磁全集』第１巻　河出書房新社　159-176頁
芹沢長介　1960　「石器時代の日本」築地書館
芹沢長介編　1979　「聖山」東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2
大工原豊　2008　「縄文石器研究序論」六一書房
高瀬克範　2004　「本州島東北部の弥生社会誌」六一書房
高橋哲　2012　「東北地方縄文時代前期の石匙の刃部研究」『宮城考古学』第14号　133-145頁
高橋哲　2013　「青森県の石器組成について－石器の組み合わせについて－」『青森県考古学』第21号　7-30頁
竹岡俊樹　1989　『石器研究法』言叢社
田村誠一　1968　「第３節　薬師Ⅱ号遺跡」『岩木山』岩木山刊行会　89-116頁
中郷村教育委員会　2000　『龍峰遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
浪岡町教育委員会　2002　『平成13年度浪岡町文化財紀要Ⅱ』
八戸遺跡調査会　2002　「是川中居遺跡（長田沢地区）」八戸遺跡調査会埋蔵文化財調査報告第２集
平賀町教育委員会　1976　「井沢遺跡」平賀町埋蔵文化財報告書第５集
弘前市教育委員会　1991　「砂沢遺跡発掘調査報告書」
弘前市教育委員会　2010　「大森勝山遺跡発掘調査報告書」
弘前大学教育学部考古学研究室　1981　「牧野Ⅱ遺跡出土遺物について（１）－岩木山麓の縄文時代終末期の土器資料－」『弘前大学考古学研究』創刊号　30-45頁
藤村東男　1980　「大洞諸型式設定に関する二、三の問題」『考古風土記』第５号　19-35頁
藤沼邦彦・秋山真吾　2007　「亀ヶ岡文化遺物実測図集（３）」弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告５
藤沼邦彦・関根立人　2008　「亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)」『総覧縄文土器』UM Promption　682-693頁
藤森栄一　1935　「石匙の或る断面」『考古学』第６巻第10号　452-456頁
三戸村教育委員会　1996　「宇鉄遺跡発掘調査報告書」
村越潔　1965　「東北北部の縄文式に後続する土器」『弘前大学教育学部紀要』第14号　27-34頁
村越潔　1968　「第２節　薬師Ⅰ号遺跡」『岩木山』岩木山刊行会　71-88頁
八木勝枝　2004　「北上川中・下流域の盛土遺構－縄文時代晩期包含層分析からの一視点－」『岩手考古学』第16号　45-64頁
八木勝枝　2010　「東北地方縄文後晩期の盛土遺構」「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究－予稿集－」　46-55頁
山形県教育委員会　2009　「下叶水遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第177集

上：東上空から

上新岡館 写真図版

左：西上空から
下：北東から

写真１　空中写真・遺跡遠景

II J-15 ｸﾞﾘｯﾄﾞ付近から東方を望む
西から

II H-24 ｸﾞﾘｯﾄﾞ付近から西方を望む
東から

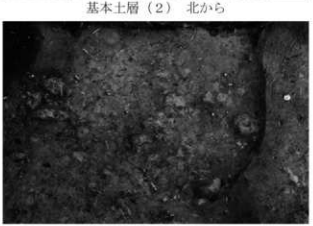
II J-17 ｸﾞﾘｯﾄﾞ付近　北西から

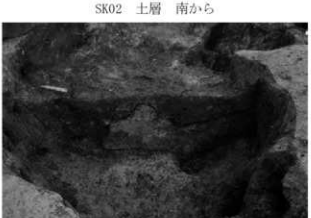
写真２　　調査前風景

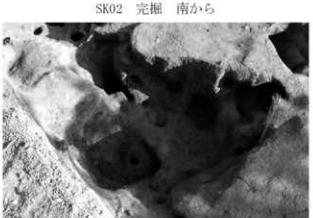
基本土層（1） 西から

基本土層（2） 北から

SK02 土層 南から


SK02 完掘 南から


SK03 土層 西から


SK03 完掘 西から

SK04 土層 南西から

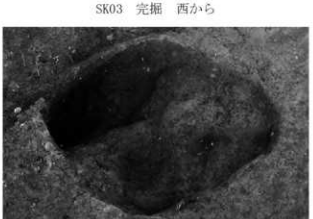

SK04 完掘 南西から

写真３　基本土層・土坑

SD01･SD03　完掘　西から

SD01　完掘　北東から

SD01・SD03　完掘　東から

SD03　遺物出土状況　北東から

SD01・SD03　土層断面　東から

写真４　壕 跡（１）

SD02　完掘　　東から

SD02　土層断面　西から

作業風景　北西から

SD02・SD04　土層断面　南から

写真５　　壕 跡（２）

SD04　土層・完掘　　北から

SD04　底面礫出土状況　東から

SD04　土層　北から

SD04　遺物・礫出土状況拡大　東から

写真６　　壕 跡（３）

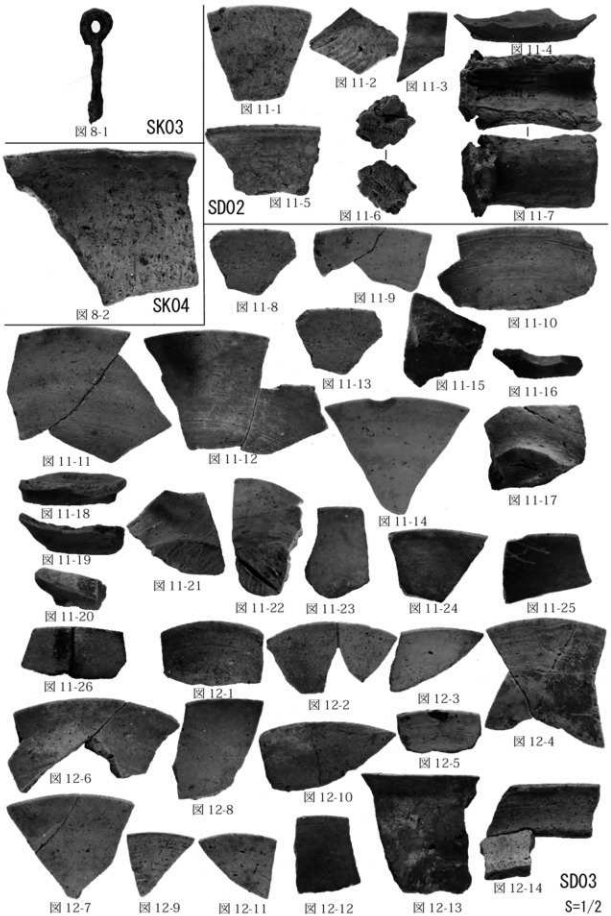


写真７　土坑・壕跡出土遺物

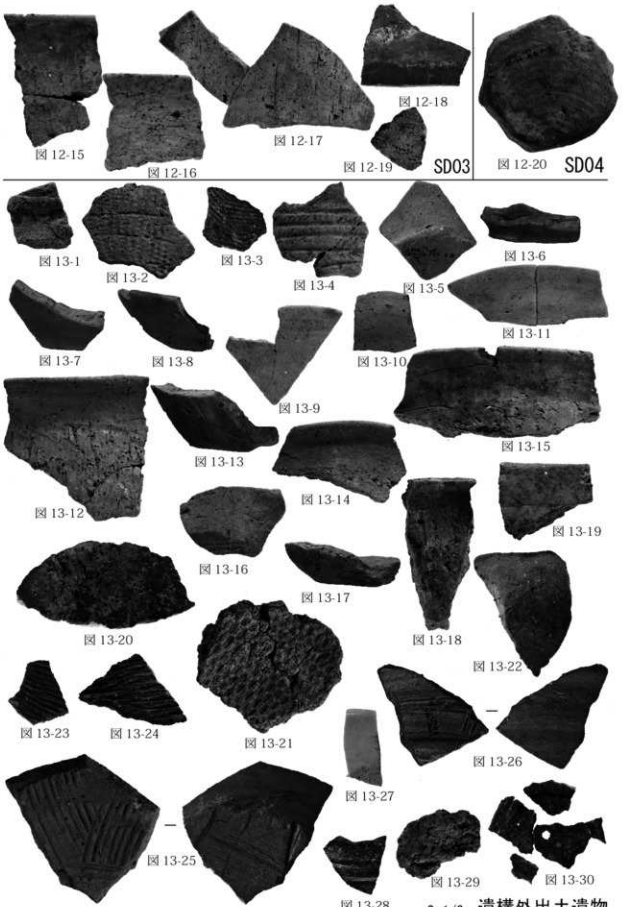


写真８　壕跡・遺構外出土遺物

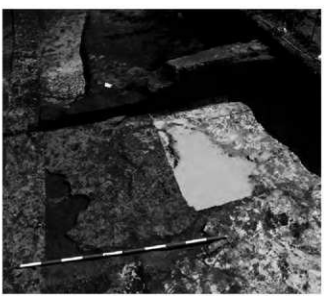
薬師遺跡空中写真　E→

薬師遺跡　写真図版

平成 22 ～ 24 年度調査区全景（合成写真）　S →

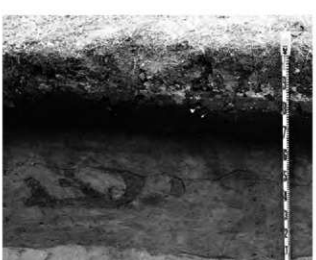
写真 9　遺跡空中写真　薬師遺跡全景・合成写真

Ⅱ V-38 グリッド　W→

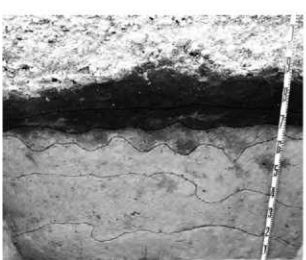


Ⅱ V-37･38 グリッド　B-Tm 堆積状況　W→

Ⅲ C-51 グリッド　ＳＥ→



Ⅲ Ｉ -71 グリッド　ＮＥ→



Ⅱ Ｙ -79 グリッド　ＮＥ→

写真 10　基本層序

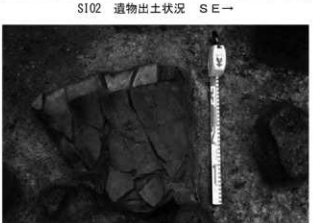
SI02　南西半完掘　ＳＥ→

SI02　北東半完掘　ＳＥ→

SI02　南北セクション　W→

SI02　遺物出土状況　ＳＥ→

SI02　遺物出土状況（アップ）　ＮＥ→

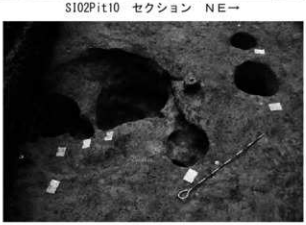


SI02　遺物出土状況（アップ）　N→

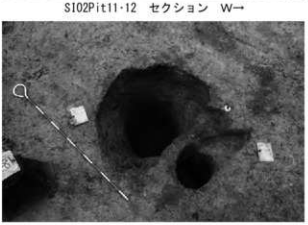
写真 11　SI02（1）

SI02Pit10　セクション　ＮＥ→

SI02Pit11･12　セクション　Ｗ→



SI02Pit10～14　完掘　Ｓ→



SI02Pit5　完掘　ＮＥ→

SI02Pit5　遺物出土状況　ＮＥ→

SI02　調査風景　ＮＷ→

SI02b 西内周溝　検出　ＳＷ→

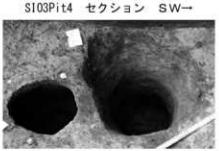
SI02b 西内周溝　セクション　ＳＷ→

写真 12　SI02（2）

SI03 北東部　完掘　SE→

SI03 南西部　完掘　SE→

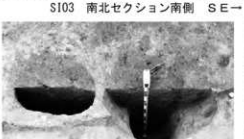
SI03Pit4　セクション　SW→



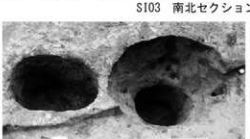
SI03Pit5(右)・8(左)　完掘　SE→

SI03　南北セクション南側　SE→

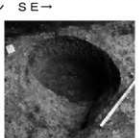
SI03　南北セクション　SE→



SI03Pit6(右)・7(左)セクション　E→



SI03Pit6(右)・7(左)完掘　E→



SI03Pit3 完掘　NW→

写真 13　SI03

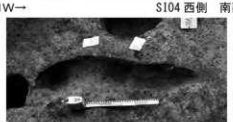
SI04　南西半完掘　ＳＥ→

SI04　北東半完掘　ＳＥ→

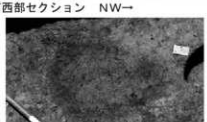
SI04　北東部セクション　ＮＷ→

SI04 西側　南西部セクション　ＮＷ→

SI04 西内周溝　完掘　Ｓ→



SI04 東内周溝　完掘　Ｅ→



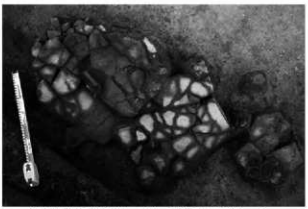
SI04　地床炉検出　ＮＥ→

SI04 西内周溝　セクション　ＳＷ→

SI04Pit15　セクション　ＳＷ→

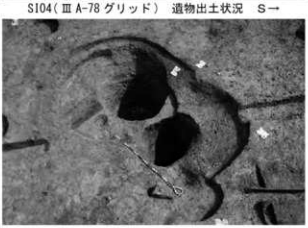
写真 14　SI04 (1)

SI04　遺物出土状況　ＳＥ→



SI04（ⅢA-78グリッド）　遺物出土状況　S→

SI04Pit1･5　共通セクション　S→



SI04Pit15･16　検出状況　W→

SI04Pit2　完掘　S→

SI04Pit2　遺物出土状況　SW→

SI02･03･04　北東半完掘　NW→

写真 15　SI04 (2)

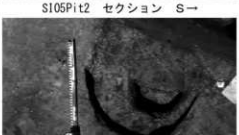
SI05·SK31　完掘　S→

SI05·SK31　セクション　S→

SI05　南北セクション　W→

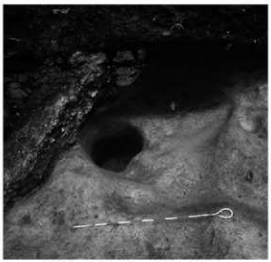
SI05Pit2　セクション　S→

SK31　南北セクション　W→



SI05Pit2　完掘　S→

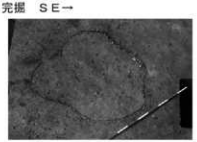
写真 16　SI05・SK31



SI06　セクション・完掘　SW→

SI07　完掘　SE→

SI07　北西－南東セクション　S→



SI07 地床炉　検出　SE→

SI07 火床面セクション　SE→

SI07 周辺Pit　検出状況　W→

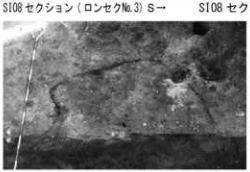
写真 17　SI06・SI07

SI08 付近　完掘　E→

SI08 セクション（ロンセクNo.3）S→

SI08 セクション（横断セクNo.6）　E→

SI08・SK78 セクション　S→



SI08 地床炉　検出状況　N→

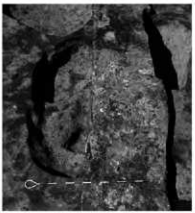
SI08 地床炉検出N→

SI08Pit1 セクションN→

SI08 付近　調査風景　S→

写真 18　SI08

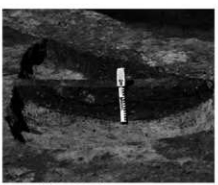
SK01　完掘　E→


SK02　完掘　E→

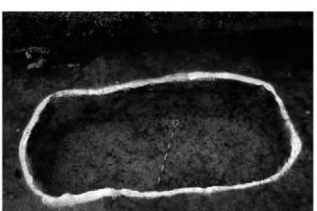
SK03　完掘　SE→

SK01　セクション　E→

SK02　セクション　E→


SK03　セクション　SE→

SK04　完掘　W→

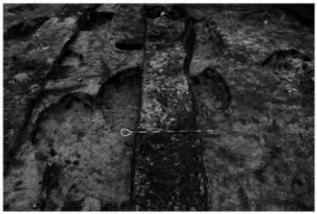

SK05　完掘　N→

SK05　玉出土状況　N→

SK05　セクション　E→

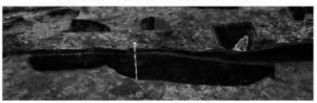
SK05　遺物出土状況　N→

写真19　土坑（1）　SK01～05



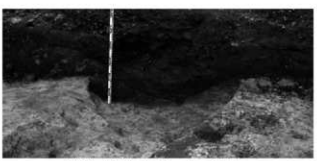
SK06･11･09（手前から） 完掘 E→

SK06（右）･11（左）セクション S→



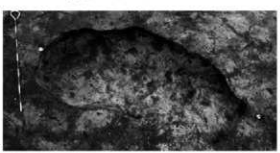
SK09（右）･11（左）セクション N→

SK09 完掘 N→

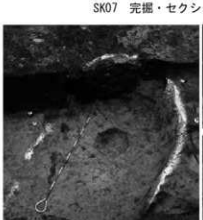


SK08 完掘・セクション NE→

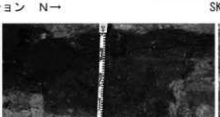
SK07 完掘・セクション N→

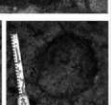


SK10 完掘・セクション N→



SK18 完掘 S→

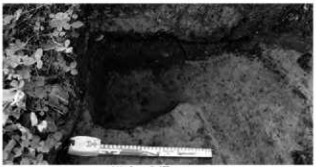




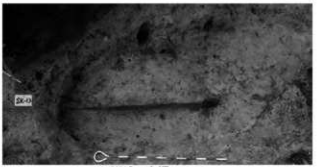
SK18 セクション・ピット S→

SK18 ピット検出 SW→

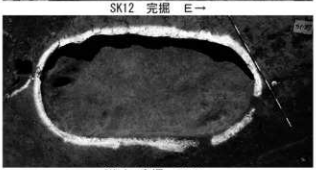
写真20 土坑（2） SK06～11・18



SK12　完掘　E→



SK13　完掘　E→

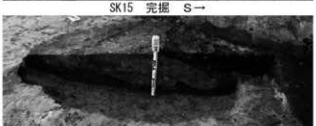


SK14　完掘　SW→

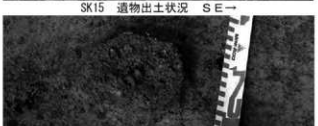
SK14　セクション　SW→

SK15　完掘　S→

SK15　遺物出土状況　SE→



SK15　セクション　SE→



SK15　耳栓出土状況　SE→

SK16　完掘　SW→

SK16　セクション　SW→

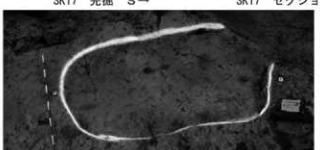
SK14･16･13（手前から）　完掘　NW→

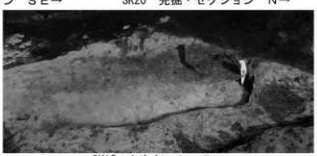
写真21　土坑（3）　SK12～16

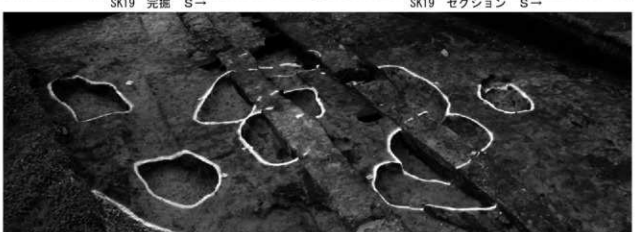
SK17　完掘　S→

SK17　セクション　SE→

SK20　完掘・セクション　N→


SK19　完掘　S→


SK19　セクション　S→


土坑墓群A　完掘　NW→

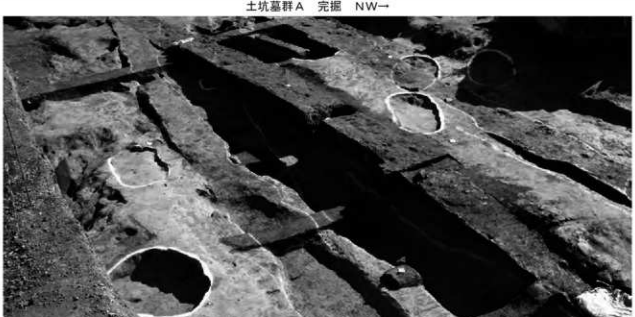
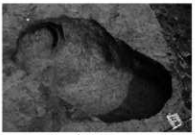
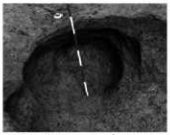
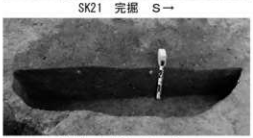

土坑墓群B　完掘　NW→

写真22　土坑（4）　SK17・19・20、土坑墓群A・B

SK21　完掘　S→

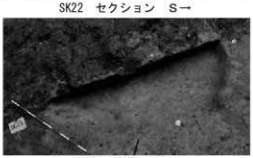

SK21　東端部　NW→

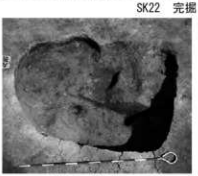

SK21　東端部アップ　NW→


SK21　セクション　S→

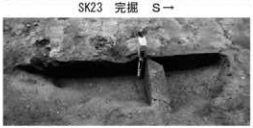
SK22　セクション　S→

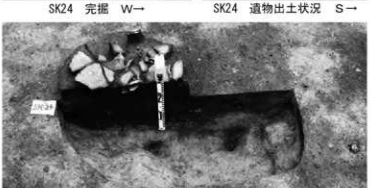
SK22　完掘　S→

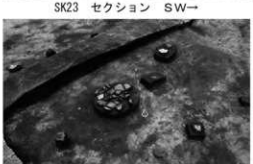

SK23　完掘　S→


SK24　完掘　W→

SK24　遺物出土状況　S→


SK23　セクション　SW→


SK24　セクション　NW→


SK24付近　遺物出土状況　S→

SK24付近　セクション　SE→

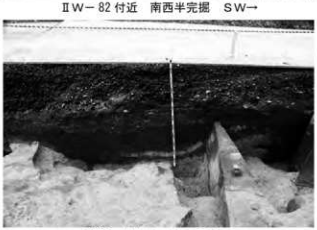
写真23　土坑（5）　SK21～24

SD08・SK25・SX05　セクション　ＳＥ→

SD08　セクション　ＮＥ→

ⅡＷ－82付近　南西半完掘　ＳＷ→

ⅡＷ－82付近　北東半完掘　ＳＷ→



SK27　セクション　ＳＷ→

SK25　セクション　ＳＷ→

SK25　北東半完掘　ＮＥ→

SK25　南西半完掘　ＳＷ→

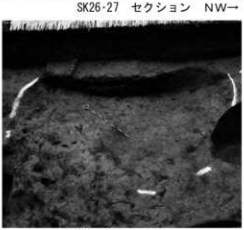
写真24　土坑（6）・ⅡＷ－82グリッド周辺の遺構　SK25・SK27・SD08・SX05

SK26　完掘　NW→

SK26　玉出土状況　NW→

SK26-27　セクション　NW→

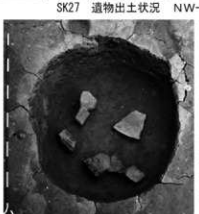
SK26　玉出土状況アップ　W→


SK27　完掘　NE→

SK27　遺物出土状況　NW→

SK29　完掘　S→

SK28　遺物出土状況　S→


SK28　底面遺物出土状況　S→

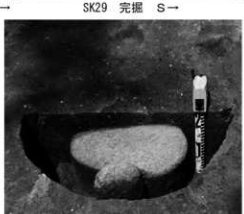
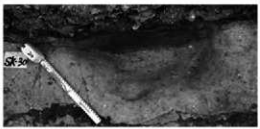
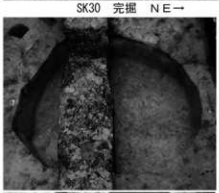

SK28　セクション　SE→

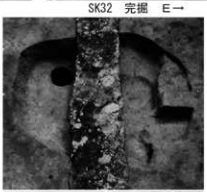
写真 25　土坑（7）　SK26 ～ 29

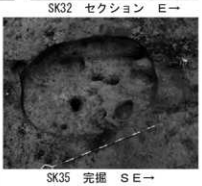

SK30　完掘　ＮＥ→

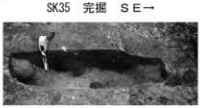
SK32　完掘　Ｅ→

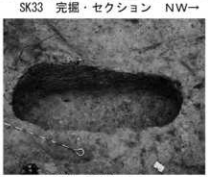
SK32　セクション　Ｅ→

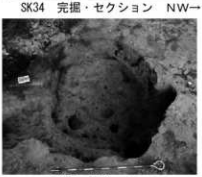

SK33　完掘・セクション　ＮＷ→

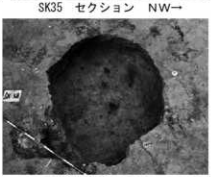

SK34　完掘・セクション　ＮＷ→


SK35　完掘　ＳＥ→

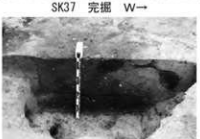

SK35　セクション　ＮＷ→

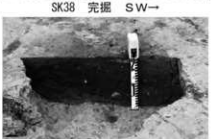

SK36　完掘　ＳＷ→

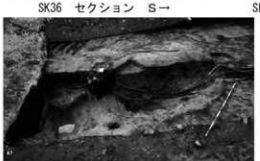

SK37　完掘　Ｗ→


SK38　完掘　ＳＷ→

SK36　セクション　Ｓ→


SK37　セクション　Ｗ→

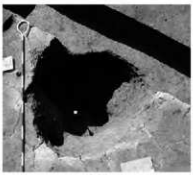

SK38　セクション　ＳＷ→


SK39　完掘　Ｅ→

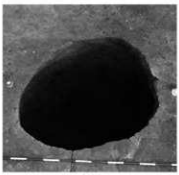
SK39　セクション　Ｓ→

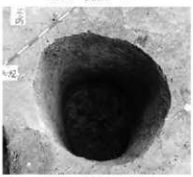
SK39 土偶出土状況　Ｅ→

写真 26　土坑（８）　SK30・32・33 ～ 39


SK40　完掘　N→

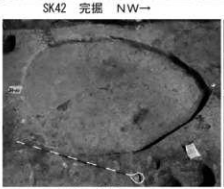
SK　40 セクション　N→


SK41　完掘　W→


SK42　完掘　NW→

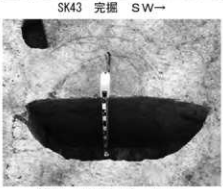
SK42　セクション　NW→

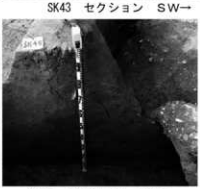
SK42　炭化物出土状況　NW→


SK43　完掘　SW→

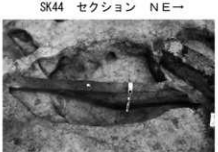
SK43　セクション　SW→

SK43　遺物出土状況　SW→


SK44　セクション　NE→


SK45　セクション　SE→

SK45　完掘　E→


SK46　セクション　SW→

SK47　礫出土状況　E→

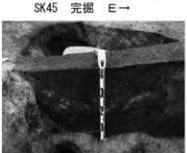
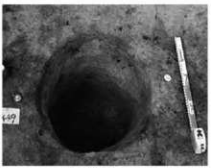
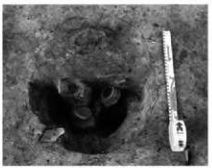
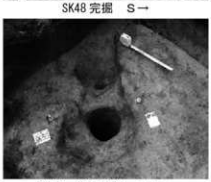

SK47　セクション　N→

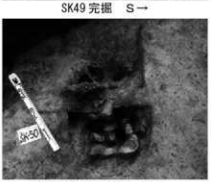
写真 27　土坑（9）　SK40 ～ 47

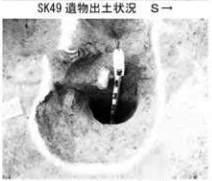
SK48 完掘　S→

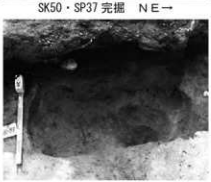

SK49 完掘　S→

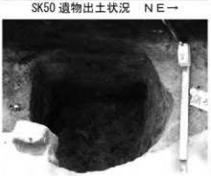

SK49 遺物出土状況　S→


SK50・SP37 完掘　NE→

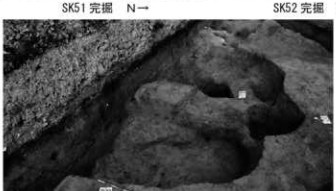

SK50 遺物出土状況　NE→


SK50・SP37 セクション　NE→

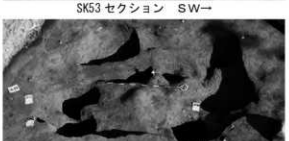

SK51 完掘　N→

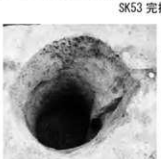

SK52 完掘　N→

SK52 セクション　N→


SK53 完掘　SW→

SK53 セクション　SW→


SK55 完掘　SW→


SK54 完掘　N→

SK54 セクション　N→

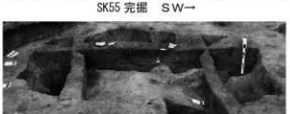
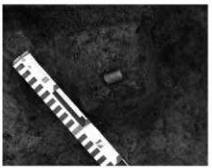
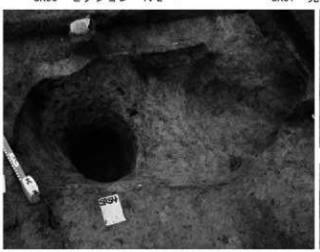

SK55 セクション　SW→

写真 28　土坑（10）　SK48 ～ 55・SP37

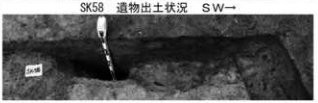
SK56　セクション　ＮＥ→

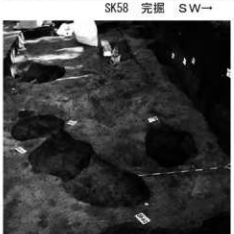
SK57　完掘　Ｓ→


SK58　管玉出土状況　ＳＷ→

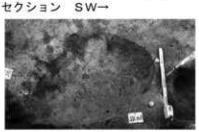

SK58　完掘　ＳＷ→

SK58　遺物出土状況　ＳＷ→

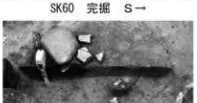

SK58　セクション　ＳＷ→


SK59・61・62、SP50　完掘　Ｗ→

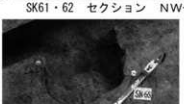
SK59　セクション　Ｅ→


SK60　完掘　Ｓ→

SK61・62　セクション　ＮＷ→


SK60　セクション　Ｓ→

SK63　完掘　Ｓ→


SK65 完掘　ＮＷ→

SK66　完掘　Ｓ→

SK66　遺物出土状況　Ｓ→

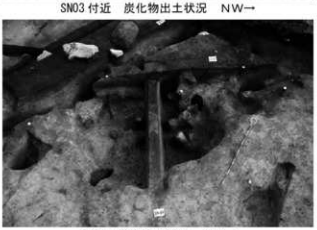
SK66　セクション　Ｓ→

写真29　土坑（11）　SK56～63・65・66

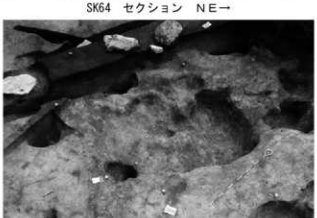
SN03 周辺　火山灰検出　N→

SN03 付近　炭化物出土状況　NW→

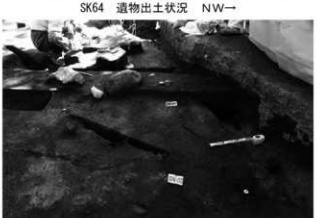
SK64　セクション　NE→



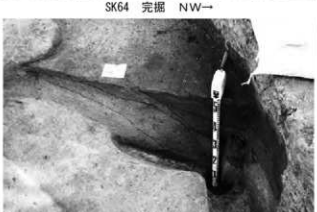
SK64　遺物出土状況　NW→



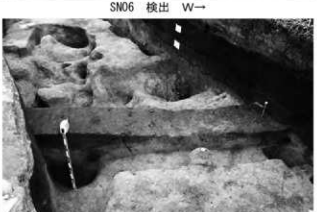
SK64　完掘　NW→



SN06　検出　W→

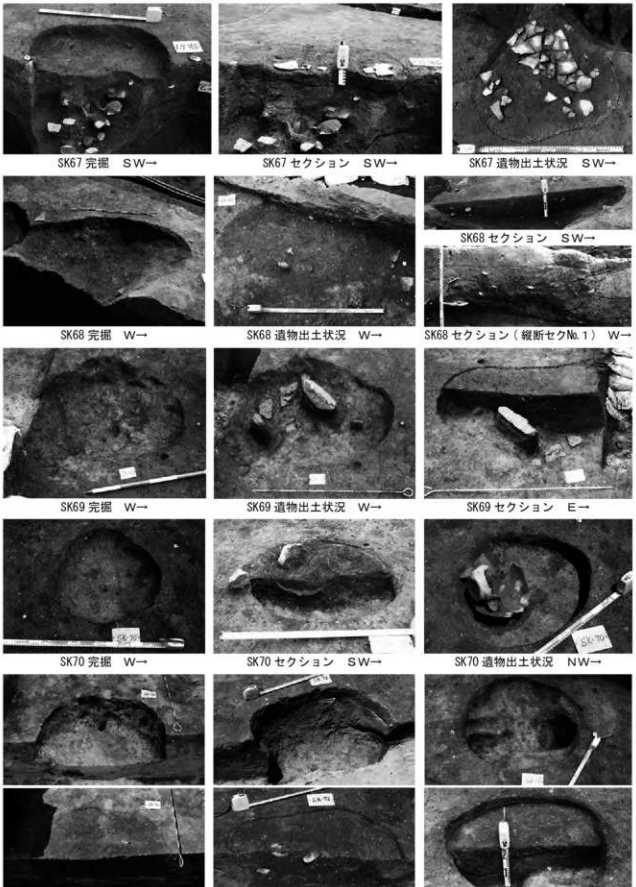


SN05　北側セクション　W→



SN05　南側セクション　W→

写真 30　土坑（12）・ⅢK－67 周辺の遺構　SK64・SN03・SN05



SK67 完掘　SW→　SK67 セクション　SW→　SK67 遺物出土状況　SW→

SK68 セクション　SW→

SK68 完掘　W→　SK68 遺物出土状況　W→　SK68 セクション（縦断セクNo.1）　W→

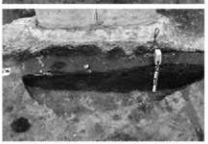
SK69 完掘　W→　SK69 遺物出土状況　W→　SK69 セクション　E→

SK70 完掘　W→　SK70 セクション　SW→　SK70 遺物出土状況　NW→

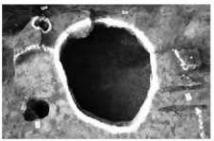
SK71 完掘S→・セクションS→　SK72 完掘SE→・セクションE→　SK74 完掘NW→・セクションNW→

写真 31　土坑（13）　SK67 ～ 72・74

SK75 完掘ＮＷ→・セクションＮＷ→

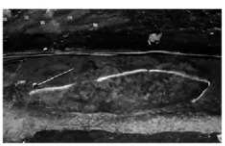


SK76 完掘Ｓ→・セクションＳ→

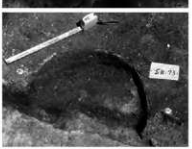


SK78 完掘Ｓ→・セクションＳ→

SK78　西側底面の土器Ｅ→
北側覆土の礫Ｓ→

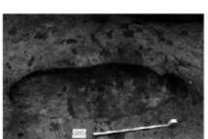
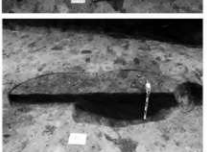


SK79 完掘ＳＥ→・セクションＳＥ→

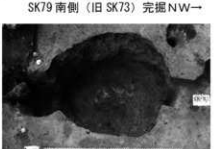


SK79 遺物出土状況ＳＥ→
SK79 南側（旧 SK73）完掘ＮＷ→

SK80 完掘Ｓ→・セクションＳＥ→

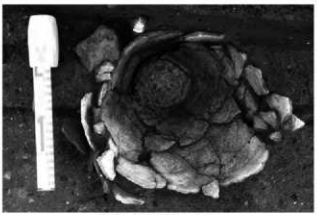
SK81 完掘ＮＷ→・セクションＮＷ→



SK82 完掘Ｅ→・セクションＥ→

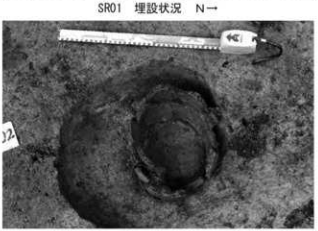
写真 32　土坑（14）　SK75・76・78 ～ 82

SR01　セクション　N→



SR01　埋設状況　N→

SR02　セクション　SW→



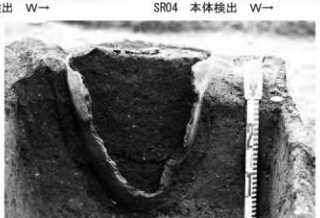
SR02　埋設状況　SW→

SR03　セクション　SE→

SR04　検出　W→

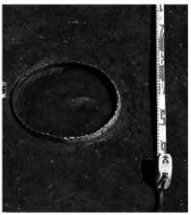
SR04　本体検出　W→

SR04　埋設状況　W→



SR04　セクション　W→

写真 33　埋設土器遺構（1）　SR01 ～ 04

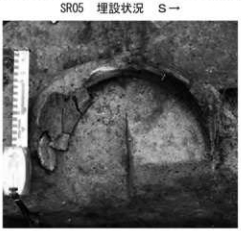


SR05　検出　S→

SR05　埋設状況　S→

SR06　埋設状況　W→

SR07　検出　S→



SR07　完掘　S→

SR07　セクション　NW→

SR07と盛土遺構の状況　SW→

SR08　検出　NW→

SR08　セクション　NW→

SR09　埋設状況　S→

SR09　埋設状況　E→

SR09　セクション　E→

写真 34　埋設土器遺構（2）　SR05 ～ 09

SR10　セクション・埋設状況　E→

SR11　埋設状況　N→

SR11　セクション　N→

SR12　検出　N→

SR12　埋設状況　W→

SR12　セクション　SW→

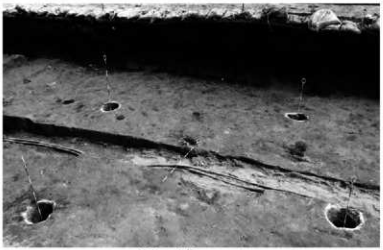
SR13　埋設状況　N→

SR13　セクション　N→

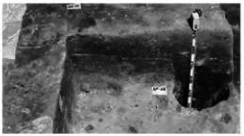
SR14　埋設状況　N→

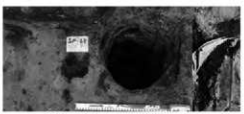
SR14　セクション　N→

写真35　埋設土器遺構（3）　SR10～14

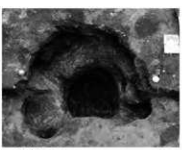


SB01　完掘　NW→

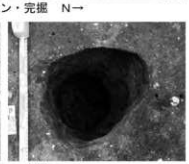




SP68 セクション・完掘　W→

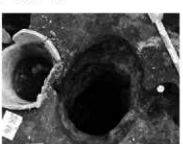


SP69 セクション・完掘　N→

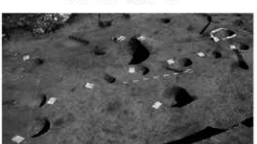


SP96 セクション・完掘　N→

ピット列　完掘　N→



SP97 セクション・完掘　NE→



ピット列　完掘　NW→

ピット列（小ピット部分）　セクション　W→

ピット列（小ピット部分）　完掘　W→

写真 36　掘立柱建物跡・ピット列　SB01 他

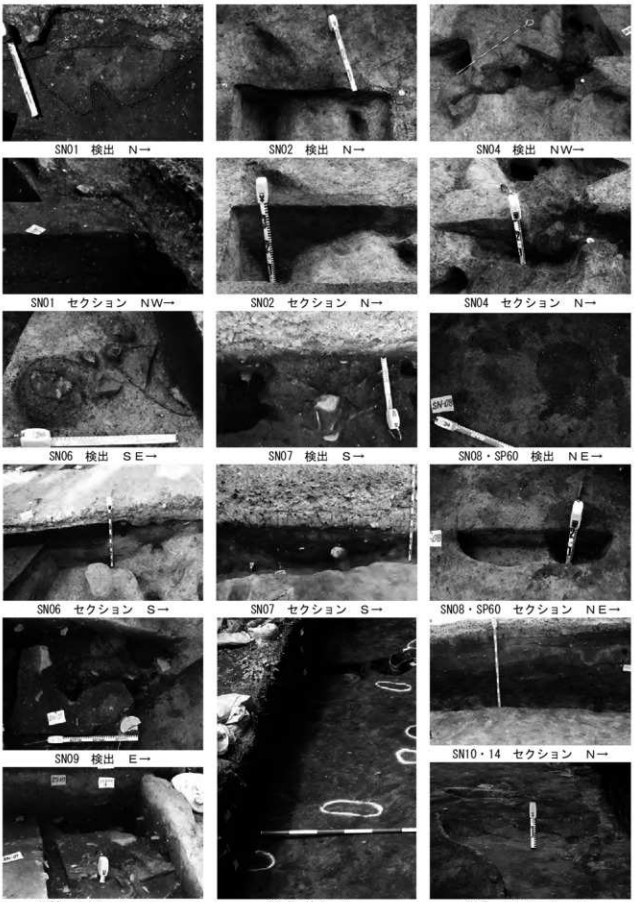
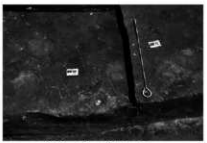
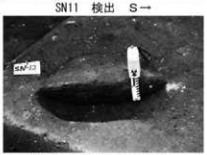


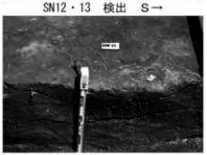
写真 37　焼土遺構（1）　SN01・02・04・06～10・14

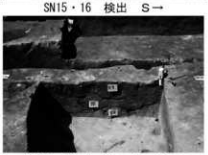
SN11　検出　S→

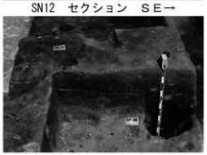

SN12・13　検出　S→

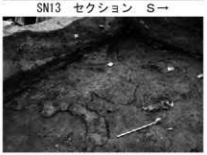
SN15・16　検出　S→


SN12　セクション　SE→

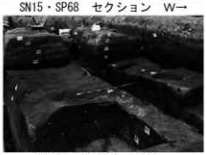

SN13　セクション　S→

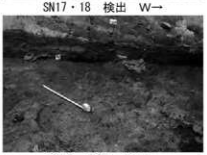

SN15・16　セクション　S→

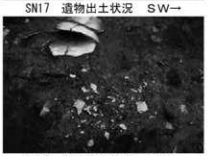

SN15・SP68　セクション　W→

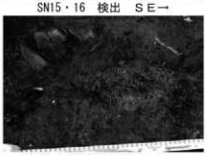

SN17・18　検出　W→

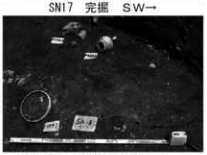
SN17　遺物出土状況　SW→

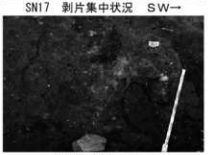

SN15・16　検出　SE→

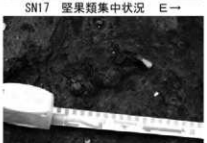

SN17　完掘　SW→


SN17　剥片集中状況　SW→


SN17　堅果類集中状況　E→


SN18 周辺　遺物出土状況　W→


SN19　検出　S→


SN17　堅果類集中状況　E→

SN18　セクション　W→

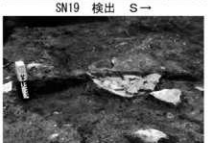
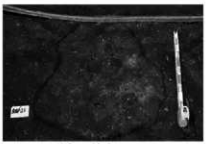
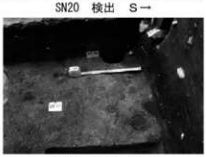

SN19　セクション　NW→

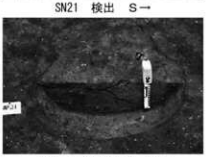
写真 38　焼土遺構（2）　SN11 ～ 13・15 ～ 19

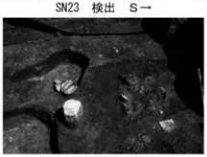
SN20　検出　S→

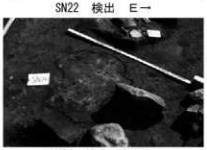

SN21　検出　S→

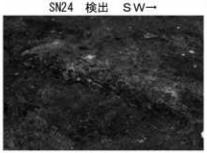
SN23　検出　S→


SN22　検出　E→


SN21　セクション　S→


SN23　セクション　S→


SN24　検出　SW→


SN24　セクション　SE→

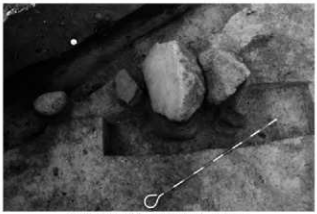
59グリッド（SN15・16）周辺　調査風景　SE→

SN25　検出　E→

SN19周辺　調査風景　NW→

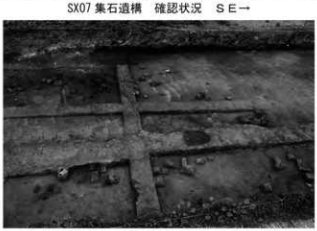
59グリッド（SN21）周辺　調査風景　E→

写真39　焼土遺構（3）　SN20～25

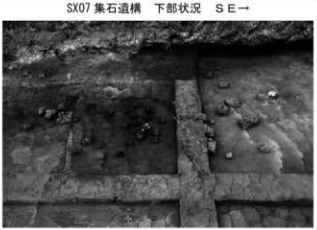


SX07 集石遺構　確認状況　ＳＥ→

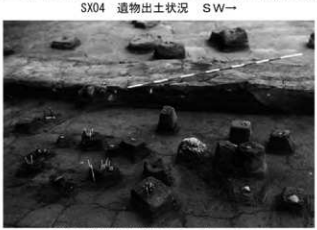
SX07 集石遺構　下部状況　ＳＥ→



SX04　遺物出土状況　ＳＷ→



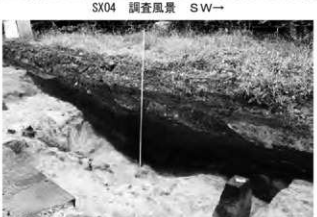
SX04　遺物出土状況（アップ）　ＳＷ→



SX04　遺物出土状況（アップ）　ＮＷ→

SX04　調査風景　ＳＷ→

SX05　周辺完掘状況　ＳＥ→



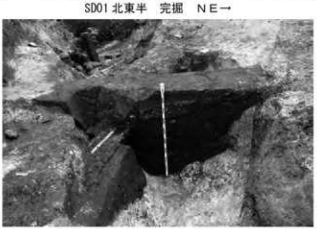
SX05　セクション　ＳＷ→

写真 40　集石遺構・黒曜石散布範囲・竪穴遺構　SX07・SX04・SX05

SD01 南西半　完掘　ＳＥ→

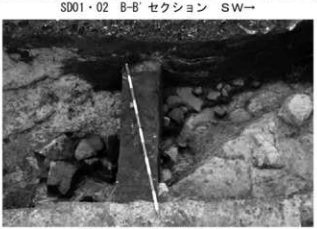
SD01 北東半　完掘　ＮＥ→

SD01　A-A' セクション　ＮＥ→



SD01・02　B-B' セクション　ＳＷ→

SD01　C-C' セクション　Ｗ→



SD01 西側　礫出土状況　Ｎ→

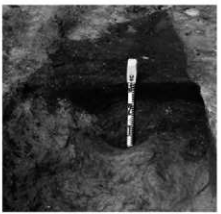
SD01 東側　礫出土状況　Ｎ→

SD01 東端　礫出土状況　Ｎ→

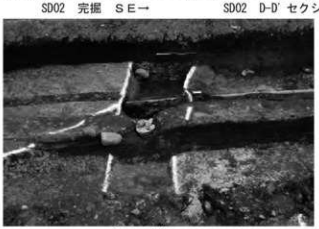
写真 41　溝跡（１）　SD01

SD02　完掘　ＳＥ→

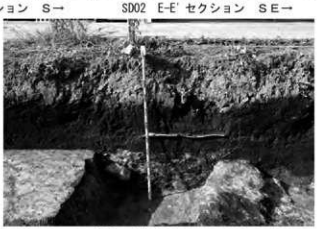
SD02　D-D' セクション　S→



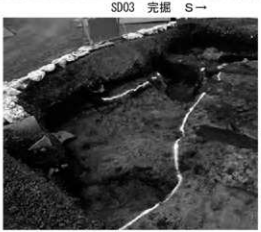
SD02　E-E' セクション　ＳＥ→



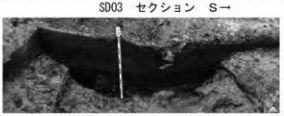
SD03　完掘　S→



SD03　セクション　S→

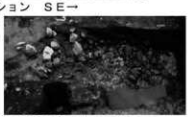


SD06　完掘　ＳＥ→

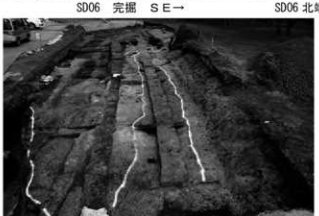


SD06　セクション　ＳＥ→

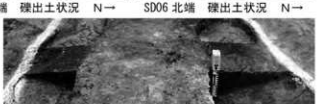
SD06 北端　礫出土状況　N→



SD06 北端　礫出土状況　N→



SD07　完掘　W→



SD07　A-A' セクション　W→

SD07　B-B' セクション　W→

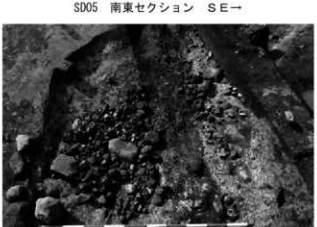
写真 42　溝跡（２）　SD02・03・06・07

SD05　完掘　ＳＥ→

SD05　北西セクション　ＳＥ→

SD05　南東セクション　ＳＥ→

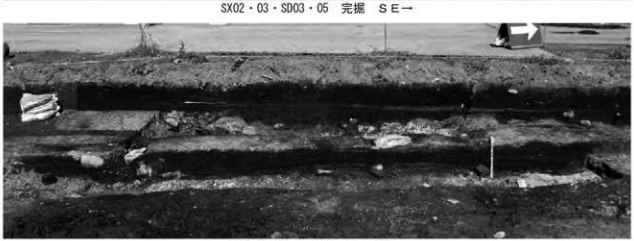
SD05　礫等出土状況　Ｅ→



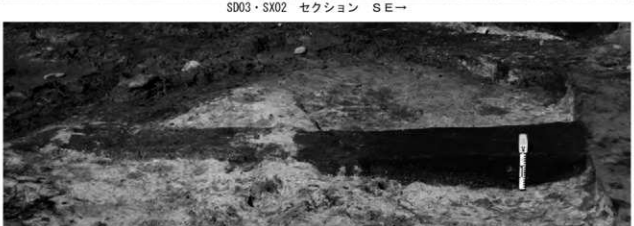
SD05　礫等出土状況（アップ）　Ｅ→

写真 43　溝跡（３）　SD05

SX02・03・SD03・05　完掘　ＳＥ→



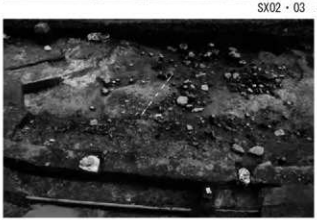
SD03・SX02　セクション　ＳＥ→



SX02　セクション　ＳＥ→

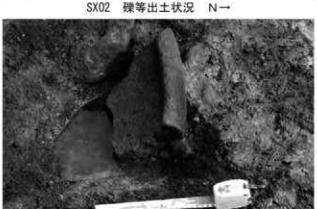
写真 44　貯水池状遺構（１）　SX02

SX02・03　全景　N→

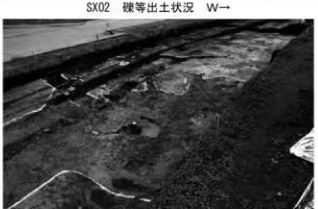


SX02　礫等出土状況　N→

SX02　礫等出土状況　W→



SX02　石皿片出土状況　W→



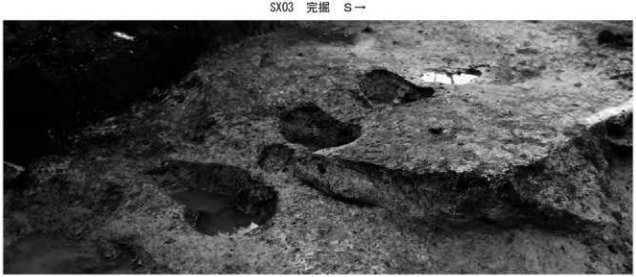
SX02　完掘　SW→

SX02　調査風景　NE→

SX02　調査風景　SW→

写真 45　貯水池状遺構（2）　SX02

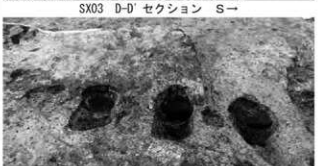
SX03　完掘　S→



SX03　完掘　NE→

SX03　完掘　E→

SX03　D-D' セクション　S→



SX03　C-C' セクション下部　S→

写真 46　貯水池状遺構（3）　SX03

横断セクションNo.1　S→

横断セクションNo.2　S→

横断セクションNo.3　SW→

横断セクションNo.4　SW→

写真 47　盛土遺構（1）　横断セクションNo.1～4

横断セクションNo.5　NE→

横断セクションNo.6　E→

横断セクションNo.6下部　E→

横断セクションNo.7　E→

写真48　盛土遺構（2）　横断セクションNo.5～7

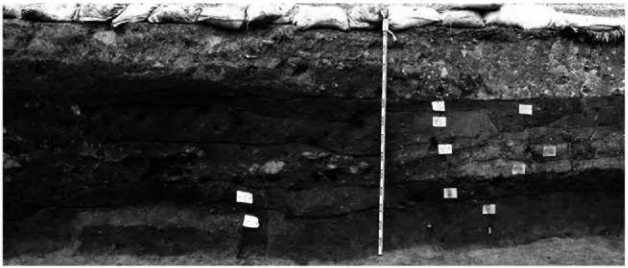
横断セクションNo.8北半　E→

横断セクションNo.9　E→

横断セクションNo.10　E→

横断セクションNo.11　E→

写真49　削平範囲（1）　横断セクションNo.8～11



ⅢG－53グリッド付近　SE→

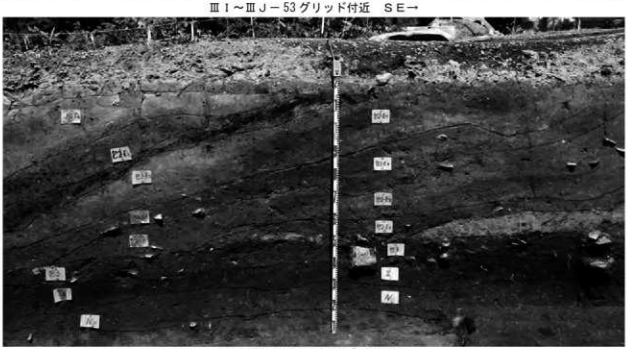
ⅢG～ⅢⅠ－53グリッド付近　SE→

ⅢⅠ-54グリッド土壌サンプリング状況　SE→

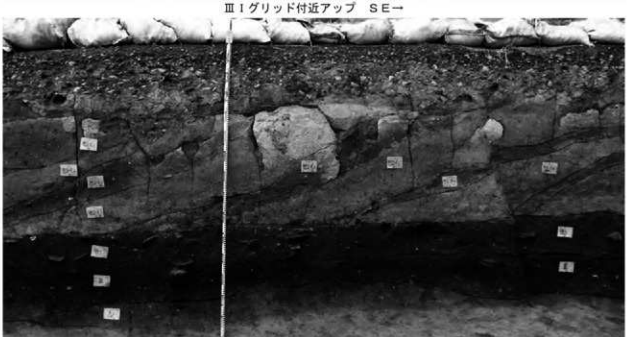
写真50　盛土遺構（3）ロングセクションNo.1（ⅢG～ⅢⅠグリッド）

横断セクションNo.　→

ⅢⅠ～ⅢＪ－53グリッド付近　ＳＥ→



ⅢⅠグリッド付近アップ　ＳＥ→

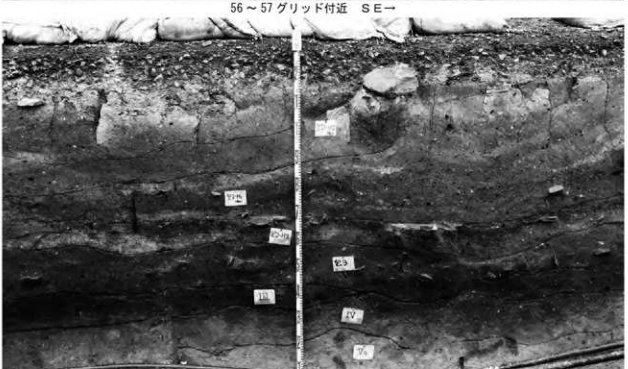


ⅢＪグリッド付近アップ　ＳＥ→

写真51　盛土遺構（４）ロングセクションNo.１（ⅢⅠ～ⅢＪグリッド）

55 グリッド付近アップ　ＳＥ→

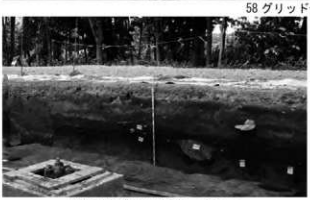
56 ～ 57 グリッド付近　ＳＥ→



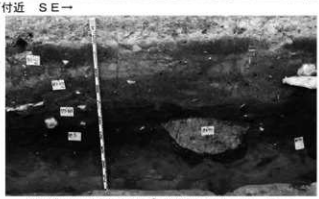
57 グリッド付近アップ　ＳＥ→

写真 52　盛土遺構（５）ロングセクションNo. 1（55 ～ 57 グリッド）

58グリッド付近　ＳＥ→

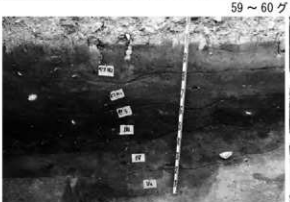


58～59グリッド付近　ＳＥ→



58グリッド付近アップ・SK77セクション　Ｓ→

59～60グリッド付近　ＳＷ→



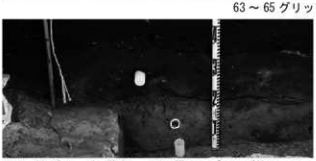
59グリッド付近アップ　Ｓ→

60～61グリッド付近　ＳＥ→

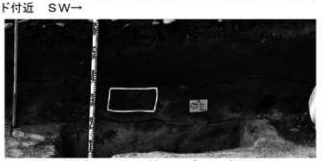
写真53　盛土遺構（６）・削平範囲（２）ロングセクションNo.１（58～61グリッド）

62 グリッド付近アップ　ＳＥ→

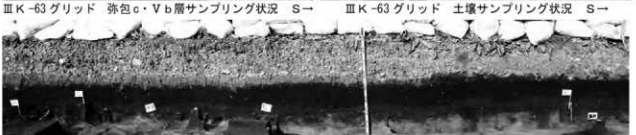
63 ～ 65 グリッド付近　ＳＷ→



ⅢＫ -63 グリッド　弥包ｃ・Ｖｂ層サンプリング状況　Ｓ→



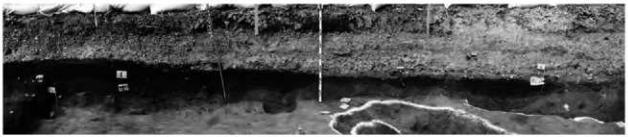
ⅢＫ -63 グリッド　土壌サンプリング状況　Ｓ→



63 グリッド付近アップ　Ｓ→

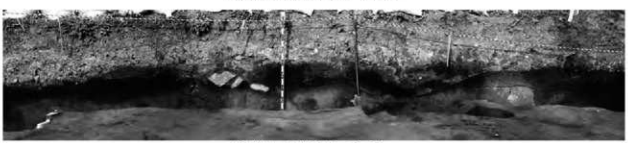
64 グリッド付近アップ　Ｓ→

写真 54　削平範囲（３）　ロングセクション№ 1（61 ～ 64 グリッド）



65 グリッド付近アップ　S→

66 グリッド付近アップ　SW→

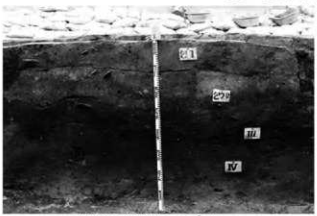


67 グリッド付近アップ　S→

64～66 グリッド付近　SE→

写真 55　削平範囲（4）　ロングセクションNo.1（61～64 グリッド）

ⅢＤ～ⅢＥグリッド付近　ＳＥ→



ⅢＥライン付近アップ　Ｅ→

横断セクションNo.１ベルト（ⅢＥ）アップ　ＳＥ→

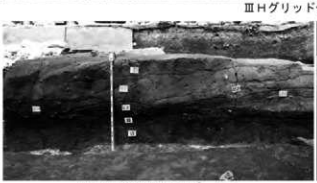
ⅢＥ～ⅢＧグリッド付近　Ｅ→

ⅢＥグリッド付近アップ　Ｅ→

ⅢＧライン付近アップ　Ｅ→

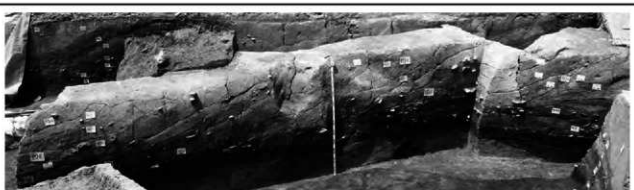
写真56　盛土遺構（７）ロングセクションNo.３（ⅢＤ～ⅢＧグリッド）

ⅢＨグリッド付近　ＳＥ→



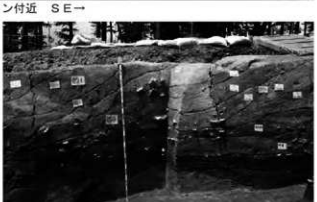
ⅢＨライン付近アップ　Ｅ→

ⅢＨグリッド　アップ　Ｅ→



ⅢＩ～ⅢＪライン付近　ＳＥ→

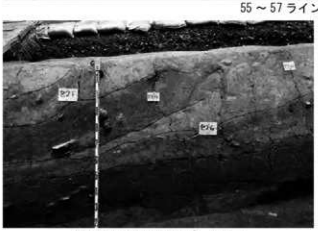
ⅢＩライン付近アップ　Ｅ→



ⅢＪライン付近　アップ　Ｅ→

写真57　盛土遺構（８）ロングセクションNo.３（ⅢＨ～ⅢＪグリッド）

55 ～ 57 ライン付近　ＳＥ→

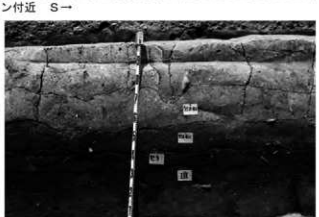


55 グリッド付近アップ　ＳＥ→

56 グリッド付近アップ　ＳＥ→

57 ～ 59 ライン付近　Ｓ→

57 グリッド付近アップ　Ｓ→

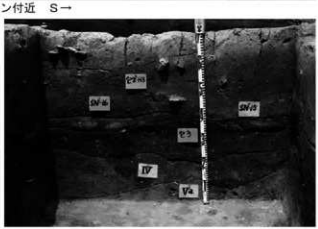


58 グリッド付近アップ　Ｓ→

写真 58　盛土遺構（９）ロングセクションNo.３（55 ～ 58 グリッド）

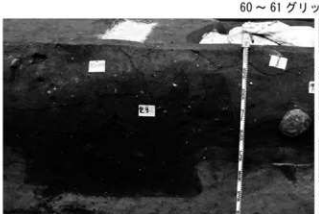
59～60ライン付近　S→

59グリッド付近（SI08セクション）アップ　S→



60グリッド付近アップ　S→

60～61グリッド付近　S→

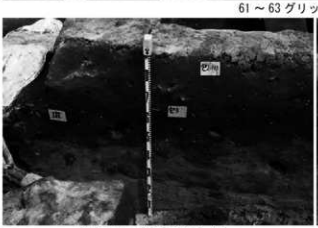


60グリッド付近（SK71）アップ　S→

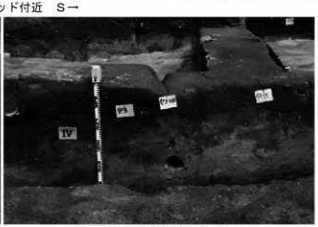
60ライン付近調査風景　SW→

写真59　盛土遺構（10）ロングセクションNo.3（59～61グリッド）

61 ～ 63 グリッド付近　S→



61 グリッド付近アップ　S→



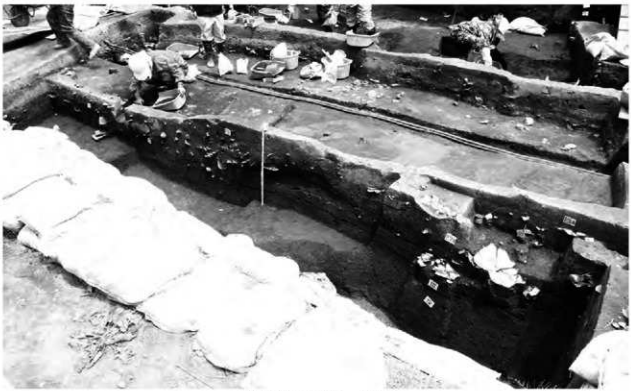
62 グリッド付近アップ　S→

縦断セクションNo.1　NW→

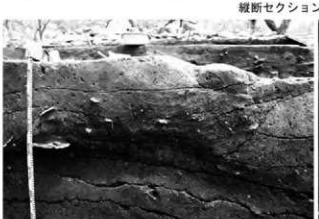
B-Tm 検出状況（平面）　S→

B-Tm 検出状況（断面）　W→

写真 60　盛土遺構（11）・削平範囲（５）　ロングセクションNo.3（61 ～ 62 グリッド）・縦断セクションNo.1

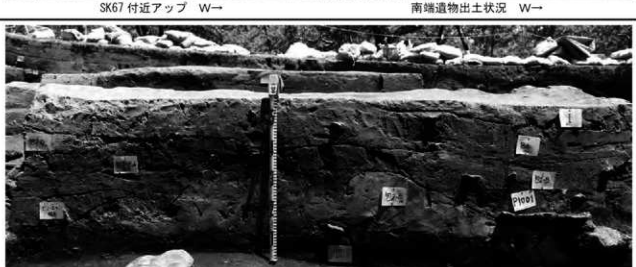


縦断セクションNo.1　SW→



SK67付近アップ　W→

南端遺物出土状況　W→



縦断セクションNo.2　W→

写真61　盛土遺構（12）　縦断セクションNo.1・No.2

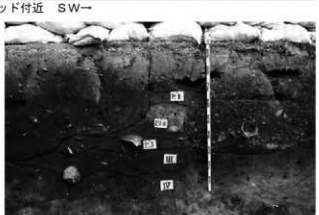
ⅢＤ～ⅢＥグリッド付近　W→

ⅢＥグリッド付近アップ　W→

ⅢＤグリッド付近アップ　W→

ⅢＥ～ⅢＧグリッド付近　SW→

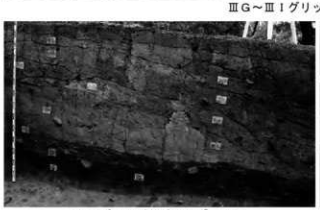
ⅢＧグリッド付近アップ　W→



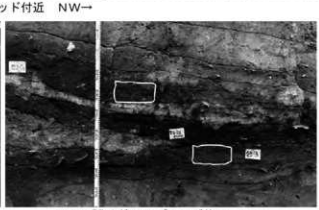
ⅢＦグリッド付近アップ　W→

写真 62　盛土遺構（13）　ロングセクションNo.４（ⅢＤ～ⅢＧグリッド）

ⅢＧ～ⅢＩグリッド付近　NW→

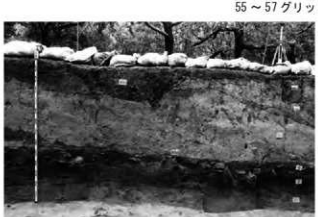


ⅢＩグリッド付近アップ　W→

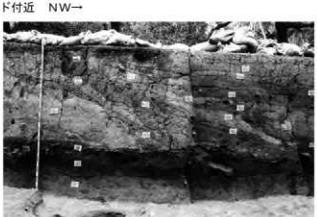


ⅢＨ-55 土壌サンプリング状況　W→

55～57 グリッド付近　NW→



57 グリッド付近アップ　N→



56 グリッド付近アップ　NW→

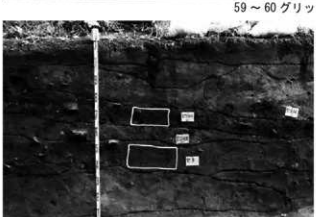
写真 63　盛土遺構（14）　ロングセクションNo.4（ⅢＧ～57 グリッド）

57～58ライン付近　NW→

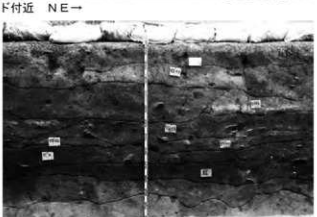
57グリッド付近アップ　N→

57ライン（S35トレンチ）調査風景　SW→

59～60グリッド付近　NE→



Ⅲ J -59グリッド土壌サンプリング状況　N→



59ライン付近アップ　N→

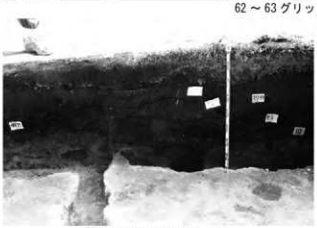
写真64　盛土遺構（15）　ロングセクションNo.4（57～60グリッド）

60～61グリッド付近　NE→

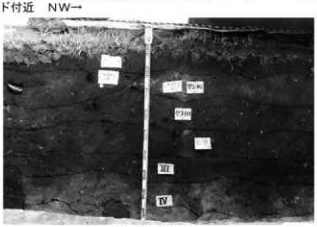
60ライン付近アップ　N→

60ライン付近調査風景　NW→

62～63グリッド付近　NW→



63ライン付近アップ　N→



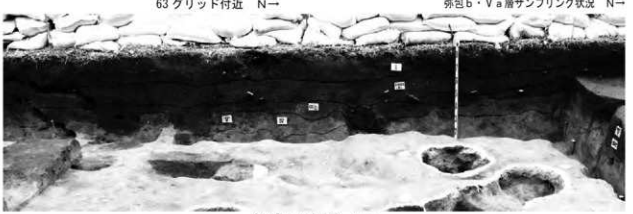
62ライン付近アップ　N→

写真65　盛土遺構（16）　ロングセクションNo.4（60～63グリッド）

62 グリッド以東　NW→

63 グリッド付近　N→

ⅢＪ-63 グリッド　包１・弥包ａ・弥包ｂ・Ⅴａ層サンプリング状況　N→



64 グリッド付近　N→

65 グリッド付近　N→

写真 66　削平範囲（６）　ロングセクション№.４（62 ～ 65 グリッド）

66 グリッド付近　N→

67 グリッド付近　N→

68 グリッド付近　NE→

69 ライン以西　E→

写真 67　削平範囲（7）　ロングセクション№4（66 ～ 69 グリッド）

Ⅲ Ⅰ ライン以南 包2-A・B上面検出（包1除去）状況　N→

Ⅲ E-52 包2-A・B層　遺物出土状況　S→

Ⅲ F-54 包2-B層　遺物出土状況　S→

Ⅲ G-54　包2-B層　壺（図132-1・8）出土状況　N→

Ⅲ F・Ⅲ G-54 包2-B層　遺物出土状況　W→

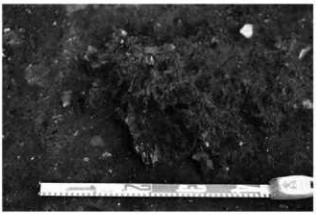
Ⅲ E-52(c・d-1・2) 包2-B下層　遺物出土状況　NW→

Ⅲ G-54 包2-B層　壺（図131-11・図132-2）・浅鉢（図124-7）出土状況　SW→

Ⅲ E-53 包2-B上層　図150-26 出土状況　W→

写真68　盛土遺構　遺物出土状況（1）　包2－A・B層

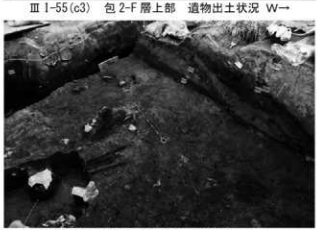
Ⅲ H・Ⅲ I-54 包 2-E 下層　遺物出土状況　SW→



Ⅲ H-54(b1)　包 2-E2 層　炭化物出土状況　W→

Ⅲ I-55(c3)　包 2-F 層上部　遺物出土状況　W→

Ⅲ I-55 包 2-F4 層　遺物出土状況　W→



Ⅲ J-56 包 2-G2 層　遺物炭化物出土状況　SW→

Ⅲ J-55 包 2-G(包３直上)層　遺物出土状況　N→

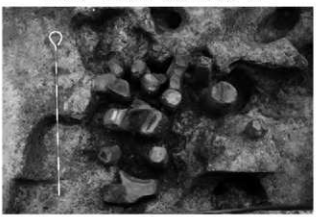
Ⅲ J-59 包 2-H0(炭化物層)検出　NW→

Ⅲ K-58 包 2-H3 層　遺物出土状況　E→

写真 69　盛土遺構　遺物出土状況（２）　包２－Ｃ～Ｈ層

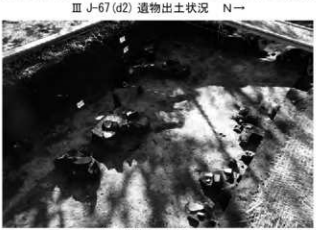
Ⅲ K-65 ～ 67 弥包層　遺物出土状況　W→

Ⅲ K-65 ～ 67 弥包層　遺物出土状況　ＳＥ→

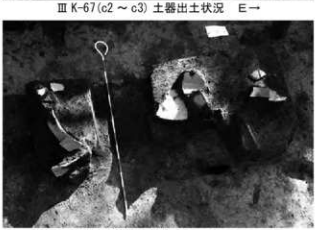


Ⅲ J-67 (d2) 遺物出土状況　N→

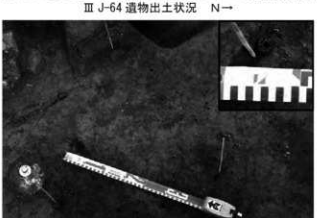
Ⅲ K-67 (c2 ～ c3) 土器出土状況　E→



Ⅲ J-64 遺物出土状況　N→



Ⅲ J-64 遺物出土状況アップ　N→



Ⅲ K-65 (c3) 土製玉出土状況　W→

Ⅲ K-66 (c2) 玉（図 207-23・24）出土状況　W→

写真 70　削平範囲（弥包層）遺物出土状況

包１層　遺物出土状況　ＳＷ→

Ⅲ E-52 包１層　鉢（図 209-14）出土状況　Ｎ→

Ⅲ G-54・55 包３層　遺物出土状況　ＳＥ→

Ⅲ Ⅰ・Ⅲ J-54 包３層　遺物出土状況　ＳＷ→

Ⅲ H-55（横断セクNo.12-3）包３層　P1183 ～ 1186 出土状況 Ｎ→

Ⅲ I-54 包３層　浅鉢（図 217-1・図 218-4・図 230-9）出土状況 Ｎ→

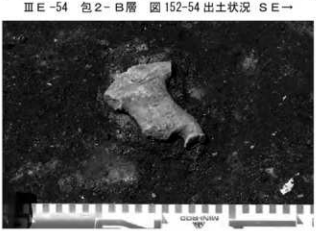
Ⅲ J-57 包３層　壺（図 228-1）出土状況 Ｓ→

横断セクNo.12-5 部分　包３層　図 228-2・図 257-35 出土状況 ＳＷ→

写真 71　包１層・包３層　遺物出土状況

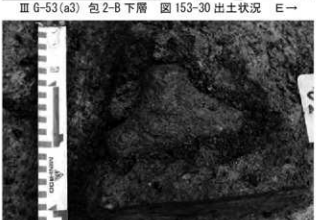
Ⅲ E -54　包 2- B 層　図 152-54 出土状況　S E→

Ⅲ D-52 (d3)　包 2-B 下層　図 154-34 出土状況　S→



Ⅲ G-53 (a3)　包 2-B 下層　図 153-30 出土状況　E→

Ⅲ D-53 (a3)　包 2-B 下層　図 153-28 出土状況　E→



Ⅲ I-55 (b2)　包 2-E 3 層　図 180-12 石冠出土状況　S→

Ⅲ J-56 (d1)　包 2-H 層　図 191-14 出土状況　W→

Ⅲ J-59 (a4)　包 2-H2 上面　図 193-14 石棒出土状況　NW→

Ⅲ J-56　包 2-H3 層　図 257-46 石製品出土状況　N→

写真 72　文化遺物出土状況

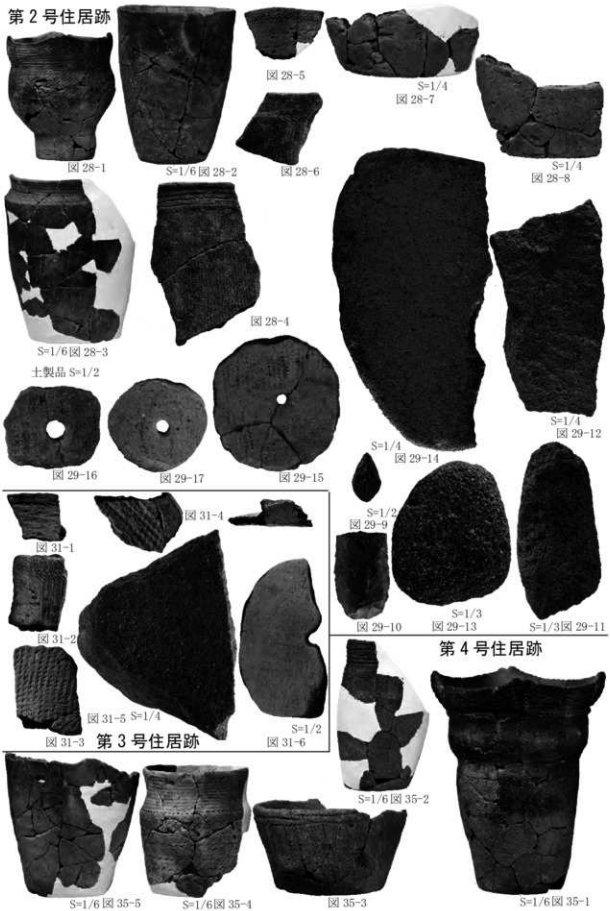


写真 73　竪穴住居跡出土遺物（1）

第４号住居跡

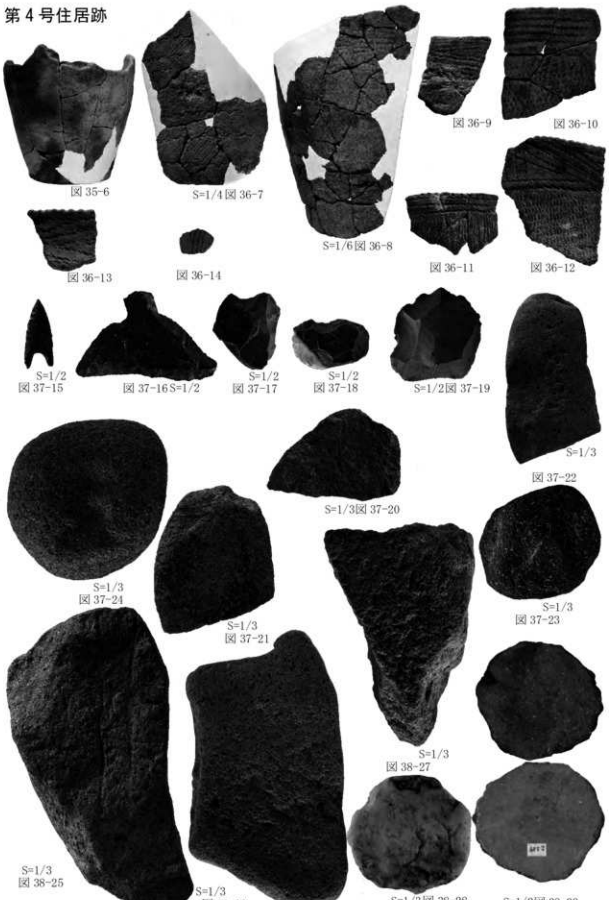


写真 74　竪穴住居跡出土遺物（２）

第 5 号住居跡

図 40-1

図 40-2

図 40-3

図 40-4

図 40-5

S=1/3
図 40-6

図 40-7

図 40-8

図 40-9

図 40-10

第 7 号住居跡

図 43-1

図 43-2

第 8 号住居跡

図 43-3

図 43-4

図 43-5

図 43-6

写真 75　竪穴住居跡出土遺物（3）

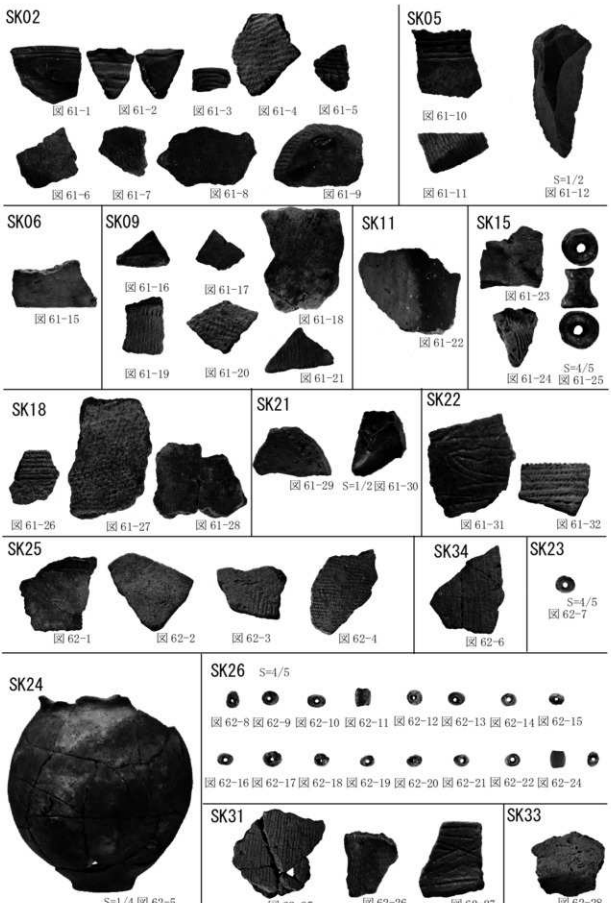


写真76　土坑出土遺物（1）

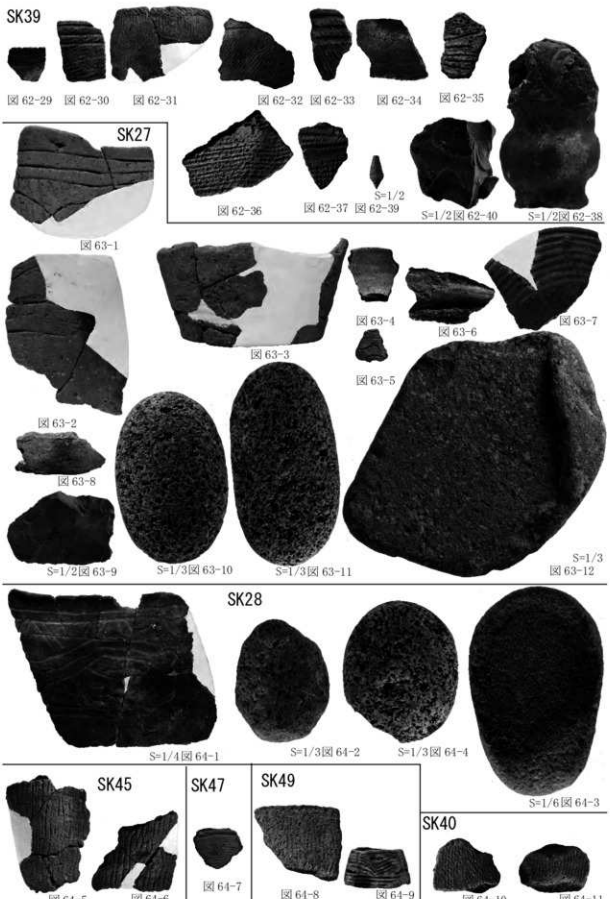


写真77　土坑出土遺物（2）

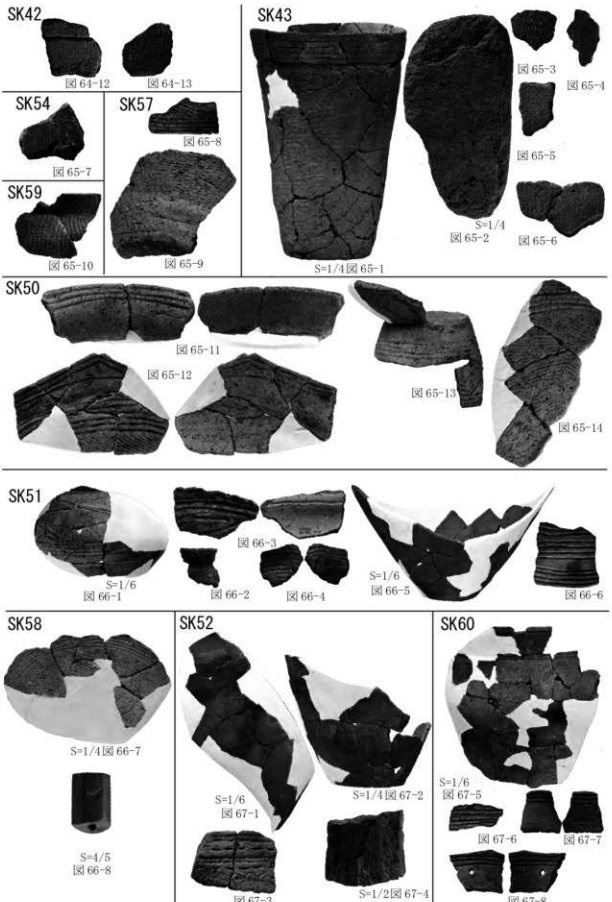


写真 78　土坑出土遺物（3）

写真79　土坑出土遺物（4）

写真 80　土坑出土遺物（5）

写真81　土坑出土遺物（6）

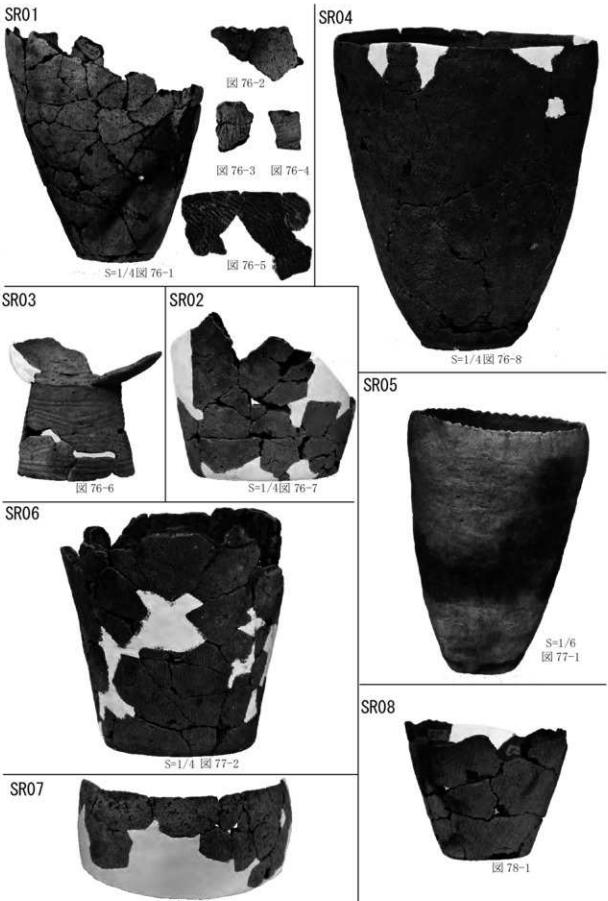


写真 82　埋設土器遺構（1）

SR09

図 78-2

図 78-3

SR10

S=1/4図 78-5

SR11

S=1/4 図 78-6

SR13

S=1/4 図 79-1

SR12

S=1/4

S=1/4　図 79-3

SR14

S=1/4
図 79-2

S=1/4

写真 83　埋設土器遺構（2）

写真84　ピット出土遺物（1）

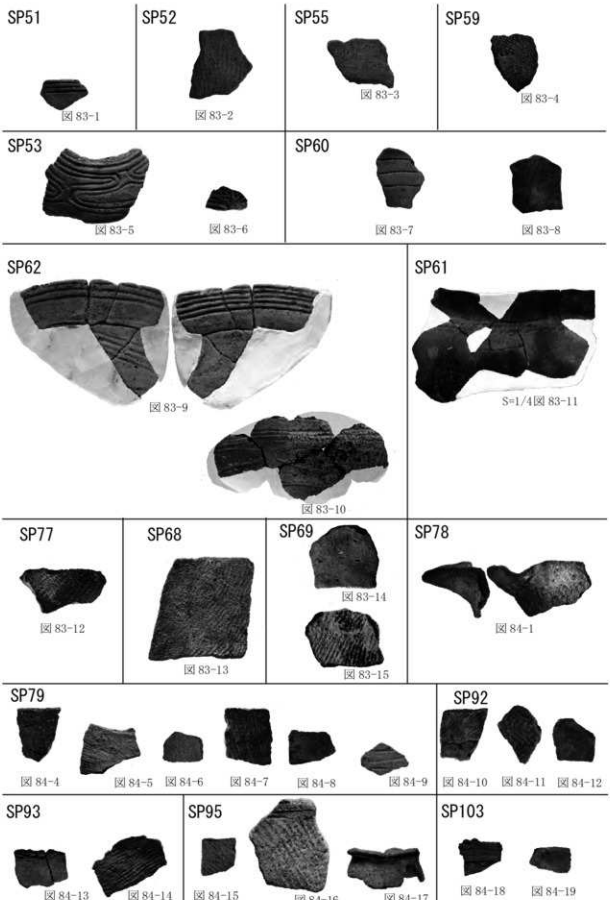


写真85　ピット出土遺物（2）

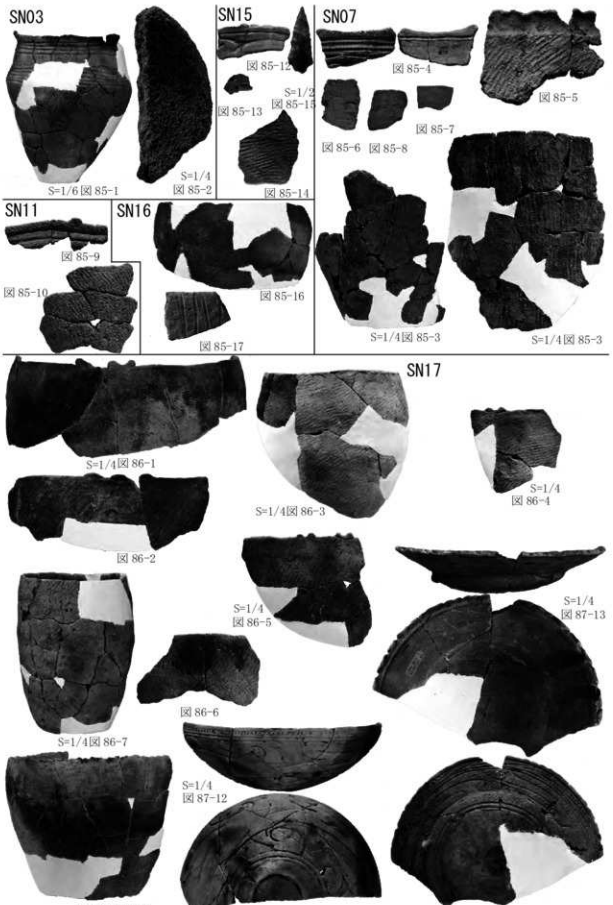


写真 86　焼土遺構出土遺物（1）

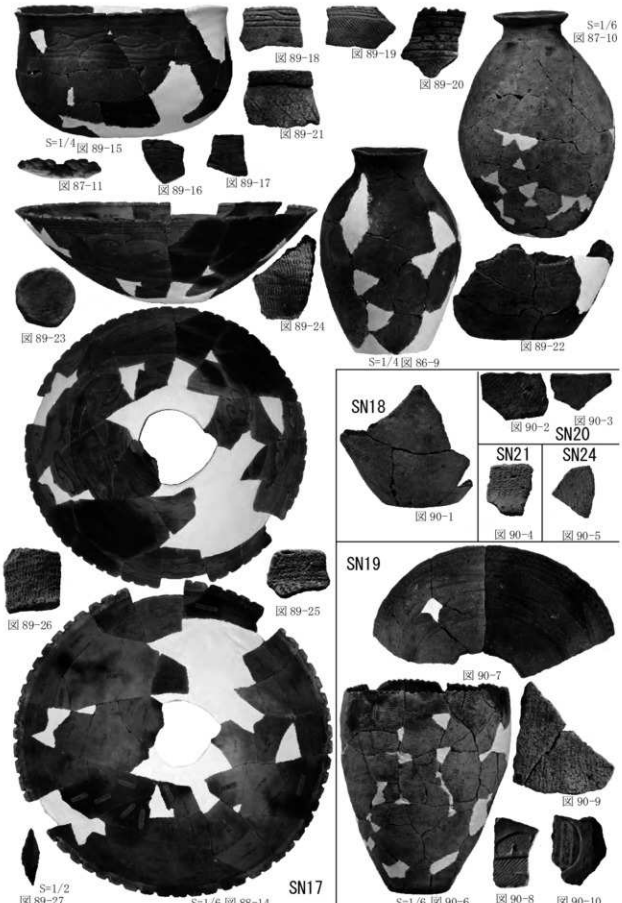


写真87　焼土遺構出土遺物（2）

写真 88　集石遺構・黒曜石散布範囲・竪穴遺構出土遺物

SD01

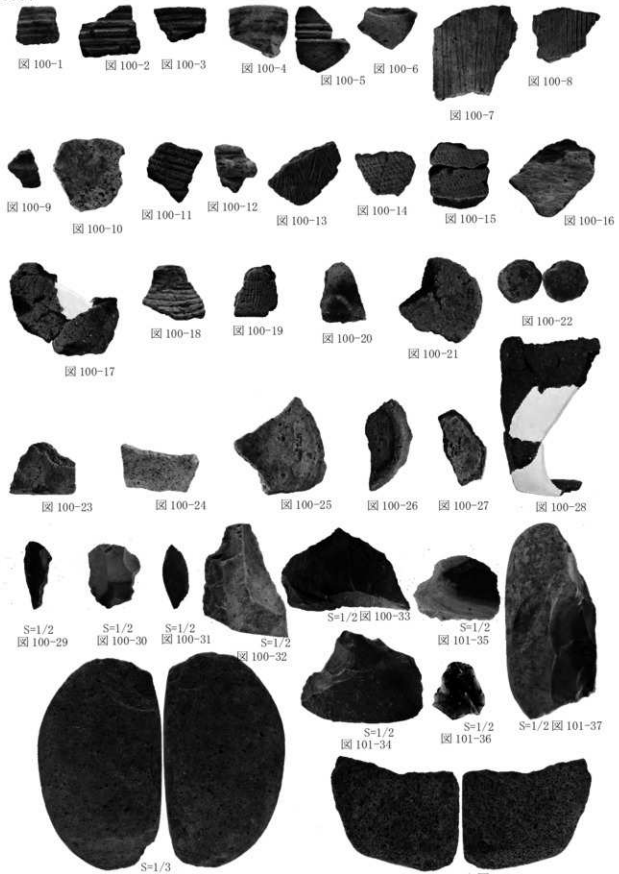
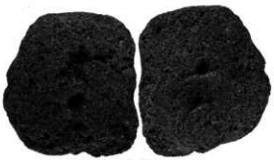


写真 89　溝跡内出土遺物（1）

SD01

S=1/3 図 101-40



S=1/3 図 101-41

S=1/3図 102-42

S=1/3
図 102-43

S=1/3図 102-44

S=1/3図 102-45

S=1/3
図 102-46

S=1/3　図 102-47

S=1/3
図 102-48

S=1/3図 102-49

S=1/3図 102-50

写真 90　溝跡出土遺物（2）

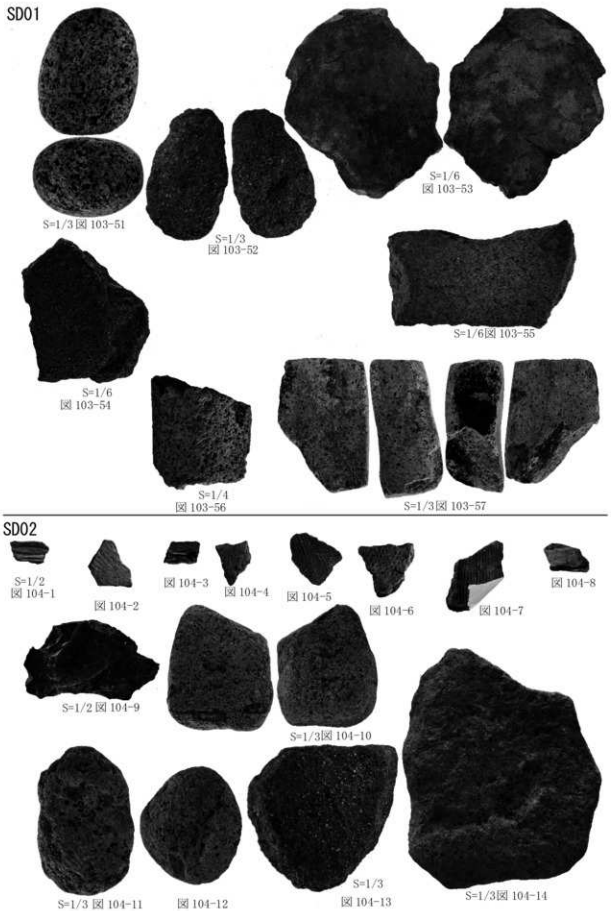


写真 91　溝跡出土遺物（3）

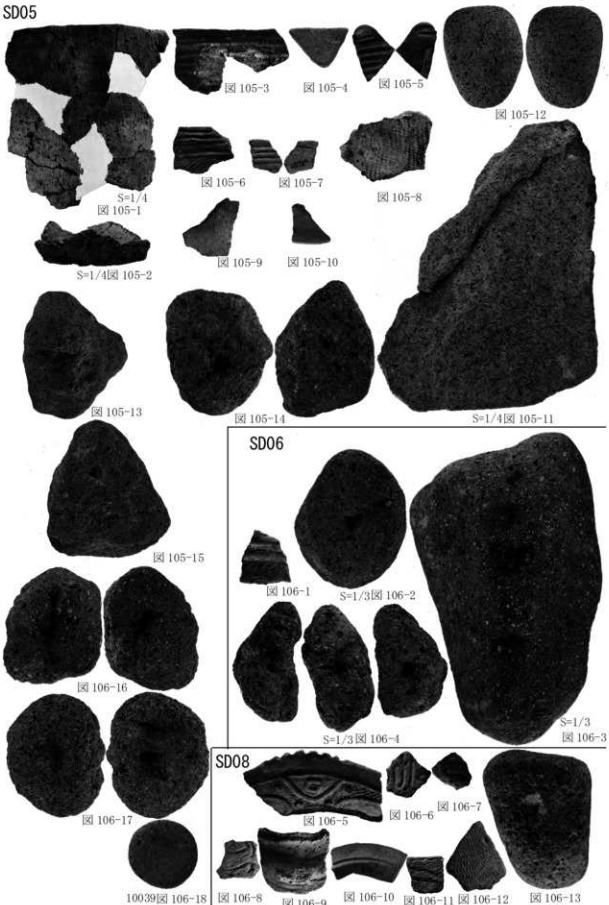


写真 92　溝跡出土遺物（4）

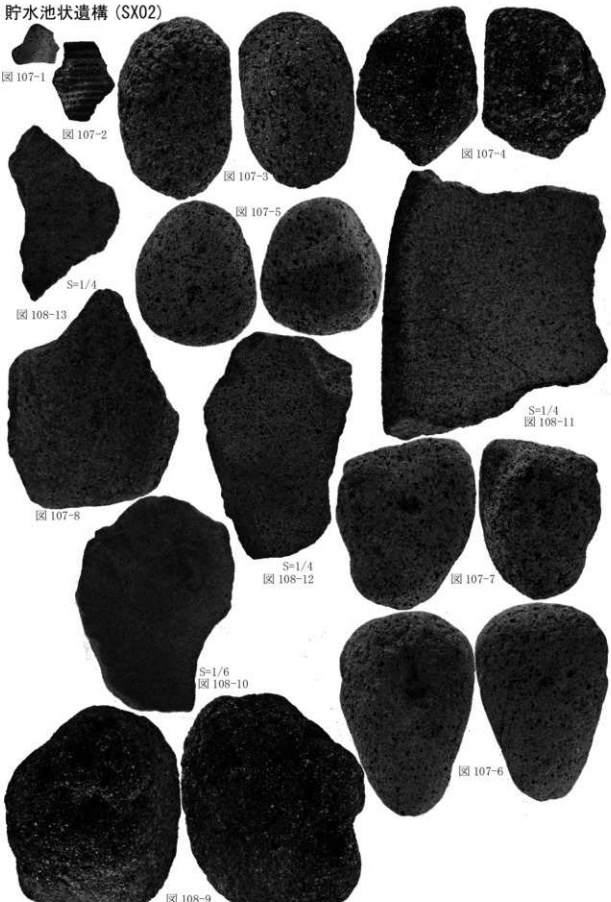


写真 93　貯水池状遺構出土遺物

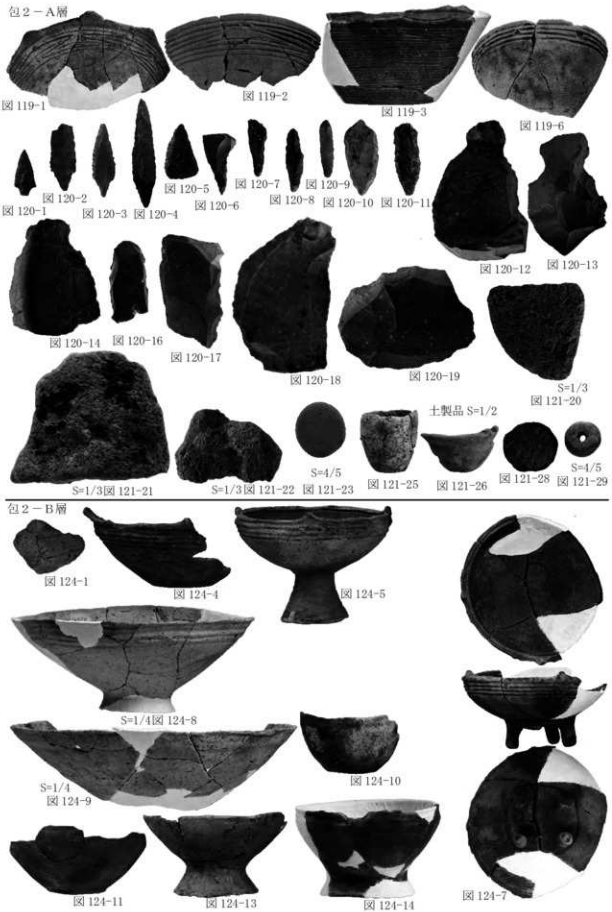


写真 94　包２－Ａ層出土遺物（１）

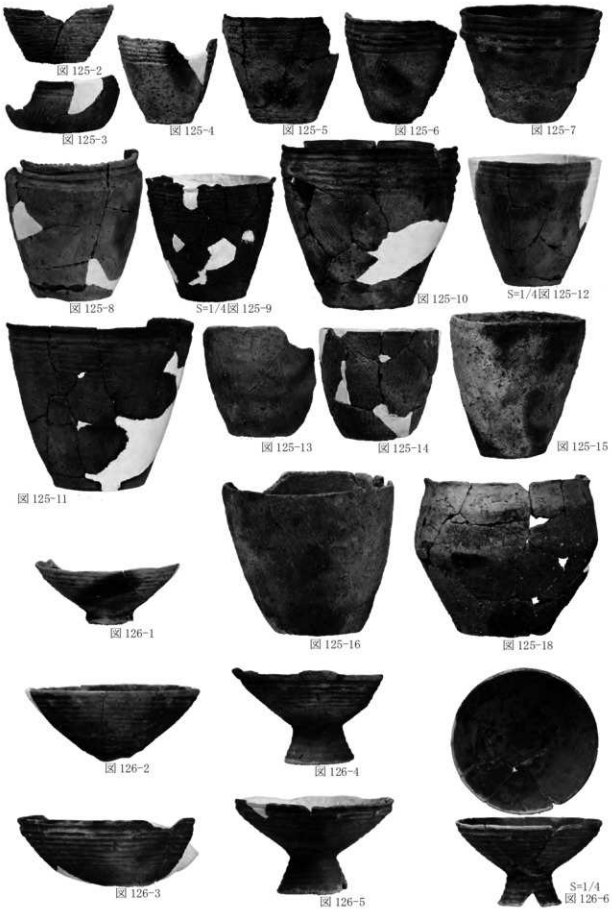


写真 95　包２－Ｂ層出土遺物（１）

図 126-7

図 126-9

図 126-10

図 126-11

図 126-12

図 126-13

図 126-14

図 126-15

図 126-8

図 126-16

図 126-17

図 127-1

図 127-2

S=1/4図 127-3

写真 96　包２－B層出土遺物（２）

S=1/4図 127-4

S=1/4図 127-5

S=1/4図 127-6

S=1/4 図 127-7

S=1/4 図 128-1

S=1/6 図 128-2

S=1/6図 128-3

S=1/6図 129-1

S=1/6 図 129-2

S=1/4図 129-3

S=1/6図 129-4

S=1/4図 130-1

写真 97　包２－Ｂ層出土遺物（３）

写真 98　包２－B層出土遺物（４）

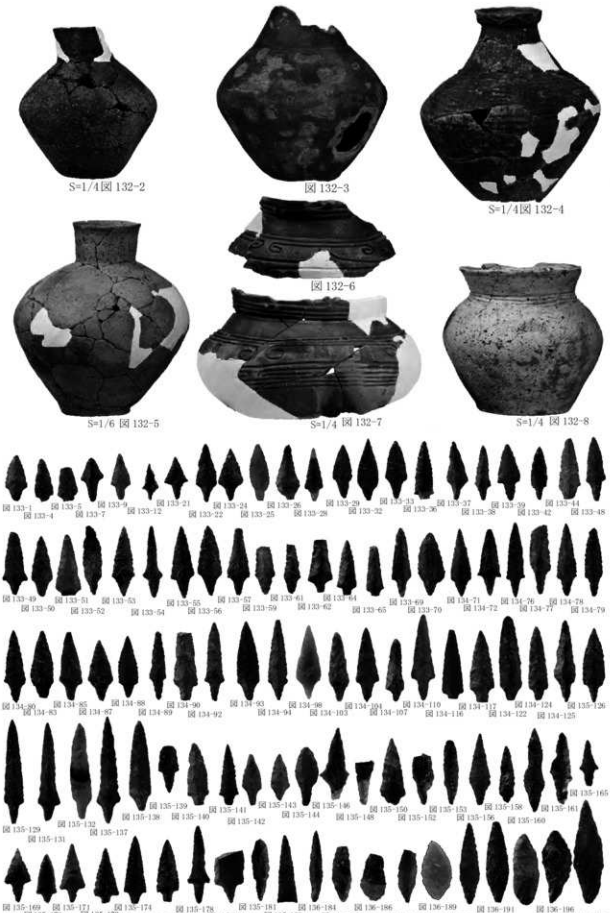


写真 99　包２－Ｂ層出土遺物（５）

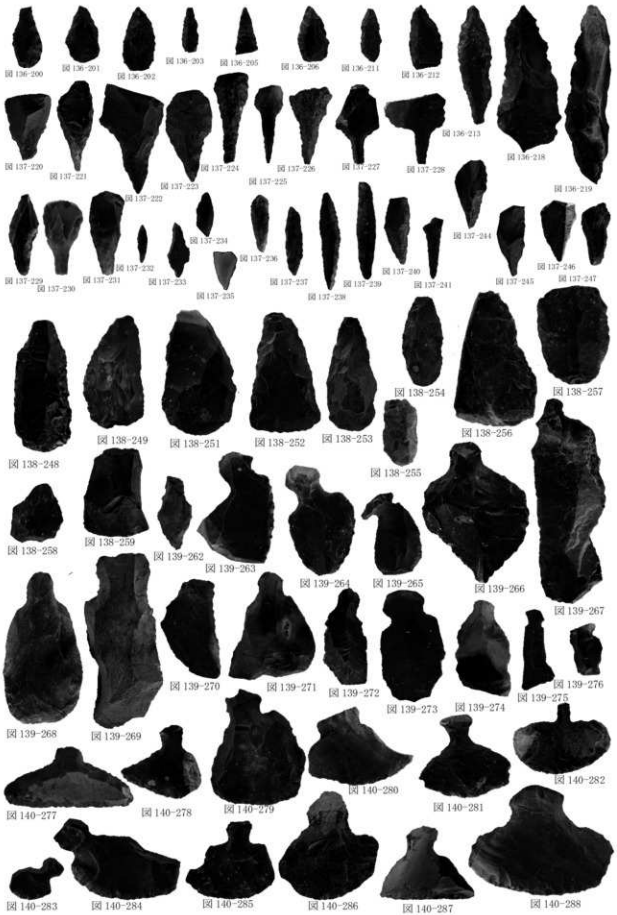


写真 100　包２－Ｂ層出土遺物（６）

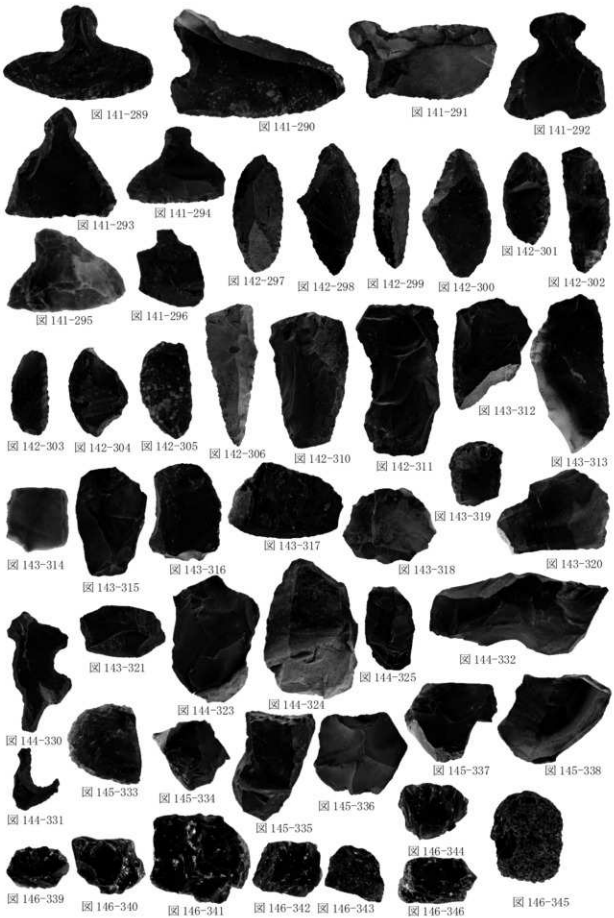


写真 101　包２－Ｂ層出土遺物（７）

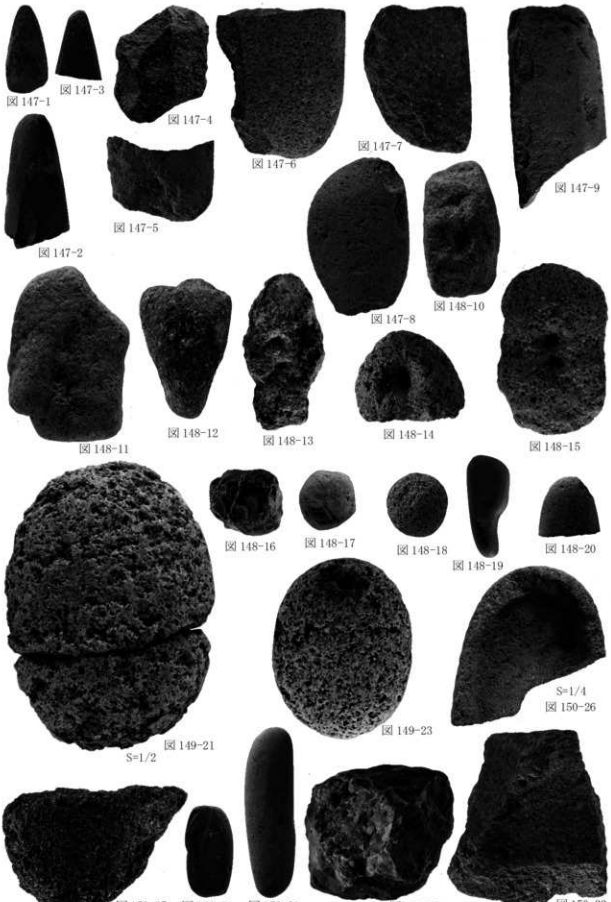


写真 102　包２－Ｂ層出土遺物（８）

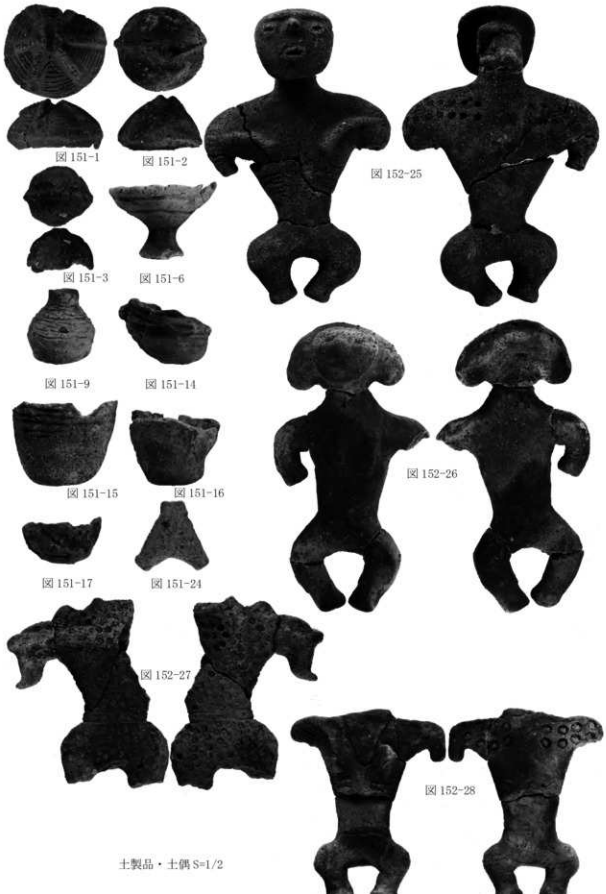


写真 103　包２－Ｂ層出土遺物（９）

写真 104　包２－Ｂ層出土遺物（10）　　土製品・土偶 S=1/2

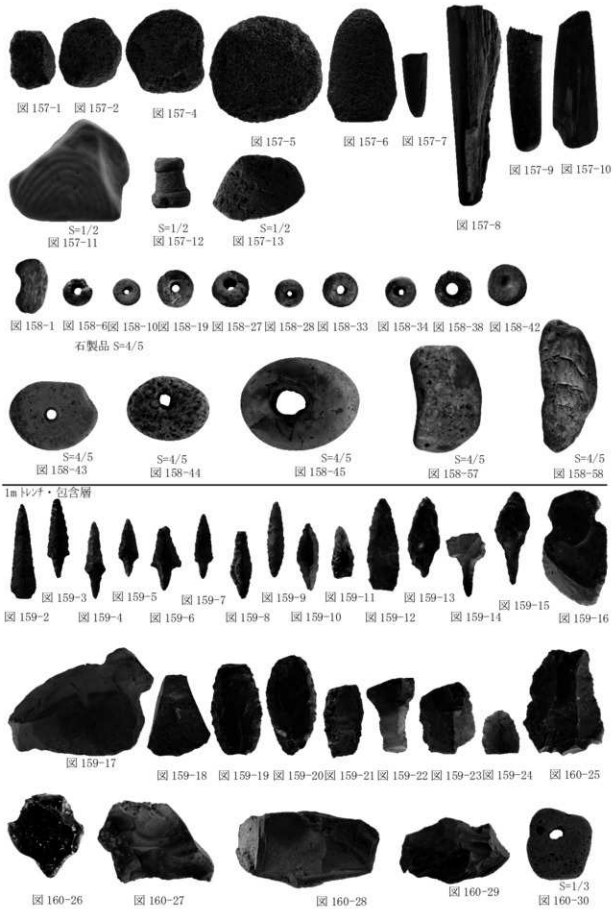


写真 105　包２－Ｂ層出土遺物（11）

S=1/4
図 162-1

図 162-2

図 162-3

図 162-4

図 162-5

図 162-6

図 162-7

図 162-9　S=1/4

図 163-2

図 162-8

図 163-3

図 163-4

S=1/4図 163-5

図 163-6

図 163-8

図 163-10

図 163-11

図 163-12

図 163-13

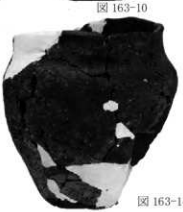


図 163-14

写真 106　包 2 －C～G層出土遺物（1）

図 164-1

図 164-2

図 164-3

図 164-4

図 164-5

図 164-6

図 164-8

S=1/4 図 164-9

S=1/4図 164-10

S=1/4 図 164-11

S=1/4 図 165-1

S=1/4 図 165-2

S=1/4 図 165-3

S=1/4 図 165-4

S=1/4 図 165-5

S=1/4 図 165-6

S=1/4 図 165-8

S=1/4 図 166-1

写真 107　包 2 － C ～ G 層出土遺物（2）

写真 108　包 2 ～ C からＧ層出土遺物（3）

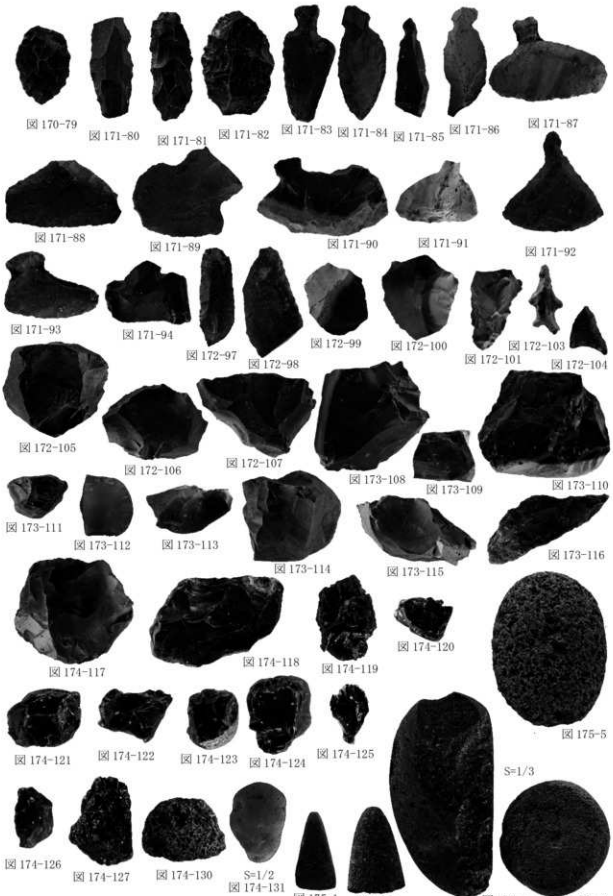


写真 109　包２－Ｃ～Ｇ層出土遺物（４）

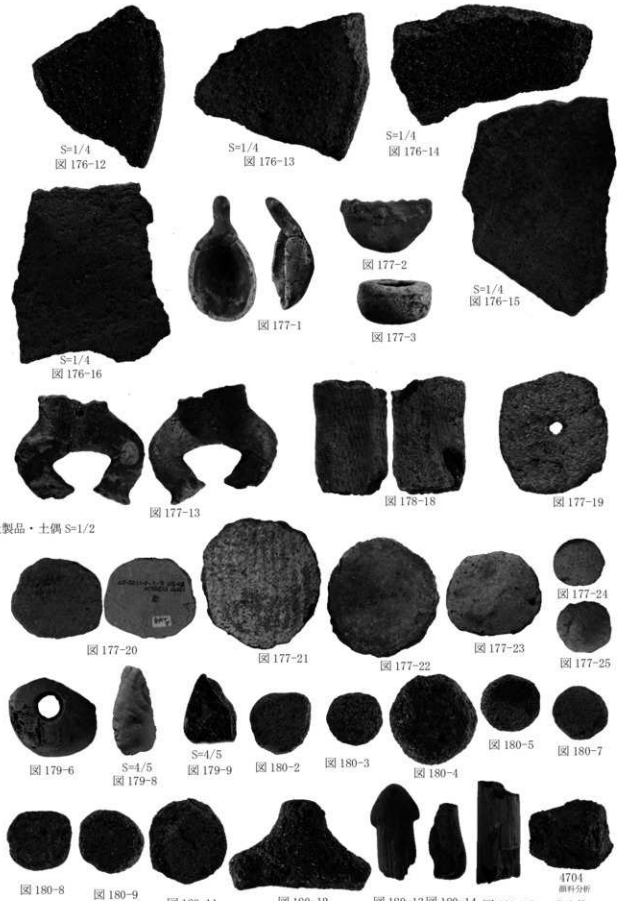


写真 110　包 2 －C～G層出土遺物（5）

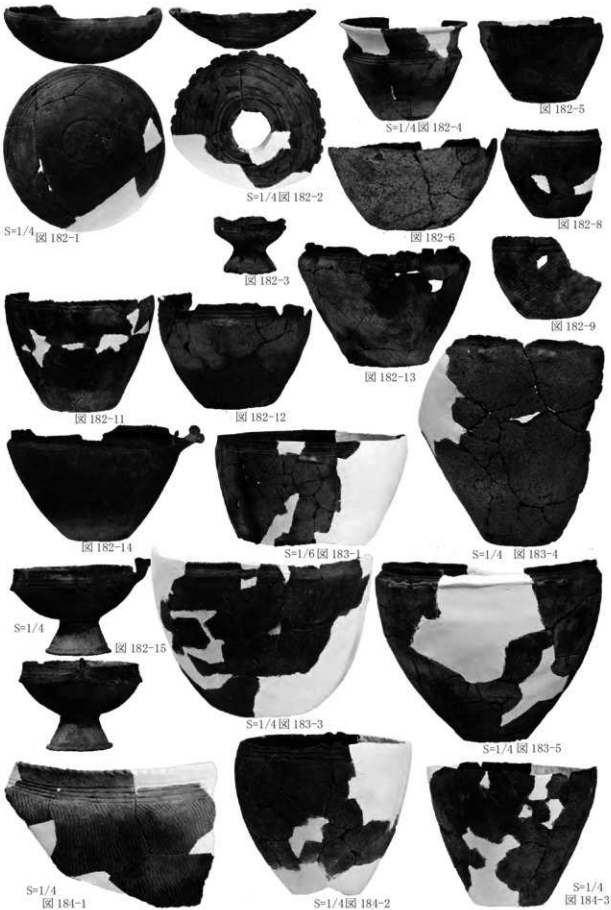


写真111　包２－Ｈ層出土遺物（１）

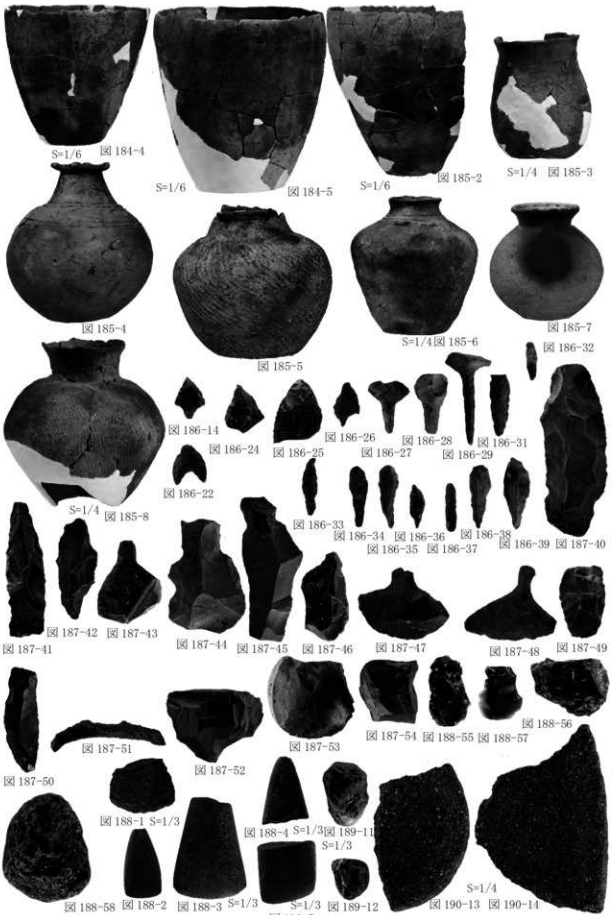


写真 112　包２－H層出土遺物（２）

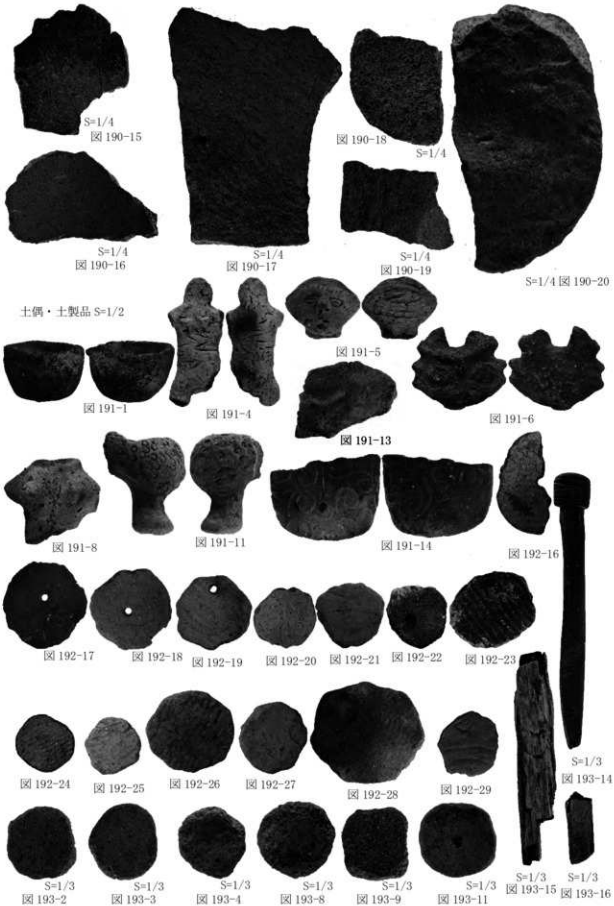


写真 113　包２－Ｈ層出土遺物（３）

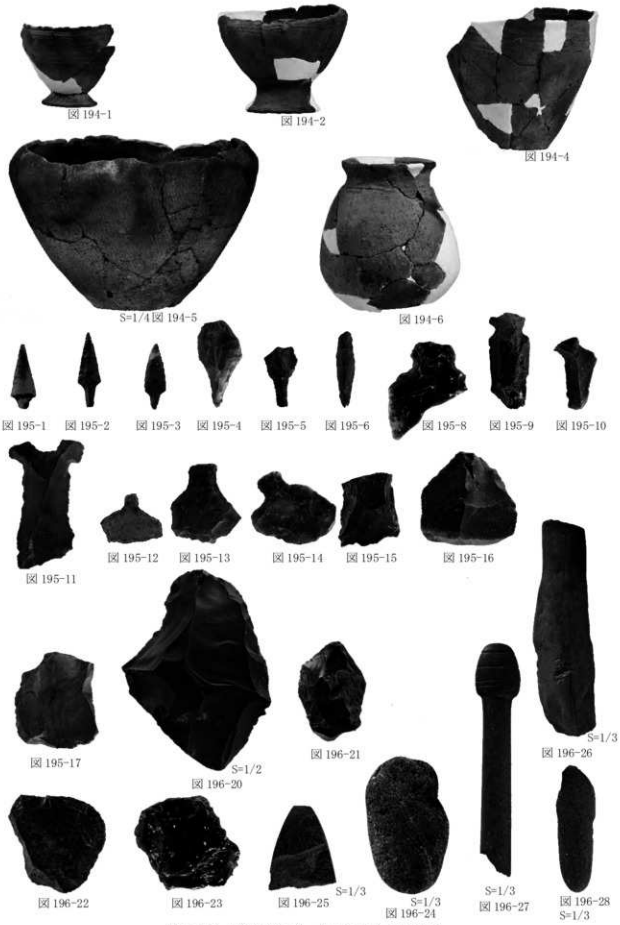


写真 114　盛土遺構（1m トレンチ）出土遺物

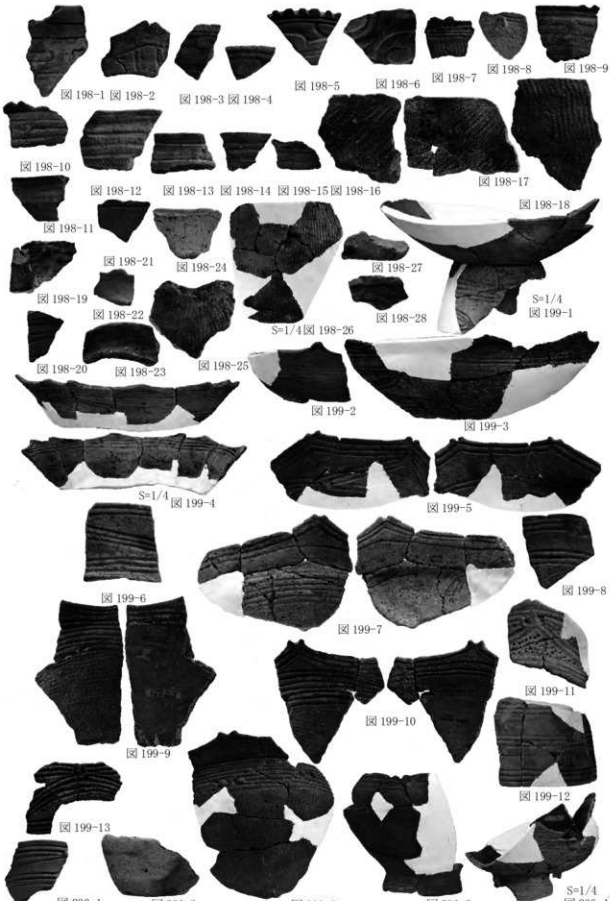


写真 115　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（1）

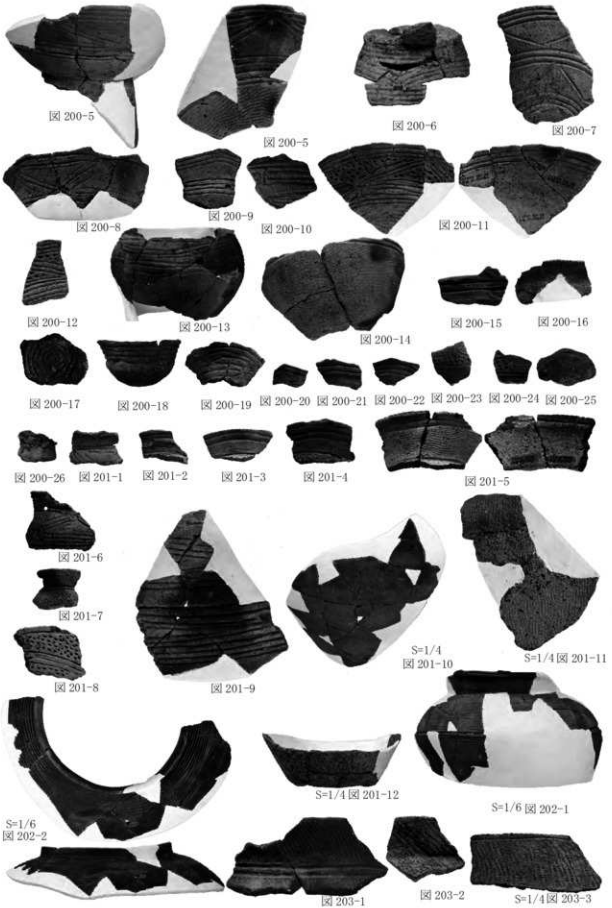


写真 116　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（2）

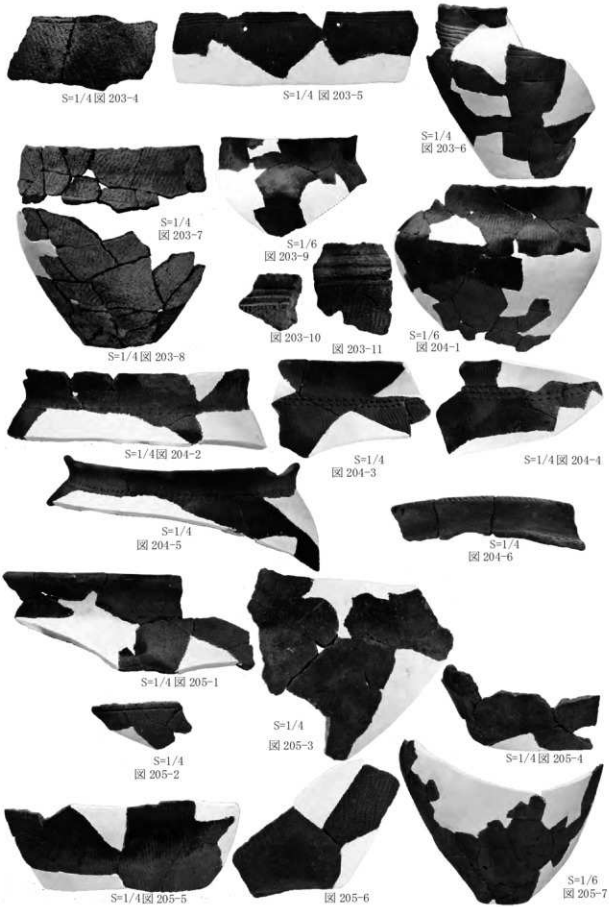


写真 117　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（3）

図 206-1

図 206-2

図 206-3

図 206-5

図 206-6

図 206-7

図 206-8

図 206-9

図 206-10

図 206-11

図 206-12

図 206-13

図 206-14

図 206-15

S=1/3
図 206-16

S=1/3
図 206-17

789

791

原産地分析資料

S=1/6
図 207-18

S=1/6
図 207-19

S=1/4
図 207-20

S=1/2
図 207-21

S=1/2
図 207-22

S=1/2
図 207-23

S=1/2
図 207-24

S=4/5
図 207-25

S=4/5
図 207-26

S=4/5
図 207-27

S=4/5
図 207-28

S=4/5
図 207-29

図 207-33

図 207-34

写真 118　削平範囲（弥生包含層）出土遺物（4）

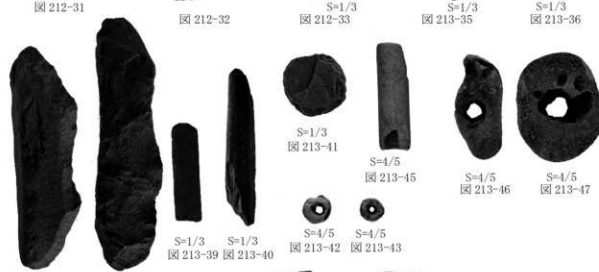
写真 119　包 1 層出土遺物（1）

写真 120　包 1 層出土遺物（2）

図211-14 図211-15 図211-16 図211-17 図211-18 図211-19 図211-21 図211-22 図211-23

図211-24 図211-25 図211-26 図212-27 図212-28 図212-29 図212-30

図212-31 図212-32 S=1/3 図212-33 S=1/3 図213-35 S=1/3 図213-36



S=1/3 図213-37 S=1/3 図213-38 S=1/3 図213-39 S=1/3 図213-40 S=1/3 図213-41 S=4/5 図213-45 S=4/5 図213-46 S=4/5 図213-47 S=4/5 図213-42 S=4/5 図213-43

図214-7 図214-8 図214-10

写真121　包1層出土遺物（3）

土製品・土偶 S=1/2

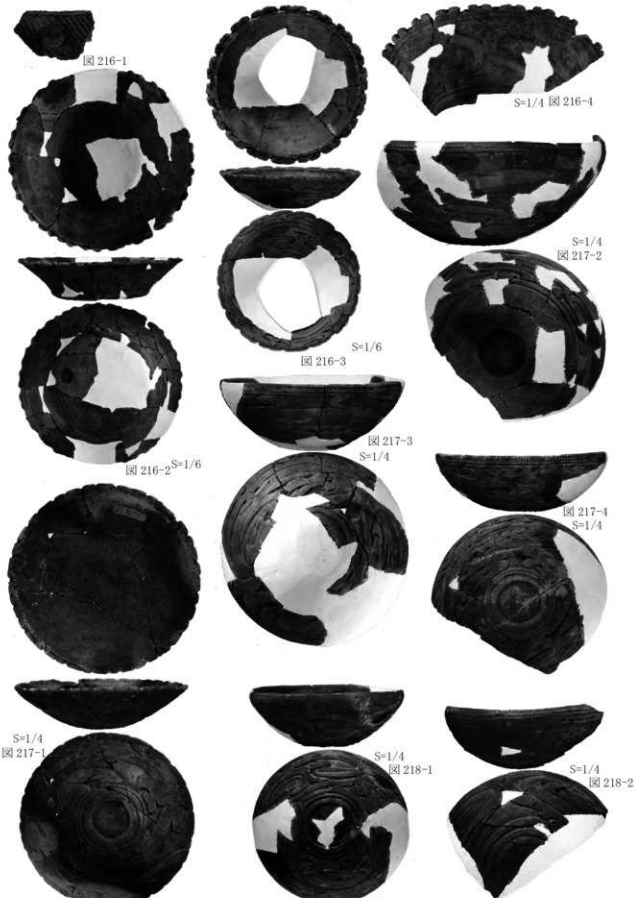


写真 122　包 3 層出土遺物（1）

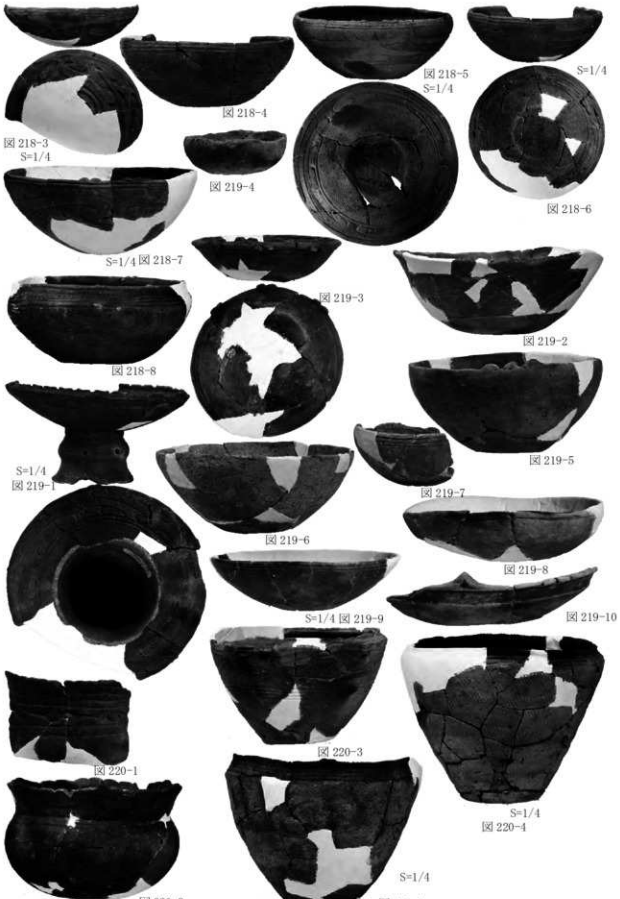


写真 123　包３層出土遺物（２）

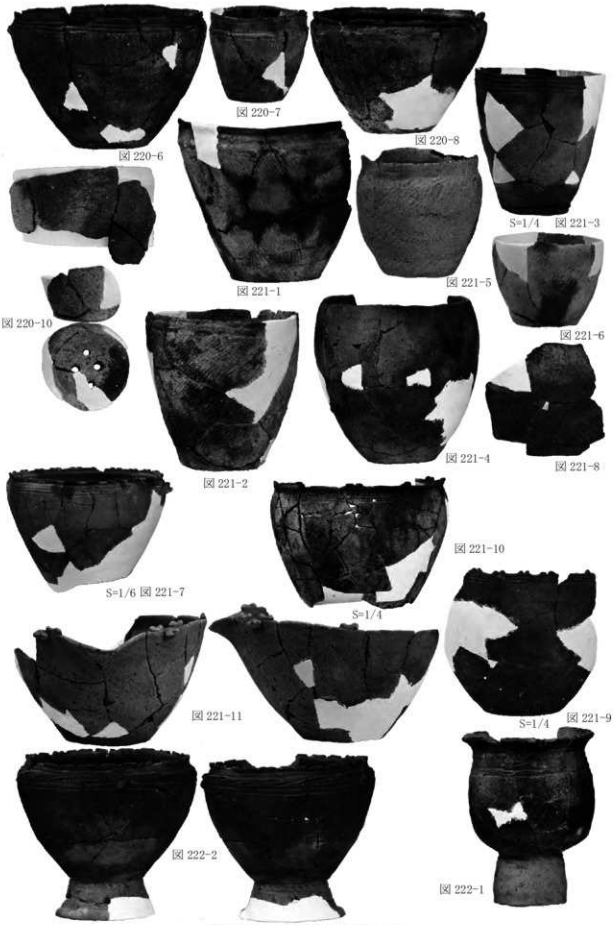


写真 124　包３層出土遺物（３）

写真 125　包３層出土遺物（４）

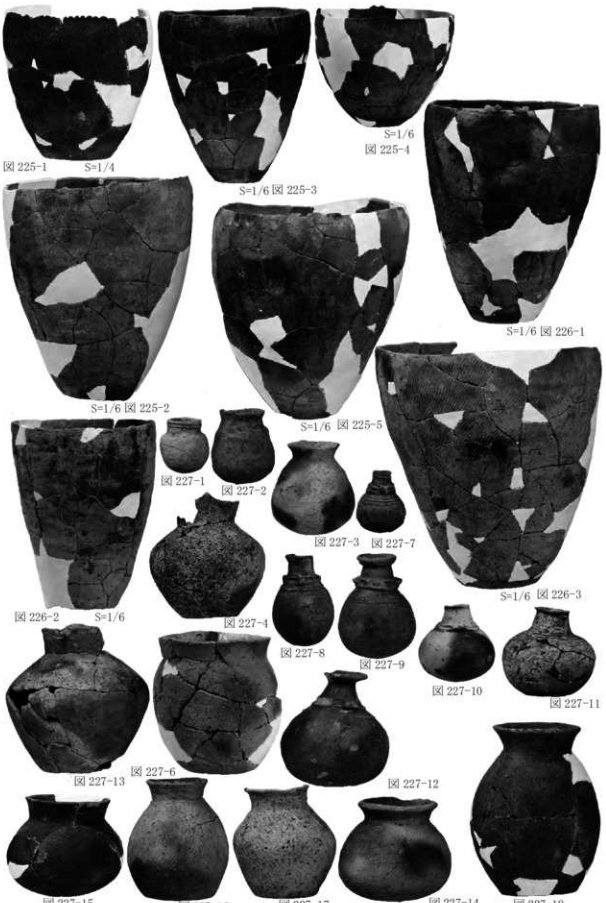


写真 126　包３層出土遺物（５）

写真 127　包３層出土遺物（６）

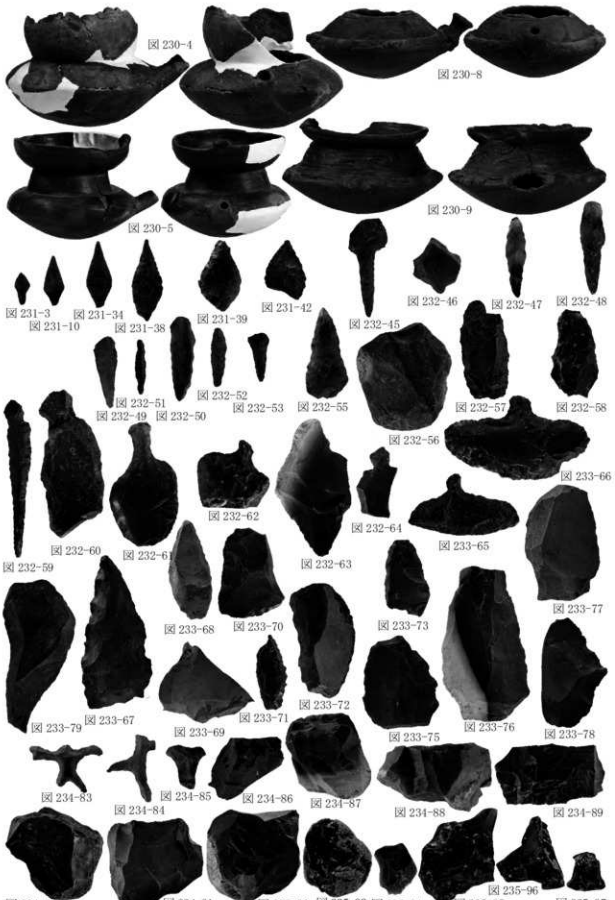


写真 128　包３層出土遺物（７）

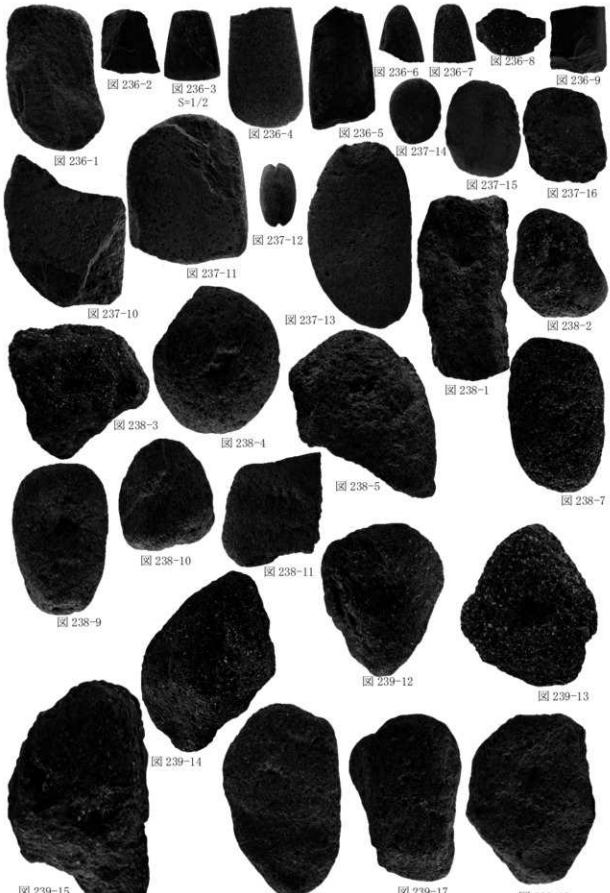


写真 129　包３層出土遺物（８）

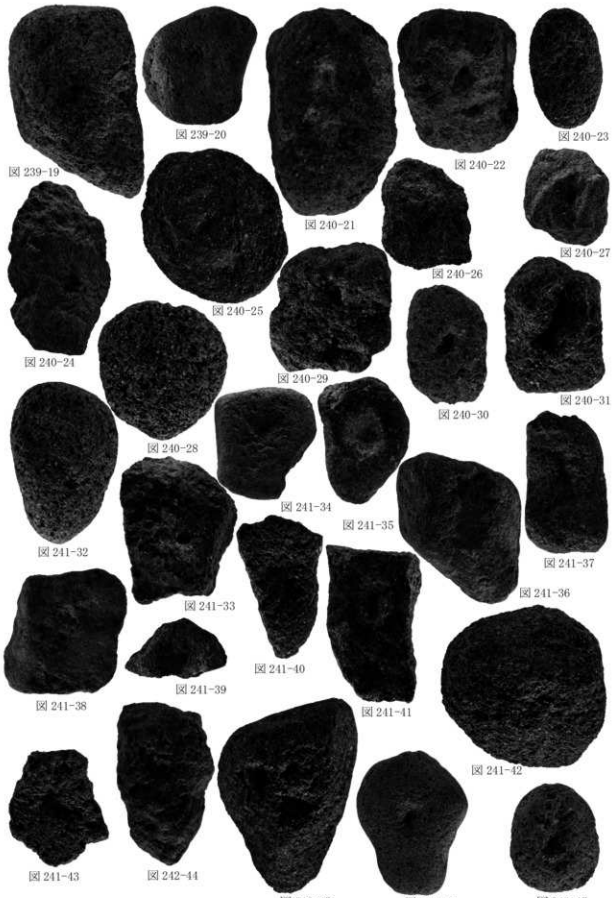


写真 130　包３層出土遺物（９）

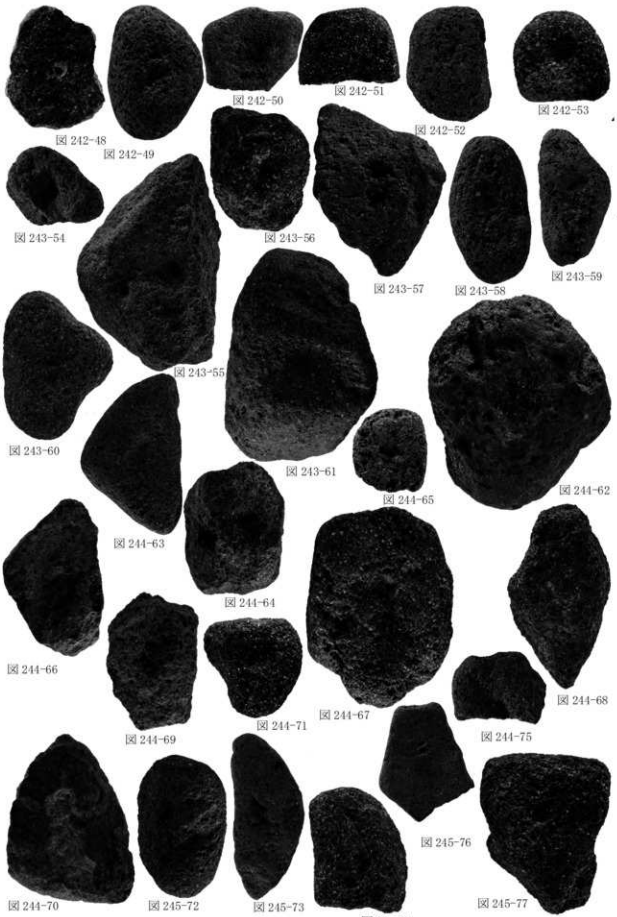


写真 131　包３層出土遺物（10）

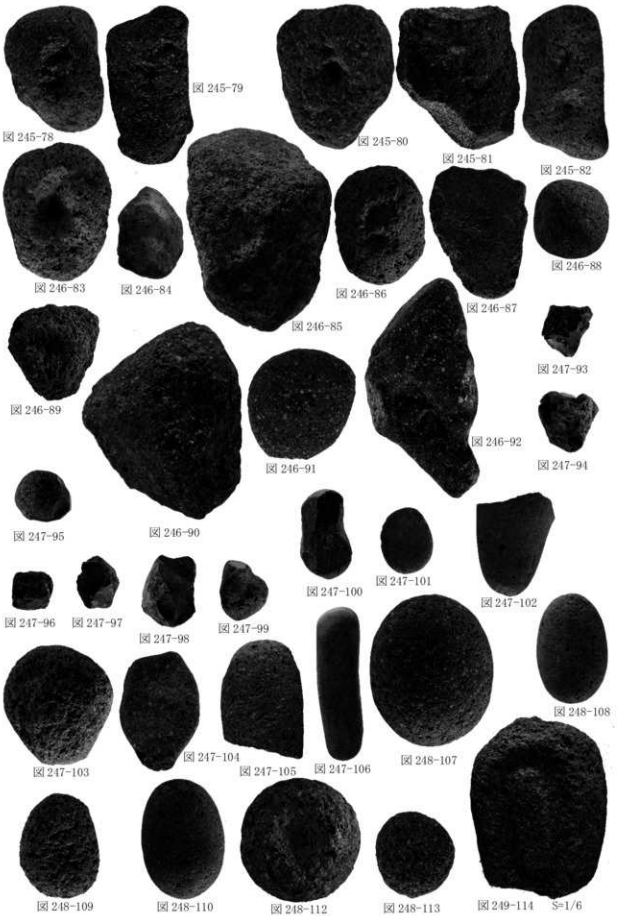


写真 132　包３層出土遺物（11）

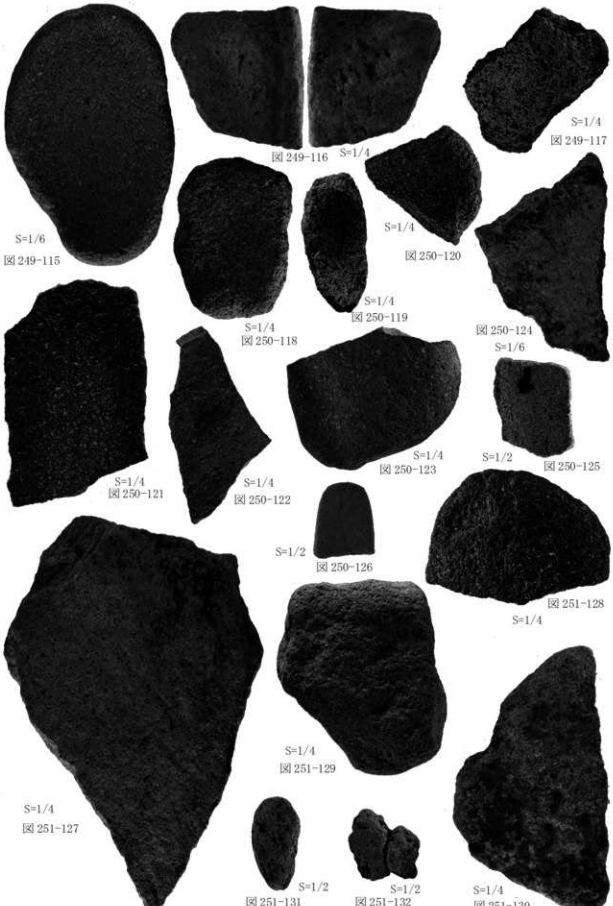


写真 133　包３層出土遺物（12）

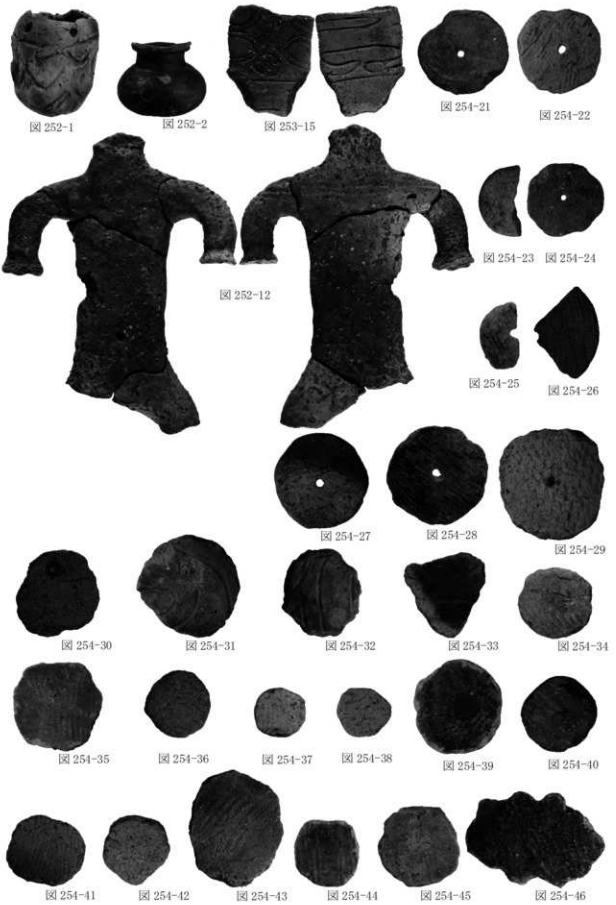


写真 134　包 3 層出土遺物 (13)

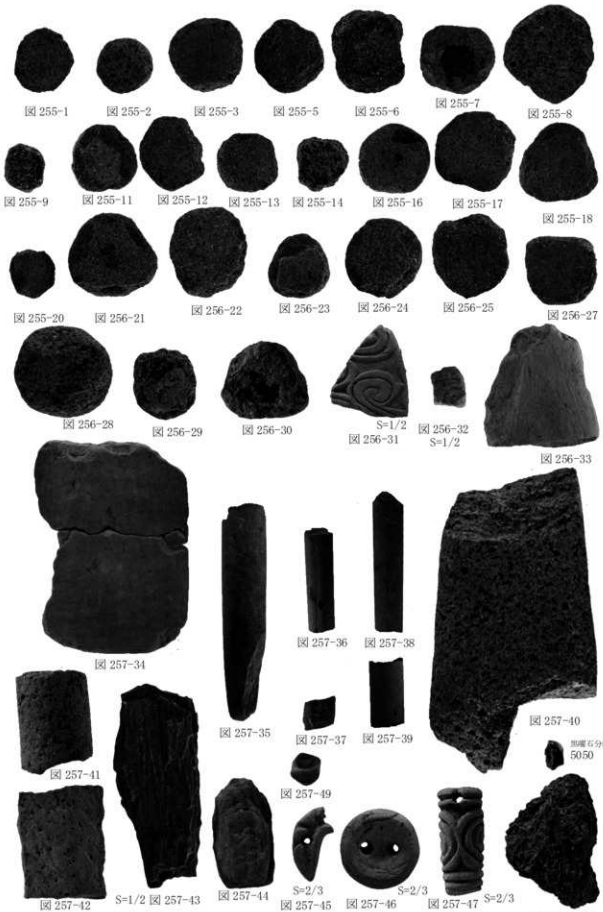


写真 135　包３層出土遺物（14）

写真 136　第Ⅲ層出土遺物（1）

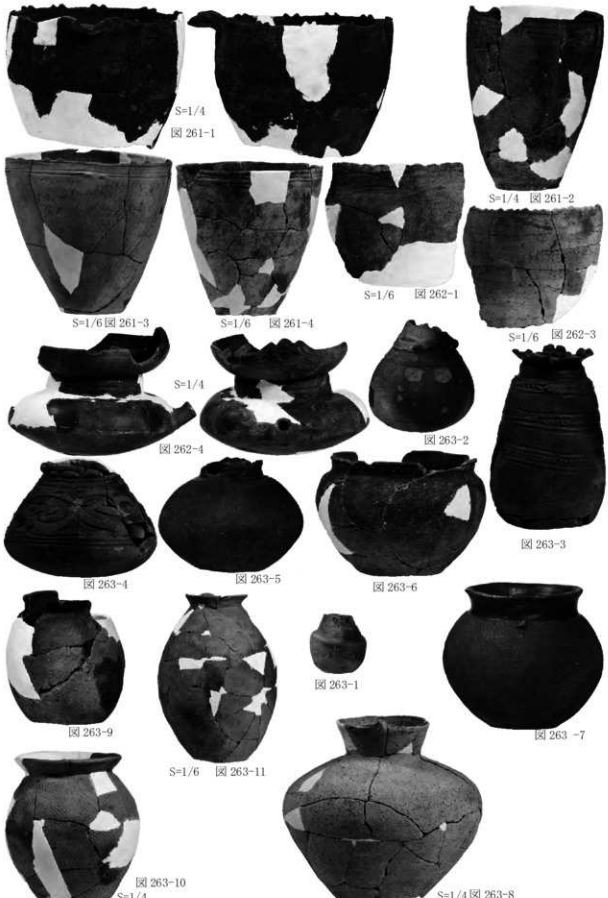


写真 137　第Ⅲ層出土遺物（2）

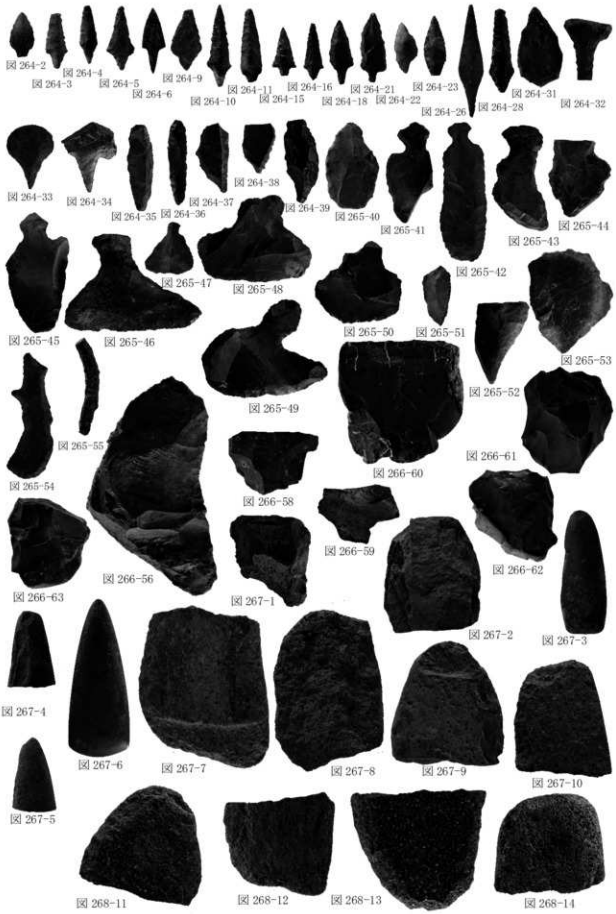


写真 138　第Ⅲ層出土遺物（3）

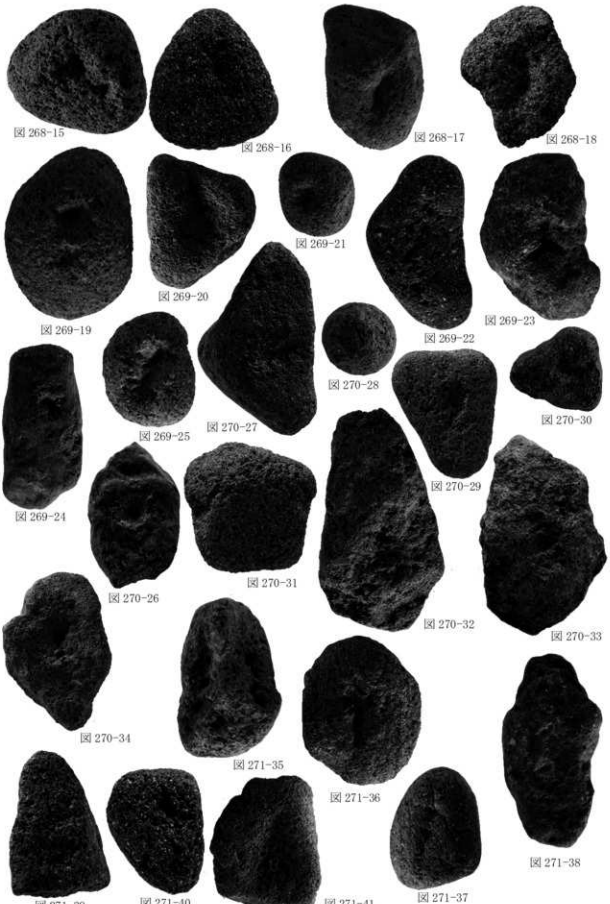


写真 139　第Ⅲ層出土遺物（4）

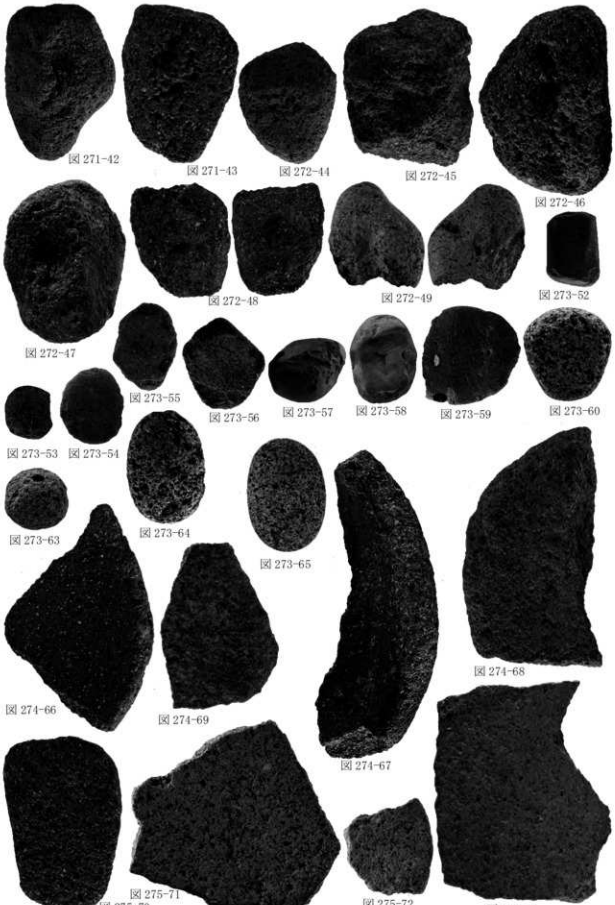


写真 140　第Ⅲ層出土遺物（5）

土 製 品

第Ⅲ層（1mトレンチ・包含層）

図 275-74　図 275-75　図 275-76　図 275-77　図 275-78　図 275-79　図 276-1

図 276-2　図 276-5　図 276-6　図 276-11　図 276-12

図 276-13　図 276-14　図 276-15　図 276-16　図 277-3　図 277-4　図 277-5

図 277-8　図 277-9　図 277-10　図 277-6　図 277-7 S=1/2　図 277-11　図 277-18

第Ⅳ層

S=1/6 図 278-1　S=1/6 図 278-2　図 278-4　S=1/6 図 278-5

写真 141　第Ⅲ層出土遺物（6）・第Ⅳ層出土遺物（1）

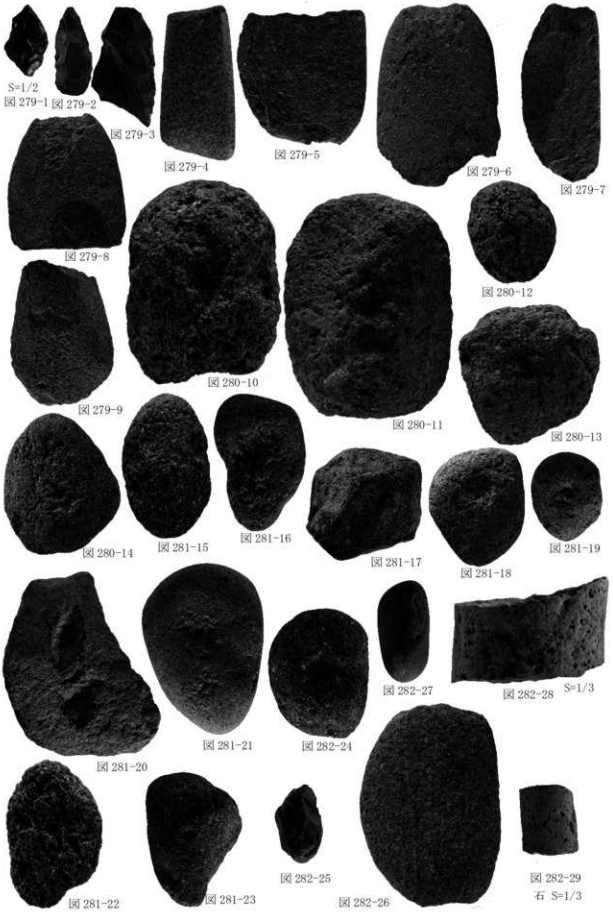


写真 142　第Ⅳ層出土遺物（2）

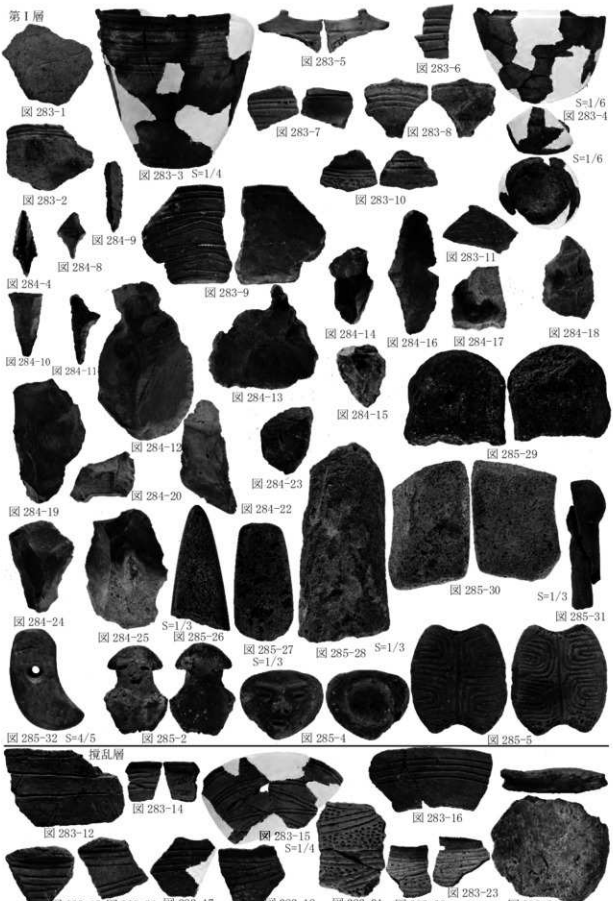


写真 143　第Ⅰ層・撹乱層出土遺物（1）

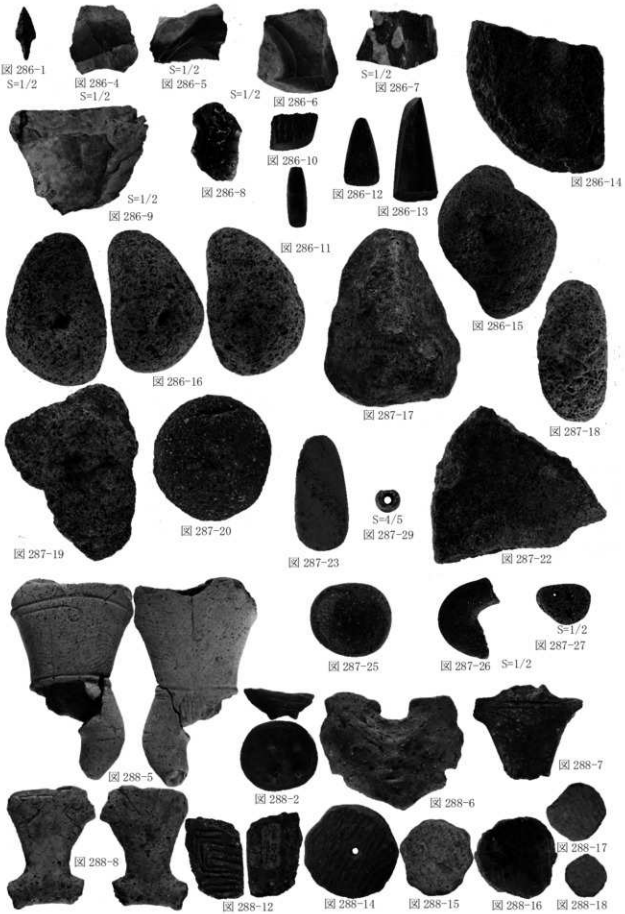


写真 144　第Ⅰ層・撹乱層出土遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	かみにいおかだて・やくしいせき
書名	上新岡館・薬師遺跡
副書名	県営一般農道整備事業(山村振興)に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第545集
編著者名	神　康夫・工藤　忍・高橋　哲
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042　青森県青森市大字新城天田内152-15　TEL 017－788－5701
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	2014年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系(JGD2000)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	北緯			
KAMINIIOKADATE 上新岡館	AOMORIKENAOMORISHI 青森県弘前市大字 SHINSHIROYAMA 新岡字山本地内	02202	202359	40°38′13″	140°23′11″	20100824～ 20101029	280	記録保存調査
YAKUSHI-IKIBA 薬師遺跡	AOMORIKENHIROSAKISHI 青森県弘前市大字 AZAFUKUMOTO 字新岡字薬師、 AZA 字片付地内	02202	202351	40°38′19″	140°22′51″	20100824～ 20101029	700	記録保存調査
						20110714～ 20111125	800	
						20120424～ 20120713	400	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
上新岡館	散布地 散布地 城館	縄文時代 古代 中世 近世以降 時期不明	土坑 壕跡 溝跡 ピット ピット	3 4 1 3 8	縄文土器 土師器 須恵器 陶器 陶磁器 鉄製品 計　段ボール３箱	・館に伴う壕跡を検出した。 ・珠洲焼鉢片２点が出土した。
薬師遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡 土坑 埋設土器遺構 建物跡 焼土遺構 竪穴遺構 盛土遺構 削平範囲	7 54 13 1 18 1 1 1	縄文土器・石器 土製品 石製品	・縄文時代前期末の集落を検出した。
	集落	縄文時代～ 弥生時代	ピット	86		・縄文時代晩期後葉から弥生時代にかけての盛土遺構と削平範囲を検出した。
	集落	縄文時代 晩期末～ 弥生時代 初頭	土坑 集石遺構 溝跡 貯水池状遺構 (付属ピット列１)	2 1 3 1		・縄文時代晩期の土坑墓を３群検出した。 ・水利施設の可能性のある貯水池状遺構を検出した。
	集落	弥生時代	土坑 埋設土器遺構 建物跡 盛土遺構	23 1 2 1	弥生土器・石器 土製品 石製品	・土偶・土版や石剣・石棒など文化遺物が多数出土した。 ・玉類の製作工程が明らかになった。
	集落	弥生時代以降	土坑 焼土遺構 黒曜石散布範囲 溝跡	2 7 1 4	土師器・須恵器 計　段ボール 411 箱	
	散布地	不明	ピット列	1		

要　約

上新岡館では、縄文時代の遺物と平安時代・平安時代の遺構・遺物、中世の遺物が検出され出土した。縄文時代の遺構は検出されず、平安時代の遺構は、土坑３基、溝跡１条、壕跡４条が検出された。平安時代の壕跡は断面形が薬研型であり、壕が台地を囲んでいたことが判明した。また既存の壕を破壊し新たな壕を構築するなど、複数の時期にわたり利用していたことが明らかとなった。出土遺物の主体は土師器であり、遺構群の帰属年代は、平安時代の可能性が高く、遺構外から珠洲焼鉢が出土していることから、一部に中世の遺構の存在の可能性があるが、今回の調査では明確に判断できなかった。他の特徴的な遺物として、土師器坏、皿、甑、把手付土器がある。

薬師遺跡では、縄文時代前期・後期・晩期と弥生時代、平安時代の遺構・遺物が検出された。前期の集落、晩期の土坑墓群、遺物包含層（包３層）の検出、晩期後葉から弥生時代にかけての削平範囲（弥生包含層）と盛土遺構の検出、貯水池状遺構の検出が挙げられる。遺物は、縄文時代晩期の土器・石器を主体とし、次いで縄文時代前期、弥生時代遺物が多く、平安時代の遺物も少量出土した。縄文時代晩期の土偶や玉類などの土石製品も多数出土し、出土遺物の総量は段ボール箱411箱分である。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第545集

上 新 岡 館
薬 師 遺 跡

－ 県営一般農道整備事業（山村振興）に伴う遺跡発掘調査報告 －

（第２分冊）

発行年月日　平成26年３月26日
発　　行　青森県教育委員会
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042　青森県青森市大字新城字天田内152－15
ＴＥＬ 017－788－5701　ＦＡＸ 017－788－5702
印 刷 所　ワタナベサービス株式会社
〒030－0803　青森県青森市安方二丁目17－３
ＴＥＬ 017-777-1388 ＦＡＸ 017-735-5982